

la convention de commerce et de navigation entre la France et le Japon en date du 19 août 1911, le Gouvernement français a déclaré, à la même date, adhérer à ladite convention pour les colonies françaises suivantes :

La Guyane, l'Afrique occidentale française, l'Afrique orientale française, la Martinique, Saint-Pierre et Miquelon, la Nouvelle-Calédonie, l'Inde française, la côte des Somalis, la Réunion, Madagascar et la Guadeloupe.

第四節 对独交渉

三九五 明治四十三年六月三日

小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛

改正関稅定率法説明書送附ノ件

附屬書 独逸重要輸入品ニ対スル新旧關稅

率対照表

明治四十三年六月三日發遣

機密條第九号

小村 大臣

在独 珍田大使宛

帝國政府ハ關稅定率法改正案ヲ編成スルニ当リ帝國財政ノ需要ト内國産業ノ保護トニ鑑ミ現行關稅法ニ適當ノ改正ヲ加ヘ稅率ノ輕重ヲ按排セシタメ自由貿易主義諸國ノ輸入稅ト同様ナル現行協定稅率ヲ存統シ難キ事情アリト雖モ改正關稅定率法實施ト共ニ久シク協定ノ輕稅ヲ受ケタル歐米諸國ヨリノ重要輸入品ニ対シ俄然現行國定稅率又ハ之ヨリ高キモノヲ適用スルコトハ關係國ノ惡感ヲ招クカ上ニ一般經濟上ニモ激動ヲ与フルコト可有之ト危懼致シ候ニ付一部保

護論者ノ熱心ナル主張ヲ峻拒シテ協定品ニ対スル稅率ハ事情ノ許ス限り之ヲ輕減スルコトニ努力致シ候即チ別紙甲号表ニ示スカ如ク独逸ヨリノ重要輸入品中植物性揮發油、人造藍、アニリン染料、毛織糸、毛織物、ファンシーペーパー、鉄類、軌條、海底電線、鉄釘、ホップ等ノ物品即チ独乙ヨリ年二十萬円以上ヲ輸入スル諸物品總輸入額ノ七割三分ニ対シテハ現行國定稅率ヨリ從價五分乃至三割方ノ輕減ヲナシ就中芳香性揮發油、海底電線、ホップ等ニ対シテハ新ニ無稅トナシ又鉄條竿板ニ対シテハ本邦製鉄所保護ノ要アルニ拘ラス大英断ヲ以テ現行國定稅率ヲ半減シ從價一割五分以下ノ標準ト致シ候尙委曲ハ別冊乙号改正關稅定率法説明書ニ依リ御了承相成度候

此ノ如ク帝國政府ハ從來低率ナル協定稅率ノ存在シタルコトヲ考慮シ独逸ヨリノ輸入品ニ対シテハ可成低率ナル改正稅率ヲ設クルコトニ注意致シ候ニ付之ヲ協定稅率ニ比スルニ多額ノ引上ヲナシタルモノ稀ニシテ塊鉄、薄鉄板、亜鉛

塊ハ現行協定率ヲ据置キ毛織糸ハ僅ニ從價二分方ノ引上ニ止メ人造藍及アニリン染料ニ対シテハ政府案ニ於テ現行協定率ヲ据置トナセシモ議會ニ於テ修正ノ結果從價八分乃至五分方ノ引上トナリシカ右ハ本邦ニ於テ必須ノ原料ナルカ故ニ之方為ニ其ノ輸入額ノ減少ヲ見ルカ如キコト殆ド之ナカラムト被存候砂糖、毛織物、鉄釘、軌條、海底用以外ノ絶縁電線、護膜製品、セリユロイド、亜鉛板（薄板ハ從來通無税）ニ対シテハ現行協定率ニ比シ幾分引上方多キモ右ハ他ノ物品トノ權衡上已ムヲ得サル次第ニ有之又其ノ税率ヲ同種品ニ対スル諸外国ノモノニ比スルニ決シテ高シト云フヲ得サルコト別紙丙号表ニ依リ御了承相成度候尙独逸ヨリノ重要輸入品ニ対スル改正税率ト現行税率トノ比較ニ付

（附屬書）

丁 独逸重要輸入品ニ対スル新旧関税率対照表

備考 本表ニ於テハ比較ニ便スル為實際從量税ノ適用セラルル場合ニモ之カ算出標準タル從價税率ヲ示スコトトセリ從テ右標準税率ハ課税上何等ノ關係ヲ有セサルモノトス

改正法番	品名	改正税率		現行国定税率		現行協定税率		明治四十一年輸入金額
		單位	税率	單位	税率	單位	税率	
一五	麥芽	每百斤	三〇%	每百斤	三〇%	每百斤	三〇%	四八九、九三三
四〇	糖	每百斤	三〇%	每百斤	三〇%	每百斤	三〇%	三三二、四七七

テハ別表丁号御参照相成度候

右申進候 敬具

追テ丁号ハ目下英訳中ニ付出来次第英訳ヲモ可及御送附候

〔朱書〕 税率対照表

乙号 改正関税率法説明書（參部送附ノ

コト）

丙 独逸ヨリ主要輸入品ニ対スル各国関添付ノコト

税率比較表写

丁 独逸重要輸入品ニ対スル新旧関税率

対照表（五部）

註 附屬書甲乙丙省略

空

十八号未満ノモノ
其他

同 同
（六〇）

每百斤 三〇

十五号以上ノモノ
每百斤 二〇

二四八、九五四

植物性揮発油

芳香性ノモノ

無税

每百斤 三〇

一斤 一〇

松精油

罐入又ハ樽入

毎百リ

一五

每十米

二五

其他

從價

三〇

從價

三〇

其他

同

三〇

同

三〇

三七

人造藍

乾キタルモノ

每百斤

一八

每百斤 三〇

每百斤 一〇

五、三六、六五

液状又ハ泥状ノモノ

從價

三〇

從價

三〇

三三

アニリン染料

鉛筆

每百斤

二五

每百斤 三〇

從價 一〇

一、七二、三六

四七、六三五

鞆ニ入レサルモノ

從價

三〇

從價

三〇

其他

木鞆又ハ紙鞆ニ入

レタルモノ

每グロツス

從價

三〇

其他

從價

三〇

從價

三〇

三三

羊毛

無税

無税

三九〇、三一一

三三

毛織糸

無税

無税

三、三三、三三三

染又ハ捺染セサルモノ

梳毛又ハ紡毛ノモノ
梳毛糸ト紡毛糸トヲ
撚合セ又ハ番手ノ異
ナリタル糸ヲ撚合セ
タルモノ
其ノ他

梳毛又ハ紡毛ノモノ
梳毛糸ト紡毛糸トヲ
撚合セ又ハ番手ノ異
ナリタル糸ヲ撚合セ
タルモノ

羅紗及セルジス
(毛製)

モスリン

交織布
(毛綿製)

印刷料紙

アイトペーパー
其ノ他

有色ノモノ
其ノ他

一方メートルノ
重量五十八クラ
ム以下ノモノ

其ノ他
ファジーペーパー
鉄及鋼
塊
銑鉄

インゴット
銑鉄

條及竿
電線

經一、五ミリメートル
ヲ超エサルモノ
其ノ他

板
波形ノモノ
有紋ノモノ
其ノ他

厚サ〇、七ミリメ
ートルヲ超エサル
モノ
其ノ他

銜鉛、塊及錠

織物用
其ノ他
每百斤
八

每十方碼
三〇

同
三〇

從價
三〇

從價
三〇

每百斤
一、六〇〇

同
一、五〇〇

同
七、五

同
三〇

同
三〇

從價
三〇

同
三〇

每百斤
五

四三、八二

四八、一〇三

三三、三一一

一、七三、六三

三三、一四〇

三三、〇一九

三三、〇一九

三三、〇一九

三三、〇一九

三三、〇一九

三三、〇一九

三三、〇一九

三三、〇一九

四七

六八〇

同上、板	ニツケルヲ鍍シタルモノ	毎百斤	〇	毎百斤	五	同	同	板	七、五	八九〇、七九
	エナメルペイント等ヲ塗りタルモノ	從価	〇	從価	五	同	同	薄板	七、五	
	其ノ他									
	厚〇、二五ミリメートルヲ超エサルモノ	無	税	無	税	同	同	板	七、五	
	其ノ他	毎百斤	〇	毎百斤	五	同	同	薄板	七、五	

四七

鉄	釘	同	〇	同	〇	同	同	金屬ヲ鍍セサルモノ	二、九七、五四
---	---	---	---	---	---	---	---	-----------	---------

四三

軌	條	同	〇	同	〇	同	同	其ノ他	二、九七、五四
---	---	---	---	---	---	---	---	-----	---------

四四

家屋、橋梁等ノ建築材	同	同	〇	從価	五	同	同	其ノ他	二、九七、五四
------------	---	---	---	----	---	---	---	-----	---------

四六

絶縁電線	同	同	〇	從価	五	同	同	其ノ他	二、九七、五四
金屬ヲ以テ鍍装シタルモノ	無	無	税						
海底用ノモノ	無	無	税						
其ノ他	毎百斤	二、〇〇							

インヂアラツバモノ等ヲ用キタル

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

其ノ他

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

フレキシブルコード

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

絹ヲ用キタルモノ

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

其ノ他

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

其ノ他

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

インヂアラツバモノ等ヲ用キタルモノ

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

其ノ他

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

計量器

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

瓦斯、石油及熱氣機關

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

電気機械

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

紡績機

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

製織機

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

護謨及ガタパーチャ製品

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

インヂアラツバ液

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

「ヴァルカニゼーション」ヲ施ササル「インヂアラツバ」

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

「ヴァルカニゼーション」ヲ施ササル「インヂアラツバ」

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

デレタルラツバ

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

其ノ他

同	同	同	〇	同	〇	同	同	從価	五
---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

塊	從価	〇	從価	〇	從価	護謨製	〇
軟質ノモノ							
竿 及 紐	每百斤	〇	機関用パッキ	一五	同	同	〇
板	每百斤	〇	其ノ他	〇	同	同	〇
金屬ヲ以テ鐵装シ又 ハ布帛、金屬等ヲ挿 入シタルモノ	同	〇	機関用パッキ	一五	同	同	〇
其ノ他	同	〇	金屬ヲ以テ鐵 装シタルモノ 及機械用ノモ	〇	同	同	〇
帶(機械用ノモノ)	同	〇	其ノ他	〇	同	同	〇
絲、ストリップ等	同	〇	同	〇	同	同	〇
金屬ヲ挿入シタル モノ	同	〇	同	一五	同	同	〇
其ノ他	同	〇	同	〇	同	同	〇
字消 護謨	每百斤	〇	同	〇	同	同	〇
ウオーターボット	同	〇	同	〇	同	同	〇
チー ツ	每百斤	〇	同	〇	同	同	〇
マット及マッテン	從価	〇	同	〇	同	同	〇
其ノ他	同	〇	同	〇	同	同	〇
其ノ他	同	〇	同	〇	同	同	〇
塊、條、竿、及板	每百斤	〇	同	〇	同	同	〇
管	同	〇	同	〇	同	同	〇
リング及ワッ シャイ	同	〇	同	〇	同	同	〇
櫛	每百斤	〇	同	〇	同	同	〇
其ノ他	從価	〇	同	〇	同	同	〇
セリユロイド	同	〇	同	〇	同	同	〇
條、帶、竿、板及管 ノ類	每百斤	〇	同	〇	同	同	〇

字消 護謨	每百斤	〇	每百斤	〇
ウオーターボット	同	〇	同	〇
チー ツ	每百斤	〇	同	〇
マット及マッテン	從価	〇	同	〇
其ノ他	同	〇	同	〇
其ノ他	同	〇	同	〇
塊、條、竿、及板	每百斤	〇	塊	〇
管	同	〇	其ノ他	〇
リング及ワッ シャイ	同	〇	同	〇
櫛	每百斤	〇	同	〇
其ノ他	從価	〇	同	〇
セリユロイド	同	〇	同	〇
條、帶、竿、板及管 ノ類	每百斤	〇	同	〇

三〇、三二
三三、三四

三九六 明治三十三年六月七日 小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛

新條約締結ニ関スル件

明治四十三年六月七日達済

明治四十三年六月六日

在独 珍田大使宛

小村外務大臣

機密條第一一〇号

新條約案ニ関シテハ別信ニテ委曲申進候処尙御含迄ニ補述致度義有之候即チ現行條約第十九條ハ兩締約国ノ一方ト現ニ関稅同盟ノ關係ヲ有シ候ハ將來之ヲ有スルコトアルヘキ地域ニ條約ノ適用ヲ及ホスコトヲ規定致居候ヘ共新條約案ニハ之ニ当ル條項無之候右ハ畢竟我方ヨリ提議スベキ必要ヲ認メザリシニ由ルモノニシテ先方ヨリ追加申出候節考量致ス積ニ有之候尙現ニ独逸国ト關稅同盟ノ關係ヲ有スル地域ハ当省ノ取調ニ依レバ別紙記載ノ如ク相見エ候処果シテ右ニ相違無之哉御取調ノ上御回報相成度候

日独領事職務條約ハ前便申進候通り今回廢棄スルコトニ相成居候処該條約ノ包容スル規定中既ニ國際ノ通義慣例ニ依リ別ニ明文ヲ俟タスシテ疑ナキモノ往々之アリ其ノ然ラザルモノト雖領事官ノ為メ種々ノ除外例ヲ設クルハ内國行政

(仏文條約案添付)

註 附屬書省略ス第一冊對英交渉ノ部參照

三九七 明治三十三年七月六日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛 (電報)

條約廢棄通告手續ニ関スル件

七月六日 後三、三五 伯林発
七月七日 後六、五〇 本省着

小村外務大臣

珍田全權大使

七月五日外務大臣ニ面會條約廢棄通告手續ヲ豫メ打合セタル末貴大臣ト共ニ新條約ヲ商議スルノ快樂アラムコトヲ希望スル旨申述タルニ大臣ハ之ニ對シ右通告ハ独逸国政府ノ豫期シタル所ニシテ早速新條約ヲ商議スルコト、ナルベキガ乍遺憾本官ハ任ニ当ルコト能ハサルヘシト答ヘ近來新聞紙ノ喧伝セル外務大臣交迭談ヲ確認シ自分ハ在仏大使ニ在「ルーマニア」Kierlen Waechert 公使ハ外務大臣ニ転任ノコトニ内定シ多分八月初發表ニ至ルヘシト内談セリ

司法ノ統一ニ害アルヲ以テ二三重要事項ノミ之ヲ新通商航海條約案ニ載セ別ニ煩雜ナル領事職務條約ヲバ締結セザルノ方針ニ有之候間左様御承知相成度候 (新條約案説明書第四十二頁參照) (原書ノ頁ナルニツキ本書ノモノト異ル)

又現行日独通商航海條約ハ当初英文ニテ提案シ我方ノ希望ハ英文ヲ以テ正文ト為スニ在リシカ結局已ムヲ得ス独逸文ヲ正文トシテ調印スルニ立到候然ルニ我諸條約中独逸文ヲ用ユルモノハ他ニ其ノ例ナク皆英文又ハ仏文ヲ正文若ハ決定文ト定メ一モ独逸文ヲ用ユルモノ無之独逸国スラ彼我ノ追加約定ニ於テハ英文ノミヲ用キ居候蓋シ独乙国政府ニ於テ日本文ヲ不便トスルト均ク我方ニ於テモ独逸文ハ甚ク便利ナラス候間新條約ハ第三国語タル英文又ハ仏文ノミヲ正文ト為スコトニ致度就テハ閣下ハ英文又ハ仏文ノ内相成ルベク英文條約案御提出ノ上先方ト開談後結局英文又ハ仏文ノミニ調印ノコトニ同意セシムル様御尽力相成度若シ独逸政府力是非共独文ヲ加フルコトヲ主張スルニ於テハ我亦日本文ヲ加ヘ英文又ハ仏文ヲ以テ決定文ト為スコトヲ主張スルノ外無之候間右様御含相成度為念英文條約案ノ外仏文條約案ヲモ併セ御送附ニ及ヒ置候右申進候 敬具

三九八 明治四十三年七月七日

小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛

新關稅ニ関スル件

明治四十三年七月七日達済

機密條第一四号

在独 珍田大使宛

小村外務大臣

東京帝国大学法科大学雇外國教師「ロエー・ホルム」博士一箇年ノ賜暇ヲ得帰国ニ付告別ノ為一昨日桂首相ニ面謁談話ノ際我新關稅ニ言及シ新關稅ハ自分ニ於テ特ニ精細ニ査關研究ヲ遂ゲタルガ頗ル上出来ニテ之ニ對シ外國人中非議攻撃ヲ加フルモノアルハ決シテ當ヲ得タルモノニ非ス独逸ニテモ恐クハ一般ニ善ク新關稅ノ内容ヲ了解シ居ラサルヘケレバ帰国後ハ自分ノ所見ヲ發表シテ説明ヲ試ミント欲ス從テ自然伯林ニテ貴大使ニ謀ル所アルヤモ知レスト語リ昨日出發致シタル趣ニ有之候間右御舍ノ上他日同博士ヨリ本件ニ付申出ノ節ハ相當ノ便宜ヲ与ヘラレ度尙必要ノ場合ニハ閣下ニ於テ博士ヲ利用セラル、様御配慮相成度此段申進候 敬具

追テ同博士ハ加奈陀經由帰国ノ由ニ付為念申添候

三九九 明治四年七月三日 小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛

本邦羽二重輸入税増加ニ関スル件

附屬書 三井物産会社報告

明治四十三年七月十三日發遣
條第七号

在独 珍田大使宛

小村外務大臣

現行日独條約終了期モ追々切迫致候ニ付テハ独逸国ニテモ本邦改正關稅ニ對シ種々論評ヲ試ムルモノ可有之ト被存候間右ニ関シテハ尤分御注意ノ上時々御報告相成度候尙三井物産会社へ在倫敦支店長ヨリ本邦羽二重ニ對スル独逸輸入税増加計畫ノ件別紙ノ通り報告有之候間右実否内々御取調ノ上至急御回報有之度此段申進候 敬具

(別紙寫書添付ノコト)

(附屬書)

明治四十三年六月廿一日

萩原通商局長殿

山本條太郎

謹啓陳者独逸ニ於テ日本羽二重其他ノ絹製品ニ對シ從來ノ輸入税ヲ三倍乃至四倍ニ値上ノ計畫有之候旨別紙六月三日付幣社倫敦支店長ヨリ報告有之候間寫シ差出シ申候御高覽

何相成可申候哉確ニ申上兼候モ萬一前記ノ如キ重税ヲ實施サレシ場合ハ独乙国ニ對スル輸入ハ殆ンド禁止サレタルト同様ノ結果ヲ来タシ可申而シテ最モ打撃ヲ蒙ムルベキハ川俣、加賀ニ可有之ト存候

四〇〇 明治三年七月六日 珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛 (電報)

條約廢棄通告ノ件

七月十六日 後五、二五 伯林發
七月十七日 前一、二〇 東京着

第四五号

小村外務大臣

珍田大使

豫テノ打合ニ從ヒ本使ハ七月十六日外務大臣ニ面会ノ上條約廢棄通告書(七月十七日附)ノ手交ヲ了シタリ其節本使ハ現行條約廢棄後短期ナリトモ無條約ノ期間アルガ如キハ帝國政府ノ欲セサル所ナルハ勿論独逸國政府モ亦同一ノ意見ナルヘント信ス斯ノ如キ不利ノ事態ヲ避クル為我ニ於テハ新條約締結ノ意嚮アル旨同省ノ通知ニ接シ次第速ニ草案提出ノ準備アル由ヲ告テ本通告ニ對シ可成速ニ独逸國政

小村外務大臣時代 対独交渉 四〇〇 四〇一

ノ榮ヲ給リ候ハ、幸甚ニ奉存候
右申上候 早々敬具
寫シ

明治四十三年六月二日

本店重役々場御中

倫敦支店長

拜啓

羽二重輸入税金ノ事

從來独乙国ハ日本羽二重其他ノ絹製品ニ對シ一キロ三馬克五十布ノ輸入税金ヲ賦課致シ居候処今回日本關稅率愈々日本議會ヲ通過セシニ付キテハ必ス近キ將來ニ於ケル條約改正ト相待ツテ新稅率實施サル、事ト可相成、其曉ニ於ケル独乙商業ノ蒙ムル損害ハ莫大ナリトノ見地ヨリ同國ニ於ケル各新聞紙ハ先般來屢々激烈ナル議論ヲ試ミ居リ候結果、今回同國政府ニ於テ羽二重其他ノ絹物ニ對スル稅率改正ニ付閣議決定サレ、追テ議會ニ提出サル、様子ニ有之候其稅率ハ未タ明瞭ニ相分リ不申候へ共先ツ從來ノ三倍乃至四倍ニ増率サル、モノト見做シテ差支無之即チ從來ノ輸入税ハ約一割ノ從價ニ有之候処今回ハ多分十馬克乃至十五馬克ニテ即チ三割乃至四割ニ相成可申上候
無論未タ何等ノ決定アリシ義ニハ無之候間果タシテ今後如

府ノ回答アランコトヲ希望スル旨附言シタルニ同大臣ハ之ニ對シ先ツ了承ノ旨ヲ述ヘ独逸國政府モ新條約ヲ締結スヘキ意嚮ナル由ヲ語り其旨早速回答スヘント述ヘ且來期独國議會開期ハ或ハ明年三月ヲ以テ終了スルモ計リ難キニ付其以前ニ其協賛ヲ得ル様商議完結ヲ見シコトヲ希望スル旨附言セラレタリ

四〇一 明治三年七月七日 珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛 (電報)

條約廢棄通告受領ノ旨独國政府回答ノ件

七月十七日 後五、四〇 伯林發
七月十八日 前六、二〇 東京着

第四六号

小村外務大臣

珍田大使

往電第四五号ニ関シ

七月十七日附ヲ以テ独逸国外務大臣ヨリ我通告ヲ受領シタル旨並日本國政府カ新條約ノ締結ニ関シ商議ノ用意アルコトハ独逸國政府ノ満足スル所ニシテ独逸國政府ニ於テモ目

下著手中ノ準備完結ノ上当該時期ニ欣然其ノ商議ニ応スヘキ旨回答ニ接シタリ

四〇二 明治三十三年七月三日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛

日独通商條約廢棄通告ニ關スル新聞紙論調通報ノ件

條第壹号

八月十八日接受

明治四十三年七月二十日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

七月十八日ノ「ベルリナーネル、ターゲブラット」(別紙甲号切抜)ハ「日本ハ通告セリ」ト題シ其社説ニ於テ大要左ノ通り論述セリ

日本政府カ現行日独條約廢棄ノ通告ヲ為シタルハ既報ノ如クニシテ吾人ノ豫期シタル所ナリ日本ハ現行保護稅ヲ更ニ一層引上ケンカ為メ久シキ以前ヨリ新關稅法ノ制定ニ從事セリ日本ノ各国ト締結セル條約ノ多數ハ千九百十一年七月十六日ヲ以テ其効力ヲ失フ可キニ付其前日本ハ

望マシキコトニシテ果シテ如此セハ或ハ速ニ其目的ヲ達スルヲ得ンカ

日本カ現行條約廢棄ヲ通告シタルハ同國カ最近十年間ニ劍ヲ以テ贏チ得タル大國ノ地位之ヲ然ラシメタルナリ從來同國ハ其通商關係ヲ列國ヨリ指定セラレタリト雖トモ今ヤ同國ハ之ヲ自主的ニ規定スルノ實力ヲ有シ自國ノ産業ヲ保護スル為メ自由ノ行動ヲ探ラントシ原料品並ニ日本ニ於テ未タ製作シ難キ精密ナル器械類ノ輸入稅率ヲ引下ケ代リニ自國ニ於テ製造シ得ル輸入製作品ニ對シテハ自國品保護ノ為メ關稅ヲ引上ケタリ、日本政府ガ如何ナル程度迄關稅保護策ヲ遂行シ得可キハ未タ知ル可カラスト雖トモ米國ニ對シテ決シテ容易ノ業ニ非サルヘシ同國ハ日本品ノ主タル顧客ナルヲ以テ日本ハ之ヲ失ハサランカ為メニハ大ニ讓歩スル所ナカルヘカラス英國ハ保護關稅ノ制ヲ有セサルモ經濟上非常ノ優者ナル而已ナラス日本ノ同盟國ナルヲ以テ日本ヨリ他列國ニ比シ不利益ノ待遇ヲ受クルノ虞ナシ

之ニ反シ独逸ハ非常ニ不利益ノ地位ニ立テリ蓋シ独逸自身保護政策ヲ採リ日本品ニ對シ高率ノ關稅ヲ課スル而已ナラス同時ニ極東ニ於ケル政治上ノ發展ハ日本ニ對シ多

必ス廢棄ノ通告ヲ為スヘシトハ豫而吾人ノ注意ヲ促カシタル所ニシテ可成速ニ日本トノ新條約締結ノ準備ヲ為スハ目下ノ急務而シテ利害關係者ニシテ其筋ニ對シ未タ其希望ヲ述ヘサルモノハ時機ヲ失セス之ヲ為スヲ可トス日独間ノ通商關係ハ最惠主義ノ條約ヲ以テ到底満足シ得可キモノニ非サルヘク日本ハ新タニ制定セル國定稅率ニ抛リ互相的條約ニ非レバ締結セサルヤ必セリ伶俐ナル重細重人ハ一讓歩ヲ為スニ當リテモ可成多クノ對価ヲ得ント努ム可シ左レバ独逸政府ハ自國側ノ請求及主張ニ付細心ノ注意ヲ要ス現今我國ノ日本ニ對スル貿易額ハ比較的僅少ナリト雖トモ日本ハ將來有望ノ國ナルヲ以テ不必要ニ其欲心ヲ失フハ策ノ宜シキヲ得タルモノニアラス又同國ニ對シテハ直接通商上ノ利害ノ外尙我國船舶ノ極東航海ニ關シテモ亦考量セサルヘカラス元植民大臣「デルニブルグ」氏不日極東旅行ノ途ニ上ラル、ニ就ハ氏ヲシテ新日独條約ノ準備ニ尽力セシムルコトハ得策ニハ非サルヘキカ要スルニ日本トノ條約ハ必要ニシテ是非共締結セラレサルヘカラス左レハ若シ經驗アル専門カ能ク其狀況ヲ審査シ新條約ニ對スル意見ヲ提出スルコトハ實ニ

少反對ノ立場ニ在レバナリ然リ而シテ政治上ノ關係カ通商關係ニ影響ヲ及ホスハ止ヲ得サルノ勢ニシテ要スルニ吾人ハ日独新條約ニ對シテハ甚タ好望ヲ囑スルコトヲ得サルモノナリ

ト述ヘ尙保護政策ニ對シ一般的ニ非難ヲ加ヘタリ又「ベルリナーネル、ツァイト、アム、ミツタグ」ハ七月十九日ノ紙上ニ於テ事情ニ精通セル筋ノ寄稿トシテ大要左ノ論說ヲ掲記セリ(別紙乙号切抜)

日本ハ前回ノ條約改正ニ於テ法權ヲ回復シ今ヤ進シテ稅權ノ獨立ヲ圖ルハ主トシテ同國々民ノ榮譽問題ナリ左レハ列國ハ日本ノ此正敵ナル希望ニ對シ何等ノ異議ヲ提起セサルヘシ

日本政府ハ此頃外國人ニ土地所有權ヲ許容シタルヲ以テ同國開港場ニ於ケル永代借地權ヲ存続ス可キ何等ノ根拠ナントノ見解ヲ採リ從來外國人ニ与ヘタル特權ハ國ノ主權ヲ傷クルモノナリトテ自今之ヲ徹廢シ徵稅權ヲ回復セントス又沿海貿易ニ關シテ日本ハ完全ナル相互主義ヲ採リ日本諸港間ノ航海ヲ可成制限セントセリ日本カ今回新關稅定率ヲ確定シタルニ就テハ二個ノ重大ナル問題アリ第一独逸ハ勿論同國トノ締盟列國ハ同國ヲシテ各自ニ好

都合ナル協定税率ヲ約定セシムル事ヲ得ヘキヤ、第二日本ハ如何ナル程度ニ又如何ナル見地ヨリ其国定税率ヲ利用ス可キヤ

近來日本ハ漸々保護主義ヲ採リツ、アルハ明カナル事實ニシテ其ノ主義ノ当否ハ暫ク措キ対手国ニシテ自国貿易上ノ利益ノ為ニハ善カレ悪カレ之レニ満足スルノ外ナカル可シ但シ日本ハ仏国及米國ニ對シ多少不利ノ地位ニ立テリ日本輸出品ノ最大買客ナル米國ニ於テハ大統領ト雖トモ税率協定ノ権限ヲ有セサルヲ以テ日本カ同國ニ對シテ其希望ヲ達スル事容易ナラザルベク又仏國ノ日本ニ對スル輸出額ハ日本ノ仏國ニ對スル輸出額ニ比シ六倍ナルヲ以テ日本ハ仏國ニ對シテハ多少進ンテ特別ナル関稅上ノ讓歩ヲ提供ス可シト思惟セラル然ルニ獨國ハ仏國ト全然其趣ヲ異ニシ獨國ノ日本ニ對スル輸出額ハ日本ヨリノ輸入額ヲ超過スル事約六倍ナリ故ニ日本ニシテ若シ相互の税率ノ協定ヲ希望スルモノナリトセハ右税率協定ノ提議ハ獨國側ヨリ之ヲ起サ、ルヲ得ス右ノ事情ナルヲ以テ獨國輸出品製造業ノ代表者モ亦政府ヲシテ適當ノ所置ヲ採ラシムル為メ充分ニ意見ヲ發表スルヲ可トス而シテ英國ハ如何、同國ハ自由貿易國トシテ獨國ヨリハ尙一

惹起スルカ如キ虞ハ絶対ニナシ云々

別紙新聞切抜相添此段及報告候敬具

註 別紙切抜省略

四〇三 明治四十三年七月二十日 小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛 (電報)

新條約談判開始ニ関スル件

七月二一日後三時一五分發

第三八号

在伯林 珍田大使

小村大臣

貴電四六独逸政府ガ商議ニ応スルノ意思ヲ表シタルハ帝國政府ノ満足トスル所ナルガ故閣下ハ右ノ意ヲ独逸政府ニ通ゼラル、ト同時ニ独逸政府ノ準備成リ次第何時ニテモ我方ヨリ條約案ヲ提出スベキ旨申込ミ置カレタシ

四〇四 明治四十三年七月二十日

珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛

條約廢棄ノ通告ニ関スル独逸新聞紙ノ論調

続報ノ件

小村外務大臣時代 対独交渉 四〇三 四〇四

層窮境ニ立チ加之同國ノ日本ニ對スル輸出額ハ日本ヨリノ輸入額ニ比シテ四倍ニ上レリ左レハ同國ハ日本側ヨリ何等ノ提供ヲ期待シ得可カラサルハ勿論ナリ要之日本カ新關稅法ノ目的トスルトコロハ國庫收入ノ増加ト内地生産ノ保護ニアル事ハ明白也云々

又「ベルリナー、モルゲン、ポスト」(別紙丙号切抜)ハ七月十九日ノ紙上ニ於テ當國ノ内務次官ドクトル、リヒテル氏ノ日独條約ニ関スル左記談話要旨ヲ掲ケタリ
今回ノ通商條約廢棄通告ハ獨國官辺ニ於テモ業ニ已ニ數月來豫期シ居リタル所ニシテ何等唐突ニ起リタル事ニアラス日本ハ關稅政策ヲ一變シ其結果トシテ現行諸條約廢棄ノ通告ヲ為シタルモノニシテ政府ハ久シキ以前ヨリ日本ト締結スヘキ新條約ニ干シテ致々トシテ之方準備ヲ怠ラザル也而シテ政府ハ既ニ多數ノ日本關係ノ輸出當業者ヨリ種々ノ註文又ハ提議ニ接シ居ルニ付是等ハ新條約ノ商議ニ際シ出来得ル限り斟酌考量ヲ加フ積リナリ日本トノ商議開始時機ハ未定ナルモ当秋以前ニハ其運ビニ至ラサル可シ尙又同商議カ獨國ニ於テ開カル可キヤ將ク日本ニ於テ為サルヘキヤモ目下不明ナリ要スルニ今回日本ノ通告ハ單純ナル形式タルニスギスシテ日本ト關稅戰爭ヲ

條第二号

八月十八日接受

明治四十三年七月廿三日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

當國商工業社会ニ於テ最モ重視セラル、「フランクフルトル、ツァイツング」(別紙甲号)ハ七月廿二日ノ週報中大要左ノ如ク論シタリ

日本カ前回ノ條約改正ニ於テ未ク完全ニ回復スルコトヲ得サリシ關稅自主權ヲ新條約締結ノ談判ニ於テ確保セントスルハ同國カ外國關稅法ノ規定及外國ノ要求ニ屈服スルハ新進勃興ノ大國ノ名譽ニ関ストノ見解ニ基ツクモノナリ日本カ各國ノ希望ニ反シ改約談判ヲ東京ニ開カス歐米各國ノ首府ニ於テ個別ニ談判スルヲ得ルニ至リタルハ今ヤ開始セラレントスル改約談判上日本ノ一成功ナリトス

改約談判ノ基礎トシテ日本ノ新關稅法制定セラレ其税率ニ関シテ既ニ種々ノ非難ヲ蒙レリ日本ハ之ニ對シテ新法ノ率ハ旧法ニ比シ一般ニ低シト抗弁セリ若シ単ニ新旧兩關稅率ヲ比較セハ日本ノ主張ハ形式上正當ナリ然レ共所謂ル旧關稅法ナルモノハ同國カ列國ト締結シタル千八百

十九九年ノ條約ニ於テ関稅ヲ協定シアルカ為メ實際何等ノ効力ヲ生セザリシナリ而シテ此協定稅率ヲ新關稅率ニ比スルニ其一部分ハ著ルシク低率ナルヲ見ルヘシ

日本カ千八百九十五年ノ條約改正ニ依リテ平均一割ニ引上ケタルハ同国外交ノ成効ナリト雖トモ日本人ノ國民的觀念ハ未タ之ヲ以テ足レリトセス今回ノ改正談判ニ際シテハ拳國一致完全ナル稅權ノ獨立ヲ主張ス可ク而シテ同國カ先頭外國人土地所有禁止ノ法律ヲ自ラ進ンテ撤廢シタルノ今日ニ於テ日本ノ見テ以テ國家ノ名譽問題トスル稅權ノ獨立ニ對シ何等苦情ヲ唱フルモノナカル可ク日本ハ前回ノ改約以來大國ノ地位ニ進ミタリ左レハ稅權自主ニ關スル同國ノ希望ニ付少ナクトモ獨逸側ヨリ反對ヲ蒙ルル事勿ル可シ

尙同新聞ハ米仏兩國ヲ除クノ外他列國ノ對日輸出額ハ同國ヨリノ輸入額ニ比シ何レモ多額ナルヲ以テ此点ニ於テ日本ハ改約談判上最初ヨリ有利ノ地位ニ立ツモノナル事ヲ述ヘ獨逸ノ態度ニ付左ノ如ク論結セリ

獨逸ハ日本トノ改約談判ニ際シ自國側ヨリ第一着歩ヲ進メサル可カラサル事情ノ下ニアリ蓋シ本件ハ我國ノ利害ニ重大ノ關係ヲ有スルモノニシテ最近ノ統計ニ從ヘハ千

讀歩スルトコロナクンハ長足ノ進歩ヲ為シツ、アル日本ノ對獨逸輸出貿易ハ非常ナル危險ニ陥ル可キモノナル事ハ吾人之ヲ關稅統計ニ基ツキ證明スル事ヲ得可シ近來日本ノ著名ナル商會ハ代理人ヲ獨逸ニ駐在セシメ又政府カ領事館ヲ増設シタルニ鑒ミルモ日本ノ對獨逸輸出貿易ハ漸次隆盛トナル可ク從ツテ同國ハ獨逸ニ於テ好市場ヲ見出ス事ヲ得可シ然ルニ若シ同國ニシテ我輸出品ニ對シ何等ノ優遇ヲ与フル事ナク我ヲシテ報復ノ手段ヲ採ルノ止ムヲ得サルニ至ラシムルニ於テハ事ハ發達セントシツ、アル日本ノ對獨逸貿易ノ運命ニ關スルモノト謂フ可シ希クハ日獨兩國ノ利益ノ為メ改約談判ハ能ク好結果ヲ奏シ兩國ノ輸出貿易ハ新關稅及新條約ノ下ニ其發達ヲ阻礙セラレサランコトヲ

又七月廿三日ノ「ベルリーナー、ターゲブラット」(別紙乙号)ハ日獨通商條約ノ廢棄ト題シ論述スルトコロアリ就中獨逸ノ態度ニ關スル部分ヲ挙クレバ大要左ノ如シ

日本カ廢棄ノ通告ヲ為ス可シトハ豫テ吾人ノ覺悟セルトコロニシテ昨年ノ冬横浜總領事ハ數ヶ月間外務省ニ於テ執務シ來ル可キ改約談判ニ要スル材料ヲ主務省ニ供シ又政府ハ久シキ以前ヨリ商業會議所並工業ノ各団体ヨリ其

九百九十九年日本ヨリ我國ヘノ輸入額ハ貳千九百貳拾萬麻ニ上リ一昨年ノ千九百萬麻ニ比シ五三、七パーセント増加シ之ニ反シ一昨年ニ於ケル日本ヘノ輸出額ハ九千四百六十萬麻ナリシカ昨年ニ至リテ七千七百六十萬ニ下リ差引千七百萬麻即チ一八パーセントノ減少ヲ來セリ然レ共我國ノ日本ヘノ輸出ハ同國ヨリノ輸入ニ比シ頗ル巨額ナルヲ以テ著ルシキ關稅ノ引上ケノ為メ同國ニ於ケル我國產ノ市場ヲ失ハサラン事ヲ努メサル可カラス蓋シ日本ハ絶對的ニ我國ノ物品ヲ要スルニアラス又財政上ノ利益ノ為メニ引上ケタル關稅ハ之ヲ日本國民即チ消費者ヲシテ負擔セシムル次第ニアラス日本ニ於テハ各種ノ物品ニシテ今日尙ホ外國ノ輸入品ニ比シ其製作費高ク到底收支相償ハサルモノ少ナカラス新關稅率ハ此種製造業ヲ發達セシメ又此關稅ノ保護ニ頼リ自國産品ヲ以テ全市場ヲ圧シ外國品ノ輸入ヲ防遏スルヲ得可シ日本カ新關稅法ヲ設ケタルノ意此ニ存スル事ハ明瞭ナリ然ラサレハ國民ノ負擔ヲ輕易ナラシムル為メ政府ヲシテ減稅ヲ行ハシメタル同國ノ議會ハ決シテ關稅法ニ協贊ヲ与ヘ以テ豫期貳千萬ノ新稅ヲ間接ニ國民ニ負ハシムルカ如キ事ヲ為サ、リシナルヘシ若シ日本ニシテ改約談判ニ際シ我ニ對シテ

意見ヲ徵シツ、アリ但シ此等諸団体ノ希望カ總テ貫徹ス可キヤ否ハ別問題ナリ日本ハ今ヨリ一ヶ年後ニ効力ヲ生ス可キ國定稅率ヲ規定シ今後ハ縱令相互的ナルニモセヨ協定稅率ニハ耳ヲ傾ケスシテ單純ナル最惠主義ノ條約ヲ希望スル由ナルモ右ハ到底我國製造業ヲ満足セシムルニ足ラサル可シ歐洲諸國カ現行條約締結ノ際日本ヲ強制シタル武器ハ今日ニ於テハ最早存在セス當時日本ハ外國人ニ對スル治外法權ノ撤去ニ熱中シ之ニ對シテ莫大ノ報酬ヲ為スヲ辭セザリシナリ然ルニ二大戦ニ勝チタル同國ハ今ヤ列強ト同等ノ地位ニ立チ東洋的權謀ヲ以テ其利益ヲ擁護スルヤ必セリ左レハ伯林ニ於テ開始セラレ可キ談判ノ結果ハ決シテ有望ナリト謂フヲ得ス尤モ日本トテモ政治及通商ノ利益上無條約ノ狀態ヲ欲セサルハ勿論ナリ日本憲法ニ從ヘハ國際條約ハ樞密院ノ諮詢ト天皇ノ裁可アルニ於テハ關稅定率法ノ如キ法律ヲ交換スル場合ト雖トモ其効力ヲ生スルモ我國ニ於テハ議會ノ協贊ヲ經ルノ必要アリ而シテ新條約ハ現行條約ニ代リテ本年七月十七日ヨリ効力ヲ生ス可キモノナルヲ以テ可成談判ヲ急クノ必要アリ

此段及報告候 敬具

四〇五 明治三十三年七月二十四日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

條約案提出ニ関スル件

七月廿四日 後一〇、五七 伯林發
七月廿五日 前一〇、五五 東京着
第五〇号

小村外務大臣

珍田全權大使

貴電第三十八号ニ関シ本使ハ明後二十六日外務大臣ニ面会スヘキ筈ナルカ先日「ムム」男來訪其ノ談話中過般閣下ニ御面晤ノ節独逸国政府ニ於テ新條約締結ノ意志アル旨通知ニ接シタル時ハ速カニ我條約案ヲ提出スヘキ旨閣下ヨリ御内話アリタル趣申居タルニ付外務大臣ヨリ我案ノ提出ヲ請求スルヤモ計リ難シ然ルニ右様独逸政府ノ準備完了ヲ俟タス我ヨリ進ンテ條約案ヲ提出スルコトハ暫ニ時日經濟ノ点ニ於テ利益アルノミナラス独逸国政府ノ成案ニ先タチ我意見ヲ考量スルノ機会ヲ与ヘ商議ヲ纏ムル上ニ於テ却テ便利ナルヘント思考スルモ前記御電訓ノ後段ハ何カ特別ノ事情ニ基ク義ナルヤ折返シ御回訓アリタシ

四〇六 明治三十三年七月二十五日 小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛(電報)

條約案提出ニ関シ回答ノ件

七月廿五日後一時五十分
第四〇号

在伯林 珍田大使

小村大臣

貴電五〇 当方ニ於テモ成ルベク早く我條約案ヲ提出シタキ希望ニテ只先方ガ秋ヲ期シテ商議ニ応スベシトノコトナレバ強テ其前ニ提出スルノ或ハ都合如何アランカト思ヒ其点ニ余裕ヲ置キタル迄ナリ就テハ右様御承知ニテ先方ト御談合ノ上此際直ニ我條約案提出ノコトニ定マラバ右御提出相成リ其旨電報アリタシ

四〇七 明治三十三年七月二十六日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

新條約案提出打合せノ件

七月廿八日 後 四、五五 伯林發
七月廿九日 前一〇、五〇 本省着
第五三号

小村外務大臣

珍田全權大使

四〇八 明治三十三年七月二十九日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛

独逸国ノ關稅地域ニ関スル件

條約案提出ノ件

八月十八日接受

明治四十三年七月廿九日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

独逸国ト關稅同盟ノ關係ヲ有スル地域取調ノ上果シテ右ニ相違無之哉否六月六日付機密條第一一号ヲ以テ御問合ハセノ趣了承右ハ早速取調候処独逸国ノ關稅地域ハ今日ニ於テモ同帝國領域ノ外依然ルクセンブルグ大公国及壤国テロリ州ノ一村ユングホルツ及同國フオラールベルグ州ノ一村ミツテルベルクヲ包含スル事現行條約締結當時ト異ナル事無之候帝國領以外ノ地ニシテ独逸国ノ關稅地域ニ屬スル前記ノ地方ハ關稅上独逸ニ連合シ居ルモノニシテ此關係ヲ名ケテ Zollanschlüsse ト稱シ Zollverein 即關稅同盟ト稱セス日独條約第十九條ニモ Zollgeointe Gebiete トアリテ同盟ノ文字ヲ用キ居ラス右独逸關稅連合ノ地域ハ合計二千五百九十三方キロメートルニシテ其人口ハ式十五萬ヲ超ヘサルヲ以テ實際ニ於ケル利害關稅ハ極メテ輕微ナリ

貴電第三十八号及第四〇号ニ関シ本使ハ七月二十七日漸ク外務大臣ニ面会ノ機ヲ得御訓令ノ趣旨ヲ伝ヘタル上我條約案提出時期ニ関シ打合せタルニ外務大臣ハ可成速ニ其交附ヲ受クタクキ旨答ヘタリ右提出ハ新大臣ノ就任モ目前ニ迫リ居ルニ付其上適當ノ機會ニ於テ夫々取計フヘキ心算ナリ尙新條約ヲ英文トスル義ニ付テハ独乙国政府部内ニ於テ故障多ク中々困難ナルヘキ旨過日「ムム」男ヨリ談話ノ次第モ有之ニ付独乙国政府ノ内議未タ纏マラサル内ニ且現任外務大臣ノ退任前ニ本件ニ関シ一応申入ヲナシ置クコト得策ト認メタルニ付此面談ヲ利用シ此点ニ関スル帝國政府ノ希望ヲ開陳シ主義上ノ見地ト實際ト必要トヨリ其理由ヲ説明シタルニ外務大臣ハ之ニ対シ何等反對ノ意見ヲ挾マサルノミナラス同大臣一己ノ考ニテハ此点ニ付我政府ノ希望ニ応スルコトニ付何等困難ナカルヘシト思考スル旨ヲ述ヘラレタリ尤右同大臣一己ノ意見トシテ述ヘタル迄ニ付之ヲ以テ直ニ独乙国政府ノ同意ヲ得タルモノトハ考ヘ難キモ本件ニ関スル有力ナル言質タルニ付不取敢具報申進ス委細ハ公信ニテ御承知アリタシ

又独逸国領内ニシテ關稅上独逸ノ地域ニ屬セサル部分アリ
此關係ヲ關稅的除外 (Zollauschlüsse) ト称シ此地域ヲ關
稅的外国 (Zollausland) ト称ス、ヘルゴラント島及グ
ーストミユンデ自由港、ブレームン及ブレームルハーフェ
ン並ニハンブルグ自由港地域クックスハーフェンノ一部
分並ニバーデン国ノ一部分ニシテ瑞西ヨリ包圍セラル、小地
域ハ即チ右ノ關稅的国外ナリ其面積合計六十八方キロメ
ートル人口一萬三千ニスキスシテ實際何等ノ影響アルヲ見ス
此段回答旁申進候敬具

四〇九 明治三十三年七月二十六日

珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛

現行通商條約廢棄通告ノ次第報告ノ件

條機第二号

八月二十二日接受

明治四十三年七月二十八日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳 (印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

現行日独通商航海條約廢棄通告ノ件ニ關スル本年五月十三
日付機密條第五号御訓令ノ趣ニ従ヒ本使ハ右通告ノ期日ニ

同時ニ現行條約ノ効力終了後仮令短期ナリトモ無條約ノ期
間アルカ如キハ帝國政府ノ甚ク希望セサル所ナルハ勿論独
國政府ニ於テモ亦同一ノ意見ナルヘント確信スルニ付斯ノ
如キ不利益ノ事態ヲ避クルカ為メ帝國政府ハ速ニ新條約締
結ノ商議ヲ開始センコトヲ期シ新條約締結ノ意嚮アル旨独
國政府ヨリ通知アリ次第條約案ヲ提出シ得ルノ準備整ヒ居
ル旨ヲ告ケ且ツ獨國政府ニ於テハ帝國議會ノ協贊ヲ要スル
事情ニ鑑ミ成ルヘク速ニ獨國政府ノ回答アランコトヲ希望
スル旨ヲ陳述致候外務大臣ハ之ニ對シテ領承ノ旨ヲ述ヘ
獨國政府ニ於テモ亦新條約ヲ締結スヘキ意嚮ナル由ヲ語り
更ニ語ヲ次テ現行條約ノ終了ト新條約ノ實施トノ間ニ間隙
ナカランメンコトハ獨逸國政府ニ於テモ最モ希望スル所ナ
レバ是非共次期帝國議會ニ於テ新條約ノ協贊ヲ経ル様致度
前期議會ハ本年五月迄開会シ居タレトモ次期ハ多分來年三
月下旬ニ閉会スルコトナルヘキニ付必要ノ協贊ヲ得ル為
ニハ來年早々條約案ヲ帝國議會ニ提出スルノ必要アリ就テ
ハ速カニ商議ニ着手シ本年末迄ニ其談判ヲ結了致度考ナル
旨申述候ニ付本使ハ獨逸國政府カ新ノ如ク商議ノ進捗ヲ希
望セラル、ハ帝國政府ノ最モ満足トスル所ニシテ仮令僅少
ノ時日タリトモ無條約ノ状態ニ日独兩國ノ關係ヲ置クハ帝

先チ豫メ外務当局者ト打合ヲ為シ置カンカ為メ本月六日外
務大臣ノ定週接見日「シエン」氏ヲ訪問シ帝國政府ノ意
嚮ヲ述ヘ且現行條約廢棄通告ノ文案ヲ内示致候外務大臣
ハ帝國政府ヨリ此申出アルヘキコトハ獨逸國政府ノ夙ニ豫
期シ居タル所ニシテ愈々現行條約ヲ廢棄スルニ決シタル上
ハ獨國政府モ亦帝國政府ト同シク新條約ノ速ニ締結セラレ
ンコトヲ希望スル旨相答候ニ付本使ハ獨國政府ノ意嚮カ全
然帝國政府ノ希望ト符合シ居ルヲ聞キテ欣喜ニ不堪旨ヲ述
フルト同時ニ帝國政府カ現行條約廢棄ノ通告ヲ為サントス
ル当日ハ恰モ日曜日ニ該当スルニ付其当日即チ七月十七
日ノ日附ヲ有スル通告書ヲ其前日ニ外務大臣ニ手交致度趣
申入レ其承諾ヲ得テ引取り打合ノ通り十六日再ビ外務大臣
ヲ訪問シテ公然通告書ヲ手交致候但シ前記機密條第五号御
訓令中右通告文ハ當館ト獨逸國政府トノ間ニ往復スル公翰
ニ常用セラル、國語即チ獨逸語ニ翻譯ノ上提出致シ差支無
之旨御注意ノ次第有之候得共英文ノ儘ニテ之ヲ提出スルハ
新條約ヲ英文ニテ締結セントスル帝國政府ノ希望ヲ表明ス
ルノ一端トモ可相成ト思考致候ニ付曩ニ内示シタル文案並
ニ今回手交シタル通告本書共悉ク御訓令ニ添付セル英文ノ
儘ニテ相認申候本使ハ右通告書ヲ外務大臣ニ手交スルト

國政府ノ甚ク嫌忌スル所ナレハ速ニ商議ヲ開始センコトヲ
希望スル旨ヲ繰返シ陳述シテ退出致候
右拙電第四〇号及第四五号ノ説明ノ為具報申進候敬具

四一〇 明治三十三年七月二十六日

珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛

現行日独通商條約ノ廢棄通告ニ對スル獨國政府
ノ回答並ニ新條約案提出ニ關スル交渉報告ノ件
條機第參号
八月二十二日接受

明治四十三年七月二十八日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳 (印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

本月十六日本使ノ提出シタル現行日独通商航海條約ノ廢棄
ニ關スル十七日附通告書ニ對シ獨國外務大臣ハ十七日附ヲ
以テ回答ヲ送り我通告ヲ領承スルト同時ニ帝國政府カ條約
ノ締結ニ關シテ商議ノ用意アルコトハ獨國政府ノ満足スル
所ニシテ獨國ニ於テモ亦目下新條約案ノ調査中ナルニ付
其準備ノ完了次第当秋ヲ期シ欣然之レカ談判ヲ開始スヘキ
旨申越候ニ付不取敢拙電第四六号ヲ以テ其旨及報告候外貴

電第三八号ヲ以テ独逸政府カ商議ニ応スルノ意ヲ表シタルハ帝国政府ノ満足スル所ナル旨ヲ同国政府ニ通知スルト同時ニ同政府ノ準備成リ次第何時ニテモ我方ヨリ條約案ヲ提案スヘキ旨ヲ申込ミ置クヘキ旨御訓令ニ接シ委細敬承致候然ニ先日「ムム」男来訪ノ際過般閣下ニ面晤ノ節帝国政府ハ独逸政府カ新條約締結ノ意嚮アル旨通知ニ接シタルトキハ直ニ條約案ヲ提出スル都合ナル旨閣下ヨリ御内話アリタル趣ヲ談話シ独逸政府ニ於テ已ニ其意嚮ヲ通知シタルニ付本使ヨリ直ニ提案可相成ト信スル旨申陳候間之ニ対シ本使ハ独逸政府ニ於テ其意嚮ヲ通知シタリト雖トモ之ト同時ニ商議開始ノ時期ヲ来秋ト定メ居ル義ナレバ直様提出ノ必要モ可無之ト曖昧ニ受流置候右之次第ニ付前頭御訓令ノ趣旨ヲ外務大臣ニ伝達ノ際多分同大臣ヨリ我條約案ノ提出ヲ請求スル事ト被察候処独逸政府ノ準備完了ヲ待タス我ヨリ進テ條約案ヲ提出スルコトハ嘗ニ時日經濟ノ点ニ於テ利益アルノミナラス彼ノ成案ニ先チ我意見ヲ考量スルノ機会ヲ与ヘ商議ヲ纏ムル上ニ於テ却テ便利ナルヘキニ付右様ノ場合ニハ其請求ニ応シ候方得策ト思考致候得共本年六月六日附機密條第一〇号御訓令ノ次第アルニ拘ハラズ貴電第三八号後段ヲ以テ特ニ御電訓相成候ニ付右ハ何方特別ノ事由ニ

四一一 明治四十三年七月二十九日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛

新條約ノ正文問題ニ関シ外務大臣ト談話ノ要領 報告ノ件

條機第四号 八月二十二日接受

明治四十三年七月廿九日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

條機第三号中記載致候新條約ニ関スル「ムム」男ト談話中同男ハ新條約ニ関シテハ大体ノ政治的見地以外ニ何等格別ノ意見モナク知識モ有セサレトモ本年十月頃迄ハ賜暇滞留ノ積ナレハ多分其商議ニ関カル事トナル可シ云々相話シタル末新條約ノ正文問題ニ談及致候ニ付キ本使ハ此点ニ対スル帝国政府ノ所期ヲ内話シタルニ同男ハ独逸政府ノ自負心ニ鑑ミ英文若クハ仏文ヲ単行正文トスルハ勿論之ヲ解釈文トスル事モ到底行ハレサル可シ現ニ先般商標問題ニ関スル取極ノ正文ニ英語ヲ採用スベキ事ヲ自分ヨリ建議シタル際本国外務省ハ断乎トシテ之ヲ斥クタリト相語り事ノ是非ニ関シテハ敢テ自家ノ意見ヲ確述セサルモ頻リニ本件ノ困難談ヲ唱居候然ルニ「ムム」男ノ平素ニ顧ミルモ此類ノ案件

小村外務大臣時代 対独交渉 四一一

基キ提出ヲ延期スルノ必要生シタル義カトモ被案候ニ付拙電第五〇号ノ稟請ニ及タル次第ニ有之候右ニ対シ貴電第四〇号ノ御回訓ニ接シ候ニ付本月二十八日外務大臣ニ面会ノ上閣下ノ訓令トシテ独逸国政府カ新條約締結ノ商議ニ応スルノ意思ヲ表明シタルハ帝国政府ノ頗ル満足トスル所ナル旨ヲ陳述シ且ツ双方ノ都合ニヨリ適當ノ時機ニ於テ我條約案ヲ提出スヘキ様閣下ヨリ訓令ニ接シタル旨ヲ附言シテ独逸政府ノ都合ヲ試問シタルニ外務大臣ハ速カニ其交付ヲ受ケンコトヲ希望スル旨ヲ相答候ニ付本使ハ我草案ノ英文ナル事ヲ語り且ツ機密第四号ヲ以テ具報ノ通り新條約ノ正文ニ就キ帝国政府ノ希望ヲ詳説シタル末本使ハ右請求ニ応シテ可成速ニ條約案ヲ提出可致旨相答置候然ニ新大臣ノ就任モ目前ニ差迫リ居候ニ付其上適當ノ機会ニ於テ夫々取計可申心組ニ有之候

右拙電第五三号前段ノ説明旁具報申進候 敬具

ニ対シテハ兎角異見ヲ挿ムノ傾有之候事兼而御承知ノ通ニテ其外務当局者ニ推委セル反對説中ニモ所謂ル *With is the father to the thought* ノ気味ヲ免カレサル節ヲ有之様看取被致候旁此種ノ反對説カ外務省ニ於テ余リ根柢ヲ固メサル内ニ当方ノ所見ヲ吐露致置ク事得策ト相認候且ツ現任外務大臣「シエン」男ハ元来極メテ円滑ニシテ形成ニ拘泥セル空論ヲ避ケ可成切実ノ熟議ヲ尙ブ流儀ナルノミナラス英仏二語ニハ殆ンド母語同様ニ精通スルニ反シ其後任タル「キグルレーン、ヴェヒタル」氏ハ英語ニ通セザル上頗

フル外圭多角ノ竦腕家ヲ以テ知ラレタル人物ニ有之等各般ノ關係ニ照シ「シエン」男ノ離任前ニ於テ本件ニ関シ一応ノ申込ヲ為シ置ク事機宜ニ適スル義ト思考致居候処本月廿七日外務大臣ト会見ノ際同大臣ハ別報ノ通り頻リニ我提案ノ速カナラン事ヲ希望スル旨ヲ陳ベラレタルヲ以テ本使ハ可成速カニ其求ニ応スベキ旨ヲ答フルト同時ニ我草案ノ英文ナル事實ヲ告ケ且ツ帝国政府ハ新條約ノ正文ニ英文ヲ採用センコトヲ希望スル旨ヲ開陳シ右帝国政府ノ希望ハ一ニハ主義上ノ理由ニ基ツクモノナルモ主トシテ實際上ノ見地ニ出タル事由ヲ前提シタル上後段記載ノ通り弁明致置候但シ右様本使カ實際ノ便否論ヲ主トシ体面論ヲ従トシタル

理由ハ若シ我ニ於テ専ラ体面上ノ見地ヨリ立言シテ日独兩國ノ対峙ヲ主張セハ此点ニ就キ英仏二國ニ對スル我方針ト相容レサル論結トナリ恰カモ我ニ於テ对独態度ヲ比較的輕視スルカ如キ外覩ヲ与フル為メ却テ多感ナル独國ノ自負心ヲ挑發シ之ヲシテ益々其体面論ヲ主張セシムルノ結果ニ立到ルヤモ難計ト思考致候ニ付キ本使ハ主トシテ實際上ノ便否ノ見地ヨリ帝國政府ノ希望ヲ弁明シ先方ノ同意ヲ得ルニ相努メ申候即チ本使ハ先ツ主義上ノ見地ニ関シテ口ヲ開キ独逸國カ各國ト締結シタル諸條約ヲ案スルニ現行日独通商條約ノ如ク独逸語ノミヲ正文ト為シタル例ハ塞爾比亜、摩呂哥等二三小國トノ間ノ條約ニ限り其他ハ独逸語ト對手國ノ國語トヲ各其正文ト為スカ又ハ局外語タル仏文ニ依ルヲ以テ此事實ニ鑑ミル時ハ現行日独通商條約ノ妥當ヲ缺ク事一目瞭然タリ故ニ若シ独逸國ニシテ強テ独逸語ヲ正文ト為サント欲セハ帝國モ亦日本語ヲ正文ニ加フルヲ主張スルニ至ル可シ果シテ然ラハ兩國語カ性質上相異甚タシキ為メ終ニ第三國ノ國語ヲ借りテ條約ノ解釈文ト為サハル可カラサルノ結果ヲ生スルヤ言フ俟タス斯ノ如キハ單ニ主義形式ノ争議ニ過キサル何等利益ナキ次第ニテ獨逸國政府ニ於テ露蘭等ノ諸國ト第三國ノ國語タル仏文ノミニテ條約

モノトハ相考ヘ難ク其際本使ヨリ右ノ言明ヲ独逸國政府ノ意見ナリトシテ帝國政府ニ公報致度旨ヲ陳ヘ「シエーン」氏ノ同意ヲ得置度存候得共同大臣ノ平素ニ顧ミルニ兎角確的ノ答ヲ与フルニ躊躇スル方ニ有之(是ハ同僚間一般ノ定評ナリ)候耳ナラス殊ニ其離任間際ニ當リ正式ニ右様ノ同意ヲ与フ可シトモ考ラレ難ク右ハ一個ノ私見ニシテ政府ノ意見トハ全然關係ナシトノ回答ヲ得ンヨリハ寧ロ其儘ニ致置候方將來引用上却テ有利ナルベシト相考候儘本使ハ右ニ對シ唯満足ノ意ヲ表彰スルニ止置候兎ニ角本使ニ於テハ責任アル外務大臣ノ言明トシテ本件ニ充分ノ重キヲ置キ將來ノ談判上可成有効ニ利用可致心算ニ有之候

右拙電第五三号末段ノ説明旁具報申進候 敬具

△(欄外註記)
「最近ノ一九〇八年独葡條約モ仏文ノミナリ一九〇四年独羅追加條約一九〇五年独勃條約一九〇七年独モンテニーグロ、独土條約等皆仏文ノミノ如シ」

ヲ締結シタルハ惟フニ如斯空儀ニ屬スル繁文ヲ避クルノ趣意ニ他ナラザルヘシ帝國政府カ新條約ヲ英文ニテ締結セント欲スル希望モ畢竟同一ノ精神ニ出テタルモノニシテ實際上ノ要求ニ応スル事最モ適切ナルヲ信ス蓋シ英語ノ東洋ニ於ケル通用歐洲語タル事實ハ普ネク世間ノ首肯スル所ニシテ現ニ獨逸國カ日独追加約定ニ於テ同邦語ヲ採用シタルカ如キモ此事實ヲ認タル实例ト云フヲ得可シ本邦ニ於テハ独逸語モ其勢力ナキニ非ラサルモ要スルニ專門ノ部分ニ屬シ英語ノ如ク広ク一般ニ互ル事能ハス随テ我外務省ニ於ケル機關モ概ネ英語ヲ以テ便利トスルノ設備ナルカ故ニ最モ切實ニ之ヲ云ヘハ新條約ノ商議ニ関シテモ正文ノ英語ナルト独逸語ナルトニヨリ大ニ便否ヲ異ニシ隨テ商議ノ進行ニ多大ノ影響ヲ与フルニ至ルヘシ此等ノ事由ニヨリ獨逸國政府ニ於テ充分ニ帝國政府ノ希望ヲ諒セラレン事ヲ切望スル旨ヲ縷々開陳致候外務大臣ヘ之ニ對シ何等反對ノ意見ヲ挿マサルノミナラス同大臣一個ノ考ニテハ此点ニ関シ帝國政府ノ希望ニ応スル事ニ就キ何等困難ナカルベシト思考スル旨ヲ明言致候ニ付キ本使ハ之ニ對シテ満足ノ意ヲ表彰致置候然レ共右ノ言明ハ唯「シエーン」氏一個ノ考トシテ述タル義ナレハ理論上之ヲ以テ直チニ獨逸國政府ノ同意ヲ得タル

四一二 明治四十三年七月二十九日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛

條約締結權ト議會トノ關係並ニ議會々期日教等 取調ノ件

條機第五号 八月二十二日接受

明治四十三年七月二十九日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

條約締結權ト議會トノ關係殊ニ通商條約及暫定約款ニ對スル議會承認ノ要否通常議會開會期日及會期日教等取調ノ上回報可致旨六月六日付機條一二号ヲ以テ御來訓ノ趣敬承独逸帝國憲法第十一條ニ依レハ條約ノ締結ハ皇帝ノ大權ニ屬シ皇帝ハ國家ヲ代表シ外國ト同盟ヲ結ヒ諸般ノ條約ヲ締結スルノ權能ヲ有スルヲ以テ原則トスルモ其締結セラルヘキ條約ニシテ事帝國立法ノ範圍ニ屬スルモノハ聯邦會議ノ承認ト帝國議會ノ協贊ヲ要スルノ規定ナリ即チ同盟ヲ結ヒ若クハ其他ノ純然タル政治的條約ヲ締結スルハ皇帝無限ノ權能ナレトモ通商條約ハ先ツ聯邦會議ノ承認ヲ經テ之ヲ帝國議會ニ提出シ其協贊ヲ求メサル可カラス而シテ帝國議會ハ通商條約ヲ審議スルニ際シ當該條約ノ締結ハ大体ニ於

テ国家ノ通商上ノ利益ナルヤ否ヤヲ審査シ條約全体ニ対シテ賛否ヲ決ス可キモノニシテ其條項ニ何等ノ修正ヲ加フルヲ得サルモノトス故ニ若シ帝國議會ニシテ右條約中果シテ修正ヲ加フルノ必要アリト認ムル時ハ其全体ヲ否決シ政府ヲシテ更ニ当該國ト談判ヲ開キテ妥協ヲ遂ケシメ新條約ノ形ニ於テ改メテ之ヲ提出セシムルノ外他ニ方法ナシ暫定約款モ亦聯邦會議及帝國議會ノ承認ヲ要スルノ点ニ於テハ通商條約ト異ナル事ナシ例ヘハ現行独瑞(瑞典)通商條約ノ有効期限ハ千九百十年十二月卅一日ナレトモ兩國間ノ通商關係ハ甚タ複雑ニシテ到底期限満了前新條約締結ノ運ヒニ至ルノ見込ナキヲ以テ兩國政府ハ客歲十二月十四日外交文書ノ交換ニヨリ議會ノ協贊ヲ條件トシテ千九百十一年十二月一日迄ノ延期ヲ約シ本年ニ入り議會ノ協贊ヲ經テ茲ニ始メテ該條約ノ有効期限ヲ前記日付迄延期セル旨ヲ公布セリ又千九百七年ノ締結ニ係ル独米通商條約ハ米國側ノ通告ニ依リ本年二月七日其効力ヲ失フ事トナリ兩國ハ当分ノ間其一方ヨリ輸入スル物品ニ對シ互ニ自國ノ法律ヲ用テ最惠國ニ準スル待遇ヲ与フ事ニ妥協ヲ遂ケタリシカ此際独逸政府ハ「米國ヨリ輸入ノ物品ニ對シ独逸ノ現ニ各國トノ條約ニ於テ許容シアル税率ヲ政府ノ適當ト認ムル範圍ニ於テ

July 17th. As the treaties with France and Austria Hungary have now equally been denounced I should be very much obliged to Your Excellency if I could now get—for my personal information only—a copy of the drafts which have been submitted to the Imperial Government by His Japanese Majesty's Ambassador at Berlin.

With best thanks in advance I remain.

Your Excellency's
most respectfully
Count A. Montgelas.

四一四 明治三十三年八月九日

珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛

日独通商條約改正ニ關スル当国新聞紙ノ論調
報告ノ件

條第三号

八月二十七日接受

明治四十三年八月九日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨己(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

当市発行ノ「ベルリーネル、ターゲブラット」ハ客月廿九

小村外務大臣時代 対独交渉 四一四

適用スルノ権限ヲ聯邦會議ニ附与スルノ法律案」ヲ帝國議會ニ提出シ二月五日其協贊ヲ得タリ
要スルニ暫定約款ニ對シ政府カ帝國議會ノ協贊ヲ求ムル形式ハ場合ニ依リテ異ナリト雖トモ其協贊ヲ要スルノ点ニ於テハ同一ナリトス
独逸帝國議會ノ開会期日及日數ニ關シテハ何等特ニ規定シタルモノ無之ニ付最近十年間ノ実例ヲ取調ヘ別紙ニ記載致置候間委細右ニテ御了承相成度候
此段回答申進候 敬具

註 附屬書省略

四一三 明治三十三年八月七日

独国代理大使ヨリ
小村外務大臣宛

新條約案送付方請求ノ件
(半公信)

Chuzenji, August 7th 1910.

Your Excellency,
Before I left Tokyo Your Excellency was so kind as to promise me to let me have a copy of the drafts which Baron Chinda would be instructed to submit to the Imperial German Government after denouncing the existing treaties between Japan and Germany on

日ノ紙上ニ於テ我永代借地權ニ關シ大要左ノ如キ論說ヲ掲記致居候

今回日独通商條約改正ノ商議ニ際シ永代借地權問題ハ最も重要視スヘキモノ、一ナルヘシ從來日本ハ外国人ニ土地所有權ヲ許与セス一定区域ヲ限リ居住ヲ認ムルニ止メ該地域内ニ居住セル外国人ハ単ニ地代ヲ仕払フノミニシテ地租家屋稅等ヲ徴收セラル、事ナカリキ而シテ當時地代ハ恰モ免除セラレタル租稅額ニ相当シタルカ近來物価ノ騰貴ニヨリ當時相当ノ地代ハ現在頗ル低廉ナルモノトナリタルヲ以テ日本政府ハ寧ロ租稅徴收權ヲ得ルヲ得策ナリトスルニ至レリ外国人ハ固ヨリ之ニ對シ現状ノ維持ニカムルハ当然ニシテ独英米仏等ノ諸國ハ同様ノ境遇ニ立ツトモ米國ハ之ニ對シ比較的冷淡ナリ而シテ日本政府ノ將來永ク該特權ノ存続ヲ欲セス之ヲ以テ外国人ノ制肘ヲ受ケタル時代ノ遺物トナシ可成速カニ該制度ヲ廢棄セン事ニ努メツ、アリ何レ本件ノ妥協ヲ見ルニ至ルヘキモ日本政府ハ結局外国人既得權ニ對スル弁償金ヲ支払ハサル可カラサルニ至ル可シ然レ共免稅特權ノ範圍ニ關シテハ何等双方ニ一致ヲ見サルヲ以テ愈妥協ヲ見ル迄ニハ非常ノ困難アル可シ本件ハ兩三年前海牙仲裁々判

ノ手ニ懸リタル事アリテ家屋税問題ニ就テハ日本ノ敗訴ニ歸シタルモ其以外ノ免税範圍ハ尙未定ノ問題ナリ若シ利害關係諸国ニシテ其採ルヘキ態度ヲ一ツニセム或ハ該特權ヲ維持スルニ難カラザルヘシト雖トモ三国ガ右ニ関シテ歩調ヲ一ニスムキヤ否ヤハ尙疑問ニ屬ス
右報告申進候 敬具

四一五 明治三十三年八月十日 小村外務大臣ヨリ
独国代理大使宛

新條約案請求ニ対シ回答ノ件

Copy.

Confidential

Gainusho,
August 10, 1910.

Dear Count von Montgelas,

Baron Chinda has telegraphed that he was going to present the drafts to your new State Secretary of the Foreign Office but we are not yet informed of his having done so.

As it is presumed, however, to be a question of only a few days' time I send, herewith enclosed, for

your confidential information, a copy each of the draft Treaty of Commerce and Navigation and the draft Special Reciprocal Customs Convention which will soon be in the possession of your Government.

Yours sincerely,

(Signed :) K. Ishii.

Monsieur le Comte von Montgelas,

German Chargé d'Affaires,

etc., etc., etc.

四一六 明治三十三年八月十日 珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛 (電報)

通商航海及特別相互関稅兩條約案提出ノ時期ニ
関スル件

八月十一日 後三、三五 伯林着
前八、五五 本省着

第五八号

小村外務大臣

珍田全權大使

機密條第一〇号御訓令ニ拠レハ通商航海及特別相互関稅兩條約案ヲ同時ニ提出スヘキ旨ノ処英國ニ於ケル新聞論調等

希望スルガ如キ特惠ヲ同国ニ約諾スルコトハ断ジテ無之ニ付其辺ニ關係ナク豫定ノ通り提出ニ及バレタシ

四一八 明治三十三年八月十日 珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛

日独通商條約改正ニ関スル独国新聞論調
続報ノ件

條第四号 八月二十九日接受

明治四十三年八月十一日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨己 (印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

「ケルニツシエ、ツアイトウング」ハ本月二日ノ紙上ニ於テ日独通商條約ナル題下ニ西部独逸某商業會議所法律顧問ノ寄稿ヲ掲載致候ニ付其梗概實覽ニ供候

現日独通商條約ハ明年七月十七日ヲ以テ期限満了スヘキニ付右ニ代ル可キ新通商條約締結セラレサルヘカラス而シテ右ハ多分本年冬期議會ノ議ニ附セラル可シ聞ク所ニ

ヨレハ日独兩國政府間ノ商議ハ已ニ進行中ナリト云フ願ミテ日独通商關係ノ現況ヲ觀ルニ客年度独逸政府統計

四一七 明治三十三年八月十日 小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛 (電報)

新條約案提出時期ニ関シ回答ノ件

八月十一日 前十一時五三分發

第四七号

在伯林 珍田大使

小村大臣

貴電五八 現行條約廢棄通告ヲ与ヘタル各国ニ對シテハ瑞西ヲ除クノ外既ニ皆新條約案ヲ提出済ナルガ故閣下モ速ニ独逸国政府ニ我約案甲乙共ニ御提出相成リタシ英國新聞ノ

小村外務大臣時代 対独交渉 四一七 四一八

ノ示ス所ニ依レハ独国ヨリ日本ヘノ輸出額ハ七千七百六十萬麻ニ上リ日本ヨリ独国ヘノ輸出額ハ僅々二千九百二十萬麻ヲ出テス從ツテ独逸ハ日本ニ比シ新條約ノ成否ニ一層緊切ナル利害關係ヲ有スルカ如キ觀テ有ス然レ共日本ヨリ独国ヘノ輸出総額ハ単ニ独逸政府ノ統計上ノ數字ノミヲ以テ測定スル能ハス即チ日本ヨリ独逸ヘノ輸出総額ハ一九〇八年度一千九百萬麻客年度二千九百二十萬麻ニシテ内蚕絲一昨年度四十三萬八千麻客年度二百九十萬麻ナリ依是見レハ該種商品ニ對スル日本ノ利害ハ僅々五十萬麻乃至三百萬麻ノ僅少額ニ闕スル如ク見ユルモ事實ハ全然是ト異ナリ前掲日本ヨリノ輸入額直接輸入ノ場合ヲ掲ケタルモノニシテ主トシテ南独絹絲紡績ニ使用セラル、廉價品ニスキス日本生絲ノ最大需要ハ絹布製造材料タル点ニ存シ其大部分ハ伊国、瑞西、仏国ヲ經由シテ独逸ヘ輸入セラル、モノナリ右ニ闕シ信憑ス可キ計算ニ拠レハ(絹絲乾燥所ノ算定ニ拠ル)其量四十萬基其價格千五百萬麻ナリ即チ日本ヨリ独国ヘノ輸入額ハ統計ノ表面上二千九百五十萬麻ナルモ實際ハ之ニ加算スルニ千五六百萬麻ヲ以テセサルヘカラス反シ之獨国ヨリ日本ヘノ輸出品中ニハ何等間接ノモノナシ即チ独逸ノ輸出額七千

ニハ独国側ヨリモ之ヲ指示シ注意ヲ喚起セサル可カラス本年四月十四日發布日本新關稅定率法ハ独国ノ輸出品(即染料、機械、絹布等ニ對シ一部分ハ非常ニ稅率ヲ引上テ独国ノ利益ヲ害スル事甚ク大ナリ故ニ相互ノ利益ニ適応スル協定ニ到達スルニハ一ニ日本ノ交讓ノ態度ニ俟テサル可カラス云々

右報告申進候 敬具

四一九 明治四十三年八月十二日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

新條約案提出濟ノ件

八月十一日 後三、五九 伯林着
八月十二日 前五、〇〇 東京着

第五九号

小村外務大臣

珍田 大使

八月十日(孰レナルヤ)豫テノ打合セニ從ヒ條約案甲乙
兩部共独逸国政府ニ提出シタリ

註 次号書翰ニヨレバ右提出ハ十一日ナリ

七百六十萬麻ニ對シ日本ヨリノ輸出額四千五百拾萬麻ト見積ルヲ以テ最モ正鵠ヲ得タルモノト云フ可シ日本絹絲輸出額ハ直接三百萬麻間接千六百萬麻之ニ「ボンジエ」五百萬麻ヲ合スルトキハ二千四百萬麻ノ巨額ニ上リ日本ヨリ独国ヘノ輸出額ノ半ニ該當ス要之日独通商貿易上絹絲及絹製品ハ其最重要部分ヲ占ムル事明カナリ尙又茲ニ注意セサル可カラサル事ハ兩國ノ他ノ一方ニ對スル輸出額ノ數字ナルモノハ單ニ其比較ニ拠リテ兩國互互間ノ輸出貿易重要ノ程度ヲ測定ス可キモノニアラスシテ對手国ヘノ輸出額ト輸出貿易總額トノ割合ノ比較コソ之レヲ測定シ得ヘキモノナルコト之レナリ日本ノ輸出總額ハ過去數年ノ平均四億三千萬円即チ九億三十萬麻ナリ日本ノ独国ヘノ輸出額ハ前記絹絲ノ間接輸入ヲ算入スルトキハ四千五百拾萬麻トナリ前記ノ輸出總額ノ約五分ニ當ル然ルニ独国ノ日本ニ對スル輸出總額七千七百六十萬麻ハ独ノ輸出總額八十二億千三百六十萬麻ニ對シ一分ニタモ違セス即チ日本ハ独国市場ヘ輸出全額ノ二十分ノ一ヲ輸出スルニ對シ独国ハ日本市場ヘ其全輸出額ノ百分ノ一ヲ輸出スルニスギス以上ノ關係ハ新條約ノ談判ニ際シ日本側ニ於テモ固ヨリ注意スル所ナルベク必要ノ場合

四二〇 明治四十三年八月十二日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛

通商航海條約竝ニ特別相互關稅條約兩案提出報告ノ件

條機第六号

九月五日接受

明治四十三年八月十二日

在独 特命全權大使男爵、珍田捨巳(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

独逸国政府ニ我條約案提出ノ儀ニ關シ新任外務大臣就任ノ上適當ノ機會ヲ見計ラヒ之ヲ提出ス可キ手筈ナル次第ハ往電第五三号ヲ以テ具報申進シタル通ニ有之候処「フオン、キデルレン、ヴェヒター」氏ハ七月廿九日ヲ以テ彌々外務大臣ニ新任シ本月九日始メテ定廻接見ヲ開キタルニ付本使ハ当日大臣ヲ訪問ノ際當方ニ於テハ條約案提出ノ準備整ヒ居ルニ付キ同大臣ノ便宜次第會見手交可致旨申込候処同大臣ハ速カニ我條約案ノ提出ヲ希望スル旨申述フルト同時ニ既ニ作成セラレ居タル右ノ希望ヲ記載シタル書翰ヲ本使ニ手交シ猶目下新任ノ際ニテ條約改正ノ儀ニ關シ未タ研究スルノ時日無之條約案ニ付意見ヲ交換スルノ用意モ無之故條約案ハ單ニ之ヲ外務省ニ送附相成候方却テ好都合ナル趣陳

述致候ニ付本使ハ一兩日中ニ我條約案ヲ提出ス可キ旨相答ヘ退出致候然ルニ本年六月六日付機密條第一〇号ヲ以テ御送附相成候通商航海條約案並ニ特別相互關稅條約案ハ其性質上之ヲ同時ニ提出セサル可カラサル絶対的必要無之様ニモ被相考候処英國ニ於ケル新聞紙ノ論調其他仄カニ伝聞スル所ノ情報等ニ顧ミルニ日英新條約ノ前途極メテ困難ナルカ如ク察セラレ其結果日英同盟ノ關係並ニ彼我關稅主義ノ異同ニ鑑ミ英國ニ對シテハ關稅ニ關シ何等カノ特惠ヲ与フルノ已ヲ得サルニ立到ルヤモ難計萬一右様ノ場合ニ逢着スル時ハ關稅條約案第一條ノ絶対的最惠國待遇ノ保障ヲ原案通存続スルノ不利益ヲ感スルノ場合無之トモ難計ニ付キ目下ノ所單ニ通商航海條約案ノミヲ提出致置候方累ヲ後日ニ貽コスノ虞可無之ト思考致候ニ付往電第五八号ヲ以テ右ニ關シ御問合ニ及ヒタル次第ニ有之候処貴電第四七号ノ御回訓ニ接候ニ付豫テノ打合通昨十一日我英文條約案甲乙兩部共独逸國政府ニ提出致候間右御承知相成度此段及報告候敬具

追テ新條約締結ノ商議ニ關シ各國ニ於ケル交渉ノ情況並ニ各國政府ノ態度等ニ關シ肯綮ヲ心得置候儀ハ本件ニ關シ當國政府ト交渉上頗フル有要ト被相考候ニ付御差支無

独逸ニ於ケル本邦羽二重ニ對スル關稅ノ義ニ付稟請書

從來独逸國ニ於ケル本邦羽二重ニ對スル關稅ハ一基ニ付キ三馬克ニ有之候処方今同國ニ於テ五匁付及ヒ其以下ノ品ニ對シ十馬克ニ引上ケントスル詮衡中ノ由當橫浜某直輸出店ナル里昂支店ヨリ通報有之若シ果シテ改正セラレ、ニ於テハ我々當業者ニ大打撃ヲ及ホスハ勿論延テ國家貿易ニ多大ナル影響ヲ来タスコト必然ナルヲ以テ誠ニ憂慮ニ堪ヘス候同國ニ向テ最近一二ヶ年間輸出シタル數量價格ハ左記ノ如ニシテ猶ホ益々増加セントスル趨勢ニ有之然ルニ一朝前記之如ク關稅率ヲ改正実行セラレ、トセハ必ス其輸出額ニ減少ヲ来タスノミナラス或ハ杜絶スルノ悲境ニ陥ルヤモ知ルベカラス何卒國家貿易ノ為メ此際速カニ御調査ノ上外務大臣ト御打衝ノ上同國政府ヘ相當御交渉アランコト奉切望候右謹テ稟請致候也

明治四十三年八月十日

橫浜輸出絹物同業組合

組長 大浜 忠 三郎

農商務大臣 小松原英太郎殿

三ヶ年間羽二重輸出額

小村外務大臣時代 对独交渉 四二一

之限り右ノ情報時々御通知相成候様致度希望ノ至ニ不堪候

四二一 明治四十三年八月十三日 押川農商務次官ヨリ

独逸國ニ於テ羽二重關稅引上ニ關シ請願書寫転送ノ件

附屬書 請願書寫(一)(二)

商第四九九二号 八月二十四日接受

明治四十三年八月廿三日

農商務次官 押川則吉(印)

外務次官 石井菊次郎殿

今般独逸國ニ於テ羽二重ニ對スル關稅率引上ノ議有之趣ヲ以テ橫浜輸出絹物同業組合及日本輸出絹同業組合聯合会ヨリ別紙寫ノ通り建議致越候ニ付事實御調査ノ上可然御取計相煩度

右依頼ス

(附屬書)

(一)

四十年輸出額

羽二重 八萬三千七百四十卷斤

代價格金百四十卷萬式千八百七十六円

四十一年輸出額

羽二重 拾萬九千九百〇參斤

代價格金百六拾式萬六千九百八十六円

四十二年輸出額

同 九萬四千百九十式斤

代價格金百二十三萬〇六百四十五円

以上

(二)

独國關稅定率改正ノ議ニ關スル陳請書

独國ハ從來本邦ヨリ輸入スル絹布ノ關稅ヲ加重セス絹布工業ノ原料トシテ羽二重及ヒ其他ノ本邦絹布ヲ迎フルノ傾向ヲ示シ同國ノ絹工業ハ着々進歩シ其原料羽二重輸入額ハ明治三十一年ニハ僅ニ価額四萬四千三百九十九円ナリシモ同三十六年ニハ六十五萬六千九百四十七円ニ進ミ同四十一年ニハ八百六十二萬六千九百八十六円ニ上リタリ客年ハ稍ヤ降りテ百二十三萬〇六百四十五円ナリシモ彼我貿易ハ一年一年増進シ来タリ前途頗ル多望ナリシト雖トモ此頃伝ヘ承ハル

所ニヨレハ同国ニ於テハ我カ羽二重ニ対スル関稅定率ヲ加重シ其標準量目五匁以下ノ品ニハ現定率每一「キログラム」三「マーク」ヲ改メ每一「キログラム」十「マーク」ニ進ムルノ議アリ目下詮衡中ニ屬スル趣ニ有之果シテ然ラハ貿易上容易ナラサル義ト思考致候每一「キログラム」三「マーク」ヲ改メテ每一「キログラム」十「マーク」ト為スハ之ヲ現在ノ市価ニヨリテ從價率ニ換算スルトキハ百分ノ約六ヲ百分ノ約二十ニ改ムルニ相当セリ又標準量目五匁以下ノ羽二重ハ同国ニ輸入スル羽二重ノ大部分ナルニヨリ此品ニ対スル稅率ノ上ニ此ノ如キ激變ヲ与フルトキハ單ニ羽二重ノ輸入ヲ障礙シテ同国絹工業ノ上ニ一大頓挫ヲ來スヘキノミナラス兩國貿易ノ全体ノ進歩ヲ沮止スヘキハ火ヲ祝ルヨリモ明白ナル筋ニ付同国ノ關稅定率上此ノ如キ變革ヲ見サル様政府ニ於テ相当ノ御交渉相仰度切望ノ極ニ奉存候此段謹テ具申致候也

明治四十三年八月十日

日本輸出絹同業組合聯合会

組長 茂木保平

農商務大臣 小松原英太郎殿

明治四十三年九月十七日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳

外務大臣伯爵 小村壽太郎殿

本件ニ関シテハ本年五月二十六日付條第五号ヲ以テ本省調査ノ分相添へ精査ノ上回答可致旨御來訓之趣ヲ承然ル処逸關稅ニ關スル規定ハ頗ル複雑ニシテ千九百六年以來追加書ハ七冊ニ上リ關稅率ノ改正セラレタルモノハ僅少ナルモ字句ノ修正追加削除等ハ絶ヘス行ハレ居リ又關稅適用ニ關スル解釈モ往々變換セラレ此場合ニ於テハ縱令關稅率ニ變換ナキモ實際ニ於テハ或ハ稅率ノ變換ト同様ノ結果ヲ來スコトナキヲ保セス又物品ニ依リテハ實際本邦品輸入商ノ言フ所關稅法規定ノ稅率ト附合セサルモノアリテ其理由ノ説明ニ苦ミ候折柄羽二重課稅ニ關シ種々ノ風説有之候処羽二重ノ稅率ハ本件取調中ノ重ナルモノナルヲ以テ本使ハ百方内探致候得共條機第七号ヲ以テ申進候通到底判明難致尙絹製手巾漆器其他數品ノ稅率ニ關シテモ多少ノ疑点有之候ニ付此等ノ諸品ニ關シ外務省へ問合セ候処本件ハ關稅專門家ノ手ヲ經ザレバ確答難致ニ付大藏省へ回付シ同省取調ノ結果ヲ通知可致旨回答有之候然ルニ時恰モ夏期賜暇時期

四二二 明治四十三年八月二十九日 小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛

本邦羽二重輸入稅ニ關スル件 條第一六号

明治四十三年八月二十九日達濟

在独 珍田大使宛 小村大臣

客月十七日條第七号ヲ以テ本邦羽二重輸入稅引上ノ議ニ關スル調査ノ件申進置候処更ニ横浜輸出絹物同業組合聯合会及日本輸出絹同業組合聯合会ヨリ別紙寫ノ通り稟請有之候間御參考迄ニ右及御送附候ニ付本件御調査之結果至急御報告相成度此段申進候敬具

(朱書) 附屬書類、稟請書寫各通

註 附屬書類省略

四二三 明治四十三年九月七日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛

本邦重要輸出品ニ対スル独逸國關稅率調査報告ノ件

條第五号 十月四日接受

ニ當リ延引致候ニ付數度督促ノ末漸ク別紙第二号寫ノ通回答致候右ニ依レハ羽二重ハ從前ノ通稅番第四〇一号ニ依リテ課稅セラレ百基參〇〇麻ニ有之又外務當局者カ羽二重課稅ニ關スル取扱ノ變換ニ關シテハ何等聞知スル所ナシト言明スルニ拘ラス條機第七号ヲ以テ申進候通當館ノ得タル諸般ノ情報ニ依レハ當國大藏省ノ取調中羽二重ニ關スル限りハ容易ニ之ニ信ヲ措キ難ク候ニ付別紙取調書中羽二重ノ項ハ之ヲ削除シ置キ更ニ何分ノ御報告ニ可及委細ハ機密第七号ニ基キ御了承相成度候將又御問合中熟皮ナル項有之候処熟皮ハ我輸出重要品ニアラサル而已ナラス独逸稅番ノ皮類ヲ拳ケ之ニ對照シ且ツ無稅ト記載有之点ヨリ察スレハ之ヲ生皮ト解スル方至當ト存シ生皮ノ部ヲ掲ケ置候間右様御了承相成度候

尙外務省主務者カ別紙第二号大藏省取調ヲ送付セル書柬中ニ右取調ハ同省カ主トシテ日本品ニ適用セラル、稅番ナルヘシト信スルモノヲ記載シタルモノニシテ確的ノ回答ハ見本ノ添付アルニアラサレハ不可能ナリト有之暗ニ責任ヲ負フコトヲ避ケ居候得共右取調ノ稅率ハ羽二重ヲ除ク一外本邦品輸入商ノ言フ所ニ附合致居候ニ付其ノ要領當館取調書

中へ記入致置候委細へ別紙大蔵省取調書写ニ就キ御了承相成度此段申進候敬具

註 別紙略之

四二四 明治三十三年九月七日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛

本邦羽二重輸入税ニ関シ調査ノ件

條機第七号

十月十日接受

明治四十三年九月十七日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

本件ニ関シテハ七月十七日付條第七号ヲ以テ三井物産会社倫敦支店長ヨリ本店宛書東相添へ本邦羽二重ニ対スル独逸関税引上ケ計画ノ実否取調方御来示ノ次第有之尙八月廿九日付條第十六号ヲ以テ更ニ横浜輸出絹物同業組合及日本輸出絹同業組合聯合会ヨリ農商務大臣提出ノ稟請書相添へ本件調査ノ結果至急報告可致旨御来訓ノ趣了悉絹織物課税ニ関シテハ本使ニ於テモ豫テ懸念罷在候ニ付此際一層注意シテ本件ヲ調査シ條約改正準備会本部 Centralstelle für

Vorbereitungen von Handelsverträgen 伯林商人団体 Aeltesten der Kaufmannschaft 及帝國議會議員側等ヨリ聞

接ニ探知スル事ヲ努メ同時ニ伯林ヲ初トシ「フランクフルト」「ケルン」等ノ名譽領事ヲシテ各地商業會議所及絹織物關係商當業者側ノ意嚮ヲ探ラシメ候処既ニ七月中旬頃ヨリ一部商工業社会ニ於テハ絹織物ノ税率引上ケノ希望ヲ有シ種々運動シツ、アル事ハ聞知スル事ヲ得タレ共未タ以テ政府カ果シテ税率改正ニ決定シ之ニ関スル法案ヲ帝國議會ニ提出スル迄ノ運ヒニ至リタリト認ムルニ足ル何等形跡ヲ発見セス然レ共「クレーフエルド」及「エーベルスフェルド」ノ商業會議所ニ於テハ絹物輸入税引上ケニ関シ種々調査講究シツ、アリテ就中「エーベルスフェルド」ノ商業會議所ハ本邦羽二重ニ対スル從來ノ税率即百基ニ付三百麻ヲ改メ之ヲ八百麻ニ引上ケント百方運動中ナル趣探知致候ニ付本使ハ事ノ成行ニ留意罷在候処八月上旬ニ至リテハ從來タフク様ノ密ナル織物トシテ税番四〇一ニ拠リ百基三百麻ノ関税ヲ課セラレタル本邦羽二重ハ今後密ナラサル絹織物トシテ税番四〇八ニ拠リ一平方「メートル」ノ重要二十グラム以上ノモノハ百基ニ付一〇〇〇麻廿グラム以下ノモノハ一五〇〇麻ニ引上ケラル事トナル可シト伝ハラレ或

ハ既ニ決定セラレタリトノ説有之然ルニ條第五号ヲ以テ申進候通り當時羽二重及其他三四本邦輸出重要品ノ税率ニ関シテハ外務省ヲ経テ大蔵省へ問合ヘセ中ナルヲ以テ右回答ニ接シ候上ハ羽二重課税ノ標準ニ變更ヲ来タシタルヤ否ハ直チニ判明可致ト存シ右回答方数量督促シ其結果同省ヨリ送付ノ大蔵省取調書(條第五号参照)ニ依レハ羽二重ハ税番四〇一ノ密ナル無地ノタフク様絹織物ノ欄内ニ記載有之果シテ右ノ如クンハ羽二重ノ税率ハ依然トシテ何等ノ變更ナキモノト思惟セサルヲ得サル次第ナルモ右取調書送付ニ際スル外務當局者ノ書柬中ニ右ハ主トシテ日本ノ輸入品ニ適用セラルヘキ税番ナル可シト信スルモノヲ拳ケタルモノナレ共確的ノ回答ハ見本ヲ検査スルニアラサレハ不可能ナリト述ヘアリテ暗々右取調書ニ対シ責任ヲ負フ事ヲ避ケ居候へ共既ニ大蔵省ニ於テ羽二重ヲ種別セス一般ニ之ヲ税番四〇一ノ欄内ニ記入シタルハ本邦ヨリ当国へ輸入スル羽二重中少ナクトモ其大部分ハ此税率ヲ適用セラル、モノト解スルヲ至当ト存候然レ共前陳館取調ノ結果及諸般ノ情報ニ徴スレハ右大蔵省ノ取調書ハ到底直チニ之レニ信ヲ措キ難シト存候ニ付尙ホ其実否ヲ確カメンカ為メ探究ヲ重ネツ、アリシニ当地シミット、ウンド、ローレンツエン商会ハ

實地税関ニ就キ本邦羽二重ノ輸入ヲ試ミントスルニ際シ税率一〇〇〇麻若クハ夫以上ニ改マリタルニ付輸入ヲ見合ヘセタクトノコトニテ同商会ノ関税事項担任者ノ内話ニ拠レハ從來各種ノ日本羽二重ニ対スル税率ハ百基三〇〇麻ナリシカ過般「エーベルストルフ」ノゲブハルト商会カ從來日本製薄地ノ廉価ナル絹織物ハ羽二重ノ名称ノ下ニ輸入セラレ居ルモ之レ決シテタフク様ノ密織物ニアラス故ニ従前独逸税関カ之ヲタフク様ノ絹織物トシテ税番四〇一ノ率ヲ適用シタルハ課税ノ方法ヲ誤マリタルモノナリ如此税率適用ヲ誤マルノ結果ハ内国製薄地絹織物業ノ発達ヲ妨クルモノナルヲ以テ宜シク所謂羽二重ナル薄地絹織物ニ対シテ一般薄地絹織物ニ関スル税率即チ税番四〇八ヲ適用ス可シトノ主趣ヲ以テ其筋へ抗議ヲ申出テ政府ニ於テハ同商会ノ意見ヲ容レ本邦羽二重ニ対スル課税ノ解釈ヲ變更スル事ニ決定シ愈々実行セラル、ニ至リタル趣ニ有之仍テ畑參事官外務省ニ出頭通商局長ニ就キ其実否相尋候処外務省ニ於テハ羽二重課税ニ関スル取扱ノ交換ニ関シ何等聞知スルトコロナク從テ過日当館へ送付シ置ケル大蔵省取調書記載ノ如ク税番四〇一ニ拠リテ課税セラル、事ト信スレトモ若シ果シテ實際變更セラレタリトセハ之レ税率適用ノ解釈ニ

変更ヲ来タシタルニ週ギス而シテ日本羽二重カ果シテタフ
 タ様ノ密織物ナルヤ將タ稅番四〇八ノ密ナラサル織物ノ
 部ニ屬スルヤヲ判定スルハ關稅專問家ノ技術ニシテ如此課
 稅上ノ解稅ニ変更ヲ来ス事ハ往々無キニアラス之レヲ確ム
 ルニハ見本ヲ提出シテ大藏省ノ意見ヲ徵スルノ外ナント相
 答ヘ右ニ對シ同參事官ハ本件ハ其名ニ於テコソ關稅ノ引上
 クニ非ス單ニ課稅上ノ解稅ノ變更ナリト云フヲ得可シト雖ト
 モ實際ニ於テハ獨逸ヘ輸入スル日本品中其重要ナルモノニ
 對スル關稅ノ引上ケタルニ外ナラスシテ日本ノ羽二重ハ禁
 止稅ヲ課セラレタルト同一ノ結果ヲ来ス可シ若シ果シテ
 日本ノ重要品タル羽二重ニ對シ今迄採リ来リタル課稅ノ解
 稅ヲ改メ實質的ニ於テ極メテ重大ナル關稅上ノ變更ヲ目前
 ニ迫ル改約談判前ニ行ヒタルモノナリトセハ其影響如何ニ
 ツキ懸念ナキ能ハストノ私見ヲ陳ヘ現ニ本邦當業者間ニ於
 テハ數月來種々ニ論議セラレ居ル事近着ノドイッチ、ヤッ
 パンポスト記載ノ通りナリト談リ川俣羽二重見本五種（三
 半乃至四半匁）ヲ手交シ至急大藏省ヘ問合ハセノ上回答ア
 リ度キ旨申入候
 尙督促ノ上回答ニ接シ次第電報ヲ以テ可及確報候ヘ共本件
 調査ノ成行茲ニ及報告候 敬具

獨逸ニ於ケル本邦羽二重輸入稅引上ノ実否ニ關シ在獨珍田
 大使ヨリ情報接到候ニ付大要別紙ノ如ク鈔録御通知ニ及ビ
 候尙本件ニ關シ獨逸外務省カ大藏省ニ移牒ノ末在獨帝國大
 使館ノ設問ニ答ヘタル処ニヨレハ本邦羽二重ハ獨逸關稅率
 稅番四〇一ノ無地タフタ様密織物トシテ取扱ハレ其稅率ニ
 關シテ何等變更ナキ如クナルモ同回答中確的ナル答解ハ
 見本ヲ檢査スルニ非ラサレハ不可能ナリト述ヘタル趣ニ候
 而シテ本年七月以來同國當業者間ニハ絹織物ノ稅率引上ケ
 ノ運動ヲ為スモノアルモ政府カ稅率改正ニ同意シ之ニ關ス
 ル法案ヲ同國議會ニ提出スル迄ノ運ヒニ至リタリト認ムル
 ニ足ルヘキ何等形跡ヲ發見セサル趣ニ有之候然ルニ最近獨
 逸稅關ニ於テ「タフタ」様密織物トシテ從來本邦羽二重ヲ
 取扱ヒタルニ稅率適用ノ誤ナルカ故ニ改メテ之ヲ四〇八稅
 番品トシテ取扱フコトニ決定セルヤヲ聞込ミ在獨帝國大
 使館ニ於テハ知參事官ヲシテ外務當局者ニ就キ親シク問合
 セシメタル処同省ニ於テハ羽二重課稅ニ關スル取扱ノ變更
 ニ關シ何等聞知スル所ナク依然稅番四〇一ニ依リテ課稅セ
 ラルヘキモノト信セラル、モ若シ果シテ實際變更アリタリ
 トセハ是レ稅率適用ノ解稅ニ変更ヲ来シタルニ過キス羽二
 重ノ果シテ「タフタ」様密織物タルヤ將タ稅番四〇八ニ該

追而獨逸關稅法ニ拠レハ密ナラサル織物トハ縱横共ニ絲
 ト絲トノ間ニ同シ太サノ絲ヲ容ル、間隙ナキモノヲ意味
 ス委細ハ關稅法第四八頁稅番四〇五ノ二ニ説明アリ

〔貼紙〕
 408: Open-woven tissues, not otherwise mentioned,
 wholly or partly of silk (gauge, crepe, veiling,
 and the like):

— weighing more than 20 grammes per sq. metre
1000 M.

— weighing 20 grammes or less per sq. metre
1500 M.



四二五 明治三十二年十月十日

小村外務大臣ヨリ
 大藏農商務兩大臣宛

本邦羽二重ニ對スル獨逸關稅引上ケノ風説ニ關
 スル実情内報ノ件

明治四十三年十月二十日達濟

機密送第六七号

大藏 大臣

宛 小村 大臣

機密送第四八号

農商務 大臣

当スヘキ密ナラサル織物ナルヘキヤヲ判定スルハ關稅專門
 家ノ技術ニ屬シ且ツ此ノ如キ課稅上ノ解稅ニ変更ヲ見ルハ
 其实例ニ乏シカラサルニ付テハ見本ニ由リテ大藏省ノ意見
 ヲ徵スルノ外ナントノ回答アリタルヲ以テ同參事官ハ川俣
 羽二重見本五種（三半乃至四半匁）ヲ手交シ速急ノ回答ヲ
 要メ置キタル由ニテ接答次第直ニ電報シ来ルヘキ旨ニ有之
 候
 以上本件ニ關スル今日迄ノ実情為御參考申進候 敬具

〔別紙〕

本邦羽二重ニ對スル獨逸關稅率ニ關スル情報

本邦羽二重ニ對スル獨逸關稅率ニ關シ頃來区々ノ風説之ア
 ル処今日迄ノ取調ニ拠レハ左ノ如シ

本年七月中旬頃ヨリ獨逸一部商工業社会ニ於テハ絹織物ニ
 對スル關稅率引上ケノ希望ヲ有シ種々運動ヲ為セルカ中ニ
 モ「クレーフエルト」並ニ「エーベルスフェルト」商業會
 議所ハ同關稅引上ケニ關シ調査研究ヲ重ネ特ニ「エーベル
 スフェルト」會議所ニテハ本邦羽二重ニ對スル從來ノ稅率
 即チ百基三百麻ヲ改メ之ヲ八百麻ニ引上ケントテ百方運動
 中ナル旨ヲ伝ヘ居タルカ八月上旬ニ至リテハ從來「タフ

タ」様ノ密織物トシテ税番四百一ニ抛リテ百基三百麻ノ関税ヲ負担シ居タル本邦羽二重ニ対シ密ナラサル絹織物トシテ今後税番四百八ニ抛リ一平方米突ノ重量二十「グラム」以上ノモノハ百基一千麻、同上二十「グラム」以下ノモノハ一千五百麻ノ関税ヲ課セラル、コトトナルヘク或ハ已ニ斯ク決定セリトノ説モアリ尙ホ伯林某商会ニテハ此程本邦羽二重ノ輸入ヲ為サントスルニ際シ實際税関ニ就キ税率百基一千麻ニ改マリタルヲ知り得タルヲ以テ輸入ヲ見合セタリトノコトニテ右ハ「エーベルストルフ」ノ「ゲブハルト」商会カ從來本邦製薄地廉価ナル絹織物ハ羽二重ノ名称ヲ以テ独逸国ニ輸入セラレ居レルモ之レ決シテ「タフタ」様ノ絹織物ニアラザルガ故ニ之ニ対シテ税番四〇一ヲ適用スルハ課税ノ方法ヲ誤レルモノナリ此ノ如キハ内国製薄地絹織物業ノ發達ヲ妨クルモノナルヲ以テ爾今羽二重ニ対シテハ一般薄地絹織物ニ関スル税率即チ税番四〇八ヲ適用スヘシト論ジタル願書ニ対シ同国其筋ニ於テハ同商会ノ意見ヲ容レ本邦羽二重ニ対スル税率適用ノ解釈ヲ變更スルニ決定シタルヤニ依フルモノアリト雖モ其泉シテ然ルヤ否ヤハ目下取調中ニテ未タ確言スル能ハサルモ本邦産羽二重ニ対シテ税番四〇八ノ税率ヲ適用セントスルハ蓋シ当ラザルモノト思

ハル、為御参考左ニ独逸関税率法税番四〇五ノ二ニ抛リ密ナラサル織物ナルモノ、定義ヲ示セハ
 税番四〇八ノ密ナラザル織物トシテ取扱ハルヘキハ縮織（クレップ）以外左記ノモノニ限ル

経糸ノ間隙カ経糸ノ太サニ等シキカ又ハ夫ヨリモ大ナルカ且ツ緯糸ノ間隙カ緯糸ノ太サニ等シキカ又ハ夫ヨリ大ナルコト

右ノ間隙カ二ツノ経糸、緯糸毎ニ現ハル、カ若クハ規則正シク繰返サル、モノタルコトヲ要ス

織方ノ過失ニヨリ処々ニ斯ル間隙ノ存スルモ密織物トシテ取扱フニ差支ナシ

太糸細糸ヲ交互ニ規則正シク織合セタル時ハ其間隙ヲ計ルニハ細糸ヲ用フ

密織物ニシテ粗ニ織出セル縞又ハ紋ヲ有スル時ハ密ナラザル織物トシテ之ヲ取扱フ

Marceline 及 Garsenet ト称セラル、平滑ナル「タフタ」織物ニシテ「センチメートル」内ノ緯糸ノ数三十五本以上ナルモノハ密織物トシテ之ヲ取扱フ

四二六 明治三十三年十一月七日

珍田駐独大使ヨリ
 小村外務大臣宛（電報）

独国外務省通商局長ト会见ノ件

十一月七日 後三、三八 伯林發
 十一月八日 前八、三〇 本省着

第八二号

小村外務大臣

珍田全權大使

十一月八日独逸国政府ハ日独新條約諮詢ノ為經濟調査委員會ヲ召集スル趣ニ付之ニ先チ我改正関税率法ノ性質並関税協定ニ対スル帝國政府ノ態度ヲ当局者ニ説明シ置クヲ有要ト認メタルニ付本使ハ十一月五日談判ノ主任者タルヘキ通商局長ヲ訪問シ関税率法改正ノ精神ヲ説キ大体機密條第九号ニ遵テ税率ノ穩当ナルヲ弁明シタルニ通商局長ハ之ニ対シ独逸国政府ノ意見ニ依レハ我新税率カ或ル種類ノ貨物ニ対シ甚タ高率ニ失スルニ付是等ニ関シテハ何等カ協議ヲ遂クルノ必要ヲ感ス若シ我原案ノ通締結ヲ見ルトセハ日本国ハ独逸国ト他国トノ協定税率ニ均霑スルノ利益ヲ受クルニ反シ独逸国ハ日本国ニ於テ何等均霑スヘキ本体ヲ發見スルコトヲ得サル不公平ノ結果ヲ生スルニ至ルヘシト述ヘタリ右ニ関シ同官ハ詳細ヲ語ラサルヲ以テ右協商ノ性質形式ハ全ク不明ナルモ彼ノ対案ニ関税ニ関スル一種ノ協

商案ヲ含ムヘキハ明ナリ依テ本使ハ右ニ対シ他国トノ協定税率ハ必シモ我利益ト偶中スルコト能ハサルモ彼リニ有之トスルモ之レ独逸国ノ便宜ヨリ出タル偶然ノ結果ニシテ其ノ存続モ亦不定ナレハ兩國交譲ノ目的物ト看做スヘカラサルハ勿論ナリ帝國政府ハ稅權ノ獨立ヲ以テ新條約ノ主眼トスルガ故ニ片務的税率協定ハ断シテ之ヲ拒絶スヘク嚴正ニ相互的ナル協定ハ絶對的ニ排斥セサルモ此意味ニ於ケル協定ニ適合スヘキ通商關係ヲ得ルコト極メテ困難ナリ現ニ日独兩國間ニ付テハ帝國政府ハ到底斯ノ如キ協定ヲ遂ケ得ヘキ通商關係ヲ發見スルコト能ハストノ意見ヲ有スル旨ヲ説示シ置キタリ尙同官ノ談話ニ依レハ独逸国政府ハ前記諮詢會後數日間ニ其ノ対案ヲ提出スヘク同官ハ瑞典国ト條約締結ノ為一時同国ニ出張シ帰国ノ上ニテ愈我ト談判ヲ開始スヘキ手筈ナル由

四二七 明治三十三年十一月十日

珍田駐独大使ヨリ
 小村外務大臣宛

羽二重輸入税ニ関スル件

附屬書一 羽二重厚薄ニヨル税率ノ弁

二 羽二重厚薄鑑別ニ関スル弁

機條第拾号

十二月十五日接受

明治四十三年十一月拾日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

羽二重輸入税ニ関シテハ本年九月十七日附條第五号並ニ同日附機條第七号ヲ以テ委細及報告置候通ノ次第ニテ當時不取敢川俣羽二重五種(三匁半乃至四匁半)ヲ外務省ニ提出シタル後九月廿一日更ニ川俣七種(三匁乃至四匁半)加賀六種(四匁四分一乃至五匁半)越前(Echizen Habutai Twill)七種(八匁乃至十二匁)ヲ一括シタル見本帳及越前十四種(六匁乃至十六匁)ノ見本帳ヲ追送シ独逸大蔵省ノ右各種羽二重ニ対スル税率ニ関スル確答ヲ求メ候処別紙第一号ノ通り回答有之右ニ依レハ羽二重課税ニ関スル規定ハ何等ノ交換ヲ受ケタル事無之趣ニ有之又最初ニ提出シタル川俣三匁乃至四匁半ノ見本ハ何レモ薄手ニシテ越前六匁乃至十六匁ノ見本ハ悉ク厚手又加賀ハ四匁四分一及四匁半ノモノハ薄手ナルモ四匁四分一乃至五匁半ハ厚手越前(Twill)八匁以上十二匁ハ厚手ナルモ斜織(Köppelbindung)ナリトノ鑑別ニシテ薄手ハ税番四〇八ニ該當シ税率ハ百基千麻乃至千五百麻又厚手ハ税番四〇一税率三百麻ニシテ斜

理由ノ説明ヲ求メ候処別紙乙号ノ通り当国關稅法規ニ拠リ織物ノ厚薄ハ縱横共ニ糸ト糸トノ間ニ織糸ノ太サ若シクハ夫レ以上ノ間隙ノ有無ニ依リテ決スルノ標準ヲ明示シ當館提出ノ見本地中四匁半以下ノモノハ必竟此標準ニ依リ薄手ト認メタル事由ヲ陳ハ從來ニ於テモ此標準ニ從ヒ課税シ居リタルモ關稅法ノ所謂ル厚薄ノ鑑別ハ頗ル周密ナル鑑別ヲ要スルモノナルヲ以テ實際薄手ニ對シ厚手ノ輕税ヲ課シタル事ナキヲ保セスト雖モ右ハ全ク鑑別ノ錯誤ニ基ツクモノナリトノ主趣回答有之候條委細ハ別紙ニ就キ御了悉相成度候

元来当国關稅定率表中ニハ特ニ羽二重ニ對スル税目ノ明掲ナク其地合織方ニ照ラシ税率ヲ定ムル義ナルヲ以テ前述大蔵省ノ回答ニ對シテハ主義上抗議ヲ挿ム可キ余地無之唯我提供ノ見本ニ對スル大蔵省ノ鑑別因果シテ適當ナルヤ否ノ技術的問題ハ講究ヲ要スル点ナルモ此点ニ對スル彼我談判ノ結論ハ單ニ右見本ニ限リタル結果ニシテ一般ニ本邦羽二重ニ對スル税率ヲ定ムルノ結果ヲ生スルニ至ラサル可キハ羽二重ノ地合必スシモ一定不変ノモノニ非サル事實ニ照シテ明瞭ナリ現ニ当国ニ輸入ノ羽二重ハ近來追々薄手ニ傾キ来リタルハ事實ナルカ如シ然レ共当国稅關ニ於テ從來ノ

紋織ハ税番四〇五税率固定八百麻協定四〇五麻ヲ負担ス可キモノナリトノ義ニ有之候

曩ニ條第五号及機條第七号中申進候通り本邦重要輸出品ノ税率ニ関スル大蔵省ノ回答中ニハ羽二重ヲ厚手絹織物ノ欄内ニ記入シ税番ヲ四〇一トシ税率ヲ三百麻トセルモ外務省ノ乘束ニ依レハ右ハ通例当国ハ輸入セラルハ日本羽二重ノ重ナルモノニ對シ適用セラルヘントノ推定ニ基クモノニシテ實際課税ノ如何ハ見本ニ拠ルニアラスンバ確答シ難シトノ附言モ有之尙當館ノ得タル諸般ノ情報ニ依レハ右大蔵省ノ回答ニ反シ實際高率ヲ課シタル場合モ有之稅關ニ依リ取扱区々ニ出ツルカ如キ形跡ヲ認メ候ニ付此ノ際羽二重課税ニ関スル税率ヲ確的ニ慥カメ本邦商ヲシテ適從スル所ヲ確知セシムルノ必要ヲ認候ニ付前述ノ如ク見本ヲ提供シテ当国政府ノ確答ヲ求メタル次第ニ有之候然ルニ見本ノ鑑別ニ基ツケル別記大蔵省ノ回答ハ前回ノ一般的回答ト異ナリ四匁半以下ノモノハ悉ク薄手ト見做サルハヲ以テ当国ハ輸入ノ我羽二重ノ大部分ハ千麻乃至千五百麻ノ重税ヲ課セラルハ次第ト相成リ我羽二重ニ取リテハ非常ノ苦痛ニ有之候ニ付本使ハ覺書ヲ以テ從來厚手トシテ三百麻ヲ課セラレタル織物ヲ何故ニ今ニ於テ薄手ト認ムルニ至リタルヤノ

習慣通税率ヲ適用シ居タル際エーベルス、フエルド及クレーフエルド商業會議所及其ノ他ノ薄地絹織物業者ノ抗議ニ基ツキ關稅法規ヲ勵行スルニ至リタル義ト被存候前段開述ノ通ニ有之候ニ付キ此際本邦羽二重商ハ能ク前掲当国課税ノ標準ニ留意シテ負税ノ輕重ト當国需要ノ程度トヲ較計シタル上輸出ヲ決スル事最モ肝要ノ義ニ有之候而シテ萬一当国稅關ニ於テ右標準ニ適合セサル鑑別ヲ為シタル場合ニ際シテハ其事件々々ニ就キ抗議ヲ提起シ救済ヲ得ルノ道アルハ言ヲ要セサル所ニ有之候

別紙甲乙両号覺書並ニ訳文相添此段及報告候 敬具

追テ本件ニ就テハ電信報告可致旨前信ニ申進置候へ共本文ノ通り事情複雑シテ電報ニテハ何分尺シ難キ点モ有之候為メ郵報ノ事ニ致候此段為念申添候也

(附屬書一)

甲号覺書訳文

羽二重課税ハ其ノ厚薄ニヨリ税率ヲ異ニスル弁

口上書

外務省ハ日本大使館ノ客月十七日付覺書並ニ同廿一日附書翰ニ関シ其提出ニ係ル見本帳三部相添ヘ茲ニ左記帝國大蔵

省ノ説明ヲ転交スルノ光榮ヲ有ス

関税物品類別表第二百四十頁織物ノ部註解第四号ノ規定ハ其後何等ノ変更ナク延テ帝国大蔵省ハ右標準ニ拠リ審査シタルニ九月十七日附貴覚書附属見本帳中ノ見本地ハ悉ク薄地織物ニ屬シ税番四〇八号ニ該当スルモノト認メタリ尙ホ九月廿一日附ヲ以テ提出セラレタル見本帳二部検査ノ結果ハ左ノ如シ

見本帳第一、見本地ハ悉ク厚キ無地、タフト様ナリ而シテ其他ノ諸点モ 関税法施行細則 (Anleitung für die Zollabfertigung) 第三篇第百〇九号ノ規定ニ該当スルモノナルニ於テハ税番第四百一号ニ拠リ百基ニ付三百麻ノ関税ヲ課セラルベキモノナリ

見本帳第二、D.T.ノ記号ヲ附シタル見本地ニ限り厚手、無地タフト様ニシテU.T.ノ記号ヲ附シタル見本地ハ薄手ニ屬ス故ニ税番四〇八号ニヨリ其税率ハ百基ニ付千麻乃至千五百麻ナリ又D.K.ノ記号ヲ附シタル織物ハ厚手ナルモ斜紋織 (Köperbindung) ナルヲ以テ税番四〇五号ニ拠リ課税セラル此国定税率ハ百基ニ付八百麻ニシテ協定税率ハ四百五十拾麻ナリ

千九百十年十月八日 伯林ニ於テ

種ノ織物ハ悉ク上記ノ標準ニ從ヒ課税セラレ居レリ然レ共重量輕ク地質薄キ織物ノ薄手ナルヤ厚手ナルヤヲ鑑別スルニ頗ル周密ナル注意ヲ要シ從テ從來實際薄手羽二重ヲ誤テ厚手トシテ課税シタル場合ナキヲ保シ難シ故ニ日本大使館ヨリ何レノ税関カT.ナル記号ノ附シアル見本ト同種ノ織物ヲ厚手トシテ取扱ヒタルヤノ通知ニ接スル事ヲ得ハ帝国大蔵省ノ感謝スルトコロナリ

將又該織物ニ関スル上來引用シタル規定ハ一九〇二年十二月廿五日ノ関税法施行以來何等變更サレタル事ナキ而已ナラス帝国財務官庁ニ於テハ該規定ニ背馳スル如キ訓令等ヲ發シタル事モナシ日本大使館ハ右ニ反スル見解ヲ抱カル、モノ、如シト雖トモ其ハ事実ニ相違セリ

千九百十年十一月六日

四二八 明治四十三年十一月十五日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛

條約改正ニ関スル帝国政府ノ方針当国外務省通

商局長ニ内談報告ノ件

條機第九号

明治四十三年十一月十五日

小村外務大臣時代 対独交渉 四二八

(附屬書二)

乙号覚書訳文

羽二重厚薄ノ鑑別ニ関スル弁

口上書

外務省ハ去月十五日付口上書ニ對シ日本大使館ヘ左記帝国大蔵省ノ説明ヲ転交スルノ光榮ヲ有ス

税番第四〇一号ニ拠リドツペルツェントネル(百キログラム)ニ付三百麻ノ課税ヲ受クルモノハ単ニ厚手織物ニ限リ薄手ト厚手トノ區別ハ関税物品類別表中 (Warenverzeichnis zum Zolltarif) 織物ノ部 (Gewerbe) 第一種乃至第十種ニ對スル註解第四号ノ規定ニ從ツテ決セラル日本大使館ノ提出ニ係リ当方ニ於テハU.T. (Undig tafbindig) 即チ(薄手タフト様ノ略字)ノ記号ヲ附シタル見本ハ当方調査ノ結果ニ拠レハ織糸二本ノ間(縦横共)ニ其織糸ノ太サ若クハ夫レ以上ノ間隔ヲ有シ且ツ此間隔ハ織方ノ不完全又ハ欠点ノ結果ニ非スシテ見本切地全部ニ亘リ居ルヲ以テ右見本ノ如キ織物ハ上掲規定第一項ニ從ヒ薄手織物トシテ課税セラル可キモノニシテ從ツテ税番四〇一号ヲ適用ス可キモノニアラス從來聯邦関税監督官庁ガ見本添付ノ上帝国大蔵省ニ提出シタル報告ニ拠リテ判断シ得ラル、限りハ各

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

往電第八二号中記載ノ通り当国政府ハ本月八日ヲ以テ經濟調査委員会ヲ招集シ日独新條約ニ関シ重要ノ諮詢ヲ為スヘキ趣伝聞致候処元來右經濟調査委員会ナルモノハ当国實業界諸方面ニ於ケル有力者、議員、官吏等ヨリ官撰組織セラレ會員ノ員數モ六十名ノ多キニ上ル一大委員會ニシテ其組織ノ趣旨及會員ノ性質ヨリ判スルモ当国商工界ノ利害ニ関シ適切ナル知識及意見ヲ有スルハ言ヲ要セス隨テ当国政府ガ外国ト通商條約ヲ締結スルニ方リ案件ノ得失殊ニ関税ノ輕重ニ関シ主トシテ該委員會ノ意見ヲ徵スルノ慣行ニ有之今春帝国議會ガ独葡通商條約ニ関シ盛ニ外務当局者ヲ攻撃シ之ガ協賛ヲ峻拒セントセル際当局者ガ右條約案ハ經濟調査委員会ニ諮詢シタルモノナリトノ事由ヲ挙ケテ答弁ノ一料ニ供シタル事實ニ照ラスモ該委員會カ通商條約ニ関スル一機關トシテ重キヲ置カレ居ル事ヲ見ルヲ得ヘシ爾來政府カ該委員ノ員數ヲ増加シタルハ世説ニ拠レハ当局者カ独瑞及日独通商條約ノ改訂ニ當リ一層諮詢ノ範圍ヲ擴メ独葡條約ノ覆轍ヲ避クルノ趣意ニ出テタル趣ニ有之候然ルニ日独新條約ノ商議ニ関シテハ從來当局者ハ調査中ノ一天張ニテ

更ニ意見交換ノ機会ヲ与ヘス荏苒今日ニ至リタルニ今回該委員ヲ招集シタル事實ヨリ察スレハ我ニ対シ關稅ノ協定ヲ求ムルノ方針ナルコトヲ推測シ得ヘク縱令ヘ否ラストスルモ該委員ニ於テ此要求ヲ主張スヘキハ疑ヲ容レサル所ナレハ若シ右委員會ノ席上ニ於テ当局者ハ協定關稅其他到底帝國政府ノ意見ト相容レサル事項ニ關シ余リ容易ニ委員ノ主張ニ傾耳シ過度ニ自己ヲ「コンミット」スルカ如キ態度ニ出ツルトキハ他日我ト商議ヲ開始スルニ當リ其行動ヲ拘束セラレ自然談判ノ進捗ヲ阻碍スルニ至ルヘキ虞モ有之義ニ付右会合ニ先テ非公式ニ当局者ト会谈シ我が改正率法ノ性質並ニ關稅協定ニ對スル帝國政府ノ態度ヲ充分ニ説示シ置クヲ得策ナリト認メ本月五日談判ノ主任者タルヘキ通商局長ヲ訪問シテ關稅定率法改正ノ精神ヲ説キ新定率法ハ新條約改訂ノ為メ豫メ素地ヲ作ルノ見地ヨリ制定シタルモノニ非サルハ勿論保護稅制ノ見地ヨリ打算シタルモノニモ無之要スルニ帝國政府ハ当然ノ義務トシテ政府財政ノ都合及内國産業ノ状態ニ注慮シタルハ勿論ナルモノト同時ニ政府ノ最モ顧念シタルハ外國ノ貿易ニ急激ノ苦痛ヲ与ヘ帝國ノ一般經濟ヲ激動スルノ惡影響ヲ避ケントスルノ精神ニ出テタルヲ以テ其結果ハ決シテ世間ノ妄評スルカ如ク苛重ノ稅

率ニ非サル事由ヲ述ヘ独逸ノ商品ニ關シテ之ヲ例證スルカ為メニ本年六月三日附機密條第九号ノ要訳ヲ手交シ稅率ノ穩当ナルヲ弁明シタルニ同局長ハ之ニ對シ独國政府ノ意見ニ拠レハ日本ノ新稅率ハ或ル種類ノ貨物ニ對シ甚ク高率ニ失スルニ付此等ニ關シテハ何等カ協商ヲ遂クル必要ヲ生スヘク若シ日本原案ノ通新條約ノ締結ヲ見ルトセハ日本ハ独國ト他國トノ協定稅率ニ均霑スルノ利益アルニ反シ独國ハ日本ニ於テ何等均霑スヘキ本体ヲ見出スコト能ハサル不衡平ヲ生スヘシ云々申述候其協商ノ性質並ニ形式如何ハ同局長ノ談話詳細ニ亙ルヲ避ケタル為メ之ヲ窺知スルコト能ハサリシモ独國ノ對案中關稅ニ關シテ一種ノ協商案ヲ含蓄スヘキハ殆ント之ヲ豫期スルニ難カラス依テ本使ハ帝國ニ於ケル條約改正ノ沿革ヲ述ヘ最初ノ通商條約ハ恰カモ開國早々更ニ世界的知識ヲ有セス殊ニ國內騷擾ノ際ニ締結セラレタルモノニシテ其當時ノ当局者カ外交的且法律的知識ヲ欠缺シ居タル為メ後日ニ至リ漸ク右條約ノ為メ日本帝國カ獨立國トシテ必然享有セサル可ラサル法權ト稅權トヲ奪ヒ去ラレタルコトヲ發見シ爾來帝國ノ輿論ト政府ハ極力其恢復ニ苦心シ去ル明治二十九年ノ改正條約ヲ以テ漸ク右希望ノ一部タル法權ノ獨立ヲ實現スルヲ得タルモ稅權ニ至リテ困難ナルヘシ現ニ帝國政府ハ日独兩國間ニ於テ斯ノ如キ協定ヲ遂ケ得ヘキ通商關係ヲ發見スルコト能ハストノ意見ヲ有シ居ル次第ニ付此義豫メ御承知置アリ度旨ヲ説示致候尙ホ同局長ノ談話ニ依レハ独國政府ハ前記經濟調査委員會ニ諮詢後數日內ニ其對案ヲ当方ニ送附スヘキ手筈ニテ夫ヨリ同局長ハ瑞典ト條約締結ノ為メ同國ニ出張スルニ付俾伯ノ上愈帝國トノ談判ヲ開始スヘキ都合ノ由ニ有之候將又前述經濟調査委員會ノ會議ハ極メテ秘密ヲ守居候為メ擬議ノ詳細ハ之ヲ確知スルコト能ハサルモ是迄探知ノ結果ニ拠レハ議事ハ主トシテ關稅ノ規定ニ重キヲ置キ独逸ノ輸出貿易品ニ對スル關稅ノ協定ヲ主張スルコトニ決シ且ツ協定商品ハ駈引上可成丈多種ナルヲ利トストノ見地ヨリ結局數十種ヲ提出スル事ニ取極メタル由又今暫ク日英間談判ノ進行ヲ觀望スルニ若カストノ意見モアリタレトモ独國ニ在リテハ帝國議會ノ協贊ヲ要スル事情モアレハ此上遷延スルコト能ハストノ議ニ決シタル趣ニ有之候

右往電第八式号説明旁及報告候教具

テハ依然東瀛ヲ受ケ以テ今日ニ及ヒタル様ノ次第ニ付今屆ノ條約改正ニ際シ稅權ノ獨立ヲ得テ宿昔ノ目的ヲ貫徹セムト欲スルハ現今我邦ニ於テ朝野一貫ノ熱望ニシテ若シ政府當局者ニ於テ此輿論ニ反對スルノ政策ヲ執ランカ其政府ハ一日タリトモ存続スルコト能ハサルヘク從テ苟モ帝國ノ稅權ヲ傷害スルカ如キ條款ハ政府ノ立場トシテ決シテ之ヲ甘諾スルコト能ハサルヘシ況ンヤ現政府カ此点ニ關シ全ク輿論ト感情ヲ分テ居ルニ於テオヤ尙ホ独國ト他國トノ協定稅率ニ帝國力均霑スルノ利益云々ノ貴見ニ關シテハ獨國ト他國トノ協定稅率ニ帝國力均霑スルノ利益云々ノ貴見ニ關シテハ獨國ト他國トノ協定率カ必スシモ帝國ノ利益ト一致スルコト無キハ云フ迄モナク佞令偶中スルコトアリトスルモノ之レ畢竟独國自家ノ便宜ヨリ出テタル偶然ノ結果ナルノミナラス之ニ對シ我ニ於テ何等拘束權ヲ有セサルヲ以テ其存続期間モ我ニ取り全然不定ノ事態ナルカ故ニ之ヲ以テ日独兩國交讓ノ目的物ト看做スコト能ハサルハ言ヲ要セス而シテ前述ノ如ク帝國政府ハ稅權ノ獨立ヲ以テ新條約ノ主眼トスルカ故ニ片務の稅率ノ協定ハ断シテ之ヲ拒絕スヘク嚴正ナル相互協定ハ敢テ絶対的ニ排斥スヘキ限リニアラサルモ此意味ニ於ケル協定ニ適合スヘキ通商關係ヲ得ルコト極メ

四二九 明治卅三年十一月六日 珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛

日独通商條約独逸国对案送附ノ件

附屬書 独国对案

條機第八号

十二月五日接受

明治四十三年十一月十八日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

我新條約案ニ対スル独国政府对案ノ提出期日ニ関シテハ往
電第八式号ヲ以テ及具報置タル通ニテ日々其提出相待居候
処今十八日同国外務大臣ヨリ右对案ヲ送附致越候之ニ対ス
ル本官ノ意見ハ何レ審査ノ上追々可及稟申候得共本案ハ將
來貴我電信往復ノ際屢々引用ノ必要相起可申卜存候ニ付一
日モ速カニ御手許ニ差出置候事緊急ト相認候間本日落ノ西
比利便ニ附シ不取敢右对案並ニ關係書類一括申上乙、丙、
丁号各三部及戊号一部發送致候ニ付御查收相成度此段得貴
意候被具

追テ独国政府ノ右書類ト共ニ領事職務條約案外ニ案ヲ申
送附致シ越候得共右ノ既ニ在本邦独国代理大使ニ發送シ
本日ヲ以テ帝國政府ニ提出方訓令シタル趣ニ付右三案ノ

und

Seine Majestät der Kaiser von Japan

welche, nach gegenseitiger Mitteilung ihrer in guter
und gehöriger Form befindenen Vollmachten, die
nachstehenden Artikel vereinbart haben:

Artikel 1.

Die Angehörigen eines jeden der Hohen vertrag-
schliessenden Teile sollen volle Freiheit geniessen, über-
all die Gebiete des anderen Teiles zu betreten, zu
bereisen und sich daselbst aufzuhalten.

Unter der Voraussetzung, dass sie sich nach den
Landesgesetzen richten, werden sie die nachstehend
aufgeführten Rechte geniessen:

1. Sie sollen in bezug auf die Niederlassung, auf die
Verfolgung ihrer Studien und Forschungen, auf die
Ausübung ihrer Berufe und ihrer Beschäftigungen
sowie auf den Betrieb ihrer gewerblichen und in-
dustriellen Unternehmungen in jeder Beziehung auf
demselben Fusse wie die Angehörigen der meist-
begünstigten Nation behandelt werden.
2. Sie sollen in gleicher Weise wie die Inländer befragt
sein, mit Arten von erlaubten Handelsartikeln
Handel zu treiben.

別ニ及御送附不申候尙ホ独国政府ハ我英文原案ヲ独逸文
ニ翻譯シタル由ニテ該訳文ヲモ送越候ニ付御参考迄ニ是
亦己号トシテ三部差進申候

(附屬書)

Geheim.

Auswärtiges Amt.

Deutscher Entwurf

eines Handels- und Schifffahrtsvertrags
zwischen Deutschland und Japan.

Berlin 1910.

Gedruckt in der Reichsdruckerei.

Seine Majestät der Deutsche Kaiser, König von Preu-
ssen, im Namen des Deutschen Reichs, und Seine
Majestät der Kaiser von Japan, von dem Wunsche
geleitet, die wirtschaftlichen Beziehungen zwischen
beiden Ländern zu erleichtern und zu vermehren,
haben beschlossen, zu diesem Zwecke einen Handels-
und Schifffahrtsvertrag zu schliessen und zu Ihren
Bevollmächtigten ernannt:

Seine Majestät der Deutsche Kaiser, König von
Preussen

3. Sie dürfen Häuser, Fabrikgebäude, Warenhäuser,
Läden und sonstige Räumlichkeiten, die sie nötig
haben, zu Eigentum besitzen, mieten oder inneha-
ben. Ferner dürfen sie Land zu Wohn-, Handels-,
gewerblichen, industriellen und anderen erlaubten
Zwecken pachten.

4. Sie sollen in bezug auf den Besitz von Waren und
beweglichen Sachen aller Art, auf den, sei es kraft
letzten Willens oder in anderer Weise erfolgenden
Erwerb von Todeswegen bei solchem Vermögen
aller Art, welches sie unter Lebenden erwerben
dürfen, und in bezug auf alle wie immer beschaf-
fenen Verfügungen über Vermögen jeder Art, wel-
ches in gesetzmässiger Weise erworben ist, die
nämlichen Begünstigungen, Freiheiten und Rechte
geniessen und in diesen Beziehungen keinen hö-
heren Abgaben und Lasten unterworfen sein, als
die Inländer oder die Angehörigen der meistbegün-
stigten Nation.

4a. Sie sollen vollkommene Gewissensfreiheit, sowie
das Recht privater oder öffentlicher Abhaltung
ihres Gottesdienstes und auch das Recht geniessen,
ihre Landsteuete nach ihren religiösen Gebräuchen

auf den geeigneten und passend befundenen, zu diesem Zwecke angelegten und unterhaltenen Plätzen zu bestatten.

5. Sie sollen von jedem zwangswweisen Militärdienste, sei es im Heere, in der Flotte, der Bürgerwehr oder der Miliz befreit sein, desgleichen von allen an Stelle persönlicher Dienstleistung auferlegten Abgaben sowie von allen Kontributionen und Zwangsanleihen. Auch sollen sie von allen militärischen Requisitionen und Dienstleistungen nach den Grundsätzen der Meistbegünstigung befreit bleiben und zu solchen Requisitionen oder Dienstleistungen keinesfalls ohne vorgängige Entschädigung auf gerechten und billigen Grundlagen herangezogen werden.

6. Sie sollen unter keinem Vorwande gezwungen werden, andere oder höhere Abgaben oder Steuern zu bezahlen, als diejenigen, welche jetzt oder künftig von Inländern oder Angehörigen der meistbegünstigten Nation gezahlt werden.

Artikel II.

Die Wohngebäude, Warenhäuser, Fabriken und Läden der Angehörigen eines jeden der Höhen vertrag-

schließenden Teile und alle dazu gehörigen Räumlichkeiten in den Gebieten des anderen Teiles sollen unverletzlich sein. Es ist unzulässig, Hausdurchsuchungen oder Durchsuchungen von solchen Gebäuden und Räumlichkeiten vorzunehmen oder Bücher, Papiere oder Rechnungen zu prüfen oder einzusehen, ausgenommen unter den Bedingungen und in den Formen, die von den Gesetzen für Inländer vorgeschrieben sind.

Dem von der Untersuchung Betroffenen ist nach deren Beendigung auf Verlangen eine schriftliche Mitteilung über den Grund der Durchsuchung, gegebenenfalls unter Angabe der ihm zur Last gelegten strafbaren Handlung zu machen.

Artikel V.

Es soll gegenseitige Freiheit des Handels und der Schifffahrt zwischen den Gebieten der beiden Höhen vertragsschliessenden Teile bestehen.

Die Angehörigen des einen der vertragsschliessenden Teile sollen befugt sein, frei und sicher mit ihren Schiffen und deren Ladungen alle Plätze, Häfen und Flüsse in den Gebieten des anderen Teiles zu besuchen und sollen gegenseitig in Angelegenheiten des Handels,

der Industrie und der Schifffahrt dieselbe Behandlung wie die Inländer oder die Angehörigen der meistbegünstigten Nation geniessen, ohne andere oder höhere Steuern, Auflagen oder Zölle irgendwelcher Art oder Bezeichnung, mögen dieselben im Namen oder zum Vortheile der Regierung, von öffentlichen Beamten, Privaten oder irgendwelchen Korporationen oder Anstalten erhoben werden, zu entrichten als diejenigen, welche von Inländern oder Angehörigen der meistbegünstigten Nation gezahlt werden, immer in Gemässheit der Gesetze, Verordnungen und Reglements des betreffenden Landes.

Artikel Va.

Die in dem anliegenden Tarif bezeichneten deutschen Boden- und Gewerbszeugnisse, von welchem Platze sie auch kommen mögen, werden bei ihrer Einfuhr in Japan zu den durch diesen Tarif festgestellten Bedingungen zugelassen.

Artikel VI.

Gegenstände, die in den Gebieten eines der Höhen vertragsschliessenden Teile erzeugt oder verfertigt sind, sollen bei der Einfuhr in die Gebiete des anderen

Teiles, von welchem Platze sie auch kommen mögen, die niedrigsten Zollsätze geniessen, die auf gleichartige Gegenstände irgendeiner anderen fremden Herkunft angewendet werden.

Keiner der vertragsschliessenden Teile soll auf die Ausfuhr irgendeines Gegenstandes nach den Gebieten des anderen Teiles irgendwelche anderen oder höheren Zölle oder Abgaben legen als diejenigen, welche bei der Ausfuhr der gleichen Gegenstände nach irgendeinem dritten fremden Lande jetzt oder in Zukunft zu entrichten sind.

Artikel VIa.

Die vertragsschliessenden Teile verpflichten sich, den gegenseitigen Verkehr zwischen beiden Ländern in keiner Weise durch Einfuhr-, Ausfuhr- oder Durchfuhrverbote zu hemmen.

Ausnahmen, sofern sie auf alle oder doch auf alle diejenigen Länder angewendet werden, bei denen die gleichen Voraussetzungen zutreffen, können nur in folgenden Fällen stattfinden:

1. Für den Kriegsbedarf unter ausserordentlichen Umständen;
2. aus Rücksichten auf die öffentliche Sicherheit;

- aus Rücksichten der Gesundheitspolizei oder zum Schutze von Tieren oder Nutzpflanzen gegen Krankheiten oder Schädlinge;
- zu dem Zwecke, um auf fremde Waren Verbote oder Beschränkungen anzuwenden, die durch die innere Gesetzgebung für die Erzeugung, den Vertrieb oder die Beförderung gleichartiger einheimischer Waren im Inland festgesetzt sind.

Artikel VIIb.

Die Angehörigen eines jeden der vertragschliessenden Teile sollen in den Gebieten des anderen mit Bezug auf die Befreiung von Durchfuhrzöllen und in allem, was sich auf Zollniederlagen, Ausfuhrvergütungen, Erleichterungen und Rückzölle bezieht, völlige Gleichstellung mit den Inländern geniessen.

Artikel VII.

Kaufleute, Fabrikanten und andere Gewerbetreibende, welche sich durch den Besitz einer von den Behörden des einen der vertragschliessenden Teile ausgetriebenen Gewerbe-Legitimationskarte darüber ausweisen, dass sie in dem Gebiete dieses Teiles zum Gewerbebetriebe berechtigt sind, sollen befugt sein, persönlich oder

durch die in ihren Diensten stehenden Handlungsreisenden in dem Gebiete des anderen Teiles Einkäufe zu machen oder Bestellungen aufzunehmen und zwar mit oder ohne Muster. Solche Kaufleute, Fabrikanten und ihre Handlungsreisenden sollen, wenn sie diesem, hinsichtlich der Besteuerung und der Erleichterungen die Behandlung der meistbegünstigten Nation geniessen.

Die vertragschliessenden Teile werden sich gegenseitig Mitteilung darüber machen, welche Behörden zur Erteilung von Gewerbe-Legitimationskarten befugt sein sollen und welche Vorschriften bei Ausübung des Gewerbebetriebes zu beachten sind.

Gegenstände, die als Muster mit der Bestimmung der Wiederausfuhr eingeführt werden, sollen in jedem der beiden Länder zeitweilig zollfrei zugelassen werden, in Gemässheit der Zollvorschriften und Formlichkeiten, die festgesetzt sind, um die Wiederausfuhr, oder, wenn diese nicht innerhalb der gesetzlich vorgeschriebenen Zeit erfolgt, die Zahlung der vorgeschriebenen Zölle zu sichern.

Artikel VIIa.

Wird innerhalb der Gebiete eines der vertragschliessenden Teiles werden nach dessen Gesetzen in dem Gebiete des anderen Teiles auch in Ansehung der Geschäftsfähigkeit und des Rechtes, vor Gericht aufzutreten, beurteilt.

Ihre Zulassung zum Gewerbe- oder Geschäftsbetriebe, sowie zum Erwerbe von Vermögen in dem Gebiete des anderen Teiles bestimmt sich nach den dort geltenden Vorschriften. Doch sollen die Gesellschaften in diesem Gebiete jedenfalls dieselben Rechte geniessen, welche den gleichartigen Gesellschaften eines dritten Lande zustehen.

Artikel IX.

Alle Gegenstände, welche in die Häfen eines der hohen vertragschliessenden Teile auf inländischen Schiffen gesetzmässig eingeführt werden oder künftig eingeführt werden dürfen, können in gleicher Weise in diese Häfen auf Schiffen des anderen vertragschliessenden Teiles eingeführt werden, ohne anderen oder höheren Zöllen oder Abgaben gleichviel welcher Benennung unterworfen zu sein, als denjenigen, die bei der Einfuhr dieser Gegenstände auf inländischen Schiffen zu entrichten sind. Diese gegenseitige gleiche Behandlung erfolgt ohne Unterschied, ob die betreffenden

Alle Gegenstände, welche in die Häfen eines der hohen vertragschliessenden Teile auf inländischen Schiffen gesetzmässig eingeführt werden oder künftig eingeführt werden dürfen, können in gleicher Weise in diese Häfen auf Schiffen des anderen vertragschliessenden Teiles eingeführt werden, ohne anderen oder höheren Zöllen oder Abgaben gleichviel welcher Benennung unterworfen zu sein, als denjenigen, die bei der Einfuhr dieser Gegenstände auf inländischen Schiffen zu entrichten sind. Diese gegenseitige gleiche Behandlung erfolgt ohne Unterschied, ob die betreffenden

Gegenstände unmittelbar von dem Ursprungsort oder von einem anderen fremden Platze kommen.

Ebenso soll eine völlig gleiche Behandlung hinsichtlich der Ausfuhr herrschen, so dass dieselben Ausfuhrzölle sowie dieselben Ausfuhrvergütungen und Rückzölle gezahlt werden sollen, die in den Gebieten eines jeden der vertragsschliessenden Teile bei der Ausfuhr irgend eines zur Ausfuhr gegenwärtig oder künftig gesetzlich zugelassenen Gegenstandes gewährt werden, gleichviel ob die Ausfuhr auf japanischen oder deutschen Schiffen erfolgt, und ohne Rücksicht auf den Bestimmungsort, mag dieser ein Hafen des anderen Teiles oder einer dritten Macht sein.

Artikel X.

Rücksichtlich des Liegeplatzes, des Landes und Löschens von Schiffen in den Hoheitsgewässern der Hohen vertragsschliessenden Teile sollen den inländischen Schiffen keine Vorrechte oder Erleichterungen gewährt werden, die nicht in derselben Weise, in gleichen Fällen, den Schiffen des anderen Landes gewährt werden; die Absicht der vertragsschliessenden Teile geht dahin, dass in dieser Hinsicht die beiderseitigen Schiffe auf dem Fusse völliger Gleichheit behandelt werden.

sicht darauf, von welchem Platze sie ankommen und wohin sie bestimmt sein mögen.

Artikel XIII.

Schiffe, die den regelmässig festgesetzten Postdienst eines der Hohen vertragsschliessenden Teile versehen, sollen in den Hoheitsgewässern des anderen Teiles die gleichen Erleichterungen, Vorrechte und Befreiungen geniessen wie diejenigen, die den gleichen Schiffen der meistbegünstigten Nation gewährt werden.

Artikel XIV.

Die in dem gegenwärtigen Vertrage hinsichtlich der Schifffahrt getroffenen Vereinbarungen beziehen sich auch auf die Küstenschifffahrt.

Artikel XVII.

Kriegs- oder Kaufahrtsschiffe eines jeden der vertragsschliessenden Teile, welche durch stürmisches Wetter oder durch irgendeinen anderen Unfall genötigt werden, in einem Hafen des anderen Teiles Zuflucht zu suchen, sollen die Befugnis haben, dasselbst Ausbesserungen vorzunehmen, sich alle nötigen Vorräte zu verschaffen und wieder in See zu gehen, ohne irgend andere Gebühren zu bezahlen als diejenigen,

Artikel XI.

Alle Schiffe, welche nach deutschem Recht als deutsche, und alle Schiffe, welche nach japanischem Recht als japanische Schiffe anzusehen sind, sollen im Sinne dieses Vertrages als deutsche beziehungsweise japanische Schiffe gelten.

Artikel XII.

Keine Tommen-, Durchfuhr- oder Kanal-, Hafen-, Lotsen-, Leuchtturm-, Quarantäne- oder andere gleichartige oder entsprechende Abgaben oder Lasten, irgendwelcher Bezeichnung, die im Namen oder zum Nutzen der Regierung, von öffentlichen Beamten, von Privaten, von Korporationen oder von Instituten irgendeiner Art erhoben werden, dürfen in den Hoheitsgewässern des einen Landes den Schiffen des anderen Landes auferlegt werden, sofern dieselben nicht in der gleichen Weise, unter denselben Bedingungen den inländischen Schiffen allgemein und den Schiffen der meistbegünstigten Nation auferlegt werden. Diese Gleichheit in der Behandlung soll gegenseitig auf die beiderseitigen Schiffe Anwendung finden, ohne Rück-

welche von inländischen Schiffen in gleichen Fällen zu entrichten sein würden. Falls jedoch der Führer eines Kauffahrtsschiffes sich genötigt sehen sollte, über einen Teil seiner Ladung zu verfügen, um Ausgaben zu bestreiten, so soll er verpflichtet sein, sich nach den Verordnungen und Tarifen des Ortes, wohin er gekommen ist, zu richten.

Erleidet ein Schiff, das die Flagge des einen Teiles führt, an den Küsten des anderen Teiles Schiffbruch, so soll die Ortsbehörde den nächsten Generalkonsul, Konsul, Vizekonsul oder Konsularagenten des Flaggenstrats sobald als möglich benachrichtigen.

Ein deraartiges gestrandetes oder verunglücktes Schiff oder Fahrzeug und alle Teile desselben, sowie alle seine Ausrüstungsgegenstände und Zubehörungen, ferner alle Güter und Waren, welche davon gerettet worden sind, einschliesslich derer, welche in die See geworfen waren, oder der Erlös dieser Gegenstände, falls sie verkauft worden sind, ebenso alle an Bord eines solchen gestrandeten oder verunglückten Schiffes oder Fahrzeugs vorgefundenen Papiere sind den Eigentümern oder deren Beauftragten auszuhändigen, sobald sie von denselben beansprucht werden. Wenn diese

Eigentümer oder Beauftragten sich nicht an Ort und Stelle befinden, so sind alle die gedachten Gegenstände den betreffenden Generalkonsuln, Konsuln, Vizekonsuln oder Konsularagenten, sofern die Herausgabe von denselben innerhalb der durch die Landesgesetze festgesetzten Frist verlangt wird, auszuhandigen, und diese Konsularbeamten, Eigentümer oder Beauftragten sollen nur die durch die Rettung und Erhaltung der Güter erwachsenen Kosten, einschliesslich des Bergelohns bezahlen, wie sie im Falle des Scheiterns eines inländischen Schiffes zu entrichten gewesen wären.

Die geborgenen Gegenstände bleiben vom Zolle befreit, sofern sie nicht in den inneren Verbrauch übergehen.

Wenn ein Schiff oder Fahrzeug, welches im Eigentum von Angehörigen des einen der vertragschliessenden Teile steht, in den Küstengewässern des andern strandet oder verunglückt, so sollen die betreffenden Generalkonsuln, Konsuln, Vizekonsuln und Konsularagenten, falls der Eigentümer oder Schiffsführer oder ein anderer Beauftragter des Eigentümers nicht anwesend ist, ermächtigt sein, amtlichen Beistand zu leisten, damit den Angehörigen des betreffenden Landes, Mustern und Modellen, von Handels- und Fabrikmarken, von Firmen und Handelsnamen, von Ursprungsbezeichnungen und in bezug auf den Schutz gegen unlauteren Wettbewerb dieselben Rechte wie die eigenen Angehörigen unter der Voraussetzung gemessen, dass sie die hierfür vom Gesetze vorgesehenen Bedingungen erfüllen.

Die in den geltenden oder den künftigen Gesetzen des einen der vertragschliessenden Teile enthaltenen Vorschriften, wonach in Falle der Nichtausführung eines Patents, Gebrauchsmusters, Moders oder Modells die Zurücknahme oder eine sonstige Beschränkung des Rechts vorgesehen ist, sollen auf die den Angehörigen des andern Teils gewährten Patente, Gebrauchsmuster, Muster oder Modelle keine Anwendung finden.

Artikel XIX.

Der gegenwärtige Vertrag erstreckt sich auch auf die mit einem der vertragschliessenden Teile gegenwärtig oder künftig zollgeeinnten Gebiete.

Artikel XX.

Der gegenwärtige Vertrag soll am.....in Wirksamkeit treten und in Kraft bleiben bis zum.....

die erforderliche Unterstützung gewährt wird. Derselbe Grundsatz soll in dem Falle Anwendung finden, wenn der Eigentümer, Schiffsführer oder sonstige Beauftragte zugegen ist, indes solchen Beistand nachsucht.

Artikel XVIII.

Die Hohen vertragschliessenden Teile kommen darin überein, dass in allen auf Handel und Schifffahrt bezüglichen Angelegenheiten jede Art von Vorrecht, Begünstigung oder Befreiung, welche der eine vertragschliessende Teil der Regierung, den Schiffen, oder den Angehörigen irgend eines andern Staates gegenwärtig eingeräumt hat oder in Zukunft einräumen wird, sofort und bedingungslos auf die Regierung, die Schiffe oder die Angehörigen des andern vertragschliessenden Teiles ausgedehnt werden soll, da es ihre Absicht ist, dass Handel und Schifffahrt eines jeden Landes von dem andern in allen Beziehungen auf den Fuss der meistbegünstigten Nation gestellt werden sollen.

Artikel XVIIIa.

Die Angehörigen des einen der vertragschliessenden Teile sollen in den Gebieten des andern in bezug auf den Schutz von Erfindungen, von Gebrauchsmus-

Im Falle keiner der Hohen vertragschliessenden Teile dem andern Teile zwölf Monate vor dem Ablauf des genannten Zeitraums seine Absicht, den Vertrag zu beendigen, kundgibt, soll der letztere bis zum Ablauf eines Jahres von dem Tage ab in Wirksamkeit bleiben, an welchem einer der vertragschliessenden Teile ihn gekündigt haben wird.

Artikel XXI.

Der gegenwärtige Vertrag soll ratifiziert werden und die Ratifikationsurkunden sollen in.....
.....sobaldn icht später als.....Monate vom heutigen Tage ausgetauscht werden.

Zu Urkund dessen usw.
Gegeben in usw.

Schlussprotokoll.

Bei der am heutigen Tage stattgehabten Unterzeichnung des Handels- und Schifffahrtsvertrages zwischen dem Deutschen Reiche und Japan haben die beiderseitigen Bevollmächtigten folgende Erklärungen und Verabredungen in das gegenwärtige Protokoll niedergelegt:

1. Zu Artikel V Absatz 1.

Die Japanische Regierung wird darauf Befacht nehmen, in allen für den Handel besonders wichtigen Plätzen ihres Landes, den Bedürfnissen des Verkehrs entsprechend, Warenhäuser und zollfreie Niederlagen zu errichten und zu erhalten.

2. Zu Artikel Va und VI.

a) Zwischen den vertragsschliessenden Teilen herrscht Einverständnis darüber, dass eine Verpflichtung zur Vorlage von Ursprungszeugnissen im allgemeinen nicht besteht, doch können, wenn in einem der beiden Länder hinsichtlich gewisser Einfuhrwaren mehr als ein Zollsatz gilt, Ursprungszeugnisse ausnahmsweise gefordert werden.

Zur Ausstellung von Ursprungszeugnissen und zur Beglaubigung von Fakturen sollen an Orten, an welchen kein japanischer Berufskonsul seinen Sitz hat, die zuständigen deutschen Polizeibehörden und die zuständigen deutschen amtlichen Handelsvertretungen (Handelskammern und kaufmännischen Korporationen) befugt sein.

b) In Anbetracht der in Deutschland geltenden

Geheim :

Memorandum.

Der japanische Vorschlag, die in Betracht kommenden Materien getrennt in einem allgemeinen Handels- und Schifffahrtsvertrag und in einem besonderen Zollabkommen zu regeln, wird deutscherseits nicht für zweckmässig erachtet. Einerseits liegt zu einer solchen von allen geltenden Handelsverträgen abweichenden Trennung kein ausreichender Grund vor, andererseits wäre es nicht richtig, die Zollabreden in einem auf zwölfmonatige Kündigung gestellten Abkommen niederzulegen; denn dadurch würde dem Bedürfnis der beiderseitigen Geschäftswelt, für eine Reihe von Jahren mit feststehenden Verhältnissen rechnen zu können und gegen unterschiedliche Zollbehandlungen und planmäßige Änderungen auf dem Gebiete des Zolltarifs geschützt zu sein, nicht Rechnung getragen werden. Deutscherseits hat man daher die Vereinbarungen wegen der Zölle in den Entwurf des Hauptvertrags aufgenommen und schlägt wie bisher einen umfassenden einheitlichen Vertrag vor. (Vgl. den in 20 Exemplaren anliegenden deutschen Entwurf eines Handels- und Schifffahrtsvertrages.)

Vorschriften über die Erteilung amtlicher Auskünfte in Zollsachen ist die Japanische Regierung bereit, sobald als möglich Bestimmungen zu erlassen, durch die es den Wareneinführern ermöglicht werden soll, auf amtlichem Wege über die Zollbehandlung von Waren bei der Einfuhr nach Japan verbindliche Auskunft zu erhalten.

3. Zu Artikel VI, VIa und XVIII.

Die Bestimmungen der Artikel VI, VIa und XVIII über die Gewährung der Meistbegünstigung berühren nicht die Begünstigungen, welche anderen angrenzenden Staaten zur Erleichterung des örtlichen Verkehrs innerhalb der beiderseitigen Grenzbezirke, jedoch nicht über eine Zone hinaus von je 15 Kilometer Breite, von der Grenze an gerechnet, gegenwärtig gewährt sind oder in Zukunft gewährt werden sollen.

4. Zu Artikel XIX.

(Es wird eine Bestimmung vorbehalten, wonach bezüglich Koreas die besonderen Abreden gelten sollen, die in den anlässlich der Annexion Koreas durch Japan gewechselten Noten zwischen der Deutschen und der Japanischen Regierung getroffen worden sind bzw. noch getroffen werden.)

Der japanische Entwurf enthält einige Artikel, deren Gegenstand zur Zeit in dem deutsch—japanischen Konsularvertrage geregelt ist. Die Kaiserliche Regierung teilt die Ansicht der Kaiserlich Japanischen Regierung, dass die konsularischen Verhältnisse gleichzeitig mit den Handelsverhältnissen geregelt werden müssen und nimmt insbesondere die japanischen Vorschläge für die gegenseitige Zulassung der Konsula im prinzip an. Sie ist indes der Ansicht, dass die vorgeschlagenen Bestimmungen den beiderseitigen Bedürfnissen nicht genügen, sondern dass eine möglichst erschöpfende und den modernen Rechtsanschauungen entsprechende Regelung der rechtlichen Beziehungen im Interesse der beiden Länder dringel erwünscht ist und dass eine solche Regelung im Rahmen eines Handels- und Schifffahrtsvertrags nicht wohl stattfinden kann. Sie glaubt daher vorschlagen zu sollen, dass nicht nur der geltende Konsularvertrag in einer übersichtlicheren und den Erfahrungen der Zwischenzeit Rechnung tragenden Fassung erneuert, sondern auch ein Auslieferungsvertrag, wie er bereits in dem Protokolle zum Konsularvertrag unter Nr. 2 vorgesehen war, und ferner ein Vertrag über Rechtsschutz und Rechtshilfe in bürger-

lichen Angelegenheiten abgeschlossen wird.

Dementsprechend hat die Kaiserlich Deutsche Regierung die in je drei Abdrücken beigefügten Entwürfe für einen Konsularvertrag, einen Auslieferungsvertrag und einen Vertrag über Rechtsschutz und Rechtshilfe in bürgerlichen Angelegenheiten aufgestellt. Die drei Entwürfe sind der Kaiserlichen Botschaft in Tokio übersandt worden und werden heute von ihr der Kaiserlich Japanischen Regierung mit der Bitte vorgelegt werden, sie einer möglichst baldigen Prüfung zu unterziehen und sie als Grundlage für Verhandlungen

Zu Artikel I.

Zu Absatz 1.

(betreffend Freiheit des Aufenthalts usw.)

Zu Absatz 2:

zu Ziffer 1.

(betreffend Befugnis der Niederlassung, der Berufsausübung usw.)

Zu Ziffer 2 u. 3.

(betreffend Befugnis, Handel zu treiben und Gebäude pp. zu besitzen.)

annehmen zu wollen, die gleichzeitig mit den Handelsvertragsverhandlungen, aber von ihnen gesondert, hier in Berlin zu führen wären.

Was den deutschen Entwurf eines Handelsvertrags und des dazugehörigen Schlussprotokolls anlangt, so schliesst er sich in der Bezeichnung der Artikel möglichst dem japanischen Entwurf an, um das Vergleichbar mit den Bestimmungen des letzteren zu erleichtern. Im einzelnen wird zur Erläuterung folgendes bemerkt:

Die Worte "mit ihren Familien" sind aus dem japanischen Entwurfe gestrichen worden, da in der Regel die Familienmitglieder die gleiche Staatsangehörigkeit haben, wie das Familienoberhaupt und als solche unter den Vertrag fallen. Eingefügt worden ist, den Bestimmungen des geltenden Vertrags entsprechend, unter die in Absatz 1 gegenseitig zu gewährenden selbständigen Rechte die Freiheit des Reisens.

Aus der zuletzt geachten Änderung ergibt sich die Notwendigkeit, in Ziffer 1, wo für eine Reihe von Befugnissen Begünstigungen nach dem Grundsätze der Meistbegünstigung vorgesehen sind, die auf die Reisefreiheit bezüglichen Worte ("das Reisen und") zu streichen.

Die Bestimmungen entsprechen dem japanischen Vorschlage.

Zu Ziffer 4 u. 4a

(betreffend Besitz, Erwerb von Todes wegen und Vergütung über Vermögen sowie betreffend Gewissensfreiheit usw.)

Ziffer 4d es japanischen Vorschlags behandelt den Rechtsschutz. Die Bestimmung ist daher aus dem deutschen Entwurf eines Handelsvertrags weggelassen und in den vorerwähnten im Entwurfe anliegenden Vertrag über Rechtsschutz und Rechtshilfe (Artikel 1) aufgenommen worden.

Es ist vorgeschlagen, als Ziffer 4 und 4a die in Artikel 1 Absatz 3 und 4 des geltenden Handelsvertrags enthaltenen Bestimmungen mit den sich aus dem neuen Entwurf von selbst ergebenden geringfügigen Änderungen (Weglassen der in Artikel 1 Abs. 1 und Ziffer 1 des deutschen Entwurfs gestellten Fragen des Reisens und der Niederlassung) wieder aufzunehmen.

Zu Ziffer 5.
(betreffend Militärlasten usw.)

Die vorgeschlagene Formulierung entspricht den neuen deutschen Handelsverträgen.

Zu Ziffer 6.
(betreffend Abgaben)

Die Wiederherstellung der entsprechenden Fassung des geltenden Vertrags, die sich nach deutscher Auffassung bewährt hat, dürfte dem japanischen Vorschlage vorzuziehen sein.

Zu Artikel II.
(betreffend Unverletzlichkeit der Wohnungen usw.)

Artikel II entspricht dem Artikel II des japanischen Entwurfs. Nur sind die Worte "die zu erlaubten Zwecken benutzt worden" gestrichen worden. Fallsauf die Beibehaltung dieser Worte Wert gelegt werden sollte, so wird noch eine Aufklärung darüber gegeben werden müssen, aus welchen Gründen japanischerseits die gedachte Einschränkung gewünscht wird und welche Tragweite dieselbe haben soll.

Ferner ist ein Absatz hinzugefügt worden, wonach dem von der Untersuchung Betroffenen nach Beendigung eine schriftliche Mitteilung von dem Grunde der Untersuchung gegeben werden soll. Eine solche Regelung der Dinge entspricht dem modernen Rechtsempfinden.

Zu Artikel V.

(betreffend gegenseitige Freiheit des Handels und der Schifffahrt)

Artikel V Absatz 1 Satz 1 ist aus dem japanischen Vorschlage in den deutschen Entwurf übernommen worden.

In Satz 2 ist im wesentlichen die entsprechende Bestimmung des bisherigen Vertrages (Art. III Absatz 3) wieder hergestellt worden, die für die hier behandelten Fragen auch die Gleichstellung mit dem Inländer vorsieht. Gestrichen sind darin die Worte des geltenden Vertrages "welche für die Einfuhr und Ausfuhr von Waren geöffnet sind". Es darf angenommen werden, dass Japan in diese Streichung willigen und künftig ebenso, wie dies von jeher in Deutschland der Fall ist, auf die auf früheren Verhältnissen und Anschauungen beruhende Schliessung einzelner Häfen verzichten wird.

Zu Artikel Va und VI.

(betreffend Einfuhrzölle und Ausfuhrzölle)—Meistbegünstigung—

Die Meistbegünstigungsklausel hinsichtlich der Einfuhrzölle ist in Artikel VI aufgenommen worden (cfr. die allgemeinen Ausführungen im Eingang dieses Memorandums). Sie ist durch die Worte "von welchem Platze sie auch kommen mögen" der bisherigen Vertragsbestimmung (Artikel V des geltenden Vertrages) angepasst worden. Die einfache Meistbegünstigung kann aber Deutschland nicht genügen; denn sie hat für Deutschland nicht den gleichen Wert, wie für Japan.

Deutschland hat durch zahlreiche Handelsverträge die Sätze seines Generaltarifs für eine grosse Zahl von Artikeln ermässige und gebunden; auch hat es für viele Artikel, die zollfrei sind, die Zollfreiheit vertragsmässig festgelegt. Deutschland kann daher seinen Tarif im grossen ganzen nicht erhöhen. Somit bedeutet die Gewährung der deutschen Meistbegünstigung an Japan die Ermässigung und Festlegung eines grossen Theils seines Tarifs und die Schaffung stabiler Verhältnisse für den japanischen Handel nach Deutschland. Ganz anders die japanische Meistbegünstigung. Japan

hat einen in fast allen positionen stark erhöhten Tarif, der bisher noch durch keine Verträge irgendwie gebunden oder ermässigt ist. Japan gibt uns durch die Meistbegünstigung weder Zollermässigungen noch, da es die Zölle beliebig heraufsetzen kann, stabile Verhältnisse. Um dieses Missverhältnis, das bei der gegenseitigen Gewährung der Meistbegünstigung zu ungunsten Deutschlands besteht, auszugleichen, müssen deutscherseits über die Meistbegünstigung hinaus gewisse Ermässigungen und Bindungen im japanischen Tarif gefordert werden. Es ist daher vor dem Artikel VI ein Artikel Va eingefügt worden, der Deutschland für die in 20 Exemplaren anliegenden Verzeichnis A genannten Waren die ebenfalls daselbst aufgeführten Zollbegünstigungen gewährt. Ausserdem bestehen Zweifel über die Auslegung einer Reihe von Tarifnummern. Die betreffenden Nummern und die Auslegung, die wir ihnen geben, sind in dem gleichfalls in 20 Exemplaren beigefügten Verzeichnis B zusammengestellt.

Was die Ausfuhrzölle anlangt, so ist der japanische Vorschlag angenommen worden.

Zu Artikel VIa.

(betreffend Ein-, Ausfuhr- und Durchfuhrverbote usw.)

Der letzte Absatz des Artikel VI des japanischen Entwurfs, der die Ein- und Ausfuhrverbote behandelt, ist gestrichen und durch einen neuen Artikel VIa ersetzt worden. Diese Bestimmung entspricht den in den neueren deutschen Handelsverträgen üblichen Abreden.

Zu Artikel VI b.

(betreffend Durchfuhrzölle, Zolliederlagen, Ausfuhrvergütungen usw.)

Als Artikel VI b ist der Artikel VII des geltenden deutsch-japanischen Vertrages wiederingestellt worden, da eine solche Vereinbarung nicht wohl entbehrt werden kann.

Der Artikel II des Entwurfs eines Zollabkommens, in dem auch von Durchfuhrzöllen die Rede ist, deckt sich nicht mit der hier vorgeschlagenen Bestimmung; denn

Zu Artikel VII.
(betreffend Handlungsreisende und Muster)

er betrifft nur solche Gegenstände, die nach Zahlung des Einfuhrzollens in das japanische Zollgebiet eingeführt worden sind. In dem bisherigen Artikel VII, dessen Wiederaufnahme deutscherseits beifürwortet wird, ist die freie Durchfuhr und die Lagrung unter Zollverschluss von solchen Waren die, ohne dass sie in den Verbrauch übergehen, durch das andere Land durchgeführt bezw. dort gelagert werden. Ausserdem behandelt der bisherige Artikel VII die Frage der Ausfuhrvergütungen und Rückzölle usw. von Waren, die in die beiderseitigen Zollgebiete eingeführt worden sind, während in den japanischen Vorschlägen diese Materie unberücksichtigt gelassen worden ist.

In Absatz 1 und 2 (Handlungssenden) ist entsprechend den modernen deutschen Verträgen eine andere Formulierung vorgeschlagen. Insbesondere sind aus praktischen Gründen und, um die Kontrolle zu erleichtern, Bestimmungen über die Legitimierung der Handlungsreisenden eingefügt worden.

In Absatz 3, betreffend Warenmuster, ist die japanische Fassung im wesentlichen angenommen worden. Durch Ersetzen des passus "zu dem oben erwähnten Zwecke" durch die Worte "mit der Bestimmung der Wiederausfuhr" soll vertragsmässig festgelegt werden, dass auch an sich zollpflichtige Muster, die nicht von Handlungsreisenden mitgeführt, sondern an Personen oder Firmen, die sich in Japan befinden, zur Ansicht gesandt werden, unter den gegebenen Voraussetzungen zollfrei eingehen können. Ferner sind die beiden letzten Sätze des Absatzes 3 gestrichen worden, da sie angesichts der vorhergehenden Bezugnahme auf die bestehenden "Zollvorschriften und Formalitäten" pp. als überflüssig angesehen worden sind.

Zu Artikel VIIa.
(betreffend innere Produktions- und Verbrauchsgüter)

Als Artikel VIIa sind die Bestimmungen des Artikel IX des geltenden Handelsvertrages aufgenommen. Der Artikel II des japanischen Entwurfs zu einem Zollabkommen regelt den Gegenstand nicht ershöpfend.

Zu Artikel VIII.
(betreffend kommerzielle usw. Gesellschaften)

Der Artikel VIII des japanischen Vertrages, betreffend gegenseitige Anerkennung der Rechtsfähigkeit von Aktiengesellschaften usw., wird im prinzip akzeptiert. Es wird indes in Anlehnung an unsere modernen Verträge in Absatz 1 und 2 des deutschen Entwurfs eine andere Fassung vorgeschlagen. In Absatz 3 wird ebenfalls nach dem Vorbilde dieser Verträge über den japanischen Vorschlag hinaus wegen der Zulassung zum Gewerbe- und Geschäftsbetrieb sowie zum Erwerb von Vermögen die Meistbegünstigung angeboten.

Die beiden Artikel entsprechen den bezüglichen Bestimmungen des japanischen Vorschlages.

Zu Artikel IX und X.
(betreffend Ausschluss der surtaxe de pavillon und betr. Liegeplatz, Läden und Löschen der Schiffe)

Zu Artikel XI.
(betreffend Nationalität der Schiffe)

In Artikel XI wird deutscherseits die Wiederaufnahme der entsprechenden Bestimmung des geltenden Vertrages (Artikel XV) vorgeschlagen.

Zu Artikel XII.

Die Bestimmung deckt sich mit dem Artikel XII des japanischen Vorschlages.

(betreffend Tonnengelder)

Zu Artikel XIII.

(betreffend Postschiffe)

Der Artikel entspricht dem japanischen Vorschlag. Es sind nur die einschränkenden Worte "mögen sie dem Staate gehören, oder von ihm zu diesem Zwecke Beihilfen erhalten" gestrichen worden. Eventuell wird einer Aufklärung über Zweck, Bedeutung und Tragweite des japanischen Vorschlages entgegenzusehen.

Zu Artikel XIV.
(betreffend Küstenschiffahrt)

In Artikel XIV wird die Gleichstellung der Küstenschiffahrt mit der allgemeinen Schifffahrt vorgeschlagen.

Zu Artikel XVII.
(betreffend Seerob)

Deutscherseits wird vorgeschlagen, die Fassung des geltenden Vertrags mit den aus dem deutschen Entwurf ersichtlichen geringfügigen Änderungen wiederherzustellen. Die redaktionellen Änderungen in Abs. 2 und 4 entsprechen den in neueren deutschen Verträgen enthaltenen Formulierungen. Absatz 3 des bisherigen Artikels ist gestrichen worden, weil die Bestimmung nach den gemachten Erfahrungen keine praktische Bedeutung hat.

Zu Artikel XVIII.
(betreffend allgemeine Meistbegünstigung)

Es wird Wiederaufnahme der Formulierung des bisherigen Vertrags (Artikel XVI) vorgeschlagen.

Zu Artikel XVIIIa.
(betreffend Schutz des gewerblichen Eigentums)

In Absatz 1 ist die Bestimmung des bisherigen Artikels XVII in der dem heutigen Recht entsprechenden Formulierung wieder aufgenommen worden. Da in einer Reihe von Verträgen, die Deutschland mit europäischen Mächten bzw. mit den Vereinigten Staaten von Amerika abgeschlossen hat, eine Abrede, betreffend die Ausschliessung des Ausfuhrungszwanges vereinbart worden ist, so ist in Absatz 2 eine diesen Gegenstand regelnde Bestimmung vorgeschlagen worden.

Zu Artikel XIX.
(betreffend Geltungsbiet des Vertrages)

Die Bestimmung deckt sich mit dem Artikel XIX des geltenden Vertrages.

Zu Artikel XX.
(betreffend Vertragsdauer)

Der Artikel entspricht dem japanischen Vorschlage.

Zu Artikel XXI.
(betreffend Ratifikation)

Die Bestimmung entspricht dem japanischen Vorschlage.

In dem japanischen Entwurfe findet sich keine dem Artikel XVIII des geltenden Vertrags entsprechende Bestimmung. Die kaiserliche Regierung nimmt an, dass die Aufnahme einer solchen Bestimmung unterlassen worden ist, weil es angesichts der die Einrichtung der Fremdenniederlassungen in Japan begründenden internationalen Verträge und des Notenwechsels zwischen dem Staatssekretär Freiherrn von Marschall und dem Viconte Aoki vom 4. April 1896 keinem Zweifel unterliegt, dass die in dem genannten Artikel behandelten Materien unabhängig von der Dauer des geltenden Handelsvertrags für alle Zukunft geregelt und daher neue Abreden nicht erforderlich sind. Aus diesem Grunde ist von der Wiederaufnahme des Artikels XVIII Abstand genommen worden.

Zum Schlussprotokoll

Zu Ziffer 1.
(betreffend zollfreie Niederlagen)

Die Bestimmung ist eine Erneuerung der in dem vorerwähnten Notenwechsel unter Nr. 2 enthaltenen Erklärung.

Zu Ziffer 2a.
(betreffend Ursprungszeugnisse)

Die Bestimmung entspricht dem Artikel III des japanischerseits vorgeschlagenen Zollabkommens und der Schlussprotokollbestimmung 2 zu der Nachtragskonvention vom 26. Dezember 1898.

Zu Ziffer 2b.
(betreffend amtliche Zollauskünfte)

In Deutschland ist zur Erleichterung des Verkehrs die Einrichtung getroffen, dass jeder Wareneinführer sich amtliche und verbindliche Auskünfte über die Zollbehandlung von waren bei der Einfuhr nach Deutschland verschaffen kann.

Ein Abdruck der Bestimmungen ist in 3 Exemplaren beigelegt.
Zahlreiche uropäische Länder sind dem Vorbilde Deutschlands gefolgt. Es wird vorgeschlagen, dass auch Japan eine solche Einrichtung schaffen möge.

Zu Ziffer 3.
(betreffend Grenzverkehr)

Dem japanischen Vorschlag im Artikel V Ziffer 2 des Zollabkommens, betreffend den Grenzverkehr, haben wir die in unseren Verträgen übliche Fassung gegeben.

Zu Ziffer 4.
(betreffend Korea)

Was die Regelung der Beziehungen zu Korea anlangt, so wird eine Bestimmung vorbehalten, wonach bezüglich Koreas die besonderen Abreden gelten sollen, die in den anlässlich der Annexion Koreas durch Japan gewechselten Noten zwischen der Deutschen und der Japanischen Regierung getroffen worden sind beziehungsweise noch getroffen werden.

Eine dem Artikel V Ziffer 1 des Entwurfs eines Zollabkommens entsprechende Bestimmung, betreffend die Behandlung der Erzeugnisse der nationalen und der dieser gleichgestellten Fischerei, ist in den deutschen Entwurf nicht aufgenommen worden, da Zweifel über die Bedeutung und Tragweite dieser Bestimmung bestehen. Es darf in dieser Beziehung einer weiteren Aufklärung entgegengesehen werden. Insbesondere wird hier nicht verstanden, weswegen für die Erzeugnisse der Fischerei der vertragschliessenden Teile die Meistbegünstigung ausgeschlossen ist, sodass, falls der Fischerei eines dritten Landes dieselben Vorrechte eingeräumt werden sollten, wie sie der nationalen Fischerei gewährt sind, (Artikel 6 Ziffer 2 des deutschen Zolltarifgesetzes und Artikel VII Ziffer 19 des neuen japanischen Zolltarifgesetzes) die Fischerei des anderen vertragschliessenden Teiles derselben Begünstigungen nicht teilhaftig werden würde.

Berlin, den 18 November 1910.

四三〇 明治三十三年十一月十六日

德國臨時大使ヨシ
小村外務大臣宛

領事職務條約等改訂建議ノ件

translation

Imperial German Embassy,

Tokio, November 18, 1910.

The undersigned has the honour to inform His Excellency Count Jutarō Komura, Imperial Japanese Minister for Foreign Affairs, that in view of the notice of termination of the Consular Convention between the German Empire and Japan of the 4th April 1896, the Imperial Government have considered the question how the gaps in the legal relations between the two countries and between their subjects caused by the abrogation of the above convention would properly be filled up.

In the draft new treaty of commerce and navigation between Germany and Japan submitted by the Imperial Japanese Government they have adopted certain articles, the subject of which was hitherto regulated in the German-Japanese Consular Convention, but in other respects no proposals for the re-arrangement of the mutual legal relations were made.

The Imperial German Government are of the opinion that a regulation, of these relations, as exhaustive as possible and responding to the modern idea of law, is most desirable in the interests of both countries and that such regulation cannot well find a place in the frame of a treaty of commerce and navigation. They therefore would recommend that not only the existing Consular Convention will be revised in a more comprehensive grasp taking into account the experience of the past, but also an extradition treaty as mentioned under No. 2 in the protocol to the said Convention, and further a convention relative to the protection of rights and judicial aid in civil matters be concluded. Accordingly, the Imperial German Government have drawn up drafts, each in three copies, herewith enclosed, for a consular convention, an extradition treaty and a treaty relative to the protection of rights and judicial aid in civil matters. They should feel grateful if the Imperial Japanese Government would examine these drafts as early as possible and accept them as basis of negotiations which will be carried on simultaneously with, but separately from, the commercial treaty negotiations.

While venturing to state further that the Imperial Japanese Ambassador in Berlin will at the same time be acquainted with the draft compacts in question, the undersigned avails himself of this occasion to renew to His Excellency Count Jutaro Komura, Imperial Japanese Minister for Foreign Affairs, the assurance of his most distinguished consideration.

Signed : A. Montgelas.

Original.

Verbal Note left with the Vice Minister.

The negotiations concerning the consular convention, the extradition treaty and the treaty concerning legal protection of their respective subjects and mutual aid and assistance of the respective law courts in matters of civil law would have to take place simultaneously with—although separately from—the negotiations for the revision of the treaty of commerce and navigation. Consequently these negotiations would have to take place in Berlin in concordance with the wish expressed by the Imperial Japanese Government. For this purpose it might seem desirable that the Imperial Japan-

ese Government send to Berlin—as soon as possible—a judicial expert thoroughly familiar with the matters which are to be discussed who could assist the diplomatic representatives of Japan in the forthcoming negotiations. The German Government entertains no doubt that Japan—as well as Germany—attaches great importance to a suitable regulation of their mutual relations in connection with legal matters and therefore will take the same interest in a satisfactory proceeding of the negotiations. As the negotiations for the revision of the treaty of commerce and navigation are likely to begin in the near future the German Government would be greatly obliged if the Japanese Government would give its opinion on the German proposals as soon as possible so that the negotiations for the treaties concerning legal matters could be concluded at the same time with the negotiations for the commercial treaty.

註 條約草案省略

四三一 明治卅三年十一月十六日

珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛(電報)

新條約独国対案大要通報ノ件

第八四号

十一月十九日 後六、一〇 伯林發
十一月二十日 後一、五五 本省着

小村外務大臣

珍田全權大使

十一月十八日夜通商條約独乙対案ヲ領シタルニ我原案ト相違ノ点甚タ多数ナルモ其ノ重要ナルモノヲ挙クレハ、第一、特別相互關稅條約ヲ排シ關稅ニ關スル規定ヲ通商條約中ニ挿入スルコト、第二領事職務ニ關スル事項ヲ原案ヨリ除キ新クニ領事職務條約締結ヲ提議スルコト、但シ右條約案並ニ犯罪人引渡條約案及民法上ノ保護救済ニ關スル條約案ハ在東京独乙国代理大使ヨリ直ニ提出シタル筈ナリ、第三、独乙国輸出品ニ對シ關稅協定ヲ要望スルコト而シテ其ノ品種ハ我稅率表番号四十三種ニ跨リ居ルニ付其ノ品數ハ更ニ多数ナリ、第四、我原案第五條ニ反對シ現行條約第三條第三項第一行ヨリ「ニシテ」場所」ヲ除キ本項ニ費用スルコト、第五、沿岸貿易ニ關スル我原案ニ反對スルコト、等ナリ永代借地權ニ關シテハ千八百九十六年四月四日青木子往信ヲ援引シ、現行條約ノ廢棄ニ關スルコトナク永遠ニ

小村外務大臣時代 対独交渉 四三一 四三二

四三二 明治卅三年十二月五日

珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛

羽二重輸入稅ニ關スル件

條機第拾壹号

明治四十三年十二月五日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨己(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

羽二重輸入稅ニ關シテハ十一月十日附機條第拾号ヲ以テ及報告置候処同稅率引上ニ對スル利害關係者ノ態度ニ關シ引上稅ニ反對ナル染物業者側ヨリ情報ヲ得候ニ付為御參考左ニ申進候

独逸絹織物製造業カ羽二重ノ稅率ヲ現在ノ儘即チ百基ニ付三百麻ニ据置ク事ハ近来漸次發展シツ、アル独逸絹織物ノ販路ニ妨害アリトノ理由ニテ之ヲ八百麻ニ引上ケ中ニハ之レヲ式千麻迄引上ケントノ意見ヲ有スルモノアリ

テ商業会議所ヲ経若シクハ直接其筋へ請願シタルハ確カナル事実ナリ

機條第拾号中申進候通り独逸帝国大蔵省ノ鑑別ニ依レハ我提出見本地中四匁半以下ノモノハ千式百麻乃至千五百麻賦課セラルベキモノトシ同省ハ從來ニ於テモ此標準ニ依リテ課税セラレ居ルモノト信スト言フト雖絹織物製造業者カ右ノ率ニ出タルヲ見レハ從來我羽二重ハ三百麻課税セラレ居リタルハ明カナリ

然ルニ染物業者ハ絹織物業者トハ利害關係ヲ異ニシ一致合同シテ羽二重ノ関税引上ニ反対シ若シ止ムヲ得スハ引上ケノ程度ヲ染物業者ノ業務ニ影響ヲ来サ、ルノ範圍ニ制限セントシ「フオー、ウキンケル」ノ大染物工場主「アレキサンデル、シリール」ヨリ政府ニ請願書ヲ提出セリ

本年十月十日帝国内務省ニ於ケル絹織物利害關係者ノ諮詢会ニ於テモ絹織物製造業ノ代表者ハ独逸ニ於ケル此業發達ノ為メ羽二重ノ関税引上説ヲ固守シ且ツ如何ナル場合ト雖トモ税率ヲ條約上拘束セシム可カラスト主張シ伯林商業會議所ハ日本ノ羽二重ハ品質佳良ニシテ絹織物商ニ採リ欠ク可カラサル商品ナリトノ理由ヲ以テ税率ノ引

往電第八四号ニ関シ独逸国对案ハ昨今日御落手ノコト、信スルニ付之ニ対スル本使ノ意見左ニ開陳シ御回調ヲ仰ク

一 帝國政府ハ領事職務條約外二條約ヲ締結スルノ意志ナク假令有之トスルモ其ノ商議ハ通商條約ト独立シテ將來ニ讓ルコト便宜ナリト思考スルニ付对案中右締結ノ見地ヨリ削除セラレタル條項ハ之ヲ復活セシムヘキコト

二 特別相互関稅條約ノ独立ニ反対セル独逸国ノ意見ニ対シテハ協定税率ヲ設ケサル以上ハ同意スルモ差支ナカルヘク若シ之ヲ設ケル場合ニハ該條約ヲ独立セシムルノ要アルヘキモ其ノ有効期間ニ関シ多少ノ讓歩ヲ覺悟セサルヘカラス

三 对案ノ條項ニ関シテ委細ハ書面ニ讓ツルモ左ニ之ニ対シ單純ニ諾否ノ意見申述フ

四 反対スヘキ條項

第一條第一号、第二條第二項、第七條A第二項、第八條、第十四條、第十七條、第十八條A第三項

五 承諾スルモ差支ナキ條項

條約案前文、第一條第一項末段、同條第四号同号A、同條第六号、第二條第一項、第六條及同條A、B、第七條A第一項、第十一條、第十三條、第十八條A第一項、第

上ニ反対シ染物業者モ亦タ日本羽二重ノ輸入ノ減少ヲ来スコトアリテハ同業者ハ一般ニ損害ヲ蒙ル可ク特ニ羽二重ノ染上ヲ目的トシテ工場ヲ設置シタルモノニ採リテハ一大打撃ナリトテ引上説ニ反対シ又政府委員側ニアリテハ羽二重ノ税率ハ来ル可キ日独條約改正談判ニ際シ独逸カ日本へ輸出スル物品ノ為メ請求ス可キ日本関稅ノ輕減ニ対スル代償トシテ利用ス可キモノナリトテ絹織物業者ノ説ニ余リ耳ヲ傾ケサリント如此羽二重税率ノ引上ニハ諸方面ニ反対者アレトモ絹物製造業者ノ氣焰ハ熾ンニシテ其主張ヲ貫徹センカ為メニハ本問題ヲ帝國議會ノ議題ニ上ラシメントスル意氣込ナリト

此段及報告候 敬具

四三三 明治四十三年十二月七日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛 (電報)

独国对案ニ対シ意見具申ノ件

第八八号

十二月七日 後九、二〇 伯林發
十二月八日 後六、三〇 本省着

小村外務大臣

珍田金權大使

十九條 (原案第十九條ト併セテ規定スルコト)

六 左ノ对案修正條項ハ以下ノ修正削除ヲ加ヘテ承諾スルコト

第一條第一項「家族ト共ニ」ノ削除ニ同意シ「旅行シ」ノ追加ニ反対スルコト

第一條第三号中 *Besitzen, mieten oder innehaben* ハ *Besitzen oder mieten und innehaben* ト翻訳スヘキコト

ト第一條第五号前文中末尾ノ「取立金」ヲ削リ之ヲ承諾シ後段ハ一九〇六年独逸瑞典條約第四條第二項ノ規定ニ軍事取立金ニ關スル事項ヲ加味シタル新规定ニ變更スルコト

第五條原案「外国通商ノ為ニ開カレ又ハ開カル、コトアルヘキ」ヲ復活シ对案ニ同意スルコト

第五條Aヲ削除スルヤ又ハ相互の規定ニ改メテ保存スヘキヤハ税率ヲ協定スヘキヤ否ニ依リテ決定スヘキコト
原案第七條ニ対スル修正ニ同意シ对案ニ追加シタル第二項ハ後段 *und* 以下ヲ削リ承諾スルコト

第十二條原案中「内国船舶一般ニ又ハ最惠国船舶ニ」ノ「又ハ」ヲ对案ニハ「及」トアリ兩者意義ヲ異ニセハ修正ヲ要スヘキコト

原案第十八條ヲ維持シ「別国ノ臣民」ヲ「別ノ国政府船舶若ハ臣民」ニ「他ノ一方ノ臣民」ヲ「他ノ一方ノ政府船舶若ハ臣民」ニ修正セントスル対案提議ノミヲ承諾スルコト

七 独逸国提出議定書中第一條、第二條B、第四條ヲ削除シ第二條A第二項「独逸国」ヲ「独逸若ハ日本国ノ」ニ「日本国ノ」ヲ「日本国若ハ独逸国ノ」ニ修正シ第三條ニ関稅條約案第五條第一号ヲ加ヘ各之ヲ本條約若ハ關稅條約中ニ移シ置クヘキコト

八 協定稅率提議ニ對スル諾否ハ結局我ヨリ要求スヘキ對償如何ニ依リ決スヘキ問題ナルモ當館ニ於テ之ヲ判斷スルコト困難ナルニ付此点ニ關スル政府ノ方針御訓示アリタシ且本件ハ新條約根幹問題ニ付第一着ニ之ヲ商議シタキニ付右ハ可成速ニ御回訓アラシコトヲ請フ

四三四 明治四十三年十二月八日 在漢堡沼野總領事代理ヨリ 小村外務大臣宛

本邦產薄地羽二重ニ對スル独逸輸入稅ノ加重ニ關スル件

四三五 明治四十三年十二月九日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛

日独通商條約独国対案ニ關シ稟請ノ件

條機第十三号 明治四十四年一月四日接受 明治四十三年十二月九日 在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

日独通商條約独国対案ニ對スル卑見ハ往電第八七号及條機第十二号ヲ以テ具陳ニ及ヒ置候処右往電中ニモ開陳致候通り關稅協定ニ關スル事項ハ新條約ノ根幹問題ニシテ其解決如何ハ他ノ條項ニ關スル商議上多大ノ影響ヲ及ボスコクト相信候ニ付之ニ關スル商議ハ第一着ニ之ヲ開始スル事全体ノ談判進捗上最モ便捷ト致思考候元來独国ニ對シ關稅ノ協定ヲ許ス可キヤ否ハ新條約ノ精神タル稅權恢復ノ大局ハ勿論帝國政府財政ノ都合、内國産業ノ状態等ヲ稽査シ傍ラ各々國ニ對スル條約談判ノ実況ヲモ參酌シ妨メテ断案ヲ下シ得可キ問題ナルヲ以テ該問題ニ關シテハ只管閣下ノ御訓令ヲ期望罷在候次第ニ有之候然ルニ從來御訓示ノ趣ニ依レハ帝國政府ハ新條約ノ締結ニ際シ稅率ヲ協定セサルヲ原則トシ單ニ兩國ノ通商關係カ相互對等ノ代償ヲ許スカ如キ場合

送第一九号 明治四十四年一月四日接受

在漢堡帝國總領事代理

領事 沼野安太郎(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

今般在ケルン帝國名譽領事ノ報告ニ依レバ先般デユツセルドルフニ於ケル一商店別紙見本ノ通り一平方メートルノ重量一六・三グラムノ本邦薄手羽二重ヲ輸入シタルニ同地独逸關稅ハ之ニ對シ百キロニ付千五百麻克ノ重稅ヲ課シタルヲ以テ同商店ハ之ニ對シ在ケルンラインプロフインツヲ管轄スル稅務局ヘ抗告シタルニ同稅務局ニ於テハデユツセルドルフ稅關ノ措置ヲ正常トシ之ヲ却下シ該課稅ハ終ニ確定シタル趣ニ有之候

尙同輸入商ノ主張スル所ニ依レバ該見本ノ薄地羽二重ニ對スル課稅ハ從來百基ニ付三百麻ナリシ由ニ有之候然ルニ稅關ノ鑑定ニ依レバ一平方メートルノ重量一六・三グラムノ羽二重ハ之ヲ独逸關稅目第四〇八号薄地織物トシテ課稅スヘキモノナリト云フニ有之候 右為御參考見本相添及報告候敷具

ニ限リ特ニ之ヲ協定スルノ方針ニ有之且ツ先般沼野總領事代理赴任ノ際條約改正係主任阿部參事官ヨリ帝國政府ハ獨國ト断然稅率ヲ協定セサル意嚮ナル趣本使ニ申シ通スヘキ様依頼有之タル由ニテ右ノ次第同總領事代理ヨリ伝言有之候ニ付右様省議確定ノ儀ト心得居リ候処過日條約改正準備委員會副委員長井上勝之助氏当地通過ノ際談話ニ依レハ帝國政府ハ已ムヲ得サル場合ニハ独逸國ト稅率ヲ協定スヘキ覚悟ニテ其ノ品目等モ既ニ調査済ノ趣ニ有之彼是一致ヲ欠キ本使ノ心得上甚ク当惑ヲ感シ候右ニ關シ何分ノ儀至急御訓示相成候様致度候

一、帝國政府カ各般ノ關係ニ鑑ミ独国ニ對シ断然稅率ヲ協定セサル決心ヲ有スルニ於テハ全ク別問題ナルモ若シ然ラサル場合ニハ羽二重、銅、樟腦其他我カ對独輸出重要品中ニ付我ヨリ關稅協定ヲ要求シ得ヘキ品目ナキニアラス殊ニ羽二重ノ如キハ過般具報シタル通りノ状況ナルヲ以テ之レカ關稅協定ハ我輸出貿易上一廉ノ利益ヲ与フヘキハ疑ヲ容レヌ就テハ此際可成速ニ我ヨリ要求スヘキ代償ヲ確定シ之ニ相当スル程度迄独逸案ヲ削減セシムル目的ヲ以テ談判ノ一次ニ於テハ往電八二号ノ意味ニテ協定反對ノ態度ヲ執リ交讓ノ形ヲ以テ我目的ノ点ニ達スル方

法ニ出ツル事商議進捗上最モ適當ト致思考候

一、関稅ノ協定ニ関スル独逸ノ要望ハ甚ク過大ナルニ反シ
(尤モ右ノ提議カ談判ノ駈引ニ資スル目的ヲ以テ誇張ニ
規定セラレ居ルハ條機第九号報告ノ通ニ有之候)我ヨリ
要求スヘキ品目ハ勢ヒ甚ク少数ナルヘキヲ以テ彼我ノ距
離ヲ接近セシメ真正ニ相互的協定ヲ見ルニ至ラシムルハ
極メテ困難ノ業ニシテ此目的ヲ貫徹スル為ニハ帝國政府
ニ於テハ萬不得止ハ條約ノ不成立ヲモ賭スルノ大決心ヲ
以テ充分強硬ノ態度ヲ維持スル事最モ肝要ノ儀ト相信候
條約ノ不成立ハ兩國ノ為メ慨歎ニ堪ヘサル所ニシテ方法
ノ限リヲ尽シテ斯ノ如キ狀況ニ陥ル事ヲ避ク可キハ勿論
ノ儀ニ候得共彘キニ帝國政府カ現行條約ヲ廢棄スルノ決
意ヲ取リタル精神ヲ没却シテマテモ之ヲ成立セシムル事
能ハサルハ言フ要セサル次第ニ可有之ト被存候

一、萬一商議行惱ノ結果暫定條約ヲ提議スルノ不得止ニ至
ル場合ニ於テハ右提議ノ成立ハ今日ノ狀態ヲ以テ判断ス
ルハ甚ク無覺束トノ見込ヲ立ツル外無之候蓋シ独逸政府
ニ於テハ日独間ノ最惠國民待遇カ得失不衡平ノ結果ヲ生
ス可シトノ意見ヲ有スル事已ニ御承知ノ通ナルニツキ大
体ニ於テ反対ノ態度ニ出ツ可キハ最モ親易キ所ニシテ假

話アラバ出来得ル限ハ稅率協定ヲ為サル管ナリト伝ヘラ
レタシト述ベタルナリ 阿部参事官

註 発信日付ニヨリ次号ニ掲グ

四三六 明治四十三年十二月十日

珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛

日独通商條約独国対案ニ対スル意見書送附ノ件

附屬書 珍田大使意見書

條機第十二号

(波辺大佐持帰)
十二月廿八日接受

日独通商條約独国対案ニ対スル可否ノ意見ハ不取敢往電第
八七号ヲ以テ申進タル通ニ有之候処今般齋藤大佐帰朝ノ好
便ニ托シ別紙ヲ以テ右意見ノ理由ヲ開陳致候間御査収相成
度此段得貴意候 敬具

明治四十三年十二月十日

特命全權大使男爵 珍田捨己(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

(附屬書)

日独通商條約独国対案ニ対スル意見書

一、帝國政府ノ方針絶對的ニ協定稅率ヲ結ハサルニ確定セ

小村外務大臣時代 対独交渉 四三六

リニ日米條約ノ存続ヲ豫想スルモ該條約ニハ稅率ノ協定
ナク偶マ沿岸貿易ニ均霑スルノ利益ナキニアラサルモ其
存続ハ僅カニ一十年ニ過キサルカ故ニ到底獨国ノ態度ニ
何等影響ヲ与フル事ナカル可キニ付若シ獨国政府カ暫定
條約ノ締結ヲ承諾スルトセハ帝國カ他國ニ對シテ關稅上
ノ特惠ヲ与フル事アル可シトノ見地ニ基ク儀ニ可有之ト
思考被致候

一、條約商議ノ衝ニ当ルベキ獨国委員タル外務省通商局長
ハ條機第九号報告ノ通り目下瑞典ニ出張中ニ有之其歸國
ハ本年末ノ趣ニ付其帰還後ニアラサレハ開談ノ運ヒニ立
到間敷ト存候間右様御含置相成度候

尙ホ愈々商議開始ノ際ハ成ル可丈ケ談判ノ進捗ヲ助長ス
ルカ為メニ獨国対案ニ對シテ我ヨリ修正案ヲ提出シ獨国
対案ヲ基礎トシテ直チニ口頭商議ヲ開始致度心組ニ有之
而シテ本商議ニ入ルニ先チ豫メ新條約ニ使用スヘキ國語
ノ点ニ關スル意見ヲ交換シ現行條約談判當時ノ轍ヲ履マ
サル様可致存念ニ有之候

右諸訓旁及具申候 敬具

△(欄外註記)
條約準備委員會ノ決議モアルニヨリ小官ハ珍田大使ヨリ

ハ特別相互關稅條約案中ニ規定シタル事項ヲ獨国政府ノ
提議ニ從ヒ通商條約中ニ挿入スルニ同意スルモ差支ナカ
ルヘキコト

之ニ反シテ稅率ヲ協定スルニ方針一定セハ特別相互關稅
條約ノ存置ヲ主張スヘキコト

理由

帝國政府カ特別相互關稅條約案ヲ設ケタルハ其實施後
短期日ノ豫告ニ依リテ之ヲ廢棄シ得ルノ利益ヲ考慮シ
タルニアルコト新條約案説明書ニ記載シアルカ如シ然
レトモ該條約案中ニ規定セラレタル事項ハ悉ク永続的
性質ヲ有シ特ニ之ヲ短期ノ條款ト為スノ必要甚ク尠ナ
キカ如ク思考セラル、ニ付帝國政府当初ノ主義ニ從ヒ
何等ノ協定稅率ヲモ設ケサルモノトセハ國定稅率ノ變
更ハ條約ノ毫モ闕知スル所ニアラサルヲ以テ關稅條約
ヲ特縮スルノ利益ハ甚ク薄弱ナルニ似タリ故ニ此場合
ニ於テハ獨国ノ希望ニ從ヒ關稅條約中ニ規定セラレタ
ル事項ヲ通商條約中ニ挿入スルモ取テ不可ナキカ如
シ

之ニ反シテ協定稅率ヲ設クルモノトセハ關稅條約特縮
ニ關スル必要ハ甚ク顯著ナルヲ以テ此場合ニハ飽迄原

案ノ維持ヲ主張スヘク若シ一年ノ豫告期間ニテハ到底妥協ノ途ナキニ於テハ或ハ之ヲ多少延長スルモ甚タシキ不都合ナキカ如シ

一、領事職務條約、犯罪人引渡條約及民事上ノ權利擁護並ニ援助ニ関スル條約ヲ締結スヘキヤ否ニ関スル照復ハ東京ニ於テ之レアルヘキニ付本意見書ニ於テハ敢テ其内容ヲ講究スルコトナシ

一、條約案前文ノ修正ニ同意スヘキコト理由

既ニ国交ノ開ケ居ル兩國間ノ通商條約ニ於ケル前文トシテ独国対案ハ明晰ニ條約ノ目的ヲ包括指摘シ居ルモノト認ムルニ付此修正ニ同意シテ毫モ不都合ナキカ如シ

一、第一條第一項「家族ト共ニ」ノ削除ニ同意スヘキコト理由

「家族ト共ニ」ナル文字カ殆ント無意味ナルコトハ條約案説明書記載ノ通ナレハ之カ削除ニ同意スルモ何等ノ不都合ナキカ如シ

一、第一條第一号中ノ「旅行」ナル文字ヲ削リ第一項「各地ニ到リ」ノ次ニ「旅行」ヲ加ヘントスル独国ノ修正ニ

一、原案第一條第四号ノ維持ヲ主張スルト同時ニ対案第四号及第四号(A)ノ追加ヲ承諾シ之ヲ第五号及第六号トシ原案第五号及第六号ヲ第七号及第八号ニ繰下クヘキコト理由

独国対案第四号及第四号(A)ハ現行條約第一條第三項及第四項ト同文(第四号(A)「公私ノ礼拝ヲ行フノ權利」ノ前ニ現行條約ニハ「法律、勅令及規則ニ從テ」ナル文字アレトモ之レハ新條約ニテハ第二項主文ノ規定ニテ不必要トナリタルニ付対案第四号(A)中ニハ掲ケラレス)ニシテ我原案ハ之ヲ自明ノ理トシテ規定セザリシコト説明書記載ノ通ナレハ若シ独国政府ニシテ此條文ヲ追加スルヲ希望セハ敢テ拒絶スルノ必要ナキカ如シ之ニ反シテ我原案第四号ノ削除ニハ反対スル方至当ナリト思考ス何トナレハ帝國政府ハ通商條約ノ外ニ領事職務條約ヲ締結スルヲ希望セザルト同シク民事上ノ權利擁護並ニ援助ニ関スル條約ヲ締結スルヲ好マサルヘシ仮令其締結ニ同意スルトスルモ通商條約ト同時ニ其商議ヲ完了スルコトハ甚タ困難ナルヘキヲ以テ該條約ノ締結如何ニ拘ラス右ト類似ノ規定カ古來通商條約中ニ規定シアリシ慣例ヲ基礎トシテ(現行日独條約第一

反対シ原案通り第一号中ニ「旅行」ナル文字ヲ保存シ第一項ニハ之ヲ加ヘサルコト理由

独国対案ノ如ク我原案第一條第一項中ヨリ「家族ト共ニ」ヲ削リ「旅行シ」ヲ加フレハ其規定ハ現行日独條約第一條第一項ト全然同一ナルニ至ルヘシ案スルニ我原案第一條第一項ノ主文カ絶対無條件的ニ規定セラレタルハ起草者苦心ノアル所ニシテ説明書ニ縷述セラレ居ルカ如キ次第ニ付此項ニ旅行ノ自由ヲ加フルトキハ却テ不利益ヲ我ニ来スナキヲ保シ難キヲ以テ我ハ原案ノ維持ヲ主張スヘク独国若シ其理由ノ解説ヲ求メタル場合ニハ旅行ハ入国滞在ノ如キ單純ナル事柄ニアラサルニ付第一号ニ於テ多少煩雜ノ關係ヲ生スル点ニ於テ類ヲ同フスル事項ト併セテ旅行ノ件ヲモ一括規定スルヲ妥当ト信スル旨ヲ開陳シ独国ノ同意ヲ求ムルニ努ムル方得策ナルカ如ク思考セラル

一、第一條第一項末段「而シテ国法ニ遵由スルニ於テハ」ヲ「右臣民ハ国法ニ遵由スルヲ條件トシテ以下ノ權利ヲ享有スヘシ」ニ変更シ之ヲ第二項ト為スコトニ關スル独国対案ハ意義ニ於テ差異ナキヲ以テ之ニ同意スルモ差支ナカルヘキコト

條第二項、一九〇四年独塞條約第二條第三項)其存置ヲ主張シ置カハ第一該條約ノ締結ヲ非認シタル場合ニ便宜多カルヘク假令該條約ニシテ締結セラル、場合ニ於テモ此原則ヲ繰返シ規定シテ何等奇怪ノ觀ナカルヘキカ故ニ一挙兩得ノ手段ナリト思考ス

尙ホ英文原案第一條第一号ノ冒頭ハ「shall.....」トアリテ第一項ノ主格ニ係ル文体トナリ居リシ為メ独国外務省ニ於テ右原案ヲ翻譯シタル独文ニモ主格ヲ缺キ居リシニ付対案中ニハ「Sie sollen」ナル文字ヲ加ヘアリト雖モ第一項ノ末段ヲ第二項ト為シタル当然ノ結果トシテ英文ニテモ亦「they」ナル文字ノ追加ヲ要スヘク仏文原案ニテハ最初ヨリ「ils」ナル文字記載シアルヲ以テ斯ノ如キ問題ハ發生セズ此他原案独訳文第一條第二号中ヨリ「und geschäfte」ヲ除キタルハ独語ニテハ仏語ト同シク「商業」ナル一字ノミニテ充分ナリシニ依ルヘク又第三号中「sollen dürfen」ヲ「dürfen」ニ第六号中「verpflichtet sein」ヲ「gezwungen werden」ニ第九條第二項中「erlaubt sind」ヲ「gewährt werden」ニ第十二條中「in gleicher Weise」ヲ「in der gleichen Weise」ニ第十八條中

「jedes Vorrecht」ヲ「jede Art von Vorrecht」ニ
「drüben」ヲ「andeen」ニ修正シタルハ原案独訳文ノ
誤訳ヲ訂正シタルニ過キサルモノナルヘク畢竟原案独
訳文ハ参考ノ為メニ当方ニ送附シ来リタルモノニ付公
文書トシテ其訳語ニ重キヲ置クコト能ハサルモノナリ
之レ二三訳語ノ變更ニ拘ラス独国政府ノ覚書カ第一條
第二号及第三号ニ関シ我原案通ニテ異存ナキ旨ヲ記載
シタル所以ニシテ上記訳字上ノ異同ハ何等意味ナキ
モノ、如シ之ニ反シテ原案第三号「所有又ハ賃借シテ
之ヲ使用シ」ヲ「所有、賃借又ハ使用」ト訳シタルハ
意義ノ相異ヲ生スヘキ誤訳タルニ付若シ独逸文ヲモ正
文トナス場合ニハ訂正スルノ必要アルヘシ

一、原案第一條第五号ニ対スル独国対案ノ趣旨ヲ参酌シ左
ノ如キ規定ニ改ムルコト

「陸軍、海軍、護国軍又ハ民兵ノ何レタルヲ問ハス総テ
ノ強迫兵役並ニ服役ノ代トシテ課セラルル一切ノ貢納ヲ
免レ且強募公債ノ免除ヲ受クヘシ

軍用徵發及取立金ニ付テハ内国臣民ニ課セラル、ヨリモ
過超ナル要求ヲ受ケサルヘク又徵發ニ関シテハ内国臣民

償ヲ豫メ支払フヘキコトヲ要求ス然レトモ戰時緊急ノ
秋ニ當リ斯ノ如キ條件ヲ実行シ得ルヤ否ハ甚ク疑問ニ
屬スヘク仮リニ之ヲ実行シ得ルトスルモ国民ニハ領收
證ヲ下附シテ徵發ヲ為スヘキ場合アリトセハ独国対案
ノ結果本邦ニ在留スル独国人ハ本邦人ヨリモ此点ニ関
シ優等ノ權利ヲ享有スルコト、ナリ不都合ナルニ付此
提議ニハ応スルコト能ハサルヘシ然レトモ徵發物ニ
対シテ一定ノ賠償ヲ早晚与フルコトハ近時ノ常例ニシ
テ此原則ハ敢テ否定スルノ必要ナキヲ以テ国民ニ対ス
ルト同一ノ標準ニ從テ賠償ヲ与フルノ原則ヲ認ムルモ
何等不可ナル所ナカルヘク則チ一九〇六年独瑞條約第
四條第二項後段ノ例ニ倣ヒ本條第二項末段ノ規定ヲ設
ケタリ

一、原案第一條第六号ヲ独国対案ノ修正通承諾スヘキコト
理由

独国対案ハ我原案ヲ現行日独條約第一條第五項ノ通り
ニ修正シタルモノニシテ其意義ニ於テハ兩者ノ間毫モ
差異ナキニ付之ヲ承諾シテ支障ナシト思考ス殊ニ「國
臣及最惠國ノ臣民若ハ人民」ノ前ニ定冠詞ヲ置ク代ハ
リニ不定冠詞トスルハ文章ノ構成上必要ナル修正タル
ヘシ

ト同一ノ比例並ニ基礎ニ從ヒ賠償ヲ受クルノ權利アルヘ
シ」
理由

独国対案ハ本号前段中「且」ヲ「同シク」ニ改メタリ
之レハ文字上ノ修正ナレハ敢テ争フニ足ラサレトモ其
末ニ後段中ノ前文ヲ加フルト同時ニ「總テノ取立金」
ナル文字ヲ追加シタルハ戰時ノ費用ニ充当スルノ目的
ヲ以テ一般人民ニ賦課スル公租ヲモ免除セラル、モノ
、如ク解釈セラル、ノ虞アルニヨリ之ヲ削除シ後段冒
頭ノ「強募公債」ノミヲ前段ノ末尾ニ加フルニ同意ス
ル方得策ナルカ如シ善シ公債ヲ強募スルカ如キハ近
來其例殆ント稀ニシテ假令之レアリトスルモ本邦ニ在
留スル極メテ少数ノ外国人ヨリ之ヲ強募スルノ必要無
之カルヘキヲ以テナリ

之ニ反シテ軍用徵發ニ関シテハ馬匹ノ如ク不動産ト關
係ナク徵發スルノ必要生スルコトアルヘキヲ以テ独国
対案カ之ニ関シ概括的ニ規定シアルヲ奇貨トシ取立金
ト併セテ広ク國民ト同一待遇ヲ條件トシテ外国人ニモ
其義務ヲ負担セシムルヲ得策ト認ム

独国対案ハ徵發ヲ為スニ當リ正義衡平ヲ基礎トスル賠

一、原案第二條中ヨリ「適法ノ目的ニ使用セラル、モノ」
ヲ削除セントスル独国ノ主張ニ同意スルト同時ニ対案ノ
追加シタル第二項ニ反対スヘキコト

理由

独国対案ハ原案第二條中「適法ノ目的ニ使用セラル、
モノ」ナル字句ヲ削除シ覺書ニ於テ若シ我ニシテ強テ
此字句ノ挿入ヲ希望セハ此制限ハ如何ナル理由ニヨリ
テ必要ナルヤ又如何ナル程度ナルヘキヤノ説明ヲ求メ
來レリ案スルニ家宅其他カ尊重セラルヘシト云フコト
ハ其家宅等カ孰レモ適法ノ目的ニ使用セラレツ、ア
ルコトヲ意味スルモノニシテ若シ之レカ何等不正ノ目
的ニ使用セラル、コトアラハ第二條後段規定ノ適用ニ
依リテ何時ニテモ臨檢其他ヲ為シ得ヘキカ故ニ「適法
ノ目的ニ使用セラル、モノ」ナル文字ハ単ニ注意的の字
句タルニ過キサリシナルヘク此注意的の字句ニシテ会々
独国疑惑ノ原タルニ価セハ之ヲ削除スルニ毫モ妨ケナ
キカ如シ

之ニ反シテ独国対案ノ追加シタル第二項ハ我ニ於テ到
底承諾スルコト能ハサルカ如ク思考セラル何トナレハ
仮リニ斯ノ如キ請求権カ内国臣民ニ許与セラレ居ラス

トスレハ独リ外国人ノミ此殊權ヲ享有スルコト、ナリ
條約根本ノ主義精神ト矛盾抵触スルヲ以テナリ而シテ
若シ此請求權カ内国臣民ニ許与セラルルモノトセハ原
案末段ノ規定ニ依リテ外国人モ亦之ヲ享有シ得ヘク特
ニ如此キ規定ヲ設クルノ必要ナカルヘシ故ニ此追加條
項ハ之ヲ削除スルヲ妥当ト認ム

一、原案第三條及第四條ノ削除ニ反対スルコト
理由

領事官ノ任免及其職務ニ関スル原案第三條及第四條ハ
第一條第四号ノ條ニ掲ケタルト同一ノ理由ニ基キ領事
職務條約ノ締結如何ニ拘ラス本條約中ニ之ヲ規定スル
ヲ得策ト認ム

一、削除セラレタル「外国通商ノ為ニ開カレ又ハ開カル、
コトアルヘキ」ヲ復活スルノ條件ヲ以テ第五條ニ関スル
独国対案ノ追加修正ニ同意スヘキコト

理由

第五條前段ヲ第一項トシ以下ヲ第二項トナスハ単ニ体
裁上ノ問題ナレハ異議ヲ挿ムノ必要ナカルヘク其他
「自由ニ」ヲ「自由且安全ニ」ニ改メタルハ單純ナル字
句ノ修正ニシテ「最惠國ノ臣民又ハ人民ト均シク」ヲ

ヲ下ノ如ク修正シテ之ヲ特別相互關稅條約中ニ規定スル
コト「日本帝國若ハ独逸帝國ノ生産又ハ製造ニ係ル物品
ニシテ附屬稅表(イ)号及(ロ)号ニ掲記セラレタルモノニハ其
何レノ場所ヨリ到来スルヲ問ハス独逸國若ハ日本國ニ輸
入ノ際右稅表所定ノ稅ヲ課スヘシ」

理由

独国対案ノ追加シタル第五條(A)ハ協定稅率ニ関スル規
定ナリ帝國政府ニシテ若シ絶對ニ稅率ノ協定ヲ承諾セ
サルノ主義ヲ執ラハ之レカ削除ヲ要求スヘク若シ或種
類ノ物品ニ限リ協定スルノ方針ヲ執ラハ括弧内ニ記載
スルカ如キ相互協定ノ形式ニ改メ之ヲ特別相互關稅條
約中ニ規定スル方得策ナルヘシ

一、原案第六條第一項ノ修正ヲ承諾シ原案第二項ト併セテ
一條ヲ設クヘキコト

理由

原案第六條第一項ノ修正ハ独国対案カ關稅條約案ヲ通
商條約案ト併合シ又協定稅率ニ関スル第五條(A)ヲ設ケ
タルヨリ生シタル結果ニシテ本項ハ關稅條約案第一條
ト同趣旨ノ規定ナレハ關稅條約案カ廢止セラルレハ此
修正ヲ承諾シテ差支ナカルヘク又關稅條約案カ維持

削リ其代ハリニ第二項末段中ニ「内国臣民又ハ最惠國
臣民」ト規定シタルハ本條ノ均霑ヲ一層擴大シタルカ
如キ觀アレトモ其實上ノ適用ニ至リテハ差異ナカル
ヘキヲ以テ敢テ原案ノ維持ヲ争フノ価値ナキニ似タリ
而シテ第二項末段ノ追加ハ現行日独條約第三條第三項
後段ノ規定ヲ其儘移置シタルモノニシテ假令原案ニ斯
ノ如キ詳細ノ規定ナシトスルモ其實際上ノ適用ハ將ニ
本追加ノ如クナルヘキヲ以テ是亦敢テ追加ヲ拒絕スル
ノ必要ナキカ如シ然レトモ独国対案カ為シタル「外国
通商ノ為メニ開カレ又ハ開カル、コトアルヘキ」ナル
文字ノ削除ハ我ノ同意スルコト能ハサル所ナルヘシ何
トナレハ帝國ノ如ク長キ海岸線ヲ有シ無數ノ港灣ヲ有
スル國ニ於テ其何レニモ外國船舶ノ出入ヲ許可スルコ
ト、セハ税關ノ設備其他ニ関シ巨額ノ經費ヲ要スルノ
ミナラス各般ノ事項ニ付不便多カルヘキヲ以テナリ況
ヤ第十四條ニ於テ独国対案ノ主張スルカ如ク沿岸貿易
ノ權利ヲ独逸船舶ノ為メニ收メ得タル場合ニ於テ右ノ
削除ハ彼等ニ対シテ偉大ノ利益ヲ享受セシムルノ虞ア
ルニ於テオヤ

一、追加サレタル第五條(A)ハ之ヲ削除スルコト(第五條(A)

セラルル場合ニハ同條約案第一條ヲ保存スルカ若ハ本
項ヲ該條ト換置シテ之ヲ同條約案ノ冒頭ニ置クヘキモ
ノトス

一、原案第六條第三項ノ削除並ニ第六條(A)ノ追加ニ同意ス
ヘキコト

理由

独国対案ハ原案第六條第三項ヲ削除シ第六條(A)ヲ新設
シタリ此規定ハ一九〇六年独瑞條約第七條ト同文ニシ
テ原案第六條第三項ノ趣旨ニ從ヒ更ニ之ヲ詳記シタル
モノナレハ承諾シテ不可ナキカ如シ

一、独国対案第六條(B)ノ追加ニ同意スヘキコト

理由

独国対案第六條(B)ハ現行條約第七條ト同文ニシテ關稅
條約案第二條ト趣旨ニ於テ異ナル所ナキヲ以テ独国ノ
提議ヲ承諾シテ不可ナシト思考ス

一、原案第七條第一項ノ追加修正及第二項ノ修正削除ヲ承
諾シ対案第二項ハ「及如何ナル法規云々」以下ヲ削除シ
其追加ニ同意スヘキコト、独国若シ右「及如何ナル法規
云々」以下ノ復活ヲ希望セハ之レカ存置ノ必要ニ関シ説
明ヲ求ムヘキコト

理由

第七條第一項ノ修正ハ趣旨ニ於テ原案ト異ナル所ナク
 證明書携帯ノ條件ヲ加ヘタルハ却テ實際上ニ便宜多カ
 ルヘシト思考ス(一九〇二年独仏條約第一條第一項ニ
 修正セラレタル第一項ト略ホ同文ノ規定アリ又独國ニ
 於テハ右證明書ハ警察官憲之ヲ發給スルヲ例トス)而
 シテ對案ノ追加シタル第二項前段ハ證明書ニ關スル
 條件ヲ第一項ニ設ケタルヨリ生シタル結果ニシテ一九
 〇六年填白條約第十一條第五項ニモ之ト同様ノ規定ア
 リ然レトモ後段工業上ノ經營ヲ執行スルニ當リテ遵守
 スヘキ法規ヲ互ニ對照スルノ義務ヲ兩締約國ニ負担セ
 シメタルハ如何ナル必要ニ基キタルモノナルヤ其理
 由ヲ知ルコト能ハサルニ付之ヲ削除シ若シ独國政府ニ
 於テ強テ之ヲ存置セント欲スレハ豫メ其必要ナル所以
 ヲ弁明セシムルヲ至當ナリト思考ス、独國覽書ニ依レ
 ハ第七條第三項中「前記ノ目的ヲ以テ」ヲ「再輸出セ
 ラルヘキ目的ニテ」ニ修正シタルハ有税見本品ニシテ
 旅商ニヨリテ輸入セラル、ニアラス兩締約國ノ一方ニ
 アル個人又ハ商會ニ送致セラル、場合ニモ本項ノ適用
 ヲ受ケンメントノ趣旨ニシテ但書ヲ削リタルハ見本輸

一、第八條ハ原案ヲ維持シ独國對案ノ規定ヲ拒絶スヘキコ
 ト

理由

独國對案第八條第一項及第三項ハ原案第八條ノ趣旨ト
 差異ナント雖モ其第二項ハ原案ト主義ニ於テ正反對ナ
 ルカ如ク思考セラレ又会社ノ專業能力ニ關シ絶体本國
 法主義ヲ採用スルトキハ不便ヲ惹起スルコトモ尠カラ
 サルヘク殊ニ第二項ノ規定ハ意義余リニ広キニ失シ解
 釈上ノ疑義ヲ招クノ虞モ有之ヘクニ付原案ト同様ノ規
 定カ一九〇八年独葡條約第十五條ニ存在スルヲ論拠
 トシテ原案ヲ維持スル方得策ナルカ如ク思考セラレ尙
 ホ我原案ノ独逸訳文ニハ *Gesellschaften order Ver-*
einigungen トアリシヲ對案ハ單ニ *Gesellschaften* ト
 ノミ規定シタリ案スルニ此文字ハ会社及組合ヲ意味ス
 ルモノト考ヘラル、モ若シ独逸語ヲ正文ニ加フル場合
 ニハ之レカ字義ニ付一応ノ交渉ヲ要スヘシト思考ス
 一、第九條及第十條ハ原案ノ通

一、原案第十一條ニ關スル独國對案ノ修正ニ同意スヘキコ
 ト

理由

入ノ際「其再輸出セラルヘキコト又ハ法定期間内ニ再
 輸出セラレサル場合ニ成規ノ関稅ノ納付セラルヘキコ
 トヲ確實ナラシメムカ為メニ制定セラレタル関稅規則
 及手續ヲ履行スルトキハ」トノ條件カ本項前段ニ規定
 シアルニヨリ但書ハ蛇足ナルヘシトノ見地ニ基キタル
 モノニシテ此見解ハ妥當ナルカ如ク思考セララル
 一、独國對案ノ追加シタル第七條(A)ハ第二項ヲ削除シ第一
 項ノミヲ承諾スルコト

理由

第七條(A)ハ現行日独條約第九條ト同一ノ規定ニシテ其
 第一項ハ特別相互關稅條約案第二條ニ掲ケラレタル事
 項中第六條(B)ニ転記セラレザリシモノニ係リ第二項ハ
 之ニ制限ヲ加ヘタルモノナリ然ルニ關稅條約案第二條
 カ特ニ此制限ヲ附加セザリシ理由ニ鑑ミ又一九〇八
 年独葡條約ハ独國對案第七條(A)中ノ第一項ノミヲ規定
 シ第二項ノ如キ制限的條項ナキニ照シ帝國政府ニ於テ
 モ第一項ニ同意スルト同時ニ第二項ノ削除ヲ要求スル
 ヲ得策ナリト思考ス尙ホ第六條(B)及第二項ヲ削除シタ
 ル第七條(A)ハ關稅條約ニシテ存置セラル、以上ハ同條
 約案第二條ニ換置セラルヘキモノナリ

第十一條原案モ亦独國對案モ趣旨ニ於テ相異ナル所ナ
 キハ新條約案說明書記載ノ通ナレハ強テ我原案ヲ固支
 スルノ必要ナカルヘク独國ノ希望ニ從ヒ現行日独條約
 第十五條ヲ復活セシムルモ敢テ不都合ナキニ似タリ
 一、第十二條原案ノ通但原案「内國船舶一般ニ又ハ最惠國
 船舶ニ」ノ「又ハ」ヲ對案ニハ現行日独條約第十一條ノ
 如ク「及」ニ修正シアルニ付此兩者ノ間意義ヲ異ニスル
 ニ於テハ我原案ノ復活ヲ主張セサル可ラサルカ如シ
 一、原案第十三條中「國有タルト國家ヨリ之カ為補助ヲ受
 タルモノタルトノ別ナク」ヲ削除セントスル独國ノ提議
 ニ同意スルコト

理由

國有ニアラサル郵便船カ國家ヨリ相当ノ補助ヲ受タル
 ハ近時ノ常例ニシテ又其補助ヲ受クル船舶ハ説明書記
 載ノ如ク必スシモ自國ノ船舶ニアラスシテ可ナルニ於
 テハ前記括弧内ノ文字ハ是非共之ヲ保存シ置クノ必要
 ナキニ似タリ況ヤ帝國ニ於テ郵便船ニ与フル特惠ハ其
 數甚ク少ナキヲ以テ括弧内ノ削除ハ却テ我ニ利益アル
 カ如ク思考セララル

一、第十四條ニ対スル独国対案ハ之ヲ拒絶シ我原案ヲ復活スヘキコト

理由

原案第十四條殊ニ其第一項ノ規定ハ新條約ニ依リ我國權ノ毀損ヲ恢復セントスル要目中ノ一ナレハ独国ノ修正意見ヲ容ル、ノ余地ナキコト言フ迄モナカルヘク又独国政府ニ於テモ現時我國ニ於ケル海運業ノ發達ニ鑑ミ其對案ヲ執拗ニ支持スヘントハ思考スルコト能ハス

一、原案第十五條及第十六條ハ原案第三條及第四條ト同一ノ理由ニヨリ之ヲ保存スヘキコト

理由

一、独国對案第十七條ヲ拒絶シ原案第十七條ヲ維持スヘキコト
独国對案ハ現行日独條約第十四條ト同様ノ規定ニシテ（同條第三項ヲ除ク）趣旨ニ於テ原案第十七條ト異ナルナント雖モ對案ノ規定ハ余リニ複雑ニシテ他ノ條項ト權衡ヲ得サルノ嫌アルノミナラス独国ハ一九〇六年瑞典トノ條約第十七條ニ於テ原案ト同様ノ規定ニ承諾ヲ与ヘタルノ例モアルニ付我ニシテ原案ノ復活ヲ主張

理由

独国對案第十八條(A)第一項ハ現行日独條約第十七條ト同趣旨ノ規定ニシテ此等ノ事項ハ萬國條約ノ規定モアルニ付條約中ニ特ニ明文ヲ設ケサルモ其保護ニ欠缺スルコトナカルヘントノ見地ヨリ我原案ニ記入セザリシ次第ナルヘキヲ以テ独国ノ希望ニ從ヒ之ヲ追加スルモ不可ナキカ如シ然レトモ第二項ハ外国人ヲ内国人ヨリモ優等ニ待遇スルノ虞アルモノニシテ條約ノ精神上又實際ノ取扱上不都合多カルヘキヲ以テ其追加ニ同意セサルヲ可トス

一、独国對案ハ原案第十九條ヲ削除シタリ若シ我ニ於テ其復活ヲ必要トセハ説明書記載ノ理由ヲ開陳シテ之レカ維持ヲ主張スルヲ可トス而シテ独国政府カ原案第十九條ノ代リニ規定セント欲スル條項ハ現行日独條約第十九條ト同文ニシテ強テ其挿入ニ反對スルノ必要ナキカ如ク思考セラル、ニ付原案第十九條ト併セテ之ヲ保存スルモ敢テ不可ナキニ似タリ

一、第二十條及第二十一條原案ノ通

一、独国政府ノ提出シタル覚書中ニ永代借地權ニ關スル事項アリ右ニ對シテハ本年五月二十日附機密條第八号及六

セハ彼ノ同意ヲ得ルコト難カラサルヘント思考ス
一、原案第十八條ノ規定ヲ維持シ「別國ノ臣民」ヲ「別國ノ政府、船舶若ハ臣民」ニ「他ノ一方ノ臣民」ヲ「他ノ一方ノ政府、船舶若ハ臣民」ニ修正セントスル独国對案ノ提議ノミヲ承諾スヘキコト

理由

独国政府カ削除ヲ希望スル「本條約ニ於テ反對ノ明文アル場合ヲ除クノ外」ト「及工業」トハ夫々特別ノ必要アリテ原案ニ記入セラレタルコト説明書記載ノ通ナレハ其理由ヲ開説シテ之レカ維持ヲ主張スヘク「政府、船舶」ナル文字ノ追加ハ原案ノ意義ヲ毫モ變更スルコトナキヲ以テ之ヲ承諾シテ差支ナカルヘシ而シテ独国對案カ本條ノ末尾ニ追加シタル規定ハ本條ヲ設クルニ至リタル兩締約國ノ意思ヲ説明シタルニ過キサズルモノニシテ之ヲ加フルモ何等支障ナカルヘシト雖モ独国對案カ本條約前文ノ規定ヲ簡單ニシ我亦之ニ同意シタル趣旨ト權衡ヲ失スルノ觀アルニ付此追加ニ對シテハ不同意ヲ表スルヲ至当ナリト思考ス

一、独国對案第十八條(A)ハ第二項削除ノ上其追加ニ同意スヘキコト

月六日附機密條第一〇号ノ趣旨ニテ回答シ可然ト思考ス

一、独国對案ニテ追加セラレタル議定書中ノ或事項ヲ通商條約中ニ移記シ該議定書ヲ削除スルコト

理由

独国對案ニハ通商條約ニ附屬スル議定書ノ添附アリ斯ノ如キ文書ヲ成ルヘク文新條約ニ附屬セシメサルノ方針ナルコトハ説明書記載ノ通ニシテ又各議定書ニ掲ケラレタル事項中我ノ同意シ得ヘキモノハ通商條約ノ本文ニ之ヲ記入スルモ差支ナキ性質ヲ有スルニ付此等ノ事項ヲ通商條約ニ移記シ其他ト共ニ議定書ヲ削除シ可然ト思考ス

一、独国提出議定書第一條ハ之ヲ削除スルコト

理由

本條ハ現行日独條約ノ附屬文書クル一八九六年四月四日附書翰中ノ第二項ト同様ノ規定ニシテ我國近時ノ狀態ニ照シテノ如キ條項ヲ存置スルノ必要ナキニ付之カ削除ヲ求ムルヲ至当ナリト認ム

一、独国提出議定書第二條(A)号第一項ハ原文ノ儘ニテ第二項ハ「独逸ノ」ヲ「独逸若ハ日本ノ」ニ「日本ノ」ヲ「日

本若ハ独逸ノ「ニ修正シテ之ヲ通商條約第六條(A)ノ次ニ規定スヘキコト

理由

独国提出議定書第二條(A)号第一項ハ特別相互關稅條約案第三條ト趣旨ニ於テ異ナル所ナキカ故ニ之ヲ承諾シテ可ナルヘク又第二項ハ現行日独條約附屬議定書第二條ト同趣旨ニシテ之ヲ存置スルモ利アリテ害ナキカ如ク思考セラル、ニ付右一方の規定ヲ相互的ニ修正ノ上第一項ト併セテ一條ヲ設クルモ何等不都合ナキカ如シ

右ノ條項ハ關稅條約ニシテ特締セラル、場合ニハ同條約案第三條ト換置セラルヘク若シ諸條約保存セラレサル場合ニハ通商條約第六條(A)ノ次ニ規定セラル、ヲ妥当ナリト認ム

一、独国提出議定書第二條(B)号ハ之ヲ削除スヘキコト理由

独国提出議定書第二條(B)号ノ如キ規定ヲ新通商條約又ハ其附屬文書ニ於テ公然承認スルコトハ新條約ノ精神ト全然矛盾スルニ付我ヲ拘束スルカ如キ字句ヲ使用シタル理由ヲ附スルコトナク單純ニ本号ノ削除ヲ求ムヘ

ヲ設ケタリ而シテ此規定ノ適用アルヘキハ關稅條約案第一條並ニ之ト趣旨ヲ同フスル通商條約案第六條、第六條(A)及第十八條ナルヲ以テ通商條約中ニ挿入セラル、場合ニハ独国对案ニ從ヒ右三條ヲ明記スルヲ便宜ナリト信ス

独国对案カ我關稅條約案第五條第一号ヲ削除シタルハ独国政府ニ於テ右第一号ノ意義ヲ了解スルコト能ハサリシニ基キ深キ理由アリシ次第ニアラサルヲ以テ説明書記載ノ趣旨ヲ開陳シ之レカ維持ヲ主張セハ其承諾ヲ得ルコト難カラサルヘシト思考ス故ニ本意見書ハ右第一号ヲ復活スルト同時ニ独国提出議定書第三條ノ趣旨ニ從ヒテ第二号ノ規定ヲ設ケタリ蓋シ議定書第三條ハ精神ニ於テ關稅條約案第五條第二号ト異ナル所ナキヲ以テナリ

一、独国提出議定書第四條ヲ削除スヘキコト理由

独国提出議定書第四條ノ如キ趣旨ノ規定ヲ通商條約中ニ設クルハ帝國政府ノ主義ニアラスト思考スルニ付之レカ削除ヲ稟申シタル次第ナレトモ独国政府ノ立場ヨリ云ヘハ其維持ヲ熱望スルハ敢テ理由ナキニ非サルヘ

ク若シ我ニ於テ本号中ノ法制ヲ採用スルヲ妥当ト認メハ単独的發意ニ依リテ之ト類似ノ規則ヲ設クルヲ至當ナリト思考ス

一、独国提出議定書第三條ヲ承諾シ之ニ特別相互關稅條約案第五條第一号ヲ復活追加シ左ノ如キ規定トナスヘキコト

「左ニ掲クルモノハ本條約ノ効力ヲ及ボサス(最惠国民ノ取扱ニ關スル本條約第六條、第六條(A)及第十八條ノ規定ハ左ニ掲クル場合ニ其ノ効力ヲ及ボサス)

第一、兩締約国ノ内国民漁業ノ產物並ニ漁產ノ輸入ニ關シテ内国民漁業ニ準セラル、漁業ノ產物

第二、相互ノ接壤地域ニ於ケル地方貿易ニ便ナラシメム

カ為内國境ヨリ起算シ各幅員十五基米ヲ超過セサル地帯内ニ於テ接壤国ニ對シテ現ニ許与シ若ハ將來許与スルコトアルヘキ特惠、

理由

右ノ規定ハ特別相互關稅條約ニシテ特締セラル、ノ場合ニハ該條約案第五條ト換置セラルヘク若シ關稅條約カ存置セラレサル場合ニハ通商條約第十八條ノ次ニ挿入セラルヘキモノト思考シタルニ付注文ニ二個ノ文案

キヲ以テ已ヲ得サル場合ニハ極メテ概括的ニ原案第十九條ノ終リニ(若シ關稅條約ニシテ保存セラル、場合ニハ同條約案第四條ノ終リニモ)「但他ニ特別ノ宣言、協約其他ノ取極アル場合ニハ此ノ限ニアラス」ナル條件ヲ附シ妥協ノ道ニ出ツル方或ハ得策ナルカトモ存セラル何トナレハ此抽象的規定ハ独リ独国政府ニ満足ヲ与フルノミナラス殖民地又ハ租借地等ニ就テモ必要ノ場合ニハ條約ノ適用ヲ停止若ハ制限シ得ルコト、ナルニ付独国对案カ原案第十九條ニ反對スルノ理由モ消滅スヘク從テ原案第十九條ノ維持上ニモ便宜多カルヘシト思考セラル、ヲ以テナリ

△(欄外註記)
「單純ナル最惠国待遇ノ關稅條約ナラバ此要ナシ」
意見書終

四三七 明治三十三年十二月二十日

珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛

日独關稅問題ニ關シ具申ノ件

條機第十五号

明治四十四年一月拾八日接受

明治四十三年十二月卅一日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

△¹ 日独條約商議ノ根幹タルヘキ関稅協定ノ問題ニ関シテハ帝國政府ニ於テ各般ノ關係ヲ調査ノ上ノ不遠何分ノ義御訓示相成可申ト相信候処本件ニ就キ當館ニ於テ取調ノ結果御參考迄ニ左ニ及具申候間御査閱相成度候

独逸政府ハ我提案タル特別相互関稅條約ヲ却ケ我関稅率ノ多数ニ對シ輕減又ハ拘束ヲ申込ミ相互協定ニ関シテハ何等其意思ヲ發表スルコトナク其形式ヨリ見レハ恰カモ現行條約ノ片務の協定ヲ希望スルカ如キ觀アルモ帝國政府カ右ニ對スル代償トシテ独逸関稅率ノ輕減若クハ拘束ヲ要求ス可シトハ独逸政府ノ期待シ居ルコト勿論ノ儀ニ有之現ニ現行條約廢棄ノ通告前後ニ於テ當国新聞中改約ニ関シ意見ヲ發表シタルモノ少ナカラサリシカ其多数ハ二大戦捷ニ依リテ大國ノ地位ニ進ミタル日本ハ稅權ノ束縛ヲ以テ大國ノ威嚴ニ關スルモノトシ現條約ノ期限満了ヲ待ツテ稅權獨立ナル多年ノ宿望ニ達セントシ関稅法ヲ改正シ國定主義ヲ以テ列國ニ對峙セントスルモノニシテ列國ハ日本ニ對シ昔日ノ如

一 我对独輸出品ニ對スル競争品ノ有無

一 我对独輸出品ノ現在享受シツ、アル稅率關係

甲、無稅品

乙、有稅品

イ、國定稅率ヲ適用セラル、モノ

ロ、協定稅率ヲ適用セラル、モノ

一 我重要輸出品ノ均霑スル協定稅率ヲ約定シタル国名及條約ノ期限

一 我重要輸出品從來發展ノ狀況及將來ノ見込

一 独逸ノ關稅引上又ハ

一 独逸ノ關稅引上又ハ課稅ニ關スル解釈ニ依リ我輸出ヲ減シタルモノ、有無

先ツ前記諸項ニ付左ニ其主要ノ点ヲ述ヘシ

一、日独間貿易關係ノ大勢

我对独輸出入最近三ヶ年間ノ平均ヲ見ルニ我統計ニ從ヘハ我輸出ハ九百萬八千余円ニシテ當国ノ統計ニ抛レハ壹千二百二十八萬五千余円(壹円ニ付芝麻拾布ニ換算)ニシテ兩者間ノ間ニ四百萬円余ノ大差アリ又独逸ノ統計ニテハ一旦独逸国内ヘ入リタルモノ(通過貨物ヲ除ク)ハ再ヒ国外ニ出

キ庄迫手段ヲ加フルノ余地ナキヲ以テ關稅ノ協定ハ頗ル困難ナル可シトノ意見ヲ陳ヘタリ又曩キニ本月五日付條約第一号中申進置候通り日独條約改正ニ関シ諮詢ノ為召集セラレタル經濟委員會ニ於テ薄地絹織物業製造業者カ羽二重ノ稅率引上ヲ主張シ日本ヲシテ決シテ此稅率ヲ拘束セシム可カラスト熱心ニ論シタルモ政府側委員ハ羽二重稅率ヲ以テ事實日本ヨリ關稅輕減ノ要求アル場合ニ充ツベキ好個ノ對価ナリトノ理由ヲ以テ絹織物業者ノ説ニ耳ヲ傾ケサリシ趣ナリ要スルニ独逸側ニ於テモ双務的協定ヲ豫期シ居ル事ハ明確ナル事實ニ有之候

然リト雖所謂双務的協定ニ對スル實際ノ見解ニ関シ彼我ノ間ニ莫大ノ懸隔アルハ是又争フベカラサル事實ナルカ故ニ帝國政府ニ於テハ條約ノ不成立ヲモ賭スルノ決心ヲ以テ飽迄純然タル相互的協定ノ主張ヲ維持スルコト申ス迄モナク(此間ニ落語アルヤ)△² 調査スルコト第一ニ必要ナリト致思考候

一 日独兩國間貿易關係ノ大勢

一 我对独輸出重要品ノ種類

一 我对独輸出重要品各個ノ輸出品同種物品ノ独逸全輸入額トノ比例

ツルモノ(例ヘハ加工ノ為メ一時国内ニ入ルモノ)ト否トヲ問ハス悉ク之ヲ計上スルモノト全ク国内ノ消費ニ歸ス可キモノトノ二ツニ區別シ前者ヲ總輸入(Gesamteinfuhr)ト称シ後者ヲ純輸入(Specialinfuhr)ト称ス前ニ独逸統計ニ抛ル我輸出額トシテ拳ケタルハ純輸入ニシテ我國ヨリノ輸入品ニ對スル總輸入ト純輸入トノ差ハ最近三ヶ年平均廿萬円余ナリ右ニ反シ我統計ノ對独輸出額ハ独逸ヘ仕向ケタル貨物ヲ悉ク計上シ即チ独逸統計ノ總輸入ニ該當ス可キモノト思惟セラル、ニ付我輸出額ニ關スル日独統計實際ノ差額ハ更ニ廿萬円余ヲ加ヘ三百四十七萬七千余円トナル可キ計數ヲ呈シ兩國統計ノ差異一層顯著ナルヲ見ル可シ如此彼我統計ニ大差アル種々ノ原因中試ニ其主ナルモノヲ拳ケレハ大略左記ノ如クナラン

一 我國ヨリ輸出ノ時ト独逸ヘ輸入ノ時ト約二ヶ月以上ノ差異アル事但シ右ハ独逸統計ニ抛ル方金額多カル可キ理由ニアラサルモ輸出額ノ統計上差異ヲ生シ得可キ原因タルヲ失ハス

一 輸出港稅關ヘ通告ノ貨物仕向地ト實際ノ輸入国ト差異アル事例ヘハ銅ノ如キハ仮リニ英國ヲ仕向地トシテ輸出シタルモ相場等ノ關係ヨリ中途其仕向地ヲ變シ實

際独逸へ輸入スル事アリ如此場合ニハ独逸統計ノ金額我統計ニ比シ一層多額ニ上ル可キ理由ナリ

一 間接輸入例へハ一旦英、伊、瑞、西等ノ諸国へ輸入セラレタル後實際日本品トシテ当国税関ヲ通過スルモノ少ナカラサル事尤モ我国ノ物産ハ何レモ前記諸国ノ物品ト均シク最惠国待遇ヲ受ケ居ルタメ税関ニ於テ原産地證明ノ必要ナキヲ以テ右以外ニ日本品ノ名義ニ依ラスンテ独逸へ輸入スル本邦品アルハ勿論ナリ

一 輸出ノ際本邦税関へ申告シタル価格ト輸入ノ際独逸税関へ申告又ハ税関ノ評価シタル價格トノ間ニ差異ヲ生シ得ルコト

又独逸ノ輸入ハ我統計ニ依レハ四千四百六十九萬六千余円彼ノ統計ニ従へハ四千三百五十八萬七千余円ニシテ兩國統計間ノ差異ハ我輸出額ノ場合ノ如ク甚クシカラサルモ猶百十一萬円余ヲ示ス尤モ我税関ニ於ケル輸入品價格ノ標準ハ

生産地若クハ仕入地ニ於ケル原価ニ荷造運賃保険料其他ノ諸雜費ヲ加ヘタル計數ナルヲ以テ實際ノ相違ハ僅少ナル可シト推セラレ兩國間統計ノ差異上述ノ如クナルヲ以テ今茲ニ相互ノ輸出貿易額ノ比例ヲ為スニ際シテハ双方共ニ物品輸入国ノ統計ニ拠ル方實際ニ近カル可シト信スルヲ以テ右ノ方法ヲ以テ兩國間ノ輸出額ヲ対照スルトキハ我對独輸出額ハ彼對日輸出額ノ約三割五分ニ當リ又我對独輸出額ハ本邦ノ海外全輸出額ノ三分ヲ占ムルニ反シ独ノ對日輸出額ハ其全輸出額ノ一分四厘ヲ占ムルノ事實ヲ見ル左レハ若シ單ニ輸出額ノ多少ヲ以テ利害關係ノ程度ヲ算定シ得可キモノトセハ独逸ノ對日貿易ノ利害關係ハ我ノ對独貿易ニ比シ約三倍半多キ割合ナルモ兩國ノ輸出額ト其全輸出額トノ前記割合ヲ対照スルハ我對独輸出カ我輸出貿易全体ニ及ホス影響ハ独ノ對日輸出カ同國輸出貿易全体ニ及ホス影響ニ比シ二倍以上ノ割合ナル事ハ左記ノ統計表ニ徴シテ明カナリ

對独輸出入最近三ヶ年間ノ統計

四〇年 四一年 四二年 三ヶ年間

我国全輸出額ニ對スル割合

日本ヨリ	我統計	一、一七三、七四〇	七、八六六、五九六	七、九五五、〇六〇	九、〇〇八、一三三
輸出	独統計	一三、九〇四、七六二	九、〇四七、六二九	一三、九六四、七六一	一三、二八五、七五五
		(二九三〇萬麻)	(一九〇〇萬麻)	(二九三〇萬麻)	(三三三〇萬麻)
		ノ換算	ノ換算	ノ換算	ノ換算

(我輸出三年平均 四〇四六三萬六七七)

独ノ全輸出額ニ對スル割合

独逸ヨリ	我統計	四七、六二〇、九四四	四六、二五〇、八四八	四〇、二二七、五三六	四六、六六一、一五九
輸入	独統計	四八、七六一、九〇四	四五、〇四七、六二九	四六、九五三、三八〇	四三、五七三、〇一一
		(一億二四〇〇萬麻)	(九四四〇萬麻)	(九七六〇萬麻)	(七七六〇萬麻)
		ノ換算	ノ換算	ノ換算	ノ換算

(独輸出額三年平均 三億四八七萬七四六〇)

備考 換算率ハ壹円ニ付式麻拾布

一 我對独輸出重要品ノ種類

(独逸統計ニ拠ル輸入額順序ニヨル)

我對独輸出重要品中羽二重樟腦ハ四百萬麻以上銅ハ式百萬麻以上、麥稈真田、魚油及鯨油、生絲、經木真田ハ百萬麻以上、毛皮八十萬麻以上、木蠟、寒天、磁陶器、青銅製品、沃度米ハ廿萬麻以上糸瓜、貝製鈕釦、竹材、羽毛、絹製手

巾ハ拾萬麻以上漆器及扇子团扇等ハ拾萬麻以下ノ額ヲ示ス

右二十二品中磁陶器、貝製鈕釦、絹製手巾、漆器及扇子、团扇ノ五品ハ全製品ナレトモ其他ノ十七品ハ半製品粗製品若クハ原料品ナリ而カモ此全製品ノ輸出額ハ合計二百二十萬麻余ニシテ羽二重、樟腦等各一品輸出額ノ約半額タルニ

過キス左レハ我对独輸出品ハ大体ニ於テ半製品、粗製品若クハ原料品ナリト云フヲ得可シ

次ニ各品ニ就キ独逸ノ統計ニ拠ル我輸出額及其独逸全輸入額トノ割合、我統計ニ拠ル輸出額及各品ノ我全輸出額トノ割合、競争品又ハ代用品ノ有無、税率關係及各品従来發展ノ状況及將來ノ見込等ニ付左ニ之ヲ記述スベシ但シ左記各品ニ対スル輸出額ハ最近三年間ノ平均価額ヲ示シタルモノナリ

羽二重

税率 従来国定百基三百麻ナリシカ近来

千麻乃至千五百麻ノ課税ヲ為ス税

関アリ

当国へ輸入額四百三十八萬式千麻ニシテ全輸入額ノ九割ニシテ本邦重要輸出品中ノ首位ヲ占ム英仏兩國ヨリ類似品ノ輸入多少アレ共到底本邦製ト競争スルノ能力ナシ千八百九十七年ニ於テハ輸入額近々四十一萬五千麻ニ過キサリシカ漸次多キヲ加ヘ昨年ニ至リテハ實ニ四百九十一萬麻ニ達セリ羽二重ハ直接当国へ輸入セラル、モノノ外英國又ハ瑞、伊等ノ諸國ヨリ間接ニ輸入セラル、モノ頗ル多ク少クトモ數百萬麻ナル可シトノ説ナリ本品ハ当国へ輸入後クレイフエルド、フオーウインケル其他南独地方ニ於テ染メ上ケノ

リテ遂ニ十年前ノ額ニ下レリ

右ノ趨勢ナルヲ以テ他ニ何等特別ノ事由ナケレハ發達困難ナル可シ

一 銅 無税

我輸出額二百二十二萬全輸入額二億八百九萬六千麻ニ對シ一分強ニスキ最モ多額ニ輸入スルハ米國ニシテ一億七千六百七十七萬余麻濠州ハ約我三倍英國ハ少シク我ニ超ヘ西國ハ約我半額ヲ輸入ス

独逸統計表ニ拠レハ本品ハ千八百九十七年ヨリ千九百〇三年迄ハ漸次増加ノ傾アリシカ千九百〇四年頃ニ七十五萬麻ニ減シ翌年ハ皆無輸入ナク千九百〇七年ニ至リ五百五十萬麻ニ上リタルモ翌八年ニ至リテ七十三萬麻ニ減シ昨年ハ更ニ三十三萬麻ニ下レリ千八百九十七年以來ノ統計ニ拠ルニ毎年輸入額ノ高下甚シク又我統計表ニ拠レハ五年以來漸々減少シツ、アリ本品ハ市價ノ變動激甚ナルカ為メ容易ニ其將來ノ趨勢ヲトスル專能ハサルモ我对独主要貿易品ノ一タルヲ失ハス

一 麦稈真田 無税 拘束(伊)

我輸出額百六十四萬六千麻ニシテ全輸入五百萬麻ニ比シ三割三分ナリ競争國ハ清、英、伊、瑞等ニシテ清國ハ二

上之ヲ市場ニ出スノ商價ナリ当國ニ於テモ羽二重類似ノ絹織物製産セラル、モ價ノ廉ナル点ニ於テ到底羽二重ニ及ハサルカメ従来本品ハ薄地絹物中一種獨特ノ位置ヲ占メ居リシカ絹織物製造業者ヨリ内國産保護ノ為メ関稅法規ノ施行ヲ其筋ニ迫リタル趣ニテ過般來薄地物ニ對スル関稅即チ千麻乃至千五百麻ヲ課シタル事情ハ從來屢及報告置候通ナルカ故ニ此儘ニ推行カハ羽二重ハ到底独逸産薄地絹織物ト競争スル專能ハスシテ將來非常ニ輸入額ヲ減スルカ或ハ全ク輸入ノ杜絶ヲ見ルニ至ル可シ要スルニ羽二重ノ税率過重ハ我对独輸出貿易上重大ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ右ニ對シテハ善後策ヲ講セサル可カラス委細ハ別信十二月廿八日付條機第十六号ニ就キ了承有リ度シ

一 魚油及鯨油 国定百基 三麻

我輸出額八百二十九萬九千麻ニシテ全輸入額七百貳拾五萬麻ニ對シ一割八分ヲ占ム本品ヲ最モ多額ニ輸入スルハ那威ニシテ四百四十萬麻即チ六割二分、英國之ニ次キ百三十二萬式千麻即チ一割八分、昨年ノ輸入額ハ百一十一萬九千麻ニシテ十年前以前即チ千九百年ノ輸入額ト略同シ千九百年ニハ百七十五萬麻ヲ超ヘタルモ漸次減少ノ傾ヲ生シ千九百六年ニ至リテ少シク増加シタルモ以後年々減少シテ昨年ニ至

百七十二萬三千麻ヲ輸出シテ全輸入額ノ約五割九分ヲ輸入ス

此品ノ輸入ハ三四年来減少ノ傾キアリ其ノ主タル原因トシテ当業者ハ種々ノ事項ヲ挙テ就中欧州ノ嗜好ヲ察セスシテ粗製濫造シ契約履行ヲ怠リ引渡ノ時期ヲ過ル等ヲ以テ我カ真田織取引ニ對スル嫌惡ノ念ヲ生シタルモノナリト思惟セリ(四十二年四月十五日付公第四三三号参照)此等諸般ノ弊ヲ除去セハ儘ニ十分發達ノ見込アリト信セラ

一 経木真田 税率国定 二麻

協定埃甸 一麻

伊染メサルモノ 一麻
伊染メタルモノ 二麻

輸出額無色百二萬八千麻、独ノ全輸入額二百五十一萬七千麻ニ對シ四割一分、競争國ハ伊、埃甸國ニシテ伊ノ輸入額ハ約五割ナリ近年我輸出額ハ漸次増加シ昨年ハ頗ニ増シテ百五十萬麻ヲ超ヘタリ若シ麦稈真田ニ關スルト同様ノ弊ヲ除去セハ發達ノ見込アラシ

一 樟腦 無税

輸出額四百三十四萬四千麻ニシテ全輸入額五百四十八萬

四千麻ニ対シ八割ナリ、英、伊、清ハ我ニ次ク輸出国ナ
レトモ合計五十九萬麻ニ過キス要スルニ本品ハ我特有輸
出品ニシテ千九百年ヨリ千九百六年迄八年々約百萬麻
ツ、当国ヘノ輸入ヲ増加シ千九百七、八年兩年ニ於テハ
二百萬麻ツ、遞減シテ三百萬麻ニ下リシカ昨年ニ至リテ
四百六十八萬円ニ増加セリ当国ニ於テハ人造樟腦製造セ
ラルト雖トモ未タ以テ天然品ト拮抗スルニ至ラサルヲ以
テ当分ノ間ハ当国ノ販路ヲ失フコトナカラン、本品ニ関
シテ注意スヘキハ輸出入額ノ彼我統計ニ大ナル差異アル点
ニ在リ即チ最近三箇年間ノ平均輸入額ハ我統計ニ從ヘハ
僅ニ七萬余円ニシテ独統計四三四萬麻ニ對シ非常ノ逕庭
アルヲ見ル

一、毛皮

無税

我輸出額ハ八十萬七千麻ニシテ本品独逸輸入全額ハ一億
〇九百二十萬麻ノ巨額ナリ本品ノ主ナル輸入国ハ北米合
衆國ニシテ其額ハ六千九百萬麻ニ上リ歐露ハ四千二百萬
麻、濠州ハ千百萬麻ニシテ「アルゲンチン」ハ我ト伯仲
セリ

本品ハ相場ノ高低甚シク且ツ其輸出品ノ品質モ毎年異ル
ヘキヲ以テ輸出ノ数量ト金額トハ併行セサルコト多ク千

磁器

一色モノ

国定

十四麻

彩色モノ及

協定(埃)

十麻

食器

国定

三十麻

裝飾品

協定(埃)

二十麻

協定

国定

三十麻

協定

協定

二十五麻

本品各種輸出合計二十五萬一千麻ニシテ右ノ中稅番七三
三ニ相当スル彩色セルモノ又ハ食器等ハ十七萬九千麻ニ
シテ此部ノ独逸全輸入額百一萬八千麻ニ對シ一割八分ナ
リ、又同稅番裝飾品ハ二萬八千麻ニシテ十七萬一千麻ノ
独逸全輸入ニ對シ一割六分ナリ

本品ノ競争國ノ第一ハ埃國ニシテ全輸入額ノ四割以上、
仏ハ一割二分、英ハ六分ナリ

磁器陶器ノ輸入額ハ此四五年増加ノ傾向ヲ示シツ、アル
ヲ以テ目下埃ノ協定稅率ニ均霑スル間ハ現状維持ハ容
易ナルヘシ本品ニ関スル彼我統計最近三ヶ年ノ統計ハ非
常ニ差違アリ即チ独統計ノ二十五萬一千麻ニ對シ我統計
ニ依リテ計算スレハ約二十萬円ナリ

一、貝製鈕釦

国定 二〇〇麻

協定(埃) 一五〇麻

八百八十七年以来当国ノ統計ニ依レハ高低ノ変化甚シ但
シ千九百六年以来漸次増加ノ一方ニ向ヘルヲ以テ其趨勢
ヲ以テ推セハ本品ノ將來ハ可ナリ良好ナリト謂フヘシ
一、木蠟 国定 十五麻
輸出額四十萬六千麻、独ノ本品輸入全額四十四萬三千麻
ニ對スル九割二分ニシテ本邦品ノ独舞台ナリ、輸入額ハ
十年以来概シテ増加ノ傾向ヲ有シ且ツ本邦ノ特産ナレハ
將來十分ノ見込アルモノト思惟ス

一、磁器及陶器

本品ノ稅率ハ非常ニ復雜ニシテ其種類ニ依リテ稅率ヲ異
ニセリ

陶器

一色モノ

国定

十麻

數色ノモノ若ハ裝

協定(埃伊)

八麻

飾品

協定(埃伊)

二十五麻

其他ノモノ

国定

十六麻

諸種ノ陶器ニシテ

協定(伊埃)

十六麻

高キ稅ヲ課セラレ

国定

二十五麻

サル他品ト結合シ

協定(埃)

拘束

タルモノ

輸出額十五萬九千麻ニシテ独ノ全輸入額百四十七萬一千
麻ニ對シ一割一分ナリ其約八割ハ埃國ノ輸入ニ係リ仏國
ハ約我半額ヲ輸入スルニ過キス

我統計ニ依レハ三十六年ヨリ拾萬円以下ニ下リタルハ三
十八年ノミニシテ最近三箇年ノ平均額約二十萬円ナルヲ
以テ独逸ノ統計十五萬九千麻ニ比シ非常ニ逕庭アリ要ス
ルニ本品モ現状維持ニ容易ナルヘシト信ス

一、絹製手巾

国定 八〇〇麻

但シ縁ヲ取リタルモノハ五

分ヲ増ス

協定 (八四〇麻)

同上(四七六麻五十布)

本品ニ對スル稅率ハ原地絹織物ニ對スル稅率ニシテ甲斐
絹、絹製リボン及絹製手巾モ此稅率ヲ課セラル輸出額ハ
我統計ニ依レハ手巾而已ニテ十六萬円以上トナレトモ独
逸ノ統計ニテハ甲斐絹其他ヲ合シ僅カニ十二萬二千麻ニ
過キス之レ一ハ絹製手巾中刺繡ヲ施シタルモノハ刺繡若
クハレース製品ノ課稅ヲ受クル為メナレトモ其額ハ僅少
ナルヲ以テ彼我統計ノ差異ノ重ナル原因ハ之ヲ他ニ求メ

サルヘカラス当地ノ本邦品輸入業者ノ説ニ依レハ絹製手巾ハ近年流行セス從テ景氣思ハシカラサル由ナリ

- 一、漆器 国定 三六麻
- 協定(伊) 三〇麻

漆器ハ税番六三一、木製品中ノ一部トシテ課税セラル
独逸ノ輸出ノ漆器ハ我統計ニ依レハ最近三箇年平均十六萬三千余円ナレトモ独ノ統計ニテハ漆器ノ屬スル裝飾木製品總体ヲ合スルモ二十二萬九千麻ニシテ漆器トシテ課税シタリト信セラル、部分ハ五萬麻ニ過キス之レ一ハ漆器ト雖トモ其ノ結合物質ノ如何ニ依リ高率ノ課税ヲ徵セラル、モノ少ナカラサルニ由ル

裝飾木製品中本邦輸出ノ最モ多額ナルモノハ寄木細工ニシテ其額ハ十一萬六千麻ニ上リ全寄木細工輸入ノ七割四分ヲ占ムルハ注意スヘキコトナリ我貿易年表ニハ寄木細工ノ名称ナシ

漆器カ我國特有産ナルハ勿論当国ヘノ輸出ハ三十九年以後ニ至リ其以前ニ比シ著シク其額ヲ増加シ当地輸入業者ハ現行ノ税率ニテ格別苦痛ヲ感セスト言ヒ居レリ左レハ当国ニ於ケル漆器ノ將來ハ有望ナラント思ハル

- 一、寒天 国定 十麻

メ覚悟セサルヘカラス

- 一、米 玄米 国定 四麻
- 協定(伊) 拘束
- 精米 国定 六麻
- 協定(伊、勃) 四麻

我輸出額ハ玄米十八萬六千麻、精米六萬二千麻合計二十四萬八千麻ニシテ玄米ノ輸入金額ハ四千六百萬麻ノ巨額ナリ

右ノ内英領印度ヨリ入ルモノ其半以上ヲ占メ暹羅及仏領印度之ニ次ク而シテ精米ノ輸入モ二十萬麻以上ニシテ和蘭二割五分ヲ以テ首位ヲ占メ暹羅及英領印度之ニ次ク本邦輸出額ハ此等諸国ニ比シ所謂九牛ノ一毛ニ過キササルノミ乍併最近三箇年間ニ於テハ漸次輸入額ヲ増シタルヲ以テ少ナクトモ現状維持ハ困難ナラサルヘシ

- 一、薄荷腦及薄荷油 国定 三十麻

我輸出額ハ九十二萬九千麻ニシテ独逸全輸入額ノ一割ナリ競争国ハ仏、英、米、英領印度及清等ニシテ仏国ハ約三割ヲ輸入ス千八百九十八年ヨリ千九百四年迄ハ順次当国輸入ノ数量ヲ増シ百萬麻ヲ超ヘタリシカ爾來昨年ニ至

当国ヘノ輸出額二十八萬麻全輸入額五十六萬一千麻ニ比シ五割余ナリ、露国ハ本邦ニ次キ多額ニ輸入スレトモ尙ホ十六萬三千麻ニ過キス而シテ彼我統計何レニ拠ルモ近年漸次輸入額ヲ増加シ來レリ將來有望ノ特産品ナリ

- 一、糸瓜 無税
- 協定(壤) 拘束

独逸ノ統計表ニ於テハ糸瓜ハ蘇鉄葉及ヒ其他線維性ノ物品ブラシノ原料トナルモノ等諸種ヲ合記シアリテ糸瓜ノ輸入額ヲ詳細ニ知リシ難シ即チ糸瓜ノ外此等諸種ノ原料品合計ハ十八萬八千麻ナリ我統計ニ拠レハ糸瓜ハ九萬四千円ナリ此品ハ四五年来頓ニ当国ヘノ輸入ヲ増シ我統計ニ拠レハ四十一年ノ八萬三千円ニ対シ四十二年ニハ十三萬八千円ニ上リ独ノ統計ニ依レハ十五萬四千麻ヨリ二十萬七千麻ニ上レリ尙ホ右ノ外倫敦ヨリ当国ヘ輸入セラル、額モ少カラスト云フ、又此品ハ他ニ競争ナク「ブラジル」ニ於テ試作シタルモノヲ当国ノ市場ニ上セタルコトアルモ品質ノ粗ナルカ為メ我産ニ敵スヘクモアラサルヲ以テ此品ハ將來非常ニ有望ナリ

但シ本品ノ如キハ必要品ナルニアラス他ニ代用品多敷アルヲ以テ販路ノ開塞ハ主トシテ価ノ高下ニ在ルコトハ豫ル迄四箇年間ハ八九十萬麻ノ間ニ在リ現状維持ハ困難ナラサルカ如シ

- 一、生糸 無税
- 協定 拘束
- (勃、希、伊、瑞西)

我輸出額百二十三萬五千麻ニシテ全輸入額一億四千五百萬麻ニ対シ八分ニ過キス競争国ハ伊、仏、瑞西、壤匈、清、英等ニシテ伊国其ノ首位ヲ占メ約九割ハ同国ノ輸入ニ係ル

我統計ニ拠レハ生糸ノ輸出ハ殆ント皆無ナルニ独逸ノ統計ニ拠レハ四十年ニハ三十七萬七千麻、四十一年ニハ四十三萬八千麻、又四十二年ニ至リテ二百九十萬麻ニ上レリ而シテ最終年ニ頓ニ増加シタルハ必スシモ輸入額ノ劇増シタルニアラス生糸ノ生産地調査ノ方法改良サレタル結果ニ他ナラス從來我生糸ハ間接ニ当国ヘ輸入セラレタルモノ多ク就中伊、瑞西等ニ於テ本邦生糸ヲ投機的ニ買入レ後ニ之ヲ独逸ニ輸入スル額ハ決シテ僅少ニアラサル由ニテ当地商業會議所某法律顧問ノ説ニ依レハ此額ハ少クトモ一千萬麻ニ上ルトノコトナリ果シテ然ルヤ否ハ判明セスト雖トモ原産地調査方法ノ改良ニヨリ一昨年ノ

四十萬ニ對シ昨年ハ二百九十萬ニ上リタル点ヲ見テモ如何ニ巨額ノ本邦生糸カ從來伊瑞國等ノ生産トシテ独逸ヘ輸入セラレ居リタルカラ推知スルニ足ルヘシ

一、扇子及团扇

全部若クハ一部駝鳥ノ羽入ノモノ 国定 六百麻

絹レース、刺繡又ハ駝鳥以外ノ羽製ノモノ但シ其物品ノ為メニ高率ノ課税ヲ受ケサルモノ 協定 二百麻

其他ノモノニシテ結合ノ物品ノ為メニ高キ課税ヲ受ケサルモノ 協定 二百麻

(塊) 拘束

レース及刺繡製ノ部ニ屬スルモノハ千麻ニシテ輸入金額ノ一割二分又其他ノモノ即チ本邦紙製ノモノ等ハ七千麻ニシテ金額ノ七分ニ當ルニ過キス而シテ塊洪国ノ輸入額ハ五割以上ナリ

我統計ニ拠レハ本品ノ輸出金額最近三箇年間ノ平均ハ約百萬円ニシテ独逸ヘ輸入額ハ七萬四千余円即チ独逸統計ニ對シ約十倍ナリ其理由ノ主ナルモノハ

一 扇子及团扇中ニハ結合物ノ如何ニ依リ他ノ税率ヲ適

我輸出額十一萬三千麻ニシテ独ノ全輸入額ハ三十九萬一千麻ニ對シ三割ナリ近年漸次發達ノ傾キアリテ競争少キヲ以テ将来ニ於テモ有望ナリ

一 羽毛

寢具用粗製 国定 二麻

協定 (勃、伊、塊匈、露、塞) 無税

其他ノモノ 三麻

我輸出額各種合計十二萬麻ニシテ独ノ全輸入額ハ約三千萬麻即チ我輸出額ハ二百五十分ノ一ニ過キス競争國中首位ヲ占ムルモノハ塊匈国ニシテ仏、露、清、アルゲンチーン及ヴェネヅエラモ亦盛ニ輸入セリ本邦商人ハ註文ノ度毎ニ價格ヲ引上クルモ若シ此事ナクハ鷗ノ羽ノ輸入ハ増加スヘントハ當業者ノ說ナリ

一 沃度 粗製

無税

我輸出額ハ二十五萬麻ニシテ独ノ本品全輸入額四百二十六萬麻ニ對シ六分ナリ輸入額ノ首位ヲ占ムルハ智利ニシテ英、那兩國之ニ次ク、沃度ハ明治三十八年以來外國ヘ輸出セラレタルモノニシテ本邦ノ統計ニ依レハ獨逸ヘノ輸入額十萬円ニ達シタルコトナク昨年ノ輸出額ハ僅ニ二萬四千円ニ過キス然ルニ獨ノ統計ニテハ二

用セラル、モノアルコト

一 扇子又ハ团扇トシテ課税セラル、モノハ半徑十以上四十五「サンチメートル」以下ノモノニ限リ半徑十五「サンチメートル」以下ノモノハ器具トシテ又四十五「サンチメートル」以上ノモノハ各其物資ノ如何ニ依リ例ヘハ紙ナレハ紙製品ノ税率ヲ適用セラル、コト

一 輸出ノ際我國ノ税関ヘ告知シタル仕向地ハ独逸ナルモ途中若シクハ独逸国ヘ着後保税倉庫ヨリ他國ヘ輸出シタルモノアルヘキコト

独逸統計中扇子及团扇ノ屬スル輸入品目中ニハ裝飾用羽、頭髮及帽子等ヲモ含有スルニ付詳細ノ調査ハ困難ナルモ純輸入ト總輸入トノ差ハ最近二年共倍以上例ヘハ昨年ニ於ケル此品目ノ純輸入ハ二百十九萬麻ニシテ總輸入ハ五百八十六萬麻ナルヲ以テ見ルモ前記ノ推測ヲ為スノ余地アルカ如シ

要スルニ本品ハ一種ノ我特産ニシテ紙張ノモノニ對シテ當業者ハ輕税ヲ希望シ居レトモ現今塊ノ協定税率ニ均霑シ居ル間ハ現状維持ハ左程困難ナラサルヘシ

一 竹材 無税

十一萬四千麻ニシテ彼我ノ統計ニ非常ナル差異アリ

一 青銅製品 国定 六十麻

協定 (勃、塊) 拘束

我輸出額二十三萬二千麻ニシテ全輸入額百九十六萬麻ニ對シ一割二分ナリ仏、塊、伊、英、米ハ競争國ニシテ仏ノ輸入額ハ約三割ナリ本品ハ近年漸次發達ノ傾アリ

右ノ外現今ノ輸入額僅少ナルモ将来發達ノ見込アルモノヲ挙クレハ

一 醤油 国定 七十五麻

現今輸出額ハ極メテ少ク最近三箇年ノ統計ハ平均一萬一千麻ヲ示スニ過キス本品ハ他ノ奢侈的嗜好物ト同様百基七十五麻ノ関税ナルヲ以テ醤油ノ價ヨリ関税ノ方高キ結果トナル当地日本品輸入商レックス、ウインド、コンパニーハ醤油三十樽ヲ輸入シタルニ此関税ハ四百八十六麻五十布ニシテ醤油ノ原價ハ二百卅四円ナリシト當國ニ於テハ醤油ノ名ハ疾クニ知レ渡リ居ルヲ以テ若シ市價廉ナルニ於テハ漸次一般ノ嗜好ニ投シ意外ノ販路ヲ開始スルニ至ルヤモ計リ難シ現ニ現今ノ高税

率ニ係ラス二三ノ商人ハ本邦ノ醬油会社ト特約シ醬油ノ販売ヲ試ミントスルモノアルヲ見テモテ醬油ノ販路ハ将来發展ノ見込アリト云フヲ得ヘシ

其他尙ホ從來当国ヘ輸入セラレタルモノニシテ千九百六年関税法ノ改正以來過重ノ関税ノ為メ輸入ヲ減少シ若クハ苦闘シツ、アルモノアリ其例ヲ挙クレハ左ノ如シ

縫取屏風 千二百麻

縹子又ハ絹ニ縫取セル屏風ハ以前ハ一廉ノ輸出品ナリシカ家具ト看做サレ百二十麻ノ関税ヲ課セラレタリ然ルニ千九百六年現行関税法施行以來刺繡ヲ施セル屏風ハ全体ノ重量ニ從ヒ刺繡ニ対スル税率千二百麻ヲ課税セラル、ニ至リタル結果例ヘハ原価六円ノモノニシテ約五拾麻即チ原価五倍以上ノ苛税ヲ課セラレタルコトアリタリト云フ從テ廉價屏風ノ輸入ハ殆ント其跡ヲ絶ツニ至リタリ

第一無税品

品名	我輸出額(麻ハ日統計)
樟腦	四三四、四〇〇〇麻
銅	七四、〇九二三元
	四三三、四〇〇〇麻
	一四七、三三四二元

品名	獨輸入金額	日輸出金額
花菱粗製	五四八、四〇〇〇麻	三五一、九八八九円
粗製ニ非サルモノ	二、〇八九、六〇〇〇麻	二、〇八九、六〇〇〇麻
	一三三、五二、九六九六円	一三三、五二、九六九六円

此品ハ当国ヘノ輸入未タ多カラスト雖トモ近年漸次其額ヲ増セリ然レトモ税率百基ニ付二十四麻ハ特ニ廉價ノモノニ對シテハ頗ル苛重ナリ此ノ如キ関税ノ下ニ大ニ輸入額ヲ増加スル見込ナシ花菱ハ当国ニ於テハ床敷洗面台ノ前敷籠類製作等ニ使用セラル、ヲ以テ從來ノ通り普通ノ産トシテ三麻ノ関税ヲ課セラル、ニ於テハ大ニ發展ノ見込アリトハ当業者ノ説ナリ

明治四十、四十一、四十二、三ヶ年ノ平均

獨輸入金額 拘束ヲ協定シタル国名 獨輸入金額百分比 日輸出金額 日輸出金額百分比

麦稈 真田 (晒ラサルモノ) (染メサルモノ)

一六四、六〇〇〇麻 九〇、〇九二一元

五〇〇、〇〇〇〇麻 三九〇、六五六三元

伊

三割三分 二割三分

生糸

一三三、五〇〇〇麻

一、四五二四、一〇〇〇麻

瑞勃、希、伊、西

八分弱

染メサルモノニシテ一度撚リノモノ又ハ撚ラサルモノ

二、三六〇二元

一、一六五四、六九三九円

二毛

沃度

二五、〇〇〇〇麻

四二六、五〇〇〇麻

六分

糸瓜

四、〇七五〇円

八、六八八七円

四割六分九厘

竹材

一九、七四〇〇麻

不明

不明

毛皮粗製

九、三八七六円

一六、一五二九円

五割八分強

右八品合計

獨統計 千二百九十二萬六千四百麻

日統計 三百五十一萬二千〇卅三元

勃塊

一割二分六厘

重要品廿二品總計

獨統計 二千二百四十一萬五千四百麻

日統計 七百五十二萬二千四百八十三円

勃塊

一割七分

(我輸入品統計二千九百廿萬麻ニ對シ八割強)

獨統計 二千二百四十一萬五千四百麻

日統計 七百五十二萬二千四百八十三円

對独交渉 四三七

第二 国定税率適用ノ物品

品名	我輸出額(円、日統計)	独輸入金額	税率	独輸入金額百分比比例
羽 二 重	四三八、二〇〇〇麻	四八五、〇〇〇〇麻	三〇〇麻	九割
魚油及鯨油	一四二、三五〇二円	二七六、一五三〇円	三麻	五分一厘
薄荷腦及薄荷油	一二九、九〇〇〇麻	七二五、〇〇〇〇麻	三〇麻	一割八分
木 蠟	九一、二二八一円	二四五、二九四一円	三〇麻	三割七分
寒 天	九二、九〇〇〇麻	九二七、八〇〇〇麻	一〇麻	一割
右五品合計	一四、八六九一円	七二、七二〇七円	一五麻	二割強
獨統計	四〇、六〇〇〇麻	四四、三〇〇〇麻	一〇麻	九割強
日統計	一七、五六〇八円	一一二、七七三五円	一〇麻	一割五分
獨統計	二八、〇〇〇〇麻	五六、一〇〇〇麻	一〇麻	五割強
日統計	一四、四一四七円	一一一、七三五七円	一〇麻	一割二分

協定税率ノ適用ヲ受クルモノ

品名	我輸出額(円、日統計)	独輸入金額	税率(協定税率)	独輸入金額百分比比例
経木真田(無色)	一〇二、八〇〇〇麻	二五一、七〇〇〇麻	協(塊、伊) 一麻	四割一分
磁器及陶器	一一、九一一七円	九八、三一四八円	協(塊、伊) 一麻	二割二分

青銅製品	一三、二〇〇〇麻	一九六、〇〇〇〇麻	協(白、塊) 六〇麻	一割二分
米	六、四四八二円	三一、七二九一円	協(白、塊) 六〇麻	二割強
貝製鈕釦	一五、九〇〇〇麻	一四七、〇〇〇〇麻	協(塊) 一五〇〇麻	一割七分
羽 毛	一九、八〇七五円	五五、四四六四円	協(塊) 一五〇〇麻	三割強
寝具用其他ノモノ	一、〇〇〇〇麻	二九、九一、六〇〇〇麻	協(塊) 二麻	三百五十六ノ一
絹製手巾	四、二四九八円	一五、九八八六円	協(塊) 三麻	二割六分強
漆 器	一六、二五五二円	四三三、九一五九円	協(塊) 三六麻	三分七厘
漆 器	五、〇〇〇〇麻	一一七、八八三三円	協(塊) 三六麻	一割四分弱

見積リ	一〇、〇〇〇〇麻	不 明	協(塊) 三六麻	七八一
見積リ	一六、一二二五円	一一七、八八三三円	協(塊) 三六麻	七八一
見積リ	一六、二五五二円	四三三、九一五九円	協(塊) 三六麻	七八一

扇子及田扇 一五、〇〇〇〇麻 一一七、六〇〇〇麻

全部若クハ一部駝鳥ノ羽入りノモノ六〇〇〇麻 其他ノモノ

第二種国産協塊三〇〇麻 第三種国産協塊三〇〇麻

七、四三三三円 九七、三一六二円

第一種 七分六厘 第二種

此九品合計

独統計 二百十九萬三千麻

日統計 百貳拾萬六千貳百貳拾一円

前記我輸出重要品ノ均霑スル税率ヲ協定シタル国ハ塊、伊、瑞西、露、羅、塞、白、希、ノ七国ニシテ内独希條約ハ一八八四年ノ締結ニ係ハリ十ヶ年ヲ期限トシ十二ヶ月前ノ廢棄通告ヲ以テ消滅スル規程ニシテ今尙有効ナレトモ何時廢棄ノ通告アルヤ知ル可カラス尤モ独希條約ハ生糸ヲ無稅ニ拘束シアアルノ外我重要輸出品ニ關係ナク而シテ生糸ハ伊、瑞西等モ之レヲ拘束シ居ルヲ以テ独希條約ハ我ニ利害關係ナシ將又独逸カ其他ノ六国ト締結シタル現行條約ハ何レモ千九百十七年十二月末日ヲ以テ期限トスルモノナルヲ以テ若シ新條約ニ於テ最惠國待遇ヲ約定セハ同年迄ハ從來通り依然此等諸國ノ協定シタル税率ニ均霑スルヲ得可シ然レ

共此種物品ノ我輸出額ハ僅カニ二百二十萬麻ニ過キササルヲ以テ均霑ノ利益ハ極メテ微々タルモノナリ 一、我对独貿易ノ關係ヲ見ルニ我輸出額ハ彼ノ輸入額ニ比シ三割五分ニ過キスシテ彼我物品ノ種類モ亦大体ニ於テハ全製品ト原料品トノ相違アルヲ以テ正確ニ彼我ノ間ニ利益交換ノ標準ノ基礎ヲ求ムルコト頗ル困難ナル問題ナルモ独逸ノ關稅輕減若クハ拘束ノ結果我ノ享受スベキ利益ヲ考量シ之ヲ標準ト略ボ同程度ニ我關稅率ノ輕減又ハ拘束ニ因ル利益ヲ彼ニ与フルヲ以テ關稅協定ノ基礎トスルコト最モ簡易ノ方法ナルヘシ今試ミニ本邦ノ对独輸重要品中協定ヲ利益トスルモノヲ挙クレハ左ノ如シ

一 羽 二 重

輸出額ニ於テ最高位ヲ占メ將來發展ノ見込十分ナルモ輒近当国ニ於テ本品ニ對スル課稅率ノ解釈ヲ變更シ關稅法規ヲ勵行シタル結果現ニ千麻乃至千五百麻ノ苛稅ヲ負フニ至リタル事情ハ曩ニ述ヘタル通り若シ此儘ニ放擲セハ本品ノ輸出ハ或ハ当国ニ其跡ヲ絶ツニ至ラン故ニ關稅協定問題起テハ第一ニ本品ノ稅率ヲ從來ノ三百麻以下ニ低減スルカ然ラサレハ尠クトモ三百麻ニ拘束スルコト肝要ナリ羽二重ニ對スル課稅ヲ輕減スル利益ハ他ノ輸出額少キ輸出品數種ニ對スル稅率ヲ輕減セシムル利益ニ比シ更ニ一層大ナルヲ以テ此点ニ十分重キヲ措キ是非共之ヲ貫徹セザルベカラス 今日迄ノ成行ヲ以テ見レハ当国政府ハ從來羽二重ニ適用シタル稅番四〇一ヲ以テ我輸出羽二重ニ適用ス可キモノニアラスト解釈スルモノト解スルノ外ナキヲ以テ此際我ニ於テハ羽二重ノ他種織物ト製作上差異アル特殊ノ点ヲ拳々特ニ一項又ハ例外ノ規定ヲ設ケ凡ソ羽二重ナルモノハ必ス之ニ依リテ課稅セラル、モ羽二重以外ノモノハ此部ニ含マサル様取極ヲ為スヲ可トス

一 經 木 真 田

小村外務大臣時代 対独交渉 四三七

我輸出額百萬麻以上ニシテ独ノ全輸入額ノ四割一分ハ我輸入ニ係ルモノナレハ稅率式麻ヲ兩國ノ協定通り老麻ニ協定スルヲ可トス

一 木 蠟

現在ノ我輸出額ハ四〇萬麻ニ過キササルモ本邦産ハ当国輸入全額ノ九割二分ヲ占ムルヲ以テ協定ノ目的物トナリ得ヘシ稅率十五麻ヲ無稅又ハ成ルベク低率ニ協定スルヲ可トス

一 寒 天

我輸出額二十八萬麻輸入全額ノ五割以上ヲ占メ將來發展ノ見込ナキニアラサレハ是亦一ノ協定品タルヲ失ハス但現在十麻ノ稅率ヲ無稅ニ協定スルコトハ露国其ノ他ノ國ノ均霑ノ程度ニ願ミ頗ル困難ナルヘシ

一 生 糸

我統計ニテハ最近三年ノ平均輸出二萬余円ニ過キササルモ独ノ統計ニテハ百二十三萬余麻ナルコトハ前述ノ如シ無稅ナレトモ勃、希、伊、瑞西等ハ之ヲ拘束シ居レリ曩ニ述ヘタル通り生糸ハ間接ニ当国へ輸入セラル、モノナルヲ以テ日独新條約ノ期限千九百十七年以後ニ亘ル場合ニ對シ念ノ為無稅拘束ノコト安全ナルヘシ

一 樟 腦

我輸出額四百萬麻以上ニシテ輸入金額ノ八割三分ヲ占ム
目下人造樟腦ハ競争能力ナシト雖当国化学工業ノ進歩計
リ知ルヘカラサルヲ以テ念ノ為之ヲ拘束スルヲ可トス

一 麦稈真田

我輸出百六十四萬麻ニシテ輸入ノ三割ハ我輸出ナリ無税
ナレトモ伊ハ之ヲ拘束シ居レリ

日独新條約ノ期限千九百十七年ニ亘ラハ念ノ為拘束シ置
クコト然ルヘシ

一 扇子及团扇

国定税率三百麻塊勾国トノ協定ハ二〇〇麻ナレトモ本邦
紙製ノ為特ニ紙製ノ一項ヲ設ケ三四十麻ヲ協定セハ紙製
扇ノ發展ヲ將來ニ期シ得ヘシ

一 刺繡屏風(繻子又ハ絹ニ縫取シタルモノ)

現行関税法執行以來屏風全体ノ重量ニ對シ刺繡製品ノ税
即チ瑞西トノ協定税率二二〇〇麻(国定ハ一五〇〇麻)
ヲ課セラレ為メニ上等品ヲ除クノ外著シク輸入ヲ減スル
ニ至リタルヲ以テ右ニ對シテハ絹 *lace* 及刺繡ヲ以テ張
リタル家具ヲ認メ六十麻ノ関稅ヲ課スルコトヲ要求スヘ
シ

テ之カ為或ハ談判ノ不調ヲ來シ日独兩國カ一時無條約ノ
關係ニ陥ルノ不得已ニ至ルカ如キ事之ナシトモ保シ難シ
ト雖トモ右以上ノ讓歩ハ相互的協定ノ畛域ヲ脱シ條約改
訂ノ精神ヲ没却スルニ至ルカ故ニ到底帝國政府ノ容認
スルコト能ハサル所ナルヘキヲ信ス今仮リニ上述ノ如キ
事態ニ陥リタリトセハ我カ对独通商關係ハ果シテ如何ナ
ル状態ヲ呈スルニ至ルヘキヤヲ講究シ置ク事此際必スシ
モ無要ノ業ニ非ラサルヘシ

一、無條約国間ニ存スル関稅關係ノ実例ヲ見ルニ英独間ニ
ハ現今通商條約ノ締結ナク且ツ英國ハ自由貿易主義ヲ執
ルヲ以テ独逸カ如何ナル重稅ヲ英國品ニ課スルモ英國ハ
報復ヲ為ス能ハサル地位ニアルニ係ラス独逸ハ英國品ニ
對シテ最惠國待遇ヲ与ヘ居レリ又独逸ハ葡國ト現條約締
結前迄ハ久シク無條約ノ關係ニ在リシカ相互一般税率
ヲ適用シタリ、独逸ト加奈陀間ニハ関稅戰爭七年ノ久シ
キニ亘リ加奈陀ハ独逸品ニ對シ一般税率ノ外三割三分ト
三分一ノ附加稅ヲ課シタルモ独逸ハ加奈陀ニ對シ一般
税率ヲ適用シタルニ過キス目下無條約国間ニ在リテハ英
独ノ如ク又仏白ノ如ク互ニ自國ノ立法ヲ以テ最惠國待
遇ヲ与フルモノアレトモ最モ普通ナルハ一般税率ノ適用

一 花 蕊

現行税率廿四麻ニシテ塊勾国ハ之ヲ拘束シ居レリ然レ共
此税率ヲ課セラル、モノハ主トシテ漆塗又ハ金銀塗ノモ
ノナルヲ以テ本邦輸出花蕊ニ對シ假令バ(粗製ナラザル
モ漆又ハ金銀等ヲ塗ラス単ニ磨揚ゲ模様アリ又ハ花形織
込ミタルモノヲ除ク)トノ意ヲ表明スル稅番五九一例外
トナル一項ヲ設ケ五麻位(粗製品協定税率ハ三麻ナリ)
協定スルヲ可トス

右ノ外陶磁器、青銅製品、貝製鈕、羽毛、絹製手巾ノ如
キモ若シ新條約期限一九一七年以後ニ涉ラハ現在ノ協定稅
率通り協定スルハ可ナリト雖右物品ハ執レモ輸出額少キ?
モノナルニ付此等多數ノ品目ニ對シ協定ヲ求メ為メニ独逸
國ヲシテ有耶無耶ノ間ニ税率ニ對シ比較的多大ノ輕減ヲ求
ムルノ原因トナルニ於テハ協定セサルヲ可トス又醬油ハ現
在ノ輸出額極メテ少額ナルモ曩ニ述ヘタル通りノ狀況ナレ
ハ現在ノ税率七十五麻ヲ十麻位ニ協定スルヲ得バ前段記載
ノ通り將來案外ノ發展ヲ見ルヤモ計リ難シ
一、上述ノ如ク我カ对独輸出品中協定ノ目的トナルヘキモ
ノハ僅々十指ヲ以テ數フルニ過キササルヲ以テ此程度マデ
独逸國ノ要求ヲ削減セシムルコトハ極メテ困難ノ業ニシ

ニシテ復稅制ノ國ニ在リテハ最高率ヲ適用スルヲ例ト
ス

以上叙述シタル無條約国間實際ノ関稅關係ニ鑑ミ且ツ日独
貿易關係ヲ詳細ニ比較シテ日独間無條約トナリタル場合ヲ
想像スルニ若シ兩國カ英独ノ如ク自國立法ノ作用ヲ以テ最
惠國待遇ヲ与フルカ如キ場合ニ於テハ其繼續スル間ハ殆ン
ト関稅互惠條約ト實際ノ結果ヲ均フスヘク縱令無條約当然
ノ結果トシテ一般税率ヲ適用スヘシトスルモ我カ对独輸出貿
易ハ之カ為メ非常ノ打撃ヲ被ムルコトナカルヘシ蓋シ本邦
輸出ノ実況ハ前記統計ノ示スカ如ク全輸出額二千九百二十
萬麻中重要品ノミニテモ約千三百麻(四割四分)ハ無稅品
ニシテ我ニ取リ頗ル好都合ナルノミナラス差別的待遇ヲ蒙
ルコトナク全ク現條約ニ於ケルト同様ノ待遇ヲ受クルモノ
七百三十萬麻即チ二割五分ニシテ協定税率ニ均霑スルコト
ヲ得サル物品ノ輸入額ハ僅カニ二百二十萬麻即チ全輸出額
ノ八分弱ニ過キス之レニ重要品以外ノ物品ヲ加フルモ一
割内外ヲ出テサルヘシ要スルニ国定税率適用ノ為メニ差別
的待遇ヲ蒙ル物品ハ約一割ナルヲ以テ仮リニ此類ノ物品全
然輸入ナキニ至ルトスルモ我カ对独輸出貿易ノ蒙ルヘキ損害
ハ決シテ多大ニアラス況ンヤ差別的待遇トハ言ヘ前記統計

表記載ノ通り磁陶器貝製鈕釦漆器扇子等ノ協定税ハ国定税ト大差ナク青銅製品ノ税率ノ如キハ国定ト協定トノ間ニ全ク差別ナキニ於テオヤ加之ナラス我輸出品ハ其種類ニ依リテハ本邦固有ノ一種ノ特色ヲ有スルヲ以テ税率ニ多少ノ差異アルモ全然競争能力ヲ失フモノニアラス現ニ此種ノ商品ヲ輸入スル当業者ハ縦令国定税率ヲ課セラル、モ販路ニ影響ナシトノ意見ヲ有シ居レリ然リト雖トモ愈々無條約トナリタル上ハ独逸カ必現行ノ国定税率ヲ適用ス可シト期待スルヲ得サルハ勿論理論上ニ於テハ何時如何ナル税率ノ引上ニ遭フモ計リ知ル可カラサルノ危険アリ然レトモ独逸關稅法タルヤ蕪ニ独逸ノ官民力産業保護ノ目的ヲ以テ多年ノ講究ヲ尽シテ漸ク制定シタルモノニシテ無稅若クハ低稅ノモノニハ必ス其無稅低稅ナラサル可カラサル内國産業上ノ理由アルヲ以テ徒ラニ他國ノ輸入品ヲ虐待スルノ目的ヨリ遽カニ無稅ヲ有稅ニ低稅ヲ高率ニ引上クルカ如キハ自國産業ノ要求ニ顧ミ容易ニ実行シ得可キニアラス今再びニ独逸カ此目的ノ為ニ樟腦ノ如キ四百萬圓以上ノ輸入アル本邦特産物ヲ撰ヒ之レニ高率ノ關稅ヲ課シタリトセンカ獨逸ノセルロイド製造業ハ甚シキ若境ニ陥リ独逸ノセルロイド輸出ニ影響ヲ及ホスコト恰モ本邦ニ於テ新關稅法カ無稅トシタ

ル「ホップ」ニ課税シ為メニ我麦酒ヲシテ東洋各地ニ於ケル独逸麦酒トノ競争能力ヲ剝奪スルト同様ナルヘシ唯如此場合ニ於テ最モ懸念ナルハ羽二重ノ税率引上ケト現今無稅ナル生糸ニ課稅ナリ生糸ハ我統計ニ從ヘハ僅カニ二萬圓余ニ過キサルモ独逸ノ統計ニテハ一二〇萬圓以上ニシテ此二品ノ合計六百六十萬圓以上ナリ之レニ間接輸入ニシテ從來通關ニ際シ原産地ノ取調嚴重ナラサリシヲ為メ伊瑞等ノ産品トシテ申告セラレタルモノ換言スレハ伊瑞等諸國ノ産品ト我國産トノ間ニ差別待遇アル場合ニハ必ス我國ノ産品トシテ課稅セラル可キモノヲ加フレハ或ハ千萬圓ノ巨額ニ達スルヤモ計ル可カラス羽二重ニ對スル重稅ノ賦課ハ今日ニ至リテハ独逸内國産薄地絹織物ノ保護トナリ又生糸ハ原料品ナルモ本邦ヨリ輸入ハ独逸ノ總輸入ニ比シ僅カニ百分ノ一ニ過キスシテ之レカ補給ハ伊瑞清等諸國ニ仰ク事容易ニシテ日本ヨリ輸入ノ杜絶ハ独逸ニ採リ格別ノ痛痒ナキヲ以テ若シ独逸ニシテ我ニ對シ税率ヲ引上クルトセハ多分先ツ此二品ヲ撰ム事トナルヘシ然レ共同國若シ之レヲ実行スルニ於テハ之レ正シク關稅戰爭ノ端緒ヲ開キタルモノナルヲ以テ我ニ於テモ獨逸ノ特産例ヘハ毎年五百萬圓以上ノ輸出アル人造乾藍又鉄類等ノ税率ヲ引上ケ之レニ應戰シ彼ヲシテ

明治四十三年十二月廿八日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

我レノ受クルヨリ以上ノ苦痛ヲ感セシムル事ヲ得可キノミナラス独逸ニシテ特更ニ我輸入品ヲ虐待セハ現ニ關稅法第四條ノ報復規程ノ存スルアリ又何時ニテモ臨機ノ規定ヲ設クルヲ得可ク之ヲ要スルニ日独現今貿易上ノ状態ニ於ケル關稅戰爭ハ結局我勝利ニ歸ス可キハ大勢上明白ナルカ故ニ獨逸ニ於テモ是等ノ事實ニ顧慮シ容易ニ挑戰ノ態度ニ出ツル事ナカル可シ

右及具申候 敬具

(欄外註記一)
「本件調査ハ蕪ニ珍田大使ニ送附シ置キタル「日独通商關係」ト題スル調査ニ基キタルモノ、如シ」

(欄外註記二)
「此間暗号ニ脱落アリト思惟ス想フニ左ノ如キ文句?」之ガ為ニハ左記ノ事項ヲ」

四三八 明治四十三年十二月廿六日 珍田駐独大使ヨリ

小村外務大臣宛

羽二重輸入税加重ニ関スル件

僚機第十六号

明治四拾四年正月拾八日接受

小村外務大臣時代 対独交渉 四三八

本邦輸出薄地羽二重ノ課稅ニ関シテハ從來屢及御報告置候処客月デユツセルドルフ稅關ニ於テ一平方メートルノ重量一六・三グラムノ羽二重ニ對シ千五百圓ヲ課シタル趣ニテ右之願末ハ沼野領事ノ報告ニ依リ御了承ノ儀ト被存候然ルニ過日伯林中央稅關ニ於テハ当地著名ノ絹織物商ニシテ毎年百萬圓以上ノ羽二重ヲ輸入スルオユゲイン、ブルーメンタール及シユミツト、ウインド、ローレンツエイン兩名ノ輸入ニ係ハル羽二重ヲ薄地ト認メ之レニ對シ四匁半以下ノモノニハ千五百圓五匁以上十二匁迄ノモノニハ千圓課稅シタルヲ以テ右兩名ハ織物ノ糸トノ間ニ織糸一本ヲ容ル、ノ間隙ナキニ拘ラス之ヲ薄地ト認ムルハ不当ナリト抗弁シタルニ稅關吏ハ羽二重ノ織糸ハ繭ヨリ引出シタル細微ノ絲ニシテ抗弁者ノ所謂織糸ナルモノハ細微ノ糸ノ密ニ併列スルニ過ギス從テ之ヲ一本ノ織糸ト見做ス事ヲ得ス而シテ羽二重ニハ前記細微ノ糸ヲ容ル、ニ足ル間戟ヲ存ス故ニ之ヲ薄地ト見做スハ至当ナリト答弁シタル趣ニテ右兩名ハ「フオーウインケル」ノ有名ナル染物工場主アレキサンデル、シリール

ルノ代理人ト打揃ヒ当館へ出頭シ前陳ノ次第ヲ述ベ從來百基三百麻ナリシ羽二重ノ輸入税ヲ千麻及千五百麻ニ加重セラル、ニ於テハ絹織商ハ輸入ヲ見合スノ外ナク又從來多量ノ羽二重染方ニ従事シタル染物業者ノ損害少カラサルニ付何トカ其筋へ照会シテ救済ノ方法ヲ講セラレ度シトノ意申出候ニ付右ニ對シ羽二重カ果シテ前記ノ理由ニテ薄地ト見做サルモノトセハ其ハ全ク技術上ノ問題ニシテ要ハ羽二重ノ織糸カ他ノ織物ノ如ク密着シテ燃合ハセナキヲ理由トシ之ヲ織糸ト見做サヘルノ当不当ヲ決スルニアルヲ以テ第一ニ当地税関ノ理由トスルトコロハ果シテ前記ノ通りニ相違ナキヤ否ヲ確タル上ニテ技術上ノ研究ヲ為シ税関ノ解決ニ不当ナルニ於テハ抗議ノ途ハ開ケ居ルニ付先ツ直接ノ利害關係者ニ於テ出来得ル限り成規手段ヲ尽シ而シテ後何分ノ儀可申出様申聴ケ置候

又「エーベルストルフ」ノ税関ニ於テモ羽二重税ヲ加重シタル由ナレトモ右ハ半ニ四匁半以下ノモノニ限り五匁以上ハ從來ノ通り三百麻ナル由ナリ然ルニ五匁以上十二匁迄ノモノモ之ヲ薄地ト認メタルハ伯林税関ヲ以テ嚆矢トシ独逸全國同税関通リノ解釈ヲ採ラハ我羽二重ハ全然輸入ヲ絶ツニ至ルヘキハ疑ナシト被存候然レ共一昨廿五日迄ハ漢堡ノ

規定第一項ニ從ッテ透シ織物トシテ課税セラルベキモノニシテ税番第四〇一号ヲ適用スベキモノニ非ス而シテ該規定ハ一九〇二年十二月二十五日現行独逸關稅法實施以來何等ノ變更ナキノミナラス独國財務官庁ニ於テ該規定ニ背馳スル如キ訓令等ヲ發シタルコトナシトノ趣ニ候処羽二重ニ關スル同國税関ノ實際上ノ取扱振ヲ独逸帝國統計局編纂ノ外國貿易統計表ニ徵スルニ同國大藏省ノ説明ハ從來ノ慣行ヲ無視スルモノ、如ク相見エ候即チ独逸帝國統計局編纂ノ外國貿易年表 *Statistik des Deutschen Reichs, Band 197 Auswärtiger Handel im Jahre 1908* 中本邦ヨリノ純輸入品トシテ掲上セル絹織物ハ別表ノ如クニシテ本邦ヨリ輸入セラル、羽二重ノ大部分ハ税番第四〇一号ノ下ニ掲出セラレタルモノト見ルノ外ナク税番第四〇一号ニ該当スル絹織物ノ純輸入額ハ一九〇七年並ニ一九〇八年ニ於テ各四百萬馬克ニ上レルニ拘ラス其他ノ税番ニ依ルモノハ僅ニ一九〇七年ニ二十六萬馬克一九〇八年ニ十萬馬克ニ過キス且ツ独逸政府ガ今後羽二重ノ大部分ニ對シテ適用セントスル税

税関ニ於テハ從前通りノ課稅率ナリシ趣ニ有之候何レ利害關係者ノ抗議ニ對スル當該官庁ノ答弁ノ如何ニ依リテハ本使ニ於テモ適當ノ措置ヲ執リ可申候へ共不取敢本件其後ノ成行及御報候
此段申進候敬具

四三九 明治四年一月七日

小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛

独逸ノ羽二重關稅變更ノ件

附屬書 独逸貿易年表抜萃

明治四拾四年正月拾七日達濟

機密條第一号

在独 珍田大使宛

小村外務大臣

羽二重ニ對スル独逸政府ノ關稅待遇變更ニ就キ昨年十一月十日付條機第拾号並ニ同十二月五日付條機第拾号ヲ以テ御申報ノ件委細了承致候同國大藏省ノ説明セル所ニ拠ルニ羽二重中税番第四〇一号ノ下ニ每百基三百馬克ノ關稅ヲ負擔スルモノハ半ニ密織物ニ限ラレ透シ織ト密織トノ區別ハ關稅物品類別表中織物ノ部第一種乃至第十種ニ對スル註第四号ノ規定ニ從ッテ決セラレ四匁半以下ノ輕目物ハ右四号

番第四〇八号ノ稅率ヲ賦課セルモノハ一九〇七年ニ二千馬克一九〇八年ニ三千馬克即チ稅番第四〇一号ノ適用ヲ受ケタルモノ、二千分ノ一乃至千二百分ノ一ニ止マルノ實際ニ有之右ハ新ニ注意ニ値ス可キ点ト存候右統計表ニ於テ稅番第四〇一号ノ下ニ蚕絲製密織無模様タフタリボン質織物ト掲ゲ特ニ括弧中ニボンゼイト註記シタル所ヨリ見ルニ独逸關稅定率法ノ真意ハ無染羽二重ニ對シテ本号ノ適用ヲ為サントスルニアリシモノト察セラレ候
要スルニ独逸稅関ニ於テ從來輕目羽二重ニ對シテ稅番第四〇一号ヲ適用セシニ拘ラス今更遽ニ關稅物品類別表中ノ註ヲ援用シテ右對独重要輸出品ニ對シ從來ノ從價六分ノ關稅待遇ヲ變更シテ三割トナシ一躍五倍ニ増加スルガ如キハ彼我貿易ニ多大ノ影響ヲ及ホスモノニ有之候間上記當方ノ調査御參考ノ為メ御通報ニ及ビ候就テハ右調査ニシテ事實相違ナキモノト認メラレ候ハ、適當ノ機會ニ独逸政府ニ對シ然ルヘク其注意ヲ喚起セラレ候様致度此段申進候敬具

(附屬書)
(別紙)

独逸帝国統計第一九七卷一九〇八年外国貿易B第一五部第八二頁抜萃

Nr.	Warengattung	1908		1907	
		100 kg	1000 M	100 kg	1000 M
401	Dichte, ungenusterte tafthindige Gewebe aus Maulbeerspin- nerseide (Pongees), roh.	832.	4,160.	668.	4,075.
402	Dichte Gewebe für Möbel—u. Zimmer—ausstattung, ausser Sammet und Pflsch: aus Seide	—	—	1.	6.
403: teilweise aus Seide	—	—	1.	3.
405a	Dichte Gewebe, a. n. g. Bänder aus Seide	0.23	1.	2.27	13.
305b: Andere Gewebe aus Seide	18.63	75.	29.73	208.
405d: teilweise aus Seide ausser Bändern	4.	11.	1.	3.
408a	Gaze, Krepp, Flor u. dergl. undichte Gewebe aus Seide	0.38	3.	0.32	2.
411	Stickereien auf Grundstoffen aus Seide	2.87	14.	4.63	28.

四四〇 明治四十四年三月八日 小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛

新條約独逸対案ニ関スル我修正意見送附ノ件

附屬書 独逸対案ニ対スル修正意見

明治四十四年式月八日達済

機密條第四号

在独 珍田大使宛

小村外務大臣

ノ理由ニ依リ同意致シ難ク仍テ別紙公文案ニ拠リ在東京独逸大使ニ回答ノ旨ニ有之候間左様御承知ノ上必要ノ際ハ同様ノ趣旨ニ依リ閣下ヨリモ独逸当局者ニ御説明相成度候

税率協定ニ関スル独逸政府ノ提議ハ帝国政府ニ於テ之ヲ商議ノ基礎トシテスラ承認シ難キ所ナルコト別冊意見書総論ニ詳述セル通りニ有之候間右ノ趣旨ヲ然ルヘク先方ヘ御宣明相成度候帝国政府ハ單純ナル最惠國待遇ノ交換ノ外此際独逸トノ間ニ縦令双務的ニテモ税率協定ヲ行フヲ自ラ希望スルモノニ非サルコトハ閣下力曩ニ独逸外務省通商局長ニ開陳セラレタル通ニ有之候ヘ共若シ独逸政府ニ於テ双務対等ノ条件ヲ以テ且ツ利益均衡ノ下ニ彼我税率ヲ相互協定セシコトヲ強テ希望スルニ於テハ帝国政府ニ於テ新ニ其提案ニ接シタル上之ヲ考量スルヲ辞セサルヘク候間右様御承知ノ上然ルヘク御応酬相成度候

帝国政府カ其提案ニ於テ関稅項約ヲ通商航海條約ヨリ分離シタル理由ハ別冊総論中ニ記載ノ通ニ有之候間右先方ヘ御説明ノ上独逸政府カ是非共其併合ヲ希望スルニ於テハ之ニ同意スヘキ旨御言明相成差支無之候

條約ノ正文ハ別冊意見書記載ノ如ク我当初ノ希望通り英文ヲ用ヒ度今回ノ我修正意見モ英文ニ依リテ提出スルノ主意

新條約ニ関スル独逸対案ニ付テハ閣下ノ御意見ヲ参酌シ慎重ノ研究ヲ加ヘタル上別冊ノ通り修正意見開列致候間委曲御査閱ノ上右修正意見ニ依リ先方ト御交渉相成我希望ノ貫徹セラレ候様精々御尽力相成度候

領事職務條約、犯罪人引渡條約並ニ民事ニ関スル權利保護及司法共助條約ヲ通商航海條約ト同時ニ商議セントスル独逸政府ノ提議ニ対シテハ帝国政府ハ別冊ノ意見書総論記載

ニ有之候間左様御承知相成度候乍去我修正意見御提出ノ後正文ノ問題カ結局仏文ナラハ妥協シ得ルカ如キ場合ニ立到候ハハ仏文ノミテ正文トシテ採用スルコトニ異議無之候其節ニハ豫テ御送附ニ及ヒ置キタル仏文案ヲ御提出相成之ヲ基礎トシテ彼我談判ノ結果ニ依ル變更ヲ記入スルコト、致度候間左様御含置相成度候

新條約ノ有効期間ハ之ヲ十年ト致度希望ナルモ先方ノ意見次第ニテハ現行條約同様十二箇年トナスコトニ強テ異議無キコト曩ニ申進タル通ニ有之候

批准書交換ノ場所ハ東京ト致度候蓋シ條約調印ノ上ハ成ルヘク速カニ批准書ヲ交換致度ニ付之ヲ東京ニテ行フニ於テハ條約書ヲ我方ニ於テ東京伯林間ニ往復送附スルカ如キ二重ノ手数ヲ省キ得ル次第ニ有之候

独逸対案ノ條文ハ成ルヘク我提案條文ノ番号ヲ遂ヒ以テ対照ニ便センコトヲ図リタルヲ以テ某條 a 某條 b 等ヲ設クルノ弁法ヲ取りタリ從テ我修正意見モ同様ノ番号ヲ以テ提出スルコトニ致候ヘ共愈新條約ノ確定條項編成ノ節ニハ此等ヲ整理シテ独立ノ番号ヲ付シ全体ノ條數ヲ定ムヘキハ勿論ニ有之候又確定條項編成ノ節ニハ彼方ヲ主トスルモノト我方ヲ主トスルモノトノ區別ニ依リ主權者及國名等記載順位

ヲ正スコトニ御注意相成度為念申添候
御参考ノ為通商航海條約独逸対案和訳及英訳並ニ同附屬覽
書和訳各五部ヲ別冊我修正意見説明書三部並別紙独逸大使
館來翰写及之ニ対スル回答案写ト共ニ併テ及御送附候間御
查收相成度候尙今回ノ我修正意見ヲ一目瞭然タラシメンカ
為独逸対案英訳ニ記入シタルモノ及之ニ依リテ我原案ニ修
正ヲ施シタルモノ御便利ノ為差進候
尤モ右ハ其儘之ヲ先方ニ提出スルノ趣旨ニハ無之候ニ付為
念申添候

右申進候敬具

追テ稅率ニ関スル独逸提案申号及乙号表和訳モ亦御参考
ノ為五部同便ニテ差進候

(附屬書)

独逸対案ニ対スル修正意見

總論

第一、通商航海條約ト領事職務條約犯罪人引渡條約並
民事ニ関スル權利保護及司法共助條約等トノ関
係

独逸政府ハ我提案ノ如ク通商航海條約中ニ領事ノ職務ニ関
スル必要ナル事項ニ付若干ノ規定ヲ設クルヲ以テ充分ナリ

シヲ以テ該條約ハ帝國政府ニ取リテハ殆ント實際的意義
ヲ有セサリシナリ又現行日独領事職務條約附屬議定書第二
号ニ有リテハ將來犯罪人引渡ニ関スル約定ヲ取結フヘキコ
トヲ規定セルニ係ラス今日ニ至ル迄未タ之カ提議ナク其ノ
商議ヲ見ルニ至ラサリシハ偶々以テ兩國ノ法律關係ニ於テ
未タ之カ必要ナキヲ示スモノト謂ハサルヘカラス日米間ニ
ハ從來犯罪人引渡條約アリト雖兩國民ノ來往ノ容易頻繁ナ
ル到底日獨間ノ比較ニ非ス而シテ民事ニ関スル權利保護及
司法共助條約ニ至リテハ帝國ハ未タ何レノ國トモ之ヲ締結
セシコトナシ帝國政府ハ此等ノ事情ニ顧ミ且歐米諸國中相
互密接ノ關係アル間ニモ仍ホ今回独逸ノ提議ニ係ルカ如キ
諸條約ノ未タ存セサルモノ少カラサルニ鑑ミ刻下日獨間ニ
之ヲ締結スルノ緊切ナルヲ感セス殊ニ今回通商航海條約ト
同時ニ之ヲ商議スルカ如キハ帝國政府ノ希望セサル所且全
ク豫期セサル所ナリ若シ強テ右商議ヲ同時ニ行ハントセハ
内国法令トノ關係上種々顧慮査覈ヲ要スルモノ多キガ為此
際最モ主眼タル通商航海條約ノ成立ヲシテ大ニ遲延セシム
ルニ至ルヘシ然レトモ先ヅ新通商航海條約ノ締結ヲ完了シ
タル上ニテ他ノ諸條約ヲ商議セシコトヲ独逸政府ニ於テ希
望スルニ於テハ帝國政府ニ於テ強テ異議ナシ但シ右商議ハ

トセス兩國間ノ法律關係ヲ規定スルニ一層精密完備ナル且
現今ノ法律思想ニ適合セル條項ヲ用ヒンカ為別ニ領事職務
條約犯罪人引渡條約並民事ニ関スル權利保護及司法共助條
約ヲ通商航海條約ト同時ニ伯林ニ於テ商議セシコトヲ提議
シ之カ為帝國政府ヨリ法律專門家ヲ独都ニ派シ我全權委員
ヲ補助セシメンコトヲ希望シ來レリ

然レトモ帝國政府ハ他國トノ關係及既往ノ經驗ニ徴スルニ
未タ必スシモ精細ナル領事職務條約其ノ他ノ必要ヲ認メス
現今帝國政府カ領事職務條約ヲ有スルハ僅ニ独白兩國ト
ノ間ノミニシテ(日獨領事職務條約ハ蘭國殖民地ニ於ケル
我領事官認許ノ必要上締結シタルモノニシテ日独日白領事
職務條約等トハ全然其ノ趣ヲ異ニス)畢竟當時領事裁判權
初メテ撤廢セラレ本邦ニ在ル外國領事官ノ職務權限ニ著
シキ變動ヲ來シタルヲ以テ此等ノ領事官ハ爾後果シテ如何
ナル地位ヲ有スヘキヤ多少疑ヲ抱クモノアルヘキニヨリ帝
國政府ハ此間ノ消息ニ顧ミ独白兩國ノ提議ニ応シ領事ノ
職務條約ヲ締結スルニ至リタルモ此等條約中ノ規定ハ既ニ
國際ノ通義慣例ニヨリテ承認セラレ特ニ條約ノ明文ヲ俟
タサルモノアリ其ノ然ラサルモノニ至リテハ或ハ内國司法
行政ノ統一上便ナラサルモノアリ殊ニ日獨間ニアリテハ極
メテ最近迄帝國領事官ノ独逸ニ駐在スルモノ一モ之ナカリ

多少時日ヲ要スヘキカ故差當リ領事職務及權利保護ニ関ス
ル必要ノ規定若干ヲ我提案ノ如ク新通商航海條約中ニ挿入
スルコト必要ニシテ假令他日他ノ條約ノ規定ト重複スルト
モ敢テ妨クルコトナシ要スルニ独逸提議ノ諸條約ヲ通商航
海條約ト同時ニ伯林ニ於テ商議スルハ帝國政府ノ到底同意
ヲ表スル能ハサル所ニシテ若シ独逸政府ニ於テ通商航海條
約成立ノ後他諸條約ノ商議ヲ開始セシコトヲ希望スルニ於
テハ帝國政府ハ之ニ応ズベシト雖談判地ハ之ヲ東京トナス
コトヲ主張スヘシ

第二、通商航海條約ト關稅條約トノ分離問題

独逸政府ハ通商航海條約ト關稅條約トヲ分離スルヲ適當ナ
ラスト認メ対案ニ於テハ之ヲ併合シテ單一條約ト為シ其ノ
理由ヲ覺書ニ略述セリ然ルニ帝國政府カ素ト其ノ提案ニ於
テ之ヲ分離シタル理由左ノ如シ

一、從來關稅問題ノ為ニ已ムヲ得ス通商航海條約全体ヲ廢
棄シタル例諸國ニ多ク英國ノ如キスラ独白トノ條約ニ付
其ノ經驗ヲ有セリ然レトモ此ノ如キハ甚タ望マシカラサ
ルコトニシテ關稅條約ヲ分離スルニ於テハ此ノ弊ヲ免ル
ルヲ得ヘシ

二、居住交通ノ一般事項ニ関シテハ諸國概シテ長期ノ條約

ヲ締結スルヲ厭ハスト雖關稅事項ニ付テハ短期條約ヲ撰
フモノ多シ畢竟關稅ハ經濟財政諸般事情ノ變動ニ適應セ
シメンカ為長期ノ固定ヲ不便トスレハナリ從テ兩者分離
ノ傾向多シ

三、英國カ印度ニ關シ帝國ト締結シ又加奈陀其ノ他數多ノ
殖民地ニ關シ他國ト締結シタル近時ノ諸條約ハ關稅事項
ヲ目的トセルモノナルカ皆何時ニテモ短期豫告ヲ以テ廢
棄シ得ルコトトセリ而シテ近時諸國ニ於テ一般通商航海
條約中ニ關稅事項ヲ包含セシムル場合ニハ條約全体ヲ短
期豫告ニテ廢棄シ得ルコトト定ムルカ（一九〇二年菲爾
然丁波斯條約、一九〇五年丁智條約、仏露條約、一九〇
八年仏瑞典協約、西羅條約、一九〇九年露諸條約、仏諸
宣言、丁塞條約、土孟條約、一九一〇年露諸條約、羅諸
條約等）又ハ其ノ有効期間長期ニ亘ラサルコト通例ナリ
然レトモ此ノ如キハ通商航海條約全体ヲ屢々改廢ノ危險
ニ陥ルルノ虞アルヲ以テ寧ロ關稅事項ヲ分離スルヲ得策
ナリトス

四、帝國政府ハ今回獨逸ト同時ニ他ノ多數外國トモ新條約
ヲ締結セントスルモノナルカ故提案ノ形式及体裁ニ於テ
モ各國ニ對シ一律トナスノ必要アリ

以上ハ帝國政府カ其ノ提案ニ於テ通商航海條約ト關稅條約
シ日本ハ其新稅率ニ付未タ何等ノ條約ニ依リテ之カ輕減又
ハ據置ヲ約定スルニ至ラサルヲ以テ獨逸ヨリ日本ニ最惠國
待遇ヲ許スルハ獨逸稅率ノ大部分ノ輕減及據置ヲ意味
シ對獨日本貿易ノ為安固ナル關係ヲ設定スルニ均シキモ日
本ノ最惠國待遇ハ關稅上ノ輕減及安固ナル關係ヲ獨逸ニ与
フルモノニ非サルカ故最惠國待遇ノ相互許与ハ獨逸ノ為不
利益ノ結果アリ從テ獨逸ハ最惠國待遇ニ加フルニ日本ノ關
稅率ニ付若干ノ協定ヲ要求セサルヲ得スト論シ帝國政府ニ
對シテ多數ノ物品ニ付片務的協定ヲ求メ加之若干ノ稅番ノ
解釋ニ付自家ノ所見ヲ列記シテ將來之カ解釋ニ關シ帝國政
府ヲ束縛センコトヲ欲セリ

右獨逸ノ主張ニ對シテハ帝國政府ハ其ノ根本ニ於テ意見ヲ
異ニスルヲ以テ此点ニ關スル獨逸ノ提案ハ主義上既ニ商議
ノ基礎トシテ採用スルニ由ナシ
其ノ理由左ノ如シ

一、獨逸ニ於テハ多數ノ物品ニ付協定稅率ヲ設ケタルハ畢
意獨逸國定稅率本來ノ主旨ニ伴ヘル結果ニシテ獨逸ハ初
ヨリ對外交渉ノ懸引ヲ見込ミテ其ノ國ノ國定稅率ヲ定メ
タルカ故多數ノ協定稅率ヲ設ケタルニ至リタルハ其ノ当初
ヨリ豫見シタル所ニ外ナラス從テ英仏白伊（仏國ハ羅馬
尼亞トハ双）

トヲ分離シタル理由ニシテ一個年ノ豫告ヲ以テ關稅條約ヲ
廢棄シ得ルコトト定メント欲スルハ敢テ頻々之レカ改廢ヲ
重ネントスルノ趣旨ニ非サルコト言フ俟タス畢竟經濟財政
諸般事情ノ變遷ニ伴ヒテ其ノ必要アルニ當リテハ最モ好ク
實際ノ要求ニ適合スル關稅條約ヲ定メ得ルノ余地ヲ豫メ存
センカ為ニシテ獨逸政府カ之ヲ以テ兩國產業界カ數年ノ間
確定關係ニ信賴シ得テ關稅上ノ差別待遇及稅率上ニ於ケル
激變ニ遭遇セサルノ必要アルコトヲ斟酌セサルモノナリト
批難セルハ蓋シ其ノ正鵠ヲ得サルモノナリ若シ何時ニテモ
十二個月前ノ豫告ヲ以テ廢棄シ得ルコト、為スハ理論上余
リニ短期タルノ嫌アリトノコトナラハ關稅條約ニモ例ヘハ
二年又ハ三年ノ有効期間ヲ定メ之カ廢棄豫告ニ十二個月ヲ
要スルコト、為スモ可ナルヘク要スルニ兩國ノ商議ニ依リ
テ別段ノ協定ヲナスノ余地素ヨリ之アリ然レトモ猶獨逸政
府ニ於テ強テ兩條約ノ併合ヲ希望スルニ於テハ帝國政府ハ
之ニ同意スベシ

第三、稅率協定ノ問題

獨逸覺書ノ記載スル所ニ拠レハ獨逸ハ數多ノ通商條約ヲ以
テ多數ノ物品ニ付其ノ稅率ヲ協定セルカ故ニ右條約ノ有効
ナル間ハ獨逸關稅率ノ大多數ハ之ヲ引上ケル能ハサルニ反

務的白國ハ勃牙）等ノ諸國カ片務的協定稅率ヲ獲得シ得
タル「バルカン」ノ諸邦ニ對シテモ獨逸ハ總テ相互的協
定ヲ為スニ至レリ

二、又獨逸ノ協定稅率ハ夫レ々對手國ノ希望ニ顧ミテ設
定シタルモノニシテ之カ為ニ利益スルモノハ當該條約國
ニ外ナラス若シ夫レ最惠國條款ニ基キ偶々第三國ニ均霑
ノ實益ヲ与フルコトアリトスルモ此ノ如キハ目的トスル
所ニ非サルノミナラス均霑ノ影響ハ寧ロ之ヲ避ケルニ注
意シ只已ムヲ得スシテ多少ノ例外ヲ生スルノミ蓋シ第三
國カ他國協定稅率ノ便益ニ均霑シテ多少ノ實益ヲ得ルカ
如キハ稅目細別（Specialization）ノ屬一層緻密ニ赴ク
ノ今日原則トシテハ寧ロ皆無ニ屬スルヲ普通トシ殊ニ本
邦ノ如キ其ノ獨逸ニ輸出スルモノ主トシテ特產品ニ屬シ
獨逸カ協定稅率ヲ設定シタル諸國ノ物品ト種類ヲ異ニス
ルモノニ在リテハ均霑ノ實益ヲ見ルノ機會甚タ稀ニシテ
現ニ我調査ニ依ルニ本邦物品カ獨逸ニ於テ同國カ第三國
ノ為設定シタル協定稅率ノ便益ヲ享受スル額ハ極メテ
微々ニシテ貿易額六十萬圓稅差老萬圓ニ過キス（條約改
正係調査「日獨通商關係」参照）

三、右ノ如ク独逸協定税率ノ由来ト其ノ本邦貿易ニ与フル利益ノ謂フニ足ラサルトニ顧ミルトキハ之カ均霑ノ報酬トシテ帝国政府ヲシテ独逸ノ為メ協定税率ヲ設ケシメントスルカ如キハ不対等不権衡ノ最モ甚シキモノニシテ帝国政府ノ同意スルコト能ハサルヤ論ヲ俟クス假令最惠国約款ニ基キ日本国カ均霑ノ実益ヲ得ルコト多キ場合ニ於テモ独逸カ第三国ニ与ヘタル協定税率ハ其ノ維持継続ニ關シ帝国政府ニ対シテ毫モ独逸政府ヲ束縛スルモノニ非ラス日本国ノ意思如何ニ顧慮ナク右協定税率ハ全然独立シテ其ノ生滅ヲ為スモノニシテ日独間ノ關係ニ於テハ独逸政府ハ何等稅權ヲ制肘セラルルコトナキニ當リ若シ帝国政府ヲシテ特ニ独逸ノ為メ協定税率ヲ設定セシメンカ帝国政府ハ之カ為其ノ稅權ノ自由ヲ束縛セラルルコトトナルヘシ是レ實ニ純然タル片務的協定ニシテ現行條約ニ於ケル税率協定ト毫モ異ル所ナク帝国多年ノ宿望ニシテ此次條約改正ノ主眼タル稅權回復ノ目的ト全然相反スル所ナルヲ以テ到底帝国政府ノ同意スル克ハサル所ナリ

四、独逸ハ現今其ノ對等國ヨリ右ノ如キ片務的協定ノ利益ヲ獲得シ居ラサルニ當リ之ヲ新條約ニ於テ帝国政府ヨリ

ルヲ以テ帝国政府ハ現行協定税率ノ滿期終了ヲ期トシ之カ矯正ヲ圖リタルモノニシテ此ノ如キハ稅權ノ獨立ヲ有スル國ニ在リテ毫モ怪ムニ足ラサルコトハ敢テ多言ヲ要セスンテ独逸政府ノ最モ好ク諒解スル所ナルヘシ而モ新税率ハ之ヲ現在ノ固定税率ニ比スルトキハ概ネ低率ニシテ殊ニ從來ノ協定品ニ關シテハ大ニ現在ノ固定税率ヲ輕減セリ之ヲ歐米多数國ノ税率ニ比スルニ寧ロ低位ニ在ルモ決シテ高キコトナシ畢竟帝国政府ハ稅權回復ノ機ニ乘シテ其ノ固定税率ヲ激増スルカ如キコトナク帝國ノ經濟財政上必要トスル範圍内ニ於テ税率間ノ調和均衡ヲ計リ新稅法ヲ定メタルモノニシテ毫モ對外交渉ノ見地ヨリ豫メ折衝輕減ノ余裕ヲ加味シタルモノニアラス右ノ事情ト前記日独貿易ノ現狀トニ顧ミ帝国政府ニ於テハ双務的協定ニ於テモ彼我犧牲ノ權衡ヲ得難ク實質上完全ナル双務的協定ノ容易ナラサルヲ認メ且之カ為條約ノ締結ヲ遷延セシムルニ至ルヘキヲ以テ自ラ之ヲ希望スルモノニ非ス帝國政府ハ寧ロ独逸政府カ我提案ノ如ク單純ナル最惠國待遇ノ交換ニ同意スルニ至ランコトヲ希望ス

独逸政府ハ独逸カ現ニ他國ノ為ニ設ケタル協定税率アルニ拘ラス本邦ニ於テハ未ク新税率ニ影響スヘキ協定税率ナシ

獲得セントスルトモ帝国政府ハ國家ノ威嚴ト經濟上及財政上永遠ノ利益トニ顧ミ断然之ヲ拒絕セサルヲ得ス
上述ノ理由ニ依リ税率問題ニ關スル独逸ノ主張ハ其ノ根本ニ於テ帝国政府ノ容ル、克ハサル所ナルカ故之ヲ商議ノ基礎トシテ採用スルヲ得ス

日独間從來ノ貿易關係ニ於テハ独逸ヨリノ輸入常ニ本邦ヨリノ輸出ニ數倍シ且我輸出品ハ主トシテ特產品ニシテ且独逸工業ノ原料タルニ反シ独逸ヨリノ輸入品ハ精製品若ハ直接消費品ニシテ各國ノ競争アル物品ニ屬スルヲ以テ右ノ事情ニ顧ミルトキハ帝国政府カ何等條件ヲ付セスシテ最惠國待遇ノ互約ヲ提議シタルハ帝国政府カ独逸トノ交誼ヲ重ンスルノ精神ニ出テタルモノニシテ独逸政府ノ諒トセサルヘカラサル所ナリ

独逸政府ハ我新税率ヲ以テ多大ノ引上ナリト認ムルカ如シト雖是レ現在ノ協定税率ト比較スルニ依ルモノニシテ右協定税率ハ帝国政府カ甚ク不対等ナル旧安政條約ノ羈絆ヨリ脱却センカ為約諾シタル一時ノ犧牲ニ外ナラス從テ当初ヨリ其ノ率極メテ低クシテ帝國經濟財政ノ需求ニ適應セザリシノミナラス爾來十有餘年経過ノ今日ニ於テハ益々他ノ物品ノ税率ト權衡ヲ失スルニ至リ帝國稅制上一大缺陷ト

從テ最惠國待遇ノ交換ハ不権衡ナリト論セル処右ノ議論カ實質上毫モ其價值ナキコトハ既ニ前來述ヘタル所ニテ明ナリト雖尙ホ一言ヲ要スルモノアリ即チ本邦ニ於テハ偶々現行協定税率ノ滿期終了ヲ機トシテ新税率ヲ制定シ而モ現行條約ニ代ルヘキ新條約締結ノ談判ハ諸國ニ對シ今ヨリ漸ク其ノ歩ヲ進メントスル時ナルヲ以テ此際新税率ニ關スル協定税率ナキハ事態ノ当然ニシテ毫モ怪ムニ足ラス今後諸國ト新條約談判ノ結果若シ協定税率ヲ設ケルニ至リタル場合ニハ帝國ト最惠國待遇ノ互約アル國ハ右協定税率ノ便益ニ均霑スヘク要スルニ日独間最惠國待遇ノ相互的許与ニヨリ独逸ノ不利益ニ歸スル不権衡アリトハ帝國政府ノ萬々承認スル能ハサル所ナリ(因ニ云フ我調査ニヨレバ現今独逸ニ於ケル協定税率ハ何レモ皆一九一七年ヲ以テ滿期終了スルモノ、如シ)独逸政府ニシテ若シ帝國政府ニ對シ相互ニ固定税率ノ最惠待遇ヲ与ヘ兩國カ各第三國ノ為設ケタル協定税率ハ之ヲ留保シテ最惠待遇適用ノ範圍外トナスカ或ハ相互ニ物品ヲ撰定シテ該物品ニ限り最惠待遇ヲ互約センコトヲ提議スルニ於テハ是レ仍ホ對等ノ性質ヲ失ハサル一方案タルヘント雖独逸カ日本ニ最惠國待遇ヲ許与スル對價トシテ日本ヨリ最惠國待遇ニ加フルニ更ニ若干税率ノ輕減若ハ

据置ヲ許与セシメントスルカ如キ片務的不对等ノ方案ハ帝國政府ノ断然同意シ難キ所ニシテ商議ノ基礎トシテ承認スル克ハサル所ナリ

然シドモ若シ独逸政府ニ於テ双務对等ノ條件ヲ以テ且ツ利益均衡ノ下ニ彼我税率ヲ相互協定センコトヲ強テ希望スルニ於テハ帝國政府ニ於テ新ニ其提案ニ接シタル上之ヲ考量スルヲ辞セザルベシ

第四新條約ノ正文問題

帝國政府ハ素ト新條約ノ正文トシテ日本文ヲモ加ヘンコトヲ希望セサルニ非サリシト雖斯ノ如クンバ独逸政府ニ於テ固ヨリ独逸文ヲ主張シ結局日独両文ノ外更ニ決定文トシテ英文又ハ仏文ノ如キ中立文ヲ要スルコト日本ト伊、墨、希臘、智、暹、哥、伯、西(特別條約)等トノ現行條約同様ニ至ルヘキヲ以テ帝國政府ハ中立語ノミヲ正文ト為シ以テ條約締結上ノ便宜ヲ期シ而シテ我全權委員ノ英語ヲ便トスルニ願ミ談判ノ簡捷ヲ計リ英文ヲ以テ提案シタルニ独逸政府ハ独文ヲ以テ対案ヲ提出セリ然レトモ独逸ト外國トノ條約中現ニ一九〇八年ノ獨葡條約ノ如キ(一九〇四年独羅追加通商航海條約一九〇五年独勃通商調稅航海條約一九〇七年独孟通商航海條約同年独土追加通商航海條約モ亦仏

号我提案ニ於ケル「旅行」ハ寧ロ主トシテ入国落着後ニ於ケル旅行ヲ意味スルモノナレハ之ヲ保存スルヲ適當ナリト認ム

第二号及第三号 独逸ハ此ノ両号ニ付テハ我提案ヲ採用スル旨其ノ覚書中ニ言明セリ尤モ第二号中ニ於ケル *Commerce and trade* ノ文字ニ充ツルニ *Handel* ナル一語ヲ以テセンハ右一語ニテ充分ト認メタルモノニシテ他意ナキコト珍田大使意見ノ通ナルヘク第三号中ニ於テ我 *Own or hire and occupy* (所有又ハ賃借シテ之ヲ使用シ) ヲ訳シテ *Besitzen, mieten order Inhaben* (所有賃借又ハ占有シ) トナシタルハ精確ナラス本号ノ趣旨ハ不動産ノ使用ヲ認許スルコト其ノ目的ニシテ建物ニ付テハ所有賃借ノ二方法土地ニ付テハ賃借ノ一方法ヲ保障セルモノナリ物權ノ規定ヲ目的トスルモノニ非ス後者ハ独逸対案

第四号中ニ包含セラル右独訳ハ故ラニ我提案ヲ變更スルノ主意ニ非サリシト認ムルヲ以テ之カ英訳及和訳ニ於テハ日本原案ニ依レリ若シ独逸文ヲ正文中ニ加フルカ如キ場合ニハ此点ヲ明ニスルノ要アルコト珍田大使意見ノ如シ

第四号 *Waren* ナル文字ハ独逸対案ノ他ノ條項ニ照ストキ

文ノミノ如ク想像セラルルト雖的確ノ資料ヲ缺クカ故断言シ難シ) 仏文ノミヲ用ヒ全然中立語ニ依リタルモノアルカ故帝國政府ニ於テハ当初ノ趣旨ニ依リ英文ノミヲ以テ正文ト為サンコトヲ希望シ対案ニ関スル修正モ英文ヲ提出スルコトトシ今後ノ商議ニ依リ独逸政府ヲシテ英文ヲ正文ト為スコトニ同意セシムルコトニ致シタシ

各論

「前文」ノ修正ニ對シテハ異議ナシ

対案第一條ニ付

第一項 本項日本提案中ヨリ「家族ト共ニ」ナル文字ヲ削除シタルニ對シテハ異議無シ「旅行シ」ノ文字ヲ加ヘタルニ對シテハ入国ニ伴フ旅行ハ我提案ノ「各地ニ到リ又ハ滞在シ」ノ文字中ニ包含セラレ居ルカ故必スシモ其ノ必要ナキカ如シト雖帝國政府ニ於テハ之ヲ挿入ニ強テ異議ナシ

第二項 本項冒頭文ハ我提案第一項末尾ノ一句ヲ獨立センメテ別項トナシタルニ過キサルモノナレハ我ニ於テ異議ナシ

第一号 本條第一項ニ「旅行シ」ノ文字ヲ加ヘタル結果本号我提案ヨリ「旅行及」ナル文字ヲ削除セリ然レトモ本

ハ総テ商品即チ *Merchandise* ノ意義ニ使用セラル此文字ハ現行條約第一條第三項ニモ存スト雖 *Beweglichen Sachen aller Art* (各種動産) トアル以上ハ別ニ *Waren* (商品) ノ文字ヲ掲クル必要ヲ認メス故ニ之ヲ削除スルヲ可トス

第四号 (a) 現行條約締結當時ニ在リテハ或ハ本号規定ノ必要アリシヤモ知レス然レトモ今日ノ事態ノ下ニ新條約ヲ締結セントスルニ於テハ尙再ヒ此ノ如キ條項ヲ設クルノ必要ヲ見サルノミナラス之ヲ挿入ハ帝國今日ノ地位ニ顧ミ体面上我ニ於テ甚タ好マサル所ナリ 欧米諸大國間ノ現行條約中ニ此ノ如キ規定ナキヲ例トス故ニ本号ノ削除ヲ主張ス

我提案第一條第四号ニ付

我提案第一條第四号權利保護ニ関スル規定ハ独逸対案ニ於テハ之ヲ通商航海條約中ヨリ省キ其ノ前段ニ付テハ民事ニ関スル權利保護及司法共助條約案中ニ規定スル所アリト雖帝國政府ハ総論中ニ述ヘタル如ク差当リ通商航海條約ヲ締結シ民事ニ関スル權利保護及司法共助條約ヲ締結ヘ之ヲ他日ニ譲ルヲ適當ト認ムルヲ以テ一般ノ慣例ニ倣ヒ本号ノ規定ヲ存置スルコトヲ主張ス若シ他日民事ニ関スル權利保

護及司法共助條約ノ締結セラレ重ネテ本号同様ノ規定ヲ包含スルコトアリトスルモ之カ為何等差支アルコトナシ殊ニ
訴願及行政訴訟ノ認許ヲ目的トスル我原案後段ノ規定ハ民事ニ
關スル独逸條約案中ニ全然之ヲ缺クテ蓋シ右ハ民事ニ
屬セサルヲ以テ該條約ノ掩フ能ハサル所ナレハナリ

対案第五号ニ付

本号対案前段中ニ單ニ *Allen Kontributionen* (総テノ貢納)トアリ *Militärischen* ノ文字ヲ省キタルハ(我提案中ノ
Military requisitions or contributions ニ於ケル *Military*
ノ文字ノ *contributions* ヲモ形容シ和文ニ於テハ取立金ノ
文字ヲ以テ *Military contributions* ニ充テタリ) 誤解ヲ招
クノ虞アルヲ以テ右貢納 (*contributions*) ナル文字ヲ削除
シ又後段ノ規定ニ代フルニ左ノ規定ヲ以テヤニコトヲ主張
ス

They shall not be subjected to any military requisitions or contributions whatever unless under the same conditions and on equal terms as nationals or the subjects or citizens of the most favoured nation.

右ハ一九〇六年独瑞典條約第四條第二項ト同趣旨ニシテ
(但シ該條約ニハ最惠國民待遇ノ明記ナシ) 軍用徴發ニ對

対案第六号ニ付

我提案ニ比シ字句上ノ増減アリト雖其ノ趣旨ニ於テ異ル所
ナキヲ以テ同意ス

対案第二條ニ付

本條第一項ハ我提案ト異ル所ナシ唯「適法ノ目的ニ使用セ
ラルル」ナル文字ヲ削除セルノミ先方ニ於テハ我ニ於テ該
文字ノ存置ニ重キヲ措クニ於テハ右制限ヲ設ケント欲スル
理由及右制限ノ範圍ニ關シ更ニ説明アリタシトノコトナル
カ安寧秩序ヲ妨害スルカ如キ適法ナラサル目的ニ使用セ
ラル、モノニ對シテ不可侵ノ特典ヲ保障スルノ必要ナカル
ヘク我提案ハ斯ル場合ニ於テ同様ノ内國民建物ニ對スルヨ
リ異リタル條件及方式ヲ以テ臨檢搜索等ヲ行フヘシトノ主
意ニハ非スト雖唯不可侵ナル保障ヲ与フルニ付休裁ノ必要
上該制限文句ヲ附加シタルモノナリ現行日独條約ニ於テモ
「居住工業及商業ノ目的ニ使用セラルル」ナル文句アリ(但
シ和文ハ此文句ヲ誤リテ附屬構造物ノミノ形容詞トセリ日
英、日白現行條約等ノ同様ノ場合ニ於テハ和文ニ於テモ我
原案ノ通り全体ノ形容詞トナセリ) 我提案ハ此等ノ目的ヲ
一々列挙スル代リニ「適法ノ目的ニ使用セラルル」ナル概
括的文句ヲ用ヒタルニ過キス思フニ該文句ノ存置ハ必スシ

スル補償ノ問題ニ付テモ亦内國民及最惠國民同様ノ待遇ヲ
与フルモノナリ我原案ノ精神モ亦同様ナルカ故前記規定ハ
強募公債ヲ第一項ニ於テ絶対ニ免除ノ列ニ入レタルニ任ス
ノ外我原案ト其ノ趣旨ニ於テ戻ル所ナシ独逸對案ハ單ニ最
惠國民待遇ヲ保障スルニ過キス但シ補償ノ前払ヲ必要トス
ル如キハ我同意スル克ハサルコト珍田大使ノ意見ノ通ニ
シテ此点ニ關シテハ抽象的ニ内國民又ハ最惠國民待遇ヲ保
障スルヲ以テ充分且適當ナリト認ム尙ホ軍用徴發中ニハ勞
役ヲモ包含スルカ故 *Dienstleistungen* (勞役)ノ文字ハ其
ノ必要ナシト認ム

上記ノ結果ヲ綜合シ第五号ハ左ノ如ク修正ヤニコトヲ主張
ス

They shall be exempted from all compulsory military services, whether in the army, navy, national guard or militia and equally from all charges imposed in lieu of personal service as well as from all forced loans. They shall not be subjected to any military requisitions or contributions whatever unless under the same conditions and on equal terms as nationals or the subjects or citizens of the most favoured nation.

モ必要ニアラサルカ故若シ如上ノ説明ヲ加ヘタル上ニテ先
方カ尙ホ其ノ削除ヲ主張スルニ於テハ之ニ同意シテ可ナ
リ

第二項ニ關シテハ之ニ不同意ナルコト珍田大使ノ意見ノ通
リナリ且此ノ如キ刑事訴訟法ノ規定ニ影響スル如キ約定ハ
縱令條約萬能ノ我國ニ於テモ之ヲ締結セサルヲ適當ト認
ム
尙ホ独逸對案第二項ニ於テハ一旦 *Untersuchung* ノ文字
ヲ以テ第一項ノ臨檢及搜索ノニ文字ヲ包括セルモノト認メ
ラルルガ搜索ノ理由ナル文字ニ於テハ單ニ *Durchsuehung*
ナル文字ヲ使用セリ右ハ何等特別ノ理由アルモノナリヤ或
ハ臨檢ノ場合ニハ第二項ノ適用ナリ *Untersuehung* モ單
ニ *Durchsuehung* ノ場合ノミニ關スル主意ナルヤ參考ノ
為メ説明ヲ得タシ

我提案第三條及第四條ニ付

右両條ハ独逸對案ニ於テハ削除セラレ其ノ提出セル領事職
務條約案第一條第二條第十二條第廿五條等ニ於テ我第三條
ト略同様ノ規定ヲ設ケ又第十九條ニ於テ我第四條ノ規定事
項ヲモ包含スル詳細煩雜ナル規定ヲ設ケタリ然レトモ帝國
政府ハ第一條中權利保護ニ關スル規定ニ付述ヘタルト同様

ノ理由並総論中開陳セシ理由ニ依リ我提案第三條及第四條ノ復活ヲ主張ス

対案第五條ニ付

本條第一項ハ我提案ト同シ

第二項ニ関シテハ種々ノ異議アリ

一、独逸政府ハ現行條約第三條第三項ヲ實質ニ於テ復活スルト同時ニ其ノ内ノ重要ナル一句即チ「商品ノ輸出入ノ為開カレ若ハ将来開カルルコトアルヘキ」ナル文字ヲ削除シ帝國政府ガ右削除ニ同意シテ将来ニ於テ昔時ノ關係及思想ニ基ケル港灣閉鎖ヲ廢止スルコト恰モ從來独逸ニ於ケルカ如クナランコトヲ信スト論セリ是レ帝國政府ノ頗ル諒解ニ苦ム所ナリ現行條約ニ於ケル「商品ノ輸出入ノ為ニ開カレ若ハ将来開カルルコトアルヘキ」ナル文字ハ今回ノ提案ニ於ケル「外國通商ノ為ニ開カレ又ハ開カルルコトアルヘキ」ナル文字ニ該當セリ独逸對案ハ開港ト不開港トヲ問ハス出入ノ自由ヲ独逸船舶ニ得セシメントスルモノナルカ故船舶法及關稅法等ノ我現行ノ法規ニ反シ且貿易ノ取締ヲ困難ナラシムルモノナルヲ以テ同意シ難シ我現行諸條約ハ我提案ノ如ク締約國船舶自由出入ノ場所ヲ外國通商ノ為ニ開カレ若ハ開カルルコトアルヘ

排除スルニ足ラス結局稅關ヲ輸入品ノ陸揚セラルル各地ニ設置セサルヘカヲサルニ至ルヘク又日本政府ハ外國船舶稅關官吏ヲ乗船セシムルコトニ依リテ如何ナル港ニモ到ルコトヲ得ト云フカ如キ規定ヲ條約中ニ設クルノ例ナキヲ信スト論シ要スルニ帝國政府ハ独逸ノ言フカ如キ船舶ヲ認ムルコト克ハス同一又ハ類似ノ用語ハ多數ノ條約中ニ散見シ独逸條約独ドミニカン共和国條約等ニモ存シ畢竟外國トノ通商ハ其ノ目的ニ向テ指定セラレタル地ニ於テノミ実行シ得ルモノナルコトヲ明確ナラシメント欲スルニ過キス若シ何地タルヲ問ハス隨所ニ貨物ノ輸入セラルルコトヲ許サハ關稅ノ徵收ハ不可能タルニ至ルヘシ然レトモ日本政府ハ其ノ文句ニ執着スルモノニ非サルカ故「外國通商」ナル文字ニ代フルニ「商品ノ輸出入」ナル文字ヲ用フルモ可ナル旨ヲ説明シタルニ独逸政府ハ我意ヲ諒解シ現行條約ノ如ク「商品ノ輸出入ノ為ニ開カレ若ハ開カルルコトアルヘキ」ナル文字ヲ存スルニ至リタルナリ右ノ用語ハ今回我提案ニ於テ用ヒタル「外國通商ノ為ニ開カレ又ハ開カルルコトアルヘキ」ナル文字ト何等其ノ意義ニ於テ異ルコトナシ此提案ヲ以テ昔時ノ關係及思想ニ基ケル港灣閉鎖ト評スル如キハ帝國政府ノ甚タ

キ地ニ限レルノミナラス斯ル條約ハ其ノ例少カラス一八二九年米埃條約一八五九年英露條約一八六六年英哥條約一八七一年米伊條約一九〇三年伊玖條約等皆然リ現行條約締結談判ノ際ニモ独逸ハ其ノ第三條第三項中ニ日英條約第三條第三項中ニ存スル「外國通商ノ為ニ開カレ又ハ開カルルコトアルヘキ」ナル文字ヲ用フルコト並日独條約第十三條第二項中ニ日英條約第十一條第二項中ニ存スル「外國貿易ヲ許サレタル」ナル文字ヲ用フルコトニ反シ此等ノ文字ハ全國開放ノ主義ト軋觸スルカ故之ヲ削除シ外國船ニシテ若シ自己ノ費用ヲ以テ日本稅關官吏ヲ乗船セシムルニ於テハ何レノ港タルヲ問ハス之ニ入港スルノ權利ヲ与フヘシト主張シタルヲ以テ帝國政府ハ之ニ對シ入國旅行居住及營業ノ權利ハ第一條第一項第三項及第三條第二項ニ依リテ相互的ニ保障セラレ第三條第一項及第三項ハ兩國間ニ於ケル通商航海ノ權利ヲ保障シタルモノニシテ前ノ權利ハ兩國ノ各地ニ對シ一般ニ適用セララルモノナリト雖後ノ權利ハ外國通商航海ニノミ關係スルモノナルヲ以テ特ニ其ノ出入ヲ許サレタル場所ニノミ制限セラルルハ当然ナリ若シ然ラズンハ關稅ノ徵收ハ不可能ニシテ稅關官吏ヲ乗船セシムル如キハ到底此困難ヲ

了解ニ苦シム所ニシテ独逸政府ハ再ヒ往年ノ誤解ヲ重ネタルモノニ似タリ一九〇二年米西條約第九條ニ於テモ「外國通商ノ為ニ開カレタル」ナル文字アリ參考ノ為之ヲ記ス

二、本條ハ固ト其ノ目的タルヤ兩國間ノ通商航海ノ自由ヲ保障セントスルニアリテ畢竟國際貿易ノ問題ニ屬シ内國ニ於ケル商業工業ニ關スル事項ハ既ニ新條約案第一條第一項及第二項等ニ規定シ關稅ニ關スル内國民及最惠國民待遇ノ保障ハ第一條第六号ニ規定シ又航海ニ關スル事項ニ付テハ夫々別ニ規定スル所アルヲ以テ第五條トシテハ我提案ヲ以テ適當ナリト認ム但シ國際通商航海ニ關シ國民待遇ヲ保障スルハ敢テ異議ナキ故我提案中ヨリ「最惠國ノ臣民又ハ人民ト均シク」ナル文句ヲ削除スルニ同意スヘシ若シ夫レ現行條約ニ存スルノ故ヲ以テ新條約案ニ挿入スルモ異議ナカルヘシトノ前提ハ帝國政府ノ必スシモ承諾スル克ハサル所ニシテ新條約ノ締結ハ現行條約ト獨立セル別種ノ問題タルコトハ茲ニ独逸政府ノ注意ヲ請ハサルヘカヲサル所ナリ

対案第五條(a)ニ付

本條ハ總論ニ述ヘタル理由ニ依リ之カ削除ヲ要ス

対案第六條ニ付

通商航海條約ト関稅條約トカ分離セラル、ニ於テハ本條第一項トシテハ我提案第一項ノ復活ヲ主張スヘシト雖其併合セラル、場合ニハ獨逸對案第一項ニ同意スベシ右獨逸對案第一項ハ我關稅條約案第一條ニ「其ノ何レノ地ヨリ來ルヲ問ハス」ナル文字ヲ追加シタルニ止マリ趣意ニ於テ毫モ異ル所ナシ第二項ハ我提案ノ通りナルヲ以テ固ヨリ異議ナシ

對案第六條(a)ニ付

獨逸對案ハ我提案第六條第三項ノ代リニ一九〇八年獨葡條約第十二條ト全然同一ノ規定ヲ設ケタルモノナリ一九〇六年獨瑞典條約第七條一九〇四年修正一八九一年獨白條約第七條等モ亦殆ント相同シ

本對案ハ我提案第六條第三項ト其ノ趣旨ノ歸スル所異ルナシト雖書式ニ於テ大ニ異レリ我提案ニ於テハ別國ヨリノ輸入又ハ別國ヘノ輸出ニ對シテ均シク一般ニ適用セラルル禁止制限タルニ於テハ何等束縛セラルル所ナク而シテ一般ニ適用セラレスシテ締約國ノミニ適用セラルル禁止又ハ制限ト雖衛生上ノ措置トシテ又ハ動物及有用植物ヲ保護スルノ目的ヲ以テ加フルモノタルニ於テハ條約上差支ナキコトヲ規定セリ我現行関稅定率法第十條ニ見ルカ如キ公安又ハ風俗ヲ害スヘキ或ハ工業所有權及著作權ヲ侵害スル物品等ノ

二條一九〇六年瑛白條約第八條同年瑛瑞西條約第一條等ハ前記例外第四号ヲ掲ケサルカ故其代リニ國家独占業ヲ明記セリ

帝國政府ハ我提案ノ簡單明瞭ナルヲ撰ヒ原案ノ維持ヲ希望スト雖已ムヲ得スンバ獨逸對案ニ同意スルモ強テ不可ナシ

對案第六條(B)ニ付

本條ハ現行日獨條約第七條ト全然相同シ右ニ關スル獨逸豫言ノ説明スル所ニ拠レバ現行條約第七條ノ規定ハ単ニ輸入品ニ關スル事項ヲ規定セルモノト為セリト雖便益及税金払戻等ハ輸出品ニモ關シ殊ニ輸出奨励金ハ主トシテ輸出品ニ屬スル問題ナリト認ム尤モ本條ノ如キ規定ハ概シテ近時ノ條約ニ之ヲ見ス例ヘバ一九〇二年米西條約一九〇三年伊玖條約一九〇四年伊瑞西條約一九〇五年露勃條約同年英羅條約一九〇六年瑛瑞西條約同年瑛白條約一九〇七年獨孟條約同年英塞條約同年仏加條約等然リ一九〇八年獨葡條約ハ第四條ニ於テ戻稅ニ付最惠國待遇ヲ保障スルノ外本條ノ如キ規定ナシ故ニ帝國政府ハ成ルヘクハ本條ノ削除ヲ希望スト雖已ムヲ得スンハ本條ヨリ facilities ノ文字ヲ削除シテ之ニ同意スヘシ若シ右ニテモ繼ラザルトキハ本條末尾ニ

輸入禁止又ハ制限ハ一般外國ニ適用セラルルモノナルカ故我提案ニ於テハ之ヲ但書中ニ加フルノ必要ヲ見サリシナリ然ルニ獨逸對案ノ書式ニ於テハ其ノ冒頭ニ於テ兩締約國ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ輸入輸出又ハ通過ノ禁止ニ依リ兩國間ノ相互貿易ヲ妨ケサルヘキコトヲ約シタルヲ以テ外國一般ニ適用セラルル禁止ト雖亦特別ノ場合ニ適用セラルル禁止ト共ニ併セテ之ヲ例外中ニ掲ケサルヘカラサルノ必要ヲ見從テ(第一)非常ノ場合ニ於テ軍需品ニ關スルトキ(第二)公安ニ關スルトキ及(第四)自國商品ノ内國ニ於ケル生産販売又ハ運搬ニ關シテ内法ヲ以テ定メタル禁止又ハ制限ヲ同様ノ外國商品ニ適用セントスルトキ(阿片、偽造品(貨幣、有價證券、工業所有權、著作權ニ關スルモノ)等)爆發物、兵器等ノ取締及專賣独占ニ關スルモノ)等ノ明文ヲ俟タスシテ行ヒ得ヘキ場合モ掲ケルノ已ムヲ得サルニ至リタルナリ

獨葡條約ニハ其ノ附屬外交書ヲ以テ葡國政府カ國家独占業ヲ設クルノ權利ハ該條約第十二條ノ為ニ妨ケラレサルコトヲ定メ專賣等ノ如キ政府独占業モ亦第十二條ノ例外ニ屬スルコトヲ明ニセリ然レトモ右ハ特ニ明定ヲ要セス例外第四号中ニ包含セラルルモノニシテ一九〇四年伊瑞西條約第

Concerning the importation or exportation of merchandise ナル文句ヲ追加シテ之ニ同意スルモ可ナリ右追加ナクシテ單ニ便益等ト称スルトキハ稍漠然タルノ嫌アルカ故本條ノ精神ニ副ヘル「商品ノ輸出入ニ關シテ」ナル文句ヲ追加スルノ要アリ

對案第七條ニ付

對案第一項ニハ我提案ニ存スル「兩締約國ノ一方ノ臣民タル」ト云フ文字及「並該國ノ版図内ニ於テ住所ヲ有シ商業ヲ営ム商人及工業者」ノ文字ヲ省ケリト雖締約國ノ臣民タルト否トヲ問ハス之ヲ包含シ得ル様規定セルヲ以テ此点ニ於テハ事實其ノ趣旨ヲ異ニスルコトナシ又獨逸對案ハ「商人工業者」ノ次ニ「及其ノ他ノ營業者」ナル文字ヲ加ヘタリ右ハ多クノ條約ニ見ユル *Négociants fabricants et autres industriels* ノ *autres industriels* ニ該當スルモノニシテ手工業者小商人等ヲ意味スルモノノ如シ歐洲諸國間ノ如キ相接近シテ交通往來ノ容易且頻繁ナルモノニ在リテハ商工業者以外ノ小營業者ヲモ併記スルノ必要アルヘシト雖本邦ト歐洲トノ如キ遠隔ノ間ニ在リテハ右小營業者ヲ併記スルノ必要ヲ認メサルカ故我提案ニ特ニ之ヲ掲クルニ及ハサリシナリ獨葡條約第十四條モ亦商工業者ノミヲ掲ク

然レトモ之カ挿入ニハ帝國政府ニ於テ強テ異議ナシ但シ独逸對案第一項後段ニ於テハ我提案ト同シク該商人工業者及其ノ旅商ト記シ其ノ他ノ營業者ナル文字ヲ脱セリ右ハ特ニ意味アルコトナルヤ説明ヲ得クシ若シ別ニ理由ナク単ニ誤テ脱漏シタルモノトセバ之ヲ追加スルコト前後行文ノ統一上適當ナリト認ム独白條約第九條ハ常ニ右三者ヲ反覆セリ又独逸對案第一項ニハ二ヶ所共 in dem Gebiete ト單數ニ用ヒ他ノ條文ノ複數ヲ用ヒ居レルト相一致セサルカ故右ハ in the territories ト複數ニ改メタシ

其ノ他「兩締約國ノ一方ノ官庁ヨリ發給セラレタル營業證明書ヲ所持シ以テ該國ノ版図内ニ於テ營業ニ從事スルヲ得ルコトヲ證明スル者ハ」ナル追加規定ニ對シテハ帝國政府ニ於テ異議ナシ

對案第二項ハ独白條約第九條第四項ト全然相同シ帝國政府ハ其ノ末段ノ「並營業ニ從事スルニ當リ遵守ス可キ規則」ノ文字ヲ削除スルニ於テハ之ニ同意シテ可ナリ右規則通知ノ件ハ独白條約第十四條第二項ニモ之ヲ掲ク思フニ独逸旅商カ本邦ニ於テ遵守スヘキ規則ヲ豫メ本邦ヨリ通知スルニ於テハ彼ノ為便利ナルヘント雖斯ノ如キハ其ノ煩ニ堪ヘサル所ナルヲ以テ之ヲ避クルコト得策ナリ

稅定率法ニ於テハ注文取集ノ為輸入スル有稅見本品ニ關スル所謂關稅規則及手續ナルモノハ單ニ稅金ノ担保ヲ提供セシムルコトヲ規定セルニ過キス故ニ我提案第二項後段ノ規定ナキトキハ同一物品ヲ多量ニ見本トシテ輸入シ得ルノ嫌アリ填白條約第十一條獨塞條約第八條第一号等消費品ヲ以テ條件付免稅ノ限ニ非ストナセルハ以テ參考ト為スニ足ルヘシ又我提案末尾ノ規定ハ物品カ數量價格又ハ性質上無稅輸入ヲ許可セラルヘキモノナルヤ否ヤヲ決定スル權利ノ專屬者ノ何レタルヤヲ念ノ為明記シテ誤解ヲ防クノ趣旨ニ出テタルモノニシテ有益ノ規定ト認ム

對案第七條 (a) ニ付

本條ハ現行條約第九條ト全然相同シク其ノ第一項ハ我關稅條約案第二條ニ該當シ多少相異ル所アルモノ一般ノ文例ハ独逸對案第一項ト同シキヲ以テ同意シテ可ナリ然レトモ第二項ニ對シテハ同意スルヲ得サルコト珍田大使意見ノ如シ思フニ第二項後段ノ規定タル外國品ト同様ノ内國品ニ内國稅ヲ賦課セサル場合ニハ之ヲ右外國品ニ賦課スルヲ得ストノコトハ既ニ第一項ノ存スル以上ハ必要ナキコトニシテ即チ第一項ニ於テ内國品ニ課スル内國稅ヨリ多額ナル若ハ重キ稅金ヲ同様ノ外國品ニ對シテ徵收スルヲ得サルコト

對案第三項ハ我提案第二項ノ前半中「前記ノ目的ヲ以テ」ナル文句ヲ「再輸出ノ意思ヲ以テ」ナル文句ニ改メタリ独逸覺書ノ説明スル所ニ拠レハ右ハ有稅見本ニシテ旅商ノ携帶ニ係ラサルモノニテモ日本ニ在ル個人又ハ商店ニ對シ一覽ノ為送付セラルルモノナラハ之ヲモ本條ノ規定ヲ以テ免稅ノ特典ニ浴セシメントスルモノナリ然レトモ本條ハ固ト旅商ノ為ニ一定ノ條件ノ下ニ於テ便宜ヲ与フルヲ目的トスルモノニシテ之ヲ汎ク他ノ場合ニ迄及ホサントスルハ取縮上煩雜ニシテ同意シ難キ所ナリ故ニ原案ノ復活ヲ主張ス獨白條約第十三條獨白條約第九條第五項獨伊條約第五條第二項獨瑞西條約第六條第五項獨塞條約第四條 (a) 等皆旅商携帶ノ見本品ニ限レリ又独逸對案ハ我提案第二項後段但シ以下ヲ冗文ナリトシテ削除セリ然レトモ第二項前段ニ所謂關稅規則及手續ナルモノハ見本品ノ再輸出セラルヘキコト又ハ法定ノ期間内ニ再輸出セラレサル場合ニ成規ノ關稅ノ納付セラルヘキコトヲ確實ナラシムルカ為制定セラレタルモノニシテ後段ノ規定ハ縱令右ノ關稅規則及手續ヲ履行スルトモ物品ノ數量及價格又ハ性質ニ顧ミ見本トシテ無稅輸入ヲ許可スルニ適セサルモノハ初メヨリ右特典ヲ及サハルノ精神ナルカ故之ヲ冗文ナリト認ムルヲ得ス我新聞

ヲ規定セル以上ハ前者ニ全ク課セサルモノヲ後者ニ課スヘカラサルコトハ勿論解釋ニテ明カナルヘシ又第二項後段ノ規定ハ一國ノ課稅權ニ對スル制限ニシテ内國ニ生産若ハ製造セラレサル輸入物品ニ對シテ内國稅賦課ノ自由ヲ奪フモノナリ勿論此場合ニハ該輸入品カ協定物品ニ屬セサルトキハ關稅ヲ増加スルノ方法アリト雖之カ為ニ關稅率間ニ不權衡ヲ來スノ虞アルノミナラス關稅ヲ増スノ外方法ナキトキハ獨リ國家ノ財政上不便ナルノミナラス地方若ハ自治體ノ財政ニモ障害ヲ來スコトナキヲ保セス故ニ本規定ニハ同意シ難シ英仏條約第四條英勃條約第六條英羅條約第八條等ハ勿論獨白條約第九條ニモ独逸對案第二項ノ如キ規定ナシ一九〇五年獨勃條約第十三條第一項獨羅條約第十二條英勃條約第六條ニハ同様ノ内國品ナキトキハ最惠國ノ物品ニ課スルヨリモ重キ内國稅ヲ課スヘカラストセリ独逸對案第二項ノ如キ規定ハ他ニ其ノ例ヲ見ス蓋シ協定物品ニ關シテハ斯カル規定ヲ設ケサルニ於テハ内國稅ノ賦課ニヨリ協定ノ効果ヲ減殺セラルルノ虞アルニヨリ協定稅目ニ掲ケタル物品ニシテ内國ニ生産若ハ製造セラレサルモノニ對シテハ内國稅ヲ課スルヲ得ストノ規定ヲ設ケタル條約少ナカラス例ヘハ獨瑞西條約第八條第二項獨瑞典條約第九條第二項

独逸條約第十三條第二項等之ナリ以上ノ次第二付本條独逸對案第二項ヲ削除シ第一項ニ同意シ通商條約ト關稅條約ト併合ノ場合ニハ之ヲ通商條約中ニ收メ分離ノ場合ニハ之ヲ關稅條約ニ移シ同條約ノ我提案第二條ニ代フルコトニ同意スヘシ對案第六條(b)ハ締約國民ニ對シ同條規定ノ事項ニ付内國民待遇ヲ保障シタルモノニシテ本條ノ如ク輸入物品ニ對スル内國品待遇ヲ規定スルモノト其ノ趣ヲ異ニス故ニ第六條(b)ハ兩條約ノ併合分離ニ拘ラス常ニ之ヲ通商條約ニ存置シテ可ナリ

對案第八條ニ付

我提案ハ一八六二年英仏協約一八六七年英伊宣言一八六二年英白協約一八八八年英希協約一八八三年英西宣言一八八九年白瑞西通商條約第二條等其ノ例ニ乏シカラス一九〇八年獨逸條約第十五條モ亦獨逸對案ヨリモ遙ニ我提案ニ近シ但シ帝國政府ハ其ノ提案第一項ニ獨逸案ノ如ク保險会社ヲ包含スルヲ明記シ「法律上成立セルモノト認メラルヘシ」トノ一句ヲ加ヘ尙ホ多少字句ヲ改メ又第二項トシテ最惠國待遇ノ保障ヲ明記スルコトニ異議ナシ右變更ヲ加フルトキハ本條ハ左ノ如クナルヘシ

Joint stock companies and other commercial, indust-

rial or financial companies and associations, including insurance companies, organized in accordance with the laws of either High Contracting Party and domiciled in the territories of such Party, shall be recognized as having a legal existence in the territories of the other and authorized to exercise their rights and appear in the Courts either as plaintiffs or defendants, subject to the laws of such other Party.

In any case, however, such companies and associations shall enjoy in the territories of such other Party the same rights as are or may be granted to similar companies and associations of the most favoured nation. 獨逸案ニ於テ「商業工業若ハ金融ニ關スル」ノ文字ヲ「株式会社」ニ附屬セシメサルハ株式会社ノ性質上必ス右文字ノ範圍外ニ出テサルカ故其ノ必要ヲ見ストノ趣旨ナルヘシ我提案中 companies and associations トアルニ對シ獨逸對案 Gesellschaften ノ一字ヲ用ヒタルハ右一字ニテ会社及組合ヲ包含スルニ因ルモノナルヘシ又獨逸對案本條ニ於テハ版圖ニ該當スル文字ヲ總テ單數ニ用ヒ居レルカ右ハ本條約ヲ通シテ其ノ統一ヲ維持センカ為原案ノ如ク複數ト為スコトヲ希望ス以上三点ニ付テハ念ノ為先方ノ注意ヲ惹クコトニ致シタシ

ルモ可ナリ

對案第九條ニ付

本條ニ關シテ獨逸ハ我提案採用ノ旨其ノ覚書ニ明記セリ但シ我提案第二項ニ於テ輸出税ニ關シテ paid ノ文字ヲ用ヒ於テハ兩者ニ對シテ均シク「ツアーレン」(to pay) ナル一字ヲ用フルト同時ニ「同一ノ輸出税並同一ノ輸出奨励金及戻税」ナル語ニ「兩締約國ノ一方ノ版圖内ニ於テ該版圖内ヨリ適法ニ輸出セラレ又ハ輸出セラルルコトアルヘキ物品ノ輸出ニ當リ許与 (gewähren) セラルル」ナル形容詞ヲ屬セシメタリ故ニ行文上ニ於テハ多少我提案ト異ナル所アリ、納付ナル文字ヲ奨励金及戻税ニ付テモ用ヒタルハ文字上穩當ナラサルノ嫌アリ(我提案ヲ獨逸政府ガ獨訳セルモノニ於テモ亦同様ノ批難ヲ加フルヲ得ヘク只許与ノ文字ニ「ゲヴェレーン」ヲ用ヒスシテ「エララウベン」ヲ用ヒタルノ差ノミ)之ヲ現行日獨條約第十條第二項ニ徵スルニ輸出税ニ關シテハ納付ナル文字ヲ用ヒ輸出奨励金及戻税ニ付テハ許与ナル文字ヲ用ヒ行文全く我提案ト同シ畢竟獨逸ハ我提案ニ賛成スルノ趣意ニシテ唯獨訳上誤解ヲ生シタルモノト認メラルヘシ以テ本條ハ我提案文ノ適リ採用セラレタルモノトナシ獨逸對案ノ英和訳共ニ我原文通りニ据置タ

リ但シ前記字句上ノ点ハ先方ノ注意ヲ促スノ要アリト認ム

対案第十條ニ付

本條対案ハ全然我提案ノ通りナリ

対案第十一條ニ付

独逸対案モ我提案モ畢竟同一ノ結果ニ歸スヘシト雖我提案ニ於テハ船舶国籍認識ノ實際的標準ヲ規定セル点ニ於テ便利ナリト認ム我提案ハ欧米諸條約中其ノ例ニ乏カラス一九〇二年米西條約第十一條一九〇三年伊玖條約第二十條ノ如キ亦然リ一八八七年独ホンデユラス條約第十八條同年独ガテマラ條約第十八條モ亦我提案ニ同シ一九〇四年ヨリ一九〇六年ニ至ル独逸ト露、^{ルーマニア}塞、^{サーゲイ}勃、^{バルカ}リヤ、^{リヤ}瑞典 各國トノ條約モ寧ロ我提案ニ近シ然レトモ独逸政府ニ於テ固ク自説ヲ主張スルニ於テハ敢テ之ヲ拒ムコトナク対案ニ讓歩シテ可ナリ

対案第十二條ニ付

本條独逸対案ハ我提案ヲ採用シタルモノナリ尤モ我提案中「内国船舶一般ニ又ハ最惠国船舶ニ課スルモノニ非サル」トアルヲ独逸対案ニ於テ「日独現行條約同様」内国船舶一般ニ及最惠国船舶ニ課スルモノニ非サル」トセリ我提案ノ趣旨モ内国船舶及最惠国船舶ノ兩待遇ヲ保障セルモノニシテ内国船舶一般ニ課スルカ又ハ最惠国船舶ニ課スルカ此

National vessels owned by the state, or vessels belonging to companies subsidized for the execution of postal service (des bâtiments nationaux propriété de l'État ou des bâtiments appartenant à des compagnies subventionnées pour l'exécution du service postal.)

及一九〇三年伊玖條約第二十二條中ニ存スル

appartenant à l'un des deux États ou à des compagnies subventionnées par l'un d'eux.

等ノ例ニ依リタルモノナリ然レトモ強テ其ノ必要ヲ認めサルヲ以テ之ヲ削除ニ異議ナキコト珍田大使意見ノ如シ

対案第十四條ニ付

本條沿岸貿易ニ関スル独逸ノ対案ニハ全然同意スルコトヲ得ス我原案ノ維持ヲ主張ス然レトモ帝國政府ハ我提案第一項ノ終ニ現行條約中ノ規定ト同趣旨ノ左ノ一句ヲ加フルニ同意スルニ

It is, however, understood that the subjects and vessels of either Contracting Party shall enjoy in the this respect most favoured-nation treatment in the territories of other,

又我提案第二項ヲ近時ノ諸條約ノ例ニ倣ヒ一層簡單トナシ

ノ何レノ條件ヲ缺クニ於テモ締約国ノ他ノ一方ノ船舶ニ課セサルノ意ナリ内国船舶一般ニ課スルモ最惠国船舶ニ課セサルカ最惠国船舶ニ課スルモノ内国船舶一般ニ課セサルカ如キモノハ之ヲ締約国ノ船舶ニ課スルノ趣旨ニ非ス故ニ独逸対案ト其ノ精神ニ於テ毫モ異ナル所ナシ本邦現行諸條約ニ於テハ独逸トノ條約ヲ除クノ外皆「又ハ」ノ文字ヲ用ヒ一九〇二年米西條約第七條亦然リ然レトモ「及」トスル方或ハ一屬論理的ニシテ適當ナルヤモ知レス故ニ一応上記ノ我説明ヲナシタル後独逸カ「及」ノ文字ヲ主張スルニ於テハ之ニ同意シテ可ナリ

対案第十三條ニ付

本條独逸対案ハ我提案中ヨリ「国有タルト国家ヨリ之カ爲補助ヲ受クルモノタルトノ別ナク」ナル文字ヲ削除セリ右ノ文字ハ一八七五年伊仏郵便條約第十四條中ニ存スル des bâtiments nationaux, propriété de l'État, ou des bâtiments frères ou subventionnées par l'État.

一八八四年仏境航海條約第十條中ニ存スル appartenant soit à l'État, soit à des compagnies subventionnées par lui

一八九〇年英仏郵便條約第五條中ニ存スル

左ノ如ク改ムルコトニ同意スルモノナリ

Japanese and German vessels may, nevertheless, proceed from one port to another, either for the purpose of discharging the whole or part of their cargoes brought from abroad or of taking on board the whole or part of their cargoes for a foreign destination.

我提案第十五條及第十六條ニ付

右兩條ハ我提案第三條及第四條ノ復活ト同一ノ理由ニ依リ之ヲ復活スルコトヲ希望ス但シ第十六條中 merchantノ文字ヲ省キ該條ノ規定ヲ軍艦脱船者ニモ及ホスコト現行日独領事職務條約ニ於ケルカ如クナスコトヲ独逸政府ニ於テ希望スルニ於テハ我ニ於テ異議ナシ

対案第十七條ニ付

本対案ハ現行日独條約第十四條ヨリ其ノ第三項ヲ省キタルモノト同シク僅ニ少許ノ字句ノ變更ヲ加ヘタルノミ其ノ趣旨タルヤ我提案第十七條ト異ナル所ナシト雖珍田大使意見ノ如ク独逸対案ハ行文余リニ複雑ニシテ他ノ條項ト權衡ヲ得サルノ嫌アルノミナラス一九〇六年独瑞典條約第十七條ノ如キ頗ル簡單ニシテ我提案ト酷似セルモノモアルカ故帝國政府ハ独逸カ我提案ノ復活ニ同意スルニ至ランコトヲ希望ス

一九〇八年独葡條約第二十二條モ亦独逸對案ノ如ク複雑ナ
ラス一九〇二年米西條約第十條モ亦略我案ニ同シ

右ノ如ク帝國政府ハ我原案ノ復活ヲ主張スト雖參考ノ為独
逸對案ノ字句ニ付説明ヲ得タキコトアリ

現行條約第十四條第二項ニ於テハ擱坐若ハ難破ト二ツノ場
合ヲ掲クルモ独逸對案第二項ニハ半ニ難破ノミヲ掲ケ第三
項ニ至リテハ現行條約同様擱坐若ハ難破 (Verunglückt) ノ
文字ハ此場合ニ於テハ難破ノ意ト解ス) ノ二ツノ場合ニ
言及セルハ特ニ意味アルコトナルヤ或ハ第二項ニ於テ擱
坐ノ文字ヲ誤テ脱漏シタルモノナルヤ又第三項末尾ノ

Scheitern ノ文字ハ擱坐及難破兩者ヲ包含スルモノト解ス
ル所果シテ然ルヤ第三項以下ニ於テハ Schiff ノ文字ノ外
ニ Fahrzeug ナル文字ヲ掲クルコト現行條約同様ナルカ右
ハ何等特別ノ意味アル義ナルヤ是等ノ点ハ參考ノ為承知シ
タシ

上記ノ如ク我方ニ於テハ我提案ノ復活ヲ主張ス但シ我提案
中ニ於ケル「局外中立ノ義務ニ反セサル限り」ナル一句ハ
必スシモ明文ヲ要セサルヲ以テ之ヲ削除シテ可ナリ
尤モ尙ホ独逸カ強テ其ノ對案ノ採用ヲ主張スルニ於テハ已
ムヲ得スンバ之ニ同意スルモ可ナリ但シ行文中疑義アル点

独逸對案ニハ我提案中ニ存セシ工業ノ文字ヲ削除セルカ右
ハ之ヲ挿入スルコト第一條第一号ニ照シ適當ナリト認ム
独逸對案ニハ政府船舶ノ文字ヲ加ヘタルカ船舶ノ文字ハ兎
モ角政府ノ文字ニ至リテハ其ノ必要ナカルヘシト思惟ス故
ニ我提案ニ對シ船舶ノ文字ヲ加フルニ止ムルコトヲ希望
ス

以上ノ次第ニ付若シ關稅條約カ分離セラル、場合ニハ我方
ハ我原案ニ船舶ノ文字ヲ加ヘテ之ヲ維持スルコトヲ主張ス
ベシ然レトモ独逸政府ニ於テ政府ノ文字ヲモ加フルコトヲ
強テ主張スルニ於テハ必スシモ異議ナシ若シ又輸入税ニ關
スル最惠國條款ヲモ本條約ニ併入スル場合ニハ独逸對案ニ
「工業」ノ文字ヲ加ヘテ之ニ同意スルモ不可ナシ但シ「政
府」ノ文字ハ成ルベク之ヲ削除シタシ

對案第十八條 (a) ニ付

本條第一項ハ現行條約第十七條列記ノ事項ニ加フルニ産地
表記ノ保護並不正競争ニ對スル保護ヲ以テセリ
帝國政府ハ既ニ独逸ヨリモ疾ク一八八三年ノ萬國工業所有
權保護同盟條約及一九〇〇年ノ同追加條約ニ加入シ國內法
ニ於テモ本條規定ノ事項ニ付内外人ノ間ニ區別ヲ設ケサル
ヲ以テ通商條約ニ於テ更ニ此ノ如キ規定ヲ設クルノ必要ナ

ヲ明瞭ニスルノ要アリ

對案第十八條ニ付

独逸對案ハ現行日独條約第十六條ト同一ナルガ若シ輸入税
ニ關スル規定ヲ我原案通り關稅條約ニ定メ我原案第六條第
一項ヲ復活スルトキハ縱令沿岸貿易ニ付最惠國民待遇ヲ互
約スルニ至ルトモ仍ホ所謂本條約ニ於テ反對ノ明文アル場
合存在スルカ故我原案ノ如ク其ノ冒頭ニ於テ「本條約ニ於
テ反對ノ明文アル場合ヲ除クノ外」ナル一句ヲ存スルヲ適
當ト認ム一八八二年英仏條約第一條第一項ハ輸入税ハ將來
各自國內法ヲ以テ規定スルコトヲ定メ從テ第二項ニ於テハ
右例外ヲ除クノ外兩締約國相互ニ通商及工業ニ關シ無條件
最惠國待遇ヲ許サスヘキコトヲ規定セリ一九〇六年独瑞典
通商航海條約第一條ニ於テモ「本條約ニ於テ例外ヲ掲クル
場合ノ外」ナル文字アリテ通商航海及諸般ノ産業並課税ニ
關スル內國民待遇ノ保障ヲ制限セリ

又独逸對案末尾ニハ「兩締約國ハ一方ノ通商及航海ヲ他方
ニ於テ總テ最惠國ノ基礎ニ置クノ意思ナルニ因リ」ナル一
句アリト雖前記ノ如ク通商航海條約ニ於テ輸入税ニ關スル
例外ヲ認ムルトキハ其ノ間矛盾ノ嫌アリ故ニ其ノ適當ナル
ヲ認メス

シ故ニ之カ削除ヲ主張ス工業所有權保護ニ關シテハ時々萬
國會議ニ依リ追加増補セラルルニヨリ其ノ定ムル所ニ任シ
テ可ナリ然レトモ他日若シ本件ノ事項ニ付特ニ兩國間ニ協
約ヲ必要トスルノ事情アルニ至ラハ其ノ折商議スルコトヲ
辭セサルヘシ

對案第二項ニ對シテハ同意シ難キコト珍田大使意見ノ如シ
本項ハ外國人ニ許可セル特許、実用新案及意匠ニ關シ其實
施セラレサル場合ニ當リ內國臣民ニ許可セル特許等ニ對シ
同様ノ場合ニ適用スヘキ制裁ヲ右外國人ノ特許等ニハ適用
セサルコトヲ定ムルモノナリ即チ外國人ニ對シテ強制實施
ノ免除ヲ約スルモノナリ独逸覺書ニ依レハ同國ハ歐洲諸國
又ハ北米合衆國ト締結セル諸條約中ニ同様ノ約束アリトノ
コトナルカ本省ノ調査ニ於テハ最近ノ資料ヲ缺タカ故僅ニ
一九〇九年ノ独米特許意匠実用新案保護條約ヲ發見セルノ

ミ然ルニ右独米條約ニ拠レハ兩締約國ノ一方ノ現行若ハ將
來ノ法律ノ規定ニシテ特許実用新案又ハ意匠ノ不實施ニ
對シ權利ノ取消又ハ其ノ他ノ制限ヲ定ムルモノハ締約國ノ
他ノ臣民若ハ人民ノ有スル特許実用新案又ハ意匠ニ付テハ
右臣民若ハ人民ノ本國法ノ定ムル制限ノ範圍内ニ於テノミ
之ヲ適用ストアリテ全然強制實施ヲ免除スルモノニ非ス只

強制実施ヲ本國法ノ定ムル範圍ニ止ムルノミ独逸對案ノ趣旨ハ或ハ右独米條約ト同シク本國法主義ヲ定メントスルモノナルヘキカト察セラルト雖果シテ然リトセハ行文ニ於テ甚ク明瞭ヲ缺ケリ尤モ何レニセヨ我方ニ於テ本項ニ同意スルヲ得サルコト珍田大使意見ノ如シ何トナレハ外國人ニ對シテ内國民以上ノ特典ヲ認ムルモノナレハナリ

對案第十九條ニ付

独逸對案ハ現行條約第十九條ト同シ独逸カ我原案ヲ削除シ現行條約第十九條ヲ採用シタルハ本條約ノ適用ヲ單ニ独逸本國及独逸ト現ニ關稅同盟ヲ為セル「ルクセンブルグ」大公園及壤地利ノ僻邑「ユングホルツ」及「ミツテルスベルグ」ニ限り独逸海外領土ニハ之ヲ及ホサ、ルノ趣意ナラント認メラル然レトモ帝國政府ハ兩締約國ノ版圖全部ニ新條約ヲ適用センコトヲ欲スルノミナラス租借地ニモ亦之ヲ及ホサンコトヲ希望スルカ故我原案ヲ復活スルコトヲ主張ス尤モ輸入稅ノ規定ヲ本條約中ニ併合スルニ至リタルトキハ独逸對案ヲ第二項トシテ左ノ如ク追加スルニ異議ナシ

They shall also apply to the territories which now unite or may hereafter unite in a customs union with either of the Contracting Parties.

モノニ非ス但シ帝國政府ハ現行條約ノ終了ト新條約ノ締結ヲ機會トシ新通商航海條約ト全ク分離シテ別ニ現存永代借地權ノ処理ヲ図ラント欲シ目下考案中ナルガ故追テ成案ヲ得次第交渉ニ及フベキ主意ナルコト昨年六月六日付機密條第十号記載ノ如シ故ニ右ノ趣旨ニテ先方ニ回答スルコトニ致クシ

最終議定書ニ付

独逸對案ニ於テハ條約案ニ附屬スルニ最終議定書案ヲ以テセリ

最終議定書中第一号

第一号ハ條約第五條第一項兩締約國版圖ノ間ニハ相互ニ通商及航海ノ自由アルヘシトノ規定ニ關シ日本國政府ヲシテ通商上特ニ重要ナル國內各地ニ貿易ノ必要ニ応ジ倉庫及保税倉庫(現行條約附屬文書ニハ無稅物置ト訳セリ)ヲ建設維持スルコトニ留意スルノ義務ヲ負ハシメントスルモノナリ

現行條約締結ノ當時彼我全權委員間ニ往復セル文書中ニモ同様ノ規定アリ帝國政府ハ貿易發展ノ為必要ナル施設ハ諸般事情ノ許ス限りハ敢テ他國ノ注意ヲ俟タス自ラ進テ之ヲ具備スルニカムルコト論ヲ俟タスト雖今日再ヒ條約上斯カ

但シ右第二項ヲ追加スルニ於テハ條約調印ノ際互ニ其ノ版圖外ニシテ現ニ關稅同盟ノ關係アル地域ヲ通告スルコトトナシ又將來條約存続中新ニ關稅同盟地域ニ加ハリタルモノアルトキハ直ニ之ヲ通告スルコトニ商定シ置クヲ要ス尙ホ關稅條約ヲ分離シテ締結スルトキハ關稅條約我提案第四條ニ前記ノ如ク追加ヲ為スニ異議ナシ

對案第二十條及第二十一條ニ付

右ハ我原案ト全然同一ナリ但シ批准書交換ノ場所ハ之ヲ東京ト定ムルコトニ致シタシ

終リニ独逸覺書ニ掲レハ我提案中ニ現行條約第十八條ニ該當スル規定ナキハ外國人居留地設定ニ關スル國際取極書ト現行條約締結ノ當時彼我全權委員間ニ往復セル一八九六年四月四日付文書トニ鑑ミ右第十八條規定ノ事項ハ現行條約ノ存続ト關係ナク將來永遠ニ亘リテ規定セラレタルモノナルコト毫モ疑ナキガ故今回新ニ約定スルノ必要ナシトノ見地ニ基ケルモノト認メ独逸ニ於テ右十八條ノ復活ヲ求メサル旨聲明セリ

然レトモ帝國政府カ永代借地權ニ關シ何等規定ヲ其提案中ニ設ケサリシハ独逸政府ノ想像スルカ如キ理由ニ基ケタルル義務ヲ負フコトヲ規定スルカ如キハ体面上ヨリイフモ同意スル克ハサル所ナリ故ニ之カ削除ヲ主張スルコト珍田大使意見ノ如シ

第二号中(a)

右(a)中第一項ハ我關稅條約案第三條ト殆ント相同シク同條中ノ in such cases ノ文字及「他ノ一方ヨリノ輸入品ヲシテ最低稅率ノ適用ヲ受ケシメムカ為」ナル文字ヲ削除セルノ差アルノミ in such cases ノ文字ハ exceptionally ノ文字アル以上ハ強テ必要ナク又「他ノ一方ヨリノ輸入品云々」ノ文句モ必スシモ其必要ヲ認メサルヲ以テ右削除ニ對シ異議ナシ從テ關稅條約カ分離セラル、トキハ右削除ヲ為シタルモノヲ以テ左ノ關稅條約カ分離セラル、トキハ右削除ヲ為シタルモノヲ以テ左ノ如ク關稅條約第三條トシテ存置スルコトヲ主張スベク關稅條約ガ通商航海條約ト併合セラル、場合ニハ本條ハ通商航海條約第六條(a)ノ前又ハ後ニ一個條トシテ挿入スベシ

The Contracting Parties agree to dispense generally with the obligation to produce certificates of origin. But if in either Country other exist in respect of any articles of import more than one rate of customs duty,

certificates of origin may be exceptionally required.

(a) 中第二項

本項ハ現行追加約定附屬議定書第二項ト同趣旨ナルモ独逸
国商業會議所ノ文字ニ代フルニ独逸公認商業代表団ノ文字
ヲ以テシ商業會議所ニ非ル商人団体ヲモ生産原地證明書ノ
発給及送状ノ認證ヲ為スコトヲ得ルモノノ中ニ加ヘタルノ
差アルノミ然レトモ帝国政府ハ此ノ如キ片務の規定ヲ設ク
ルコトニ同意スルモハサルノミナラス之ヲ相互的ニ修正ス
ルトモ我警察官庁ハ此ノ如キ権限ヲ附与セラルハニ適當ナ
ラサルノミナラス税関ニ於テハ自国領事ノ證明ナキ場合ニ
ハ輸出国税関ノ證明ヲ認ムルヲ以テ最モ便宜ナリトスベク
(仏国ニテハ送状ニ仏国領事ノ認證アルカ又ハ發送国税関
ノ認證アルヲ要ス)之カ為ニハ輸出国ニ於テ他ノ官庁又ハ
公認団体ノ證明ヲ最後ニ税関ニ於テ認證スレハ可ナルベシ
尤モ右ハ未ダ帝国政府ニ於テ今後定ムヘキ生産原地證明規
則ニ於テ取ルベキ確定方針ナリト言フニアラス政府ニ於テ
ハ各国ノ法制ヲ參酌シ實際ノ便宜ニモ顧ミ適當ノ規則ヲ定
ムルノ趣意ナリ從テ條約上何等約束ヲナスコトヲ欲セス
第二号中(b)

(b) ハ本邦ガ独逸ニ倣ヒ関税事項ニ関スル公報発給規則ヲ制
定シ商品ノ輸入ニ当リ受クベキ関税待遇ニ関シ商品輸入者
業ニ関シテハ独逸條約第九條独逸條約第十四條独逸條約
第十三條等ニ於テモ締約国ノ船舶及積荷ニ対スル内国及最
惠国待遇保障ノ例外トセリ然ルニ本号ヲ独逸對案ニ於テ省
キタルハ独逸覺書ニ記載ノ如ク主トシテ「漁産ノ輸入ニ関
シテ内国民漁業ニ準セラルノ漁業」ナルモノノ意義ニ付充
分了解スルモハサリシニ原因セリ故ニ右意義ニ付新條約案
説明書記載ノ説明ヲ与ヘ之レカ復活ヲ主張スヘキコト珍田
大使意見ノ如シ

而シテ関税條約ガ分離セラル場合ニハ第一号及第二号ヲ
関税條約中ニ保存シ其第二号ヲ独逸案ヲ參酌シテ左ノ如ク
修正スレハ可ナリ

2nd The favours which are or may be granted to
contiguous States to facilitate local traffic within
the respective frontier districts.

然レドモ関税條約ヲ通商條約中ニ併合スル場合ニハ珍田大
使意見ノ如ク第十八條ノ次ニ挿入シ独逸對案ニ我関税條約
案第五條第一号ヲ加ヘ左ノ如ク規定スベシ

The provisions of Articles VI, VII, and XVIII rela-
tive to the granting of most favoured nation treat-
ment do not apply to.....

ヲシテ拘束力アル公報ヲ得セシムベキコトヲ帝国政府ニ約
束セシメントスルモノナリ帝国政府ハ独逸政府カ右同國規
則ノ写ヲ供セラレタルニ對シ謝意ヲ表スト雖本件ニ関シ何
等條約上ノ義務ヲ負フコトヲ欲セス從テ(b)ハ削除スルコト
ヲ主張スベキコト珍田大使意見ノ如シ

第三号

右ハ我関税條約案第五條第二号ト其主意ニ於テ異ルコトナ
シ只對案ニ於テハ國境ヨリ起算シ幅員各十五基米突ヲ越エ
サル地帯内ノ地方貿易ノ為設ケタル殊遇ニ限定セリ
右ハ近年欧米諸國ノ條約ニ於テ其例少カラズ然レトモ之ヲ
十五基米突(我三里八合)ニ限定スルトキハ清露國境各側
五十ヴェルスト(我十三里余)無税ノ協定ヲ滿鮮國境貿易
ニ準用スル場合ニ支障ヲ生スルノ虞アリ且歐洲ノ接壤國ト
滿鮮國境地方ト大ニ狀況ヲ異ニスル故右副員ノ制限ヲ明記
スルコトヲ避ケンコトヲ主張ス尤モ國境貿易トイフ性質
上自然ニ相当ノ制限アルガ故切リニ推扱セラルノ虞ナシ
近頃ノ條約ニテモ現行日西特別條約一九〇三年西希條約、
一九〇四年伊瑞西條約一九〇六年埃伊、埃白、埃瑞西條約
等副員ヲ明記セサルノ例亦少カラズ
独逸對案ハ我関税條約案第五條第一号ヲ削除セリ内国民漁

1st. The produce of the national fisheries of the
Contracting Parties as well as of fisheries
which in the matter of the importation of
their produce, are assimilated to national fisher-
ies, and

2nd. The favours which are or may be granted
to contiguous States to facilitate local traffic
within the respective frontier districts.

第四号

独逸ハ其對案第十九條「本條約ハ両締約國ノ一方ト現ニ関
税同盟ヲ為シ若クハ將來為スコトアルヘキ地域ニモ之ヲ適
用スベシ」トノ規定ニ付朝鮮ニ関スル一規定ヲ設テ韓國併
合ニ関シ日獨兩政府間交換ノ文書ニ依リテ定メラレ若ハ定
メラルノコトアルベキ特別約定ノ有効ナルコトヲ明記セン
ト欲スルノ主意ナルカ如シ

然レトモ韓國併合ニ関スル帝国任意ノ宣言又ハ外國トノ取
極ハ畢竟一時過渡ノ時期ニ對スル措置ニ屬シ確定状態ヲ基
礎トシテ永続的性質ヲ有スル通商航海條約中ニ於テ之ニ言
及スルハ適當ナラサルノミナラス又之ニ言及セストモ朝鮮
ニ関スル特別ノ宣言又ハ取極ノ効力ニ異同アルベキ理ナシ

故ニ帝國政府ハ独逸ノ提議ニ係ルカ如キ規定ハ其ノ必要ヲ認メス又此ノ如キ規定ヲ設クルコトヲ欲セス

以上ノ次第ニシテ最終議定書案ニ揚グル事項中一モ議定書ノ規定トシテ存スベキモノナシ

四四一 明治四十四年二月十三日 小村外務大臣ヨリ 独逸大使宛

領事職務條約ニ関スル件

送第一号

明治四十四年二月十三日

在本邦 独逸大使ムム男宛 小村 大臣

以書翰致啓上候陳者独逸帝國政府ハ日独現行領事職務條約カ本年七月終了スルニ因リ其後兩國間ノ法律關係ヲ処理スヘキ一層完備ノ條章ヲ規定セムカ為新通商航海條約締結ノ談判ト同時ニ別ニ領事職務條約、犯罪人引渡條約並民事ニ関スル權利保護及司法共助條約ヲ商議セムコトヲ希望スル旨右三條約草案相添昨年十一月十八日付書翰ヲ以テ當時ノ

右御回答申上度本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向ヒ敬意ヲ表シ候 敬具

四四二 明治四十四年二月十三日 小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛(電報)

稅率協定ニ関スル件

二月十三日後五時七分發

第八号

在独 珍田大使 小村 大臣

新通商航海條約独逸對案ニ關スル我修正意見本月十一日特使便ヲ以テ發送セリ詳細ハ書類御落手ノ上承知セラルベキガ關稅ニ付独逸方本邦ニ最惠國待遇ヲ与フル報酬トシテ我ヨリ最惠國待遇ニ加フルニ若干ノ協定稅率ヲ得ントスルノ提議ハ畢竟我ニ取リ純然タル片務的協定ニシテ現行條約ニ於ケルモノト毫モ異ナルナク帝國多年ノ宿望ニシテ今回條約改正ノ主眼タル稅權回復ノ目的ト相容レサルモノナルヲ以テ主義ニ於テ既ニ同意スルヲ得ズ之ヲ商議ノ基礎トシテ採用スル克ハザル所ナリ帝國政府ハ諸般ノ事情ニ顧ミ假令双務的ニテモ協定ノ容易ナラズシテ且之ガ為メ條約ノ締結

臨時代理大使アー、モンジユラ伯ヨリ御申越ノ次第致闊悉候

帝國政府ハ右提議ニ對シ慎重ナル考量ヲ加ヘ候処若シ此際新通商航海條約ニ關スル商議ト同時ニ前記三條約ノ談判ヲ行フニ於テハ内國法令トノ關係上種々顧慮査覈ヲ要スルモノ多キカ為當面ノ急務タル通商航海條約ノ締結ヲ遷延セシムルノ虞アリト認メ候間乍遺憾同意ヲ表スルコト能ハサルコトニ致痛著候

帝國政府ハ茲ニ其提出シタル通商航海條約案ニ示スカ如ク該條約中ニ領事職務及權利保護ニ關スル若干ノ重要規定ヲ載スルニ於テハ現在ノ事態ニ鑑ミ實際ノ不便ナシト認ムルモノニ有之候ヘ共猶特ニ詳密ナル領事職務條約犯罪人引渡條約民事ニ關スル權利保護及司法共助條約等ヲ締結スルコトヲ貴國政府ニ於テ希望セラル、ニ於テハ先ツ新通商航海條約締結ヲ完了シ然後右諸條約ノ商議ヲ開始スルコトニ同意ヲ表スヘク候但シ其場合ニハ談判ヲ東京ニテ行フコトニ致度候間左様御承知置相成度目下ハ先ツ專ラ當面ノ急務タル通商航海條約ノ締結商議ノミニ從事スルコトニ致希望候

ヲ遷延セシムルノ虞アリト認ムルガ故自ラ協定ヲ希望スルモノニ非ズト雖若シ独逸政府ニ於テ我主義ニ叶ヘル双務對等ノ條件ノ下ニ彼我稅率ヲ相互協定セムコトヲ強テ希望スルニ於テハ帝國政府ハ新ニ先方ノ提案ニ接シタル上之ヲ考量スルヲ辞セザル覺悟ナリ尤モ上記ノ次第ハ当地独逸大使ヘハ未ダ之ヲ告グズ閣下ガ我書類ニ接シ御査閱ノ上先方ヘ開談セラル、運ニ至ル迄ハ何等當地ニテ打明ケザル旨ニ付左様御承知相成リタシ通商條約ト同時ニ領事職務條約犯罪人引渡條約並民事ニ關スル權利保護及司法共助條約ヲモ商議締結セントノ提議ニ對シテハ右三條約ハ内國法令トノ關係上種々詮議ニ時日ヲ要スルニ因リ若シ之ヲ同時ニ商議スルトセバ此際最モ主眼トスル當面ノ急務タル通商條約ノ成立ヲシテ遷延セシムルニ至ルベキガ故右提議ニハ同意シ難シ但シ先ツ通商條約ノ締結ヲ完了シタル上ニテ他ノ條約ヲ商議スルコトニハ異存ナキモ其談判ハ東京ニテ行フヲ希望スル旨本日公文ヲ以テ独逸大使ヘ回答セリ是亦委曲ハ特使便ノ書類ニテ御承知相成リタシ尤モ本件提議ニ對スル我意嚮ニ付テハ是ヨリ先キ独逸大使ヨリノ尋アリタルニ付前記ノ如キ回答ヲ為スコトニ決シ居ル旨答ヘタルニ他ノ二條約ハ比較的縁遠キモ領事職務條約丈ハ通商條約ト密接ノ

關係アルガ故独逸政府ハ同時ニ之ヲ商議スルコトヲ希望スベク其締結ガ假令通商條約ト同時ナラズトモ兎モ角談判丈テハ開始スルコト、為シテハ如何トノ意見ヲ述ベタリ仍テ本大臣ハ領事職務條約ヲ同時ニ商議スル丈ケニテモ他省トノ交渉ニ時日ヲ要シ容易ニ抄ラザルコト疑ナシト雖只談判ヲ開始シ之ガ締結ハ必ズシモ通商條約ト同時ナルヲ要セズ通商條約ハ其議了次第調印ヲ妨グズトノコトナラバ自分ハ差支ナカラント思惟スルモ右ハ独逸政府ヨリ更ニ其趣意ノ提議ニ接シタル上ノ問題ニテ尙初ノ提議ニ對シテハ既ニ決定ノ通り回答スベキ旨ヲ答ヘタリ尙右談話ノ際大使ハ新通商條約ガ本年七月迄ニ成立セザルトキハ一時ノ便法トシテ現在ノ協定稅率ヲ例ヘバ六個月間延期スルコト、為サバ可ナルベシトノ意見ヲ述ベタルニ付本大臣ハ若シ独逸側ニ此ノ如キ意見ヲ抱ケルニ於テハ條約談判ノ進行ニモ影響スベキガ故何等誤解ナキ様最モ明確ニ我主義方針ヲ告知スルノ必要有益ナルヲ認メ大使ニ向ヒ帝國政府ハ條約談判上關稅問題ニ付二箇ノ到底為ス能ハザルモノアリ一ハ新關稅定率法ノ実施ヲ延期スル克ハザルコト二ハ現行協定稅率ヲ一日クリトモ延期スル克ハザルコトニシテ稅權ノ回復ハ政府ガ管テ疾ク議會ニ聲明シ其方針ニ依リテ新關稅ヲ編成シ又

四四四 明治四十四年二月二十八日 押川農商務次官ヨリ 石井外務次官宛

独逸ニテ羽二重課稅ニ關スル件 附屬書 農商務省意見書

商第九二号

明治四十四年二月二十八日

農商務次官 押川則吉(印)

外務次官 石井菊次郎殿

客年十二月二十六日付機密送第六〇号及本年一月十一日付機密送第一号並ニ一月二十日付機密送第三号ヲ以テ本邦羽二重ニ對スル独逸ノ關稅ニ關シ御内報有之候処右羽二重貿易上容易ナラサル儀ニ付遂調査候処別紙理由ニ依リ独逸政府ノ反省ヲ促シ稅目適用ノ解釈ヲ變更セシムヘキ余地可有之ト被存候間適當ノ時機ニ於テ同政府ニ對シ交渉スヘキ様駐独本邦大使ニ可然御訓達相成候様御取計相成度此段及照会候也

(附屬書)

農商務省意見書

第一、新適用ノ影響

一、本邦羽二重ニシテ四匁五九以上ノモノハ多クハ密ナ

小村外務大臣時代 対独交渉 四四四

現行條約ノ廢棄通告ヲ發シタルモノナレバ右ニ關シテハ好ク我趣意ヲ承知アリタシト切言セリ御參考迄ニ併セテ申進ス

四四三 明治四十四年二月三日 在漢堡沼野領事ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

漢堡稅關ニテ本邦羽二重課稅ニ關スル件

二月廿三日 前一〇、五一 漢堡發
廿四日 前三、二八 本省着

第三号

小村外務大臣

沼野總領事代理

今般在漢堡商人 Henry Becker 本邦羽二重ヲ輸入シタルニ漢堡稅關ニ對シ稅番四〇八ヲ適用課稅シタルヲ以テ同人ハ目下右ニ關シ抗告中ナリ本件ニ付テハ確定次第追電スヘシ漢堡ニ於テ羽二重ニ對シ四〇八ヲ適用シタルハ本官ノ知ル処ニテハ今回ヲ以テ嚙矢トス

ル織物ナルヲ以テ四〇一番ヲ適用スルノ外ナシ故ニ羽二重ノ稅率ハ畢竟四〇一番(百基ニ付三百麻)又ハ稅番四〇八ノ第二号(百基ニ付千五百麻)ノ何レカヲ課セラル、コトナルヘシ而シテ稅番四〇一ト稅番四〇八ノ第二号トノ適用ニヨル差異ハ百匁ノ羽二重ニ付稅額約二匁十錢ノ差異ヲ生ス

二、新適用ニヨレハ約四匁以下ノ輕目羽二重ハ如何ニ製織ノ方法ヲ變スルモ稅番四〇八ノ第二号ノ適用ヲ免ルコト能ハサルナリ元來本邦ノ羽二重ニシテ輕量トナルモノハ主トシテ其ノ價格ヲ低廉ナラシムルガ為メナルニ拘ハラス輕目トナシタル為メニ二匁余ノ多クノ稅ヲ負但スルコト、ナリテ当初ノ價格ヲ低廉ナラシメントスル目的ニ一致セサルコト、ナリ茲ニ尺三中ノ四匁付ト同五匁付トハ稅率ノ適用ノ差異ニ因リ價格殆ント同一トナルノ奇觀ヲ呈スサレハ新適用ニ依リテ輕目羽二重ノ輸出ヲ杜絶スルニ至ルノ影響アリト謂フモ過言ニ非ラス

三、新適用ハ後段述フルカ如ク不当ノ解釈ノ結果ト見ルヲ得ヘク且ツ其ノ適用タル單ニ鑑定ニヨルモノナルカ故ニ其適用ハ嚴密苛酷トナルノ虞アリ而シテ新適用ニ

シテ愈々実施セラル、曉ニハ商取引上輸出品ハ四〇八
税番ノ適用ヲ受ケサル範圍ニ於テ最モ輕目品多キヲ占
ムヘク然ルニ斯ノ如キ製品ハ動モスレハ五倍ノ課税ヲ
受クルコト、ナリテ税関ト折衝頻繁トナルノミナラ
ス羽二重貿易ニ危険ナル性質ヲ帯ハシメ結局関稅官吏
ト輸入業者ノ確執ヲ誘起シ而國貿易ノ為メニ不便ヲ生
スルコト大ナリ

第二、本邦羽二重ハ性質上税番四〇八ノ適用ヲ受クヘキモ
ニアラス

一、四〇八番税目ハ紗、縮緬、ペール地及其類品トシテ
品種ヲ指定セリ即チ紗及ペール地ハ緯絲ト緯絲トノ間
ニ一定ノ間隔ヲ保タシムルタメ特種ノ織方ニナリ縮緬
ハ布面ニ皺縮ヲ生セシムル目的ヲ以テ緯絲ニ強キ撚ヲ
与ヘテ織成セルモノナリ然ルニ羽二重ハ之等兩者ト其
ノ製法外觀全ク相一致スル点ナキカ故ニ其ノ類品トシ
テ本税目中ニ入ルヘキモノニアラス尙其ノ税率ノ高キ
コト及他ノ税目トノ対比ニ見ルモ縮緬以外ニハ透過シ
得ルヲ目的トシテ織製セル重量極メテ輕キ織物ニ適用
セラルヘキ税目ニシテ透ノアル織物トシテノ解釈ハ此

故リ Marceline 及び Sarsenet 同様相当除外ヲナス
ヘキモノナルヘシ

二、四〇八番ノ税率カ明カニ経緯絲間ノ間隙ニヨリテノ
ミ適用スルモノナリトセバ既ニ従来ヨリシテ其ノ適用
ヲナシ来リタル管ナルヘシ然ルニ従来四〇一ヲ適用シ
来リタルハ四〇一ノ税目タル「タフタ」様ノ織物トシ
テ取扱フノ当然ナルニヨリシモノト認ムルノ外ナシ然
ルニ今ヤ一二当業者カ自己ノ利益ノ為メニ本邦羽二重
ニ打撃ヲ与フル為メ殊更ニ曲解ヲ強ントスル運動ニヨ
リ苛酷ナル取扱ヲナサントスルハ其意ヲ得サル処ナリ
第三、本年一月廿日付機送第三号ニヨル中央税関ノ織絲ノ
解釈ニ至リテハ殊ニ税率ノ適用ヲ擴張セル甚シキ曲解ト
認ム即チ左ノ理由ニヨリ羽二重ノ織絲ハ一本ト解釈スヘ
キモノナリ

一、織絲ナル名称ハ織物ヲ織リ得ヘキ絲ノ意味ニ外ナラ
スシテ織絲トシテ撚ヲ有スルモノ多キノ故ヲ以テ織絲
ハ撚ヲ有セサルヘカラストノ結論ヲ為スヘキ理由ヲ認
ムル能ハス羽二重ハ生絲ニ特ニ撚ヲ与フルコトヲ為サ
スシテ製織スルモノニ係ルト雖モ其ノ製織準備工程ト
シテ撚ヲ掛クル代リニ糊材ヲ以テ絲ヲ密着セシメタル

等織物ニ付其ノ最低限度ヲ示セルモノト見ルヘキモノ
ナリ

本邦羽二重ノ如キハ当然四〇一番中ニ入ルヘキモノニ
シテ注文又ハ価格ノ關係上薄クナリタルニ止マリ特ニ
薄クナセルカ為メニ原料織方用途、価格ノ比例等ニ差
異ナキ同一品質ノ織物タルニ拘ハラズ高尙特種ナル織
物ニ闕スル四〇八番ノ適用ニ依リテ三倍乃至五倍ノ苛
酷ナル課税ヲナサントスルハ税目ヲ曲解セル適用ナリ
ト云フヘシ加之透キアル織物ノ解釈トシテ税番四〇五
ノ下ニ瑞西ト協定シタル註ニ提レバ空隙ヲ全ク糊ニヨ
リ埋メタルモノ又ハ特種織物（滑カナル「タフタ」）
ニシテ緯絲一センチメートル間ニ三十五本以上ノモノ
（緯一寸間百三十二本以上ニ相当ス）ヲ除外セリコノ
除外例ニ徵スルモ税番四〇八ハ透キアルヲ目的トシテ
特ニ透キヲ作りテ製織シタル織物ニ適用セラル、精神
ナルコトヲ知ルニ足ルヘシ故ニ羽二重ニ付空隙少シク
多キノ故ヲ以テ直チニ四〇八ヲ適用スルハ不当ナリト
云フヘシ仮ニ羽二重ヲ四〇八税目ノ適用ヲ受クヘキモ
ノトスルモ我羽二重ハ四匁五九付以下ノモノト雖モ緯
絲ハ一センチメートル間ニ三十五本以上アルモノ多ク
且ツ滑カナルタフタ様ノ織物ナル事ニ於テ一致スルカ

モノナリ是ノ故ニ一本ノ織絲カ數縷ノ生絲ヨリ成ルモ
ノニ外ナラス恰モ數本ノ絲ニ撚ヲ掛ケタルモノト雖モ
尙織絲トシテハ一本ノ織絲ト見ルト一般羽二重ニ付テ
モ一本ノ織絲ト見ルヲ至当トス殊ニ製織ノ際ニ於テ
ハ純然タル一本ノ織絲ヲ形成スルハ實際上否ムヘカ
ラシテ偶々製織後精練シテ単ニ平行セル如ク見ユルノ
結果アルニ過キス尤モ羽二重ハ柔軟ニシテ絹ノ原質ヲ
發揮セシムルヲ以テ目的トスル織物ナレハ製織上差支
ナキ限り撚ノ少ナキヲ貴ブ然ルニ羽二重ノ緯絲ヲ卷ケ
ル管ハ製織上主管ノ方式（主管ノ方式トハ上図ノ如
ク管ニ卷キタル緯絲ヲ矢ノ方向ニ引キ出スヲ云フナリ
從テ緯絲ニハ輕微ナル撚ヲ生ス）ニヨルト経絲ハ再三
粹ヨリ卷キ返スモノナレハ経緯其輕微ナル撚リヲ有ス
ルモノナルコトハ羽二重製織ノ実状ヲ知ルモノ、容易
ニ理解スル処ナリトス故ニ若シ全然織絲一本ナル解釈
ヲ撚リノ有無ニ歸スルトスルモ羽二重ノ経緯ハ輕微ナ
ル撚ヲ有スルモノナルカ故ニ飽迄一本ナリト認定スル
ヲ妥当トス

四四五 明治四十四年三月一日 在漢堡沼野領事ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

漢堡税関ニテ羽二重課税ニ関シ統報ノ件

三月一日 後六、五五 漢堡発
二日 前九、三〇 本省着

第四号

小村外務大臣

沼野総領事代理

本邦羽二重課税ノ件ニ付漢堡税関ニ就テ取調ノ結果本年二月十五日独逸大蔵省ノ税関宛達中本邦羽二重輸入ニ関シ方米突ニ付従量二十「グラム」以下ノモノニハ税番四〇八ニ依リ百「キログラム」ニ付一、五〇〇麻ヲ課スヘキモノナリトアルヲ知り得テ前電「ベッカー」ノ件ハ一兩日中ニハ決定スヘキモ却下ノ見込ナリ

四四六 明治四十四年三月二日 在漢堡沼野領事ヨリ 小村外務大臣宛

條約改正参考切抜送付ノ件

附屬書 参考切抜訳文(一)(二)(三)(四)

送第四一号

三月廿日接受

明治四十四年三月二日

員ニ随伴セシメラレタルコトハ新聞紙ニ依リ世人ノ知レル所ナリ

吾人ハ今回初メテ行ハレタル専門家ノ参加ヲ以テ事夫レ自体ハ大ニ歓迎スヘキモノナリト謂フヲ憚ラス是レ蓋シ再三唱導セラレタル多数利害関係者ノ希望ヲ参酌シタルモノナルヘシ然リト雖右ノ希望カ実現セラレタルノ形式ニ至ツテハ吾人ハ断々乎トシテ抗議ヲ呈セサルヲ得サルナリ

第一 若シ外國ニ於ケル條約談判ノ繼續中右ノ如キ僅少ノ而カモ實際ハ単ニ狭小ナル部門ニ付テノミ組織ヲ有スル専門家カ終始換ルコトナク我談判委員ニ参加スルモノアリトセハ此ノ如キハ先ツ第一ニ前述ノ目的ニ適合スル所以ニ非スト思惟ス

第二 次ニ前記四氏ノ選抜ハ偏頗ナリト断セサルヲ得ス何トナレハ之等ノ諸氏ハ悉ク經濟委員會中ヨリ採用セラレタルモノニシテ經濟委員會ナル団体ハ多数ノ重要ナル輸出入部門ヲ代表スルモノニ非サレハナリ

第三 最後ニ吾人ハ二名ノ工業代表者ハ中央組合ニ屬スルモノニシテ通商條約協會及工業家同盟ニ依リテ代表セラレル他ノ方面ノ参加セシメラレサリシコトニ反對ス

通商條約協會ハ業ニ既ニ一九〇九年十月初ニ於テ大宰相ニ

小村外務大臣時代 対独交渉 四四六

在漢堡帝國總領事代理

領事 沼野安太郎印

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

本年二月廿日發刊「ハンデルス・フェルトラーグス・フェライン」隔週報所載独瑞條約改正ノ件並ニ米加互惠通商條約ト独逸トノ關係ニ関スル件切抜トシテ條約改正係参考ノ為メ茲ニ及送付候間御査閱相成度此段申進候 敬具

註 切抜ハ訳文ヲ次ニ掲グ

(附屬書)

條約改正係参考切抜(訳文)

(一)

四十四年二月二十日發刊

「ハンデルス・フェルトラーグス・フェライン」隔週報所

載

対瑞條約商議ニ関シ独逸商業専門家ノ参加

(大宰相ニ対スル通商條約協會ノ建白書)

經濟委員會中ノ會員四名即チ漢堡商業會議所副会頭ボーレン、伯爵スベール、鉦山局長ワクレル博士及通商局参事官フォゲルノ諸氏カ「ストックホルム」ニ於ケル独逸談判委

致シタル建議書中ニ條約談判中並通商條約ノ締結ニ当リ実業界ヨリ正式ニシテ適切ナル協力ヲ求メンコトヲ後憑シタリ然ルニ今右ノ意見ノ實現セラレタルヲ見ルニ該建議書中ニ陳述セラレタル深キ根拠ヲ有スル提議ハ総テノ点ニ於テ一モ顧慮セラルル所無カリシカ如シ是レ吾人ノ深ク遺憾トスル所ナリ専門家ヲ經濟委員會ヨリ採ルノ不可ナルコト少クトモ悉ク之ヨリ採用スヘカラサルコトハ曩ニ吾人ノ切ニ希望シタル所ナリ如何トナレハ彼ノ団体ヨリ抜ケル會員ハ終始固定不変ナルヘキカ故ニ通商政策上ノ多クノ問題ハ全ク其ノ道ノ専門的知識ヲ缺ケル者ニ相談セラルルノ結果ヲ見ルニ至ルヘケレハナリ今日ノ有様ニテハ通商條約ノ締結ハ総テノ輸出業者ノ味方タル會員ヲ包含スルニ非サル而カモ我輸出業者ノ希望ト要求トニ関シテ何等豊富ナル知識ヲ有スル者無キ經濟委員會ノ判断ニ委セラレンドス是レ吾人カ専門家ノ選抜ハ之ヲ各個ノ場合ニ最モ密接ナル關係ヲ有スル利益代表者ノ中ヨリシ且全然其団体ノ自由選挙ニ依ラシムヘント論シタル所以ナリ

此ノ如クシテ初メテ一層弘キ販売家ノ側ヨリスル協力ハ自ラ細密ニ亘ルヲ得ヘク唯此ノ協力ノ細分ニ依リテノミ政府

ハ一切ノ関税問題ニ付テ實際的専門家ヲ活用スルコトヲ得ヘキナリ

経済委員会ニ代表者ヲ有セサル工業団体ニシテ通商條約ニ特別ノ利害關係ヲ有スルモノニ限り口頭又ハ書面ヲ以テ其ノ希望ヲ主張セシメンカ為頃者経済委員会々員又ハ談判委員自身ヨリ招致セラレタルモノアルコト及特ニ今日迄ノ対瑞條約談判中我談判委員ト實際家トノ間ニ幾多ノ協議ヲ遂ケラレタルコトノ事實ハ吾人ノ熟知スル所ニシテ吾人ハ感謝ヲ以テ之ヲ認識セント欲スルモノナリ然リト雖吾人ハ此ノ如ク之ヲ為スト為ササルトハ一ニ經濟委員会若ハ談判委員ノ欲スル儘ニ任セラレタル諮問方法ヲ以テ全然攻撃ノ余地無シト做スコト克ハス如何トナレハ此ノ如キ方法ハ當事者力最モ善意ナラムト欲スル場合ニ於テモ仍ホ不完全ト偏頗トニ陥リ易ケレハナリ又工業ノ部門如ク多数ナルニ實際的専門家ヲシテ其ノ希望ヲ彼等自身先ツ教ヲ乞ハサルヘカラサル底ノ經濟委員会ノ似非専門家ニヨリ克ク代表セラレタルカ如ク為サントシタルハ專ノ正鵠ヲ得クルモノト云フヲ得ス此ノ如キ方法ヲ以テセンカ不知不識容易ニ不正ト偏頗トニ陥ルヘキハ自然ノ數ト云フヘシ

吾人ハ工業代表者タル二氏ノ才能ヲ認識スルト共ニ之ヲ公然リ吾人ノ提議ニ從ヒ商議ノ目的トナレル税表貨物ノ種類ニ応シテ専門家ヲ取代ユルニ於テハ少クトモ各別ニ革製品(一、二)、毛皮製品(一、三)彈性護膜(一、六)粘土製品(一、一)硝子品(一、三)陶器(一)ノ如キ第二位ニ在ル輸出工業ニ付我談判委員ヲ指導スルニ於テ何等重大ナル困難ヲ感スルコト無カルヘシ

吾人ハ二氏ノ工業専門家トシテノ才能ニ對シテハ殆ント異議ヲ挾ムノ余地ナシト認ムルモノナリト雖十年以來一方ニ偏セル經濟政策派即チ独逸工業家中央組合ノ領袖タル二氏ヲ独逸工業ノ排他的代表者トシテ選抜シタルノ一事ニ至ツテハ直ニ疑惑ノ湧然トシテ起ルヲ禁シ能ハサルモノアルヲ奈何セン選抜ニ漏レタル他ノ幾多ノ工業団体ハ實ニ輸出精製工業ノ多数ヲ代表スルモノニシテ此等ノ工業ハ良好ナル通商條約ニハ先ツ第一ニ之ニ加ヘラレ且從來ノ通商條約ニ依リテ被ムリタル其ノ甚大ナル損害ニ鑑ミ特ニ顧慮スルノ価値アリシモノナリ是レ工業代表ヲ独リ專ラ一個ノ組合ノ會員ニノミ委託シタルヲ怪マサルヲ得サル所以ナリ此ノ如クシテ独逸工業ノ利益代表タラムトスル中央組合ノ不正ナル要求ハ實ニ公式ニ是認セラレタリ是レ当局者ハ中央組合ノ要求ヲ保護維持セント欲スルモノナルカノ如キ外觀ヲ

言スルヲ憚ラス右ノ二人者ハ各其ノ道ニ付テハ最モ有為ナル専門家トシテ知ラレ且十有余年經濟政策ノ實務ニ干与リ通商政策上ノ諸問題ニ熟達セルノ士ナリ而シテ參事官フオゲル氏並鐵山局長ワクレル博士ハ我對瑞貿易上第一位ニ在ル工業部門ヲ代表ス夫レ然リ然リト雖告人ハ各其ノ代表スル生産業(織物及鉄工業)ノ極テ細微ニ渉ル兩氏ノ豊富ナル知識及誠意モ未以テ動モスレハ論争ノ動機ト為リ易キ一切ノ税目ニ関シ我談判委員ニ専門上ノ補助ヲ与ヘ得ヘキ底ノモノニ非スト思惟ス成ル程ワクレル博士ハ瑞典ヨリノ最重要ナル輸入品ニ関スル第一ノ有權的識者ト看做サレ且独逸總体ノ機械工業一九〇九年一月ノ独逸統計ニ依ル百萬馬克ヲ單位トセル對瑞独逸輸出額(七、一)ニ関スル専門家ト称セラル又フオゲル氏ハ綿製家具原料、毛製ノ地氈及拾衣、恐クハ又木材及紙工業ニ付テ第一等ノ専門家タルヘシ然レトモ我對瑞織物輸出ニ付テハ他ノ貨物即チ綿織衣服原料(八、二)全及半絹製品(三、五)衣服及裝飾品(二、七)ノ遙カニ大立物タルアリ

他ノ數氏ノ折々ノ補助アルニ於テ容易ニ電氣工業(八、六)北学工業(北学原素、酸及塩一三、五、染料七、七、七、七)漆三、三)銅器(四、六)ノ如キ他ノ重要ナル工業ニ注意スルコトヲ得ルナルヘシ

事實ノ上ニ現ハセルモノト云フヘキ歟、吾人ハ何カ故ニ工業家同盟、通商條約協會 然リ独瑞通商條約中央準備委員會スラ除外セラレタルカノ理由ヲ解スルニ苦ムモノナリ況ンヤ此等三個ノ利益代表団体ノ代表者ハ彼ノ經濟委員會ニ其ノ議席ヲ有スルニ於テヤ

尙ホ吾人ハ我談判委員カ專ラ一個ノ特定セル方面及一個ノ団体ニ屬スル専門家ト絶エス密接ナル接觸ヲ為スノ結果トシテ補助カ多方面ニ遍ク普及シ且公平ナルヲ得ヘキハ到底充分ニ之ヲ保障シ得ヘカラサルノ点ニ於テ輕々ニ看過スヘカラサルヲ認ムルモノナリ

斯ルカ故ニ吾人ハ事夫レ自体ハ感謝ニ値スヘキ専門家ノ援助モ右ノ如キ方法ヲ以テ行ハルルニ於テハ通商條約ノ締結ニ当リ先ツ第一ニ顧慮セサルヘカラサル底ノ工業ノ為其ノ利益ヲ謳ハンヨリハ寧ロ其ノ危險ヲ憂ヘサルヲ得サルナリ

(二)

独逸ト米加通商條約

英領北亞米利加及北米合衆國間ニ新ニ締結セラレタル通商並關稅條約ハ該條約ハ兩國ニ於ケル議會ノ難關ヲ慮リ單ニ關稅法ノ修正トシテ發表セラルヘシ一各國ノ新聞紙上ニ世人ノ注目ヲ喚起シタリ蓋シ当然ノ事ト云フヘシ何トナレ

ハ該條約ハ加奈陀ニ取リテモ亦北米合衆國ニ取リテモ通商政策ノ根本的変換ヲ意味スルモノナレハナリ即チ合衆國ニ取リテハ一切ノ税率協定政策ト兩立シ得ヘカラサル自主的通商政策ハ以後之ヲ実施セサルヘキコトヲ約セルニ齊シク畢竟多年豫想セラレツツモ荏苒遲滞セル現行制度ノ根本的破壊ヲ意味スルモノナリ況ンヤ米國ハ其ノ互惠主義ヲ拋棄シテ米國ノ生産品ハ何等ノ利権ヲモ有セサル即チ最惠國待遇ノ保障無キ英國品ニ対スル特別税率ノ据置ニ同意スル旨ヲ宣明セサルヲ得サルニ至レルニ於テヤ次ニ加奈陀ニ取リテハ如上ノ制度アルニ拘ラス何レノ英領殖民地否母國自身ヨリモヨリ多ク加奈陀ノ通商政策ヲ補助スルコトヲ其ノ目的トシタル從來ノチャムバーレン氏ノ帝國關稅同盟計畫ヨリ根本的ニ背馳セルモノナルコトヲ意味ス此等ノ点ニ於テ該條約ハ疑モ無ク通商政策上異常ナル利害關係ヲ有スル出来事ナリト云ヘシ

独逸ハ此ノ出来事ヨリ何物ヲ獲得スヘキ乎利用乎將損失乎ソハ全然別個ノ問題ニ屬ス

米加條約ヲ一見セル者或ハ該條約ヲ以テ保護主義ニ対スル自由貿易主義ノ捷利ナリト看做シ以テ保護貿易主義カ全世界ヲ壟斷セルノ極終ニ破綻ヲ生シ自由貿易思潮ノ為ニ乘

テ自由貿易政策ヲ執ルニ至ラシメタルニ酷似ス之ヲ以テ適當ナル取捨ヲ加ヘハ次ノ如ク断スルヲ得ヘシ曰ク「加奈陀ノ關稅政策史上對取米利加合衆國通商條約ノ締結ハ大体ニ於テ一八六二年「ピスマーク」ニヨリテ行ハレタル對仏獨逸通商條約ノ締結ニ相当ス況ンヤ今次ノ通商條約モ當時ノ獨逸條約ト同シク相互ニ純然タル政治上ノ深キ原由ヲ有スルニ於テヤ」ト

独逸ノ自由貿易政策ハ大工業界ノ激烈ナル反對運動ヲ惹起シタリ而シテ此ノ工業団体ハ世人ノ知レル如ク一八七六年ニ於テ独逸工業家中央組合ト聯合シ總テ一八七九年ノ關稅率ニ依リテ起リ爾後益有カトナレル「總國民労働ノ一般利益保護」政策ノ中堅ト為ルニ至レリ今ヤ加奈陀ニ於テモ之ト類似ノ展開ヲ期待スヘキヤノ問題ヲ生ス然リト雖加奈陀ニ於テハ差當リ之ヲ望ミ難キニ似タリ加奈陀ハ現在殆ント八百萬ノ住民ヲ有スルモ其ノ地積ハ約一億人ヲ容ルルニ足ルヘク現在ノ耕地ハ二千萬エーカーニ達スルモ專門家ノ調査ニ依レハ小麦ノ産出ニ適セル土地ハ優ニ二億五千萬エーカーヲ越ユト稱セラル又他方ニ於テ加奈陀ノ工業發展ハ其ノ驚クヘキ財宝アルニ拘ラス新條約ノ結果トシテ当然來ルヘキ工業的優秀ナル發達ヲ遂ケ尺セル合衆國トノ密接ナル

セラルルニ至リタル第一ノ徵象トシテ之ヲ歡迎セントスル無キヲ保セス然レトモ通商政策上單純ナル一思想カ他ノ一思想ヲ征服スルカ如キハ絶エテ之無キ所ニシテ常ニ存スルハ一利益団体カ他ノ一利益団体ヲ制御スルコトナルヲ忘ルヘカラス換言スレハ一國通商政策ノ決定ハ概シテ學說上ノ主義カ新ニ其ノ血路ヲ開キ得タルノ効果ニ共ツルニ非スシテ常該國ニ於テ之ト種々ナル利害干係ヲ有スル經濟団体ノ勢力ノ分派ニ符合セントシテ成ルモノナリ一言ニシテ之ヲ掩ヘハ通商政策ハ原則政策ニ非スシテ実利政策ナリ

這般ノ出来事ハ加奈陀ニ取リテ從來ノ保護關稅制度カ本國大工業ノ最モ勢力アリ政治上最モ威權ヲ振ヘル団体ニ依リ促成セラレタルモノナルコトヲ明示スルモノナリ然レトモ急激ニ増加セル移民ハ専ラ農業ニ向ツテ集注シ為ニ小麦ノ耕作地ハ僅々八年以内ニ百八十萬エーカーヨリ六百八十萬エーカーニ膨張シ農具機械及其ノ他ノ工業所ノ無稅輸入ト其ノ農産物ニ対スル外國ニ於ケル門戸開放ノ制度トニ因リ利便ヲ得テ次第ニ農民層ノ過剩ヲ來シ政府ヲシテ農民ノ利害ニ顧慮スルノ己ムヲ得サルニ至ラシメタリ是レ恰モ其ノ當時独逸ニ於テ其ノ農業過重カ「フリードリッヒ・リスト」ノ保護關稅制度ヲ棄テ六十年及七十年代ニ於

結合ノ為尠カラス阻害セラルヘシ恐ルヘキ競争者ノ漸進的的發展ヲ少クトモ出來得ル丈ケ緩漫ナラシメムトスル米國ノ願望ハ農業及林業上ニ於テハ會テ聞カサル程ノ無免許耕作ニヨリ増加セル原料品ノ需用及「ツラスト」ト關稅トニ基ク生活費ノ向上ニ對シテ起リ益々拡大セントスル國民的動運ト共ニ實ニ米國政府カ該條約ヲ締結スルニ至レル主タル動機ナリト云フヲ得ヘシ斯クテ向後十年間ハ加奈陀ニ於テハ其ノ異常ナル天然ノ財宝ヲ擁シツツモ農業ノ發展コソ顯著ナルモノアルヘク從テ其ノ通商政策ハ保護關稅ノ勵行ヨリモ寧ロ自由貿易主義ニ傾クモノト見ルヲ得ヘキカ如シ

該條約ノ一種特別ナル動力ハ—吾人ノ驗ニ依レハ斯ル動力カ未タ會テ充分ナル効果ヲ奏シタルノ例ヲ知ラス—多數ノ品目ニ付相互ニ行ハレタル同様な關稅引上ノ注目スヘキ協定ニ在リテ存ス此ノ協定カ巧慧ニシテ而カモ成行アル未來政策ノ産物ナルコト即チ此ノ政策カ外國特ニ歐洲文明國ニ對シテ加奈陀ト米合衆國トノ提携ヲ容易ナラシメタルモノナルコトハ之ヲ推定スルニ難カラス既ニ第一項ノ條約ニ依リ關稅目ノ多數ニ付加奈陀並米國ノ稅表中ニ同様な輸入稅ヲ規定セハ該條約カ一般的ニ事實トナルニ於テハ

将来條約ノ改訂アルニ際シテモ此ノ如ク組織的ニ成リ漸次
事態ニ適合スルニ至リタル統一の関稅率カ機一度熟シテ一
大經濟地域ヲ包容スルニ至ル迄右稅目ノ數ヲ増加スルコト
ヲ抑制スルハ必スシモ難事ニ非ス而シテ該條約カ将来米加
關稅同盟ヲ形成スルノ第一歩タルヘキハ全ク可能ノ事ニ屬
ス而シテ此事恐クハ右條約ニ關スル米国会議ノ簡單ナル商
議ニ依リテ行ハルヘシ之ヲ換言スレハ他ノ一切ノ經濟政策
ヨリモ亞米利加合縱主義即チ經濟上ノモンロー主義ヲ促進
スヘキ一階段ト云フヘキナリ

之ニ於テカ吾人ハ歐洲諸國カ意ヲ用キムコトヲ希ハサルヘ
カラス北米通商政策上ノ一致ハ亞米利加及一般世界市場ニ
於テル歐洲文明國ノ地位ニ對シ從來殆ト看過セラレタル
一個ノ危險ヲ意味スルモノナリ然リト雖此ノ危險ニ對シテ
此等總テノ歐大陸小國カ相互ニ高率保護關稅ヲ執ルカ如キ
ハ策ノ最モ拙ナルモノト云ハサルヘカラス然カモ狹義ノ
「中央歐洲關稅同盟」ニ依リ諸國間ニ横ハレル障壁ヲ除去
シ得ルノ望ハ吾人ノ想像シ得ル時代ニ於テハ到底之ヲ期待
スル克ハス何トナレハ政策ノ性質上右同盟ニ反對スル障礙
ハ余リニ強力ナレハナリ且又假令之カ成立ヲ見ルコトアリ
トスルモ現在ノ我カ貿易狀態即チ食料品ニ對スル支扶狀態

歴史上相密接シ而カモ同一國語ヲ有スル埃洪國ト此ノ如キ
種類ノ特惠條約ヲ締結スルコトアリトセンカ即チ一般ノ完
全ナル最惠待遇ニ從フ關稅條約ト共ニ相互ノ貿易上特ニ重
要ナル一定ノ貨物ニ付独逸並埃地利ノ製產品ニ對シ殊遇ヲ
協定スヘキ特別協約ヲ取結フコトアラハ是レ單ニ米國政策
ノ模倣タルニ過キサルヘキナリ

然レトモ此ノ如キ歐羅巴特惠條約ニハ又大ナル暗黒面アル
ヲ看過スヘカラス該條約ト連結シテ益々其ノ度ヲ高ムヘキ
一般ノ最惠待遇ノ制限ニ付テハ大ニ論スヘキモノアリト雖
ソハ暫ク措キ特ニ一言スヘキハ今若シ広キ範圍ニ於テ此ノ
如キ協約カ各個ノ歐洲諸國間ニ取結ハルルニ於テハ忽ニシ
テ歐洲ノ貿易ハ製産原地證明ト煩鎖ナル稅關取扱トノ為殆
ント耐ヘ得ヘカラサル苦痛ヲ感スルニ至ルヘキコト是レナ
リ尙ホ其ノ他多種多樣ナル差別待遇ノ為一般ノ關稅奸策及
關稅戰爭ノ危險ヲ醸スニ至ルヘシ之ニ於テカ若シ其ノ必要
アリトセハ世界市場ニ於ケル其ノ販賣狀態ノ尙ホ此ノ上ニ
モ不況ニ陥ルヲ出来得ル丈テ豫防セムカ為ノヨリ善キ方法
トシテ親善ナル歐洲工業國間ニ自由通商同盟ノ出現ヲ見ル
ニ至ルヘシ

ニハ殆ント何等ノ変更ヲモ来スコト無カルヘシ何トナレハ
一切ノ中央歐洲諸國ハ大体ニ於テ多少工業輸出國ナレハナ
リ夫レ然リ然リト雖差シ当リ此等各個ノ國家間ニ何等カ之
ニ接近セル一致ノ行動ノ採用セラレルニ至ランコトハ深ク
考量ヲ費スノ價值アリト信ス

吾人ハ何等自由貿易論者タルノ要ヲ見スト雖保護關稅モ亦
之ヲ適用スル版圖ノ性質及大小ノ如何ニ依リ輕重ノ差甚敷
モノアルヲ忘ルヘカラス、露米ノ如キ龐大ナル版圖ニ於テ
至幸ナル効果ヲ奏スル事柄モ独逸ノ如キ國ニ於テハ其ノ價
値疑ハシキコトアリ又葡、羅、瑞典ノ如キ國ニ取リテハ一
個ノ戲画ニ過キサルコトアルヘシ此ノ故ニ假令今日ノ場合
ハ未タ独逸カ歐羅巴工業國通商同盟ノ提案ヲ為スヘキノ秋
ニ非ストスルモ適當ノ時機ニ於テ此ノ考案ニ熟慮ヲ払ハン
コトヲ希ハサルヲ得ス

(三)

關稅率ト通商條約

米加通商條約ノ内容

其ノ獨米通商條約ニ及ホス影響如何米加兩國政府ノ代表者
間ニ協定セラレタル提案ハ兩國ノ議會ニ提出セラレタリ而
シテ談判中ニハ比較的自自由ナル通商貿易ノ誘起ニ關シテ兩
國相互ニ或ル程度ノ讓歩ヲ為シテ該提案ハ外觀上條約ノ
形式ヲ執ラスシテ相互ノ商品輸入ニ對シテ各自ノ關稅率變
更ノ形式ニ提レリ提案總体ハ分テテ四部ト為シ甲部ハ協約
ニ依リ無稅ヲ約セントスル貨物、乙部ハ兩國ニ於テ同一稅
額ヲ約セムトスル貨物ヲ包含シ、丙部ハ米國ニ於テ丁部ハ
加奈陀ニ於テ各自異ナル稅額ヲ定メントスル貨物ヲ包含セ
リ

兩國ニ於テ同一稅額ヲ課セラルヘキ貨物(甲部及乙部)ニ
シテ甲部中(無稅)特ニ掲クヘキモノ左ノ如シ
生畜、穀物、種子、木材、果實、野菜、乳精品、漁類
牡蠣、肝油、食塩、刺針金線、真鍮(竿、條、ロール、
線、葉又ハ板)、チーム分解器、筒鉄、葉鉄又ハ鋼鉄板、
鋼鉄線、電渡鉄、線又ハ鋼鉄線、植字機

次ニ両国ニ於テ輕減セル同一税額(乙部)ヲ許サルヘキモノ就中左ノ如シ

總テノ種類ノ肉類、小麦粉、及玉蜀黍粉、農器及農業機械(一割一分及二割) 刃物(二割七分五厘) 真鍮製藥器、陶器、掛時計及懐中時計(二割七分五厘) 葉用綿、印刷用墨、揮發油、硝子板及硝子鏡、原動力機(三割) 鉄水、袋糞類

又米因ニ於テ加奈陀ヨリノ輸入ニ對シ特別輕減税額ヲ定メタル商品(丙部) 中特ニ注意スヘキモノハ

アルミニウム、轉轆盤、尾根板、加工セル板、鉄鋳、石炭粉

ニシテ 加奈陀ニ於テ米因ヨリノ輸入ニシテ特別輕減税額ヲ課セラ

ルヘキ商品ヲ包含セル丁部中ニ付説明スヘキモノハ セメント、果樹、コンデンズドミルク、ビスケット、密閉箱入果実、燃土炭

ナリトス

斯クテ米因下院ハ尙ホ多クノ貨物ヲ無税々表中ニ加フル為該條約ヲ委員會ニ移送スヘシトノ動議ヲ四十二票ニ對スル百九十一票ヲ以テ否決シ去リタル後互惠條約ハ九十二票ニ

國ハ合衆國ニ付与スルニ我一般的協定税率ヲ以テセリ 獨逸聯邦參事院ハ特別ノ帝國法律ヲ以テ合衆國ヨリノ輸入ニ對シ適當ナル範圍ニ於テ我協定税率ヲ適用スヘキコトヲ委任セラレタリ 斯クテ聯邦參事院ハ一般的協定税率ヲ一層弘ク合衆國ニ許与セント欲スルトキハ之ヲ為スノ權利ヲ有ス然レトモ必スシモ之カ義務アルニ非ス又關稅政策關係カ米因側ヨリ變更セラレタル場合ニ於テハ聯邦參事院ハ帝國議會ノ同意ヲ要セスシテ何時ニテモ合衆國ノ獨逸協定税率ニ對スル均霑ヲ全部又ハ一部剝奪スルコトヲ得之レ委任法律中ノ左記規定ニ依ルモノナリ曰ク

「合衆國ニシテ法律、第三國トノ條約又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ獨逸帝國及合衆國間ノ商品貿易ニ關スル現在ノ狀態ニ獨逸國ノ不利益ト為ルヘキ變更ヲ加ヘタルトキハ聯邦參事院ハ其ノ裁量ニ依リ合衆國ノ製産品ニ付与シタル殊遇ヲ全部又ハ一部取消スコトヲ得」

此ノ如ク我國ハ合衆國ト條約關係ヲ有セス又之ト最惠國關係アルニ非ス從テ其ノ新關稅輕減ニ對シ何等法上ノ請求權ヲ有セサルナリ然リト雖合衆國ニシテ獨逸ノ最低税率ニ對シ請求權ヲ有スル限ハ對獨關稅協定ノ成立ヲ見ルニ至ル迄特別法ヲ設ケテ其ノ新最低稅額ヲ獨逸ニ許与スルニ至ルヘ

對スル百八十一票ノ大多数ヲ以テ可決セラレタリ該條約ハ其ノ結果ニ於テ看過スヘカラサル米因通商政策ノ根本的變更ヲ意味スルモノナリト雖元老院モ亦輿論ノ圧迫ニ耐エ得スシテ同意ヲ表スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘシ

悲哉獨逸ハ現在ノ通商關係ノ為加奈陀ニ於テモ將又合衆國ニ於テモ新關稅輕減ノ均霑ニ對シ一モ條約上ノ請求權ヲ有セサルナリ何トナレハ一九一〇年三月一日ヨリ施行シタル加奈陀トノ條約ハ單ニ關稅戰爭ヲ終結セシメタルニ過キスシテ之ニ代リテ條約狀態ノ成立ヲ告ケタルモノニ非サレハナリ加奈陀側ニ於テハ關稅戰爭ニヨル増徴トシテ單ニ三割三分一ニ高メラレタルニ過キサレモ其ノ他ノ獨逸輸入ハ加奈陀國定税率ニ服シ且加奈陀ニ於テ最惠國待遇ヲ享クル他ノ諸國ノ如ク協定税率ニ對シ何等ノ請求權ヲ有セス此ノ故ニ新協約ハ獨逸ニ取り其ノ全力ヲ傾注シテ以テ再ヒ加奈陀トノ條約談判ヲ開始スヘキ動機ヲ与フルモノト云ハサルヘカラス

合衆國ト我國トノ條約關係モ亦同様ニ薄弱ナルモノニシテ客年設定セラレタル我通商關係ハ相互ニ其ノ自主的法律ニ拠レルモノナリ即チ一九一〇年二月七日ノ新條約ニ基キ合衆國ハ大統領ノ宣言ヲ以テ我國ニ其最低稅率ヲ許与シ我

キハ之ヲ期待シ得ヘク復無條件ニ之ヲ要望セサルヘカラサルナリ

(四)

獨逸帝國議會當會期ニ於ケル二箇ノ通商政策的問題(四十四年二月八日發刊フオンツセ、ツァイツング所載)

屢々報道シタル如ク日本カ行ヒタル廢棄通告ノ結果本年七月十七日ヲ以テ終了スヘキ日通商條約改訂談判ハ目下兩國政府間ノ懸案トナリ居レリ方今兩國ノ通商關係ニ於テ何等不快ナル障礙ナキカ故ニ前記期日迄ニハ新條約ノ締結ヲ了シ帝國議會ニ於テ之ヲ協贊スルコトトナルヘシ此際ハ單ニ最惠國待遇ニ止マラス關稅條約ニ對シテ談判スルモノナレハ自然根本的考察ヲ要スルナルヘシ右ノ如キ次第ニテ何レノ途、帝國議會ノ當會期中ニハ日獨新通商條約ノ訂結ニ關スル一議案ハ議場ニ上サルナルヘシ

現行條約ノ暫定的延期ハ問題トナリ難カラシム蓋シ其内ニハ日本ハ英國トノ通商條約ヲ訂結スヘケレハナリ日本ハ獨逸ニ向ケ約一千萬麻克ノ絹ヲ輸出シ居ルカ故ニ我(獨逸)協定税率ノ獲得ヲ甚ク必要トナスヘキヲ以テ我ト

モ亦一條約ヲ訂結センコトハ其尤モ喫緊事トナス所ナルヘシ
瑞典トノ關係亦之ニ似タリ現行通商條約ハ客年末ヲ以テ終了ニ歸シタル処双方合意ノ結果本年十二月一日迄其効力ヲ延期セリ就テハ同日以後瑞典ノ新關稅率ハ実施セラルヘキ筈ナリ左レハ十二月一日迄ニハ新獨瑞通商條約ヲ訂結シ議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス尤モ目下議案輻湊ノ折柄ニツキ從來实例モアルカ如ク此等ノ兩條約案ニ對スル評議ヲ秋季ノ開期ニ延期セラルルヤモ計ラレス然ルニ瑞典議會ニテハ會期ヲ延期スルコト稀ナルカ故ニ前記通商條約ニ關スル評議ハ今春ノ開期ニ於テ之ヲ見ルヘキモノナルヲ注意スヘシ右ノ如キ事情ニツキ獨逸帝國議會ニ於テモ亦現開期中ニ此等約案ヲ通過セサルヘカラス從テ此際二箇ノ重要ナル通商政策ニ關スル議案ノ提出ヲ見ルヘキ次第ナリ

四四七 明治卅四年三月四日 在漢堡沼野領事ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

三月四日 後一、二四 漢堡發
三月五日 前六、五〇 東京着

在漢堡帝國總領事代理 領事 沼野安太郎(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

二月十五、十六兩日ニ於テ漢堡商人「ハインリツヒ、ベツカー」本邦羽二重五函(重量約百九十一基瓦)ヲ漢堡市「ハンノーヴェルシャー」停車場稅關經由輸入シタルニ同稅關ハ之ニ對シ獨逸關稅率第四〇八号ヲ適用シタルヲ以テ「ベッカー」ハ漢堡稅務局 Hamburg General Zolldirektionニ對シ從來通り總テ稅番四〇一ヲ適用アリタキ旨抗告シタル次第ハ二月廿三日發往電第三号ヲ以テ要領申進置候処本件ハ其後該稅務局ヨリ三月一日附決定書ヲ三月三日「ベツカー」宛送達致來リ候

右決定書ノ全文ハ別紙寫ノ通りニ有之其要領ハ「獨逸關稅規則 Warenverzeichnis zum Zolltarife 第三百四十頁總註

allgemeine Anmerkung 第四号ニ依リ現品見本檢査ノ結果該織物中三匁、三匁四分ノ一、三匁半ノ記号ヲ有スルモノハ非密 Undicht 織物トシテ取扱フヘキモノニシテ四匁四分ノ一ノ記号アル織物ハ密 dicht 織物ニ屬スルモノナルヲ檢定セリ故ニ前記四匁四分ノ一記号ノ織物ノミハ稅番四〇一ニ依リ百基三百麻克ヲ課スヘク其他ノ分ハ一平方米突ノ重量二十グラム以下トナルヲ以テ稅番四〇八ニ依リ百基千

小村外務大臣

沼野總領事代理

「ベツカー」羽二重課稅ノ件ハ漢堡 General Zolldirektion 三月一日附決定書ヲ三月三日「ベツカー」宛送附セリ右決定書ヲ見ルニ Waren Verzeichnis zum Zolltarife 一四〇頁 Allgemeine Anmerkung 第四号ニ依リ見本檢査ノ結果三匁、三匁四分ノ一、三匁半ノ記号アル羽二重ハ undicht 織物ニシテ一平方米突ノ重量二十瓦以下ナルヲ以テ稅番四〇八ニ依リ百「キロ」千五百麻克ヲ課シ四匁四分ノ一記号ノモノハ dicht 織物ニ屬スルヲ以テ稅番四〇一ニ依リ百「キロ」三百麻克ヲ課稅スヘキモノナリトアリ尙今後獨逸各稅關ハ本邦羽二重ノ檢査ニ一層ノ注意ヲ加フヘキニ付本邦羽二重輸出業者ハ横糸縱糸共ニ其間隔ニ注意シ意外ノ損害ヲ招カサル様希望ス

四四八 明治卅四年三月四日 在漢堡沼野領事ヨリ 小村外務大臣宛

漢堡稅關ニ於ケル本邦羽二重課稅増率高ノ件 送第四二号 三月廿參日接受 明治四十四年三月四日

五百麻克ヲ課スヘキモノナリ」云々トアリ右ハ既ニ三月四日發當館往電五号ヲ以テ概要報告致置候所ニ有之候」按スルニ前記總註第四号トハ織物ノ密 dicht 織ナルト非密 Undicht 織ナルトノ區別ノ標準ヲ定メタルモノニシテ其標準トシテ非密織トハ織物ヲ組成スル各經糸間ニ其經糸一本大以上ノ間隙アルカ又ハ各緯糸間ニ其緯糸一本大以上ノ間隙アルモノヲ指スモノニ有之隨テ右密織、非密織ノ區別ハ本邦羽二重ノ三匁付、四匁付等ノ如キ量目上ノ等差トハ全然區別ノ標準ヲ異ニスルモノナルヲ以テ本邦羽二重中均シク四匁二五ノ量目付ヲ有スルモノニテモ或ハ前記標準上密織ニ屬スルモノモアルヘク或ハ非密織ニ屬スルモノモ亦無之ニアラサルヘシ要スルニ此區別ハ拡大鏡下ノ檢査ヲ俟テ初テ決定シ得ヘキモノニシテ量目ノ輕重ニ拘ハラサルモノニ有之候

右ハ外務本省ニ於テハ夙ニ熟知セラレ居ル儀ニハ有之候ヘ共本邦羽二重輸出業者中未タ截然此區別ヲ會得シ居ラサル尙有之現ニ今回ノ「ベツカー」羽二重課稅ノ件ニ關シ在里昂三井出張所其他ノ羽二重輸出業者ノ誤解ニ基キ右ニ關シ再三當館ヘ覆照出願等致越候向キ有之候付テハ此機會ニ於テ本邦羽二重輸出業者一般ニ獨逸向ケ本邦羽二重ノ課稅ニ

関シ密織ト非密織トノ區別ニヨリ関税ニ多大ノ差異アルコトヲ周知セシメラルル様希望致候

猶又本件ニ関シ当地「ゲネラル、ツオルデレクテオン」ニ就テ取調ヘノ際独逸太蔵省ヨリ各税関執務参考用トシテ発行スル Nachrichtenblatt für die Zollstellen 本年二月十五日第四号中本邦羽二重ノ輸入ト題シ日本ヨリ輸入羽二重中非密織一平方米突重量二十グラム以下ノモノアリ右ハ税番四〇八ニ依リ百基千五百麻克ヲ課税スヘキモノナリ云々トアルヲ發見致候ニ付不取敢三月一日發往電第四号ヲ以テ報告申進置候次第ニ有之候而シテ右 Nachrichtenblatt ハ独逸各関税ニ配布セラルルモノナルヲ以テ今後ハ独逸各地ノ税関ニ於テハ本邦羽二重ノ輸入ニ際シ従前ヨリ一層嚴密ノ注意ヲ加ヘ一々其密織ナルカ非密織ナルカヲ嚴查シタル上適用税番ヲ決定スルコトト可相成候ニ付是亦併セテ本邦当業者ニ周知セシメラルル様致度茲ニ前記 Nachrichtenblatt 第四、二部封入御参考ニ供シ候(同書五九頁参照) 今回「ベッカー」輸入ニ係ル本邦羽二重ノ見本ハ「ハンノーヴェルシュ」停車場税関ニ於テ輸入許可ノ上現品取引リ次第同商会ヨリ入手シ次便御送附可致候 本件ニ関シ「ベッカー」商会ノ謂フ所ニ依レハ本邦羽二重

四五〇 明治四四年三月四日

珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

條約正文用語ニ関スル件

三月四日 後四、五五 伯林發
三月五日 前八、三五 本省着
第一二号

小村外務大臣

珍田全權大使

第十回特使ニ託送ノ書類開読ヲ了シタルニ付愈條約改正談判ヲ開始スルニ先テ正文語ヲ確定シ置ク方必要ト認メ外務大臣ニ面会ヲ求メタルニ差支ノ為漸ク三月二日ニ至リ機会ヲ得タルニ付本使ハ主義上竝ニ實際上ノ見地ヨリ独逸語ノミヲ新條約ノ正文ト為スコトハ到底帝國政府ノ承諾スルコト能ハサル所以ヲ開陳シタル後客年七月二十七日先任外務大臣カ本使ニ為シタル言明ヲ援引シ尙千八百九十八年追加約定ノ例ヲ拳示シ英語ヲ正文ト為スヨリ生スル實際上ノ便宜ヲ縷々叙述シ之ニ對スル独逸國政府ノ同意ヲ求メタルニ外務大臣ハ本使ノ陳述ヲ傾聴シタル後如何ナル便宜アリトスルモ英語ノ採用ハ到底独逸國政府ノ同意スルコト能ハサル所ニシテ此事ハ独乙國政府ノ最後ノ回答トシテ宣告スルヲ憚ラス然レトモ仏語ハ外交上ノ用語ニシテ独乙國ガ

ニシテ百基千五百麻克ノ重税ヲ課セラルルニ至ラハ斯ル薄地羽二重ノ独逸輸入額ハ著シク減少シ需用者ハ仏國其他ノ薄織絹ヲ代用スルニ至ルヘシトノコトニ有之候隨テ本邦当業者ハ今後独逸税関ニ於テ密織ト檢定セラルヘキ種類ノ羽二重ヲ以テ大ニ販路擴張ヲ計ルヲ得策トスト存候 右報告申進候 敬具

四四九 明治四四年三月四日

小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛(電報)

改正談判開談ノ日取問合セノ件

三月四日 午後四時廿分發
第一五号

在独 珍田大使

小村 大臣

独逸大使本月十一日出發歸國ノ管ナルニ就テハ其前閣下ヨリ過般御落手ノ我訓令ニ依リ独逸政府ハ御開談ノ運ニ立到ルヘキ御都合ナルニ於テハ同大使ニ對シ其出發前本大臣ヨリ関税問題ニ関スル独逸對案ニ付テノ帝國政府ノ意見一応説明致置度ト存スル処凡ソ何日頃前記ノ如キ御開談ノ運ニ相成ルヘキヤ返電アリタシ

此國語ノミニテ他國ト條約ヲ締結シタル例モアルニ付仏語ニテ締結スルヲ拒ムコト能ハサルヘシ何レ本件ニ関シテハ大宰相ト相談ノ上回答スヘシト答ヘ三月四日口上書ヲ送りテ独乙國政府ハ独乙語ノ採用ヲ希望スルモ帝國政府ニ於テ之ニ同意スルコト能ハサルニ於テハ仏語ニテモ異存ナキ旨申越クリ斯ノ如キ次第ニテ英語ハ到底独乙國ノ承諾ヲ得ル能ハサルコト明カナルニ付此上執拗ニ之ヲ主張スルモ成功ノ見込ナカルヘクト認メ機密條第四号ノ訓令ニ遵ヒ仏語ヲ用語トナスヘキ旨回答スル心組ナリ

四五二 明治四四年三月四日

珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

開談日取ニ関シ回答ノ件

三月四日 後六、一五 伯林發
三月五日 前八、四〇 本省着
第一三号

小村外務大臣

珍田全權大使

貴電第一五号ニ関シテハ独逸側ノ主任委員ト打合ノ上會談期日ヲ取極ムヘキ旨外務大臣ト談話致シ置キタルニ可成速

ニ手続ヲ致スヘク来週中ニハ開談ノ運ニ立到ルヘク思考スルモ先方ノ都合モ有之ヘキニ付確定ハ致シ難ク何レ開談ノ初日決定次第電報スヘシ

四五二 明治三十四年三月六日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛

新條約ノ正文語ニ関スル件

附記 独逸新聞論調

條機往第一号 三月廿九日接受

明治四十四年三月六日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

第十回特使托送ノ書類ハ往電第一号報告ノ通り客月廿五日領收候ニ付篤ト開読候処機密條第四号條約ノ正文語ニ関スル御訓令中「乍去我修正意見御提出ノ後正文ノ問題カ結局仏文ナラハ妥協シ得ルカ如キ場合ニ立到候ハハ」云々ト有之各條ノ談判ニ入ルニ先チ豫メ我英文修正案ヲ一括独逸政府ニ提出可致御趣意ノ様ニモ被致思考候処斯クテハ独逸政府ハ我修正案ニ対シテ再ヒ其對案ヲ提出可致談判ノ進行

ヲ遅延セシムルノミナラス先方ノ對案ハ必ラス独逸文ニテ記載セラル可ク其結果或ハ現行條約締結當時ノ轍ヲ履ムノ虞之ナキニ非ラサル様被相考候

就テハ此際我英文修正案ヲ一括提出スルコトヲ避ケ独逸對案ヲ基礎トナシ各條ニ對シ我修正意見ヲ主張スル方商議ノ進捗上却ツテ得策ト相信候且ツ談判ヲ開始スルニ先チ正文語ヲ確定シ置ク方必要ト認メ外務大臣ニ面会相求候得共常ニ差支有之漸ク本月二日ニ至リ其機会ヲ得同大臣ハ英語ヲ了解不致候ニ付本使ハ当日長岡書記官ヲ帶同シ同氏ノ通訳ヲ以テ左ノ通開談相試候即チ條約正文ニ独逸語ヲ專用スルコトハ主義上ノ問題トシテ帝國政府ノ体面上到底承諾スルコト能ハサル所ナルハ勿論殊ニ實際上ノ見地ヨリスルトキハ之レカ為メ我ニ於テハ多大ノ不便ヲ被リ隨ツテ商議ノ進捗ヲ妨クルノ結果ヲ生スル而已ナラス我國ニ於ケル独逸語ノ知識未タ甚ク不完全ナルタメ字義ニ関スル錯誤ヲ生スルノ虞之ナキニアラサル实例トシテ現行條約中ニ存スル「グルンドスチユック」ナル文字ノ意義ニ付日独兩國政府カ見解ヲ異ニシタル歴史ヲ述ヘテ説明シタル後客年七月廿七日先任外務大臣カ本使ニ為シタル言明ヲ引援シ且ツ千八百九十八年日独追加約定ノ先例ヲ挙示シ要スルニ局外語ク

ル英語ノ採用ハ彼我双方ノ体面ヲ保全スルト同時ニ實際上多大ノ便宜ヲ与ヘ從ツテ商議ノ進捗ヲ助クルコト尠カラサルヘキ事由ヲ反覆叙述シ之ニ對スル独逸政府ノ同意ヲ求メタルニ本件ニ関シテハ独逸政府部内ニ於テ已ニ意見決定シ居タルモノノ如ク外務大臣ハ断然タル態度ヲ以テ縱令如何ナル實際上ノ便宜アルニモセヨ締約當事國ニ何等ノ關係モナク又外交上ノ用語トシテ承諾セラレタルコトモナキ英語ニテ日独條約ヲ締結スルコトハ独逸政府ノ同意スルコト能ハサル所ニシテ此事ハ独逸政府最後ノ回答トシテ之ヲ宣言スルヲ憚ラス然レ共日本政府力強テ中立語ヲ正文語ト為スヲ希望セハ独逸ハ仏語ニテ條約ヲ締結スルヲ敢テ拒絶セサル可シ蓋シ仏語ハ從來外交上ノ用語トシテ一般ニ承認セラレ此國語ノミニテ独逸カ他國ト締結シタル例モ之ナキニアラサレハナリ何レ本件ニ関シテハ大宰相相談ノ上何分ノ回答ヲ為スヘク多分明日ニモ之ヲ送付シ得ヘキ旨相答ヘ英語ノ採用ハ到底独逸政府ノ同意ヲ得ル能ハサルコト明瞭ト相成タルト同時ニ仏語ナラハ折合可相着コトモ亦判明致候当方ノ希望通り英文ニテ條約ヲ締結シ得サルハ頗ル遺憾ノ至ニハ候ヘ共已ヲ得サル場合ニハ仏語ニテ締結方差支無之旨ノ御訓令モ有之候ニ付強テ英文ノ採用ヲ争フハ却

テ得策ニ非サル可クト相認候ニ付キ當日ノ談判ハ此所ニ止メ單ニ商議中使用スヘキ國語ハ條約ノ正文トハ全ク別問題ニ付キ正文語ノ獨、英、仏、孰レニ決スルニ拘ラス商議者ノ便宜ニ一任スル様致度トノ希望ヲ陳ヘ候処同大臣ハ右ニ對シテハ何等異存無之旨相答候越ヘテ三月四日独逸政府ハ口上書ヲ送リテ独語ニ依ル締約ハ其尤モ希望スル所ナレトモ日本政府ニ於テ之ニ同意スルコト能ハサル場合ニハ正文語ニ仏語ヲ採用スルモ異存無之尤モ談判ノ際ニ使用スヘキ國語ハ委員ノ便宜ニ一任スヘキ趣申越候前陳ノ事情ニ付此上執拗ニ英語ノ採用ヲ主張スルモ成効ノ見込無之仏語ノ締約ヲ承諾スルモ御訓令ノ趣旨ニ違反スルコト無之トハ存候得共今一応交渉ヲ試ムル方可然トノ御意見ニ候ハハ右ニ關スル御回訓可有之ト存本使ノ意見相添ヘ右交渉ノ顛末報告旁往電第一二号差進申候処之ニ對シ何等反対ノ御訓令無之ニ付機密條第四号御訓令ノ趣旨ニ從ヒ昨七日帝國政府ハ当初ノ希望通り英文ニテ條約ヲ締結スルコトニ付独逸政府ノ同意ヲ得ルコト能ハサルヲ甚ク遺憾トスルモ交讓ノ精神ニ依リ仏語ヲ以テ締約スルコトニ同意ス可キ旨回答致候

右及報告候敬具

尙ホ我原案仏訳文ハ御訓令ノ通り本日通商局長ニ面会ノ節手交致置候

(附記)

三月五日 Mitteilungen des Handelsvertragsvereins 所載(訳文)

日本トノ通商條約談判

日本トノ條約談判ハ關稅戰爭又ハ無條約ノ状態ニ立テ至ルノ虞ナキ好徵ヲ示セリ旧條約ハ七月ヲ以テ失効スルカ故ニホイツトサンデ前迄ニ帝國議會ニ新條約ヲ提出シ得ル様談判ヲ急カシ度キモノナリ

日英間ノ條約談判ハ早ヤ先頃ヨリ進行シ且ツ英國ハ日本ノ同盟国且ツ債權者タル所ヨリ日本ノ承諾ヲ得ル上ニ於テ多分独逸ヨリ容易ナルヘケレハ今迄通り談判上英國ニ首席ヲ讓ルハ確ニ独逸ノ得策トラスンハアラス吾人ハ最惠待遇ノ約束ニ抛リ日本カ英國ニ許容シタル關稅輕減ニ等シク均霑シ得ルコト言フ迄モナカルヘシ日本新關稅ニ對スル英國輸出工業界ノ物議轟々トシテ遂ニ同國政府モ公式ノ申出ヲナスニ至リシハ實ニ日本ノ保護關稅論者ヲ動カシ談判進行上好望ヲ呈スルヲ得タリ

重ハ佞令驕目物ト雖其性質上稅番第四〇八号ノ適用ヲ受クヘカラサルモノノ如ク相見エ候間別紙右調査写相添候條御査關ノ上然ルヘク独逸当局者ノ省慮ヲ求メラレ候様致度此段申進候敬具

追テ本信及前信写共沼野總領事代理へ及送附置候

(本年二月二十八日付商第九二号附屬別紙写添付ノ事)

註 調査写省略

沼野總領事代理へハ機密條第一号ヲ以テ同日發遣サレタリ

四五四 明治四十四年三月八日

珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

關稅問題開談日取ニ關スル件

三月八日 后五、一〇 伯林發
三月九日 前七、五五 本省着

第一四号

小村外務大臣

珍田全權大使

貴電第十五号ニ関シ其後当局者ト種々談合シタルモ我トノ談判委員ハ悉ク瑞典國トノ條約改正掛ニシテ目下此方ノ談判頗ル多忙ヲ極メ且議會ニ出席ノ必要等ニヨリ來週ニアラ

小村外務大臣時代 対独交渉 四五四 四五五

又日本新關稅ハ既ニ独逸トノ通商上ニ於テ日本ノ為面白カラサル効果ヲ生セシメタルモノノ如シ近頃ノ新關稅裁決ノ結果輕目羽二重ハ独逸ニ於テ從來ヨリハ甚タ高キ關稅ヲ徵收セラレタリ最早英仏ノ市場ハ本品ヲ特ニ吸收スル力ナキニ独逸ヘノ販路ハ大ニ希望ヲ屬スヘキモノアルカ故ニ夫レ丈ケ日本絹物工業ハ影響ヲ感シ易キ理ナリ日本ニ於テハ独逸ノ羽二重稅變更ハ其ノ新關稅ニ對スル報復ニシテ独逸政府ハ近々開カルヘキ日本トノ談判ニ對スル「ネゴシエーションタリフ」ヲ設ケントシタルモノト解セラル

四五三 明治四十四年三月七日

小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛

羽二重ニ對スル独逸ノ關稅待遇變更ノ件

明治四十四年三月七日發遣

機密條第七号

在独 珍田大使

小村 大臣

羽二重ニ對スル独逸ノ關稅待遇變更ノ穩當ナラサル様認メラルルノ義ニ就テハ本年一月十七日付機密條第一号ヲ以テ申進置候尙農商務省ニ於テ調査シタル所ニ擬レハ我羽二

サレハ逆モ開談ノ遲ヒニ至リ兼ヌル趣ナリ尙精々催促可成速ニ開談方取計フヘシ愈開談ノ上ハ我ヨリ修正案一切提出セス独逸對案ヲ基礎トシテ各條ニ付我修正意見ヲ主張スル心算ナリ尤モ商議ノ進捗ヲ図ル為協定關稅ニ關スル事項丈ケハ冒頭ニ於テ之ヲ商議ニ上ホス積ナリ

四五五 明治四十四年三月十日

小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛

独國對案第十八條(a)第二項ニ關スル件

附屬書一 一八九二年独伊獨瑞條約拔萃

二 独國ニ於ケル特許法案

明治四十四年三月十日發遣

條第三号

在独 珍田大使宛

小村 大臣

新通商航海條約独逸對案第十八條(a)第二項ニ關シテハ曩ニ御送附ニ及ヒタル修正意見書及本年二月三日付條第一号拙翰ヲ以テ申進シタル次第モ有之候処独逸カ工業所有權ニ關シ一八九二年伊太利並ニ瑞西ト締結シタル條約中ニハ別紙甲号写ノ如キ規定有之候右ハ一九〇九年独米條約第一

條第二項ト同様ニ有之候將又昨年十二月二十九日発刊ノ「ハンデルス・ムゼウム」所載ノ記事ニ依リテハ独逸政府ノ近々特許実施強制ニ関スル新法律ヲ制定セムトスル希望ニ有之右ノ疾ク御承知ノコトトハ存候ハ共該法律訳文並ニ之ニ関スル調査別紙ニ号御参考迄ニ併セテ及御送附候間御査閱相成度
右申進候敬具

(附屬書一)

甲号 一八九二年独伊・独瑞條約拔萃

(Extract from the State Papers.)

Patent Convention of 1892 between Germany

and Italy.

Par. 1. Art. V.

The realization of any invention, or the production of any design or industrial model, in the territories of the other Contracting Party, shall terminate all refusal of protection which the laws of the Contracting Parties may notify as against inventions, designs, or industrial models not actually realized, or not produced within a definite period.

(附屬書二)

乙号 独逸ニ於ケル特許実施強制

(一九一〇年十二月二十九日發刊「ハンデル

ス・ムゼウス」所載)

独逸帝国宰相(内務省)ハ独逸聯邦各政府ニ對シ特許實施強制ニ関スル左記法律案ヲ其ノ説明書ト共ニ送付シ之カ審査ヲ求メタリ

特許實施強制ニ関スル法律案

第一條 一八九一年四月七日特許法第十一條(帝國法律公報第七十九頁)ニ代フルニ左ノ規定ヲ以テス

特許権者ニシテ第三者カ相当ノ補償金又ハ担保ヲ提供スルニ拘ラス發明利用ノ許諾ヲ拒絶シタル場合ニ右許諾ヲ与フルコトカ公益上必要ナルトキハ該特許ヲ取消シ又ハ右第三者ニ發明利用ノ權利ヲ付与スルコトヲ得(強制許諾)

右權利ニハ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

其ノ他發明力専ラ又ハ主トシテ独逸帝國或ハ其ノ保護領以外ニ於テ實施セラルルトキハ條約ニ違反セサル限り特許ヲ取消スコトヲ得

特許ノ公告後三年ヲ経過スル迄ハ特許権者ニ對シ審決ヲ

小村外務大臣時代 対独交渉 四五五

Patent Convention of 1892 between Germany and Switzerland.

Par. 1. Art. V.

Les conséquences préjudiciables qui, d'après les lois des Parties Contractantes, résultent du fait qu'une invention n'a pas été mise en oeuvre, qu'un dessin ou modèle n'a été reproduit, ou qu'une marque de fabrique ou de commerce n'a pas été employée dans un certain délai, ne se produiront pas si la mise en oeuvre, la reproduction ou l'emploi ont lieu sur le territoire de l'autre Partie.

註 尙本條項ニ関シ三月二十一日付珍田大使ヨリ独

国欧米諸國間條約原文ノ送附アリ、其報告ニ對シ本省ニテ次ノ附註アリ

「本報告ニ依ルモ工業所有權ニ関スル独ト欧米諸國間ノ條約中ニ独逸對案第十八條a第二項ニ該當スル規定ヲ有スルモノナク又独米條約第一條第二項ト同様ナル強制實施ニ對スル寛和規定ヲ有スルモノスラ独伊及独瑞西條約各第五條ヲ除キテハ他ニ其ノ例ヲ見当ラス(横田)」

為スコトヲ得ス

第二條 強制許諾ノ付与ニ関スル手續及審決ニ付テハ特許取消ニ関スル特許法ノ規定ヲ適用ス

第三條 特許法第三十條第三項ニ代フルニ左ノ規定ヲ以テス

許諾拒絶ニ基キ特許取消ノ申請アリタルトキハ右申請ニ對スル審決ヲ為スニ先チ取消ノ理由ヲ附シ且相当ノ期間ヲ定メテ取消ノ豫告ヲ為スコトヲ要ス

第四條 本法ハ 年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

参照

現行特許法第十一條

特許ハ特許ノ公告(第二十七條第一項)ヲ為シタル日ヨリ起算シテ三年ヲ経過シタル後ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得

一、特許権者カ内國ニテ發明ヲ相当ノ範圍ニ於テ實施セサルカ又ハ其ノ實施ヲ保證スル為必要ナル一切ノ行為ヲ為ササルトキ

二、第三者ニ發明利用ノ許諾ヲ与フルコトカ公益上必要ナリト認メラルルニ拘ラス特許権者カ相当ノ補償金及充分ナル保證ニ對シテモ猶ホ許諾ノ付与ヲ拒ミタルトキ

右改正ノ趣旨ニ関スル調査

独逸國特許實施強制ニ関スル現行法ト改正法案トノ差異ヲ見ルニ現行法ハ發明ヲ實施セサル場合ニ於テモ亦發明利用ノ許諾ヲ与ヘサル場合ニ於テモ一律ニ特許權ノ取消ヲ行フコトト定メタルカ改正法案ニ於テハ取消ノミヲ行フ場合ハ特許ガ外國ニ於テノミ實施セラルトキニ限り單ニ独逸國內ニ於テ特許ヲ實施セサル場合ニハ取消ヲ行フコトナシ又發明利用ノ許諾ヲ拒ミタル場合ニ於テモ取消ヲ行フカ又ハ他人ニ對シテ發明利用ノ權利ヲ附与スルコトヲ得ト規定シ必スシモ取消ヲ宣告スルヲ要セサルコトトナシタリ

改正法案ノ理由書及「フランクフルテル・ツァイツング」記載ノ論文等ニ依リ右立法ノ精神ヲ見ルニ独逸國政府ハ從來ノ嚴酷ナル特許權取消制度ニ代フルニ寛容ナル特許權強制許諾ノ方法ヲ以テセムトスルモノナリ蓋シ特許權ヲ一定ノ期間實施スル能ハス又ハ他人ニ讓渡ササルヲ理由トシテ其ノ取消ヲ宣告スルカ如キハ決シテ發明ヲ奨励シ内國工業ノ發達ヲ計ル所以ニ非サルノミナラス最近ノ獨米特許權條約ニ依レハ特許等ノ不實施ニ對スル權利ノ取消又ハ制限ニ關スル法律ハ本國法ノ範圍ヲ超エテ其ノ適用ヲ見ルコトナキモノト定メラレ居ルカ故本國ニ於テ斯ル取消ノ法規ナキ

四五六 明治四十四年三月六日

珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛

独逸ニ於ケル羽二重輸入税変更ノ件

條機第二号

四月五日接受

明治四十四年三月十八日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

本件ニ関シテハ客歲九月以來數次詳細ニ及御報告置候処本年一月十七日機密第一号ヲ以テ独逸政府力從來輕目羽二重ニ對シテ稅番第四〇一号ヲ適用セルニ拘ハラシ今遽カニ關稅物品類別表中ノ註ヲ援用シテ我對独重要輸出品ノ關稅ヲ一躍五倍ニ増加スルカ如キハ彼我貿易上ニ多大ノ影響ヲ及ホスモノナルヲ以テ適當ノ機會ニ於テ独逸政府ニ對シ注意ヲ喚起スヘキ趣御訓令ノ趣致敬承候御來示ノ通り独逸統計局編纂ノ外國貿易年表ニ拠レハ輸入羽二重ノ大部分ハ稅番第四〇一号ノ下ニ掲出セラレ千九百七八ノ兩年ニ於テ本号ニ該當セル本邦ヨリ輸入絹織物ノ純輸入額ハ各四百萬麻ニ上リタルニ拘ラス稅番四〇八ノ稅率ヲ賦課セラレタルモノハ千九百〇七年ニ於テハ二千麻又千九百〇八年ニ於テハ三千麻ニ過キササルハ事實ニ有之ノミナラス右ハ從來當國ヘ

小村外務大臣時代 対独交渉 四五六

米國人ハ独逸ニ於テハ独逸人以上ノ權利ヲ享有シ得ルコトトナリ独逸人ハ自國ニ於テ米國人ヨリモ不利益ノ地位ニ在リ之ヲ以テ独逸政府ハ成ルヘク自國ノ強制實施ニ關スル法律ヲ寬大ニシ以テ該條約ヨリ生スヘキ自國民ノ不利益ヲ除カムトスルモノナリ

然レトモ若シ特許カ独逸帝國或ハ其ノ保護領以外ニ於テノミ實施セラルルトキハ独逸ノ工業ハ何等利益ヲ蒙ラサルヲ以テ其ノ第二項ニ於テ條約ニ違反セサル限りハ特許ヲ取消スコトヲ得ト規定セル所以ナリ而シテ現今独逸國カ有スル條約ニシテ前記第二項ノ適用ヲ妨クル規定ヲ存スルモノハ一九〇九年獨米工業所有權條約第一條第二項及一八九二年獨伊並獨瑞西工業所有權保護條約ノ各第五條第一項ニシテ何レモ締約國ノ一方ニ於ケル特許權ノ實施ニ依リ他方ニ於ケル強制實施ヲ免ルヘキ旨ヲ規定シ居レリ

要スルニ独逸ニ於ケル工業所有權不實施ニ對スル制裁ハ漸次寬ニ趣カムトスルノ傾向ヲ有シ今回ノ改正法案ノ如キハ我特許法ヨリモ一層寬大ナルモノナリ

輸入ノ我羽二重ノ大部分カ密織物ナリシカ為ニアラスンシテ寧ロ透シ織ノ大部分モ四〇一号ヲ適用セラレタル事實ヲ示スモノナリト被相考候ニ付独逸國政府今回ノ措置ハ從來ノ習慣ヲ無視シタルモノナリト論スルヲ得ヘキ義ト相信候就テハ曩キニ條機第七号ヲ以テ報告ノ通り本件發生ノ当初本館ヨリ外務當局者ニ對シテ我輸出重要品タル羽二重ニ對シ從來ノ三百麻ニ代ヘ頓ニ千麻乃至千五百麻ノ課稅ヲ為スハ其說明ノ如何ニ關セス實際ニ於テハ稅率ノ引上タルニ外ナラスンテ我重要品ニ對シ禁止稅ヲ課スルト同一ノ結果トナリ從來ノ習慣ヲ無視スルモノナル事情ヲ陳弁シテ其反省ヲ促カシ又覺書ヲ以テ從來密織物トシテ三百麻ヲ課シタル絹織物ヲ遽カニ透シ織ト認ムルハ如何ナル理由ニ基ツクモノナルヤ弁明ヲ求メタルモノニ對スル大藏省ノ答弁ハ十一月十日付條機第十号中申進シ置キタル通ニ有之候ニ付此上一層有効的ニ當國政府ノ注意ヲ喚起セントセハ先ツ昨年来當國ヘ輸入ノ羽二重ノ大部分ハ從前ノ輸入品ト其地合織方等ニ於テ同様ナルコトヲ立証スルノ必要有之候処年曆經過ノ今日ニ於テ充分ニ之ヲ立証スルノ頗ル困難ナルヘキハ勿論假令之ヲ立証スルコトヲ得ルトスルモ當國政府ハ右ニ對シ其ハ鑑別ノ錯誤ニ出タルモノニシテ羽二重ノ課稅ノ解釈ニ關

シテハ何等ノ姿換ヲ加ヘタルコトナシト答弁ス可キハ前述
大蔵省ノ弁明ニ徴シ推知スルニ難カラス候又

御来示ニ依レハ独逸統計表ニ於テ税番第四〇一号ノ下ニ

蚕糸製密織無模様タフタリボン質織物ト掲ケ括弧中ニ

ponges ト註記シタル所ヨリ見レハ独逸関稅定率法ノ精神

ハ無染羽二重ニ對シテ本号ヲ適用セントスルニアリト推測

セラルル云々御申越ニ有之候ヘ共 panges ハ必スシモ羽二

重ヲ指スモノト断定スルヲ得サル而已ナラス本号ハ元ト密

織物ニ對スル税番ニシテ透シ織ニ對スル四〇八号ノ税番ハ

別ニ存在スルヲ以テ縱令四〇一号ノ下ニ panges ト註記ア

ルモ之レヲ以テ独逸関稅定率法ノ真意ハ羽二重ノ名称ノ下

ニ輸入セラルル絹織物ハ関稅法所定ノ厚薄ノ區別ニ依ラス

透シ織ニ對シテモ此密織物ニ對スル税率ヲ適用スルニアリ

トノ推定ヲ下タスコト能ハサル義ト致思考候然ラハ何故ニ

實際上從來ハ透シ織ニ對シテモ四〇一号ヲ適用シ来リタル

ヤト云フニ羽二重ノ独逸ヘ輸入セラレタル当初ニ於テハ今

日ノ如ク輕目ノモノ少ナク当國関稅法規ニ照ラシ密織物ニ

屬スルモノ大部分ヲ占メタルカ為メ自然税番四〇一ハ羽二

重ニ對スル特掲ノ目ナルカ如キ觀ヲ呈シ從テ嚴重ニ鑑別ス

ルトキハ透シ織ニ屬スヘキモノモ此税番ノ適用ヲ受ケタル

シテハ千五百麻ノ課税ヲ為スコトニ決定セリ又伯林税関ニ

於テハ今尚ホ其取扱区々ナルヲ以テ羽二重輸入商ハ其取引

ヲ為スニ當リ関稅ヲ買主ニ於テ支払フコトニ約定スル趣ナ

リ尤モ商人側ニ於テハ一般ニ五匁以下ハ千五百麻五匁以上

ハ三百麻ト見當ヲ附シ居レリ但シ過日某商人ノ輸入セル

四匁四分ノ一ノ羽二重ハ三百麻ノ割ニテ通過シタル趣ニ有

之候如此同一ノ税関ニ於テスラ取扱区々ニ出ツルノ觀アル

ハ必竟独逸関稅法ニハ羽二重ナル税目ノ特掲ナク輸入品ニ

就キ件別ニ其税率ヲ鑑定スルノ結果ニシテ同一ノ徵号ヲ附

スル織物ト雖モ其織糸ノ間隙ハ必スシモ一定不変ノモノニ

アラサル而已ナラス当該鑑定官ノ如何ニ依リ多少ノ差異

アルヲ免カレサル為メニシテ独逸政府ノ関稅法施行ノ主旨

ニ於テハ何レモ同一ニ有之候隨テ全國ノ税関中ニハ尙ホ從

來通リノ課税ヲ為ス税関ナキニアラサレトモ其ハ帝國大蔵

省ノ主旨未タ徹底セサル為ニ外ナラスシテ前記大蔵省ノ訓

達出タル以上ハ遠カラス全國劃一ニ同省ノ見解通リ関稅法

ノ定ムルトコロニ依リテ鑑別ヲ施コシ課税スルニ至ル可ク

ト豫想セラレ候

右ノ次第ナルヲ以テ我當業者ハ目下ノ処專ラ當國関稅法規

モノト推察セラレ候

要スルニ當國政府カ関稅法規ノ所定ニ從ヒ密織ト透シ織ト

ノ鑑別ヲ為シ我輸入羽二重ニ對シテ各々之レニ該当スル税

番ヲ適用スルニ於テハ鑑別ヲ誤リタル場合ノ外何等異議ヲ

挾ムノ余地無之義ト相考候殊ニ曩ニ屢々及報告候通リ當國

絹物商及染物業者ノ大反對アルニ拘ラス大蔵省カ容月十五

日ノ Nachrichtenblatt für die Zoistellen ヲ以テ本邦産

透シ絹織物ニ四〇一号ヲ適用スルハ誤リニシテ右ニ對シテ

ハ四〇八号ヲ適用スヘキモノナルコトヲ訓達(右訓達ニ関

シテハ沼野領事ヨリ貴大臣ヘ報告アリタル筈ニ付茲ニ細

述セス)シタルノ今日ニアリテハ此上我ヨリ交渉ヲ試ムル

モ實際ノ効果無キ而已ナラス改約談判目前ニ迫ルノ際本件

ヲ云々スルハ却テ不利益ノ結果ヲ来タスノ虞モ有之傍今暫

ラク適當ノ時機ヲ俟ツ方可然ト致思考候將又二月十七日付

機密第五号ヲ以テ本件其後ノ狀況殊ニ重要税関ニ於ケル實

際ノ取扱振御問合有之候処既ニ漢堡領事館ノ報告ニ依リ御

承知可相成通リ同地関稅局ニ於テハ四匁四分ノ一以下ハ悉

ク透織トシテ課税シ又ケルニ於テモ本邦羽二重ヲ関稅法

所定ニ從ヒ鑑別ヲ施コシ透シ織ト認メタルモノハ税番四〇

八号ヲ適用シ就中一平方メートル廿グラム以下ノモノニ對

定ノ標準ニ照ラシ我輸出羽二重ノ税率ヲ算當シ其取引ニ從

事スルコト肝要ノ儀ニ有之候

此段回答申進候 敬具

△(欄外註記)

「独逸税関取扱規則第二〇二頁第一〇九ノ税番第四〇一

号ヲ以テ支配セラルル絹織物ノ税関検査ニ關スル指令ヲ

見レハ「ボンゼー」ハ極東産蚕絲製織物ニシテ「ツソー

ル」「コラ」ノ如キ類品ト區別スヘキモノタルコトヲ明

ニシ又商事ニ於テモ「ボンゼー」カ主トシテ本邦羽二

重ヲ指示セルコトハ疑フヘクモアラス故ニ独逸公刊統計

表ニ第四〇一号ノ複雑ナル名称ヲ解センカ為特ニ「ボン

ゼー」ト加註セシハ少クトモ同税番ニ於テ本邦産羽二重

ヲモ包含支配スヘキヲ證セルモノト云フヘシ大使ノ説明

ニ拠レハ「ボンゼー」トハ必スシモ羽二重ノミニ非スト

云フ若シ然リトスルモ統計表ノ「ボンゼー」ナル加註ハ

羽二重以外ノ織物ヲモ含ムト同時ニ羽二重モ亦第四〇一

号ノ名称ノ下ニ置カルルモノタルコトヲ示シ羽二重カ本

号ヲ以テ支配セラレストノ立證トハナラス」

四五七 明治三十四年三月二十三日

在漢堡沼野領事ヨリ
小村外務大臣宛

狼逸主要税関ニ於テ本邦羽二重課税実例ニ関ス
ル調査報告ノ件

附屬書 右調査報告書

機密送第一号

四月十日接受

在漢堡

総領事代理

領事 沼野安太郎(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

本年二月十七日附機密條第一号信ヲ以テ御来示ノ趣敬承本
邦羽二重ニ對スル狼逸各地税関ノ實際取扱振实例ニ関シテ
ハ客年末以來其都度報告申進置候得共猶ホ今回御下命ノ趣
旨ニ基キ重複ヲ顧ミス主要税関ニ於ケル取扱振一括致ニ報
告申進候

狼逸ニ輸入セラルル本邦羽二重ノ通過スル主要ナル徑路ハ
(一)本邦ヨリ直接又ハ英國經由漢堡ニ入ルモノ(二)同前「ブレ
メン」ニ入ルモノ(三)安土府ニ揚陸セラレ萊因地方ニ向フモ
ノ(四)直接伯林ニ輸入セラルルモノトノ四者ナリト存セラレ
候(其他伊仏兩國經由ノモノアルヘキモ是等ノ大部分ハ前

尤モ右ハ必シモ狼逸税関ノミニ見ル現象ナルニハ非ス本
邦ニ於テモ往々是ニ類スル事例アリト謂フ又右ハ羽二重
ニ限ル特例ニモ非サルヘク微細ナル拮大鏡の檢定ヲ要ス
ル貨物ニハ蓋シ免ルヘカラサル不均衡ナルヘシ

右ニ関シ在歐本邦羽二重業者並ニ狼逸輸入商ノ謂フ所ニ依
レハ此税関取扱上ノ不均衡ハ差当リ反リテ彼等ニ乘スヘキ
機會ヲ与フルモノニシテ甲税関ニ於テ非密織ト檢定セラレ
タルトキハ引取商人ハ乙税関ニ於ケル寛大ナル取扱ヲ援證
シテ之レニ抗争スルコトヲ避ケ單ニ黙シテ其税関ニ於ケル
通関ヲ見合セ現品ヲ密織トシテ取扱フ乙税関ニ迂回転送シ
致ニ低税ヲ以テ無事通関ヲ了シ得ルノ機會ヲ得ルモノナル
ヲ以テ各税関一律嚴酷ナル取扱ニ改メラルルヨリハ寧ロ取
扱上多少寬嚴区々タル現状ヲ維持スルヲ利益トストノコト
ニ有之候、但シ斯ル方法ハ密織ニ屬スヘキヤ將又非密織ニ
屬スヘキヤ疑ハシキ分界点ニ在ル四匁内外ノ品ニ限ル
モノニシテ一見非密織ニ屬スコト明白ナルモノハ斯ル僥倖
ノ機會ナキコト勿論ニ有之候而シテ右ノ如ク各税関ノ裁量
ニ依リテ密織ト非密織トヲ決定スヘキ範圍ハ目下四匁乃至
四匁半ノ間ニ在ル品ニ限ルト推測セラレ候
以上述フル所ハ「ブレメン」以外ノ税関取扱实例ニ関スル

記四者ト殆ント同徑路ヲ採ルモノト認メラレ其中右以外ノ
徑路ヲ採ルモノニ就テハ未タ調査ノ材料ヲ得ス)從テ右
ノ四通路ニ当ル主要税関ハ(一)漢堡(二)ブレメン、(三)「デュッ
セルドルフ」及「ケルン」(四)伯林ノ四税関ニ有之候

依テ右四税関ニ関スル取扱实例ヲ蒐集シタルニ漢堡
「デュッセルドルフ」及「ケルン」、伯林ノ各税関ハ本年二
月又ハ其以前ヨリ本邦羽二重中非密織ト認ムヘキモノニ對
シテハ税番四〇八ニ依リ百基ニ付千五百麻ヲ課シツツアル
モノナルヲ知り得タリ但シ均シク税番四〇八ヲ適用スル場
合ニ於テモ各税関鑑定吏ノ手加減ニ依リ密織ト非密織トノ
區別ノ標準ニ寬嚴ノ差アリ現ニ伯林税関ニ於テハ四匁半
附以下ノ輕目物ハ多クハ非密織ト認メララルルモ漢堡税関ニ
於テハ四匁ト四分ノ一附羽二重ニシテ尙ホ密織ト認メラレ
タル实例アリ(別紙漢堡税関及伯林税関ノ部参照)此懸隔
ハ或ハ本邦羽二重織方ノ不整齊ナルタメ均シク四匁ト四分
ノ一附ノモノニテモ機家ノ如何ニヨリ経緯ノ織方上或ハ密
織ト認メララルヘキモノヲ織出シ、或ハ非密織ト認メラルヘ
キモノヲ織出スルニ原因スルコトアルヘキハ勿論ナルモ
同時ニ又各地税関ノ檢定ニ著シク寬嚴ノ差アルコトモ亦等
フ可カラサル事實ナリト謂ハサルヘカラス

モノニ有之「ブレメン」税関ノミハ今日迄未タ曾テ本邦羽
二重ニ對シ税番四〇八ノ高率ヲ適用シタルコトアルヲ聞カ
ス、右ハ「ブレメン」税関吏ノ過失疎漏ニ原因スルモノナ
ルヤ或ハ命ヲ承ケテ故ヲニスル寛大ノ取扱ヲナスモノナル
ヤ未タ之ヲ窺知スルニ由ナク候得共尠クトモ今後同税関ニ
於テ右ノ取扱振ヲ改ムル迄ハ本邦羽二重ハ同地税関經由從
前通り百基ニ付三百麻ノ輸入税ヲ以テ狼逸ニ輸入セラレ得
ルコトハ隠レタル事實ニ有之候(別紙ブレメン税関ノ部參
照)

右ニ関シ当地三井物産会社支店並ニ羽二重輸入ニ關係アル
狼逸商社「ハインリヒ、ベッカー」等ノ希望ニ依レハ倫敦
經由ナルニモセヨ目下本邦羽二重ヲ從前通り百基三百麻ノ
課税ヲ以テ狼逸ニ輸入通関セシメ居ル唯一ノ虧隙ハ「ブレ
メン」税関ナルヲ以テ右ノ事實ヲ本邦新聞雜誌等ニ公表シ
若ハ其他ニ狼逸官憲ノ注意ヲ喚起スルカ如キ措置ヲ採ラル
ルコトアルニ於テハ此ノ唯一ノ虧隙モ亦忽チ閉鎖ノ厄ニ遭
フコト明白ナルヲ以テ此際右ノ事實ハ出来得ル限り外間ニ
伝播スルコトヲ防キ狼逸中央政府ノ注意ヲ避ケ唯默シテ此
虧隙ノ利用ト存続トヲ計ルハ狼逸向ケ羽二重取扱業者ノ協
同ノ利益ナルヲ以テ右「ブレメン」税関取扱振ニ関シテハ

秘密ヲ厳守セラルル様切望ストノ事ニ有之候ニ付右ノ希望ニ對シテハ本官ニ於テモ其意ヲ諒トスル旨ヲ述ヘ置キ候間右御含ミ相成置度候

別紙独逸主要税関羽二重取扱実例調査報告書一通添付此段報告申進候 敬具

(附屬書)

独逸主要税関本邦羽二重課税実例調査報告書

漢堡税関

漢堡税関ニ於テハ從來本邦羽二重ニ對シ總テ税番四〇一號ヲ適用シツツアリシカ本年二月十五、十六日ノ兩日ニ於テ「ハインリッヒ、ベッカー」商社ノ輸入シタル本邦羽二重(五函、重量約百九十一基瓦)ニ對シ税番四〇八號ヲ適用セントシ同商社ヨリ抗告ノ結果三月一日付ヲ以テ右五函ノ内一函ノミヲ非密織ト認メ其他ノ四函ハ之ヲ密織トシテ課税スルコトニ決定セラレタリ右非密織ト認メラレ税番四〇八ノ適用ヲ受ケタルモノハ三匁付、三匁四分ノ一付、三匁半付ノ品ナリ詳細ハ左記当館公信参照アリタシ

四十四年三月四日附送第四二號(有附屬物)

四十四年三月十日附送第四七號

同シク税番四〇一ヲ適用シ二月二十六日右貨物引取人ハ六百十三麻克五十布ノ輸入税ヲ支払ヒテ無事通關ヲ了セリ以上二個ノ実例ニ關シ注意スヘキハ右二口合計十函ノ羽二重ハ本邦ヨリ直接「ブレメン」ニ輸入シタルモノニハ非スシテ其初本邦ヨリ直接柏林ニ輸送シタルモノニシテ其後都合上柏林ニ於テ通關スルコトヲ見合セ柏林ヨリ之ヲ倫敦ニ転送シ倫敦ニ於テ荷印其他ヲ改装シ再ヒ之ヲ「ブレメン」ニ輸入シタルモノナルコト是ナリ右二口ノ羽二重ニ關スル本邦売込人ハ三井物産株式会社ナリ

「デュッセルドルフ」及「ケルン」税関

「デュッセルドルフ」及「ケルン」ノ兩税関ハ安土府ヨリ揚陸セラレタル本邦羽二重ノ「ライン」河ニ沿ツテ独逸ニ輸入セラルル通路ニ在ル關門ト認メラルモノニシテ明治四十三年十一月廿四日在「ケルン」Overzoldirectionハ本邦羽二重中非密織ト認ムヘキモノアルヲ發見シ之ニ税番四〇八ヲ適用スヘントノ決定ヲ与ヘタリ本件ノ詳細並ニ税関檢定方法等ハ左記当館公信ニ詳ナリ

四十三年十二月八日附送第一九號

四十四年三月九日附送第四六號(有附屬物)

四十四年三月十一日附送第四八號

「ブレメン」税関

「ブレメン」ハ北独逸ロイド汽船会社東亞航路ノ一基点ニシテ羽二重ノ独逸ニ輸入セラルル重要ナル關門ノ一ナルニ拘ハラズ今日迄本邦羽二重ニ對シ税番四〇八ノ高稅ヲ課シタル実例ヲ發見スルコト能ハス現ニ本年二月廿五日三匁半付ノ羽二重二函ヲ五匁附内外ノ羽二重三函ト共ニ一口トナシ「ブレメン」ヨリ輸入シタルモノアリシニ同地税関ハ右五函(重量正味百九十六基八十)ニ對シ從來通り税番四〇一ニ依リ百基ニ付三百麻克ノ割合ヲ以テ合計五百九十麻克四十布ノ課稅ヲ徵シ通關セシメタリ右通關ニ際シ「ブレメン」税関吏ハ右五函中ニ三匁半附ノ羽二重(則チ嚴重ニ稅法ヲ適用スレハ非密織ト認メラルル虞アルモノ)ニ函アルヲ知悉シツツ猶ホ之ニ税番四〇一ヲ適用シタルモノナリヤ將又總テ之ヲ五匁付内外ノ品ト誤信シテ通關セシメタルモノナルヤハ本官之ヲ窺知スルコト能ハサルモ少クトモ「ブレメン」税関ハ目下尙ホ本邦羽二重ニ對スル檢査比較的寬大ナルコトハ事実ト認メラル

柏林税関

本年三月二日附在里昂木島副領事ヨリノ來信ニ依レハ在里昂小宮商店ハ永ク羽二重ヲ柏林ニ輸出シ居レカ少クトモ本年一月上旬迄ハ(其以後ハ勘定書未着ニテ明瞭ナラズト)未タ會テ四〇八號ノ適用ヲ受ケタルコトナシ尤モ小包郵送ニテ送リタル少量ノ羽二重ハ Petit Croixノ税関ニテ税番四〇八ノ適用ヲ受ケタルコトアリタリ在里昂堀越商店ニテモ從來独逸ニ羽二重ヲ売込ミ居レトモ未タ會テ税番四〇八ノ適用ヲ受ケタルコトナシト云フ在里昂 Dupuy and Girard 商店ニテハ羽二重ニ染色ヲ施コシ從來独逸ニ輸出シ居レルモ未タ會テ四〇八ノ適用ヲ受ケタルコトナシ(同社ハ主トシテ柏林ノ花主ニ売込ムモノナリト云フ)

三月六日附在里昂木島副領事ヨリノ來信ニ依レハ本年三月四日柏林ヨリ在里昂一商店宛來報ニ本邦羽二重四匁四分ノ三付以上ノモノハ百基三百麻克ヲ課セラレ三匁四分ノ三以下ノモノハ百基千五百麻克ヲ課セラルトアリ

因テ按スルニ柏林税関ハ漢堡税関ト相前後シテ本邦羽二重

中非密織ト認ムヘキモノニ對シ稅番四〇八ヲ適用スルニ至リタルモノト思考セラル

四五八 明治四四年三月二十六日

珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛 (電報)

條約商議開始ノ件

三月廿六日 後二、五五 伯林發
三月廿七日 前六、一〇 本省着

第一五号

小村外務大臣

珍田全權大使

條約商議開始ハ爾來当方ヨリ屢次督促ニ拘ハラヌ遷延ニ亘リタルニ愈三月廿八日會談ノ旨通知ニ接シタリ外務省側ノ遷延ハ主トシテ独瑞談判ノ為ナルモノニハ「ムム」男婦着ヲ待居タル事情アリシカトモ考ヘラル同男ハ出発前本問題ニ付閣下ニ會議ヲ試ミタルコトアリヤ

四五九 明治四四年三月二十七日

小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛 (電報)

稅率協定ニ關スル件

條約第三号

四月十七日接受

明治四十四年三月二十七日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳 (印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

独逸国政府提出通商航海條約第十九條ノ「本條約ハ兩締約國ノ一方ト現ニ關稅同盟ヲ為シ若クハ將來為スコトアルヘキ地域ニモ之ヲ適用ス可シ」トノ意義ニ關シ二月八日付機密第三号ヲ以テ御問合ハセノ趣敬承現今独逸盟邦以外ノ地域ニシテ独逸ノ關稅領域 (Zollgebiet) ニ包含セラルルハ「ルクセンブルグ」大公國及境國ノ二村落「ユングホルツ」及「ミツテルベルグ」ニシテ「ルクセンブルグ」ハ千八百四十二年二月八日ノ關稅條約ニ依リ独逸ノ關稅同盟ニ加ハリ同條約附屬別約第九條ニ依リ他ノ關稅同盟諸國ニ對スル關係及關稅事項ニ關シテハ普国政府ニ由リテ代表セラルルコトナリ爾來關稅同盟ハ幾多ノ變遷ヲ經タルモ同國ハ絶ヘス關稅條約ヲ繼續シ独逸帝國建立後ニ於テモ關稅上從來通り普国ノ一部分ト看做サレ聯邦會議ニ於テハ普国ノ代表者同大公國ノ利益ヲモ代表スルコトナレリ即チ「ルクセンブルク」ハ豫メ關稅並ニ之レニ關スル條約ノ締結權ヲ普国ニ委任シタルモノナルヲ以テ独逸カ外國ト締結スル

小村外務大臣時代 対独交渉 四六〇

三月廿七日午後五時二十分發
第一八号

在独 珍田大使

小村 大臣

貴電一五号ニ關シ

ムム男トハ新條約ニ關シ特ニ會談シタルコトナク只其ノ別レニ臨ミ本大臣ヨリ左ノ趣意ヲ述ヘタル迄ナリ
新條約ニ關シテハ在独大使ヨリ追テ開談ノ運ニ至ルヘキ筈ナルカ独逸ノ對案ヲ見ルニ關稅ニ付テハ現行條約ト性質上同一ナル協定ヲ提議セリ然ルニ帝國政府カ現行條約ヲ廢棄シタル最モ主ナル理由ハ其稅率協定ニ存スルモノナルカ故新條約締結ニ當リテ再ヒ之ト同様ノ稅率協定ヲ行フコトハ帝國政府ノ萬々同意スル能ハサル所ナリ就テハ關稅問題ノ談判ハ甚困難ナルヘント認メラル

四六〇 明治四四年三月二十七日

珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛

独國對案第十九條ニ關スル件

附屬書一 独逸關稅同盟條約ノ拔萃 (訳文)

二 独逸關稅同盟條約ノ摘要 (訳文)

條約ハ其都度「ルクセンブルグ」ノ同意ヲ求ムルヲ要セスシテ直チニ同國ニ對シテ拘束力ヲ有シ同國政府ハ單ニ之レヲ公布スルニ過キス (Eyschen Staatsrecht des Grossherzogthum Saie 133 参照) ドクトル Grunzel ハ其著商業政策ニ於テ

政治上完全ナル主權ヲ有シツツ商業政策上ノ條約締結權ヲ他國ニ讓リタル (之レカ為メ他ノ主權ヲ放棄セサル) 國アリテ右ハ其國ノ範圍狭小ナルカ若シクハ政治上ノ勢力微弱ナルヲ以テ他國ニ連合ヲ求ムルノ必要アルカ為メナリ他ヘハ「リヒテンスタイン」公國及ルクセンブルグ大公國ノ如キ之レナリ前者ハ關稅上境國ノ同盟ニ加ハリ後者ハ独逸關稅ノ同盟ニ入り商業政策上ノ條約締結ノ自由ヲ失ヒ單ニ同盟國カ外國ト結ビタル通商條約ヲ法律トシテ公布スルニ過キス (Grunzel, System der Handelspolitik, Seite 431 参照)

ト述ヘ居レリ
「ルクセンブルグ」カ關稅ニ關スル條約締結ノ權ヲ普国ニ讓リ独逸帝國カ之レヲ繼承シタルハ疑ナシト雖モ独逸カ他國ト締結シタル通商條約中單ニ關稅ニ關スル部分而已同國ニ對シ有効ナルヤ將ク其全部効力ヲ有スルヤニ關シテハ種

八五三

マノ説アリテ現ニ普国大蔵省関税当局者ノ如キハ之レヲ狭義ニ解釈セリ然レ共当国外務省主務者ノ意見ニ依レハ独逸ノ他国ト締結セル通商條約ハ其全部関税同盟地域ニ有効ニシテ其説明左ノ如シ

千八百六十五年五月十六日ノ関税同盟條約(別紙第一号参照)第三十八條ニ拠レハ関税同盟加入ノ一国ハ同盟以外ノ国ト同盟全体ニ対スル條約(Verträge zur Erleichterung des Verkehrs und Handels)及通商條約ノ性質ヲ帶フル航海條約(Schiffahrtsverträge, insofern Sie die Natur von Handelsverträge annehmen)ヲ締結スルノ権能ヲ有シ「ルクセンブルグ」ハ此條約(千八百六十五年十月ノ條約別紙第一号参照)ニ加入シタルヲ以テ関税同盟ノ一国例ヘハ普国ノ結ヒタル通商條約ハ「ルクセンブルグ」ニ対シ全部拘束力ヲ有セリ而シテ此條約ハ千八百六十七年六月八日ノ同盟條約(別紙第一号参照)ニ依リテ交換セラレ関税同盟全体ニ対スル條約締結権ハ一ツニ普国ノ掌握ニ歸シ帝國建立以來帝國ハ此權利ヲ繼承(別紙第一号参照)シタルヲ以テ独逸ノ締結スル通商航海條約全部カ「ルクセンブルグ」ニ対シテ適用セラルルハ当然ナリ

(一) 一八六五年五月十六日

関税通商同盟繼續ニ関スル普魯西、バイエルン、ザクセン、ハンノーバー、ヴェルテムベルグ、バーデン、ヘッセン選帝國、ヘッセン大侯國、チューリッゲン関税通商同盟ニ屬スル諸國、ブラウンシェワイヒ、オルデンブルグ、ナッサウ及フランクフルト自由市間ノ條約

第三十八條 各締約國政府ハ本條約締結後ト雖通商貿易ノ便益ノ爲関税同盟以外ノ国ト條約ヲ設定スルノ權利ヲ有ス各政府ハ該條約ニ依リ其ノ臣民ノ交通ニ一切ノ可能的便益及擴張ヲ供与スルコトヲ努ムヘシ

但シ何等ノ方法ニ依ルヲ問ハス該條約ヲ以テ本條約ノ規定ヲ侵スコトヲ得ス及該條約ヲ締結スルニ当リテハ一方ニ於テ同盟以外ノ国カ之ト條約ヲ締結シタル同盟國ニ許与セル便益及利益ハ其ノ他ノ同盟國ノ臣民及製産品ニモ亦之ヲ保障シ他方ニ於テ同盟以外ノ国ニ對シテ為サレタル讓歩ハ独リ当該締約同盟國ニ對スル關係ニ付テノミナラス主トシテ同盟ニ對スル影響ニ付テ直接又ハ間接ニ同盟ニ歸スヘキ通商貿易上ノ利益ヲ以テ出来得ル限り之ヲ回收スルノ見地ヲ固持スヘシ

之カ為ニ各締約國政府ハ通商貿易ノ便益ニ関シ同盟以

將又境國ノ村落「ユングホルツ」ハ千八百六十八年境國ト「バイエルン」國トノ條約ニ依リ「ミッテルベルグ」ハ千八百九十年境國ト獨逸トノ條約ニ依リ何レモ右二村落ノ地勢上住民ノ便利ノ爲メ獨逸ノ関税地域ニ併合セラレタルモノニシテ此等條約中境國カ「バイエルン」又ハ獨逸ニ前記ノ領土ニ對シテ有効ナル通商條約ヲ外國ト締結スルノ権能ヲ附与スルノ明文ナシト雖モ既ニ獨逸ノ関税同盟系統ニ屬シタル上ハ「ルクセンブルグ」ニ對スルト同様ノ理由ニ依リ獨逸ハ同地方ニ對シテ有効ナル通商條約ヲ締結スルヲ得ル次第ナリ

ト又獨逸、伊、境、希、仏、コロンビヤ、羅馬尼、瑞典、瑞西、塞、土等諸國間ノ現行條約中ニハ別紙第二号附屬ノ通り何レモ日獨條約第十九條ト略同語句ノ規定アレ共一ツトシテ関税事項而已ニ制限シタル明文ナキヲ以テ見ルモ日獨條約第十九條ノ主題ハ其語句ノ通り條約全体ニ互ルモノト思考セラレ何レ改約談判ニ際シ本條ノ主義ハ判明可致候ヘ共不取敢以上及回答候敬具

(附屬書一)

第一号ノ附屬書

外ノ国ト條約ヲ締結セントスル場合ニ於テハ談判開始前ニ其ノ他ノ同盟員ニ對シ特ニ利害關係アル点ニ付一切ノ必要ナル覺書ヲ報告シ且正式ノ批准前ニ其ノ他ノ同盟員ノ同意宣言ヲ得ル為ニ對シテ當該條約ノ完全ナル内容ヲ公示スルノ義務アルモノトス

航海條約ハ其ノ通商條約ノ性質ヲ有スルモノニ限り右同一ノ原則ニ依リテ取扱ハルヘシ

(二) 一八六七年七月八日

関税通商同盟ノ繼續ニ関スル北独逸聯邦、バイエルン、ヴェルテムベルグ、バーデン、及ヘッセン間ノ條約

第八條

第七号、同盟ノ首班ハ普魯西國王位ニ屬シ其ノ職權ニ依リ各締約國ノ名義ヲ以テ外國ト通商航海條約ヲ締結スルコトヲ得

何等ノ方法ニ依ルヲ問ハス該條約ヲ以テ本條約ノ規定ヲ侵スコトヲ得ス而シテ該條約ノ締結ニハ聯邦參議院ノ同意ヲ要シ其ノ有効ナルカ為ニハ関税議會ノ協賛ヲ要ス

(三) 一八七一年四月十六日

独逸帝國憲法

第十一條 独逸皇帝ノ名義ヲ負ヘル普魯西国王ハ聯邦ノ首班ニシテ国際法上帝国ヲ代表シ帝国ノ名ニ於テ戦ヲ宣シ和ヲ媾シ外国ト同盟及其ノ他ノ條約ヲ締結シ使節ヲ信任又ハ承認スヘシ

帝国ノ名ニ於テ戦ヲ宣スルハ聯邦参議院ノ同意ヲ要ス但シ聯邦地域又ハ其ノ海岸ニ対シテ攻撃ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ス

外国トノ條約ニシテ第四條ニ依リ帝国立法ノ範圍ニ屬スル事項ヲ目的トスル限ハ其ノ締結ニハ聯邦参議院ノ同意ヲ要シ其ノ有効ナルカ為ニハ帝国議會ノ協賛ヲ要ス

第四十條 一八六七年七月八日ノ関税同盟條約中ノ規定ハ此ノ憲法ノ條規ニ依リ第七條若ハ第七十八條ニ定メタル手續ヲ以テ変更セラレサルモノニ限り其ノ効力ヲ有ス

(附屬書二)

第二号ノ付屬書

一、哥倫比亞

一八九二年七月二十三日

第十五條 哥倫比亞ト同文

但シ vorliegende ノ代リニ gegenwärtige
ヲ用ヒタリ

五、日本

一八九六年四月四日

日独通商航海條約

第十九條 同上

但シ Länder oder Landesteile ノ代リニ
Gebiete ヲ用ヒ sich ト auf トノ間ニ auch
ヲ挿入シタリ

六、墺地利、洪牙利

一八九一年十二月六日

独墺洪通商関税條約

(一九九五年一月二十五日ノ追加條約ヲ以テ修正)

第二十三條 本通商関税條約ハ兩締約国ノ地域ト現ニ
関税同盟ヲ為シ若ハ將來為スコトアルヘキ国又ハ国
土 (Länder oder Landesteile) ニモ之ヲ適用スヘシ

七、羅馬尼亞

小村外務大臣時代 対独交渉 四六〇

独哥修交通商航海條約

第二十五條 本條約ハ兩締約国ノ一方ト現ニ関税同盟ヲ為シ若ハ將來為スコトアルヘキ国 (Länder) 又ハ国士 (Landesteile) ニ之ヲ適用スヘシ

二、仏蘭西

一九〇二年七月二日

旅商ノ相互取扱ニ関スル独仏協約

第五條 本協約ハ独逸国又ハ仏蘭西国ト現ニ関税同盟ヲ為シ若ハ將來為スコトアルヘキ国又ハ地域 (Länder oder Gebiete) ニモ之ヲ適用スヘシ

三、希臘

一八八四年七月九日

独希通商航海條約

第十五條 本通商條約ハ兩締約国ノ一方ト現ニ関税同盟ヲ為シ若ハ將來為スコトアルヘキ国又ハ地域 (Länder oder Gebiete) ニモ之ヲ適用スヘシ

四、伊太利

一八九一年十二月六日

独伊通商関税航海條約

(一九〇四年十二月三日ノ追加條約ヲ以テ修正)

一八七八年七月十三日

独、墺、洪、仏、英、伊、露及土間ノ伯林條約

第十九條 哥倫比亞ト同文

但シ sich ト auf トノ間ニ auch ヲ用ヒ
Landesteile ノ代リニ Gebiete ヲ用ヒタリ

八、瑞典

一九〇六年五月八日

独瑞通商航海條約

第二十一條 同上

九、瑞 西

一八九一年十二月十日

独瑞通商関税條約

(一九〇四年十一月十二日ノ追加條約ヲ以テ修正)

第十條 同上

十、塞耳比亞

一八九二年八月九日 (二十一日)

独塞通商関税條約

(一九〇四年十一月十六日 (二十九日) ノ追加條約ヲ以テ修正)

第十條 本條約ハ独逸国ト現ニ関稅同盟ヲ為シ若ハ將來為スコトアルヘキ一切ノ国又ハ地域(Länder oder Gebiete)ニ之ヲ適用スヘシ

十一、勃牙利

一九〇五年八月一日

独勃通商關稅航海條約

第二十一條 羅馬尼亞ト同文

四六一 明治卅四年三月二十六日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

第一回改正談判ノ件

三月廿八日 後九、一〇 伯林發
三月廿九日 後三、二〇 本省着

第十六号

小村外務大臣

珍田全權大使

往電第一五号報告シタル通三月二十八日條約改正第一回會議ヲ開キ通商局長以下各委員出席同局長開會ノ辭ヲ陳ヘ本使之ニ答ヘタル後會議録調製方及独乙国對案ヲ談判ノ基礎トスルコト等ヲ取極メ逐條審議ニ先テ本使ハ稅率協定ニ關スル独乙国ノ提議ハ我ニ於テ談判ノ基礎トシテモ之ヲ採用

小村外務大臣

珍田全權大使

往電第十六号ニ關シ独乙国政府ハ第三回會議ニ於テ確答スヘキ管ナルカ其ノ趣意ハ通商局長陳述ト大体同様ナルヘシト察セラルルニ付之ニ對シ本使ハ独乙国政府力最惠國待遇ノ報酬トシテ關稅協定ヲ求ムル主張ヲ放棄シ純然タル對等の協定主義ヲ是認スルニアラサレハ帝國政府ニ取次クコト能ハスト主張シ第一着ニ右主義ヲ是認セシメタル上日獨通商關係上独乙国對案ノ如キ多數ニ亘レル協定ノ不可能ナル次第ヲ聲明シテ帝國政府ニ進達ヲ承諾スル態度ニ出ル心算ナリ右ニ關シ若御意見アラハ至急御訓示アリタシ本件ハ談判中最重要且困難ナル点ナルニ付特ニ相伺フ尙昨日通商局長ノ陳述ニ對シテハ本使ハ独乙国政府ノ真意ヲ聞クコトヲ得タルヲ憚フモ對案ニ主張スルカ如キ主義ハ帝國政府ノ根本的ニ容認スルコト能ハサル所ナル旨ヲ述ヘ且歴史的ニ現行協定稅率ノ起源、沿革及之ニ對スル我朝野ノ囑望ヲ説示シ現行條約滿期ト共ニ關稅自主權ヲ回復セサルヘカラストノ國民ノ声ニ傾聴スヘキ帝國政府ノ立場ヲ宣明シテ前段開陳ノ態度ノ為豫メ素地ヲ作り置キタリ

スル能ハサル旨ヲ述ヘ貴大臣修正御意見ノ趣旨ニ遵ヒ記載シタル仏文覺書ヲ朗讀シタルニ通商局長ハ帝國政府ノ見解ニハ誤解アリ独逸ハ日本ニ片面的義務ヲ負ハシムルノ意志ヲ有セス覺書ニ最惠國條款ノ事ヲ記シタルハ只日本力独乙ヨリモ利益ノ地位ニ在ルヘキ事實ヲ指示セル迄ナリ又独乙カ日本ニ於テ特惠ヲ得ント欲スル物品及稅率ノ記シタルハ独乙カ各國トノ條約案ニ用キル定例ニ從ヒタルモノニシテ無理ニモ現行條約ノ如キ片務的協定ヲ求メントスルノ趣意ニアラサルカ故ニ日本ヨリモ同様ノ提議ハアルヘキヲ豫期シ何レ右日本國政府ノ意見ニ對シテハ篤ト審議ノ上回答スヘシト答ヘタリ委細ハ公信ニテ申進スヘシ第二回ノ會議ハ三月二十九日開會ノ旨

四六二 明治卅四年三月二十九日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

改正談判ノ趣旨説明ノ件

三月廿九日 後三、八 伯林發
三月三十日 前六、 本省着

第十八号

四六三 明治卅四年三月二十九日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

第一條独逸修正案ニ關シ請訓ノ件

三月二十九日 後八、五〇 伯林發
三月三十日 後一、一二 東京着

第十九号

小村外務大臣

珍田全權大使

三月二十九日第二回ノ會議ヲ開キ前文及第一條全部ヲ商議セリ其内原案第四号我修正第五号ニ關シテハ先方ヨリ追テ回答ヲ為スコトトナリ第一項旅行ノ文字ニ關シ先方ニテハ此ノ旅行ハ單ニ入國滞在ニ伴フモノニアラシテ我原案第一号中ニアル旅行ヲモ包含セシメ之ヲ第一項ニ移シテ絕對自由ノ權利ト為サント欲スルモノニシテ我ト見解ヲ全ク異ニシ居ルカ故ニ第一項ニ之ヲ差置クトキハ第一号ニ之ヲ復活スルモ全然無意味トナルヘク本使ハ御訓令ノ趣意ヲ詳細ニ説明シテ我見解ヲ固執シタルモ先方ハ新日米通商航海條約ヲ引證シ其ノ主張ヲ曲ケサルニ付何分ノ御訓令アリタシ尙新日米通商航海條約成文御差支ナキ限り至急御送附アリタシ又對案第四号Aノ削除ヲ承諾スルコト議會ニ於テ加特力派ノ議員ニ弁明ノ必要アルニ付信教ノ自由ハ憲法上日本國ニ於テ完全ニ保障セラレ且墓地ハ衛生公共上ノ必要ナ

キ限り從來ノ儘之ヲ存続スルコトヲ保障スル旨ヲ本使ノ言明トシテ會議録ニ記載シタキ趣申出タリ右ハ承諾シテ差支ナカルヘシト思考スルモ一応御回訓ヲ仰ク

四六四 明治四年三月三日 小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛(電報)

税率協定問題ニ関シ訓令ノ件

三月卅日午後五時三十分發

第一九号

在独 珍田大使

小村 大臣

貴電第一八号ニ関シ

御推察ノ如ク先方ヨリ通商局長陳述ト大体同様ナル確答アリタル節ニハ閣下ハ先ツ帝國政府ハ仮令相互的ニテモ税率協定ヲ希望スルモノニ非サル旨ヲ豫テノ訓令ノ趣旨ニ抛リ説明セラレテ我地步ヲ明ニシ關稅ニ付テハ單純ナル最惠國待遇ノ交換ニ止ムル様先方ノ考量ヲ求メラレタル上然レトモ独逸政府ニ於テ是非共協定ヲ希望シ最惠國待遇ノ對價トシテ税率協定ヲ求ムルカ如キ主張ヲ拋棄シ公平ニ相互義務ノ對等ト共ニ彼我利益ノ交換ヲ主義トスヘキノ趣意ヲ明

ニスルニ於テハ之ヲ帝國政府ニ取次クヘシト述ヘラルルト同時ニ仮令主義上協定ヲ行フコトニ決スル場合ニテモ義務ノ對等ト共ニ利益交換ノ公平ヲ目的トスル以上ハ到底独逸國對案ノ如キ多数ノ物品ニ涉レル協定ノ不可能ナルヲ信セラルル旨御聲明相成リタシ

四六五 明治四年三月三日 小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛(電報)

第一條独逸修正案ニ関シ回訓ノ件

三月三十一日午後二時三六分發

第二〇号

在独珍田大使

小村 大臣

貴電第十九号ニ関シ

第一條第一項カ入國ヲ主眼トスルモノナルコトハ仮令旅行ノ文字ヲ加フルトモ之ニ次クニ滞在ノ文字ヲ用ヒ居レルニテ明ナリ我原案ハ勿論独逸對案ニ於テモ暫時ノ滞在 (Sojourn) ノ文字ニ該当スル「ジヒアウフハルテン」ノ文字ヲ用ヒ第二項第一号ニハ之ト區別シテ居住即チ「ニイグーラッスング」ノ文字ヲ用ヒ居レリ(我原案ノ法違訳ヲモ參ナシ又御含迄ニ申添度ハ日英新條約ニ付テモ同様ナリ我憲法ノ保障カ外國人ニ迄及ブトノコトハ其明文上斷言シ能キコトモ亦御含置アリタシ

四六六 明治四年四月一日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

第二回改正談判ノ件

四月一日 後一〇、三〇 伯林發
四月二日 後一、三〇 本省着

第二〇号

小村外務大臣

珍田 全權大使

三月二十九日第二回會議ノ結果左ノ如シ
前文、第一條第二項本文及第六号ハ對案ノ通、第二号ハ原案ノ通可決、第一項及第一号、第四号aハ往電第一九号報告ノ通、第三号ハ「ブーブ、ルール、エートル、ネセセル」ヲ「アン、デバンド」ニ又對案第四号ハ我主張ノ通「商品」ヲ削除シテ可決、第五号我新案及原案第四号ニ對シテハ先方ニテ留保

照) 現行條約ニテハ第一條第一項ニ入國旅行居住ノ文字ヲ用ユルモ尙第三項ニ於テ旅行及居住ノ文字ヲ繰返セリ就テハ我修正ノ如ク第二項第一号ニ旅行ノ文字ヲ加フルヲ適當ト認ム日米新條約第一條ハ形式ヲ異ニスルカ故一條全部之ニ依ルナラハ兎モ角然ラサレハ引イテ例トスヘキニ非ス尙閣下ノ御含迄ニ申添度ハ近日調印スヘキ日英新條約モ旅行ノ文字ヲ繰返セリ
次ニ信教ノ自由ニ関シテハ何等ノ言明ヲ俟タスシテ明ナル事實ニシテ毫モ之ニ疑ヲ挿ムヘキ理由ナシ又墓地ノ尊重モ保障ヲ俟タス文明國当然ノコトニシテ要スルニ信教ノ自由墓地ノ尊重ノ如キハ帝國風氣文運ノ根本的趨勢ト相離ルヘカラサルモノニシテ帝國ハ此点ニ付外國ノ信賴ニ期待シ得ヘキ地位ニ在リト確信ス畢竟独逸政府モ帝國政府カ独乙ニ對シテ信賴スルト均シク我レニ信賴シテ可ナリ就テハ先方希望ノ如キ声明又ハ保障ヲ會議録ニ殘スコトハ主義上好マシカラス且ツ一旦例ヲ開クトキハ他ノ事項ニ就テモ同様ノ声明又ハ保障ヲ請求シ來ルノ虞アリテ甚不利益ト認ムルニ付此義御含ノ上前記ノ説明ヲ以テ断然先方ノ申出ヲ拒絶セラレタシ日米新條約ニ於テモ凡テ信教ノ自由等ニ關スル箇條ヲ削除シタルカ何等ノ声明又ハ保障ヲ与ヘタルコト

小村外務大臣時代 対独交渉 四六七 四六八 四六九

四六七 明治四年四月二日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

第三回改正談判ノ件

四月一日 後一〇、二〇 伯林発
四月二日 後一、一五 本省着

第二一号

小村外務大臣 珍田全権大使

四月一日第三回會議ヲ開キ第二條乃至第六條bヲ商議ス其ノ結果左ノ如シ

第二條第一項ヨリ「適法ノ目的ニ使用セラルル」ヲ削除スルニ同意シ、第二項ヲ削リ可決、原案第三條、第四條、第六條第一項、修正案第五條、対案同條a、第六條bハ先方ニテ留保、対案第六條第一項承諾シ之ヲ挿入スヘキ場所ハ關稅條約ノ存否ニ依リ決定スルコトトス、第六條第二項原案ノ通、同條a対案ノ通決定

四六八 明治四年四月三日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

第四回改正談判會議ノ結果報告ノ件

四月三日 後八、五二 伯林発
四月四日 前一〇、一〇 本省着

四七〇 明治四年四月七日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

改正談判第二號會議ニ付豫メ請訓ノ件

四月七日 後四、一〇 伯林発
四月八日 前七、三〇 本省着

第二五号 小村外務大臣 珍田全権大使

往電第二四号報告ノ通來週始メヨリ第二號會ニ入ルニ付テハ本使心得ノ為以下四件ニ付御訓令アリタシ

第一、日英新條約第一條第一号ニハ旅行ヲ国民待遇ト為シアリ該條約ハ最早發表セラレタルニ付独逸國政府ハ原案ノ通旅行ヲ最惠國臣民待遇トスルコトヲ到底承諾セサルヘシト信スルニ付テハ已ムヲ得サル場合ニハ第一項ニ旅行ヲ加ヘ之ハ単ニ入國ニ伴フモノト解釈スルニ同意セシムルト同時ニ第一号中ヨリ旅行及居住ノ二件ヲ分離シ此ノ二件ニ關シ日英條約同様國民待遇ヲ保障スル一号ヲ設ケ折合ヒ差支ナキヤ

第二、領事職務條約締結ノ事ハ主義ニ於テ帝國政府ノ同意シタル所ナレハ早晚之方締結ヲ見ルヘク強ヒテ領事職務ニ關スル原案第三條、第四條、第十五條及第十六條ノ維持ヲ固執スルノ必要ナシト存セラルルニ付第四号復活ト

小村外務大臣時代 対独交渉 四七〇 四七一

八六二

第二二号

小村外務大臣 珍田全権大使

四月三日第四回會議ニ於テ第七條乃至第一六條ヲ審議シ其ノ結果(一)対案ノ通可決シタルモノ第七條第一項、同條a第一項、第十一條、第十三條、(二)我原案ノ通決定セルモノ第九條、第十條、第十二條(三)先方ニテ留保シタルモノ第七條第二項以下同條a第二項、第八條、第十四條、此ノ他原案第十五條及第十六條ノ審議ハ後日ニ譲リタリ

四六九 明治四年四月五日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

第五回改正談判ノ件

四月五日 後八、三〇 伯林発
四月六日 前九、四五 東京着

第二四号

小村外務大臣 珍田全権大使

四月五日第五回會議ヲ開キ本條約第十七條以下議定書全部ヲ議了ス可決シタルハ議定書第二條A号第一項ノミニテ其他ハ先方ニテ悉ク留保ス次回ハ先方回答案ノ都合ニ依リ來週初迄延期セリ

交換的ニ右諸條削除ニ同意シ差支ナキヤ

第三、独逸ガ各埠ト締結セル條約ハ概ネ千九百十七年ニ終了スルコトナリ居ルニ付關稅條約存続期限ヲ十五年又ハ六年ト定メ且原案第十八條冒頭ノ文句ヲ削除シ通商條約ノ存続中關稅ニ關スル最惠國待遇ヲ保障スルニ同意セハ關稅條約トクテイヲ承諾センメ得ヘキカト思考スルニ付其ノ方針ヲ以テ商議シ差支ナキヤ

第四、対案第十八條、a第一項同様ノ規定日米新條約中ニ存在スル由ニ付先方ニテ強テ本項ノ追加ヲ主張セハ第二項ノ削除ヲ條件トシテ其ノ挿入ニ同意シ差支ナキヤ

四七一 明治四年四月八日 在漢堡沼野領事ヨリ 小村外務大臣宛

羽二重ニ対スル独逸關稅待遇變更ニ關スル珍田大使宛意見書送付ノ件

附屬書 四月七日付珍田大使宛書翰写並ニ

沼野領事意見書写

機密送第二号 四月廿六日接受

明治四十四年四月八日

八六三

在漢堡帝國総領事代理

領事 沼野安太郎(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

本邦羽二重ニ対スル独逸ノ関稅待遇變更ニ関シ珍田大使ノ参考ニ資スルタメ別紙ノ通り本年四月七日附ヲ以テ卑見提出致置候依テ右意見書写一通差進候間御査閱相成度此段申進候敬具

(附屬書)

機密伯送第二号

明治四十四年四月七日

在漢堡帝國総領事代理

領事 沼野安太郎

在独 特命全權大使男爵 珍田捨已殿

羽二重ニ対スル独逸ノ関稅待遇變更ニ関スル意見提出ノ件

本邦羽二重ニ対スル独逸ノ関稅待遇變更ニ関シ閣下ノ御參考ニ供スルタメ別紙ノ通り卑見開陳致候間御査閱相成度右意見書一通添付此段申進候 敬具

追テ本書写一通外務大臣ヘモ進達致置候

羽二重ニ対スル独逸関稅待遇變更ニ関スル意見

從來独逸ニ輸入セラルル本邦羽二重ハ総テ稅番四〇一ニヨリ百基三百麻ノ輸入稅ヲ課セラレシカ最近ニ至リ独逸税關中非密織ト認メラルル本邦羽二重ニ對シテハ稅番四〇八ニヨリ百基千五百麻ヲ課スルモノアルニ至レリ

右羽二重ニ對スル独逸ノ関稅待遇變更ニ関シ我カ探ルヘキ方策ハ蓋シ左ノ如クナルヘキ乎

独逸政府ノ省慮ヲ求ムヘキ時機

今回ノ日独通商條約改正ニ際シ帝國政府ハ出来得ル限り税率ノ協定ヲナスコトヲ避ケントスル方針ナル限リハ右條約談判ノ開始ニ際シ又ハ其進行中右羽二重ニ對スル関稅待遇變更ニ関スル問題ヲ提出スルハ反リテ税率協定ノ方向ニ日本ヲ誘致スル好辭柄ヲ独逸ニ与フルノ虞アルヲ以テ今暫ク日独通商條約改正進行ノ模様ヲ窺ヒ我ニ有利ナル時機ヲ捉ヘ爰ニ独逸ノ省慮ヲ求ムルニ足ルヘキ有力ナル論議ノ材料ヲ開陳シテ一挙ニ羽二重問題ヲ解決スルヲ得策トスト思考セラル 況ンヤ現ニ本邦羽二重ハ悉ク稅番四〇一ノ低稅ヲ考セラル以テ「ブレメン」港ヨリ独逸ニ輸入シ得ル以上ハ事實上著シキ不便ヲ蒙ラサルモノナルヲ以テ我カ論議未ク齊ハサルニ驟急此問題ヲ提起スルハ得策ニアラサルヘシ

羽二重ニ対スル独逸ノ関稅待遇變更ニ関シ探ルヘキ方策

第一

(甲) 羽二重ニ稅番四〇八ヲ適用スルハ從來ノ慣行ヲ無視スルモノナルコト

(乙) 羽二重ハ縮緬、紗、「フロール」等ト織方其他ノ点ニ於テ全然異ルモノナルヲ以テ羽二重ニ對シ是等特種織物ト同一ノ稅番四〇八ヲ適用スルハ不当ナルコト

右二点ヲ敷衍説明シ羽二重ニ對スル適用稅番ヲ從來通りニ復旧スル様独逸政府ノ省慮ヲ求ムルコト

右甲、乙、二点ハ一見有力ナル論拠ナルカ如シト雖モ独逸政府ノ抗弁トシテ豫見シ得ヘキ左ノ弱点ヲ有ス

(甲ノ弱点) 独逸ハ從來独逸ニ輸入セラルル本邦羽二重ノ殆ソド全部ニ稅番四〇一ヲ適用シツツアリシモノナルコトハ統計等ニ徴シ争フ可カラサル事實ナリ然レトモ三匁内外ノ薄地羽二重カ独逸ニ輸入セラルルニ至リタルハ輓近數年来ノコトニ屬シ現行独逸関稅法ノ始メテ實施セラレタル當時ニ在リテ独逸ニ輸入セラレツツアリシ本邦羽二重ハ悉ク密織ニ屬スヘキ五匁内外又ハ其以上ノ品ノミナリシモノト思考セラル(當業者ノ

小村外務大臣時代 対独交渉 四七一

所説ニ依ル)是ヲ以テ当時独逸各税關ニ於テ羽二重検査ノ際会マ羽二重ハ総テ密織ナリシヲ以テ爾來各税關ハ本邦羽二重ハ悉ク密織ニ屬スルモノト思惟シテ通關セシメ居リシモ輓近本邦羽二重中非密織ニ屬スヘキモノ尠カラサルヲ發見スルニ迫ラレテ之ニ稅番四〇八ヲ適用スルニ至リタルハ時機寧ろ遅レタルノ觀アルモ單ニ從來独逸各税關ニ於ケル税率適用ノ過誤ヲ訂正シタルニ過キサルモノナルコト(弱点其ノ一)

果シテ何年頃ヨリ非密織ト認定セラルヘキ羽二重カ独逸ニ輸入セラルニ至リタルヤノ問題ハ姑ク之ヲ措キ現ニ関稅法ノ規定並ニ Anleitung für die Zollabfertigung 一百十二頁稅番四〇一ノ適用ヲ受クヘキ絹織物ニ對スル税關檢定方法(本年三月十七日附送第五四号附屬書ニ譯文ヲ載セ置ケリ)ニヨリ稅番四〇一ノ適用ヲ受ク可キ絹織物ノ具備スヘキ條件ヲ確定シアル以上薄地羽二重カ其條件ノ一タル密織ニ適合セサル場合ニ於テ此稅番ノ適用ヨリ除外セラルルハ實ニ已ヲ得サルコトト思考セラル(但シ薄地羽二重全部カ果シテ独逸関稅法ノ規定ノ標準ニ照シ非密織ニ屬スルヤ否ヤノ實際問題ハ専門技師ノ鑑定ヲ俟タサレハ俄ニ承認スルヲ得サルモノト思考セラル)(弱点其ノ二)

又「ボンジー」ナル語ヲ以テ羽二重ヲ指スモノト推定スル説アレトモ前記 *Anleitung für die Zollabfertigung* 二百十二頁ノ説明ニヨレハ「ボンジー」ナル語ハ独逸関税法上東洋ニ於ケル絹織物中桑蚕糸ヲ以テ織成セル織物ヲ柞蚕糸織物ヨリ區別スルタメ特ニ注意ノタメニ掲記シタル用語タルニ過キス而シテ羽二重ハ此「ボンジー」ナル汎称中ニ包含セラルコト勿論ナリト雖モ「ボンジー」ニシテ非密織ニ屬スルモノハ依然税番四〇一ノ適用ヲ受クル能ハサルモノナルヲ以テ薄地羽二重ハ必ス此税番ノ適用ヲ受クヘキモノナリトノ論拠トナスニ足ラス(弱点其ノ三)

(注意) 「タフトビンデヒ」ナル語モ亦織物ノ質ヲ示シタルモノニハ非スシテ唯織方ノ平織ナルコトヲ示シタルニ過キス

(乙ノ弱点) 税番四〇八ハ雷ニ純絹織物ノミナラス他ノ材料ヨリ成ル織糸ヲ混織シタル総テノ非密織ニ屬スヘキ絹織物ニ対シ適用セラルル税目ニシテ遇マ「紗、縮緬、フロール」等ノ品目ヲ括弧内ニ註記シアルモ右ハ単ニ注意ノタメ此等ノ特殊織物モ亦此税目中ニ包含セラルルコトヲ示シタルニ止マリ右括弧内ノ品目ノミ

トヲ主張スル場合ニ於テハ第二案トシテ右區別ヲ承認スルト同時ニ彼ヲシテ我カ主張ヲ容レテ其區別ノ標準ヲ公平ナラシムルノ外ナシ別言スレハ独逸政府ニ於テ極メテ公平ナル後段記載ノ區別標準ヲ採用スル條件ヲ以テ此標準ニヨリ非密織ナルコト争フヘカラサル輕目羽二重ノミハ税番四〇一ノ適用ヨリ除外セラルルコトヲ当方ニ於テモ承認スルコト是ナリ

蓋シ非密織トハ *Warenverzeichnis zum Zolltarife* 二百四十頁総註第四ニ拠レハ(甲)各経糸間ノ間際其経糸一本大ニシテ且ツ同時ニ各経糸間ノ間際モ亦其経糸一本大ナルモノ又ハ(乙)其間際各経糸間ニ存スルニハ非サルモ而カモ規則正シク繰回サルモノヲ指スモノナリ而シテ羽二重中一部ノ極メテ薄地ナルモノニハ往々所謂一本大ノ間際ナルモノヲ見ルコトナキヲ保セスト雖モ元来羽二重ハ規則正シク一定ノ間際ヲ以テ織成スルコトヲ初ヨリ其目的トナササルモノナルヲ以テ(乙)ノ適用ヲ受クルコトハ寧ろ例外ト看做サザルヲ得ス随テ羽二重カ非密織ノ適用ヲ受クルハ概シテ(甲)ニ關スルモノナリ而シテ(甲)ノ適用ヲ公平ナラシメントスルニハ単ニ各税関鑑定官ノ認定ニ之ヲ一任セス「センチメートル」内ニ於ケル経緯糸ノ数ヲ標準

ニ適用セラルルノ意ニ非サルナリ故ニ其絹織物ニシテ非密織ニ屬スル以上他ニ特ニ掲記シタルモノヲ除キ悉ク此税番ノ適用ヲ受クルモノニシテ其羽二重タル絹棉交織布タルト將又織物ノ高等優秀ナルト否トヲ問ハサルモノナリ

此点ハ本邦及独逸関稅定率法ノ如ク織物ニ關シテハ税目分類ニ一切商業上ノ名称ヲ採ラス織物ノ構成材料其織方、重量等ヲ以テ税目ヲ分類シタル国ニアリテハ仮令商業上ノ名称ハ同一ナル織物ニテモ重量其他ノ差異ニヨリ税率ヲ異ニスルコトアルハ免カルヘカラサル所ナリ

要スルニ此ノ案ヲ以テ独逸政府ノ省慮ヲ求ムルモ怕クハ所期ノ効果ヲ収ムル能ハサルヘシ

(注意) 経緯糸ヲ構成スル玄微ナル繭糸一本ヲ以テ間隙ノ一本大ナルヤ否ヤヲ測定スル標準トナスノ説ハ現今独逸各税関ノ採用シ居ラサル所ナルヲ以テ茲ニ論セス

第二

独逸政府ニシテ若シ右第一案ニ応セス本邦羽二重中税番四〇一ノ適用ヲ受クヘキモノト然ラサルモノトヲ區別センコ

トナスニ在リ且ツ羽二重ノ如ク織方ノ不整齊ナル織物ニ対シ密ト非密トノ區別標準ヲ公平ナラシメントセハ勢ヒ此方法ニ依リ各糸間ノ間際ヲ平均シテ之ヲ定ムルノ外ナカルヘク以テ税関官吏ト輸入商トノ間ノ頻繁ナル紛争ヲ杜絶シ商取引ノ安固ヲ保持スルニ足ラン

右標準トシテノ糸数ヲ定ムル方法ハ糸ノ太サ(仮ニ百分ノ一「センチメートル」トス)ヲ以テ「センチメートル」ヲ除シタル商(此場合ニハ百トナル)ノ二分ノ一ノ糸数(五十本)ヲ有スルカ又ハ其以下ノモノハ其間際平均一本大以上ナルコト明ナルヲ以テ之ヲ非密織トシ右以上ノモノハ平均間際一本ヨリ小ナルヲ以テ之ヲ密織トナスコト最モ公平ナルヘシ

此標準ヲ確定提議スルニハ豫メ本邦専門技師ノ慎重ナル調査ヲ要スルコト勿論ナリト雖モ今仮リニ「センチメートル」平方内ノ緯糸四十本経糸五十五本ヲ以テ此區別ノ標準トナストセハ独逸大蔵省ハ各税関宛左ノ如キ通達ヲナセハ足ル

日本製薄地羽二重ハ其織リ方ノ不齊整ナルタメ密織ニ屬スルヤ非密織ニ屬スルヤ疑ハシキモノアリ今般此區別ヲ明瞭ナラシムルタメ羽二重一平方「センチメートル」内

ノ緯糸四十本以上ナルカ又ハ経糸五十五本以上ナルモノハ密織ニ屬スルモノトシ経緯糸共ニ同時ニ其數前記標準ニ滿タサルモノハ之ヲ非密織ニ屬スルモノトシ此標準ニ依リ課税スヘシ

右標準ヲ實際ニ適用シタル結果ヲ豫察スルハ之ヲ専門技師ノ査覈ニ竣クサル可カラサルモ卑見ニ依レハ三匁ノ羽二重ハ往々非密織ニ屬スルモノアレドモ三匁半内外ヨリ重キモノハ概ネ密織ニ屬スルコトナル而シテ独逸ニ輸入セララル羽二重中三匁内外ノモノハ極メテ尠ナク正確ナル統計ヲ示スコトハ困難ナルモ先ツ全体ノ十分ノ一又ハ十五分ノ一以下ナリト推測スルモ不可ナカルヘキヲ以テ此ノ一小部分ヲ除キタル他ノ九割以上ハ税番四〇一ノ適用ヲ受クルコトナリ從來ノ慣行ト著シキ懸隔ヲ生セシメサル標準タルニ庶幾カラシキ

蓋シ独逸カ今回本邦羽二重ニ対シ從來ノ慣行ヲ捨テテ税番四〇八ノ高率適用ヲナスニ至リタルハ關稅法規ヲ變更シタルニハ非シテ唯タ全ク實物鏡檢ノ結果トシテ税目ノ適用及解釈上ノ手加減ヲ更改シタルモノナルヲ以テ更ニ之ヲ前記ノ如キ公平ナル取扱振ニ變更セシムルコトモ亦一ニ詳密ナル鏡檢ノ結果關稅法ノ適用及ヒ解釈上ノ訂正方法ニ依リ

本ツツ窄キ間隔ヲ有スルニ拘ハラス此ノ二本ト次ノ二本トノ間ニ一本大以上ノ間隙アルヲ以テナリ故ニ今此ノ間隙ヲ平均ナラシムルヲ得ハ其量目ヲ増加セシテ而カモ前記密織ノ標準ニ合格シ得ルモノトナスコト必シモ難事ニアラサルヘシ

故ニ第二案ト此補充策トヲ併セ実行スルヲ得ハ独逸ニ輸入セラルル本邦羽二重ハ結局總テ税番四〇一ノ適用ヲ受テ事實上從來ノ慣行ニ復セシメ得タルモノト謂フヲ得ヘシ

第三

第一及ヒ第二、共ニ目的ヲ達スル能ハス而カモ我國ハ尙ホ輕目羽二重ノ課税輕減ヲ計ラサルヘカラストセハ最後ノ一案トシテ勢ヒ独逸ト税率協定ヲナスノ已ムヲ得サルニ至ルヘシ而シテ税率協定ハ最初ヨリ独逸ノ希望スル所ナルヘキヲ以テ此案ノ実行ハ左迄困難ナラサルヘシ

第四

然レトモ税率協定ハ徹頭徹尾之ヲ避ケ唯タ独逸ノ省慮ヲ促シテ羽二重ノ税率輕減ヲ企圖セントセハ日独新通商條約締結後徐ロニ独逸ヨリ本邦ニ輸入セラルル特定ノ一二商品ヲ捉ヘ之レニ對シ我新關稅定率法ノ適用及解釈上ノ手加減ヲ以テ羽二重ニ對スル独逸ノ關稅新待遇ニ類似セル報復の課

羽二重ニ關スル密織ト非密織トノ區別ノ標準ヲ前頭案文ノ如ク定メタル旨各稅關ニ通達スルヲ以テ足ルト思考ス此方法ニ依ルトキハ独逸側ニ於テハ同國關稅法ヲ嚴正ニ適用シ羽二重中密織ニ屬スヘキモノト非密織ニ屬スヘキモノトヲ區別シ後者ニ對シテハ税番四〇八ヲ課セントスル本来ノ主張ヲ貫徹シ又本邦側ヨリ之ヲ謂ヘハ前記ノ標準適用ノ結果独逸ニ輸入セラルル本邦羽二重ノ大部分ハ（九割以上ハ）從來適リ税番四〇一ノ適用ヲ受ケ何人ノ鑑定ニヨルモ独逸關稅法ノ規定上非密織ト認ムルノ外ナキ少量ノ輕目羽二重ノミ税番四〇八ノ適用ヲ受クルコトナリ次ニ掲クル第二ノ補充方法ト相俟テ實益上我カ主張ヲ完フシ得ルニ至ルヘシ

第二ノ補充策

右第二案ニ牽聯シ其補充トシテ我ハ進ンテ輕目羽二重ノ織方ノ改正ヲ計リ経糸ノ排列方法ヲ改メ各経糸間ノ間隙ヲ均一ナラシムルコトニ致ムルヲ要ス

右織り方ニシテ改正セラルルヲ得ハ現今ノ儘ニテハ当然税番四〇八ノ適用ヲ受クヘキ三匁内外ノ輕目羽二重モ亦結局密織物ト認メラレ得ルニ至ルヘキナリ何トナレハ三匁内外ノ輕目羽二重カ目下非密織ト認メラルル理由ハ其経糸カニ

税ヲ行ヒ以テ独逸ノ省慮ヲ誘促スルコトモ亦一案タルヲ得ン乎

四七二

明治三十四年四月九日 小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛（電報）

關稅協定問題ニ關シ訓令ノ件

四月九日午前十一時發

第二二号

在独 珍田大使

小村 大臣

貴電二五号ニ關シ

第一及第二ニ付テハ異存ナシ

第三通商條約ヲ以テ其存続中關稅ニ關スル最惠國待遇ヲモ保障シナカラ別ニ關稅條約ヲ締結スルトイフ以上ハ右關稅條約ハ税率協定ヲ行フノ趣意ト見ルノ外ナシ然ルニ關稅問題ニ關スル帝國政府ノ立場ハ往電一九号ヲ以テ申進シタル通ナレハ此際御來示ノ如キ方針ヲ以テ商議セラルルコトハ御見合セ相成リタシ兩國間ノ關稅關係ヲ單純ナル最惠國待遇ノ交換ニ止ムルニ於テハ關稅條項ヲ通商條約ト合併スルコトニハ異議ナキカ今後商議ノ發展如何ニ依リ若シ愈々

税率協定ヲ相互的ニ行フカ如キ場合ニ至ルトセハ別ニ関稅條約ヲ以テ行フカ或ハ日英新條約第八條ノ方式ヲ用ユルカ等ノ問題ハ追テ其時機ニ至リテ之ヲ定ムルコトニ致シタシ

第四日米新條約中ニ存スル工業所有權保護ノ規定ハ現行日米條約第十六條其儘ニテ毫モ異ナルコトナシ右ハ帝國政府ニ於テハ其必要ヲ認メサルノ意見ナリシモ米國トハ同國政府ニ於テ元老院會期中ニ新條約批准ノ協賛ヲ得ルノ必要上迅速妥結ノ緊切ナルカ為メ先方ノ希望ヲ容レ現行日米條約第十六條其儘ヲ挿入スルコトニ同意シタル次第ナリ獨逸對案第十八條a第一項ハ日獨現行條約第十七條其儘ニ非ス且ツ日英新條約ニ於テハ本件ニ関スル規定ヲ削除セルカ故依然我主張ヲ支持セラレ今後ノ會議ノ結果如何ニ依リ更ニ請訓セラレタシ

四七三 明治三十四年四月九日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

關稅問題再請訓ノ件

四月九日 前七、五 伯林筈
四月十日 前八、二五 本省着

四七四 明治三十四年四月十日 小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛(電報)

關稅問題回答ノ件

四月十日後四時三十三分發
第二三三號

在独 珍田大使 小村 大臣

貴電第二六六號ニ関シ

我提案セルカ如キ關稅條約ニ五年又ハ六年ノ期限ヲ付スルコトニハ異議ナシ關稅條約消滅後ノ不安心ニ對シ關稅ニ關スル最惠國待遇ヲ保障セムカ為メニハ單ニ通商條約原案第十八條冒頭ノ文句ヲ削除スル丈ケニテハ不可ナルヘク原案第六條第一項ヲ修正シテ對案第六條第一項ノ如キ規定ト為スノ必要アルヘシト認メラルルガ(日英新條約第七條參照)税率協定許否ノ問題決定ノ上ハ右ノ削除及修正ニ同意シ差支ナシ日米新條約ハ三月三十一日西比利亞便ニテ郵送セリ

第二六六號

小村外務大臣 珍田全權大使

貴電第二二六號ニ関シ往電第二五五號中ノ第三ハ簡單ニ過キ請訓ノ趣意徹底セサルヤノ慮アルニ付為念左ニ之ヲ開陳ス先方ニ於テ關稅條約特訂主義トシテ承認スルモ之ニ五年又ハ六年ノ期限ヲ附センコトヲ請求セハ同意シ差支ナキヤ又兩條約締結ノコトニ主義上妥協ヲ調フルモ特別條約ハ短期ナルニ付其ノ消滅後ニ於テ關稅ニ關スル最惠國待遇ノ保障ヲ失フニ至ルヘシトノ不安心ヨリ承諾ヲ躊躇スル場合ニハ原案第十八條冒頭ヲ削除シ汎ク通商及航海ニ関シテ一般的保障ヲ与ヘ其ノ安心ヲ図ルモ差支ナキヤヲ請訓スルノ趣意ニシテ通商條約中新クニ關稅ニ關スル保障ヲ与フル條項ヲ設クルノ趣意ニアラス尙本件ハ協定税率許否ニ関スル問題決定ノ上ニアラサレハ審議ヲ開カサル心組ナルニ付同問題ニ不利益ナル影響ヲ与フルノ慮ナシト信ス同問題ニ関シテハ豫テ御訓令ノ態度ヲ執ルヘキコト勿論ノ義ニ有之候
過日請求ノ日米新條約ハ何時頃入手相叶フヘキヤ

四七五 明治三十四年四月七日 在漢堡沼野領事ヨリ 小村外務大臣宛

「ケルン」及「ライン」地方ニ於ケル本邦羽二重課稅問題情報ノ件

機密送第三三號 五月十日接受

明治三十四年四月十一日

在漢堡帝國總領事代理

領事 沼野安太郎(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

本年四月十日付ラ以テ在「ケルン」帝國名譽領事「ギーレン」氏ノ當館ニ申報セル所ニ依レハ同氏ハ在「ブレメン」名譽領事「ネスラー」氏ト協力シテ本邦羽二重問題ニ関シ各其管轄区域内ニ於ケル重ナル業者及商業會議所等ト交渉シツ、アル趣ニ有之候処「ギーレン」氏ノ報告ニ依レバ「ケルン」ニ於テモ輕目羽二重ノ輸入稅ヲ從來通り稅番第四〇一号ニ依リ百基ニ付三百麻克ニ復旧ノ運動開始致サレ候伯林ニ於ケル本件交渉ハ尙ホ進行中ニ屬シ在伯林独逸天鵞絨及絹物卸売商組合ニ於テハ四匁以下ノ日本品ニ對スル取扱方ニ関シ政府ト交渉中ナルモ未ク決定ヲ見ルニ至ラス候

日本絹物ニ対スル取扱振ニ付当地(ケルン) 稅務監督局係員ノ所稅ニ依レバ四匁迄(以上)ノ物ニ對シテハ稅番第四〇一號ヲ適用スヘキモ總テノ日本羽二重ヲ密織物ト認メ悉ク稅目第四〇一號ヲ適用セントスルノ件ハ追テ聯邦議會ヘ提議セラル、管ナル趣ニ有之候

「ケルン」、「エルヘルフェルド」及「バルメン」ノ三商業會議所ハ羽二重ニ稅番第四〇一ヲ適用スルニ賛成ナルモ之ニ反シ「クルフェルド」商業會議所ハ日本織物ノ低稅輸入ニ全然反對ノ態度ヲ取り「デユッセルドルフ」ニ特別事務所ヲ開キ下「ライン」地方ノ独逸絹織物工業ノ利益ノ為メ羽二重ニ對シテ高稅ヲ課セラル、様運動致居リ云々

右報告申進候 敬具

四七六 明治四年四月三日 珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛(電報)

第六回改正談判ノ件(一)(二)

四月十三日 前一、一五 伯林發
後三、四〇 本省着

方ニテ留保、第八條ニ關シ先方ハ對案モ修正案モ同意義ナレトモ對案ノ方意義明確ナレハ之ヲ採用シタシト提議シタリ專業能力トハ法人格ニ伴フ根原の權義能力ヲ云フモノニシテ行為能力ハ第三項ニ規定スル所ナリト説明シタリ如何取計可然哉是又御回訓アリタシ

(一)

四月十三日 前一、一五 伯林發
後三、四〇 本省着

第二九号

小村外務大臣

珍田全權大使

独逸委員ハ第六回會議ニ於テ關稅協定ニ關スル反對覺書ヲ提出シ大體ニ於テ第一回會議ニ於ケル通商局長ノ所陳ト同様ナルカ故ニ第一九号御訓令ノ趣ニ遵ヒ陳弁ノ末先方ハ純然タル利益交換ノ基礎ニテ稅率ヲ協定スルノ主義ニ同意シタルニ付本使ハ本件ニ付帝國政府ノ訓令ヲ仰クヘキコトヲ承諾ス同時ニ独逸對案ノ如キ多數ノ物品ニ對シテ帝國カ相当ノ對價ヲ求ムルコトハ兩國間ノ通商關係上絶對的ニ不可能ナルニ付前陳ノ主義ヲ實行スルニハ大ニ独逸國側ノ要求ヲ減少セサルヘカラサル旨ヲ聲明シ置キタリ就テハ帝國政府ニ於テ右基礎ノ下ニ關稅ヲ協定スルノ御詮議ニ出ルノ

小村外務大臣時代 対独交渉 四七七

第二八号

小村外務大臣

珍田全權大使

四月十二日第六回會議ヲ開ク關稅ニ關スル討論ノ末第一條第一項原案ノ通、第一号ハ對案ノ通可決、第二号ニ「旅行ノ自由」ヲ加ヘテ可決、原案第四号及對案第四号a未決、第五号我修正案可決、對案第二條第二項ハ外國人言語不通ノ為生スル實際上ノ不便ヲ根拠トシテ先方ニテ其ノ維持ヲ主張シタレトモ其ノ論旨極メテ薄弱ナルカ如シ然レトモ甚タ重要視シ居ルニ付本項ニ反對スル為必要ナル實際及理論上具體的ノ論點御返電相成タシ、第五條我修正案ノ通ニ可決、對案第五條a、原案第六條第一項ハ本日審議セス、對案第六條bハ「便益」ノ次ニ「商品ノ輸出入ニ關シ」ナル文字ヲ加ヘテ可決、對案第七條第二項末段「竝」以下削除ノ件可決、同條第三項中原案「前記ノ目的ヲ以テ」ナル文字カ帝國ニ在ル商人ニ外國ヨリ送ラルル見本ニモ適用セラレ「注文ヲ求ムル目的ヲ以テ」ノ意義ニ解釈セラルルナラハ独逸國ニ於テ異議ナク、又第七條ト第七條aトノ間ニ日英新條約第十三條ト同様ノ規定ヲ挿入スルコトヲ提議シタリ何分ノ義御電訓ヲ請フ、對案第七條(2)第二項ハ未タ先場合ニハ其旨至急御訓令アリタシ且商議進捗ノ為我ヨリ提出スヘキ要求ヲモ同時ニ御訓示アリタシ又之ニ對シ對案ニ加フヘキ削除ハ先方ノ撰定ニ任スコト穩当ナルヘント思考スルモ此ノ点ニ關スル帝國政府ノ所期ハ本使ノ心得迄ニ至急御訓示相成様致シタシ

四七七 明治四年四月廿日 珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛(電報)

第七回改正談判ニ於テ第二詔會ノ結果
報告ノ件(一)(二)

四月十四日 後四、五五 伯林發
四月十五日 前一〇、三〇 東京着
第三〇号

小村外務大臣

珍田全權大使

四月十三日第七回會議ニ於テ第二詔會終了ス第十四條ニ關シ独逸國ハ自カラ沿岸貿易權ヲ許シ居ル事實ヲ論拠トシ且同國汽船会社カ重大ナル利害關係ヲ有スルコト?英米会社ニ比シ更ニ多大ナルヲ以テ熱心ニ此權利ノ繼續ヲ請求ストノ事情ヲ述ヘ固ク對案維持ヲ主張シタリ本使ハ飽迄右要求

ヲ拒絕スルト同時ニ利害關係ニ対スル誤謬ノ弁明ニ努メタルモ結局議定ニ至ラス就テハ独逸汽船開港場間貨客統計並英米会社トノ比較ニ関スル事實御電報ヲ請フ先方ハ第十七條原案ヲ承諾シ之ニ第二項トシテ別電第三一號中一ヲ追加スルコトヲ提議シタリ之ヲ承諾シ差支ナシト思考スルモ仮リニ同意ノ旨ヲ回答シ置キタリ何分ノ義御電訓ヲ請フ第十八條 a ニ関シ先方ハ帝國政府カ第二項ヲ承諾スルコト能ハサルニ於テハ別電中二ノ如ク改メンコトヲ提議スルト同時ニ第一項ハ總則ヲ構成ストノ理由ニ依リ其ノ維持ヲ主張シ議定マラス結局日米新條約ヲ基礎トシ折合ヲ圖リ差支ナキヤ第十九條未決第二十條存続期限ヲ十二年トナシ可決第二十一條批准交換ノ場所ヲ東京トスルコトニ決定但シ本件後日實際ノ必要アルニ於テハ伯林トナスコト永代借地權ニ関シ先方ハ別電中三ノ如キ覚書ヲ提出シタリ本使ハ之ヲ日英新條約三月三日ノ會議録第一條ノ下ニ英國委員ノ為セルト同様ノ形式ニ訂正セシメント努メタルモ先方折合ハス如何取計フヘキヤ最終議定書第一條削除可決第二條(2) a 号第二項未決 b 号ニ関シ先方ハ再考ヲ求メタリ本号ノ規則ハ独逸國發案ニ係リ現今各國ノ採用スル所トナリ居ルニ付其ノ提議ノ運命ニ対シテ先方ハ多大ノ価値ヲ附

invention ou un modèle d'utilité n'a pas été mis en œuvre, ou qu'un dessin ou modèle industriel n'a pas été reproduit dans un certain délai, ne se produiront pas si la mise en œuvre ou la reproduction ont lieu sur les territoires de l'autre partie.

3. Tout en se déclarant disposé à étudier un tel projet, il croit devoir réitérer contention que jusqu'à la conclusion d'une convention spéciale à ce sujet, l'état établi par le traité de commerce du 4 Avril, 1896, et les notes échangées le même jour entre le Baron Marschal et le Vicomte Aoki devront être respectés.

Chinda.

四七八 明治三十四年四月十五日

小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛(電報)

我修正案維持ニ関シ訓令ノ件(一)(二)

(一)

四月十五日午後〇時五十分發

第二五号

小村外務大臣時代 対独交渉 四七八

シ居ル様存セラルルト同時ニ聞ク所ニ依レハ本邦大蔵省ニ於テ實際之ト類似ノ措置ヲ執リ居ル趣ニモアリ旁之ヲ讓ルモ格別差支ナカルヘント思考スルニ付対案ノ如ク條約正文ニテ約定スルヲ拒ミ文書交換ヲ以テ先方ヲ満足セシムル方他ノ條項商議上却テ得策ナルヘント信ス何分ノ御電訓アリタシ尙先方ハ第三條ヲ日英新條約第二十五條ト同文ノ規定ニ改メンコトヲ提議セリ是ハ承諾シテ差支ナシト思考スルモ是亦一応御訓令アリタシ第四條ニ関シ條文案ヲ提出シ来リタルニ付絶對的反对ノ態度ヲ執レリ

(二)

Berlin, April 14 1911 5-48 p.m.
Recd., " 15 " 9-25 a.m.

Komura,

Tokio.

No. 31.

1. Les autorités locales devront, dès que faire se pourra, informer le plus proche consul de l'état du pavillon. Les consuls des pays contractants sont autorisés à prêter l'assistance nécessaire à leurs nationaux.

2. Les conséquences préjudiciables qui d'après les lois des Parties Contractantes résultent du fait qu'une

在独 珍田大使

小村 大臣

貴電一九号ニ関シ

閣下ハ帝國政府ノ回訓トシテ先方ニ対シ左ノ通り述ハラレタシ

「独逸政府ニ於テ義務ノ對等ト利益ノ交換トヲ基礎トシテ相互ニ税率ヲ協定セムコトヲ希望スル以上ハ帝國政府ハ主義上強テ反对スルヲ欲セスト雖帝國政府ハ固ト右ノ基礎ニ於テ對価ヲ払ツテ迄モ税率協定ヲ請求スルノ必要ヲ感シ居ラサル次第ナレハ彼我相互ノ權衡ヲ得ントスルニハ兩國ノ協定ハ到底多數ノ物品ニ渉ルニ由ナシ就テハ独逸政府ニ於テ其請求セムトスル協定品ヲ二三品ニ制限スルニ非スンハ帝國政府ニ於テ之ヲ考量スルニ苦シミ我方ノ請求ヲモ定メ難キニ付独逸政府ニ於テ協定品ヲ二三品ニ限り改メテ提案セラレンコトヲ希望ス」

尙閣下ノ御舍迄申渡度ハ右ニテ先方カ愈々如何ナル物品ニ重ヲ措クカ明瞭トナリタル上ニテ我要求ヲ決定スヘキカ我方ニテハ羽二重以外ニハ殆ト其必要ナキカ如シ尤モ權衡ノ必要ニ依リテハ或ハ一二品ヲ追加スルヲ得ヘシ独逸カ日英新條約ノ協定税率ニ均霑スル輸入額ハ百六十萬圓ニ達スル

カ故日独開新條約成立ノ利益ヲ感スルコト一層彼レニ切ナルヘキ理ナリ

註 二三品トハ稅番二又ハ三ニ限ルノ意味ニ解スル

コト

珍田大使第三三號電ニテ問合セアリ小村大臣第二八號電ニテ然ル旨回答アリ

(一)

四月十五日後一時五分迄

第二六號

在独 珍田大使

小村 大臣

貴電二八號ニ關シ

(一) 對案第二條第二項ハ貴電二一號ニ抛レハ之ヲ削リ可決トアリタル処今回ノ電報ニ抛レバ未ク削除ニ決定セサルカ如シ本項ノ削除ヲ主張スル我理由ハ第一内國民待遇以上ニ更ニ本項ノ如キ別段ノ約束ヲ為スハ適當ナラス第二刑事訴訟法ニ影響スル規定ヲ設クルヲ好マス第三搜索ノ理由ヲ通知スルハ往々司法警察上ノ機密ヲ暴露シ犯罪搜索ノ流行上不便アルヘク第四各國條約ノ例ニ非ストイフニ在リ先方ノ論旨ハ御意見ノ通り極メテ薄弱ニシテ言語ノ不通云々ノ如キハ本件ニ限り重ヲ為スヘキモノトハ

ニ行為能力トアルヲ指シ右能力者カ實際財産ヲ取得シ又ハ營業ヲ行ヒ得ルヤ否ヤノ件ハ貴電ニ於テハ行為能力ノ問題ト為セルカ要スルニ先方説明ノ趣意ハ我修正意見書ニ記載セル解釈ト符合セリ然レドモ第二項ハ其ノ必要ナク之カ挿入ハ却テ誤解ヲ生セシムルノ嫌ナキニ非ス殊ニ一般ニ斯ル規定ヲ設ケサルノ例ナルカ故是非共削除ヲ主張シ我修正案ヲ維持セラレタシ尤モ右第二項ヲ削除スルニ於テハ其ノ他ハ獨逸案ニ依ルモ強テ異存ナシ

四七九 明治卅四年四月廿日

珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛(電報)

新關稅定率法ニ關シ問合セノ件

四月十六日 後七、二五 伯林發

四月十七日 前八、三五 本省着

第三四號

小村外務大臣

珍田全權大使

貴電第二六號中ノ(一)第二條第二項ハ第一讀會ノ際我削除主張ニ對シ先方ニテ何等反對ヲモナササリシニ付其ノ削除ニ同意シタルモノト了解シ居リタルカ第二讀會ノ節更メ

小村外務大臣時代 対独交渉 四七九 四八〇

認メ難キニ付断然拒絕セラレタシ

(二) 對案第七條第三項(貴電ニ四項トアルハ誤ナルヘシ)ニ對シ我原案ノ通り「前記ノ目的ヲ以テ」ナル文字ヲ以テ修正ヲ加ヘントスル我趣意ハ修正意見書ニ述ヘシカ如ク本條仮免稅ノ特典ヲ第一項ノ注文取集ノ為旅商ノ携帶スル見本ニ限ラントスルニ在リ對案ノ如ク條約上之カ適用ヲ擴張スルニ同意シ難キ理由ハ右修正意見書ニ記載セリ又右第三項ニ追加スヘキ規定即チ我原案第七條第二項後段ノ二節ニ付テハ商議如何相成リシヤ日英新條約ハ本件ニ關シ凡テ我原案ノ通りヲ採用セリ

(三) 對案第七條(a)ノ前ニ日英新條約第十三條ト同様ノ規定ヲ挿入スルコトニハ異議ナシ但シ本條ノ見本品モ對案第七條第三項(日英新條約第十二條)ニ規定セル所ニ依リ担保提供ノ義務ヲ免レサルカ故(我新關稅定率法第八條參照)担保提供ノ為稅額ヲ決定スルノ必要上輸入地關稅適用上ノ所要ニ応スル様見本ノ明細目錄ヲ調製セサルヘカラス即チ數量品質價格等詳細記入ノ必要アルヘシ然ラサレハ稅額決定上檢査ヲ免レサルヘキコトハ注意ヲ要ス

(四) 對案第八條ニ關シ貴電ニ所謂專業能力トアルハ我訳文

テ之カ維持ヲ主張シ来リタルモノナリ(二)「前記ノ目的ヲ以テ」ナル意義ノ解釈カ先方ノ解釈ト合致スルニ於テハ原案第七條第二項後段全部總テ成立スルモノトス尙新關稅定率法第八條第六号ハ帝國ニ在ル商人ニ仕向ケラレタル見本品ニ無稅輸入ノ特典ヲ与ヘサル趣意ナルヤ又假令之ヲ与フル場合ニ於テモ帝國政府ハ此ノ特典ヲ條約ニテ保障スルヲ好マサルヤ本使ノ參考迄ニ承知致置タシ

四八〇 明治卅四年四月廿日

小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛(電報)

沿岸貿易其他ニ關シ訓令ノ件

四月十七日午後五時四〇分發

第二八號

在独 珍田大使

小村 大臣

貴電第三〇號ニ關シ

(一) 獨逸ハ一八八一年ノ法律ヲ以テ沿岸貿易ヲ自國船舶ニ限り只條約又ハ勅令ヲ以テ外國船舶ニ許シタル場合ハ此限ニ在ラスト為シ英、白、伊、其ノ他數箇國ニ勅令ヲ以テ之ヲ許可セリト雖原則トシテハ内國船主義ナリ尤モ

独逸ノ主義如何ニ拘ラス我方ニ於テハ條約上沿岸貿易ヲ許可セサル方針ニシテ先方ニ於テ之ヲ許スト否トヲ問題トスルニ非ス現行條約第十三條末項ニ於テ「本條約ノ期限間」ナル文字ヲ特ニ挿入シタルハ（凡ソ條約ノ規定ハ其存続期間中ノミ有効ナルコトハ明文ヲ俟タサルニ拘ラス）畢竟帝國政府カ其當時ヨリ既ニ今日ノ用意ヲ存シ置キタル次第ニテ此点ハ独逸政府モ充分承知セル筈ナリ要スルニ先方ノ請求ハ主義上到底同意シ難シ又実利上ヨリイフモ彼我航運業ノ現状ニ鑑ミルトキハ相互沿岸貿易ノ許可ハ真ニ利益ノ交換トハ認め難シ既ニ折角英米兩國特ニ英國ニ対シテ我主義ヲ貫キ得タルニ當リ之ヲ動カスコトハ萬々承諾スルヲ得ス尙四十二年中開港場間貨物運搬數量ハ英國船七千三十四噸独逸船四百十五噸米國船二百四十七噸仏國船百六十四噸ニシテ先方ノ言フ所ハ事實ト相違セリ

(二) 十七條原案（我当初ノ原案ヨリ局外中立云々ノ文句ヲ除キタルモノト察ス）ニ追加スヘキ第二項ハ大体先方ノ案ニ異議ナキカ字句ハ多少修正ノ要アルヘシ

(三) 十八條aニ関シ新提議ニ係ル第二項ハ本邦工業ノ為ヨリイヘハ不利益ニシテ我特許法第四十七條ト相反スルカ

四八一 明治四十四年四月七日 小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛（電報）

新関稅定率法ノ疑義ニ関シ回答ノ件

四月十七日後四時四十分發 第二九号

在独 珍田大使 小村 大臣

貴電第三四号ニ関シ

新関稅定率法第八條第六号ハ所謂広義ニ於ケル旅商ノ攜帶スル注文取集用ノ見本品ノミニ適用スル趣意ナリ

〔欄外付記〕
「大蔵省ニ問合済」

四八二 明治四十四年四月七日 小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛（電報）

永代借地權ニ関スル独國政府ノ提案ニ対シ

回訓ノ件

四月十七日後六時四十分發 第三〇号

在独 珍田大使 小村 外務大臣

貴電第三〇号中永代借地權ノ問題ニ関シ今回新條約ヨリ本件ニ關スル規定ヲ削除セムトスルハ全ク右規定カ其ノ性質

小村外務大臣時代 対独交渉 四八一 四八二

故同意シ難シ第二項ヲ削除スレハ所謂前提規定タル第一項ノ必要モナシ殊ニ第一項ハ近日華盛頓ニ開会ノ萬國工業所有權會議ニ於テ議案ト為ルヘキ條文ト同一ナレハ之カ審議決定ハ該會議ニ讓ルヲ適當トス就テハ本條ハ全然削除ノコトニ御尽力相成リタシ

(四) 永代借地權ニ関シテハ別電ニテ申進ス

(五) 關稅公報發給規則ノ制定ニ関シ形式ノ如何ヲ問ハス約東ヲ与フルコトハ主義トシテ同意シ難シ独逸同様ノ規則ヲ採用セル各國トハ何レノ國ヲ指セルヤ承知セサルカ其採用ハ何等独逸トノ約束ニ基キタルモノニハ非サルベシ我大蔵省ノ實際執リ居ル措置ハ行政上普通ノ事務ニシテ法令ノ規定ニ基クモノニ非ス從テ大ニ性質ヲ異ニセリ又或關稅法訴願規定等トノ關係上右様ノ規則ヲ設クルニハ或ハ法律ヲ要スルナルヘク左スレハ政府ニ於テ將來ノ立法ヲ約束スルハサルハ勿論ナリ要スルニ本件規則ハ參考トシテ將來研究スヘキモ今日ヨリ豫メ之カ制定ヲ約束スルヲ得ス

(六) 日英新條約第二十五條ノ採用ニハ異議ナシ 貴電第三三号御問合ノ件御意見ノ通り

上通商條約ノ一部ヲ成スヘキモノニ非ルカ故ナリ從テ日英新條約會議録ニ掲ケタルカ如ク前記削除ノ為本件ニ関スル兩國政府ノ主張ニ影響ヲ及ボササルコトヲ協定スルトキハ独逸政府ニ取リテモ満足ナルヘキ筈ト思考セラレ帝國政府ニ於テ之レ以上問題ノ實質ニ立入り我主張ヲ拘束スヘキ何等ノ保障ヲ与フルコトハ到底同意シ難キ旨確答セラレタシ閣下ノ御参考迄ニ附言スヘキハ帝國政府ハ永代借地權ト永借財產ニ関スル免税ノ特典トヲ區別シ現行條約ノ確認セルハ前者ニシテ後者ニ非ス即チ永代借地權ハ現行條約ノ創設ニ因ルモノニ非ルカ故ニ其條約ノ消滅ニ拘ハラズ存続スルヲ認ムト雖モ免除ノ特典ハ全然現行條約ノ創設ニ係ルカ故ニ其ノ條約ト共ニ終止スヘキコト法理論トシテモ本件ノ歴史ニ徹スルモ疑ヲ容レズト信シ英國政府ニ対シテモ之カ主張ヲ維持シツツアリ然レトモ帝國政府ハ此際右ノ問題ヲ解決セムトスルニ非ス他日永代借地權ノ根本的処分ニ関シ一定ノ成案ヲ立ツルニ至ラハ独逸政府トモ協議スヘク差当リ兩國政府互ニ其ノ主張ヲ留保スルニ止メ置クトキハ双方共ニ不利益ナカルヘキニ付之ニテ満足セサル理由ナシト思考ス

四八三 明治四年四月十日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

関稅協定ニ関スル独國覺書摘録通報ノ件

四月二十日 后六、五 伯林發
四月二十一日 后三、五七 本省着
第三五号

小村外務大臣

珍田全權大使

関稅協定問題ニ関スル我覺書ハ昨今御落手ノコトト信スルニ付之ニ対スル独逸國覺書要領ヲ左ニ摘録具報ス

(一) 独逸國カ日本ニ片務的協定ヲ要求ストノ解釈ハ全ク誤解ニシテ独逸國ハ日本ヨリモ稅率協定ノ反對要求アルヘキコトヲ豫期シ居リタルモノニシテ独逸國カ各國ト條約談判ノ際ニ用キル常例ヲ襲踏シタルモノナリ

(二) 日本國政府ハ今回ノ條約改正ニ際シ稅權ノ復活ヲ主眼トスレトモ稅率協定ハ此ノ主義ト矛盾スルコトナシ此ノ意見ハ昨年一月二十九日小村大臣カ予算委員會ニ於テ為シタル日本ハ一定ノ大國ト協定稅率ヲ結フノ必要アリトノ言明ニ依リテモ確認セラレタルヲ見ル

(三) 独逸國ガ各國ト稅率ヲ協定シタル要因如何ニ拘ラス日本國商品ハ之ニ均霑ニ依リテ毎年七万円ノ利益ヲ享受シツツアリ而シテ独逸國ヘ輸入セラルル日本品ノ殆ント

帝國政府ノ到底承認スルコト能ハサル所ナリ

(二) 小村大臣ハ未タ會テ帝國カ稅率ヲ協定スルノ必要アルコトヲ認メタルコトナク質問ニ答ヘテ一二國ト協定スルヤモ計リ難シト云ヒタルヤニ記憶ス右ハ相互通商關係カ亦利トスル場合ヲ意味シタルモノニシテ独逸國ヲ此ノ場合中ニ算シ居ラサルハ明瞭ナリ

(三) 日本品カ独逸國ニ於テ受ケ居ル利益カ独逸國政府ノ計算ノ如ク七萬円ナリトスルモ独逸國ノ貨物ハ日本國ニ於テ新日英協定稅率ノ為尠クトモ七萬円乃至十萬円ノ利益ヲ受クヘキ計算ナルカ故ニ最惠國待遇ニ關スル独逸國ノ主張ハ既ニ其ノ論拠ヲ失フニ至リタリ又國定稅率ニ依リ已ニ無稅タル物品ニ對シ均霑ノ利益ヲ説クハ過当ナリ

(四) 独逸國ト各國トノ條約ハ概ネ千九百十七年ニ終了スルニ反シ日英條約ハ特別ノ事情發生セサル限十二年間存続スルニ付兩條約ノ保障ニ依リ受クヘキ利益高ハ之ヲ速断スルヲ得ス

(五) 旧條約ハ變體的過渡時代ノ締結ニ係リ今ヤ当然消滅スヘキモノナルカ故ニ之ヲ引援スルコトハ断シテ不可ナリ

半数ハ無稅ニテ通關シ就中約四割三分ハ独逸國カ他國ト締結シタル協定稅率ニテ保障セラレツツアリ

(四) 独逸國ハ日本國ノ利害ヲ顧ミス其ノ協定稅率ヲ變更シ得ルトノ議論ハ正確ナラス独逸國ハ各國トノ條約存続中拘束セラレ居レリ又独逸國ハ相当ノ代償ヲ以テ日本ニ拘束權ヲ与フヘシ

(五) 新旧日本關稅率ノ比較ハ無意味ナリ現行條約時代ニ旧關稅法ハ實際上効力ナカリシニ付比較ハ之ヲ現行協定稅率ニ求メサルヘカラス

(六) 日本國ノ關稅協定ヲ含マサル條約ハ独逸全國ニ於テ非常ナル反對ヲ受クヘシ

(七) 日本國ハ英國ノ例ニ倣ヒ独逸國トモ協定センコトヲ希望ス

右覺書ニ對シテ本使ハ当日大体左記ノ趣旨ヲ以テ弁駁ヲ加フルト同時ニ貴電第一九号御訓令ノ趣旨ヲ陳述シタルモ會議録ニハ斯ノ如キ口頭討議ノ詳細ヲ掲載セサルコトニ取極メタル故之ヲ記録ニ存スル為左記ノ通更ニ覺書ヲ交附スル積ナリ

(一) 独逸國政府ハ片務的協定ヲ要求スルノ意思ニアラスト云フモ依然トシテ第一覺書ニ明記セル最惠國待遇ノ代償主義ヲ維持スルカ如シ此ノ主義ニ基ケル協定ハ

(六) 二國間ニ協定ノ成立スルト否トハ兩國ノ通商關係如何ニ依リ決セラルヘキ問題ニシテ日英兩國間ニ相互利益ノ交換ヲ基礎トセル協定ノ成立シタルハ兩國間ニ存スル特別ナル通商其ノ他ノ關係カ之ヲ利トシタルカ為ナレハ他國ニ取リテ例トスル能ハサル所ナリ帝國政府ハ日英兩國ノ通商關係ニ鑑ミ關稅協定ヲ希望セサルコト終始渝ラス

尙本使ハ此ノ覺書ヲ交附スル際必要ナル説明ヲ加フルト同時ニ此ノ議論ヲ闘ハスハ徒ラニ談判進行ヲ阻害スル所以ヲ述ヘ之ニテ本件論駁ニ一段落ヲ附ケ往電第三六号ヲ以テ請訓ノ措置ヲ執ルヘキ心組ナリ

四八四 明治四年四月十日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

関稅協定問題會議延期ニ付請訓ノ件

四月二十日 后五、二五 伯林發
四月二十一日 前一〇、一五 本省着
第三六号

小村外務大臣

珍田全權大使

関税協定問題ニ付第六回会議ノ結果往電第二九号ノ通請訓ニ及ヒタルニ第七回会議ニ於テ通商局長ハ本使トノ約束ニ遵ヒ本件ニ付前会議ニ於テ為シタル声明ヲ會議録ニ挿入スル為草案ヲ提示シタルニ付之ヲ闕スルニ独逸国ハ日本国ニ對シ片務の関税讓歩ヲ求ムル趣旨ニ非ラサルハ勿論相互利益ノ consideration reasonable ヲ以テ協議ノ基礎トスルヲ辞セス云々トアルノミニシテ最惠国待遇ニ對スル代償主義拋棄ニ関シテハ何等言及スル所ナク前會議ノ趣旨ト符合セサルカ故ニ本使ハ極力之ヲ論難シタルモ結局先方ハ相互利益ヲ考量スルニ方リ最惠国待遇ノ結果ヲ全然度外視スルカ如キハ断シテ同意シ難シトテ飽ク迄其ノ意見ヲ固執シタルヲ以テ本使ニ於テモ独逸国ノ提議ヲ帝國政府ニ取次キ其ノ考量ヲ稟請スヘキ約諾ヲ取消スヘキ旨ヲ述ヘテ散会セリ隨テ貴電第二五号御訓令ハ直ニ之ヲ実行スルコト能ハサル姿トナリ居レリ然ルニ此ノ点ニ付双方飽ク迄相固執スルモ解決ニ達スル見込ナキニ付本使ハ次回ノ會議ニ於テ本件ニ付我主張ヲ留保シタル上會議録ニハ独逸國政府ハ義務ノ對等ト利益ノ交換ヲ基礎トシ帝國ト税率ヲ協定センコトヲ希望スル旨記載センコトヲ提議シ先方之ヲ承諾セハ本使ハ此ノ旨帝國政府ニ報告シ其ノ指揮ヲ請フヘキ旨ヲ陳述シ

得ル克ハサレハナリ又相互利益ヲ考量スルニ當リ最惠国待遇ノ結果ヲ全然度外視スル能ハストノ議論其モノハ必スシモ排斥スヘキニ非サルノミナラス今回日英新條約ノ協定税率ニ独逸カ均霑スル貿易額ハ前ニ電報ノ如ク百六十萬圓ニシテ独逸カ他國トノ條約上設ケタル協定税率ニ均霑スル我貿易額ハ六十萬圓ニ過キサルヲ以テ右ノ議論ハ今後ノ談判上寧ロ我方ニ強味ヲ加フルコトトナルヘキニ付左様御會アリクシ

(11)

四月廿三日午前十一時十四分發

第三二号

在独 珍田大使

小村大臣

貴電三五号ニ関シ

先方ノ覺書中日本商品ハ独逸カ他國ノ為設ケタル協定税率ニ均霑スルニ因リテ毎年七萬圓ノ利益ヲ享受セリトアルモ我調査ニ依レハ之ヲ首肯シ難シ独逸カ税率ノ据置又ハ輕減ヲ他國ニ約束セル有税品ニ付本邦ヨリハ關稅額七萬三千圓ニ該當スル數量ヲ輸入スルモ右本邦品カ關稅輕減ノ約束ニ均霑スルカ為メ益スル稅額ハ一萬二千圓ニ過キス先方ノ所謂七萬圓トハ前記關稅總額ヲ指シタルモノナルヘク察セラ

小村外務大臣時代 対独交渉 四八六

以テ問題ノ發展ヲ図ル方得策ナルヘシト思考ス本件ニ関シテハ今一応先方ノ反省ヲ要メタル上何分ノ御訓令ヲ抑クヘキ希望ナリシモ通商局長ハ前會議以來引續キ旅行中ニ付今ニ會議ヲ開カサル有様ニテ時日追々切迫スルヲ以テ益前述ノ措置ヲ有要トスル次第ニ付至急何分ノ義御電訓ヲ請フ

四八五 明治四十四年四月二十二日 小村外務大臣ヨリ 及三十日 珍田駐独大使宛(電報)

関税協定問題回訓ノ件 (一)(二)

(11)

四月二十二日午前十一時七分發

第三一号

在独 珍田大使

小村大臣

貴電第三六号ニ関シ

御意見ノ通り取計ハ差支ナン蓋シ假令先方ノ声明ガ我注文通りノ文句ト多少相違アル場合ニテモ苟モ主義ニ於テ不都合ナキ限ハ實際ニ害ナシト認ム何トナレハ義務ノ對等ト利益ノ交換トニ基ク税率協定ニ非サレハ到底我方ノ同意ヲ

ルルカ之ヲ以テ均霑ノ利益ナリトイフハ誤レリ又本邦ヨリノ輸入品ノ約四割三分ハ協定税率ニテ保障セラレツツアリトイフモ事實ト相違セルカ如シ即チ無税品ノミニ付テイフモ又総物品ニ付テイフモ均シク据置ノ保障ニ均霑スルモノト輕減ノ約束ニ均霑スルモノトヲ併セ何レモ二割五六分ニ過キス以上ハ独逸統計表ニ拠リ四十年及四十一年ノ二年平均本邦ヨリノ純輸入額ニ付計算セルモノニシテ平均年額五萬圓以上ノ物品ヲ取りタリ其以下ヲ加フルトモ大体ニ於テ異動ナシ

四八六 明治四十四年四月二十六日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

第八回改正談判ノ件

四月廿六日 前四、一五
四月廿七日 前一〇、一八

第三七号

小村外務大臣

珍田全權大使

通商局長ハ来月初旬ニアラサレハ歸伯セストノコトナレハ其ノ帰着ヲ待タス四月二十五日第八回會議ヲ開クコトニ決

シタリ右会議ニ於テ本使ハ第一ニ往電第三五号ノ趣旨ニテ認メタル覚書ヲ先方へ手交シタル後往電第三六号ノ趣旨ヲ陳述シ先方ノ同意ヲ得タルニ付本使ハ此場合ヲ豫期シテ時日經濟ノ為豫テ訓令ヲ請ヒ置キタル旨ヲ告ケ直ニ貴電第二五号御訓令ノ仏訳ヲ交付シタルニ先方ハ一読大ニ喫驚シタル有様ニテ切リニ協定品数ヲ二三ニ限ルコト極メテ困難ナル事情ヲ述ヘタルモ本使ハ之カ帝國政府最後ノ譲歩ナルコトヲ各方面ヨリ^{説?}声明シタルニ先方ハ之ニ同意スルコト到底不可能ナリト思考スルモ大臣ノ意見ヲ伺ヒタル上更ニ確答スヘキ旨ヲ答ヘ且大臣ハ目下旅行中ニシテ何時頃伯林ニ歸ルヤ不明ニ付其ノ回答時日ハ豫告シ難ク次回會議ヲ其ノ時迄延期センコトヲ申出タリ夫レヨリ審議ニ移リ先方ハ第一條第四号aノ削除ニ同意シ本使ハ議定書第三條先方提案ニ(往電第一〇号参照)同意シ第二條第二項、第七條第四項即チ第二項及第二項廢合ノ結果第三項トナリタルモノ、第八條、第十四條、第十七條第二項(是ハ往電第三一号 informer ト le plus トノ間ニ de l'échouage ou du naufrage d'un navire フ加ヘンコトヲ提議シタルモノナリ)第十八條a、永代借地權、議定書第二條b、及第四條御下付ノ義別紙ノ通り上奏候間可然御取計相成度此段申進候也

(附屬書一)

上 奏 案

從來帝國ト独逸國トノ間ニ存在スル通商航海條約ハ客年七月十七日帝國政府ヨリ發シタル廢棄通告ノ結果本年七月十六日ヲ以テ終了スルニ付新ニ通商及航海ニ関スル條約ヲ訂立セムカ為獨逸國全權委員ト会同商議シ條約ヲ締結シ其ノ約書ニ署名調印スルノ全權ヲ独逸國駐劄特命全權大使珍田捨已ニ御委任アラセラレ候様仕度別紙御委任状案相添此段謹テ奏ス

(附屬書二)

御委任状案

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
朕茲ニ帝國ト独逸國トノ間ニ通商及航海ニ関スル條約ヲ訂立セムカ為獨逸國ノ全權委員ト会同商議シ條約ヲ締結シ其ノ約書ニ署名調印スルノ全權ヲ独逸國駐劄特命全權大使從三位勲一等男爵珍田捨已ニ付与ス其ノ議定スル各條項ノ如

ニ関シ貴電第二八号及第三〇号御訓令ノ主旨ノ覚書ヲ提出シ何レモ先方ニテ其ノ回答ヲ留保シタリ

四八七 明治四十四年四月廿七日

小村外務大臣ヨリ 桂總理大臣宛

在独珍田大使ニ條約締結ノ全權御委任状

奏請ノ件

附屬書一 上奏案

二 御委任状案

附記 五月一日付珍田大使宛御委任状

送付ノ件

明治四十四年四月廿七日發遣

機密送第二五号

桂内閣總理大臣宛

小村外務大臣

現行日独通商航海條約ハ客年七月十七日帝國政府ヨリ發シタル廢棄通告ノ結果本年七月十六日ヲ以テ終了スルニ因リ右廢棄通告ノ後新條約案ヲ独逸國政府ニ提出シ商議開始ヲ希望シタルニ同政府ヨリ其ノ後對案ヲ提出シ目下談判進行中ニ有之候ニ付在独珍田大使へ新條約締結ノ全權御委任状

キハ朕親シク閱覽ヲ加ヘ其ノ善良ナルヲ認メテ後之ヲ批准スヘシ

神武天皇即位紀元二千五百七十一年明治四十四年四月廿九

日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國 璽

外務大臣候爵 小村寿太郎 副署

(附記)

全權御委任状送付ノ件

明治四十四年五月一日發遣

機密條第一一号

在独 珍田大使宛

小村 大臣

日独間ニ通商及航海ニ関スル條約ヲ締結スルノ全權御委任状別紙ノ通御下付相成候ニ付及御送付候條御查收相成度候尙右御委任状中單ニ通商航海條約ト謂ハスシテ特ニ通商及航海ニ関スル條約云々トアルハ通商航海條約ノミナラス特別相互關稅條約ヲモ包含スルノ意味ニ有之候間左様御承知相成度此段為念申添候 敬具

四八八 明治四十四年五月一日 小村外務大臣宛(電報)

改正談判ニ関シ豫メ請訓ノ件

五月一日 後六、一五 伯林発
五月二日 後一、四五 本省着

第三九号

小村外務大臣

珍田全権大使

談判ノ進捗ヲ図ルガ為次回會議ニ於テ起リ得ヘキ質問竝提議等左記五件ヲ豫想シ豫メ何分ノ御訓令ヲ仰ク

(一) 先方ガ第十八條 a 第二項削除ニ同意スルト同時ニ第一項ヲ日米條約第十五條ト同文ノ規定ニ修正シテ保存センコトヲ申出タル場合ニ當事國ガ共ニ萬國條約ニ加入シ居ルトノ理由ヲ以テ之ヲ拒絶スルコトハ米國モ加入國ナルガ故ニ論拠余リニ薄弱ナル様存セラル就テハ此ノ申出ヲ飽迄拒絶セントノ御意見ナルニ於テハ他ニ有力ナル論拠ヲ御回示相成ク

(二) 独逸國政府ハ從來通商條約適用ヲ殖民地ニ擴張シタル例ナク又殖民地ニ関スル條約ハ皇帝ノ大權ニ專屬シ議會ノ協賛ヲ要セサル次第ニ付原案第十九條ハ到底先方ノ同意ヲ得ル見込ナク結局其ノ削除及對案第十九條ヲ承諾スルノ外致難カルヘント思考スルモ何分ノ御回訓アリクシ或ハ右

四八九 明治四十四年五月四日

小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛(電報)

前件回訓ノ件

五月四日後七時七分發

第三八号

在独 珍田大使

小村 大臣

貴電第三九号ニ関シ

(一) 日米新條約第十五條ニ関シテハ曩ニ電報シタル事情アリ殊ニ米國ハ新條約ノ他ノ條項ニ付概ネ我原案通りヲ採用シタル次第ニテ此等ノ關係ヲ離レテ單ニ第十五條ノミヲ見ルハ穩當ナラズ英國トノ新條約ニハ同様ノ規定ヲ省キ其ノ他ノ國ニ對シテモ帝國政府ハ之ヲ不必要ト主張シ居ル際ニテ一旦獨逸トノ條約ニ挿入スルトキハ他國トノ交渉ニモ影響スベキニ付仮令御來示ノ如キ申出アルトモ成ルベク拒絶セラレタシ但シ此他ニ先方ニ於テ我修正ニ對シ尙意見ヲ留保シ居ル若干ノ條文アルカ故其等ノ妥結ニ本件ヲ利用スルヲ得バ日米新條約第十五條ト全然同文タルヲ條件トシテ之ヲ挿入ニ同意セラル、モ可ナリ

(二) 原案第十九條ニ反對スル先方ノ主ナル理由ハ殖民地ニ関スル條約ハ大權ニ專屬シ議會ノ協賛ヲ要セサルガ故殖

承諾ヲ條件トシテ獨逸國政府ハ其ノ殖民地及租借地ニ関シ將來帝國ト特別條約ヲ締結スヘントノ言質ヲ要求スルモ一法ナラン尤此ノ要求ニ對シ先方ノ同意ヲ得ルコト殆ンド覺東ナキモ之ヲ要求スルコト談判駁引上無益ニアラサルヘシ

(三) 原案第十九條ノ削除シ對案第十九條ヲ承諾スル場合ニ於テ先方ヨリ關東租借地ヲ條約適用範圍内トスル解釈ヲ採ランコトヲ申出タルトキハ絶体的ニ之ヲ否認スヘキヤ或ハ膠州灣ト交換的ニ(日英秘密宣言ノ如ク)アラサレハ同意スル能ハストノ態度ニ出ベキヤ

(四) 關東租借地特殊ノ性質ニ鑑ミ本邦同地間ノ航海ヲ沿岸貿易ト解釈シ能ハサルヤ又同問題ハ原案第十九條ノ存否如何ニ依リ影響ヲ被ムルヘキヤ尙第十四條ニ日英條約第二十一條第三項ト同一ノ規定ヲ追加センコトヲ申出タルトキハ如何取計可然哉

(五) 獨逸國政府若議定書第二條 a 第二項ヲ双務形式ニ改メ警察及商業會議所等ノ代リニ税關官憲ノミニ原産地證明書發給權ヲ与ヘントノ新提議ヲ為シタル場合ニ於テモ之ニ不同意ヲ唱フヘキヤ

民地ニ條約ヲ適用スルコトヲ條約ノ明文ニ加ユルヲ好マズトイフニアリ若シ到底我原案ニ同意セシムルコト能ハザルニ於テハ之ヲ削除スルノ外ナカルベキガ帝國政府ハ新領土ノ何レヲモ除外セザルニ付獨逸ヲシテ別約ヲ以テ新條約ヲ其ノ殖民地ニ適用スルコトヲ定メシメ以テ議會ノ協賛ニ付スルヲ避ケシムルニ於テハ先方モ同意シ得ベキ管ニ付右別約ノ方法ニ依ルカ或ハ勅令其他ノ方式ヲ以テ新條約ヲ殖民地ニ適用スルコトヲ定メ新條約ノ有効期間之ヲ改メザルコトヲ約束セシムルコトニ致シクシ

尤モ右何レモ到底同意ヲ得ザルトキハ御來示ノ如ク將來帝國政府ノ希望スル場合ニハ獨逸政府ハ其殖民地ニ関シ通商上特別條約ノ締結ニ同意スベシトノ言質ヲ求メラル、モ一法ナリ但シ租借地ニ関シテハ右ノ如キ言質ヲ要求スルノ必要ナシ

(三) 原案第十九條ノ削除セラレタル場合ニ單ニ解釈ニ依リ關東州租借地ニ條約ノ適用ヲ及ボサンコトヲ先方ヨリ申出ヅルトモ不同意ヲ唱ヘラレタシ但シ關東州及膠州灣ニ均シク新條約ヲ適用スベキコトヲ機密文書ノ交換ニテ取極ムルコトナラバ強テ異存ナント雖殖民地ニ條約ヲ及ボスコトヲ得ズトノ先方ノ論拠ハ其性質上租借地ニモ応用セラル

ベキモノ、如ク認メラル、ヲ以テ租借地ニ関シ斯ル取極ヲ為シ得ルナラバ殖民地ニ付テモ為シ得ベク殊ニ租借地ノ如ク第三国ニ対シテ憚ルノ必要ナキカ故公然ノ取極ヲ行ヒ得ル理ナリト思考ス

(四) 關東州ト本邦トノ間ノ航海ヲ沿岸貿易ト解釈シ能フヤ否ヤノ問題ハ關東州カ通商條約適用ノ区域内ニ在ルヤ否ヤニ依リテ影響ヲ蒙ルコトナシ本國ニ對スル租借地ノ法律上ノ地位ハ通商條約ノ適用ノ及ブト否トニテ定マルモノニ非ズ通商條約トハ全ク別問題ナリ帝國ト關東州トノ間ノ航海ヲ如何ニ処理スベキヤハ帝國政府ノ自ラ決スル所ニ依ルベシ嘗テ帝國政府ガ大連ノ開放ヲ列國ニ通牒シタルトキ帝國ノ一ツノ港ト大連間ノ航海ヲ外國船ニ許ス旨ヲ聲明シタルハ帝國ヲ永遠ニ束縛スル羈絆ニ非ズ然リト雖帝國政府ハ本件ニ付從來ノ方針ヲ變更セザルヲ得策ト認メ殊ニ大連ガ滿州貿易ノ出入港タル地位ヲ占メ清國稅關モ存在セルノ事情ニ顧ミ帝國ト關東州トノ間ノ航海ヲ外國船ニ禁ズルガ如キハ極メテ複雑ナル問題ヲ生ズルノ虞アルヲ認メ現状ヲ變更セムトスルノ意思ナシ以上ノ次第ハ閣下ノ御含迄ニ留メ置カレ萬一先方ヨリ問題ヲ起シタル時ハ先ヅ膠州灣ト獨逸本國其他ノ領土トノ關係ニ付先方ノ所見ヲ反問セラレ必

四九〇 明治三十四年五月四日

珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛(電報)

第九回改正談判ノ件

別 電一 独逸政府提出覺書通報ノ件

二 同右修正案文

五月四日 後八、四〇 伯林發

五月五日 後三、〇三 東京着

第四一号

小村外務大臣

珍 田 大 使

五月三日第九回會議ニ於テ冒頭先方ハ別電第四三號覺書ヲ手交シタル上遂條審議ニ移リ第二條第二項議定書第二條B及第四條削除可決第一條原案第四號ニ関シ先方ハ目下東京ニ於テ特別條約ヲ締結スルヤ否ヤニ付商議中ナレハ本号保存ハ不必要ナリトノ再提議ヲ為スト同時ニ本号規定事項ハ文明國ニ於テ当然保障セラルモノナレバ特別條約ノ商議進行セラル場合ニ於テモ之ヲ欠缺シテ毫モ不都合ナカルヘシトノ意見ヲ表明シタリ独逸國政府ハ本号削除ヲ頻リニ希望シ居ル次第ニ付本号ノ規定事項ハ本号ノ存否如何ニ拘ハラズ兩締約國ニ於テ完全ニ保障セラルヘシトノ宣言ヲ會議録中ニ記載スルヲ條件トシテ之レカ削除ニ同意シ交讓ノ態度ヲ示ス方單ニ條項(不明)得策ナリト思考ス尙此ノ場

要アラバ閣下ニ於テ關東州ト帝國ノ一ツノ港トノ間ノ航海ハ從來ノ通り外國船ニ許サルコト、思惟スル旨陳述セララタシ

又第十四條我修正案カ採用セラレタル場合ニ更ニ第三項トシテ日英新條約第二十一條第三項ト同一ノ規定ヲ追加セムコトヲ申出ダタルトキハ既ニ第一項ニ於テ最惠國待遇ノ規定アル以上ハ右追加ナクトモ英國同様ノ便益ニ均霑スベキガ故特ニ其必要ナルベキ旨ヲ述ベ一応拒絕セラレタシ

(五) 双務的形式ニ改メ領事官ノ在ラザル地ニ於テハ輸出地ノ稅關ニ證明書發給權限ヲ与フルコト、スルニ於テハ必ズシモ異議ヲ唱フルノ必要ナキガ如シト雖強テ斯ル規定ヲ條約ニ設クルニ及バザルベク帝國政府ニ於テハ本件ニ付今後特ニ窮屈ナル方針ヲ採ルノ意思ナシ本件ヲ問題トシタルハ現行條約ニ於テモ独逸國ノミニシテ新條約談判ニ於テモ未ダ何レノ國ヨリモ斯ル提議ニ接セザル次第ナレバ右ノ趣意ニテ成ルベク之ヲ拒絕セラレタシ

合ニ領事職務ニ關スル原案第三條第四條第十五條第十六條削除ニ同意スルモ差支ナキコトト信ス第七條第四項(新第三項)ニ関シ曩ニ独逸國政府ガ前記ノ目的ヲ以テナル文句ニ与ヘタル解釈ハ日本國ニ在ル商人ニ外國ヨリ送ラルル見本品ニモ本項ヲ適用センメト欲シタルモノナル処是等見本品ニ對スル特典ハ日本新關稅法第七條第十三號B及第八條第六號ニ依リ保障セラレ居ルニ付独逸國政府ハ該文句ニ對スル日本國政府ノ解釈ニ同意シ修正案、第四項全部ヲ承諾スル旨ノ覺書ヲ提出シタリ關稅定率法第八條第六號ノ解釋ニ付テハ貴電第二九號ノ次第モ之レ有ルニ付之ニ對スル回答ヲ留保シ置キタリ何分ノ義御電訓ヲ請フ第七條及第七條aノ間ニ挿入セラルヘキ新條ハ日英條約第十三條其儘ヲ反訳シタル当方ノ主張ヲ先方ニテ承諾第八條前會議ニ於テ當方ヨリ提出シタル案(對案第一項ノ終リニ我修正案et autorises 以下ヲ追加シ(條機議第五號別紙第四號參照)第二項ヲ削除シ第三項末段ニ多少文字ノ修正ヲ加ヘタル外總テ對案ノ通り)ノ第一項 existence légale 次キニ et comme capables de contracter par leurs représentants legaux ヲ加ヘムコトヲ申出タリ之ハ承諾シ差支ナカルヘキモ本日發表セラレタル独瑞典條約第五條ハ全然我新案ト

同一ナルニ付或ハ之ヲ引援シ我新案ノ保存ヲ要求スヘキヤ

五月四日 後八、四〇 伯林發
五月五日 後二、二〇〇 本省着

第四二号 (続キ)

第十四條別電第四四号 (一)ノ如キ新案ヲ提出セリ本案第一項ハ多少我修正案ト異ルモ強テ不同意ヲ表セサルヘカヲサル程ノ不都合ナシト存セラル、ニ付第二項ノ削除ヲ條件トシテ第一項ニ同意ヲ与フル方本條解決ヲ容易ナラシムルニ便宜ナリト思考ス如何取計可然哉、尙先方ハ本案ニ附屬スル覚書 (一) 我修正案第十四條第二項ニ規定セル事項、(二) 日英條約第二十一條第三項ノ事項、(三) 錯誤、船舶破損、時不足其ノ他ノ理由ニ依リ目的港以外ニ陸揚セラレタル貨物ヲ目的港ニ送ル場合及一港ニ陸揚セラレタル貨物ヲ有権者ノ都合ニ依リ内地消費ニ供セラレサル以前ニ他港ニ送ル場合ハ沿岸貿易ニアラストノ解釈ヲ會議録中ニ掲ケンコトヲ要請セリ之ハ承諾シテ差支ナシト思考スルモ何分ノ訓令アリタン第十七條第二項当方ノ加ヘタル *Réchouage et du naufrage* ノ代リニ *de l'accident* ト修正シ来リ此ノ詞ハ意義汎キニ夫スル様存セラレニ付

Berlin, May 4 1911 8-40 p.m.
Recd, " 5 " 7 p.m.

Komura,

Tokio.

No. 43.

Le Gouvernement allemand, tout en prenant acte avec satisfaction de la déclaration du Gouvernement japonais d'après laquelle ce dernier ne persiste pas à s'opposer en principe au désir du Gouvernement allemand à propos de la conclusion de tarif conventionnel, il ne saurait toutefois donner suite la demande de présenter au Gouvernement japonais nouveau projet de tarif conventionnel restreignant les articles proposés dans son contre-projet au nombres deux ou trois. En dehors de la considération que, vu l'étendue des relations commerciales entre les deux pays, un arrangement tellement étroit ne mériterait guère le nom de tarif conventionnel, Le Gouvernement Impérial se permet d'expliquer ci-dessous les raisons de cette attitude. En premier lieu, la mode de procédure proposée par le Gouvernement japonais est tout à fait inusité dans le long cours des négociations allemands avec les autres puissances en vue de la conclusion de traités

du naufrage et des avaries ト為サンコトヲ提議スル方可然ト思考ス、第十八條 a 第二項削除ニ同意スルト同時ニ第一項ヲ締約国ノ一方カ萬國條約ヨリ退キタルトキハ兩國臣民ハ法律ノ要求スル形式及條件ニ遵ヒ発明商標意匠ノ保護ニ関シ國民ト同一ノ權利ヲ他方ノ國ニ於テ享有スヘシニ修正保存センコトヲ提議セリ是ハ錯誤ヲ避クル為ニ法律ノ上ニ他方ノ國ノナル文字ヲ加フルヲ條件トシテ (?) 承諾シテ差支ナシト思考ス、永代借地權ニ関シ我提案ノ終リニ協約ノ締結セラル、迄独逸國民ノ永代借地權ハ他國人ノト同一ニ尊重セラルヘシトノ文句ヲ附加センコトヲ申出タリ是モ承諾シ差支ナシト思考ス按スルニ當國ハ日米兩國間ニ本件ニ付交換サレタル文書ノ存在ヲ内知シ居ル由又日英兩國間ニモ亦何カ文書ノ交換アリテ其ノ結果独逸國民ガ差別的待遇ヲ受クルコトナキヤトノ不安心ヨリ斯ノ如キ文句ノ附加ヲ要求セルモノナルヘシ、議定書第二條 a 号第二項ヲ別電第四四号 (二)ノ如ク修正シ保存ヲ要求シ来リ此ノ規定ハ彼我正式領事ノ駐在ノ數ニ鑑ミ帝國ニ取り却テ利益ナル様存セラル如何取計可然哉

(別 電一)

独逸政府提出覚書通報ノ件

de commerce. On n'a jamais, ni d'une part ni de l'autre, élevé la prétention qu'un gouvernement réduisse de son propre gré la liste de ses demandes tarif aire, même dans le cas où les divergences d'opinions entre les demandes de l'une des Parties contractantes et les concessions que l'autre s'a cru en état de faire ont été très considérable. La mode de procédure invariablement suivi a été de se prononcer d'abord sur la liste de demandes respectifs après les avoir examinés. En second lieu, la liste de demandes tarif aire présentée par le département des Affaires Etrangères de l'Allemagne au Gouvernement japonais a été dressée après la délibération minutieux avec le Département de l'Intérieur, avec les délégués des Gouvernements représentés dans le Conseil Fédéral dans l'Empire allemand et avec le comité économique dont la fonction consiste à prendre part aux travaux préparatoires pour la conclusion de traités de commerce. Le Gouvernement allemand ne saurait substituer à cette liste une nouvelle liste qui en différerait considérablement, sans s'être préalablement assuré du consentement des autorités et organes susmentionnés et il est absolument impossible d'obtenir ce consentement à temps. Pour

mener à une fin satisfaisante les présent negotiations, le Gouvernement Impérial croit donc devoir réitérer sa proposition que le Gouvernement japonais se prononcera d'abord sur les demandes tarif aire proposées par lui et qu'il se décide en tout temps à lui faire connaître les siennes. Ce n'est qu'au cours de negotiations et après l'étude des objection du Gouvernement japonais concernant différentes positions de la matière commerciale allemande, ainsi que des contre-propositions japonaises, que le Gouvernement Impérial se voit en état tracer sur la question et à quelle degré une restriction du tarif conventionnel proposé par lui paraître discutabile.

Chinda.

(別電一)

独逸政府提出修正案

Berlin, May 4 1911 8-40 p.m.
Recd. " 5 " 11-52 a.m.

Komura,

Tokio.

No. 44.

1. Le cabotage est excepté des dispositions du pré-

sent traité et reste réservé au pavillon national. Il est toutefois entendu que sous ce rapport chacune des deux Parties peut réclamer pour ses navires les mêmes droits ou privilèges qui sont ou seront accordés par l'autre Partie aux navires de tout autre pays, en tant qu'elle accorde aux navires de l'autre Partie les mêmes droits ou privilèges. Néanmoins les navires de l'une des deux Parties contractantes entretenant un service régulier avec les ports de l'autre pourront transporter des passagers et des marchandises entre les ports deservis par eux.

2. Les certificats d'origine délivrés par les organes compétents de l'une des Parties contractantes et légalisés soit par les autorités douanières de cette Partie soit par les consuls de carrière de l'autre seront reconnus par les autorités douanières de cette dernière.

Chinda.

四九一 明治卅四年五月四日 珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛(電報)

独逸新提案ニ関スル意見具申ノ件

五月四日 後七、四八 伯林発
五月五日 前一一、〇八 本省着

第四五号

小村外務大臣

珍田全権大使

別電第四三号覚書ヲ提出スルニ当リ独国委員ハ右ハ關係各省及重ナル聯邦政府ノ意見ヲモ求メタル後起草シタルモノナレバ其ノ趣旨ヲ變更スルコト能ハザル旨ヲ縷述シ又前回會議ニ於ケル先方ノ所説ニヨルモ彼我談判ノ結果トシテ削減ヲ加ヘラレタル場合ハ兎モ角独国政府ハ自ラ削減ヲ加ヘ新案ヲ提出スルニ於テハ議會実業家杯ニ対シ非常ニ困難ナル位置ニ立ザルヲ得サルノ事情アルカ如シ從テ此ノ上我ニ於テ飽迄新案提出ヲ條件トスルモ独国政府ハ到底之ヲ断行スルコト能ハザルベシト案セラルルニ付寧ロ此際我ヨリ進ンデ我要求ヲ開示スルト同時ニ独案ニ削減ヲ加ヘ具体的提案ヲ為シ既ニ彼我間ニ決定セル義務対等利益交換主義ヲ楯トシ飽迄我提案ヲ固持スル方得策ナルベシト思考ス何分ノ義御電訓ヲ請フ

四九二 明治卅四年五月八日 小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛(電報)

第九回談判ノ報告ニ関シ回訓ノ件

五月八日午後五時廿分發
第三九号

在独 珍田大使

小村 大臣

貴電第四一号及第四二号ニ関シ

(一) 原案第一條第四号ハ新條約ニ於テ商事会社ノ訴訟当事者能力ヲ互認スルコトヲ明記シタル振合トノ権衡上ヨリ言フモ亦一般ノ例(一九〇六年独逸瑞典條約第三條末項モ此例ニ洩レズ)ニ照ラスモ之ヲ保存スルヲ適當ト認ム就テハ更ニ先方ノ再考ヲ求メラレ其ノ上談判ノ都合ニテ之ヲ削除スルコトニ致シタシ之ヲ削除スル場合ニテモ御来示ノ如キ宣言ヲ會議録中ニ記載スルニ及バズ
(二) 領事職務ニ関スル御来示ノ四個條削除シテ差支ナシ
(三) 第七條末項ニ対スル独逸ノ同意ハ我新関稅定率法ノ解釈方如何ヲ條件トシテ表明セラレタルモノニアラズ畢竟談判ノ成行上、自ラ其ノ主張ヲ撤回シタル理由ヲ説明シタル迄ニ過キズト認メラルルニ付其ノ儘之ヲ領セラレテ差支ナシト存ズ但シ閣下ニ於テ必要ト認メラルルニ於

テハ帝国政府ハ独逸政府ガ本條末項ニ同意スルニ至リタル動機ニ関シ何等義務ヲ負フモノニ非ザルコトヲ声明シテ談判録中ニ留メ置カレタシ尙關稅定率法第八條第六号本來ノ趣意ハ往電第二九号ノ通りナリト雖實際ニ於テハ稅關ニテ取扱上適用ヲ擴張シ旅商ガ本邦到着後更ニ外国ヨリ取寄スル見本品ニモ之ヲ及ボシ更ニ進ンデ本邦ニ在ル商人ニ外国ヨリ送ラルル注文取集用見本ニモ之ヲ及ボスコトト相成ベキニ付御含迄ニ申添ユ

(四) existance legale ノ次ニ挿入スヘキ文字ニハ同意シ難シ右ハ其ノ例ナキノミナラズ不必要ニシテ誤解ヲ生セシムルノ虞アルニ付之ヲ削除シ我新案通りヲ主張セラレタシ

(五) 貴電第四号沿岸貿易ニ關スル独逸新案ノ末項ハ外国ト本邦トヲ来往スル独逸貿易船ニ其ノ寄港スル本邦開港場間ノ沿岸貿易ヲ認許スルコトナルヲ以テ到底同意シ難シ第一項ハ最惠国待遇ノ許与ニ對シ相互ノ條件ヲ附セル処右ニ對シテハ強テ異存ナキニ付同意セラレテ可ナリ又第十四條我修正案第二項ニ規定セル事項ヲ會議録ニ移スコト及日英條約第二十一條第三項ノ事項ヲ會議録ニ記載スルコトハ異議ナシ但シ覺書第三ノ件ニ付テハ貨物ガ均シク尊重セラルヘントノ一句ナラバ之ヲ追加スルコトニ同意スベシ

(六) 原産地証明ニ關スル規定ハ往電三八号ノ理由モアルカ故ニ之カ削除ニ關スル当初ヨリノ我主張ヲ支持セラレタシ元來如何ナル証明書ヲ認ムルヤハ損益ノ問題ニ非ズンテ畢竟輸入地稅關ニ於テ産地証明書ヲ識別スル上ノ便利ヲ旨トスル次第ナリ我法令ハ領事官ノ証明ヲ第一ニ置クガ故先方ノ案ニテハ之ニ符合セズ從テ領事官アル地ニテハ其ノ發給又ハ査証シタルモノトシ領事官アラザル地ニ於テノミ輸出地稅關ノ發給又ハ査証シタルモノヲ認ムルコトトセバ實質上差支ナキカ如シト雖主義上特ニ條約ニ規定ヲ設クルヲ好マザルカ故成ルベクハ削除致シタシ關稅問題ニ付テハ追テ電訓スベシ

四九三 明治四年五月九日

在漢堡沼野總領事代理ヨリ
小村外務大臣宛(電報)

羽二重課稅ニ關スル件

五月九日 後一五、一八 漢堡發
五月十日 前一、三〇 本省着

小村外務大臣時代 対独交渉 四九三 四九四

目的港以外ニ陸揚セラレタルヤ否ヤハ「通シ船荷証券」ニ依リテ証明スルニ非ザレバ不明瞭ニシテ通シ船荷証券ヲ有スル貨物ニ關スル日英間ノ規定以上ニ更ニ沿岸貿易ノ解釈ニ關シ何等國際的義務ヲ負フコトハ甚ク好マシカラズ又前例モナキコトニシテ斯ル取極ヲ為ストキハ事實上東縛ヲ感ズルハ本邦ノミニシテ實際ノ取扱上ニ於テモ甚ク煩雜ナルカ故本件ハ仮令會議録ニ留ムルノミニテモ之ニ同意シ難シ本件ニ限ラズ總テ独逸トノ談判ノ結果ハ壞地利其ノ他ヘノ標準トナルベキニ付其ノ御含ニテ御交渉アリタシ

(六) 第十七條第二項中ノ文字ニ關シテハ御意見ノ通り

(七) 第十八條a第一項先方申出ノ案ハ形式上適當ト認メ難シ兩國ノ何レモ萬國同盟ヨリ脱退セムトスル意思ヲ懷抱シ居ルニ非ザルニ付條約ニハ何等ノ規定ヲ設ケズ會議録ニ於テ日英同様ノ聲明ヲ記載スルニ止ムル様御協議アリタシ

(八) 永代借地券ニ關シ會議録中ニ留ムベキ聲明ニ關シテハ日英間ノ聲明以上ニ何等追加ノ必要ナキ理ナリ然レドモ独逸臣民ノ有スル永代借地券ハ其ノ根本的處理ニ關スル協定ノ成立スル迄ハ別國人ノ有スル同様ノ永代借地券ト

第八号

小村外務大臣

沼野總領事代理

本年五月八日「ブレイメン」「ベツカー」商会ニテ同地ニ於ケル稅關ヨリ聞込タル所ニ依レハ今後ハ輸入羽二重三匁ト四分ノ三以下ノモノハ總テ百キログラムニ付千五百麻ヲ課シ四匁以上ノモノニハ現品検査ノ上ニテ適用スヘキ稅目ヲ決定スヘント云フ依之觀之「ブレイメン」稅關モ亦中央政府ノ命ニ依リ今後ハ羽二重ニ關シテ密織物ト然ラサルモノトノ區別ヲ厲行セントスルニ至リタルモノト察セラル課稅ノ实例聞込次第電報スヘシ

四九四 明治四年五月十日

小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛(電報)

關稅協定問題ノ件

五月十日前十一時四十分發

第四〇号

在独 珍田大使

小村 大臣

往電三九号ニ關シ

關稅問題ニ付テハ大体貴電第四五号御意見ノ通り取計フコ

トニ相成ルベキ処協定案ニ関シ取調ノ上政府ノ議ヲ定ムルノ必要上多少時日ヲ要スベキニ付右様御含置アリクシ

四九五 明治四十四年五月十一日 西久保福島県知事ヨリ
小村外務大臣宛

羽二重ニ対スル独逸関税率ニ関シ稟請ニ付進達ノ件

附屬書 福島県川俣絹織物同業組合長稟請

亥商収第一五六三号

五月拾貳日接受

管下伊達郡川俣町川俣絹織物同業組合長千葉栄三郎ヨリ別紙之通り輸出羽二重ニ関シ関税率変更方稟請候ニ付可然御詮議相成度別冊及進達候也

明治四十四年五月十一日

福島県知事 西久保弘道(印)

外務大臣侯爵 小村寿太郎殿

△(欄外註記)
「願出ノ目的ハ悪シキニ非ザルモ議論ノ根拠ニハ正鵠ヲ得サルモノ多シ」

(附屬書)

甲第五四号

ニ認メラル、処ニシテ寧ろ彼ノ國ノ輸入ハ其國ノ工業ニ利益スル処多ク消費國ト其趣ヲ異ニスルハ是亦明カニ認メラル、処ナリトス

然シテ加工工業ノ性質本然ノ結果トシテ羽二重ノ如キハ比較的低廉ナル或ル程度迄工程ト美觀トニ差支ナキ限り薄地輕目羽二重ヲ望ムハ当然ノ事實ニシテ日ニ月ニ川俣羽二重ノ需要ヲ増加スルヲ以テ見ルモ際カナル事實ナリトス如斯輸入國タル独逸絹工業者ニ利益ニシテ其ノ国産物ノ或ル意味ニ於ケル有望ナル原料品タルニモ拘ラズ今回税表適用ヲ變更シ曲解ヲ試ミ(曲解タル事實ハ我國政府ノ既ニ認メラル、処ニシテ其ノ理由ハ農商務省ニ於テ専門ニ調査研究セラレ既ニ明カナリ)單準ナル平織物ニ対シ從來ノ百キログラム三百マークヲ紗若クハ其ノ他ノ高貴ナル美術的薄物ト見做シ百キログラム卷千五百マークノ高率ヲ賦課セリ為ニ既ニ約定セル川俣羽二重ノ取引ハ悉ク破棄セラレ新規ニ商取引ヲ開クカ如キハ絶對ニ皆無ノ実況ニ陥レリ

是レ果シテ独逸國ハ川俣羽二重ノ輸入ヲ其ノ國家ニ不利益トシテ此ノ重税ヲ課セントスルモノナルカ吾人ハ總テノ事實ニ徴シテ其ノ然カラサルヲ信スルモノナリ(一)我國

小村外務大臣時代 対独交渉 四九五

輸出羽二重ニ関スル関税之儀ニ付稟請

福島県伊達郡川俣町

福島県宮城郡聯合絹織物同業會長

川俣絹織物同業組合組長

千葉栄三郎

要旨

第壹 我川俣羽二重ノ需要地タル独逸帝國ハ該羽二重ニ対シ從來ノ正解ヲ變更シテ其ノ三百マークヲ卷千五百マークニ増税シタリ之カ復旧ヲ望ム

第貳 現下ニ於ケル我國ト各通商條約國トノ條約改正ハ國定税率主義保護關稅主義收入關稅主義ヲ以テ進行セラレツ、アリ故ニ当然ノ結果トシテ我國ノ加工輸出品ハ是レカ報復的目的物トセラルヘク若クハセラル、ノ虞アルカ故ニ現ニ川俣羽二重ノ如キハ明ニ商取引ヲ圧迫セラレ未會有ノ不況ニ陥レルコト久シ之ニ対スル善良ナル保護方法ト善後策トヲ講セラレンコトヲ望ム

理由

第壹 独逸國ハ從來多ク我國ヨリ羽二重ヲ輸入セサリシモ最近染色術ノ進歩ト其ノ他加工術ノ改善トハ再輸出ヲ目的トシ我國羽二重ヲ輸入スルコト増々多キヲ致セルハ既

羽二重ノ世界ニ雄飛シテ各国工業ト競争シ優者ノ地位ニアルモノ種々ノ小ナル原因多々アリト雖モ其ノ最モ大ナル理由ハ生産費ノ低廉ナルニアリ故ニ此ノ理ト更ニ前述ノ理由トニ依リ其最モ低廉ナル最モ輕目ニシテ各国ニ於テ製織ニ最モ不利ナル然モ加工工業ニ最モ必要有利ニシテ斯業家ノ反对盛ナリト聞ク川俣羽二重ニノミ禁止のニ重税ヲ課シ何ノ効果カ之レアラン(一)仮リニ川俣羽二重(独逸最近ノ解釈ニ依レハ四匁以下ヲスカシ織トス)ハ之レヲ何等カノ理由ニ依リ輸入ヲ禁止シ得ルトスルモ四匁四分ノ卷以上ノ重目羽二重ノ輸入ヲ増スノミニシテ輸入禁止若クハ低減ノ目的ハ何等無意味ニ了ルノミナラス寧ろ加工業者ノ利益ト便益トヲ害スルニ止マランノミ(二)更ニ重目羽二重ヲモ禁止のニ重税ヲ課シ自國羽二重業若クハ間接ニ其ノ他ノ工業ヲ保護セント欲スルモノナルモ税率法ノ改正ニアラサルヲ以テ止ムナク極端ナル解釈ノ變更ヲ以テ極力其大部分ノ輸入ヲ禁止シ其自國産業保護ノ目的ヲ達セントスルモノトスルモ再輸出ヲ目的トシテ染色其ノ他ノ加工業者ノ發達セル独逸國ハ他國ニ於テ更ニ我國羽二重ニ重税ヲ課スルニアラサレハ何等豫期ノ目的ヲ達シ得ヘキモノニアラス故ナク自國ノ漸々ニ發達

セントスル如上ノ加工業ヲ圧迫スルニ止マルハ明ナル数理ナリトス

吾人ハ以上及其他ノ小問題ヲ研究シテ如何スルモ独逸國ハ其ノ国産業ノ保護ニ最モ熱心ナルヘキモノニシテ猶且ツ此ノ變則ヲ行フノ理ヲ發見スルニ若シムモノナラスンハアラス

然リ茲ニ我國関稅改正條約談判ノ進行カ彼ノエンジゴ藍ニ於ケル其ノ他ノ染料ニ於ケル若シクハ化学工業製品ニ對スル我國ノ課稅ヲ過重ナリトシ盛ニ反對スルノ事實ニ見ルモ要スルニ一種ノ報復的ニ且ツ他日稅率ノ改正時期ニ於ケル威嚇的ニ直チニ此ノ解釈ノ變更ヲ強弁シ得ル問題ヲ提テ関稅戰爭ノ実演ヲ示シタルモノニアラサルナキヤヲ思フスンハアラス

是レ吾人同業者ノ堪ヘ難キ苦痛ニシテ切ニ賢明ナル政府ノ適當ナル方法ヲ以テ對手國ヲシテ此ノ曲解ヲ復旧セシメラレンコトヲ希フ所以ナリトス

第貳 固定稅率法ヲ以テ自國産業ヲ保護シ同時ニ歳入ノ增加ヲ期スルハ多クノ列國カ共ニ採用セル方針ニシテ我國亦タ國權伸張ノ大目的ノ下ニ此方針ヲ樹立セラル吾人ノ敢テ云々スヘキ限リニアラスト雖トモ國家ノ産業ニ自ラ

必然ノ結果ニシテ我等輸出羽ニ重業者ニ於テハ前途殆ト痛心ニ堪ヘサル処トス更ニ加フルニ保護政策ノ結果ハ海外各國ノ製造業者ニ對シ一大打擊タルヲ以テ從テ各對手國亦タ自衛上我國輸出品ニ對シ當然重稅ヲ賦課シテ輸入ヲ減退セント期スルコト及ヒ報復的意義ニ於テ其ノ最モ對手國タル我國ニ痛苦多キ業務ニ向ツテ関稅戰爭ノ端ヲ開クコト自明ノ事理ニシテ生絲及絹織物業等ニ向テ之レカ開始ヲ見ル亦明カナル事ニ屬ス然レトモ生絲ハ真ノ原料ニシテ各需用國ハ之レカ需用ヲ減退セシメント欲スル限リ自國絹織物業ヲ斟酌シ且ツ再輸出工業國ニ於テハ此ノ産業ニ對スル方針ヲ攻究シテ強チニ極端ナル禁止的重稅ヲ課セントスルコト種々ノ困難利害ナキニアラス然レトモ最近十數年ニシテ非常ノ増加ヲ來シ見ルヘキ進歩ヲ為セル我國工業ノ唯一有望ナル絹織物ハ其ノ輸出額ノ多キカ為メ痛苦ヲ感スルノ点ニ於テ且ツ精製タルカ故ニ於テ更ニ川俣羽二重ノ如キ一層各國機業家ノ競争最モ困難ナル種類ノ輕目薄絹ニ於テ一層此ノ報復的関稅戰爭ノ目的物ニ適セルヲ思フ之レ独リ吾人ノ同業者ノミノ杞憂ニアラス世界ノ商人カ共ニ明カニ認ムル処ニシテ已ニ既ニ條約改正談判ノ進行ヲ見ルト共ニ直チニ商取引ニ

二種アリ一ハ内地需用品ノ製造販売ヲ目的トスルモノニシテ是レ輸入ヲ防クノ必要上或ル程度迄保護奨励セサルヘカラサルハ元ヨリ明カナル原理ナリト雖トモ從テ物価ノ騰貴ヲ來シ若クハ低下ヲ止メテ一般國民ヲ以テ生活費ヲ高上セシメ特種ノ工業者ヲ保護シ得ヘキモ多クノ需要者ヲシテ必需品ヲ高価ナラシムルノ害亦少ナシトセス幸ニ此ノ前途ノ顯象ニ對シ充分ノ調査ヲ遂ケ安全ナル程度ニ於テ完全ナル方法ヲ樹立セラルハヲ信賴シテ此ノ弊害ナキヲ確信スルヲ以テ敢テ吾人ハ之レニ對シ言ヲ容レントスルモノニアラス其ノ二ハ国外ニ輸出シテ對國家的經濟ノ市場ニ立ントスルモノ是レ文明國間ニ於テ一日モ忽諸ニ附スヘカラサルノ産業ニシテ是カ消長ハ直チニ國家ノ盛衰ヲ現出スルノ重要産業ナリトス而シテ各國今ヤ正ニ此ノ方面ニ向テ極力競争ヲ試ミ一勝一敗停止スル処ナク實ニ平和ノ戰爭ノ語ヲ以テ代表スルニ至レリ而シテ此ノ産業ノ競争特ニ我國ノ輸出産業ハ殊ニ製産費ノ低廉ヲ以テ立タサレハ種々ノ不利益多ク到底世界ノ市場ニ對等ノ販路ヲ維持シ得ヘクモアラス然ルニ前陳ノ結果ハ当然生活費ト消耗品トノ高騰ヲ來シ從テ製産費ノ増加ハ商品ノ價格ヲ騰貴セシメ販路ニ立チ競争ニ不利ヲ招クコト

悪影響ヲ及シ現実ニ独逸ノ如キハ前陳ノ如ク稅表解釈ノ曲解ヲ敢テシテ戰端ヲ示シ為メニ約定品ノ破約トナリ買入ノ停止トナリ生絲ノ高騰セルニ反シ羽二重ハ逆行シテ漸次下落ノ一方ニアルカ如キ明カニ堪ユヘカラサルノ現象ヲ呈セリ今ヤ原料ニ最モ低廉不極端ナル經濟的製造費ヲ加ヘテ以テ原価ノ百分ノ五ノ純損失ヲナスノ暴落ヲ來シ更ニ數ヶ月間此ノ悲境ニアリ豈ニ前途ヲ悲觀セサルヲ得ヘケンヤ是レ未タ我國改正関稅ノ効果ヲ出現セサル今日ニ於テ然リ更ニ製産費ハ増加ヲ來シ各國ハ競フテ我羽二重ニ向ツテ増稅ヲ試ミントスルノ日ニ至ツテハ到底經營シ得ヘキ見込絶無ニシテ本埠ノ如キ是レヲ主要物産トセル地方産業ハ殆ント絶滅ノ止ムナキヲ思ハスンハアラス是レ独リ地方産業ノ滅亡衰敗ニ歸スルノミナラス内地産業保護ノ結果輸出産業ノ減退ニシテ輸出入ヲ減退セシムルノミナラス國家産業奨励ノ本旨ニ反シ延テハ内地産業保護ノ目的ヲ無ニシ内地産業ノ供給過多需用減退ノ結果内地需用品ニ迄悪影響ヲ來スナキヲ保セス是レ吾人羽二重製織ヲ業トセル者到底黙止シ得ヘキコトニアラス敢テ情ヲ具シ是レニ對スル善後ノ策ヲ樹立セラレントコトヲ切望ニ不堪所以ナリトス

以上ハ吾人同業者ノ最モ憂慮致シ居候当面ノ緊切ナル問題ニシテ擬ニ委員ヲシテ各省当局諸官ニ面接シ披瀝セル概要ニ有之更ニ各専門ニ攻究シテ研究措カサル所ニ御座候ヘ共事苟モ国家ノ大方針ニ関シ吾人ノ如何共致シ難キ処切ニ閣下ノ明鑑ヲ仰キ此ノ窮境ニ沈淪セル輸出製造業者ニ対シ善後ノ処置ヲ立テラレシコトヲ重テ奉願候也

明治四拾四年四月廿三日

右

千葉 三 栄 郎 (印)

福島県伊達郡川俣町長 佐藤源吉 (印)

外務大臣子爵 小村寿太郎殿

四九六 明治四四年五月三日 珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛 (電報)

第十回改正談判ノ件

五月十三日 後 七、四六 伯林答
五月十四日 前十一、一五 本省着

第四七号

小村外務大臣

珍田全権大使

貴電第四〇号接受致シタルニ付税率ニ関スル御訓令ヲ待タ

商ニ從事シ目下談判進行中ニシテ條約ノ各條項ハ概ネ之ヲ議了シ只二、三ノ税定ニ関シ未ダ彼我意見ノ一致ヲ見ザルモノアルノミニ至レリ

然ルニ商議ノ最モ困難ナルハ関税問題ニシテ帝國政府ノ提案ニ於テハ本件ニ付兩國互ニ最惠国待遇ヲ交換スルコト、シ別ニ税率ノ協定ヲ行ハザルノ趣意ナリシガ独逸国政府ノ対案ハ我新関税率法税目四十三個ニ渉ル物品ニ付税率協定ヲ要求セリ然レドモ日独貿易ノ現状ニ顧ミルトキハ彼我相互ニ満足スベキ公平ナル協定ノ成立甚ダ困難ナルヲ以テ右独逸国政府ノ要求ニ対シ帝國政府ハ成ルベクハ其原案通り單純ナル最惠国待遇ノ交換ニ止メシコトヲ欲スルモノナルコトヲ指摘スルト同時ニ若シ独逸国政府ニ於テ税率協定ヲ切望シ之ガ商議ノ主義トシテ義務ノ対等ト利益ノ交換トヲ旨トスベキコトヲ明ニスルニ於テハ帝國政府ハ必ズシモ強テ協定ヲ拒絶セザルベシト雖独逸国政府ノ対案ニ示スガ如キ多數ノ物品ニ涉リテ協定ヲ行フコトニハ到底同意スルヲ得ズ協定上前陳ノ主義ニ基キ相互利益ノ権衡ヲ失ハザラ

ス五月十三日第十回會議ヲ開キ未定ノ諸條ヲ商議シタルガ纏マリタルハ第十七條第二項ニ du naufrage ou des avais フ挿入スルコトノミニテ他ハ先方ニテ總テ留保シタリ

四九七 明治四四年五月六日 閣議案

獨逸政府ト税率協定ニ関スル閣議案

附屬書 相互協定税率表

(花押) 新平

東助

太郎 小村

実 英太郎

五月十六日 閣議
同日 御裁決

本閣議案ハ四十四年五月十六日大臣携帶同日ノ閣議ニ提出

帝國政府ハ既定ノ方針ニ依リ昨年七月独逸国政府ニ対シ現行通商條約廢棄ノ通告ヲ發スルト同時ニ新條約締結談判ノ開始ヲ希望シ同年八月新條約案ヲ提出シタルニ十一月独逸国政府ヨリ対案ヲ提出セリ仍テ審査ノ上修正意見ヲ定メ之ヲ珍田大使ニ送附シタルニ彼我全権委員ハ本年三月以來会

ントスルニハ勢ヒ大ニ独逸国政府ニ於テ其要求品數ヲ減少セザルベカラズト論ジタルニ独逸国政府ハ遂ニ義務ノ対等ト利益ノ交換トヲ基礎トスルノ主義ニ同意スル旨声明セリト雖其既ニ一旦提出シタル要求品數ヲ自ら進ンテ減少スルコト甚ダ困難ナル事情アルヲ述ベ帝國政府ヨリ本件ニ関スル対案ノ開示アラシコトヲ切望セリ

如上ノ次第ニテ此際談判ノ進捗ヲ図ルニハ関税ニ付帝國政府ヨリ具体的対案ヲ提出スルノ要アルニ因リ外務、大蔵及農商務三省委員ヲシテ独逸要求ノ協定案ヲ斟酌シ我対案ヲ調成セシメタルニ別紙ノ通り報告ニ及ビタリ右ハ独逸ノ希望ニ顧ミ協定品數ヲ成ルベク多カラシメタルモノニシテ「ホップ」以下十五税目ニ付我新税率ノ輕減又ハ据置ヲ承諾スル代リニ羽二重以下十三品ニ対シ独逸現行税率ノ輕減又ハ据置ヲ要求セントスルノ案ナリ就テハ該案ヲ大体ノ標準トシ独逸国政府ト談判ヲ行フコトニ致度此段閣議ヲ請

(附屬書)

独逸ニ対シ関税協定ヲ許スヘキ物品

税 品 名	改正税率	独逸ヨリ提 案セル税率	協定スヘキ 税 率	本邦統計表ニ依ル 独逸ヨリノ輸入額	本邦輸入 総額ニ対 スル割合
122 ホ ッ プ	無 税	据 置	承 諾	明治四十一年 四年平均円 123,214	93 %
157 サ リ チ ー ル 酸	11.60	7.00	改正率ノ三分 一減但シ巴ムラ 得サル場合ニハ 独逸案ノ通承諾	115,666	97
◎158 石 炭 酸	6.00	4.00 改正率ノ三分 ノ一減ニ当ル	承 諾	138,403	64
◎162 タ ソ ニ ソ 酸	20.70	14.20 改正率ノ三分 ノ二減ニ当ル	承 諾	10,311	90
174 硝 酸 加 里 (硝石)	2.35	0.49	改正率ノ三分 ノ一減	25,982	80
◎187 次 硝 酸 蒼 鉛	81.10	20.60	改正率ノ三分 ノ一減但シ巴ムラ 得サル場合ニハ 独逸案ノ通承諾	58,795	39
209 塩 酸 キ ー ネ 及 硫 酸 キ ー ネ	135.00	60.00	改正率ノ三分 ノ一減但シ巴ムラ 得サル場合ニハ 独逸案ノ通承諾	29,106	81
◎237 人 造 藍	40.00	22.00 議會提出政府 原案	改正率ノ据置	4,813,610	100
243	7.00	4.60 議會提出政府 原案	改正率ノ据置但 シ巴ムラ得サル ハ其ノ五分ノ一 減即チ5.60或ハ 更ニ進シテ独逸 案通リ承諾スル モ論テ不可ニシ 尤モ收入ニ影響 スル故巴ムラ得 サル場合ト雖成 ルヘラ可トス	2,380,637	85

備考 本品ノ改正税率ハ特ニ衆議院ノ修正ニ依リ成リタルモノニシテ寔ニ天然藍ニ関スル英國ノ要求ヲ拒絕
セシ行懸リニ顧ミ何等輕減ヲ承諾セサルヲ穩當ト認ム尤モ独逸政府ハ本品ノ協定ニハ重キヲ置クベシ
ト察セラルヘラ以テ巴ムラ得サル場合ニハ改正率ノ据置ヲ許スベシ

備考 本品ノ税率ハ藍トノ權衡上議會ノ修正ニ係ルモノナルモノ巴ムラ得サル場合ニハ彼我ノ妥協ヲ計ル為本
品ニ対スル輕減ヲ承諾スルコト必要ナルヘシ

283

毛 織 糸

一 染ヌサルモノ又ハ擦染セサルモノ

丙 其ノ他

丙ノ一 梳毛ノモノ

イ

ヌートル式番手三十二番ヲ超ユサルモノ

ロ 其ノ他

13,20

8,80

改正率ノ据置

437,940

72

11,65

13,20

1,807,907

72

改正率ノ約四分ノ一減即チ従価七分五厘強

備考 本品中(イ)即チ太絲ニ屬スルモノハ内国生産ノ見込充分ナルヲ以テ輕減拒絶ヲ可トシ(ロ)ハ未ク内国生産ニ困難ナルヲ以テ我毛織物業ノ利益ノ為幾分ノ輕減ヲ許スモ差支ナシ

◎446 錫

三 箱

22.50

19.60

承 諾

39,757

68

467 皿

二 板 鉛

甲

ニツタルヲ鍍シタルモノ

4.80

3.82

4.00 改正率ノ六分ノ一減

23,139

77

丙 其ノ他

ロ 其ノ他

2.95

{板 0.40
鍍板 0.83}

2.20 改正率ノ四分ノ一減

209,273

70

577

瓦斯機關、石油機關及熱氣機關

備考 内国生産ノ關係少キカ故「甲」ハ現在非協定品ナルモ「丙」ノ(ロ)ト共ニ多少ノ輕減ヲ為シテ可ナリ

五 其ノ他(二千五百超エタルモノ)

5.00

五千キロワットヲ超エサルモノ	4.60	5.00	
五萬キロワットヲ超エサルモノ	4.20	4.50	85,580
十萬キロワットヲ超エサルモノ	3.80	4.00	
其ノ他	3.40	3.50	

備考 現在非協定品ナルモノ本品改正税率ノ未定ヲ更ニ適當ノ度合ニ細分スルハ望ム所好マシキ事ナルカ故本件協定ヲ可トス

580

原動力機ト結合シタル発電機

三 瓦斯機關石油機關又ハ熱氣機關ト結合シタルモノ

巴 其ノ他(五千
キログラムモ
超ノ)

一萬キログラム
超エ五萬
キログラムノ
超エサルモ
5.50

承 諾

—

—

5.80
十萬キログラム
超エサル
ムモノ
5.00
其ノ他
4.50

4.90

—

—

備考 同上

◎603 印刷機械

二其ノ他

5.90

1.90

4.40

59,215

44

改正率ノ四分ノ
一減但シ三分ノ
一減即チ3.90迄
減スルモ不可ナ
シ

備考 精巧ナル印刷機械ハ近キ将来ニ於テ本邦ニ於テ製造ノ見込ナキカ故ニ本邦印刷業ノ利益ノ為多少ノ輕
減ヲ為スモ可ナリ

計 十五品目

10,358,535

註 ◎六品目を除イテ五月十九日珍田大使へ電報セラレタリ (電四三号)

独逸ニ對シ關稅協定ヲ要求スヘキ物品

品名	現行税率	協定スベキ税率	独逸統計ニ依ル本邦ヨリノ輸入額	独逸輸入總額ニ對シタル割合	本邦統計ニ依ル独逸ヘノ輸出額
----	------	---------	-----------------	---------------	----------------

羽 二 重	百基ニ付 麻克	百基ニ付麻克	明治四十一年年平均円	%	明治四十一年年平均円
備考	羽二重ハ從來密絹織物トシテ三百麻克ヲ課セラレシガ近來輕目羽二重ヲ透シ織物トシテ取扱ヒ千五百麻克ヲ課スルニ至リタルカ故ニ之ヲ從來ノ輕率ニ引下ケシメ總テ三百麻克ニ協定スルヲ可トス	300	1,976,160	—	1,502,188

羽 二 重 手巾	450乃至1,575	450	115,500	—	170,328
備考	普通品目ニ加入シタル密絹織物トシテ取扱ヒ四百五十適川セラルハカ如キモノ織物ナラサルモノニシテ縁縫等アルモノハ透シ織ニ定率千五百麻克ニ五分ヲ附加ス		(推定輸入額)		

備考 手巾ニ對シテハ其ノ密織ナルト否ト、刺繡ナルト否ト、レースナルト否ト、伏縫又ハ縫目ナルト否トニ依リ各種ノ稅アリ

漆 器	協定 30	協定 20又ハ30	75,800	—	121,139
備考	精巧木製品ニ對スル稅率ヲ適用ス				

木 蠟	粗ナルモノ	固定 10	5	187,680	91	179,050
備考			固定率ノ半減			

粗ニ非サルモノ 15 国定 10
 分率ノ一減

◎竹 製 品
 粗 ナル モ ノ 協定 3 2 1,500
 分率ノ一減
 精 ナル モ ノ 国定共 24 16 46,250
 協定 分率ノ一減

備考 本品ニ対スル独逸輸入税率ハ種々アリテ粗ナル竹幹ノ如キハ無税ナルモ精巧粧飾ヲ施シタル竹製品ハ百二十麻克ヲ課ス茲ニハ本邦ヨリノ輸入ノ大部分ヲ占ムル竹製籠ノ現ニ負担スル税率ヲ掲ケタリ

花 蕙
 粗 ナル モ ノ 国定 3 2 7,440
 分率ノ一減
 精 ナル モ ノ 国定 24 12 26,440
 分率ノ半減

貝 製 鈕 釦 協定 150 100 72,000 11 219,297
 分率ノ一減

備考 本邦統計ニテ貝製鈕釦ト掲上セルモノノ中独逸統計ニテハ「真珠貝単ニ切りタルモノ」トシテ取扱フモノアリガ如ク右ニ対シ59,250円ヲ掲上セリ

藥 天 国定 10 無 税 123,840 1 120,123
 ◎薄荷油及薄荷腦 国定 30 15 446,400 1 101,517
 分率ノ半減

備考 独逸統計ニヨル本邦ヨリノ輸入額中ニハ樟腦油ヲ包含ス

經 木 苡 田
 染メサルモノ及染 協定 1 無 税 362,880 35 213,321
 シタルモノ
 備考 本品ニ対スル独逸現行税率ハ低ト雖本邦重要輸出品ナルヲ以テ之ヲ無税ト為シ得ハ一層利アラム

◎屏 風
 絹製ノモノ(刺繡 協定 1,200 400
 ノ有無ヲ別タス) 分率ノ三減
 綿製ノモノ(絹絲 協定 300 60
 ヲ以テ刺繡シタル ト否トヲ別タス)

備考 独逸ニテハ本邦屏風ニ対シ之ヲ刺繡製品トシテ取扱ヒ其ノ税率高キニ過ク尙独逸統計ニ依ル輸入額ハ他ノ布帛製品ト合算セルヲ以テ不明ナリ

◎魚 油 国定 3 無 税 667,680 20 1,031,030
 備考 対独重要輸出品ナルヲ以テ半減協定ヲ可トス

麦 稈 真 田
 漂白セサルモノ又 国定共 無 税 829,440 35 872,134
 ハ染メサルモノノ 協定 6 無 税
 漂白シタルモノ又 協定 6 無 税

麥稈其ノ他類似ノ材料ヲ以テ製シタル繻物全部ニ対シ

備考 現今本邦製糖其田ノ大部分ハ漂白セルモノトシテ無税待遇ヲ受ケ居ルモ糖製前漂白シタル本邦品ヲ非漂白品トシテ取扱フヤ否ヤニ付テハ既ニ独逸ニ於テ議論ヲ惹起セシコトアルニ鑑ミ漂白シ又ハ染メタルモノモ均シク無税ニ協定シ置クハ萬全ノ策ナリ

計 十三品目

4,979,010

4,643,928

(備考)

密織ト否トトハ問ハス羽二重ノ税率ヲ凡テ毎百基三百陸克ト為スノ案ニ付テ成立セルトキハ一平方メートルノ重十三又ハ十四グラムヲ超エタルモノヲ毎百基三百陸克、十三又ハ十四グラム以下ノモノヲ毎百基千五百陸克迄ノ範圍内ニテ協定スルコトヲ可トス。

註 ◎印四品目ヲ除イテ五月十九日珍田大使へ電報カレタリ (電四三号)

四九八 明治四十四年五月九日 小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛 (電報)

関税問題回訓ノ件

- 別 電一 税率協定ニツイテ説明電訓
- 二 相互税率協定品目通報

五月十九日後三時五五分發 第四十一号

在独 珍田大使

小村 大臣

関税問題ニ付テハ先方ノ事情ヲ酌量シ御意見ノ通り我方ヨリ具体的対案ヲ提出スルコトニ決シタルニ就テハ別電第四二号ノ趣旨ヲ先方ニ述ベラレ別電第四三号ノ協定対案ヲ提出セラレタシ

閣下ノ御含迄ニ申添度ハ協定ヲ許スベキ物品ハ (一)現在協定品ニ属スルコト (二)四十一年四十二年兩年ノ我統計ニ依リ独逸ヨリノ輸入額ガ同一品ノ総輸入額七割以上ヲ占ムルコトノ二箇ノ條件ヲ標準トシ独逸提案中ヨリ撰択シタルモノナリ尤モ人造藍ニ関シテハ独逸ノ要求ハ関稅定率法制定ノ際議會ニ提出セシ政府案ノ率ト同一ナリト雖新稅率ハ貴衆兩院協議會ノ結果成立シタル特別ノ關係アルガ故本品ニ関シテハ之ヲ協定ノ目的ト為スヲ得ス然ルニ人造藍ヲ除キテ前記ノ標準ニテ物品ヲ撰択スルトキハ最モ重ナル輸入品ハ「アリザリン」其ノ他ノ染料ナルガ若シ之ヲモ人造藍同様ノ理由ニテ削除スルニ於テハ協定ノ範圍ニ入ルヘキ實

易額余リニ僅少トナルベク而シテアリザリン染料等ハ素ト種々ノ色素ヲ含ミ単ニ藍ノミノ關係ヲ以テ論ズベキニ非ザルガ故新稅率據置ノ協定ナラバ差支ナント認メ之ヲ協定品中ニ加ヘ又瓦斯機關類及原動力機ニ結合シタル發電機ノ如キ何レモ現在協定品ニ非ザルモ税率ヲ細分スルニ止マル限

シト雖成ルベク右ノ程度ニテ取纏メタキニ付其御含ヲ以テ精々御尽力相成リタシ

(別 電一)

税率協定ニツイテ説明

明治四十四年五月十九日後二時〇分發

第四二号

在独 珍田大使

小村 大臣

五百二十一萬円ニ達セシメタリ右稅目以外ノ独逸ノ要求ハ凡テ前記二條件ノ内何レカ其ノ一ヲ充タサザルモノナレバ我對案ニ於テハ之ヲ削除セリ尤モ鉄線ハ右二條件ヲ充タスモ他ノ同種品ノ税率トノ權衡上及ヒ内國産保護ノ必要上之ガ輕減ヲ承諾スルヲ得ズシテ削除セリ又先方ノ要求セル註書ハ概ネ同意シ難ク偶々異存ナキモノアルトモ條約ニテ之ヲ定ムルハ不便多キヲ以テ凡テ拒絕スルコトトセリ右ニ對シ我方ト要求品ハ四十年及四十一年平均独逸統計表ニ依レバ輸入額三百八十萬円ニシテ凡テ我特産品ヲ撰ビ協定ノ影響ヲ努メテ少カラシムルニ注意セリ尤モ貝製鈕釦ノ如キ或ハ我特産品トイヒ難シト雖彼我利益ノ權衡上之ガ挿入ハ已ムヲ得ザル所ニシテ尙右ニテモ平均ヲ得サル所ハ先方ノ税率輕減ヲ大ナラシメ以テ相償ハシメタキ趣旨ナリ尙今回ノ我對案ニ掲ゲタル以上ニ多少讓歩ノ余地猶存スベ

日独貿易關係ノ實際ニ鑑ミルトキハ独逸國政府ノ彙ニ列挙シタルガ如キ多数ノ物品ニ涉リテ協定ヲ行フコトハ帝國政府ノ到底不可能ト為ス所ナルヲ以テ独逸國政府ガ協定ヲ希望シテ之ガ締結上義務ノ對等ト利益ノ交換トヲ主義トスルコトニ異議ナキ旨既ニ声明シタル以上ハ帝國政府ハ独逸國政府ガ彙ニ提出シタル物品ノ數ヲ自ラ大ニ削減シ以テ帝國政府對案ノ作成ニ便ナラシムコトヲ希望スト雖右ノ如ク自ラ削減ヲ行フコトハ独逸國政府ニ於テ頗ル不便トスルノ事情ニ付同政府ノ説明ヲ諒トシ其ノ希望ニ応ジ且成ルベク談判ノ進捗ヲ図ラムガ為メ帝國政府ニ於テ独逸國ニ對シ協定ヲ行ヒ得ヘキ品目及税率ヲ定メ而シテ之ニ對シ帝國政府ヨリ本邦輸出品中協定ヲ要求スヘキ品名及税率ヲ定メ對案ヲ調製セリ

帝國政府ハ素ト協定品數ノ極メテ少數ナラムコトヲ欲セリト雖獨逸國政府ノ希望ニ顧ミ努メテ妥協ヲ図ラムガ為メ其ノ品數モ亦成ルベク之ヲ増加シテ我税目九箇ニ涉ラシメ從テ我要求品數ヲモ之ニ基キテ定メタリ帝國政府ハ獨逸國政府ガ帝國政府ノ妥協的精神ヲ諒トシ均シク同一ノ精神ヲ以テ之ヲ考量セラレムコトヲ希望ス

(別 電二)

相互協定品目通報

明治四四年五月十九日後三時五十三分發
第四三三號

在独 珍田大使

小村 大臣

(本文省略、前掲五月十六日閣議案参照)

四九九 明治四四年五月二十日

珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛 (電報)

相互協定税率ヨリ生スヘキ利益ノ比較計數

電報方依頼ノ件

五月二十一日 後二、一五 伯林發
五月二十二日 前四、四〇 本省着

ニ関スル分不明ナレバ之ヲ除キテ十一萬四千円 (114,000) 本邦ノ減損ハ八萬三千円 (83,000) ノ計算ナリ但シ我要求税率ヲ凡テ獨逸ノ國定税率ト比較シ其現存ノ協定税率ヲ全然眼中ニ置カズシテ計算スルトキハ獨逸ノ關稅減收ハ約十六萬円ナリ而シテ本邦品ノ益スル關稅差額ハ此場合ニハ六萬四千五百円 (64,900) ニシテ前ノ方ノ計算ニ依レバ五萬七千五百円 (57,500) ナリ獨逸品ノ益スル關稅差額ハ約六萬円トス
又獨逸カ日英新協定ノ為ニ益スル關稅差額ハ八萬六千三百円 (86,300) ニテ本邦ガ現ニ最惠國待遇ヲ享クル結果獨逸ニテ益スル關稅差額ハ一萬二千五百円 (12,500) 過ギズ
關稅收入ノ点ヨリイヘバ以上ノ通ナルガ相互利益ノ交換ハ協定ニ因リテ安固ヲ保持セラル、役我貿易額大小ノ比較ヲ最モ主ナル点トスベキモノト認メラル、ニ付左様御含置アリタン

第四九號

小村外務大臣

珍田全權大使

貴電第四十一號中彼我協定品ノ貿易額ノ差異ヲ拳ケラレタルモ協定税率ノ適用ヨリ生スヘキ利益ノ比較計數ナシ右ハ我提案ガ利益交換ノ主義ニ基キタル事實ヲ證スル為有用ト認ムルモ当方ニ於テハ之ヲ算出スベキ材料ナキヲ以テ折返シ御回示アリタン
二十二日午後閣議ノ答ナリ

五〇〇 明治四四年五月二十日

小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛 (電報)

前件回答ノ件

五月廿二日午後五時廿五分發
第四五號

在独 珍田大使

小村 大臣

貴電第四九號ニ関シ

我協定案ニ依リ他國ノ均霑ヲ加算スルトキハ(我要求品ニ付テイヘバ木蠟、鈕釦及真田ノ三品ニハ他國ノ均霑アルベシ) 獨逸ノ失フベキ關稅收入ハ晒シ又ハ染メタル麦稈真田

五〇一 明治四四年五月二十日
珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛

第十一回改正談判ノ件

五月廿二日 前一一、五 伯林發
五月廿三日 後二、五五 本省着
第五〇號

小村外務大臣

珍田全權大使

五月二十二日第十一回會議ヲ開キ關稅ニ関スル我提案ヲ為シ之ニ必要ノ説明ヲ加ヘタルニ先方ハ篤ト考量スヘク多分土曜日以前ニハ回答ノ運ニ至リ難カラント答ヘタルニ付會議トノ關係ヲ聞キタルニ其ノ成否ハ確言スルコトヲ得サルモ必要ノ場合ニハ政府ハ日本國ト條約締結(不明)ノ事前承諾ヲ要求スルノ心組ナル旨答へ第一條原案第四號ニ関シ先方ハ獨逸典間ニハ本件ニ付千九百四年海牙條約、千九百十年獨逸典追加宣言ニテ一部ヲ規定シ居ルニ付他ノ部分ヲ通商條約中ニ掲ケタルモノニシテ日本國政府ハ本年二月十三日附公文ヲ以テ在日本獨逸大使ニ特別條約締結談判ヲ新通商條約締結後ニ開始センコトヲ承諾シタルニ付本号削除ヲ請求スル旨ノ覺書ヲ提出シタリ獨逸國外務省取調局ニ於テハ特別條約留保ニ頗ル重ヲ措キ本号挿入ハ右條約ノ運命ヲ危クスルカ如キ虞ヲ抱キ居ル様存セラル、ニ付早晚

右條約ヲ締結スル御主義ナルニ於テハ本号削除ニ同意スルモ差支ナシト思考ス、第八條ニ関シ先方ハ行為能力ニ関スル規定挿入ノ件ハ千九百七年二月十一日獨蘭條約ノ規定ニ則リタルモノニシテ獨瑞典條約ハ有効期限ハ単ニ六年ニ過キサレハ談判進捗ヲ図ル為旧條約ノ規定ヲ出来得ル限り其ノ儘襲踏シタレトモ日本ノハ十二年ニ亘ルニ付新例ニ遵ヒタキ旨覺書ヲ提出シタリ往電第四一號ノ如キ文字ノ追加ナレハ之カ挿入ニ同意スルモ誤解發生ノ虞萬々ナカルヘキ様思考セラル、モ如何可致哉、第十八條aヲ削除シ日英條約會議録ト同様ノ宣言ヲ會議録ニ記入ノ先方ニテ同意、永代借地權ニ関シ先方ハ別電第五一號ノ如キ提案ヲ為シタルニ付其ノ末尾ニ *de la même espece* ヲ加フルニ於テハ同意スルヲ得ヘシト答ヘタルニ先方ニ其ノ回答ヲ留保シタリ

五〇二 明治三十四年五月二十三日

珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛 (電報)

永代借地權ニ関スル獨国提案通報ノ件

Berlin, May 23 1911 12-3 p.m.
Reed, „ 24 „ 1.15 a.m.

リモ更ニ新ナル獨葡通商條約ニハ之ヲ存セズ且今回成立ノ獨瑞條約ニモ無ク(第二十三條ニ依レバ十個年存続スルコトアルベキヲ豫見セリ)殊ニ我方ニ於テ之ガ挿入ニ対スル差支ノ有無ニ付同法其他内国官庁ノ意見ヲ確メントスルニハ少カラザル時日ヲ要シ此際実行シ難キ所ナレバ以上ノ理由ニテ第二項ノ削除ヲ堅ク主張セラレ一般ノ例殊ニ日本ト英、米、西、瑞各国トノ新條約モ右様ノ規定ナキ故我案ノ通りニ同意スル様先方ニ御請求アリタシ

貴電第四一號御來示ノ文字ニ付テモ亦右ト同一ノ理由ニテ之ヲ拒絕スルコトニ致シタシ

(三) 永代借地權ニ関シテハ御意見ノ通ニテ異存ナシ尤モ第八回會議ノ折御提出ノ声明案中 *des baux à perpétuité* ノ次ニ *dans les anciens quartiers étrangers au Japon* ノ文字ヲ追加スルコトニ致シタシ

(四) 往電第三九號日英新條約第二十一條第三項ノ事項ヲ會議録ニ記載スル場合ニハ港ノ文字ハ外国通商ノ為開カレタル港ノ意味ナルコトヲ日英會議録同様日独會議録ニモ声明スルコトニ致サレタシ

(五) 對案第六條(a)ニハ國家独占業ノ目的物タリ又ハ目的物タルヘキ物品ニ関スル事項ヲ該條ノ例外トシテ明記セザ

Komura,

Tokio.

No. 51.

Il est entendu que jusqu'à la conclusion d'un tel arrangement, en tout ce qui concerne les baux à perpétuité, il ne sera pas discriminé contre les ressortissants allemands vis-à-vis les ressortissants d'un autre état quelconque qui se trouvent en possession des baux à perpétuité.

Chinda.

五〇三 明治三十四年五月二十四日

小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛 (電報)

永代借地權ニ関スル獨国提案其他ニ対シ
回訓ノ件

五月廿四日後五時十八分發
第四六号

在独 珍田大使

小村 大臣

貴電第五〇号及五一号ニ関シ

(一) 第一條原案第四号削除ニ同意ス

(二) 對案第八條二項行為能力ニ関スル規定ハ獨蘭條約ヨ

ル処右ハ我修正意見書中ニ記載ノ通り必ズシモ之ヲ明記スルノ要ナク既ニ例外第四号中ニ包含セラル、モノト認ムト雖現ニ別ニ第五号トシテ独占業ニ関スル例外ヲ明記セル條約ニアルカ故將來萬一誤解ヲ避クル為メ會議録ニ於テ適當ノ声明ヲ交換シ置クコトニ御取計アリタシ

五〇四 明治三十四年五月二十五日

内田駐米大使ヨリ
小村外務大臣宛 (電報)

永代借地權ニ関スル日米往復文書ノ交附ニ
関スル件

五月二十五日 前五、一〇 華盛敦發
本省着
第一五四号

小村外務大臣

内田全權大使

米國駐劄獨国大使ヨリ請求アリタル趣ヲ以テ永代借地權ニ関スル日米往復文書ヲ同大使ニ交附スルモ差支ナキヤ昨二十三日國務省ヨリ問合アリタルニ付該文書ハ出来得ル限り長ク内密ニ附スヘキ最初ノ申合ニ從テ処分アリタキ旨答ヘ置ケリ御含迄

五〇五 明治四十四年五月三十一日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛 (電報)

條約改正ニ関スル独逸政府及議會ノ態度

通報ノ件

五月廿五日 前一二、二五 伯林發
後 五、三五 本省着

第五二号

小村外務大臣

珍田全權大使

独逸国政府ハ五月二十四日日本国ト通商條約並領事職務條約、犯罪人引渡條約及民事上ノ權利保護ニ関スル條約ヲ成立シタル場合ニハ独逸国政府ハ豫メ之ヲ実施スルヲ得ヘク該條約ハ次期ノ議會ニ提出シ若來年三月三十一日迄ニ議會ノ協賛ヲ得ルコト能ハサルトキハ遅クトモ同年十二月三十一日ヲ以テ其ノ効力ヲ消滅セシムヘントノ趣旨ノ法案ヲ議會ニ提出シ第一號会ニ於テ種々ノ反對アリタルモ結局委員附記トナレリ右法案ハ第十一回會議ノ際独逸国委員ノ為シタル内話トハ大ニ逕庭アレトモ議會ヨリ是レ以上ノ承諾ヲ求ムルコトハ独逸国政府ノ不可能トスル所ナルヘク又右法案力通過スルヤ否ヤノ見込モ未タ立チ難ク当局者ノ内話ニ依レバ右通過シタル場合ニハ如何ナル形式ニ依リ帝國政府ノ承諾ヲ求ムルヤハ未定ナルモ批准書交換ハ之ヲ行フヘ

シ若シ右ノ時期ニ孰レヨリモ廢棄通告ヲ發セザリシトキハ新條約實施ノ日ヨリ十二個年間効力ヲ有シ其満期一年前ニ廢棄通告ヲ發セザリシトキハ之ガ通告アリシヨリ猶一年間存続ストイフガ如キ相互的ノ規定ヲ設クルコト、セバ差支ナカルヘシト認ム就テハ此際我ヨリ進ンデ何等申込ミ置クノ必要ナカルベシ

五〇七 明治四十四年五月三十一日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛

独逸国政府ニ於テ日独條約成立ノ場合ニ之ヲ實施スルノ法案ヲ豫メ議會ニ提出ノ件

條第一号

明治四十四年五月二十七日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨己(印)

外務大臣侯爵 小村寿太郎殿

独逸政府カ五月二十四日日本トノ通商條約並ニ領事職務條約犯罪人引渡條約及民事上ノ權利保護ニ関スル條約成立シタル場合ニハ豫メ之ヲ實施シ該諸條約ヲ今後開會ノ議會ニ提出シ若シ本年三月三十一日迄ニ議會ノ協賛ヲ得ルコト能

小村外務大臣時代 対独交渉 五〇七

ク又右法案否決セラレタル場合ニハ新條約ノ為ニ臨時議會ヲ召集スル外ナカルヘシトノコトナリ該法案ニ関シテハ豫メ何等ノ交換ヲモ受ケサリシニ付帝國政府ハ之ニ関シ毫モ拘束セラレサルモ帝國政府ニ於テ右様ノ條件ヲ承諾スルコト能ハサル場合ニハ独逸国政府ノ立場ヲ容易ナラシムル為一刻モ速ニ其ノ旨ヲ表示スルコト穩当ナルヘシ右至急何分ノ御電訓アリタシ

五〇六 明治四十四年五月三十一日 小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛 (電報)

独逸政府ノ法案ニ関シ内訓ノ件

五月廿六日後四時五十五分發

第四八号

在独 珍田大使

小村 大臣

貴電第五二号ニ関シ

独逸政府ノ提出シタル法案ニ記載セルカ如キ條件ヲ其儘條約中ニ記載スルコトハ同意シ難シト雖必要ノ場合ニハ新條約ノ存続期間ニ関スル規定ニ於テ新條約ハ昨年六月締約國ノ孰レノ一方ニテモ六個月ノ豫告ヲ以テ廢棄シ得ルコト、

ハサルトキハ遅クモ同年十二月三十一日ヲ以テ其効力ヲ消滅セシムルコトニ関スル法案ヲ議會ニ提出シタル趣ハ往電第五二号中申進置候処該法案ニ添附スル理由書ノ要旨ハ目下日本トノ改約談判ノ模様ニテハ日独新條約ハ到底現ニ開會中ノ議會ノ協賛ヲ求ムル運ヒニ至ラサルヘク而シテ從來日本政府ノ言明ニ徴スレハ現行條約ヲ延期スルコトモ亦不可能ナルヲ以テ此際若シ臨機ノ措置ヲ為ササレハ來ル七月十六日限ニテ兩國間ハ無條約ニ陥ル可ク之レヲ避ケントセハ政府ハ此法律ニ拠リ豫メ條約ヲ實施スルノ權能ヲ有セサル可カラスト云フニアリ委細ハ別紙ニ就キ御了承相成度候

同日右法案ノ議題ニ上ルヤ帝國内務大臣「デルブリュツク」氏ハ政府カ右法案提出ノ理由ハ添附ノ理由書ニ就キ承知セラレ度ク本件ニ関シテハ事ノ性質上本会ニ於テハ右理由書以上ノ説明ヲ為シ難シト云ヒ独逸保守党ノ「ロジケ」氏ハ政府カ議會ノ最モ多忙ニシテ慎重ニ審査考量ヲ加フル能ハサル時機ニ於テ此法案ヲ提出シタルハ甚遺憾トスルトコロニシテ如此全權ヲ政府ニ附与スルハ決シテ尋常一様ノ事ニ非サレハ何等ノ制限ヲ設ケスシテ此法案ヲ採用スルコトヲ得ス條約ハ追テ議會ニ提出セラル可キモ一旦締結シタ

ル條約ニ就キ之レカ探否ヲ決スルコトトセハ議會ハ窮屈ノ地位ニ立タサル可カラストノ意ヲ述ヘ且ツ独逸談判委員カ惜氣ナク直チニ最惠國約款ヲ提供スルヲ不得策ナリトシテ警告ヲ為シタリ

右ニ對シ内務大臣ハ何故ニ此法案ハ此形式ヲ採リタルカ又政府カ熟慮ノ末本問題ハ如此措置スルノ外他ニ良策ナシトセル所以ノ説明ハ之ヲ委員會ニ讓ル可シト述ヘ中央党ノ「スペック」氏モ政府ニ如此全權ヲ与フルコトハ其影響スルトコロ大ニシテ同党間ニモ制限ヲ附セスシテ政府ニ此權能ヲ与フルコトヲ懸念スルモノアリ何レ委員會ニ於テ政府ヲシテ從來他國ニ許容シタルヨリ以上ニ讓歩セサル可キ制限的規定ヲ設ケシムルコトニ提議ス可シ云々ト述ヘタリ
進歩民党ノ「ケンブ」(伯林商人団体)ノ長ニシテ實業社会ニ勢力アル人ナリ)氏ハ前記二議員ノ説ニ反シ他國ニ許容シタルヨリ以上ニ讓歩セシメサル制限ナルモノハ一概ニ適用シ得ヘキモノニアラス方今各國ハ何レモ高率ナル關稅表ヲ制定スルヲ以テ我レニシテ若シ其輕減ヲ欲セハ互ニ讓歩セサル可カラス故ニ各國ト協定以上ニ讓歩スルノ止ムヲ得サル場合アラン余ノ實際目撃シタルコロニテ我談判委員ハ其職責ヲ尽ス上ニ於テ間然スルトコロナシ(反對ノ声

五〇八 明治三十四年五月三十一日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

日独條約實施ニ關スル法案議會通過ノ件

五月三十一日 後八、四五 伯林發
六月 一日 前八、三〇 本省着

第五三号

小村外務大臣

珍田全權大使

豫テ報告ノ日独條約實施ニ關スル法案只今議會ヲ通過セリ

五〇九 明治三十四年六月二日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

第十二回改正談判ノ件

別 電 稅率協定ニ關スル独國對案通報ノ件

六月二日 後一、五二 伯林發
六月三日 前八、二〇 本省着

第五四号

小村外務大臣

珍田全權大使

六月一日第十二回會議ニ於テ先方ハ独逸商品ニ對スル修正協定稅率案(別電第五五号ノ通)ヲ提出シタルモ我商品ニ

小村外務大臣時代 対独交渉 五〇八 五〇九

起ル)若シ諸君ニシテ經濟調査委員會(Mirtschaftlicher Ausschuss)ノ議ニ列セラレタリトセハ我談判委員並ニ聯邦政府ノ代表者ハ瑞典トノ條約並ニ日本トノ條約ニ付如何ニ事体ニ精通シ居ルヤニ關シ必ヤ余ト同意見ナラント信スト述ヘ尙独逸談判員ノ知識ハ往々専門家ヲ凌駕スルコトアリト云ヒ政府当局者ヲ弁護スルノ演說ヲ為セリ

右ニテ当日ノ討論ハ終リ該法案ヲ委員會ニ附托スルコトニ決シ二十六日ノ委員會ニ於テハ保守党側ヨリ日独條約ニ於テ他國ニ許容シタル以上ニ讓歩ヲ許サストノ制限的提議アリタルモ長時間ニ互ル秘密會ニ於テ結局同党ハ此提議ヲ撤回シ該法案ハ委員會ヲ通過シタリ該法案ハ来ル二十九日ノ議題ニ上ル豫定ニシテ同日第二第三讀會ヲ經テ多分可決セラル可クト被存候

別紙法案並ニ理由書並ニ新聞切抜相添此段及報告候 敬具

註 別紙省略

對シテ要求シタル稅率ニ關シテハ調査未定ナリトテ何等ノ意見ヲモ示サホルニ付本使ハ斯クテハ利益交換ノ原則ニ依リ相互ノ利益ヲ測定スルコト能ハサルニ付修正提案ニ考量ヲ加ヘ難シト述ヘタルニ我要求物品及稅率ニ關シテハ多分来ル火曜日回答ヲ為シ得ヘシト答ヘタリ隨テ提議ノ内容ニ付テハ本日討論ニ涉ラス議定書第二條a号第二項ヲ左ノ如ク改メ採用ヲ要求シタリ

Les certificats d'origine seront délivrés par les consuls de carrière compétents. S'il s'agit de marchandises envoyées d'une place où aucun consul de carrière n'a son siège, le consul acceptera comme preuve de l'origine des marchandises les certificats délivrés par les autorités compétentes du pays d'origine. Il est toutefois entendu que dans des cas exceptionnels le consul pourra exiger des preuves additionnelles en expliquant les raisons qui rendent nécessaire une pareille mesure.

(別 電)

六月二日 後一、五二 伯林發
六月三日 前一〇、一〇 本省着

第五五号

小村外務大臣 珍田全権大使

独逸国修正案ハ独逸国对案附屬協定税率案ヲ基礎トシ之ニ
削減ヲ加ヘタルモノニシテ協定ヲ要求セントスル物品ハ左
ノ十六税番ニ亙リ其ノ仏訳文及税率竝註ハ悉ク前記税率案
記載ノ通ナリ

七二、一五七、二〇九、二三七竝註、

二四三、二八三、第九類ノ註及註ノ三、三〇一ノ内乙
イロ竝註、三二六、

三六七、四六二ノ内二及五ノ乙ノ一イロ、

四六七ノ内二ノ丙ロ、四七七ノ内一ノ甲、第十六類ノ

註、五二八、五七七、五八〇竝註、六三一

五一〇 明治四十四年六月三日 内田駐米大使ヨリ
小村外務大臣宛(電報)

永代借地権ニ関スル日米往復文書交付ニ関シ
訓ノ件

六月二日 前一〇、五〇 華盛敦致
第一六三号 東京着

小村外務大臣 内田全権大使

ノ結果更ニ協議ノ逆戻リヲ生ゼズトモ限ラザルニ付右御答
ノ上当分該文書ハ引続キ秘密ノ取扱ヲ希望ス

五一一 明治四十四年六月七日 珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛(電報)

第十三回改正談判ノ件

別 電 税率協定ニ関スル独逸国对案通報ノ
件

六月七日 後九、三〇 伯林發
後五、五五 本省着

小村外務大臣 珍田全権大使

六月六日第十三回會議ニ於テ先方ハ我國稅要求ニ對シ別電
第五九号ノ通り各品ヲ独逸國關稅表ノ稅番ニ該當センメタ
ル上大ニ我カ要求ヲ減殺セル對案ヲ提出セリ右ニ對シ本使
ハ我提案維持ニ努メタルモ先方ハ飽迄反對セリ我カ要求品
ヲ稅番外ニ獨立セシムルコトハ成効ノ見込ナキモ其ノ他ニ
關シテハ尙商議ノ余地アルベキニ付明八日先方ノ要求ト一
并引キ続キ討議ノ筈ニ付其ノ上ニテ何分ノ意見ヲ上申スル
コトアルベシ以下逐條ノ審議ニ移リ第六條第四号及ヒ永代

小村外務大臣時代 対独交渉 五一一

往電第一五四号永代借地権ニ関シ日英兩國政府間ニ往復シ
タル文書ノ要領ハ既ニ日英條約ト共ニ發表セラレタルニ付
テハ日米兩國間ノ同文書写ヲ独逸國ノ需ニ応シ交付スルコ
トニ異存ナキヤ再応國務省ヨリ申越タリ如何ニ回答スヘキ
ヤ至急返電アリタシ

五一一 明治四十四年六月三日 小村外務大臣ヨリ
内田駐米大使宛(電報)

右前件回答ノ件

六月三日 前一、五〇發

第一一七号

在米 内田 大使 小村 大臣

實電第一六三号ニ関シ

日英條約ト共ニ發表セラレタル談判中ノ声明ナルモノハ新
條約談判ノ會議録ニ存セル彼我委員ノ問答ニ外ナラス本件
ニ付何等文書ノ往復アリタル次第ニ非ス日獨間ニ於テハ右
日英間ノ声明ヲ基礎トシテ會議録ニ載スヘキ声明案略協議
済ニ至ラムトスル際ナレバ今更日米間ノ文書ヲ先方ニ示ス

借地権ニ関シ實電第四六号(乙)及(丙)御申越ノ通り決定ス又第
一條第四号ノ次ニ日英條約第一條第五号前段中不動産ニ関
スル左ノ如キ規定ヲ追加セムコトヲ申出タリ是レハ承諾シ
差支ナント思考ス往電第五四号原產地證明ニ関スル規定ト
共ニ何分ノ訓令アリタシ

Ils pourront sous la réserve de réciprocité acquérir
et posséder toutes sortes d'immeuble qui d'après les
lois du pays peuvent ou pourront être acquit ou pos-
sédé par les ressortissant d'une autre nation étrangère
quelconque en se conformant toujours aux conditions
et restrictions prescrites par les dites lois.

尙先方ハ第二十條ノ第二項トシテ兩締約國ハ千九百十二年
三月三十一日迄本條約ヲ廢棄スルノ權能アルヘク此ノ場合
ニハ本條約ハ同年十二月三十一日ヲ以テ其ノ効力ヲ失フト
ノ規定ヲ追加シ之ト同時ニ兩國ハ憲法上ノ理由ニ基キ已ム
ヲ得ザル場合ノ外此ノ權能ヲ行使セザルベク独逸國政府ハ條
約ニ對シ議會ノ協贊ヲ得ルト同時ニ此ノ權能ヲ放棄スベク
此ノ場合ニ日本國政府モ此ノ權能ヲ行使セザルベシトノ
memo ヲ交換センコトヲ提議セリ本使ハ實電第四八号ノ
形式ニ依ルコト尤モ公平ナリトノ理由ヲ極力論弁シタル所

先方ハ飽迄其ノ説ヲ固執シテ動かズ就テハ條約本文ヲ兩締約国ハ憲法上ノ理由ニ基キ已ムヲ得ザル場合ニハ本年十二月三十一日迄本條約ヲ廢棄スル権能ヲ有スベク此ノ場合ニハ本條約ハ明年十二月三十一日ヲ以テ其ノ効力ヲ失フトノ規定ニ改メ別ニ文書ノ交換ヲ為サザルコトノ提議シテハ如何右様豫告ノ期限ヲ十二月三十一日迄ニ限りタルハ独國ノ議會ハ十月ニ開会シ十分時日アルト同時ニ我議會開議前ニ本件ヲ解決シ置ク方得策ナルベシト思考セラルル為ナリ尤モ独逸國政府ニ於テ往電第五二号法案トノ關係上之ヲ承諾スルコト能ハザル場合ニハ已ムヲ得ス右豫告期限ヲ明年六月三十日迄トスル外ナカルベシ

(別電)

六月七日 後九、三三
六月八日 後三、三五
第五九号

小村外務大臣

珍田全權大使

左表中仏文ヲ以テ示ス數ハ稅番ニシテ二回繰返シタル數字ハ稅率ヲ示シ單位ハ麻トス

註 右ニ依リ作成シタル別表ヲ掲グ

589	花 粗ナルモノ(生又ハ染メタルモノ、染抜キツタルモノ又ハ漆塗りノモノ)	6
	其 ノ 他	3
631	全部真珠貝製鈕釦	150
636	精巧木製品(杖ヲ除ク)他ノ材料ト結合スルモノカ為高稅ヲ課セラレサルモノナルニ於テハ之ヲ含ム	12
670	日本漆ヲ塗りタル紙製品又ハ板紙製品	30
878	銅又ハ鍍タル真鍮製品ニシテ日本漆ヲ塗りタルモノ(稅番八七四号又ハ八八七号中ニ含マレサルモノ又ハ他ノ材料ト結合スルモノカ為高稅ヲ課セラレザルモノニ限ル)	30

五二三 明治四四年六月七日

珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

日米新條約ノ施行地域間合せノ件

六月七日 後三、一五 伯林發
六月八日 前三、二五 本省着

小村外務大臣時代 対独交渉 五二三 五一四 五一五

(訳)

稅番	品 名	我頭求ニ対スル獨逸修正稅率
73	木蠟(蠟ノ)天然ノ蠟ノモノ	無 稅
143	模造魚膠(日本植物性ゼラチン、アガール、寒天)	5 厘
247	木蠟(蠟ノ)加工ツタルモノ(漂白、染色、板状又ハ球形ニ作リタルモノ等)	10
401	人造絹絲、絹絲又ハ柞蚕絲ヲ用テ織リタルモノ、絹織物、絹織物ニシテ絹織物ノ羽織、生タルモノ、漂白、又ハ鞣出シタルモノ、白、提子見本ニ依ルル付三友半以上ノモノ	300
405	本協定稅番四〇一号ニ掲グタル羽二重製手巾(刺繡又ハハンク一又ノ稅目ニシタルモノ、重製ノ手巾ニシタルモノ、總稅率ハ五分ニ付加ス又ハ邊シ總稅率ハ五分ナル總稅ト看做ス)	450
587	縫 木 真 田 染メタルモノヲ含ム	1
588	縫 釋 真 田 漂白セサルモノ、染メサルモノ	無 稅

第五七号

小村外務大臣

珍田全權大使

日米新條約ハ米國本土以外如何ナル地域ニ施行セラルノヤ至急御報知ヲ乞フ

五二四 明治四四年六月九日

小村外務大臣ヨリ 珍田全權大使宛(電報)

右件ニ對スル回答ノ件

六月九日 前一、二五發

第四九号

在独 珍 田 大 使

小 村 大 臣

貴電第五七号ニ關シ

米國本土以外布哇比律賓其ノ他ノ領地ニ總テ適用セラルモノト解釈ス

五二五 明治四四年六月九日

珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

第十四回改正談判ノ件

六月九日 前四、五〇 伯林發
六月十日 後三、一〇〇 本省着
第六〇号 至急

小村外務大臣

珍田全權大使

六月八日第十四回會議ヲ開ク当方ハ原案第一條第四号、第三條、第四條、第十五條及第十六條削除ヲ承諾シ先方ハ第八回會議ニ於テ為シタル我提案第八條ニ同意シタリ永代借地権ニ関スル声明第二項トシテ追加セントスル先方ノ提案ハ往電第五〇号ノ文字ヲ加ヘテ可決之ヨリ關稅ノ商議ニ移リ第一獨逸ノ要求ニ對シ本使ハ彼我要求ノ懸隔甚シク利益交換主義ニ反スル事實ヲ指摘シ之ヲ九稅目ニ削減セントコトヲ主張シタルニ獨逸國委員ハ獨逸品ノ多數カ精製品ニシテ日本新關稅定率法ノ重稅ヲ負担スルニ反シ日本品ハ概ネ粗製品ニシテ無稅又ハ輕稅ヲ負担スル等兩國ノ事情ヲ異ニスルカ故ニ利益交換主義ヲ認ムルコト勿論ナルモ之ヲ實際ニ適用スルニ方リ徒ラニ指定品ノ貿易額ヲ對比シテ数字的ニ之ヲ判斷スルコト能ハス獨逸案ノ十六目ハ原案ニ對セル多大ノ削減ナレハ此上削減ノ余地ナキノミナラス當業者利害關係ノ範圍甚ク廣ク協定ノ利益各方面ニ涉ラサレハ議會ノ協贊ヲ得ル見込ナシトテ結局水掛論ノ姿トナレリ又本使

來ル十二日ヲ以テ經濟調査會ニ諮詢ノ都合アルニ付十一日次回會議ヲ開キタシトノ請求アルニ付右ニ問ニ合ハス様至急何分ノ御電訓アリタシ又我最終提案ハ大体左記ノ方針ニ依ルコト適當ト思考スルニ付御參考迄ニ之ヲ具申ス

甲 獨逸要求中人造藍、鉄條竿、鉄線及セルロイドノ四品ヲ除キ彼我要求稅目ヲ同數ナランメ其他ニ對シテハ適當ナル減稅又ハ据置ヲ許ルスコト

乙 我要求中羽二重ノ目方制限ヲ全然削除セシムルカ若ハ目方制限ニ同意シテ稅率ヲ二百五十麻トナサシムルコト又本邦製手巾ハ地質ト織方如何ヲ問ハザルコトニ為サシメ且稅率ヲ四百麻ニ減セシムルコト極メテ困難ノ業ナルヘク之カ為或ハ談判破裂ヲ來スヤモ計リ難シト雖本問題ハ條約不成立ヲ賭スル覺悟ヲ以テ請求スル外ナカルヘクト信スルカ故(脱字)ニ關シ我最終案提出ノ際帝國政府ハ條約ノ成否ニ拘ハラス此ノ上讓歩スルコト絶對の不能ナル旨斷言シ置キタキニ付此ノ点豫メ御許可相成タシ

ハ人造藍、鉄、線鉄、釘及セルロイドニ對シテハ帝國政府ニ於テ到底同意スル克ハサル理由ヲ説明シタルニ先方ハ大ニ反對ヲ唱ヘ特ニ人造藍ニ重ヲ措キ之ヲ除キテハ殆ンド協定ノ價值ナシト迄極論シ漸ク天然藍ト同一待遇ヲ以テ満足スヘキ氣配ヲ現ヘシタルモ本使ハ絶對的の之ニ反對シ置キタリ其他ノ物品ニ對シテハ先方ハ多少要求率ヲ引上ケ承諾スヘキモ削除ハ斷乎トシテ反對シタリ、第二我要求ニ關シ本使ハ唯一ノ重要品タル羽二重ニ關シ讓歩ヲ得ルニ非サレハ我ハ全然協定ノ必要ヲ認メサル次第ヲ述ヘ我要求ノ通減稅目方制限低下トヲ要求シタルニ先方ハ目方制限ノ低下ハ絶對的ニ不可能ニアラサルモ減稅ハ内國産業保護ノ必要上絶對的の不可能ナリ又現行率引上ノ議論アル今日到底議會ノ協贊ヲ得ル能ハストテ我要求ニ応セス其ノ他羽二重製手巾等ニ付テハ多少讓歩ノ余地アルヘキ氣配ヲ示シタルモ特殊ノ場合ヲ除クノ外ハ現行協定ニ對シ日本國ト協定ヲ重ネサル旨議會ニ言質ヲ与ヘタリト頗ル強硬ナル態度ヲ守レリ當日ハ五時間ニ涉リ商議ヲ尽シタルモ結局要領ヲ得ス此ノ上更ニ交渉ヲ重ヌルモ徒ラニ決定ヲ遷延スルニ止マルヘク最早時日切迫ニ付此ノ際帝國政府ハ最終ノ決定ヲ提出シ事ノ解決ヲ圖ルノ外ナシト信ス右何分ノ義御電訓ヲ請フ尙

五一六 明治卅四年六月九日 珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛(電報)

改正談判ノ態度ニ關シ具申ノ件(一)(二)

(一)
六月九日 後 五、五〇 伯林發
六月十日 前 一〇、二五 本省着
第六一号

小村外務大臣

珍田全權大使

關稅協定談判ニ關シ獨逸委員ノ態度ニ徵スルニ當方ノ委員カ帝國政府ノ真意以上ニ強硬ノ態度ヲ執ルトノ疑念ヲ有スルヤニ思ハル、ニ付政府ニ於テ愈々最終提案ヲ為ス場合ニハ閣下ヨリ其絶對的の最終ナル旨ヲ在日本獨逸大使ニ御内話相成ルコト出来聞敷ヤ又獨逸國當局者ハ昨年我議會ニ於テ人造藍ノ稅率ヲ引上ケタルハ政府カ豫メ今回ノ改正談判ニ資スル為議員ヲ繰縦シタル結果ニ外ナラストノ邪推ヲ抱キ居ルカ如シ本使ハ之ヲ弁明シ置キタルモ尙閣下ヨリ大使ニ此点ヲ説示セラル、トキハ当地ニ於ケル談判上好都合ナルヘント信スルニ付右併セテ具申ス

(二)

六月九日 後 一〇、五〇 伯林發
六月十日 前 一〇、三七 本省着

第六二号

小村外務大臣

珍田全權大使

六月八日ノ會議ニ於テ独逸国委員ハ在東京独逸国大使カ其筋ヨリ内閣セル所ニ依レバ日本国政府ハ関稅ニ関スル独逸国ノ要求ニ関シテハ独逸国提案ヲ基礎トシテ商議スヘク我談判委員ハ税目員數ニ對シ何等制限ヲ加フルコトヲ得サルモノナル旨同大使ヨリ報告アリタリト内閣ニ語リタルニ付本使ハ其筋トハ何処ヲ指サヤト推問シタルモ右ニ對シテ答フル所ナク報告書日附ハ五月四日付ナリト云ヘリ右ハ何等根拠アルモノナルヤ若シ御聞及ノコトモアラハ本使心得ノ為御垂示ヲ請フ

五一七 明治卅四年六月十三日

小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛 (電報)

独逸政府修正案ニ對シ内訓ノ件 (一)(二)(三)

(一)

六月十三日後三時四十五分發

第五一号

在伯林 珍田大使

小村 大臣

モ差支ナシ尤モ本件 memo ハ秘密ニ付公ニセザルコト協定致シタシ

(二)

六月十三日後六時四二分發

第五二号

在伯林 珍田大使

小村 大臣

貴電第六〇号ニ關シ

独逸ノ要求品中

一五七 サリチール酸

二〇九 塩酸キニ―ネ等

ノ二税目ニ付テハ先方ノ要求ヲ承諾ス

二三七 人造藍ハ特ニ讓歩ノ精神ヲ以テ改正率四十円ノ据置ヲ承諾スベシ、輕減ヲ行フコトニハ到底同意シ難シ

二四三 アリザリン其ノ他ノ染料ハ改正率ノ五分ノ一ヲ減シ即チ五円六十錢 (560) 迄輕減スルコトニ同意スベシ

二八三 毛織絲ノ(四)ヲ(イ)ノ据置額ト同様十三円二十錢 (1320) ニ輕減スルコトニ同意スベシ(イ)ハ輕減スルヲ得ズ

三六七 包装用紙等ハ一円五十錢 (150) ニテ折合ヒタキモ已ムヲ得ザレバ先方要求率迄同意スルモ可ナリ

小村外務大臣時代 対独交渉 五一七

貴電第五八号ニ關シ

(一) 第一條第四号ノ次ニ追加スベキ不動産ニ關スル規定異存ナシ

(二) 貴電五四号原產地諸般ニ關スル規定ハ同意シテ可ナリ

(三) 第二十條ノ第二項トシテ追加スヘキ文句ニ關シテハ独逸提案ノ通ニ同意シテ可ナリト雖交換スベキ memo ノ文句ニ關シテハ千九百十二年三月三十一日以前ト雖独逸国政府ハ條約ニ對シ議會ノ協賛ヲ得ルト同時ニ前記第二項ニ規定スル機能ヲ拋棄スベク之ト同時ニ日本政府モ亦此ノ機能ヲ拋棄スベシトイフコトニ止メタシ憲法上ノ理由ニ基キ云ルノ文句ハ我方ニ取リテハ條約文ニハ勿論ノコト memo ニモ之ヲ掲ケルコト好マシカラザルニ付削除致シタシ但シ先方ニ於テ尙懸念アリトセバ先方ヨリ差出ス memo ニハ独逸国政府ハ憲法上ノ理由ニ基キ已ムヲ得ザル場合ノ外前記第二項規定ノ機能ヲ行使セザル旨ヲ附加シ我方ヨリ差出ス分ニハ帝國政府ハ前記第二項規定ノ機能ヲ行使スルノ意思ナキ旨附加スル

四六七 亜鉛ノ(四)ハ二円二十錢 (220) 迄輕減スベシ

此他ノ要求品目中前回ノ我案ニ包含セラル、モノ即チ五七七番及五八〇番ニ付テハ該案ニ記載セル稅率以下ニ讓歩スルヲ得ズ又前回ノ我案ニ包含セラレザルモノハ前記人造藍及包装用紙等ノ二稅番ノ外何等協定ヲ為スヲ得ズ結局協定品ハ都合九箇トナル次第ナリ先方ヨリ要求アリタル註稅稅番ニ加ユルコトハ凡テ拒絕ノコト、御承知アリタシ

以上記載ノ我讓歩ハ左ニ掲グル我要求ヲ先方ニ於テ承諾スルコトヲ條件トシ帝國政府ニ於テ努メテ妥協ヲ図リタル結果ナルコトヲ説明セラレタシ

我要求品ニ付テハ羽二重ノ協定範圍ヲ目方制限ニ依リテ、限局スルコト好マシカラザルモ制限ノ撤去到底出来難キニ於テハ對案三匁半ヲ三匁ニ引下ゲ三匁付以上ハ二百五十麻克 (250) 迄輕減セムコトヲ要求シ已ムヲ得ザル場合ニハ三百麻克据置ニ満足スベシ對案ニハ提示見本ニ依リ云々トアル処右ニテハ不明瞭ナルカ故寧ロ日本商慣習ニ於テ三匁付ト称セラル、モノ以上ノ為スカ或ハ一平方メートルノ重量十三 (13) グラム以上ノモノト定メタシ尙四〇一番ハ元來密織物ニ對スル稅率ナルカ故右ノ如ク羽二重ニ付協定スルトモ猶ホ密織ト否トノ區別ヲ基礎トシテ密織ニ非ザル

モノハ仮令三匁以上ノモノニテモ協定税率ノ便宜ニ浴スルヲ得ズト議論スルノ余地ナキニ非ザルニ因リ此点ハ將來萬一ノ誤解ヲ生セザル様適當ノ文字ヲ挿入スルカ或ハ會議録ニ於テ確メ置クコトヲ必要ト認ム

羽二重手巾ニシテ前記四〇一番ノ協定ニ包含セラル、羽二重製ノモノハ簡單ナル縁縫又ハ縫目アルモノモ一律ニ四百麻克 (GOS) 迄軽減セシメ刺繡アルモノハ四百五十麻克ニ協定ヲ希望スト雖已ムラ得ザレバ刺繡アル分ハ拋棄スルモ可ナリ真田、鈕釦及漆器ニ付テハ仍ホ我原案ヲ主張セラレ成ルベク幾分ニテモ軽減セシムル様御尽力アリタシ殊ニ漆器ノ如キハ日本漆器ヲ用ヒタルモノトシテ協定ノ範圍ヲ局限シアルガ故少クトモ六三一番 (GOS) ニ関シテハ譲歩ヲ得度 (其ノ場合ニハ六七〇番及七八八番ニ付テハ対案ノ儘ニテ満足スベシ又六三一一番ニ関シ我漆器ニハ金銀時絵又ハ貝殻ニテ螺鈿シタルモノ多キガ故対案税目ノ儘ニテハ之方為協定ノ利益ニ浴セザルモノト解釈セラル、ノ虞アルニ因リ會議録ニテ其虞ナキ様適當ノ説明ヲ記載スルコトニ致シタシ

尤モ羽二重及羽二重手巾ニ付我軽減ノ希望ヲ達スルニ於テハ已ムラ得ズンバ他ノ物品ノ税率ハ対案ノ通ニテ満足スル

ザリシガ本大臣ヨリ商議ノ現状ヲ陳述シテ事ノ真相ヲ説明シ條約廢棄ノ件ニ付テハ独逸政府ノ申出ハ主議ニ於テハ大体異存ナキモ其詳細ニ在ツテハ詮議ノ上在独帝国大使ハ訓令スベキ管ナル旨ヲ述べ又関税問題ニ付テハ独逸ヨリノ要求品中我政治上又ハ經濟上ノ理由ニ因リ到底協定ニ応ズル克ハザルモノ、主ナルモノ即チ鉄及釘、毛綿交織物、ブランケット、セルロイド等ヲ例ニ挙ゲテ説明シ人造藍ニ関シテハ独逸ニ於テ最モ重ヲ措ク趣ナルモ我内國政治上ノ關係ヨリ到底軽減スルヲ得ズトテ其理由ヲ告グ但シ独逸ガ甚ダ本品ニ重ヲ措ク以上ハ改正税率ノ据置ナラバ同意シ得ベシト述べ要スルニ九品位ハ協定ノ目的物ト為シ得ベキ様認めラル、旨ヲ語り我要求品ニ付テハ独逸カ假令羽二重ヲ凡テ區別ナク三百麻克ト為ストモ只従前ノ状態ヲ維持スルニ止マリ帝國政府ハ之ヲ以テ独逸ノ大ナル譲歩ト見ルヲ得ズ何レ詳細珍田大使ニ訓令ノ上談判セシムベシト断リタル末本大臣ハ貴電第六一號御申越ノ次第モアリ此機ヲ以テ充分我方ノ立場ヲ諒解セシメ置クヲ得策ト認メレツクス伯ニ向ヒ特ニ一言シタキ事アリト述べ在独帝国大使ハ今回ノ條約談判ニ當リテハ終始極メテ誠實嚴正ニ本大臣ノ訓令ニ依テ行動シ毫モ其以外ニ出デタルコトナク本大臣ノ訓令モ

モ可ナリ鈕釦ニ付テハ税率据置ノ場合ニハ税目ヲ独逸現行協定通りノ名称即チ税番六〇六ノ名称ニ改メラレタシ

(三)

六月十三日後七時卅五分發

第五三號

在独 珍田大使

小村 大臣

貴電第六二號ニ関シ

五月六日在東京独逸国大使ハ本国政府ノ電訓ニ依ル趣ニテ總理大臣ニ面会シ独逸政府ハ関税ニ関シテ提出シタル協定案ヲ進ムテ自ラ削減スルニ困難ナル事情アルニ付帝國政府ヨリ対案ノ提出アル様希望スル旨申出デタル処當時我方ニ於テハ既ニ閣下ノ電報モアリ愈々我対案ヲ提出スルノ方針ナリシヲ以テ總理ハ何レ外務大臣ヨリ在独帝国大使ヘ対案ヲ電送スルニ至ルベシト答ヘタルガ此外貴電御來示ノ如キ趣意ヲ述ヘタルコトナシ果シテ右様報答アリタリトスレバ「レツクス」伯ノ誤解ナルベク此以外ニ何等心当リナシ尙同伯ハ六月十二日、本国政府ノ電訓ニ基キ本大臣ヲ來訪シタルガ其用向ハ関税問題及貴電五八號條約廢棄ノ件ニ関スルモノ、如ク察セラレシモ電訓ノ簡單ニ過ギタルト同大使力條約談判ノ成行ヲ知悉セザルトノ為メ殆ド要領ヲ得

亦自己ノ私見ニ非ズシテ閣議ノ決定ヲ經クル政府ノ方針ニ基クモノナレバ此等ノ点ニ付伯林ニ於テ萬一ノ誤解ナキ様致度旨言明ニ及ビタリ以上御參考迄

五一八 明治卅四年六月六日

珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛 (電報)

第十五回改正談判ノ件

六月十六日 後一、四五 伯林發
六月十七日 後三、五〇 本省着

第六三號

小村外務大臣

珍田 全權大使

六月十六日第十五回會議ニ於テ貴電第五二號協定税率案ヲ提出シタリ先方ハ審査ノ上明日回答スル旨尙六月二十三四日頃聯邦議會閉会スルニ付二十一日迄ニ談判ヲ終了シタシトノ意志ヲ表明セリ第一條新第四號第二十條第三項及議定書第二條a第二項貴電第五一號ノ通り承諾可決ス、第二十二條第三項正文左ノ如シ

Les Parties Contractantes se réservent cependant faculté de dénoncer jusqu'au 31 mars 1912 le présent

traité. Ledit traité cessera dans ce cas ses effets le 31 décembre 1912.

尙本項ト同時ニ交換スヘキ文書修正案ヲモ提出シ置ケリ第五條 a ニ関シ過日先方ハ第一項ヲ日英新條約第八條第一項及第二項ヲ合同シタル形式トナシ其ノ第二項及第三項ヲ本條約第二十條第一項及第二項同様トナシ其ノ存続期間ヲ千九百十七年十二月三十一日ニ短縮セル案ヲ提出セルニ付本使ハ寧ロ關稅條約ヲ特定センコトヲ提議シタルニ強テ反對ナキ模様ナリシヲ以テ本日ノ會議ニ於テ左案ノ通り愈正式ニ提案セリ即チ本條約第五條 a 第一項ヲ關稅條約第一條トシ其ノ第二項及第三項ヲ同條約第七條トシ又本條約第七條 a 第一項ヲ關稅條約第三條ニ移シ(第二項未決)本條約第六條ハ條機議第三号附屬第六号及第七号ノ儘又第十八條ハ原案冒頭ノ文句ヲ削除シ対案中ノ船舶ナル文字竝末段兩締盟國ノ意志云々ノ文句ヲ加ヘ本條約中ニ保存シ竝關稅條約第二條ニハ本條約第六條第一項ヲ繰返シ同第四條第六條ニハ議定書第二項 a 号同第三條ヲ移記ス

二八三 イ据置

ロ十三円二十錢

三六七 一円五十錢

四六七 ロ二円二十錢

五七七ノ五 五円、四円五十錢、四円、三円五十錢

五八〇ノ三已 五円五十錢、五円二十錢、四円九十錢

新タニ請求シタルモノ左ノ如シ

七二 革類一ノ乙及丙一ノ八

各従価一割五分

三〇一 毛織物類其他二ノ乙イ

四十二円

ロ三十六円

四六二 鉄條竿四十錢

又人造藍ニ対シテハ左記ノ註ヲ要求シタリ

Au cas que le droit sur l'indigo naturel serait réduit, le droit sur l'indigo artificiel stipulé ci-dessus devra être réduit proportionnellement.

右ノ外第九類註及註三 三〇一ノ二甲乙註第十六類及五八〇番註並乙号表日本關稅表ノ疑義ニ関スル解釈ヲ維持主張シタリ

五一九 明治四年六月六日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

第十六回改正談判ノ件

六月十八日 前三、一〇 伯林發 後七、五 本省着

第六四号

小村外務大臣 珍田全權大使

六月十七日第十六回會議ニ於テ先方ハ我對案ニ對シ左ノ通り修正案ヲ提出シタリ

(甲) 羽二重三百目方三匁手巾四百但シ縁及縫目アルモノ及刺繡アルモノニ關スル我要求ニ応セス木製及紙製漆器ハ各二十但シ貝ヲ螺鈿シタルモノヲ除ク銅及青銅製漆器二十五員製鈕ノ名称ニ依リ entièrement en nac[?]ヲ除キ其他ハ総テ往電第五九号ノ通

稅 番

一五七 七円

二〇九 六十円

二三七 据置

二四三 五円六十錢

五二〇 明治四年六月六日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

稅率協定ニ對スル独國政府ノ態度ニ關スル件

六月十八日 前三、一〇 伯林發 後六、四〇 本省着

第六五号

小村外務大臣 珍田全權大使

往電第六四号ニ關シ本使ハ羽二重及羽二重手巾ニ關シ極力御訓令ノ貫徹ニ努メタルモ先方ハ内國ノ産業保護他國品均霑ノ防禦及關稅定率法ノ規定等ヲ理由トシテ応セス又重量標準ノ採用ハ他國品均霑ノ虞アリ且提示見本(日本國政府ヨリ提供)備付ノ必要ハ主トシテ他國品類似品ノ均霑ヲ防クカ為メナリトテ飽迄之ヲ主張シタリ又先方ノ新要求中鉄及織物ニ關シ本使ハ到底帝國政府ニ於テ同意スルコト能ハサル旨ヲ説示シタルモ先方ハ議會ニ於ケル協賛ヲ得ル為メ必要ナリト主張シ又註及解釈ノ要求ニ就テモ当方ノ反對ニ拘ハラス先方ハ日英新條約ノ实例ヲ引援シテ飽迄其要求ヲ維持セリ

前述ノ形勢ナルヲ以テ此上先方ノ提案ニ對シ著シキ修正ヲ加フル事ハ條約ノ不成立ヲ賭セサル以上ハ極メテ困難ノ業ナルヘント信ス尤モ註及解釈ノ要求ニ對シテハ英國ニ許シ

クル程度ヲ標準トシテ適當ノ削減ヲ加フルモ差支ナカルヘシト思考ス

五二一 明治卅四年六月六日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛 (電報)

独国政府提出ノ対案通報ノ件 (一) (二)

(一)

六月十八日 前六、一 伯林発 後一〇、四〇 本省着

第六十六号

小村外務大臣

珍田全權大使

第十六回会議ニ於テ先方ハ條約正文案ヲ提出シタリ右ハ本條約及関稅條約ヨリ成ル」本條約條項左ノ如シ
前文及第一條第一項第二項正文並第一号乃至第四号ハ條約第十五條附屬別紙ノ通り」第五号ハ往電第五八号ノ通り第六号及第七号ハ條約第一五号附屬別紙第一條第二項第五号及第六号ノ通り」第二條及第三條ハ條約第一五号附屬別紙第二條及第五條ノ通り」第四條第一項ハ原案第六條第一項ノ通り同條第二項第五條第六條及第七條ハ條約

特別関稅條約正文原案ノ通り

第一條

Les produits du sol et de l'industrie de l'Allemagne dénommés dans le tarif A joint à la présente Convention à leur importation dans le Japon, et les produits du sol et de l'industrie du Japon énumérés dans le tarif B joint à la présente Convention à leur importation en Allemagne, seront, de quelque endroit qu'ils viennent admis à conditions spécifiées dans les dits tarifs.
第二條ハ條約第一五号附屬別紙第六條第一項ノ通り」第三條ハ對案第七條aノ通り」第四條第一項ハ條約第一五号附屬別紙議定書第二條a第一項ノ通り第二項ハ往電第五四号ノ通り」第五條ハ本條約第十八條ノ通り第六條ハ條約第一五條附屬別紙議定書第三條ノ通り第七條及第八條ハ本條約第十九條及第二十條ト同一但シ存続期限ハ千九百十七年十二月三十一日迄トス」尙條約廢棄ニ関シ交換スヘキ文書ハ当方提案ヲ可決セリ即チ左記一、二ノ如シ (続々)

(二)

六月十八日 前六、一五 伯林發
六月十九日 前三、 本省着
第六十六号 (続キ)

第一五号附屬別紙第六條第二項第六條a及b並第七條ノ通り」第八條及第九條ハ條約第一五号附屬別紙第七條及條約第一〇号附屬別紙第七号ノ通り」第十條乃至第十四條ハ條約第一五号附屬別紙第九條乃至第十三條ノ通り」第十五條第一項ハ條約第二二号附屬第七号ノ第一項同第二項ハ同上附屬第八号中ノ解釈第一及第二ノ通り」第十六條ハ條約第十五号附屬別紙第十七條ノ通り」第十七條ハ對案第十八條ニ原案冒頭ノ文句及工業ノ文字並末段 etant que / 後ニ sauf les cas exceptionnel précipité (précité ?) フ加ヘ政府ノ文字ヲ削除シタルモノ」第十八條ハ條約第九号報告シタルモノ第十九條ハ第十九條第一項「本條約ハ千九百十一年七月十七日ヨリ効力ヲ生スヘシ」トノ後ニ「本日調印シタル関稅條約ト共ニ」ヲ加ヘ存続期間ヲ千九百二十三年七月十六日迄トス第二項ハ對案第二十條第二項ノ通り第三項前段往電第六三号ノ通り其ノ次ニ Il est entendu que les Parties Contractantes ne feront pas usage de la faculté mentionné sans dénoncer simultanément la Convention douanière citée dans alinéa 1er du présent article ノ文句ヲ附加メ第二十條ハ對案第二十一條 aussitôt que faire se pourra 迄ニテ御批准書交換地ヲ東京トシ

小村外務大臣

珍田全權大使

I

alinéa 3. Article XX du Traité de Commerce et de Navigation négocié entre l'Allemagne et le Japon dispose que les Parties Contractantes se réservent jusqu'au 31 mars 1912 la faculté de dénoncer le traité pour le 31 décembre 1912. Avant de procéder à la signature du dit traité, faisant connaître à Votre Excellence l'intention du Gouvernement Impérial de renoncer cette faculté aussitôt que le Reichstag aura donné son approbation au traité, j'ai l'honneur lui demander si le Gouvernement japonais se désistait de même, dans le cas, de ladite faculté.

II

Accusant réception à Votre Excellence de la lettre qu'il a bien voulu m'adresser en date de ce jour concernant le traité de commerce et de navigation négocié entre le Japon et l'Allemagne, j'ai l'honneur de vous faire connaître que le Gouvernement impérial se désistait de même de la faculté de dénoncer le traité pour le 31 décembre 1912 aussitôt que le Gouvernement allemand aura renoncé cette faculté.

之ヲ要スルニ関稅條約第三條第二項ヲ削除セハ全部右様可決シ然ルヘシト思考ス尙第十九條第一項ニテ本條約及關稅條約カ同時ニ實施セラルルコトヲ條件トシタルハ斯クセサルハ当國議會ニ於テ關稅條約ノミヲ否決セラルル虞アルカ爲ト存セラル此ノ外國名順序交互轉換ハ條約前文ノミニテ宣シキヤ或ハ本條約第十條第十二條關稅條約第一條及附屬稅表ニモ之ヲ行フヘキヤ御回訓アリタシ條約適用範圍ニ關シ其ノ後交渉ヲ重ネタルモ当方ノ要求ヲ貫徹スルコト困難ト存セラル目下特別條約締結ノ義ニ關シ回答ヲ求メツナルモ之モ亦容易ニ要領ヲ得難キ形勢ナルニ付已ムヲ得サル場合ニハ此ノ商議ハ後日ニ譲リ對案第十九條ノミヲ承諾シ差支ナキヤ此ノ場合ニハ機密條第四号御訓令ノ通り取計フヘシ右ノ外先方ハ最終會議録ニ挿入セント欲スル事項ニ關スル提案ヲ爲セリ全部十項ニシテ其ノ第一、第二、第八及第九ハ條機議第十九号附屬第二号第一條第三号第四号工業所有權及永代借地權ニ關スルト意義同シ第四第七ハ第六條a第四号及第十四條港ニ關スル部分ト同趣旨ナリ此ノ他第三第五第十八ハ左ノ如シ

III

On est d'accord que considérant la législation et

官憲之ヲ決定ストノ文句ヲ附加シタリ之ナラハ敢テ不都合ナカルヘキモ同時ニ蛇足ノ規定トナレルニ付削除スル方可然前記第三第十モ亦削除スル方可然ト思考ス又條機議第一九号附屬第二号中近海漁業ニ關スル件ヲ挿入スル必要ナキヤ以上何分ノ御訓令ヲ請フ(一語不明)

五二二 明治卅四年六月五日

小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛(電報)

稅率協定交渉ニ付キ回訓ノ件

六月十九日午後八時十五分發

第五五号

在独 珍田大使

小村大臣

貴電六四号及六五号ニ關シ

先方ノ要求中鉄ノ条竿ニハ到底同意シ難シ本品ハ何レノ固トモ協定セサル主義ナリ毛綿交織物(I)及(II)ハ英國ニ對シテ(I)及(II)ニ付讓歩シタルト同一ノ程度迄讓歩シ即チ五分ノ一ヲ減シ四十四円及四十二円ト為スヘシ革類ニ關シテハ甚困難ノ事情アルモ是亦特ニ妥協ノ精神ヲ以テ一割五歩ニ同意スヘシ右ノ結果協定品ハ十一品トナル次第ナリ

小村外務大臣時代 対独交渉 五二二

l'état social actuel des deux pays contractants, il est superflu d'insérer dans le traité une clause pour assurer aux ressortissants de l'une des parties contractantes dans les territoires de l'autre liberté de conscience et du culte.

V

On est d'accord que l'exemption des échantillons de toute inspection mentionnée dans l'article 8 ne comprend pas l'exemption d'inspection indispensable pour décider le montant de droit de douane qui doit aux articles leur être appliqué, à moins qu la liste de ces échantillons contienne des détails suffisants pour permettre aux autorités douanières décider sans inspection montant de la garantie à déposer en vertu des stipulations de dernier alinéa de l'article 7.

X

On est d'accord que quoi qu'en général le présent traité soit applicable à la Corée, les questions qui sont en rapport avec l'annexion de la Corée ne sont pas touchées par les présentes négociations.

尙第六トシテ條機議第一二二号第八号中ノ解釈第三a bヲ掲テ此等輸送力沿岸貿易ト見做サルルヤ否ヤ各場合ニ付稅關

以上ハ我最終ノ讓歩ニシテ我要求品ニ關シテモ先方申出ノ通ニテ満足スヘシ(羽二重ハ三匁以上三百麻克手巾ハ四百麻克ニ協定ノコトト承知スルモ貴電簡單ナルカ故萬一右ニテ誤アラハ折返回電アリタシ)

人造藍ニ關スル註ニ關シテハ藍ノ稅率ハ素ト内國產天然藍保護ノ見地ヨリ増加シタルモノナレハ近キ將來ニ於テ天然藍ノ稅率ヲ輕減スルカ如キコトハ萬々アリ得ヘカサル管ナリ從テ本件ノ約束ハ全然不必要ト謂フヲ得ヘシ就テハ右ノ点御説明相成リ本件ノ要求ヲ撤回スル様御交渉セラレタル上尙先方ニ於テ強テ希望スルニ於テハ會議録ニ於テ右註ト同一ノ趣旨ヲ聲明シ先方ガ議會ニ對スル説明上利用スルノ外秘密トシテ公ニセサルコトナラハ結局同意セラレ差支ナシ

其他ノ註ニ關シテハ第九類註ノ三及三〇一ノ二ノ甲及乙ニ關スル註ノ如キハ我稅率ヲ改正スルト異ナラサル次第ナレハ到底同意シ難シ

第九類ノ註織縁ハ分類上之ヲ除外スルノ件ハ實際上右様取扱フ管ナレハ差支ナシ但シ織物ノ意匠力大ナル場合ニ之ヲ全部切取リテ重量ヲ計ルノ必要ヲ生シタルトキハ織縁除外

ノ利益ヲ受ケントスルニハ商人ニ於テ右切取ニ応スルノ覚悟ヲ要スルコトハ注意スヘキ点ナリ
第十六類ノ註ノ二ハ同意シ難キモ其ノ一ハ字句複雑且不明瞭故左ノ如ク修正セハ同意シ可ナリ

「一個ノ機械ヲ分離シテ各部分ヲ同時ニ輸入スル場合ニハ全体ノ機械ノ税額ヨリ多ク課税セラルルコトナシ右各部分カ船積ノ都合ニ依リ同時ニ輸入セラレサル場合ト雖之ヲ取纏メ一個ノ機械ヲ構成スヘキモノタルトキ亦同シ」

又五八〇番ノ註モ實際上差支ナシ然レトモ以上三個ノ註ハ之ヲ協定税表中ニ記入スヘキ註トシテ同意スルニ非ス会議録ニ於テ我税法又ハ取扱方ニ関スル説明トシテ記載スルコトヲ承諾スル迄ナリ日英新條約ニ於テモ協定税表ニハ何等註ヲ加ヘス會議録ニ於テ単ニ我方ヨリ explanations 説明ヲ与ヘタルニ止マリ協定シタル次第ニ非ス殊ニ英國ニ対スル分ハ何レモ我法律其儘ノ説明ナルカ或ハ取扱上既定ノ方針ヲ説明シタルニ過キス故ニ右ト同様独逸ニ対シテモ會議録ニ於テ閣下ヨリ前記三個ノ説明ヲ与フルニ止メラレタシ

我要求品羽二重ニ関シテハ税番四〇一ヲ以テ協定スル次第ナレハ往電五二二号ニテ注意ノ如ク密織物ト否トノ区別論ニ

キス尙其内真田及鈕釦合計百二十六万円ハ最惠国條款ノ結果当然措置ニ均霑スルモノナレハ利益交換上甚平均ヲ失スト雖帝國政府ハ専ラ妥協ノ趣意ニ依リ以上ノ如ク最終譲歩ヲ為シタル次第ナレハ先方ニ於テモ其趣意ニテ考量シ之ニテ妥結スル様御請求相成リタシ

五二三 明治四十四年六月三日

小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛 (電報)

人造藍税率協定ニ関スル件

明治四十四年六月二十日後四時十五分發

第五六号

在伯林 珍田大使

小村 大臣

六月十九日在本邦独逸大使本國政府ノ訓令ニ依リ来訪シ人造藍ノ註並ニ革類、毛綿交織及鉄條竿ニ関シ陳述スル所アリシニ付一応本大臣一己ノ意見ヲ述ヘ置キ六月二十日更ニ之ヲ招キテ政府ノ決定トシテ往電五五号ト同一ノ趣意ヲ告ケ委細我全権委員ニ訓令ニ及ヒタリト述ヘ人造藍ノ註ニ関シテハ帝國政府ハ之ヲ好マス且必要ナント認ムル次第ヲ説明シ我立場ヲ本國政府ニ於テ充分諒解スル様大使ヨリモ

小村外務大臣時代 対独交渉 五二三 五二四

テ折角協定シタル税率ノ利益ヲ輕目物ニ及ホス能ハサルカ如キコトナキ様會議録ニテ確カメ置カレタシ又麥得真田ニ付テハ編製前ニ漂白シタルモノハ協定税表ニ所謂漂白シタルモノト看做サストノコトヲ會議録ニテ明ニ致置キタシ右ハ独逸今日ノ實際ノ取扱振ヲ説明セシムル迄ナリ尙麥得經木ノ混織ハ其混合ノ割合次第ニテ五八七又ハ五八八ノ何レカノ協定税番ヲ適用スル趣意ト解スルカ此コトモ會議録ニテ明ニセラレタシ

独逸ヨリ提出ノ乙号表ノ解釈ハ協定物品ニ関セサルカ上元来右ノ解釈ニハ到底同意スヘカラサルモノ多キノミナラス往々見本品ノ提出ニ依ルニ非サレハ決シ難キモノモアリ條約ト同時ニ斯ル解釈ヲ協定スルコトハ到底承諾シ難キニ付必要アラハ独逸領事官又ハ商人ヨリ我税関ニ問合スカ或ハ實際適用ニ異議アリタル場合ニ訴願ヲ以テ決定ヲ仰クコトト致シタシ要スルニ先方ハ内國産ノ保護他國品均霑ノ防禦及其關稅定率法ノ規定等ヲ理由トシテ我要求ニ応スルコト甚些細ナルカ故今回ノ我讓歩ヲ合算スレハ協定ノ為メニ保障セラルル独逸貿易額千六十万円ニシテ我貿易額トハ非常ノ懸隔アリ而モ我貿易額中新ニ輕減ノ利益ヲ受クルモノハ六十万円ニシテ殘額三百二十五万ハ據置ノ利益ヲ得ルニ過

電報スル様希望シ若独逸政府カ議會ニ對スル關係上是非本件ヲ必要トスル次第ナルニ於テハ之ヲ條約ニ載スルコトニハ同意シ難キモ會議録ニテ我委員ヨリ声明シ独逸政府カ議會ノ秘密会ニ於テ之ヲ利用スルノ外決シテ公ニセサルコトトセハ同意スルモ差支ナキ旨語リタリ右御參考迄

五二四 明治四十四年六月三日

小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛 (電報)

独国対案ニ関シ回訓ノ件

六月二十日後九時十五分發

第五七号

在伯林 珍田大使

小村 大臣

貴電六六号ニ関シ
(一) 沿岸貿易ニ関スル第十五條ハ條機議第一二号貴信附屬第七号ノ第二項即チ沿岸貿易ヲ或制限ノ下ニ認許スルノ規定ヲ削除シタルカ故異存ナシ但シ新ニ第十五條第二項トシテ右貴信附屬第八号中ノ解釈第一及第二ヲ追加スルコトトナリタルカ之ヲ如何ナル注文ノ下ニ列記セリヤ明瞭ナラス若シ右主文中ニ於テ條機議第一九号貴信中ニ存スル soul

九三七

le transport 以下 au pavillon national ニ至ル文句ヲ包含セルトキハ此ノ文句ハ削除セラレタシ右ノ文句ハ必要ナキノミナラス却テ條約ノ適用区域以外ニ在ル領地ノ沿岸貿易ヲ條約上認許セルモノノ如ク見エシムルノ嫌アリテ面白ナラス又解釈第二ニ於テ *déivrés à ou desinés pour l'étranger* トアルハ通シ切符及通シ船荷証券ノ文字ノ形容詞ナリト認ムルモ為念確メタシ

(二) 第二十條中「本日ヨリ何ヶ月内」ノ文字ハ削除致シタシ關稅條約第八條ニ付テモ然リ本件ニ關シテハ來電六六号電信ノ解キ方ニ誤リアリシコトヲ後ニ電信課ニテ確メ問題トナリシ文字ハ既ニ削除セラレ居レリ

(三) 關稅條約第三條内國稅ニ關スル件第二項ハ御意見ノ通り到底同意シ難シ瑞西政府ヨリ同シク右第二項挿入ノ請求アリシカ交渉ノ結果遂ニ撤回セシメタル次第ナレハ旁々本件ハ是非我主張ヲ貫徹スルヲ要ス

(四) 国名ノ順序交互轉換ハ條約ノ前文ノミニテ可ナリ本條約第十條及第十二條ハ條議第一五号貴信ノ通りノ順序ニテ差支ナシ先方ニテ轉換ヲ希望セハ之ニ応シテ可ナリ關稅條約第一條及附屬稅表ニハ轉換ヲ行フニ及ハス

條議第一九号附屬近海漁業ニ關スル件ハ最終會議録ニ記載スルニ及ハス

(七) 協定稅表ニ關シテハ協定ニ屬スル *items* ノミヲ掲ケ独逸カ当初提出シタルカ如ク同一稅番ニ屬スル他ノ *items* 迄モ併セ記載セサル様致シタシ

又革類ノ一ノ二ハ *pour cylindres* ハ *dit* ニ改メ *roller leather* ヲ *quotation marks* ノ中ニ入ルルコト萬國關稅雜誌同様ニ致シタシ

(八) 我要求物品ニ付會議録ニ於テ確メ置クヘキコトハ既ニ電報ノ通り

五二五 明治卅四年六月三日 珍田駐独大使ヨリ
及三日 小村外務大臣宛 (電報)

稅率協定ニ關スル件 (一) (二)

六月二十日 後四、三五 伯林發
六月二十一日 前七、一五 本省着

小村外務大臣 珍田全權大使

往電第六四号ニ關シ手巾ノ四百麻ニ協定セラレタルハ貴電
小村外務大臣時代 対独交渉 五二五

(五) 條約適用区域ニ關スル條文ハ御意見ノ通り先方ノ案ニ同意シテ可ナリ

(六) 最終會議録ニ關シテハ
第一建物ノ復賃ノ件ハ必要ナキモ先方ニテ強テ希望セハ同意シテ可ナリ

第二ノ待遇選択ノ件ハ勿論選択自由ナリト雖其選ヒタル待遇ヲ享受スルニ必要ナル條件ニ從フヘキコト亦勿論ナルカ故本件ヲ掲クル以上ハ此趣意ヲモ明ニシタシ帝國政府ハ寧ロ本件ヲ全然削除スルヲ希望スルモ先方カ特ニ希望セハ右ノ如ク適當ノ追加ヲ為シタル上之ヲ存スルコトニ同意スヘシ

第三良心礼拜ノ自由ニ關スル件ハ御意見ノ通り削除ヲ主張ス

第六或場合ヲ沿岸貿易ト見ルヤ否ヤハ當該稅關ニ於テ決ストノ件ハ御意見ノ通り蛇足ナルノミナラス右決定權ヲ稅關ニ委ヌルヤ否ヤニ付テハ國法ニ於テ其自由ヲ有セサルヘカラサル次第ナレハ旁々本件ハ削除ヲ主張ス

第十朝鮮ニ關スル件ハ誤解ヲ生スルノ虞モアリ旁々是亦削除ヲ主張ス何レノ國ニ對シテモ朝鮮ニ關シ新條約談判上何等約定又ハ声明シタルコトナシ

第五五号ノ通ナリ但シ先方ハ縁及縫目アルモノニ對シ五分増ヲ免除スルコトハ外國ノ均霑ヲ理由トシ又刺繡アルモノハ四一一番ニ依リ九百麻ヲ課スヘキモノナリトテ我要求ニ応セサル次第ナリ右為念申進ス

(一)

六月廿一日 前二、三〇 伯林發
後六、三五 本省着

第六九号 小村外務大臣 珍田全權大使

貴電第五五号麥稈真田分類方ニ付御訓令ニ關シ本使ハ前回ノ會議ニ於テ半漂白 *vorgebleicht* 麥稈真田ヲ未漂白ト看做スヘキコトニ交渉シ置キタレハ御訓令ノ趣意トハ相違アルモ右ノ行懸リモアリ且編成前云々ニテハ到底先方ノ同意ヲ得ルノ見込ナキニ付前陳ノ趣旨ヲ以テ會議録ニ記入ヲ要求シ又先方要求第九類註ニ關スル御訓令ハ或ハ誤解ニ出テタルヤニ思考セラル先方ノ説明ニ依レハ本註ノ意味ハ單ニ織物ノ分類ニ方リ縁ノ性質ヲ考量スヘカラストノ点ニ止マリ毫モ織物ノ重量又ハ面積ニ關係係有セサル次第ナリ右ハ何等差支ナキ様思考スレトモ為念性質ナル語ヲ明記シ且末尾ニ(特ニ裝飾ノ目的ヲ以テ織ラレタル場合ヲ除ク)ノ文

句ヲ加ヘテ先方ノ要求ニ同意スル積ナリ右兩件御意見アラハ折返シ何分ノ義渡電アリタシ尙貴電第五七号中(一)ニ關シ第二項主文ハ単ニ沿岸貿易ト看做サレストアルノミ又(二)第二十條御申越ノ件削除セラレ居ルコト往電第六六号報告ノ通り

五二六 明治四年六月二十一日 珍田駐独大使ヨリ
及 二十三日 小村外務大臣宛(電報)

第十七回改正談判ノ件(一)(二)

(一)

六月廿一日 後 五、三三 伯林發
六月廿二日 前 一〇、五 本省着

第七〇号

小村外務大臣

珍田全權大使

六月二十一日第十七回會議ニ於テ貴電第五五号及第五七号御訓令ノ趣ニ遵ヒ税率及註解條文並最終會議録各案ニ夫々必要ナル變更ヲ加ヘテ提出シタルニ先方ハ格別意見ヲ述ヘス明日回答スヘント述ヘタリ尙人造藍ノ註ヲ保存センコトヲ切リニ要求セルカ故ニ之ヲ秘密ニ附スルノ約束ニテ會

(二)

六月廿二日 前 〇、二〇 伯林發
後 二、四〇 本省着

第七一号

小村外務大臣

珍田全權大使

關稅條約第三條第二項ノ削除ヲ当方ニテ要求シタル結果先方ハ Thiel 領事ヲ派シ第三條全部ヲ削リ此ノ代リニ關稅條約我原案第二條ヲ復活シテ第三條ト為サンコトヲ申入レタルニ付是ハ却テ好都合ト存シ承諾シタリ又最終會議録ハ公表ノ目的ニアラス単ニ引援上便宜ノ為メ編輯シタルニ過キサルニ付先方ノ案總テヲ承諾セラレタシト申入レタルニ付本使ハ公表セサル積リナレハ斯ノ如キモノヲ特ニ作製スル必要ヲ認メサルニ付該案ヲ全部廢棄シタシト答ヘ先方モ之ニ同意シタリ但シ先方カ勝手ニ會議録抜萃ヲ設クルハ其自由ナルコトヲ附言シ置ケリ Thiel ノ内話ニ依レハ六月廿二日午後ノ會議ニ於テ先方ハ当方ノ提案全部ニ同意シ翌日調印セント欲スト申込ミタリ御參考迄ニ申進ス其場合ニ改メテ御訓令ヲ仰カスシテ調印シ差支ノ有無至急何分ノ御電訓タリタシ

議録ニ記載スルコトヲ承諾シタリ然ルニ會議録ハ何分多人數ニ配布セラル、ニ付絶対的の秘密ヲ保障センコトハ(脱字)トノコトナルニ付獨立シタル文書ヲ交換スル方可然ト存シ先方モ之ニ同意シタリ就テハ若シ之ニ御異存アラハ至急何分ノ御訓令アリタシ第十五條第二項第二号末段ノ解釈並關稅地域通知ノ件何レモ御意見通り確定ス尙先方カ前回ノ會議ニ於テ提出シタル最終會議録ニ記入スヘキ声明案ハ公表セサル心組ナル由ニテ反テ之ヲ設ケサル方可ナラントノ意見ヲ表示シタリ就テハ若シ帝國政府ニ於テ声明中ノ或モノヲ一括公表スル御希望ナルニ於テハ先方ニ左様申入タキニ付至急御電訓アリタシ但シ税率註釈ハ公表セラルヘキモノト思考ス尙本條約第一條第二項第四号 *libertés et trois* ノ後 *que* ヲリ *favorisé* ヲ削リ之ト同一ノ文句ヲ末尾 *ceux* 以下ヲ削リ之ニ加ヘ第四條 *desormais* ヲ削リ關稅條約第四條第一項 *au cas* ヲ *en tant* ニ改メ末段 *à l'égard de* *de* (quelques *certains* ニ改メ) ヲ *existe* ト *dans* ノ間ニ挿入シ第六條初段 *pas* ヲ *ni* ニ改メタリ關稅註釈正文ニ關シ先方ノ同意ヲ得タル上ハ全文電報スヘキヤ

五二七 明治四年六月二十三日

小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛(電報)

税率協定回訓ノ件(一)(二)

(一)

六月廿二日後零時三十五分發
第五八号

在伯林 珍田大使

小村 大臣

貴電第六九号ニ關シ
真田ニ關シテハ半漂白ノ文字ヲ用ヒラル、コトハ差支ナキモ麦稈ニテ漂白シ真田ニテ漂白シタルニ非サルモノハ(本邦真田ハ之ニ屬ス)所謂半漂白中ニ包含セラルルノ趣意ヲ明ニスルヲ得ハ一層安全ナルヘシ一九一〇年伯林商業會議所年報第一卷九八頁参照
織縁除外ノ件カ分類上ノ問題ニ止マルコトハ勿論ニテ前電注意ノ趣意ハ織縁ノ如キ絲ヲ加ヘテ織リタルモノニ付テハ分類上一意匠ノ重量ヲ量ルノ必要アルカ故ナリ要スルニ本件ハ御來示ノ如キ文字ヲ加ヘ會議録ニテ説明ヲ与フルコトニ同意セラレ差支ナン

(二)

六月廿二日後三時發

第五九号

在独 珍田大使
貴電七〇号ニ関シ

小村 大臣

(一) 人造藍ノ註ニ関シ秘密文書交換ノ件異存ナシ

(二) 先方カ曩ニ提議シタル最終會議録記載ノ事項ニハ前電ノ通り同意シ難キモノアルノミナラス不必要ノ件モアルカ故全然之ヲ設ケサル方一層可ナリ我方ニテハ特ニ一括公表ヲ必要トスルモノナシ尤モ會議録ニ記入セラルル税率ニ関スル註釈ハ御意見ノ通り公表スルヲ適當ト認ム

(三) 會議録ニ記入スヘキ關稅註釈正文決定ノ上ハ其全文電報アリクシ

在伯林 珍田大使

貴電第七一号ニ関シ直ニ新條約ニ調印セラレ差支ナシ

小村 大臣

五二九 明治四十四年六月二十三日 珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛 (電報)

羽二重目付ニ關スル件

六月廿二日 後九、五〇 伯林發
六月廿三日 後七、一五 本省着

第七二号

小村外務大臣

珍田 全權大使

第十八回會議ニ於テ独逸國委員ハ會議録記入ノ為羽二重三匁單位目方ヲ質問シタルニ付右ニ關シ本使ハ巾一吋半長サ二十五碼ニ付三匁ノ重量アルモノハ三匁付トスル商慣習ナリト信スルモ一應政府ヘ請訓ノ上ニテ確答スヘシト答ヘ置タルニ付折返シ何分ノ義返電アリクシ

五二八 明治四十四年六月二十三日 小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛 (電報)
條約調印ニ關シ回訓ノ件
六月二十二日午後六時二十六分發
第六〇号

五三〇 明治四十四年六月二十三日 珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛 (電報)

第十八回改正談判ノ件

別 電一 會議録註解通報ノ件

二 議定書通報ノ件

六月廿三日 前 伯林發
後八、三〇 本省着

第七四号

小村外務大臣

珍田 全權大使

往電第七一号具報ノ通り六月廿二日第十八回會議ニ於テ先方ハ我對案全部ヲ承諾シタリ二十四日調印ノ豫定ナルニ付條約本書ハ二十七日ノ西比利亞便ニテ發送スルコトヲ得ヘシ先方ハ内地政策上條約案カ聯邦議會ヲ通過スルヤ直ニ(二十八日頃) 非公式ニ條約全文ヲ公表シタキモ日本政府ノ都合懸シキトキハ稅表ノミハ是非共公表シタシト申出タリ如何回答スヘキヤ御電訓アリタシ又承諾ノ場合ニハ相互公表ノ日時ヲモ御回示アリクシ

本條約ハ總テ既電ノ通り只第十七條冒頭 de maniere フ d'une maniere ニ改メタリ關稅條約モ亦既電ノ通り對案第三條ニ原案第二條ヲ換置セルコト往電第七一号ノ通り稅率a アイテムノ体裁給テ日英新條約ノ例ニ則リ反訳ハ機密條

小村外務大臣時代 対独交渉 五三〇

第一五号ニ遵ヒ無キモノハ白耳義雜誌ノ反訳ニ依レリ稅率b 本文ハ總テ往電第五九号ノ通り但シ四〇五番第二項 des ouvrages de filés へ mentionné ci-dessus ニ改メ六〇六番 entièrement 以下ヲ削ル現存關稅同盟地域ノ知照ハ會議録ニ於テナスコトニ取極メタリ人造藍ニ關シ交換スヘキ文書ハ先方ノニハ J'ai l'honneur (不明) a Votre Excellence de vouloir bien constater que 以下ニ往電第六四号ト同意義ノ文句ヲ入レ当方ノ回答ハ J'ai l'honneur de constater que dans le cas que le droit de 33, 70 yen sur le indigo naturel serait réduit le droit sur le indigo artificiel serait réduit proportionnellement ト記セリ御承認アリクシ

(別 電一)

會議録註解通報ノ件

六月廿三日 前 三、二二 伯林發
後一〇、二〇 本省着

第七五号

小村外務大臣

珍田 全權大使

會議録ニ記入スヘキ註解左ノ如シ但シ右ノ内羽二重手巾四〇五番ニ關スル分ハ法律ヲ變更スル性質ヲ有スルニ付議會

ノ協賛ヲ得サルノカラスアルヲ以テ税率本文ニ挿入シタリト
ノ事ニ付承諾シテ与ヘタリ

On tombe d'accord sur les points qui suivent : à propos du groupe neuf du traif général japonais la qualité de lisières ne doit pas être prise en considération dans le tarification sauf les cas où il sont expressément hors de doute pour le but d'ornement (?) de tissu principal. A propos du groupe seize du tarif général japonais dans le cas où toutes les parties d'une machine démontée sont importées en même temps le total des droits d'entrées auxquels elles sont assujettées ne devra pas être plus élevé que droit d'entrée auquel il serait soumis à la même machine non démontée. Dans le cas même où toutes leurs parties ne sont pas importées en même temps en égard à la convenance de chargement le dit principe sera appliqué s'il est prouvé que ces pièces constituent comme ensemble une seule et même machine. À propos du numéro 580 du tarif général japonais dynamo combiné avec des machines moteurs en tant qu'ils sont introduits séparément devraient selon la choix d'importateur être tarifés aux taux établis pour les

A propos du numéro ex 588 du tarif général allemand tresses paille qui ne sont que mi-blanches (Vorgebleicht) ne seront pas considérées comme blanches. A propos du numéro ex 631 et ex 670 du tarif général allemand seront aussi compris dans numéro ex 631 et ex 670 du tarif 13 cité dans l'article 1er Convention spéciale et réciproque de douane ouvrages en bois, papier ou carton vernis en laque japonais (urushij, dor ou d'argent.

尙当方ノ稅番一五七、二〇九、二四三、三六七及先方稅番
五八七ヲ除キ凡テ稅番ノ前ニ Ex ノ文字ヲ附加シアリ御
參考迄報告ス

(別 電二)

議定書通報ノ件

Berlin, June 24, 1911, 8-15 p.m.
Recd., „ 25, „ , 8-25 a.m.

Komura,

Tokio.

No. 78.

Protocole de signature.

Les soussignés se sont réunis pour procéder à la signature du traité de commerce et de navigation et

小村外務大臣時代 対独交渉 五三一

machines séparées. À propos du numéro 401 du tarif général allemand ne seront pas appliqué aux habutae dénommés dans le numéro (tsuzuku)

六月二十三日 第三〇二
五月十一日 第一〇八

第七五号 (tsuzuki)

ex 401 du tarif 13 cité dans l'article 1er Convention spéciale et réciproque de douane, les dispositions du numéro 4 des remarques générales à propos de division 1 à 10 de l'article "Gewebe" (tissus) dans le "Warenverzeichnis zum Zoll tarife actuellement en vigueur" (liste officielle des marchandises par rapport de tarif des douanes page 240). A propos du numéro ex 405 du tarif général allemand ne sont pas considérées comme brodés mouchoirs de poche de habutae brodés seulement sur une surface ne couvrant qu'un carré dont les côtés ne dépassent pas six centimètres de longueur en toute direction. A propos du numéro 587 et ex 588 du tarif général allemand lorsque paille et copeaux de bois sont tresses ensemble ces tresses seront considérées comme tresses en pailles ou tresses en copeaux de bois selon la matière prédominante.

de la convention spéciale et réciproque de douane, ^{convenus?} (toutes les conventions) entre l'Allemagne et le Japon. Les documents précités ayant été produits et après ^{signature?} examini, trouvés en bonne et due forme, la (signataire du traité) a été opérée.

En foi de quoi, les soussignés ont dressé le présent protocole.

Fait en double expédition, à Berlin, le 24 juin 1911.

Chinda.



五三一 明治四十四年六月二十三日 珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛 (電報)

羽二重手巾註ニ関スル件

六月二十三日 後三、二〇 伯林發
六月二十四日 前〇、一〇 東京着

第七六号

小村外務大臣

珍田金権大使

往電第七五号所載ノ羽二重製手巾ノ註ニ関シ本件ニ付テハ
御訓令ナカリシモ刺繻アル手巾ノ協定ヲ撤回スルニ当リ独
逸瑞西條約ニ於テ一定ノ大マテ刺繻ト見做サノルヘキ規定

存在スルカ故ニ当方モ此例ニ倣ヒ同様ノ保障ヲ求メタルモノナリ此文句ト独逸瑞西條約ノ文句トハ行文ノ差違アリ最初当方ノ提案ハ「ルノードカン」編纂條約集一九〇四年ノ部ニアル同條約中ノ反訳ヲ取り纏ノ合計六「センチメートル」平方ヲ超ヘサルモノハ本協定税率ノ利益ヲ受クト記載シタルモ先方ハ独逸瑞西條約ノ規定ハ「モノグラム」等ヲ围绕スル纏ノ解釈ナレハ一個所以上ニ涉リテ此ノ利益ヲ受クルコト能ハサルカ故我註解ヲモ此ノ意味ニ改メタシトテ往電第七五号ノ通り訂正ヲ申込タリ独瑞條約ヲ斯ノ如ク解釈スヘキモノナルヤ否ヤハ聊カ疑ナキ能ハサルモ萬一瑞西国カ是ヨリモ広ク利益ヲ受ケ居ルニ於テハ該條約存続中ハ之ニ均霑シ得ヘキニ付強テ詮議ダテヲ為サス之ニ承諾ヲ与ヘタル次第ナリ但シ独瑞條約ニハ「モノグラム」等纏ノ種類ヲ制限シアルニ反シ日独條約ニハ斯ノ如キ制限ナシ

右御參考迄

關稅條約本條約第二十條第三項及人造藍ニ關スル各文書並ニ調印議定書各二通ニ調印ヲ了シタリ條約ノ前文ニ記入シタル姓名官職左ノ如シ

Le Baron Suteimi Chinda, Jusamm, 1ere Classe de l'Ordre Impérial du Soleil Levant, Son Ambassadeur Extraordinaire et Plénipotentiaire.

Monsieur Alfred von Kiderlen-Waechter, Son Conseiller Intime Actuel, Secrétaire d'Erat du Département des Affaires Etrangères.

而條約副本各一部本日不取敢發送ス

五三四 明治四十四年六月二十五日

小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛 (電報)

慶祝ノ件

六月廿五日後〇時五十分發

第六二号

在独 珍田大使

小村 大臣

日独新條約談判ニ關シテハ種々複雑困難ナル交渉ヲ要シタルニ拘ラス閣下ノ折衝措置其宜ヲ得終ニ調印ヲ了スルニ至

小村外務大臣時代 対独交渉 五三四 五三五

三三二 明治四十四年六月二十四日

小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛 (電報)

羽二重目付ニ關シ回訓ノ件

六月廿四日前十時五十分發

第六一号

在独 珍田大使

小村 大臣

貴電七二号ニ關シ

羽二重目付ノ件御意見ノ通り

(註記)

「本件ハ為念農商務省へ守屋囑託ヲ急派シ相違ナキコトヲ確メタル上發電済」

五三三 明治四十四年六月二十四日

珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛 (電報)

條約調印ノ件

六月廿四日 後一、一〇 伯林發

六月廿五日 前六、五五 本省着

第七七号

小村外務大臣

珍田 全權 大使

六月廿四日午前十一時独逸国外務大臣ト共ニ通商航海條約

リタルハ御同慶ノ次第ニシテ御尽力ニ對シ帝國政府深謝ノ意ヲ表シ且御成功ニ對シ總理大臣及本大臣ノ祝意ヲ表ス

五三五 明治四十四年六月二十六日

珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛

日独新條約本書送付ノ件

附屬書一 日独通商航海條約

二 特別相互關稅條約並ニ相互關稅表

三 機密交換外交文書 (一) (二) (三) (四) (五)

條機第六号

七月十一日接受

明治四十四年六月二十六日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳 (印)

外務大臣侯爵 小村寿太郎殿

本月二十四日本使ト当国外務大臣フオン、キデルレン、ヴェヒテル氏トノ間ニ調印ヲ了セル日独通商航海條約並ニ特別相互關稅條約本書各一通同上写各三部及關係文書三通茲ニ及御送付候間御査収相成度此段申進候敬具

通テ右兩條約等ハ五月八日附第十号御訓令ニ遵テ在任ノ
填、伊、白、蘭各公館ノ及送付置候
尙ホ在英大使及在漢堡沼野領事ノモヲ參考同様送付致置
候間右様御承知相成度此段申添候也

(註釋書 1)

TRAITE COMMERCE ET DE NAVIGATION ENTRE L'ALLEMAGNE ET LE JAPON.

Sa Majesté l'Empereur du Japon et Sa Majesté l'Empereur d'Allemagne, Roi de Prusse, au nom de l'Empire Allemand, également animés du désir de faciliter et d'augmenter les rapports économiques entre les deux Pays, ont résolu de conclure à cet effet un Traité de Commerce et de Navigation et ont nommé pour leurs Plénipotentiaires, savoir,

Sa Majesté l'Empereur du Japon,

Le Baron SUTEMI CHINDA, Jusammi, 1^{ère} classe de l'Ordre Impérial du Soleil Levant, Son Ambassadeur Extraordinaire et Plénipotentiaire à Berlin;

et

Sa Majesté l'Empereur d'Allemagne, Roi de Prusse,

3^o Ils pourront posséder ou louer et occuper des maisons, fabriques, magasins, boutiques et les locaux qui en dépendent. De même ils pourront louer des terrains à l'effet d'y résider ou de les utiliser dans un but licite commercial, industriel, manufacturier ou autre;

4^o En ce qui concerne la possession de biens mobiliers de quelque espèce que ce soit, la transmission, par succession testamentaire ou autre, des biens mobiliers de toute sorte qu'ils peuvent légalement acquérir entre vivants et en ce qui concerne le droit de disposer, de quelque manière que ce soit, des biens de toute sorte qu'ils auront acquis légalement, ils jouiront des mêmes privilèges, libertés et droits et ne seront soumis, sous ce rapport, à aucuns impôts ou charges plus élevés que les nationaux ou les ressortissants de la nation la plus favorisée;

5^o Ils pourront, sous la réserve de la réciprocité, acquérir et posséder toute sorte d'immeubles qui, d'après les lois du Pays, peuvent ou pourront être acquis ou possédés par les ressortissants d'une autre nation étrangère quelconque, en se conformant toujours aux conditions et restrictions prescrites par lesdites lois;

Monsieur ALFRED von KIDERLEN-WAECHTER,
Son Conseiller Intime Actuel, Secrétaire d'État
du Département des Affaires Étrangères,

Lesquels, après s'être communiqué leurs pleins-pouvoirs respectifs, trouvés en bonne et due forme, sont convenus des articles suivants :

Article I.

Les ressortissants de chacune des Hautes Parties Contractantes auront pleine liberté d'entrer et de séjourner en tout lieu des territoires de l'autre.

A condition de se conformer aux lois du Pays, ils jouiront des droits spécifiés ci-dessous :

1^o Ils seront, pour tout ce qui concerne la résidence, les études et investigations, l'exercice de leurs métiers et professions et l'exécution de leurs entreprises industrielles et manufacturières, placés, à tous égards, sur le même pied que les ressortissants de la nation la plus favorisée;

2^o Ils auront, comme les nationaux eux-mêmes, le droit de voyager dans toute l'étendue des territoires de l'autre et le droit de faire le trafic de tous articles de commerce licite;

6^o Ils seront exempts de tout service militaire obligatoire, soit dans l'armée ou la marine, la garde nationale ou la milice, de même que de toutes taxes imposées en lieu et place du service personnel et de tous emprunts forcés. Ils ne pourront être assujétis à des réquisitions ou contributions militaires, quelles qu'elles soient, autrement que dans les mêmes conditions et sur le même pied que les nationaux ou les ressortissants de la nation la plus favorisée;

7^o Ils ne seront contraints, sous aucun prétexte, à subir des charges ou à payer des taxes autres ou plus élevées que celles qui sont ou seront imposées aux nationaux ou aux ressortissants de la nation la plus favorisée.

Article II.

Les habitations, magasins, fabriques et boutiques des ressortissants de chacune des Hautes Parties Contractantes dans les territoires de l'autre ainsi que tous les locaux qui en dépendent, seront respectés. Il ne sera point permis d'y procéder à des visites domiciliaires ou perquisitions ou d'examiner ou d'inspecter les livres, papiers ou comptes, sauf dans les conditions et formes prescrites par les lois à l'égard des nationaux.

Article III.

Il y aura entre les territoires des deux Hautes Parties Contractantes liberté réciproque de commerce et de navigation.

Les ressortissants de chacune des Hautes Parties Contractantes auront pleine liberté de se rendre avec leurs navires et leurs cargaisons dans les lieux, ports et rivières des territoires de l'autre, qui sont ou pourront être ouverts au commerce extérieur ; ils sont, toutefois, tenus de se conformer toujours aux lois du Pays où ils arrivent.

Article IV.

Les droits de douane perçus sur les articles, produits naturels ou fabriqués des territoires de l'une des Hautes Parties Contractantes, à leur importation dans les territoires de l'autre, seront réglés, soit par des arrangements spéciaux entre les deux Pays, soit par la législation intérieure de chacun d'eux.

Aucune des Parties Contractantes n'imposera à l'exportation d'un article quelconque à destination des territoires de l'autre des droits ou charges quelconques autres ou plus élevés que ceux qui sont ou pourront

Article VI.

Les ressortissants de chacune des Hautes Parties Contractantes jouiront, dans les territoires de l'autre, d'une parfaite égalité de traitement avec les nationaux, quant à l'exemption de droits de transit et pour tout ce qui concerne le magasinage, les primes, les drawbacks ainsi que les facilités touchant l'importation ou l'exportation des marchandises.

Article VII.

Les négociants et les industriels qui, par l'exhibition d'une carte de légitimation industrielle, délivrée par les autorités de l'une des Parties Contractantes, prouvent qu'ils sont autorisés à exercer leur commerce ou industrie dans les territoires de cette Partie, pourront, dans les territoires de l'autre, soit en personne, soit par des commis voyageurs, faire des achats ou recueillir des commandes, avec ou sans échantillons. Ces négociants, industriels et leurs commis voyageurs, en faisant ainsi des achats et en recueillant des commandes, jouiront, en matière d'impositions et de facilités, du traitement de la nation la plus favorisée.

Les Parties Contractantes se donneront réciproque-

être imposés à l'exportation des articles similaires à destination de tout autre pays étranger.

Article V.

Les Hautes Parties Contractantes s'engagent à n'entretenir leurs relations commerciales réciproques par aucune prohibition d'importation, d'exportation ni de transit.

Des exceptions pourront toutefois être faites dans les cas suivants, en tant qu'elles sont appliquées à tous les autres pays ou du moins à tous les pays qui se trouvent dans les mêmes conditions :

- 1° Relativement aux approvisionnements de guerre, dans des circonstances exceptionnelles ;
- 2° Pour des considérations affectant la sécurité publique ;
- 3° Pour cause de salubrité publique et en vue d'assurer la protection des animaux et des plantes utiles contre les maladies et les parasites ;
- 4° Dans le but d'appliquer à des marchandises étrangères des interdictions ou des restrictions établies par la législation intérieure à l'égard de la production, du placement ou du trafic de marchandises indigènes de même nature.

ment connaissance des autorités chargées de délivrer les cartes de légitimation.

Les articles importés comme échantillons dans les buts mentionnés dans l'alinéa 1 seront, dans chacun des deux Pays, admis temporairement en franchise de droit, en conformité des règlements et formalités de douane, établis pour assurer leur réexportation ou le paiement des droits de douane prescrits en cas de non-réexportation dans le délai prévu par la loi. Toutefois, ledit privilège ne s'étendra pas aux articles qui, à cause de leur quantité ou valeur, ne peuvent pas être considérés comme échantillons, ou qui, à cause de leur nature, ne sauraient être identifiés lors de leur réexportation. Le droit de décider si un échantillon est susceptible d'admission en franchise, appartient exclusivement dans tous les cas, aux autorités compétentes du lieu où l'importation a été effectuée.

Article VIII.

Les marques de reconnaissance, estampilles ou cachets apposés au moment de l'exportation par les autorités douanières de l'une des Parties Contractantes aux échantillons mentionnés dans l'article précédent

ainsi que la liste de ces échantillons qui est officiellement attestée par elles et en contient la description détaillée, seront réciproquement acceptés par les autorités douanières de l'autre pour établir leur caractère d'échantillons et leur assurer l'exemption de toute inspection, sauf en tant que cette dernière est nécessaire pour constater que les échantillons présentés sont identiques avec ceux énumérés dans la liste. Les autorités douanières de chacune des Parties Contractantes pourront toutefois apposer une marque supplémentaire aux échantillons dans les cas spéciaux où elles jugent nécessaire de prendre cette précaution.

Article IX.

Les sociétés par actions (anonymes) et autres sociétés et associations commerciales, industrielles ou financières, y compris les compagnies d'assurance, domiciliées dans les territoires de l'une des Parties Contractantes et ayant l'existence légale d'après les lois qui y sont en vigueur, seront reconnues comme ayant l'existence légale dans les territoires de l'autre et autorisées à y ester en justice devant les tribunaux, soit pour intenter une action, soit pour y défendre d'après les lois de cette autre Partie.

Il y aura, de même, parfaite égalité de traitement pour l'exportation, de façon que les mêmes droits de sortie seront payés, et les mêmes primes et drawbacks seront accordés, dans les territoires de chacune des Parties Contractantes, à l'exportation d'un article quelconque qui peut ou pourra en être légalement exporté, que cette exportation se fasse par des navires japonais ou par des navires allemands et quel que soit le lieu de destination, soit un port de l'autre Partie, soit un port d'une tierce Puissance.

Article XI.

En tout ce qui concerne le placement des navires, leur chargement, leur déchargement dans les eaux territoriales des Hautes Parties Contractantes, il ne sera accordé par l'une des Parties aux navires nationaux aucun privilège ni aucune facilité qui ne le soit également, en pareils cas, aux navires de l'autre Pays, le volonteé des Parties Contractantes étant que, sous ces rapports, les bâtiments respectifs soient traités sur le pied d'une parfaite égalité.

Article XII.

Tous les navires qui, conformément aux lois alle-

Leur admission à l'exercice de leur industrie ou de leur commerce ainsi qu'à l'acquisition de biens dans les territoires de l'autre Partie se règle d'après les prescriptions qui y sont en vigueur. En tout cas, lesdites sociétés, associations et compagnies jouiront, dans ces territoires, des mêmes droits que ceux qui sont ou pourront être accordés à des sociétés, associations et compagnies similaires de la nation la plus favorisée.

Article X.

Tous les articles qui sont ou pourront être légalement importés, dans les ports de l'une des Hautes Parties Contractantes, par des navires nationaux, pourront, de même, être importés dans ces ports par des navires de l'autre Partie Contractante, sans être soumis à aucuns droits ou charges, de quelque dénomination que ce soit, autres ou plus élevés que ceux auxquels les mêmes articles seraient soumis s'ils étaient importés par des navires nationaux. Cette égalité réciproque de traitement sera appliquée sans distinction, que ces articles viennent directement du lieu d'origine, ou de tout autre pays étranger.

mandes, sont considérés comme navires allemands et tous les navires qui, conformément aux lois japonaises, sont considérés comme navires japonais seront considérés respectivement en tout ce qui concerne l'application de ce Traité comme navires allemands et japonais.

Article XIII.

Aucuns droits de tonnage, de transit, de canal, de port, de pilotage, de phare, de quarantaine ou autres droits ou charges similaires ou analogues, de quelque dénomination que ce soit, levés au nom ou au profit du Gouvernement, de fonctionnaires publics, de particuliers, de corporations ou d'établissements quelconques, ne seront imposés dans les eaux territoriales de l'un des deux Pays aux navires de l'autre, sans qu'ils soient également imposés, sous les mêmes conditions, aux navires nationaux en général ou aux navires de la nation la plus favorisée. Cette égalité de traitement sera appliquée réciproquement aux navires respectifs, de quelque endroit qu'ils arrivent et quel que soit le lieu de destination.

Article XIV.

Les navires chargés d'un service postal régulier de

l'une des Hautes Parties Contractantes jouiront, dans les eaux territoriales de l'autre, des mêmes facilités, privilèges et immunités que ceux qui sont accordés aux navires similaires de la nation la plus favorisée.

Article XV.

Le cabotage est excepté des disposition du présent Traité et reste réservé au pavillon national. Il est toutefois entendu que, sous ce rapport, chacune des deux Parties peut réclamer pour ses navires les mêmes droits ou privilèges qui sont ou seront accordés par l'autre Partie aux navires de tout autre pays en tant qu'elle accorde aux navires de l'autre Partie les mêmes droits ou privilèges.

Ne sera pas considéré comme cabotage :

- 1° le trafic des navires passant d'un port dans un autre, soit pour y débarquer des passagers ou décharger tout ou partie de leur cargaison apportés de l'étranger, soit pour y embarquer des passagers ou charger tout ou partie de leur cargaison à destination étrangère,
- 2° le transport, d'un port à l'autre, de passagers munis de billets directs, ou de marchandises

commerce, la navigation et l'industrie toutes sortes de privilèges, faveurs ou immunités que l'une ou l'autre des Parties Contractantes a déjà accordés ou accordera à l'avenir aux navires ou aux ressortissants de tout autre État, seront étendues immédiatement et sans condition aux navires ou aux ressortissants de l'autre Partie Contractante, leur intention étant que, sauf les cas exceptionnels précités, le commerce, la navigation et l'industrie de chaque Pays soient placés, à tous égards, par l'autre sur le pied de la nation la plus favorisée.

Article XVIII.

Les dispositions du présent Traité s'appliquent de même aux pays et territoires qui appartiennent à présent ou appartiendront à l'avenir au territoire douanier de l'une ou l'autre des Parties Contractantes.

Article XIX.

Le présent Traité entrera en vigueur le 17 juillet 1911 avec la Convention spéciale et réciproque de Douane, signée en date de ce jour. Il restera obligatoire jusqu'au 16 juillet 1923.

Dans le cas où aucune des Parties Contractantes

expédiées avec connaissements directs délivrés à ou destinés pour l'étranger.

Article XVI.

En cas de naufrage, avaries en mer ou relâche forcée, chacune des Hautes Parties Contractantes devra donner aux navires de l'autre, qu'ils appartiennent à l'État ou à des particuliers, la même assistance et protection et les mêmes immunités que celles qui seront accordées en pareils cas aux navires nationaux. Les articles sauvés de ces vaisseaux naufragés ou avariés seront exempts de tous droits de douane, à moins qu'ils n'entrent dans la consommation intérieure, auquel cas ils seront tenus de payer les droits prescrits.

Les autorités locales devront, dès que faire se pourra, informer du naufrage ou des avaries le plus proche Consul de l'État du pavillon. Les Consuls des Pays Contractants sont autorisés à prêter l'assistance nécessaire à leurs nationaux.

Article XVII.

Réserve faite des cas où ce Traité en dispose autrement d'une manière expresse, les Hautes Parties Contractantes conviennent qu'en tout ce qui concerne le n'aurait notifié douze mois avant l'échéance de ce dernier terme, son intention de faire cesser les effets du Traité, celui-ci continuera à être exécuté jusqu'à l'expiration d'une année à partir du jour où l'une ou l'autre des Parties Contractantes l'aura dénoncé.

Les Parties Contractantes se réservent cependant la faculté de dénoncer, jusqu'au 31 mars 1912, le présent Traité. Ledit Traité cessera dans ce cas ses effets le 31 décembre 1912. Il est entendu que les Parties Contractantes ne feront pas usage de la faculté mentionnée sans dénoncer simultanément la Convention de Douane citée dans l'alinéa 1 du présent article.

Article XX.

Le présent Traité sera ratifié et les ratifications en seront échangées à Tokio, aussitôt que faire se pourra. En foi de quoi les Plénipotentiaires respectifs l'ont signé et y ont apposé le sceau de leurs armes. Fait à Berlin, en double exemplaire, le 24 juin mil-neuf-cent-onze.

(L. S.) S. Chinda. (L. S.) Kiderlen.

(並譯註 1)

CONVENTION SPÉCIALE ET RÉCIPROQUE
DE DOUANE ENTRE L'ALLEMAGNE
ET LE JAPON.

Sa Majesté l'Empereur du Japon et Sa Majesté l'Empereur d'Allemagne, Roi de Prusse, au nom de l'Empire Allemand, également desiroux de favoriser le développement des relations commerciales entre Leurs deux Pays, ont résolu de conclure à cet effet une Convention spéciale et réciproque de Douane et ont nommé pour Leurs Plénipotentiaires, savoir,

Sa Majesté l'Empereur du Japon,

Le Baron SUTEMI CHINDA, Jussami, 1ère class
de l'Ordre Impérial du Soleil Levant, Son Am-
bassadeur Extraordinaire et Plénipotentiaire à
Berlin;

et

Sa Majesté l'Empereur d'Allemagne, Roi de Prusse,
Monsieur ALFRED VON KIDERLEN-WAECHE-

TER, Son Conseiller Intime Actuel, Secrétaire
d'État du Département des Affaires Étrangères,
Lesquels, après s'être communiqué leurs pleins-pouvoirs

assujettis à des taxes ou droits d'octroi, de transit, de
magasinage, d'accise ou de consommation, autres ou
plus élevés que ceux qui grèvent ou grèveraient les
articles similaires d'origine nationale.

Article IV.

Les Parties Contractantes conviennent qu'en général
il n'y aura pas d'obligation à produire des certificats
d'origine. Toutefois des certificats d'origine pourront
exceptionnellement être exigés en tant qu'il existe à
l'égard de certains articles d'importation dans l'un des
deux Pays des taxes de douane différentes.

Les certificats d'origine seront délivrés par les Con-
suls de carrière compétents. En tant qu'il s'agit de
marchandises envoyées d'une place où aucun Consul
de carrière n'a son siège, le Consul acceptera comme
preuve de l'origine des marchandises les certificats
délivrés par les autorités compétentes du Pays d'origine.
Il est cependant entendu que, dans des cas exception-
nels, le Consul pourra exiger des preuves additionnelles
en expliquant les raisons qui rendent nécessaire une
pareille mesure.

Article V.

Les dispositions de la présente Convention s'appli-

respectifs, trouvés en bonne et due forme, sont con-
venus des articles suivants :

Article I.

Les produits du sol et de l'industrie de l'Allemagne,
dénommés dans le tarif A, joint à la présente Conven-
tion, à leur importation dans le Japon, les produits du
sol et de l'industrie du Japon, énumérés dans le tarif
B, joint à la présente Convention, à leur importa-
tion en Allemagne, seront, de quelque endroit qu'ils
viennent, admis aux conditions spécifiées dans lesdits
tarifs.

Article II.

Les articles produits ou fabriqués dans les territoires
de l'une des Hautes Parties Contractantes, de quelque
endroit qu'ils viennent, jouiront, à l'importation dans
les territoires de l'autre, des droits d'entrée les plus
réduits applicables aux articles similaires de toute autre
origine étrangère.

Article III.

Les articles, produits naturels ou fabriqués des terri-
toires de l'une des Parties Contractantes, dûment im-
portés dans les territoires de l'autre, ne pourront être

quent de même aux pays et territoires qui appartiennent à présent ou appartiendront à l'avenir au terri-
toire douanier de l'une ou l'autre des Parties Contrac-
tantes.

Article VI.

Les dispositions de cette Convention ne s'appliquent
pas aux concessions tarifaires accordées par l'une ou
l'autre des Hautes Parties Contractantes à des États
limitrophes pour le seul but de faciliter le trafic local
dans une zone limitée des deux côtés de la frontière,
ni au traitement accordé aux produits de la pêche
nationale des Parties Contractantes ou aux favoris
tarifaires spéciales concédées par le Japon à l'égard
des poissons et autres produits aquatiques pris dans
les eaux territoriales d'une tierce Puissance voisine du
Japon.

Article VII.

La présente Convention entrera en vigueur le 17
juillet 1911 avec le Traité de Commerce et de Naviga-
tion, signé en date de ce jour. Elle restera obligatoire
jusqu'au 31 décembre 1917.

Dans le cas où aucune des Parties Contractantes

n'aurait notifié douze mois avant l'échéance de ce dernier terme son intention de faire cesser les effets de la Convention, celle-ci continuera à être exécutoire jusqu'à l'expiration d'une année à partir du jour où l'une ou l'autre des Parties Contractantes l'aura dénoncée.

Les Parties Contractantes se réservent cependant la faculté de dénoncer, jusqu'au 31 mars 1912, la présente Convention. Ladite Convention cessera dans ce cas ses effets le 31 décembre 1912. Il est entendu que les Parties Contractantes ne feront pas usage de la faculté mentionnée sans dénoncer simultanément le

Traité de Commerce et de Navigation cité dans l'alinéa I du présent article.

Article VIII.

La présente Convention sera ratifiée et les ratifications en seront échangées à Tokio, aussitôt que faire se pourra.

En foi de quoi les Plénipotentiaires respectifs l'ont signée et y ont apposé le sceau de leurs armes.

Fait à Berlin en double exemplaire, le 24 juin mil-neuf-cent-onze.

(L. S.) S. Chinda.

(L. S.) Kiderlen.

(並置輸入)

TARIF A.
DROITS A L'ENTRÉE AU JAPON.

Numéros du Tarif	Désignation des marchandises	Bases	Droits Yen
------------------	------------------------------	-------	------------

ex 72

Cuirs:

1. De taureau, boeuf, vache, buffle, cheval, mouton et chèvre:

B. teints, ou colorés, à l'exception du cuir dit "roller leather".

ad valorem

15 pour 100

C. autres:

C-1. de taureau, boeuf, vache, buffle et cheval:

c) autres

Idem

15 pour 100

157

Acide salicylique

100 km

7,00

209

Chlorhydrate et sulfate de quinine

Idem

60,00

ex 237

Indigo artificiel:

1. sec

Idem

40,00

243

Teintures d'alizarine, teintures d'aniline et autres teintures dérivées du goudron de houille, non autrement dénommées...

Idem

5,60

ex 283

Filles de laine cardée ou peignée:

1. ni teints ni imprimés:

C. autres:

C-1. de laine peignée:

a) ne déposant pas le n° 32 métrique.....

Idem

13,20

b) autres

Idem

13,20

ex 301

Tissus de laine et tissus mélangés de laine et coton, de laine et soie, ou de laine, coton et soie:

2. autres:

B. De laine et coton:

a) ne pesant pas plus de 100 grammes par mètre carré

Idem

44,00

b) ne pesant pas plus de 200 grammes par mètre carré

Idem

42,00

367	Papier d'emballage et papier pour allumettes, à l'exception du papier de soie	100 kin	1,50
ex 467	Zinc:		
	2. Plaques et feuilles:		
	C. autres:		
	b) autres	Idem	2,20
ex 5 7	Machines motrices à gaz, à pétrole et à air chaud:		
	5. autres (pesant plus de 2500 kilogrammes pièce): ne pesant pas plus de 5000 kilogrammes pièce	Idem	5,00
	ne pesant pas plus de 5000 kilogrammes pièce ...	Idem	4,50
	ne pesant pas plus de 100000 kilogrammes pièce.....	Idem	4,00
	autres	Idem	3,50
ex 580	Dynamos combinés avec des machines motrices:		
	3. combinés avec des machines motrices à gaz, à pétrole ou à air chaud.		
	F. autres (pesant plus de 5000 kilogrammes pièce):		
	pesant plus de 10000 kilogrammes et ne pesant pas plus de 50000 kilogrammes	Idem	5,50
	pièce	Idem	5,20
	ne pesant pas plus de 100000 kilogrammes	Idem	4,90
	pièce		
	autres.....	Idem	4,90

TARIF B.

DROITS A L'ENTRÉE EN ALLEMAGNE.

Numéro du Tarif	Désignation des marchandises	Droits par 100 kg M
ex 73	Cire végétale (de sumac), à l'état naturel	5,00
ex 143	Colle de poisson fausse (gélatine végétale du Japon, Agar-Agar, Kanten)	Exempte
ex 247	Cire végétale (de sumac), préparée (blanchie, colorée, en tablettes ou en boules etc.)	10,00
ex 401	Habutaés, unis, à armure taffetas, entièrement tissés avec la soie provenant du ver du mûrier, sans addition quelconque de soie artificielle, de bourre de soie ou de soie provenant du bombyx du chêne, et tissés des deux côtés avec des lisières fermes, écrits, même décreusés (blanchis), et calandrés, d'un poids d'au moins 3 mommé par unité, conformes aux échantillons déposés	300,00
ex 405	Mouchoirs de poche de habutaé du genre décrit dans le numéro 401 du présent tarif conventionnel.....	400,00

Les mouchoirs de poche de habutaé, ne rentrant pas dans les broderies ou les dentelles, sont, conventionnellement, soumis à une surtaxe de 5 % en sus des droits mentionnés ci-dessus, lorsqu'ils sont pourvus de simples ourlets ou de quelques coutures.

Sont aussi considérés comme simples ourlets les simples ourlets à jour.

Ne sont pas considérés comme brodés les mouchoirs de poche de habutaé

brodés seulement sur une surface ne couvrant qu'un carré dont les côtés ne dépassent pas 6 centimètres de longueur en toute direction.

587	Tresses en copeaux de bois, même teintes.....	1.00
ex 588	Tresses de paille	
	—non blanchies, non teintées.....	exemptes
	—blanchies, teintées.....	6.00
ex 589	Nattes ou nattes en pièces de jonc	
	—grossières, brutes ou teintées, passées au mordant, vernies.....	3.00
	—autres.....	12.00
ex 606	Boutons.....	150.00
ex 631	Ouvrages en bois, fins (à l'exception des cannes), même combinés avec d'autres matières, à moins que, en égard à cette combinaison, ils ne soient passibles de droits plus élevés, vernis en laque japonaise (urushi).....	20.00
ex 670	Ouvrages en papier ou carton vernis en laque japonaise (urushi).....	20.00
ex 878	Ouvrages en cuir ou en laiton fondu vernis en laque japonaise (urushi); tous ces articles dans la mesure où ils ne sont pas soumis aux Nos 874, 879 ou 887, ou ne tombent pas, du fait de leur combinaisons avec d'autres matières, sous des droits plus élevés.....	25.00

(通譯書三)

機密交換外交文書 (一) (二) (三) (四) (五)

(11)

copy.

Secrète.

Berlin, le 24 juin 1911.

Monsieur l'Ambassadeur,

L'alinéa 3 de l'article XIX du Traité de commerce et de navigation négocié entre l'Allemagne et le Japon dispose que les Parties Contractantes se réservent, jusqu'au 31 mars 1912, la faculté de dénoncer le Traité pour le 31 décembre 1912. Avant de procéder à la signature dudit Traité, en faisant connaître à Votre Excellence l'intention du Gouvernement Impériale de renoncer à cette faculté aussitôt que le 'Reichstag' aura donné son approbation au Traité, j'ai l'honneur de Lui demander si le Gouvernement du Japon se désisterra, de même, dans ce cas, de ladite faculté.

Veillez agréer, Monsieur l'Ambassadeur, l'assurance de ma très haute considération.

(Signé) Kiderlen.

小村外務大臣時代 対独交渉 第三冊

Son Excellence
Monsieur le Baron Chinda,
Ambassadeur Extraordinaire
et Plénipotentiaire du Japon.

(11)

copy.

Secrète.

Berlin, le 24 juin 1911.

Monsieur le Secrétaire d'Etat,

En accusant réception à Votre Excellence de la lettre qu'Elle a bien voulu m'adresser en date de ce jour concernant la convention spéciale et réciproque de Douane négociée entre le Japon et l'Allemagne, j'ai l'honneur de constater que dans le cas que le droit de 33, 70 Yen sur l'indigo naturel serait réduit, le droit sur l'indigo artificiel serait réduit proportionnellement.

Veillez agréer, Monsieur le Secrétaire d'Etat, l'assurance de ma très haute considération.

(Signé) S. Chinda.

Son Excellence
Monsieur von Kiderlen-Waechter,
Secrétaire d'Etat du Département
des Affaires Étrangères.

九六一

(三)

copy.

Secrète.

Berlin, le 24 juin 1911.

Monsieur l'Ambassadeur,

Dans la Convention spéciale et réciproque de Douane négociée entre l'Allemagne et le Japon le droit sur l'indigo artificiel sec de 40 Yen pour 100 Kin, prévu dans le tarif japonais du 14 avril 1910, est consolidé. Le droit sur l'indigo naturel sec est fixé dans ledit tarif à 33, 70 Yen pour 100 Kin. Avant de procéder à la signature de ladite Convention, j'ai l'honneur de demander à Votre Excellence de bien vouloir constater que dans le cas que le droit mentionné sur l'indigo naturel serait réduit, le droit sur l'indigo artificiel serait réduit proportionnellement.

Veuillez agréer, Monsieur l'Ambassadeur, l'assurance de ma très haute considération.

(Signé) Kiderlen.

Son Excellence

Monsieur le Baron Chinda,
Ambassadeur Extraordinaire
et Plénipotentiaire du Japon.

(五)

copy.

Protocole de signature.

Les Soussignés se sont réunis pour procéder à la signature du Traité de Commerce et de Navigation et de la Convention spéciale et réciproque de Douane convus entre l'Allemagne et le Japon. Les documents précités ayant été produits et, après examen, trouvés en bonne et due forme, la signature a été opérée.

En foi de quoi les Soussignés ont dressé le présent protocole.

Fait, en double expédition, à Berlin le 24 juin 1911.

(Signé) S. Chinda.

(Signé) Kiderlen.

(四)

copy.

Secrète.

Berlin, le 24 juin 1911.

Monsieur le Secrétaire d'Etat,

En accusant réception à Votre Excellence de la lettre qu'Elle a bien voulu m'adresser en date ce jour, concernant le Traité de commerce, négocié entre le Japon et l'Allemagne, j'ai l'honneur de Lui faire connaître que le Gouvernement Impériale se désisterra de même de la faculté de dénoncer le Traité pour le 31 décembre 1912, aussitôt que le Gouvernement Allemand aura renoncé à cette faculté.

Veuillez agréer, Monsieur le Secrétaire d'Etat, l'assurance de ma très haute considération.

(Signé) S. Chinda.

Son Excellence

Monsieur von Kiderlen-Waechter,
Secrétaire d'Etat du Département
des Affaires Étrangères.

第六三号

在柏林 珍田大使

小村 大臣

貴電第七四号ニ関シ

條約全文及稅表共發表差支ナンシ尤モ当方ハ準備ノ都合モアルニ因リ総テ要領ノミヲ發表スハク發表期日ハ必スシモ同日タルヲ要セス各自ノ都合ニ依リ二十八日又ハ二十九日ノ内何レニテモ適宜ト為スコトニ致シタシ人造藍ニ關スル交換文書異存ナン尙先方ノ批准書發送ノ日取次第ニテハ七月十七日前ニ交換ノ運ニ至リ難キカ故右豫定ノ日取ヲ確メラレ必ス七月十七日前ニ到着スヘキ余日ナキニ於テハ先方ノ批准書ノ之ヲ貴館ニ交付シ我方ノ分ハ之ヲ在本邦独逸大使館ニ交付スルコトノシ双方ノ準備成リタル上同日ニ之ヲ行フコトニ此際御協議相成リタシ

五三七 明治四十四年六月二十七日

珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛(電報)

批准書交換ニ關スル件

六月廿七日 後 二、二〇〇 伯林發
六月廿八日 前 一、一〇〇 本省着

五三六 明治四十四年六月二十六日

小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛(電報)

條約全文及稅表發表ニ關スル件

六月廿六日前十時五十五分發

小村外務大臣時代 対独交渉 五三六 五三七

第八一号

小村外務大臣

珍田全權大使

貴電第六三号ニ関シ当国ニテハ二十九日ノ「ノルドイッ
チ、アルグマイネ、ツアイツング」ヲ以テ兩條約ノ摘要ヲ
公表スル由又御批准書交換ニ関シテハ当局者カ帝國政府ノ
注意ヲ多トシ居ルモ六月二十九日ニ之ヲ發送スレハ七月十
三日東京着ノ豫定ナルニ付右ニ間ニ合フヘキタメ異例ナレ
トモ聯邦會議ノ協賛前皇帝ノ御批准ヲ得ルタメ外務大臣ハ
「キエル」ニ出張シ既ニ批准ヲ經二十八日聯邦會議ニ提出
シ二十九日發送ノ手管整ヒ居ルニ付矢張東京ニ於テ批准交
換シタシトノコトナルニ付其意ニ任セ置キタリ貴電第六五
号末段ノ件ニ関シテハ御申越ノ通

五三八 明治三十四年六月二十九日

小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛

日独新條約ノ要領ト題スル印刷物送付ノ件

附屬書 日独新條約ノ要領

條第一三号

明治四十四年六月二十九日

ヲ豫想シ各締約國ニ於テ前記ノ如ク之ヲ廢棄スルノ自由ヲ
留保シタル次第ナリ

左ニ日独現行條約ト新條約トノ相違ノ主ナル点ニ付之ヲ叙
述シ以テ施條約ノ要領ヲ知ルニ便ナラシムヘシ

一、現行條約ニ於テハ一般通商航海ニ関スル事項ト輸入税
ニ関スル規定トヲ分離セスシテ同一條約中ニ記載シ只協
定從價稅ヲ從量稅ニ換算スルカ為追加約定ヲ締結セリト

雖右約定ハ固ヨリ本條約ノ補足ニ過キスシテ常ニ之ト同
時ニ終了スルモノナリ然ルニ新條約ニ於テハ通商航海條
約ト關稅條約トヲ分離シ後者ノ有効期間ハ前者ヨリモ短
ク從テ兩條約必スシモ其ノ終了期ヲ一ニスルコトナク關
稅條約ハ明治五十年一月一日以後何時ニテモ一個年ノ豫
告ヲ以テ之ヲ廢棄スルコトヲ得ルニ反シ通商條約ニ関シ
テ一個年前ノ廢棄豫告ヲ行フニハ明治五十五年七月十七
日以後ヲ俟タサルヘカラス

二、新條約ニ於ケル稅率協定ハ現行條約ノ稅率協定ト其ノ
趣ヲ異ニシ

甲、現行條約ニ於テハ帝國政府ハ總テ獨逸品ニ對シ最惠
國待遇ヲ保障スルノ外一定ノ獨逸品ニ付本邦稅率ヲ協
定シテ其ノ羈絆ニ束縛セラルルニ反シ獨逸國政府ハ本

小村外務大臣時代 対独交渉 五三八

在独 珍田大使

小村外務大臣

往電第六三号ニ関シ去ル二十八日非公式ニ發表シタル日独
新條約ノ要領三部及御送付候間御査閱相成度此段申進候

敬具

(附屬書)

日独新條約ノ要領

日独新通商條約談判ハ夙ニ兩國政府間ニ開始セラレ種々復
雜ナル商議ヲ要シタルモ彼我交讓ノ結果總テ妥協ニ至リ本
月二十四日伯林ニ於テ兩國全權委員間ニ調印ヲ了セリ
新條約ハ帝國政府ノ提案ト独國政府ノ對案トニ基キ協商確
定シタルモノニシテ通商航海條約ト特別相互關稅條約トヨ
リ成リ前者ハ輸入税ニ關スル事項ヲ規定セスシテ之ヲ後者
ニ譲リ又其ノ存続期間ニ付テモ前者ハ十二個年ナルモ後者
ハ六個年余ト定ム但シ明年三月三十一日迄ハ各締約國ニ於
テ同年十二月三十一日ヲ以テ兩條約共ニ失効セシムルノ通
告ヲ為スヲ得ルコトト定メタルハ獨逸國政府ハ曩ニ國會ノ
決議ニ依リ其ノ協賛ヲ經ルニ先テ兩條約ヲ實施スルノ權限
ヲ委任セラレタルモノ之ヲ次期ノ國會ニ提出シテ其ノ協賛ヲ
求メサルヘカラサルヲ以テ萬一右協賛ヲ得サルカ如キ場合

邦品ニ對シ單ニ最惠國待遇ヲ保障スルニ止マリ何等稅
權ヲ羈束セラルルコトナシ然ルニ新關稅條約ニ於テハ
日独兩國互ニ輸入税ニ關シ最惠國待遇ヲ保障スルト同
時ニ彼我各々一定ノ物品ニ付稅率ヲ協定シ帝國政府カ
若干ノ獨逸品ニ付稅率ヲ協定セルニ對シ獨逸國政府モ
亦一定ノ本邦品ニ付稅率ヲ協定シタルヲ以テ稅率上相
互ニ義務ヲ負擔セリ

乙、現行條約ニ於テ獨逸品ノ為設ケタル協定稅ハ本邦新
關稅定率法ノ稅番七十個目ニ涉リ織絲類、綿織物、麻
織物、毛織物、鉄、鉄釘類、「レール」、革類、紙類、
帽子及護謨製品ノ各全部、精糖、諸藥品、諸染料、窓
玻璃、鐵道機關車及客車、掛時計及置時計、「セメン
ト」、電線、牛乳及煉乳等多數ノ物品ヲ包含セリト雖
新條約ニ於テ獨逸品ノ為設ケタル協定稅率ハ稅番十一
個目ニ關係スルニ止リ即チ革類ノ一部、「サリチール」
酸、塩酸及硫酸「キニーネ」、人造乾藍、「アリザリ
ン」其ノ他ノ染料、毛織物ノ一部、毛綿交織物ノ一部、
包裝及燐寸用紙、亜鉛厚板、瓦斯機關類ノ重量大ナル
モノ及之ト結合シタル發電機中重量大ナルモノノミニ
付協定セリ

丙、独逸ニ対スル右新條約ノ協定品中人造乾藍、瓦斯機
 關類及之ト結合シタル發電機ノ三目ハ日独現行條約ノ
 協定品ニ非スト雖其ノ他ハ總テ該現行條約ノ協定品中
 ニ包含セラレ新協定税率ハ現行協定税率ヨリモ高率ナ
 リ而シテ人造乾藍ハ從來乾藍ニ關スル日英現行協定税
 百斤十二円九十五錢三厘ノ輕率ニ均霑セルカ日独新條
 約ニ於テハ本邦新協定税率百斤四十円ノ据置ヲ約定シ
 之ヲ輕減スルコトナシ又瓦斯機關類及之ト結合シタル
 發電機ニ關スル日独新協定ハ本邦新協定税率ニ於ケル
 此等機關ノ分類上重量ノ最大ナルモノニ付更ニ細分ヲ
 加ヘテ之ニ相応スル税率ノ段階ヲ設ケタルモノナリ
 (別表甲号参照)

丁、現行條約ニ於テハ本邦品ノ為何等協定税率ノ設ナシ
 ト雖新條約ニ於テハ本邦重要品ノ為独逸國ノ輸入税率
 ヲ協定シ羽二重、羽二重手巾、漆器、花筵、貝製鈕
 釦、麦稈真田、経木真田、木蠟、寒天等ノ九品即チ独
 逸國定税率稅番十二個目ニ涉リ或ハ税率ヲ輕減シ或ハ
 現行率ノ据置ヲ約定セリ之ヲ詳言スレハ羽二重ニ關シ
 テハ目付三匁以上ノモノハ總テ每百基三百麻克ト定メ
 タルカ故近來往々千五百麻克ノ高稅ヲ賦課セラレタル

六、現行條約ニ於テハ永代借地權ニ關スル規定ヲ存スルモ
 新條約ニ於テハ之ヲ削除セリ但シ本件ノ根本的處理ニ付
 テハ別ニ兩國政府間ニ商議スル筈ナリ

七、新條約ニ於テハ商事会社ノ互認、國境貿易及漁産ニ關
 スル除外例ノ如キ現行條約ニ見サル規定ヲ設ケタリ又工
 業所有權ノ保護ニ關シテハ之ヲ萬國條約ノ規定ニ讓リテ
 新條約ニ規定セス只將來兩國ノ執レノ一方タリトモ右萬
 國條約ヨリ脱退シタル場合ニハ他ノ一方ト本件ニ付特別
 取極ヲ締結スヘキコトヲ新條約談判中相互ニ声明セルコ
 ト日英間ニ於ケルト相同シ

輕目物ト雖苟モ三匁付以上タルニ於テハ新協定ノ便益
 ニ浴シ三百麻克ヲ負擔スルニ止マルヘク其ノ他羽二重
 手巾、漆器、精製花筵、木蠟及寒天ニ付テハ独逸ノ國
 定又ハ同國ト他國トノ協定ニ依リ現行税率ヲ引下ケ粗
 製花筵、貝製鈕釦及真田ニ付テハ之カ据置ヲ協定セリ
 (別表乙号参照)

三、現行條約ニ於テハ總テ本邦國定税率ノ改正ハ其ノ公布
 後六個月ヲ經ルニ非サレハ之ヲ独逸ヨリノ輸入品ニ適用
 スルヲ得サルノ規定アリト雖新條約ニ於テハ固ヨリ斯ル
 制限ヲ存セス

四、現行條約ニ於テハ土地所有權ニ關シ何等規定スル所ナ
 シト雖新條約ニ於テハ一般ニ不動産ノ取得ニ關シ各自國
 内法カ外國人ニ認ムル範圍内ニ於テ相互ノ條件ニ依リ互
 ニ最惠國待遇ノ許与ヲ保障スルコト日英新條約ト同シ

五、沿岸貿易ニ關シ現行條約ニ於テハ大阪、新潟及夷港ヲ
 除キ現行條約締結當時ノ開港場間ニ独逸船舶力貨物運搬
 ニ從事スルコトヲ認許セリト雖新條約ニ於テハ斯ル規定
 ヲ削除シ全ク各自ノ国内法ニ依リテ沿岸貿易ヲ規定スル
 コトトシ只相互ノ條件ニ依リ最惠國待遇ヲ保障スルニ止
 メタリ

以上ハ新條約ト現行條約トノ對照上相違ノ主ナル点ナルカ
 其ノ他ノ事項ニ於テハ實質上互ニ大差ナシ領事官ノ任命及
 其ノ特權等ニ關シテハ新條約モ現行條約ト均シク之ヲ規定
 セス兩國間ニ締結スヘキ新領事職務條約ニ讓ルコトトセ
 リ
 新通商航海條約及特別相互關稅條約ニシテ愈々兩國ニ於テ
 批准ヲ經本年七月十七日ヨリ現行條約ニ代リテ實施セラル
 ルニ至ラハ好ク事態ニ適応シ彼我ノ通商關係ニ安固ヲ保障
 スルノミナラス兩國ノ親交ニ貢獻スル所少カラサルヘキヲ
 確信ス

甲 号表
本邦關稅

七二革 類

一 牛革、水牛革、馬革、綿羊革及山羊革

乙 染メタルモノ又ハ著色シタルモノ
(ローラーレザークヲ除ク)

丙 其他(塗ラス、染メス又ハ著色セサルモノ)

丙ノ一 牛革、水牛革及馬革

小村外務大臣時代 対独交渉 五三八

單位	關稅	單位	協定稅率
稅率	稅率	稅率	稅率

從價 二割 從價 一割五分

ハ 其ノ他(靴底革ニ非ス又ハ印度紅革ニ非サルモノ)

従価 二割

従価 一割五分

一五七 サリチール酸

毎百斤 一一、六〇

毎百斤 七、二〇

二〇九 塩酸キニーネ及硫酸キニーネ

同 一三五、〇〇

同 六〇、〇〇

二三七 人造藍

同 四〇、〇〇

同 四〇、〇〇

一 乾キタルモノ

同 七、〇〇

同 五、六〇

二四三 アリザリン染料、アリニン染料其ノ他別号ニ掲ケサルコイルタル染料

同 七、〇〇

同 五、六〇

二八三 毛織絲

同 七、〇〇

同 五、六〇

一 染メサルモノ又ハ捺染セサルモノ

同 七、〇〇

同 五、六〇

丙 其ノ他(梳毛絲ト紡毛絲ト又ハ番手ノ異リタル絲ヲ撚リ合セタルモノニ非ス)又ハ輪絲ニ非サルモノ

同 七、〇〇

同 五、六〇

丙ノ一 梳毛ノモノ

同 七、〇〇

同 五、六〇

イ ルモノ

同 一三、二〇

同 一三、二〇

ロ 其ノ他

同 一三、二〇

同 一三、二〇

三〇一 毛織物、毛綿交織物及毛又ハ毛綿ト絹トノ交織物

同 一三、二〇

同 一三、二〇

二 其ノ他(天鷲絨、ブラッシュ其ノ他ノパイル織物ヲ総テ除キタルモノ)

同 一三、二〇

同 一三、二〇

乙 毛綿製ノモノ

同 一三、二〇

同 一三、二〇

イ 一平方メートルニ付百グラムヲ超エサルモノ

毎百斤 五五、〇〇

毎百斤 四四、〇〇

ロ 一平方メートルニ付二百グラムヲ超エサルモノ

同 五二、五〇

同 四二、〇〇

三六七 包装用紙及燐寸用紙(チッシュペーパーヲ除ク) 四六七 亜鉛

毎百斤 一、七五

毎百斤 一、五〇

二 板

同 一、七五

同 一、五〇

丙 其ノ他(ニッケル鍍及塗料ヲ施シタルモノヲ総テ除キタルモノ)

同 二、九五

同 二、二〇

ロ 其ノ他(厚〇、一五ミリメートルルヲ超エタルモノ)

同 二、九五

同 二、二〇

五七七 瓦斯機関、石油機関及熱氣機関

同 二、九五

同 二、二〇

五 其ノ他(一箇ノ重量二千五百キログラムヲ超エタルモノ)

同 五、〇〇

同 三、五〇

五八〇 原動力機ト結合シタル發電機 三 瓦斯機関、石油機関又ハ熱氣機関ト結合シタルモノ

同 五、〇〇

同 三、五〇

己 其ノ他(一箇ノ重量五千キログラムヲ超エタルモノ)

同 五、八〇

同 四、九〇

(一箇ノ重量五千キログラムヲ超エ一萬キログラムヲ超エタルモノニ付テハ何等ノ協定ナキヲ以テ固定税率ノ五円八十銭ヲ課セラルルモノトス)

同 一箇ノ重量一萬キログラムヲ超エタルモノ 五、五〇

同 一箇ノ重量十萬キログラムヲ超エタルモノ 五、二〇

同 其ノ他 四、九〇

乙号表
独逸関税
表 税 番 品 名

- 七二 木 蠟(櫛ノ) 加工セサルモノ
- 一四三 寒 天
- 二四七 木 蠟(櫛ノ) 加工シタルモノ
- 四〇一 平織羽二重(生糸練) 目付三匁以上ノモノ

- 四〇五 目付三匁以上ノ平織羽二重ヲ以テ製シタル手巾
- 五八七 経木真田(染メタルモノヲ含ム)
- 五八八 麦稈真田 漂白セサルモノ、染メサルモノ

- 五八九 花 筵 漂白シタルモノ、染メタルモノ

粗ナルモノ
其ノ他

- 六〇六 貝製鈕釦
- 六三一 日本漆器(木製ノモノ)
- 六七〇 日本漆器(紙製ノモノ)
- 八七八 日本漆器(銅又ハ真鍮製ノモノ)

五三九 明治四年六月三日 絹織物聯合組合長ヨリ
川島書記官宛

羽二重ニ対スル独逸関税ニ関シ謝辭ノ件

(私信)

謹啓

益々御清栄之段奉大賀候陳者先般来独逸関税問題ニ関シテハ多大ノ御配慮ヲ煩シ候段奉深謝候然ルニ今回御發表ニ相成候改正日独逸通商條約ヲ拜誦致候処羽二重関税ノ義ハ吾々当業者ノ希望相違シ得候儀ハ偏ニ御配慮ノ致ス処ト生等一同奉感銘候茲ニ於テカ吾人当業者ハ漸ク愁眉ヲ開キ安心業務ニ従事スルヲ得申候間為國家聊カ御安心被下度願上候先不取敢御札ノ御挨拶迄右申上度如斯御座候 早々敬具

小村外務大臣時代 対独交渉 五三九 五四〇

單位	固定稅率	單位	協定稅率
每百基	一〇	每百基	五
同	一〇	同	無稅
同	一五	同	一〇
同	三〇〇	同	三〇〇
同	(備考)	同	四〇〇
同	八〇〇	同	一
同	二	同	無稅
同	無稅	同	無稅
同	八	同	六
每百基	三	每百基	三
同	二四	同	一一
同	(備考)	同	一二
同	二一〇〇	同	一五〇
同	三六	同	二〇
同	三〇	同	二〇
同	三〇	同	二〇
同	三〇	同	二五

(備考)

近來輕目羽二重ハ稅番第四〇八号ノ下ニ每百基千五百麻克ヲ課セラレタルモ新協定ニ依リ三匁付以上ノモノハ總テ三百麻克ニ輕減セラレタリ

(備考) 本邦ヨリノ輸入品ハ從來主トシテ之ニ屬セリ

(備考) 本邦ヨリノ輸入品ハ從來主トシテ精製ニ屬セリ

六月三十日

絹織物聯合會

組長 千葉栄三郎

羽二重業大會委員一同

川島書記官殿

五四〇 明治四年六月三日 珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛(電報)

羽二重目付ニ関シ問合セノ件

六月三十日 後三、三〇 伯林發
七月一日 前七、三五 東京着

第八二号

小村外務大臣

珍田全權大使

羽二重ノ重量ニ関シ一匁ヲ三「グラム」七十五ニ換算シ可然ヤ先方ヨリ聞合セアリタリ右ハ度量衡法規定ノ通ナレトモ之ニ從ヒテ計上スルトキハ貴電第五十二号所載ノ十三「グラム」ノ計算合一セサルニ付一応御意見伺フ

五四一 明治卅四年七月二日

小村外務大臣ヨリ
珍田駐独大使宛(電報)

羽二重目付ニ関シ回答ノ件

附記 羽二重目付ニ関スル調査

七月一日前十一時二十五分發

第六七号

在伯林 珍田大使

小村 大臣

貴電第八二号ニ関シ

匁ノ換算ハ先方申出ノ通ニテ可ナリ往電五二号ノ十三グラムハ右電報記載ノ通り一平方メートルヲ單位トシテ重量ヲ量リタルモノニシテ目付ヲ單位トシタルモノニ非サルニ付左様御承知アリタシ

九一センチメートル)ノモノハ百四十四匁(五四〇グラム)ヲ超ユルモノナルヲ要ス

三匁付羽二重一疋ノ重量

三匁付トハ巾一吋半(三、八一センチメートル)長サ

二十五碼(二二八五、九九センチメートル)ニ対スル

重量三匁(一匁ハ三、七五グラムトシ即チ一一、二五グラム)アルモノトシテ計算セルモノ

尺五(五六、八二センチメートル)

八十九匁四八(三三五、五五グラム)

尺八(六八、一八センチメートル)

百〇七匁三八(四〇二、六六グラム)

二四(九〇、九一センチメートル)

百四十三匁一七(五三六、六一グラム)

五四二 明治卅四年七月二日

珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛(電報)

日独新條約ニ対スル新聞論調通報ノ件

七月二日 後一一、三五 伯林發
七月三日 前一一、五〇 本省着

小村外務大臣時代 対独交渉 五四二

(附記)

川島

奥田 守也

羽二重目付ニ就テ

商業市場ニ於テハ羽二重目付ヲ計算スルニ當リテハ例ヘハ二匁半、二匁四分ノ三、三匁四分ノ一、三匁半ト分類スルノ慣例ナルカ故ニ三匁付ナルモノハ二匁八分ノ七乃至三匁八分ノ一ノモノ即チ之ヲ長サ五十碼(即チ四五七一、九九センチメートル)、一疋ニ付テ云ヘハ巾尺五ノモノハ八十六匁二五乃至九十三匁七五、巾尺八ノモノハ百〇三匁五乃至百十二匁五、巾二尺四寸ノモノハ百三十八匁乃至百五十匁ノモノヲ包含スルモノト雖今回日独協定ニ於テ目付三匁トハ羽二重ノ巾尺一寸(三、七九センチメートル)即チ一吋半長サ二十五碼(二二八五、九九センチメートル)ニ対スル重量三匁(一匁ハ三、七五グラム即チ一一、二五グラム)ヲ要スルコトト定メタルヲ以テ右協定ノ利益ヲ得ル為ニハ其ノ目付現実ニ三匁ヲ超ユルモノニ限り即チ羽二重ノ一疋ノ重量尺五(五六、八二センチメートル)ノモノハ九十匁(三三七、五グラム)、尺八(六八、一九センチメートル)ノモノハ百〇八匁(四〇五グラム)二尺四寸(九〇、

第八四号

小村外務大臣

珍田全權大使

六月二十九日「ノルドドイテ、アルゲマイ子、ツアイツング」ヲ以テ公表セラレタル新日独條約要領ニ対シ六月三十日「フランクフルテル、ツアイツング」ノ加ヘタル長文ノ評論ハ同新聞ノ商工業社会ニ於ケル(地位ニ顧ミ)?注意ニ値スルニ付左ニ其ノ要領ヲ電報ス

日独條約大体ノ規定ハ甚シキ反對ヲ受ケサルヘケレトモ沿海貿易ノ特權ヲ維持スル克ハサリシコトハ極東在留独逸國人ノ大ニ遺憾トスル所ナラン然レトモ元來日本國ハ沿海貿易ヲ外國ニ許ササル主義ヲ執リ國民的自主ノ觀念ヲ以テ之ヲ維持スルモノナレハ已ムヲ得サル次第ナリ此ノ國民的自主觀念ハ此ノ一事ニ止マラス改約談判ニ際シ各方面ニ發現シタル所ニシテ就中關稅條約ニ於テ非常ノ勢力ヲ有シタリ之レ蓋極東政治經濟急變ノ結果ニシテ露國ニ勝テ英國ト同盟ヲ結ヘル日本國々民の自主觀念大ニ允進シ高率ノ關稅表ヲ作り之ニ手ヲ触ルルコトヲ許ルササル主義ヲ執ルヲ以テ外國談判委員ハ之ニ對シ策ヲ施スヘキ余地ナシ要スルニ今回ノ談判ハ兩國全然對等ノ基礎ニ依ラサルヘカラサルノミナラス兩國間貿易關係上独逸國ハ條約ノ成否ニ利害關係ヲ

有スルコト日本国ニ比シ一層多キニ付独逸國談判委員ハ最
初ヨリ困難ノ地位ニ在リ此ノ情況ノ下ニ独逸國方最惠國待
遇ニ依リテ英國ノ協定ニ均霑スルコトトナリタルカ上ニ
本條約中最重要ナル關稅條約ヲ締結シ得タルハ好結果ト云
ハサルヘカラス革類、化学的製品、毛織糸及一、二、毛織
交織物類ニ關稅ノ輕減ヲ得タルハ懽フヘキモ鉄類ニ關シ
機械類中ノ一少部ヲ除キ他ニ何等ノ讓歩ヲ得サリシハ遺憾
ナリ但シ日本國ハ内地産業保護上到底之ヲ肯ンセサリシナ
ルヘン又電氣工業製作品モ極メテ僅少ノ例外ヲ除キ關稅輕
減ヲ得サリシガ將來果シテ販路ヲ維持シ得ヘキヤ否ヤハ疑
問ナリ人造藍ニ對スル高稅ヲ輕減スルコト克ハスシテ單ニ
拘束ニ止メタルハ我工業ニ對スル大打撃ナリ右ニ對シ独逸
國ノ日本ニ与ヘタル讓歩ハ比較的ニ大ナリ就中羽二重稅率
ヲ三百麻克ニ拘束セシメタルハ不安ニ堪ヘサル所ナリ蓋此
ノ輕稅ハ嘗テ我絹織物業者ノ希望ニ基キタルモノナルニ相
違ナキモ今日ハ事情全ク一變シ我當業者ハ廉價ノ日本品ノ
我工業ニ与フル危険ヲ感シ熱心ニ此ノ稅率引上ヲ要求シ
ツツアルモノナリ当局者カ右ノ情勢ニ拘ラス此ノ拘束ヲ承
諾シタルハ惟フニ瑞西國ト協定セル加工絹物ニ對スルト均
衡ヲ保ツ必要ニ出テタルモノナラン木蠟ノ減稅ハ何等ノ影

響ナク其ノ他ノ輕減ヲ許ルシタルモノハ悉ク日本國ノ特産
物ナルヲ以テ此等ノ日本品ハ今後益々其ノ販路ヲ擴張ス
ヘシ
要スルニ新條約ニ對スル批評ハ区々ナルヘシト雖帝國議會
カ此ノ條約ヲ以テ無條約ニ優ルモノト認ムヘキハ疑ヲ容レ
ス但シ日本國保護稅ノ大波瀾カ我貿易ニ大ナル損害ヲ与フ
ヘキハ逆觀スルニ難カラス云々

五四三 明治四十四年七月三日 珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛(電報)

宮城福島兩県絹商ノ羽二重不正精練ニ關シ

照会ノ件

附 記一 六月十四日付宮城県知事報告

二 農商務省報告

七月三日 後三、二四 伯林發

七月四日 後五、三〇 本省發

第八五号

小村外務大臣

珍田全權大使

七月一日「フオオンツシエ、ツアイツング」ハ六月八日東京
通信トシテ宮城県福島県絹商ハ仙台精練所ト共謀シ精練ノ

際化学的物質ヲ加ヘテ羽二重ノ重量ヲ増シ県庁検査官ハ之
ヲ默認シタルコト發覺シテ近々裁判ニ附セラルヘク斯ノ如
キ絹物ハ昨年八月以來多量ニ横浜ニ積出シアルニ付欧州絹
商人ハ警戒ヲ要ストノ記事ヲ掲ケタリ
右ニ付日独改約談判委員カ独逸國政府カ日本國羽二重検査
所ヲ信用シ將來其ノ檢印アルモノハ通關セシメ差支ナキ旨
各稅關ヘ内訓セントスル折柄斯ノ如キ報伝ハリテハ右実行
ニ關スル政府ノ立場ヲ困難ナラシムルニ付日本國政府ハ嚴
重ニ取締ヲ為ス意ナル旨言明シ得ル何等根拠ヲ得タキ希望
ヲ述ヘタリ就テハ本件事実ノ真相至急御回報アリタシ

(附 記一)

内秘第九六一号

明治四十四年六月十四日

宮城県知事 寺田祐之(印)

農商務大臣男爵 大浦兼武殿

本県製産ノ羽二重不正精練ノ件東京及地方新聞ニ記載有之
ニ付嚴ニ調査ヲ遂ケタル処「株式会社」 仙台整練場專務取
締役小関勇五郎ハ當業者間ニ該整練場ニ於ケル精練羽二重
ノ練減歩合ハ他ノ精練ニ比シ減差甚シトノ非難アルヲ聞キ

小村外務大臣時代 対独交渉 五四三

其非難ヲ避ケンカ為メ密ニ藥品増量「マゲネシウム」及糖
分ヲ使用シテ量目ノ増加ヲ図リタル事実ヲ發見セリ尤モ
此等ノ製品ニ對シテハ県検査所ニ於テ從來一定ノ検査ヲ施
行シ来リタルモ「其増量精練ノ方法巧妙ニシテ」普通ノ檢
査法ヲ以テ發見スルコト能ハサリシニ本年三月頃横浜取引
所商店ニ於テ該羽二重約二十疋許或ル目的ニ使用スル為メ
染色シタル結果著シク減量ヲ生シタルニ因リ發見セラレタ
ル趣ニテ爾來整練場ニ於テハ不正増量ヲ止ムルト共ニ專務
取締役及此事ニ關係ヲ有スル當業者等ハ横浜商店トノ間ニ
交渉ヲ重ネ不正品ノ練直シヲ為スコトトシ專ラ信用ノ回復
ニ務メ其事実ヲ秘密ニ附シ内部ノ不整理ヲ蔽ハントシ彌縫
ニ波々タリシ処今回或ル動機ニ因リ其内情外間ニ暴露シタ
ル次第ニ有之候右仙台整練場ハ創立以來數年ヲ経過シ其間
精練ノ正確ニ依リ斯界ノ信用ヲ得県下羽二重業ノ發達ニ
資センコトヲ期シ今ヤ漸次声価ヲ高メントスルニ際シ如此
不祥事ヲ生シタルハ實ニ遺憾ノ至リニ堪ヘス依テ善後ノ措
置トシテ先ツ專務取締役小関勇五郎ヲ退職セシメ又主トシ
テ其事ニ當リタル職工壹兩名ヲ解僱スル様他ノ取締役監查
役等ニ諭示シタルニ何レモ同意ノ旨ヲ答ヘ実行ニ着手セリ
猶專務取締役小関勇五郎ハ輪出羽二重取締規則違反トシテ

刑事訴訟ニ付スル見込有之候右ハ專重要輸出品ニ関スルヲ以テ事件ノ概要及報告候也

(附記一)

農商務省報告

宮城県羽二重ニ増量目アリシハ事実ナルモ其ノ正数ハ多カラス○絹商カ稟検査所ト結托シタルコトナシ○但シ増量ノ度合ヒ多カラサル故検査所ニ於テ気付カサリシコトハ事実ナリ○右ハ農商務大臣ノ定メタル輸出羽二重取締規則(明治三十八年一月公布)違反ナル故本件ハ目下裁判所ニ繫属審理中ナリ何レ罰セラルルコトトナラン○政府ハ羽二重ノ稟検査ヲ嚴重且正確ナラシムルニ付テハ之レカ為本年度ヨリ産地各県ニ国庫補助金ヲ給シ羽二重検査統一ニ関スル細則ハ農商務大臣之ヲ公布シタリ
詳細ハ五月十三日ノ官報ニアリ

五四四 明治四年七月三日 珍田駐独大使ヨリ 小村外務大臣宛(電報)

関税註解發表ニ関スル件

七月三日 後三、四五 伯林發
七月四日 前七、五五 本省着

シタン当方ニテハ條約ト同時ニ官報ノ別欄ニテ官庁彙報トシテ發表スル管

五四六 明治四年七月十日 小村外務大臣ヨリ 桂総理大臣宛

日独通商航海條約及特別相互關稅條約御批准
奏請ノ件並ニ決裁

- 附屬書一 日独通商航海條約
 - 二 特別相互關稅條約
 - 三 機密交換文書(一)(二)(三)(四)(五)
 - 四 上奏案
 - 五 御批准書案(一)(二)
- 附記 裁可通牒ノ件

機密送第七六号

明治四十四年七月十日

桂内閣總理大臣宛

小村外務大臣

独逸国トノ新通商航海條約及特別相互關稅條約客月二十四日伯林ニ於テ彼我全權委員間ニ署名調印ヲ了シ候ニ付之カ御批准ノ儀ニ関シ別紙ノ通上奏候間可然御取計相成度候

小村外務大臣時代 対独交渉 五四六

第八六号

小村外務大臣

珍田全權大使

條約公布ト同時ニ發表スヘキ關稅註解ハ appendix トシテ左記冒頭ノ下ニ往電第七五号註釈ヲ掲クルコトニ取極メ差支ナキヤ但シ羽二重製手中ニ対スル註ハ稅率表中ニ記載スルコト既報ノ通り

Au cours des négociations, on est tombé d'accord les points qui suivent.

五四五 明治四年七月五日 小村外務大臣ヨリ 珍田駐独大使宛(電報)

關稅註解ニ関シ回訓ノ件

七月五日前十時十五分發

第六八号

在独 珍田大使

小村 大臣

貴電第八六号ニ関シ

appendix ト題スルトキハ恰モ條約其者ニ附屬シテ共ニ一
文書ヲ構成セルカ如ク見エ却テ誤解ヲ生セシムルカ故右様
ノ題ヲ設ケス御來示ノ冒頭文ノミヲ以テ發表スルコトニ致

独逸国ニ於テハ通商航海ニ關スル條約ハ憲法上議會ノ協贊ヲ要スル儀ニ有之候処今回ノ新條約ニ付テハ談判ノ経過ニ依リ議會ノ開會中ニ之カ調印ノ運ニ立至リ難キ見込相立候ニ付独逸国政府ハ之ニ処スルノ弁法トシテ豫メ議會ノ委任ヲ求メ其ノ協贊ヲ經ルニ先立テ新條約ヲ實施スルノ權限ヲ得更ニ之ヲ次期ノ議會ニ提出シテ協贊ヲ求ムルコト、為シタルヲ以テ万一右協贊ヲ得サルカ如キ場合ヲ慮リ通商航海條約第十九條及特別相互關稅條約第七條中ニ夫々明年三月三十一日迄ハ各締約国ニ於テ同年十二月三十一日ヲ以テ條約ヲ失効セシムル為通告ヲ發シ得ル旨ノ規定ヲ挿入致候右ハ全ク独逸国政府ト議會トノ關係ニ基キタルモノナルカ故別紙甲号ノ通條約調印ノ際兩國全權委員間ニ機密文書ノ交換ヲ行ヒ独逸国政府ハ議會ノ協贊ヲ得ルト同時ニ前記廢棄ノ權能ヲ拋棄スヘク其場合ニハ帝國政府モ亦均シク該權能ヲ拋棄スヘキ旨協定致候
人造藍ノ輸入稅ニ付テハ独逸国政府ハ頻ニ之カ輕減ヲ要求シタルモ帝國政府ハ新國定稅率ノ据置ヲ約スルヲ以テ最終ノ讓歩トシテ結局独逸国政府ニ於テ之レニテ満足シタルカ將來若シ天然藍ノ稅率ヲ輕減スルコトアラハ同一比例ニテ人造藍ノ稅率ヲモ輕減セラレタキコトヲ要求致候然ルニ藍

ニ対スル新税率ハ固ト本邦産天然藍ヲ保護センカ為定メラレタルモノナレハ近キ将来ニ於テ天然藍ニ対スル税率ヲ引下クルカ如キコトハ万々之ナキニ因リ独逸国政府ノ右要求ハ實際上無用ニ属スト雖同政府ハ切ニ之ヲ希望シタルニ因リ帝国政府ヘ之ニ応スルモ差支ナシト認め只之ヲ條約ノ明文ニ載セスシテ別紙乙号ノ通機密文書ノ交換ニ依リテ許諾スルコトト致候

尙彼我協定税表ニ關シ談判中相互ノ合意ヲ経タル註釈別紙丙号ノ通ニ有之候右ヘ之ヲ公示スルコト適當ト認め候間條約公布ト同日ノ官報ニテ彙報欄官庁事項トシテ發表スル管ニ有之候

永代借地權ノ根本的処理ハ別ニ兩國政府間ノ商議ニ讓ルコトトナシ其ノ商議終了迄ハ最惠国待遇ヲ保障スヘキ旨ヲ會議録中ニ記載シ本件ニ關スル規定ハ凡テ條約中ヨリ削除スルコトト致候

工業所有權ノ保護ニ關シ新條約中ニ規定セムコトヲ独逸国政府ヨリ提議シタルモ商議ノ結果之ヲ万国條約ノ規定ニ讓リ新條約ニ於テハ何等規定ヲ設ケス只將來兩國ノ孰レノ一方タリトモ右万国條約ヨリ脱退シタル場合ニハ他ノ一方ト本件ニ付特別取扱ヲ締結スヘキコトヲ談判中相互ニ声明シ

一 居住スルコト、修学研究ヲ為スコト、生業職業ニ從フコト及生産製造ノ業ヲ営ムコトニ關スル一切ノ事項ニ付總テ最惠国ノ国民ト同一ノ基礎ニ置カルヘク

二 内国民ト均シク締約国ノ他ノ一方ノ版図内ヲ旅行スルノ權利ヲ有シ又適法ナル商業ノ目的物タル各種商品ノ取引ニ從事スルノ權利ヲ有スヘク

三 家屋、製造所、倉庫、店舗及附屬構造物ヲ所有又ハ賃借シテ之ヲ使用シ又住居、商業、生産業、製造業其ノ他適法ナル目的ノ為土地ヲ賃借スルコトヲ得ヘク

四 各種動産ヲ占有スルコト、生存者間ニ於テ適法ニ取得シ得ヘキ各種動産ヲ遺言其ノ他ノ方法ニ因リテ処分スルコトニ關シ内国民又ハ最惠国ノ国民ト同一ノ特權、自由及權利ヲ享有シ且此等ノ事項ニ付内国民ハ最惠国ノ国民ヨリモ多額ナル何等ノ租稅又ハ課金ヲ課セラルルコトナカルヘク

五 国法ニ依リ別国ノ国民カ取得占有スルコトヲ得又ハ得ルコトアルヘキ各種ノ不動産ヲ相互ノ條件ニ依リ且常ニ右国法ノ定ムル條件及制限ニ從ヒ取得占有スルコトヲ得ヘク

六 陸軍、海軍、護国軍又ハ民兵ノ何レタルヲ問ハス總テ

之ヲ會議録ニ記載スルニ止メタルコト日英間ニ於ケルト同様ニ有之候
新條約仏文及邦文各三部相添右申進候也

(附屬書一)

日独通商航海條約

(訳文)

日本国皇帝陛下及独逸帝国ノ名ヲ以テスル独逸皇帝普魯西国皇帝陛下ハ齊シク兩國間ノ經濟關係ヲ円滑ナラシメ且之ヲ増進セシメムコトヲ欲シ之カ為ニ通商航海條約ヲ締結スルコトニ決定シ日本国皇帝陛下ハ独逸国駐劄特命全權大使從三位勲一等男爵珍田捨巳ヲ独逸皇帝普魯西国皇帝陛下ハ外務大臣「コンセイエ、アンチム、アクチュエル」アルフレッド、フォン、キダーレンウエヒターヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ之カ良好妥当ナルヲ認めタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

両締約国ノ一方ノ国民ハ他ノ一方ノ版図内ノ各地ニ到リ又ハ滞在スルコトニ付完全ナル自由ヲ有スヘシ

該国民ハ国法ニ遵由スルニ於テハ左記ノ權利ヲ享有スヘシ
ノ強制兵役ヲ免レ且服役ノ代トシテ課セラルル一切ノ租稅並強募公債ヲ免ルヘク内国民又ハ最惠国ノ国民ト同一ノ條件及基礎ニ依ルノ外如何ナル軍用徵發又ハ取立金ヲモ課セラルルコトナカルヘク

七 又何等ノ名義ヲ以テスルモ内国民又ハ最惠国ノ国民カ納付シ又ハ納付スルコトアルヘキ所ト異ナルカ或ハ之ヨリ多額ナル課金又ハ租稅ヲ徵收セラルルコトナカルヘシ

第二條

両締約国ノ一方ノ国民カ他ノ一方ノ版図内ニ於テ有スル家宅、倉庫、製造所及店舗並一切ノ附屬構造物ハ侵スヘカラズ右建物又ハ附屬構造物ニ付テハ内国民ニ對スル法定ノ條件及法式ニ依ルノ外臨檢搜索ヲ為シ又ハ帳簿、書類若ハ計算書ヲ検査点閱スルコトヲ得ス

第三條

両締約国版図ノ間ニハ相互ニ通商及航海ノ自由アルヘシ締約国ノ一方ノ国民ハ他ノ一方ノ版図内ニ於テ外國通商ノ為ニ開カレ又ハ開カルルコトアルヘキ一切ノ場所、港及河川ニ船舶及貨物ヲ以テ自由ニ到ルコトヲ得但シ常ニ到達国ノ国法ニ從フコトヲ要ス

第四條

両締約国ノ一方ノ版図内ノ生産又ハ製造ニ係ル物品ニシテ他ノ一方ノ版図内ニ輸入セラルルモノニ対スル輸入税ハ兩國間ノ特別取極又ハ各自ノ国内法ニ依リテ之ヲ定ムヘシ締約国ノ孰レノ一方タリトモ他ノ一方ノ版図ニ輸出セララル物品ニ対シ同様ノ物品カ別国ニ輸出セララルニ当リ納付シ又ハ納付スルコトアルヘキ所ト異ナルカ或ハ之ヨリ多額ナル何等ノ税金又ハ課金ヲ課スルコトヲ得ス

第五條

両締約国ハ輸入、輸出又ハ通過ノ禁止ニ依リテ相互ノ通商關係ヲ妨ケサルヘキコトヲ約ス

左記ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ対シ例外ヲ設クルコトヲ得但シ別国一般ニ又ハ同一ノ條件ノ下ニ在ル別国ニ対シ總テ適用セラルルモノタルコトヲ要ス

一 非常ノ場合ニ於テ軍需品ニ関スルトキ

二 公安ニ関スルトキ

三 公共衛生ニ関スルトキ及動物又ハ有用植物ヲ病疫又ハ

寄生物ニ対シテ保護セムトスルトキ

四 内国商品ノ製産、販売又ハ運搬ニ関シテ国内法ヲ以テ

ハ各締約国ニ於テ一時無税輸入ヲ許可セラルヘシ但シ此ノ特權ハ物品ノ数量又ハ価額ニ徴シ見本ト認ムルコト能ハサルモノ又ハ其ノ性質上再輸出ノ際校合スルコト能ハサルモノニハ之ヲ与フルコトナシ見本カ無税輸入ヲ許可セラルヘキモノタルト否トヲ決定スルハ何レノ場合ニ於テモ輸入地当該官庁ノ權内ニ專屬ス

第八條

前條ニ掲クル見本ニ対シ其ノ輸出ノ際両締約国ノ一方ノ税関カ施シタル記号、極印又ハ印章ハ右見本ノ詳細ナル説明ヲ記載シ該税関ノ公ノ査證ヲ有スル目録ト共ニ其ノ見本品タルコトヲ證明スルモノトシテ且該目録列記ノモノタルコトヲ確認スルカ為必要ナル外右見本ヲシテ検査ヲ免レシムルモノトシテ互ニ他ノ一方ノ税関ヨリ承認セララルヘシ但シ其ノ特ニ必要ト認ムル場合ニハ更ニ記号ヲ該見本ニ施スコトヲ得

第九條

両締約国ノ一方ノ版図内ニ住居ヲ有スル商工業又ハ金融業ニ関スル株式会社其ノ他ノ会社及組合(保險会社ヲ包含ス)ニシテ該国ノ国法ニ從ヒ法律上成立セルモノハ他ノ一方ノ版図内ニ於テ法律上成立セルモノト認メララルヘク且其

定メタル禁止又ハ制限ヲ同種ノ外国商品ニ適用セムトスルトキ

第六條

両締約国ノ一方ノ国民ハ他ノ一方ノ版図内ニ於テ通過税ノ免除、税関庫入、輸出奨励金、戻税及商品ノ輸出入ニ関スル便益ニ付内国民ト全ク均等ノ待遇ヲ享受スヘシ

第七條

両締約国ノ一方ノ官庁ヨリ發給シタル營業證明書ヲ提示シ以テ該国版図内ニ於テ營業ニ從事スルヲ得ルコトヲ證明スル商工業者ハ他ノ一方ノ版図内ニ於テ本人自ラ又ハ旅商ヲ使用シテ物品ヲ買入レ見本携帯又ハ不携帯ニシテ注文ヲ取集ムルコトヲ得而シテ右商工業者及其ノ使用スル旅商ハ買入ヲ為シ又ハ注文ヲ取集ムルニ当リ課税及便益ニ関シテ最惠國待遇ヲ享受スヘシ

締約国ハ如何ナル官庁カ營業證明書發給ノ權限ヲ有スルヤヲ相互ニ通知スヘシ

第一項ニ掲クル目的ヲ以テ見本トシテ輸入セラルル物品ハ其ノ再輸出セラルヘキコト又ハ法定期間内ニ再輸出セララル場合ニ成規ノ関税ノ納付セララルヘキコトヲ確實ナラシムムカ為ニ制定セラレタル關稅法規及手續ヲ履行スルトキ

ノ他ノ国法ニ從ヒ原告又ハ被告トシテ裁判所ニ出頭スルコトヲ得

右会社又ハ組合カ他ノ一方ノ版図内ニ於テ其ノ營業ニ從事シ又ハ財産ヲ取得シ得ルヤ否ヤハ其ノ地ノ国法ニ依リテ定マルヘク而シテ何レノ場合ニ於テモ右会社及組合ハ該版図内ニ於テ最惠國ノ同種ノ会社及組合ニ許与セラレ又ハ許与セララルコトアルヘキ所ト同一權利ヲ享有スヘシ

第十條

両締約国ノ一方ノ港ニ其ノ国ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入セラレ又ハ輸入セラルルコトアルヘキ一切ノ物品ハ他ノ一方ノ船舶ヲ以テ亦均シク該港ニ之ヲ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ右物品ノ内国船舶ニ依リテ輸入セララルトキ課スル所ト異ナルカ或ハ之ヨリ多額ナル税金又ハ課金ハ如何ナル名称ヲ有スルモノタリトモ之ヲ課スルコトナシ右相互均等ノ待遇ハ該物品カ直接ニ製産原地ヨリ到ルト又ハ其ノ他ノ外国ヨリ到ルトヲ問ハス之ヲ実行スヘシ

輸出ニ関シテモ右ト同様ニ全ク均等ノ待遇ヲ為スヘク從テ締約国ノ一方ノ版図ヨリ適法ニ輸出セラレ又ハ輸出セララルコトアルヘキ物品ハ其ノ輸出カ日本船舶ニ依ルト独逸船舶ニ依ルトヲ問ハス且其ノ仕向先カ締約国ノ他ノ一方ノ港

タルト第三国ノ港タルトニ拘ラス之カ輸出ニ当リ該版図内ニ於テ同一ノ輸出税ヲ納付シ又同一ノ奨励金及戻税ヲ受クヘシ

第十一條

締約国ノ領水内ニ於ケル船舶ノ繫留及貨物ノ積卸ニ関スル一切ノ事項ニ付テハ締約国ニ於テ兩國ノ船舶ヲ全ク均等ニ待遇スルノ意思ナルニ因リ締約国ノ孰レノ一方タリトモ他ノ一方ノ船舶ニ対シ同様ノ場合ニ均シク許与セサル何等ノ特權又ハ便益ヲ自国船舶ニ許与スルコトナカルヘシ

第十二條

独逸国ノ国法ニ從ヒ独逸船舶ト認メラルル一切ノ船舶又ハ日本国ノ国法ニ從ヒ日本船舶ト認メラルル一切ノ船舶ハ本條約ノ適用上相互ニ之ヲ独逸船舶又ハ日本船舶ト認ムヘシ

第十三條

政府、官公吏、私人、団体又ハ各種管造物ノ名義ヲ以テ又ハ其ノ利益ノ為ニ課セラルル噸税、通過税、運河税、港税、水先案内料、燈台税、檢疫費其ノ他名称ノ如何ニ拘ラス之ニ類似又ハ該当スル税金又ハ課金ハ同一ノ條件ヲ以テ均シク内国船舶一級ニ又ハ最惠国船舶ニ課スルモノニ非サ

符又ハ通シ船荷證券ヲ有スル旅客又ハ商品ヲ一港ヨリ他港ニ運送スルコト

第十六條

締約国ノ一方ハ他ノ一方ノ船舶ニ対シ難破、海上損害又ハ不可抗力ニ因ル寄航ノ場合ニ於テ其ノ国有タルト私有タルトヲ問ハス同様ノ場合ニ内国船舶ニ許与スルト同一ノ援助、救護及免除ヲ許与スヘシ右難破又ハ被害船舶ヨリ救上ケタル貨物ニ対シテハ総テ關稅ヲ免除ス但シ内国消費ノ為引受ラルル場合ニハ成規ノ關稅ヲ納付スヘシ
地方官庁ハ成ルヘク速ニ難破又ハ損害ノ事実ヲ最近地ニ駐在スル船舶所屬国領事官ニ通知スヘシ締約国領事官ハ自国民ニ必要ナル援助ヲ与フルコトヲ得

第十七條

本條約ニ於テ別段ノ明文アル場合ヲ除クノ外兩締約国ハ各締約国ノ通商、航海及工業ヲ總テ最惠国ノ基礎ニ置クノ意思ナルニ因リ通商、航海及工業ニ関スル一切ノ事項ニ付其ノ一方カ別国ノ船舶又ハ国民ニ現ニ許与シ又ハ今後許与スルコトアルヘキ一切ノ特權、恩典又ハ免除ハ右例外ノ場合ヲ除クノ外即時且無條件ニテ他ノ一方ノ船舶又ハ国民ニ及

レハ締約国ノ一方ノ領水内ニ於テ之ヲ他ノ一方ノ船舶ニ課スルコトナシ右均等ノ待遇ハ兩國ノ船舶カ何レノ地ヨリ来リ又何レノ地ニ往クヲ問ハス相互ニ之ヲ実行スヘシ

第十四條

締約国ノ一方ノ定期郵便運送ノ任務ニ当ル船舶ハ他ノ一方ノ領水内ニ於テ同様ノ最惠国船舶ニ許与セラルル便益、特權及免除ヲ享有スヘシ

第十五條

沿岸貿易ハ本條約ノ規定スル限ニ在ラス之ヲ内国船舶ニ留保ス但シ本件ニ関シ各締約国ハ他ノ一方カ別国船舶ニ許与シ又ハ許与スルコトアルヘキ所ト同一ノ權利又ハ特權ヲ自国船舶ノ為ニ請求スルコトヲ得ルモノトス尤モ此ノ場合ニハ自国ニ於テモ他ノ一方ノ船舶ニ対シ同一ノ權利又ハ特權ヲ許与スルコトヲ要ス

左ニ掲クル場合ハ沿岸貿易ト看做サス

- 一 外国ヨリ積載シ来リタル旅客又ハ貨物ノ全部若ハ一部ヲ陸揚セムカ為或ハ外国行ノ旅客又ハ貨物ノ全部若ハ一部ヲ積載セムカ為一港ヨリ他港ニ航海スルコト
- 二 外国ニ於テ交付セラレ又ハ外国ヲ目的地トスル通シ切

ホスコトニ同意ス

第十八條

本條約ノ規定ハ各締約国ノ關稅地域ニ現ニ屬シ又ハ今後屬スルコトアルヘキ国及地域ニモ均シク之ヲ適用ス

第十九條

本條約ハ本日調印ノ特別相互關稅條約ト共ニ千九百十一年七月十七日ヨリ実施シ其ノ有効期間ハ千九百二十三年七月十六日迄トス
右期間満了ノ十二月前ニ締約国ノ孰レヨリモ本條約ヲ消滅セシムルノ意思ヲ通告セサルトキハ本條約ハ締約国ノ一方カ其ノ廢棄ヲ声明シタル日ヨリ一年ノ期間ノ満了ニ至ル迄引續キ効力ヲ有ス
尤モ千九百十二年三月三十一日迄ハ兩締約国ニ於テ本條約ノ廢棄ヲ声明スルノ權能ヲ留保ス右廢棄聲明ノ場合ニハ本條約ハ千九百十二年十二月三十一日ヲ以テ其ノ効力ヲ失フヘシ締約国ハ本條第一項ニ掲クル關稅條約ヲ同時ニ廢棄スルニ非サレハ右權能ヲ行使セサルヘキコトヲ約ス

第二十條

本條約ハ批准ヲ要ス其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換スヘシ

右證拠トシテ各全権委員本條約ニ署名調印ス

千九百十一年六月二十四日伯林ニ於テ本書二通ヲ作ル

珍田捨巳(印)

キダーレン(印)

註 明治四十四年六月二十四日 伯林ニテ調印
(公文)

同 年七月 十五日 批准

同 年同月 同日 東京ニ於テ批准書交換

同 年同月 同日 公布

(附屬書一)

日独特別相互関稅條約

(訳文)

日本国皇帝陛下及独逸帝国ノ名ヲ以テスル独逸皇帝普魯西
国皇帝陛下ハ齊シク兩國間通商關係ノ發達ヲ助成セムコト
ヲ欲シ之カ為ニ特別相互関稅條約ヲ締結スルコトニ決定シ
日本国皇帝陛下ハ独逸国駐劄特命全權大使從三位勲一等男
爵珍田捨巳ヲ独逸皇帝普魯西国皇帝陛下ハ外務大臣「コン
セイエ、アンチーム、アクチュエル」アルフレッド、フォ
ン、キダーレンウエヒクロー各其ノ全權委員ニ任命セリ因

第四條

兩締約国ハ製産原地證明書ヲ提出スルノ義務ヲ一般ニ免除
スヘキコトニ同意ス但シ兩國ノ一方ニ於テ輸入品ニ関シニ
種以上ノ関稅率アルトキハ例外トシテ製産原地證明書ノ提
出ヲ求ムルコトヲ得

製産原地證明書ハ当該正式領事官之ヲ發給ス正式領事官ノ
駐在セサル地ヨリ發送セラレタル商品ニ付テハ領事官ニ於
テ原産国当該官庁ノ發給シタル證明書ヲ以テ右商品ノ原産
地ヲ證スルモノト認ムヘン但シ特別ノ場合ニ於テハ領事官
ハ其ノ理由ヲ説明シテ更ニ立證ヲ要求スルコトヲ得ルモノ
トス

第五條

本條約ノ規定ハ各締約国ノ関稅地域ニ現ニ屬シ又ハ今後屬
スルコトアルヘキ国及地域ニモ均シク之ヲ適用ス

第六條

本條約ノ規定ハ各締約国カ専ラ国境ノ兩側ニ於ケル一定地
帯内ノ国境貿易ニ便ナラシメムカ為接境国ニ許スル関稅
上ノ殊遇、締約国ノ内国民漁業ノ産物ニ許与セラルル待遇
及日本国ニ近接スル別国領水内ニ於テ捕獲採取セラレタル

テ各全権委員ハ互ニ其ノ委任状ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ
認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

本條約附屬稅表甲号ニ掲クル独逸国ノ生産又ハ製造ニ係ル
物品ハ日本国へ輸入セラルルニ当リ又本條約附屬稅表乙号
ニ掲クル日本国ノ生産又ハ製造ニ係ル物品ハ独逸国へ輸入
セラルルニ当リ其ノ何レノ地ヨリ到ルヲ問ハス右各稅表ノ
定ムル所ニ依ルヘシ

第二條

兩締約国ノ一方ノ版図内ノ生産又ハ製造ニ係ル物品ハ其ノ
何レノ地ヨリ到ルヲ問ハス他ノ一方ノ版図内ニ輸入セラル
ルニ当リ別国ノ製産ニ係ル同様に物品ニ適用セラルル最低
率ノ輸入稅ヲ課セラルヘシ

第三條

兩締約国ノ一方ノ版図内ノ生産又ハ製造ニ係ル物品ニシテ
他ノ一方ノ版図内ニ正当ニ輸入セラレタルモノニ対シテハ
内国ノ製産ニ係ル同様に物品ニ課シ又ハ課スルコトアルヘ
キ所ト異ナルカ或ハ之ヨリ多額ナル何等ノ入市稅、通過
稅、庫敷料又ハ消費稅ヲ課スルコトナシ

魚類其ノ他ノ水産物ニ関シ日本国カ許与スル関稅上ノ殊遇
ニハ之ヲ適用セス

第七條

本條約ハ本日調印ノ通商航海條約ト共ニ千九百十一年七月
十七日ヨリ實施シ其ノ有効期間ハ千九百十七年十二月三十
一日迄トス

右期間満了ノ十二月前ニ締約国ノ孰レヨリモ本條約ヲ消滅
セシムルノ意思ヲ通告セサルトキハ本條約ハ締約国ノ一方
カ其ノ廢棄ヲ聲明シタル日ヨリ一年ノ期間ノ満了ニ至ル迄
引續キ効力ヲ有ス

尤モ千九百十二年三月三十一日迄ハ兩締約国ニ於テ本條約
ノ廢棄ヲ聲明スルノ權能ヲ留保ス右廢棄聲明ノ場合ニハ本
條約ハ千九百十二年十二月三十一日ヲ以テ其ノ効力ヲ失フ
ヘシ締約国ハ本條第一項ニ掲クル通商航海條約ヲ同時ニ廢
棄スルニ非サレハ右權能ヲ行使セサルヘキコトヲ約ス

第八條

本條約ハ批准ヲ要ス其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ
交換スヘシ

右證拠トシテ各全権委員本條約ニ署名調印ス

千九百十一年六月二十四日伯林ニ於テ本書ニ通テ作ル

明治四十四年七月十五日 批准

珍田捨巳印

同 年同月同日 東京ニ於テ批准書

キダールン印

同 年同月同日 公布

註 明治四十四年六月二十四日 伯林ニ於テ調印

(公文)

附屬税表甲号

日本国輸入税

関稅定率表
番号

品

名

單位

稅率

七二ノ内

革類

一 牛革、水牛革、馬革、綿羊革及山羊革

乙 染メタルモノ又ハ著色シタルモノ(ローラーレザイヲ

除ク)

從價

一割五分

丙 其ノ他

丙ノ一 牛革、水牛革及馬革

ハ 其ノ他

同

一割五分

一五七

サリチール酸

同

每百斤 七、〇〇

二〇九

塩酸キニーネ及硫酸キニーネ

同

六〇、〇〇

二三七ノ内

人造藍

一 乾キタルモノ

同

四〇、〇〇

二四三

アリザリン染料、アニリン染料其ノ他別号ニ掲ケサルコールク
ール染料

同

每百斤 五、六〇

二八三ノ内

毛織絲

一 染メサルモノ又ハ擦染セサルモノ

丙 其ノ他

丙ノ一 梳毛ノモノ

イ メートル式番手三十二番ヲ超エサルモノ

同

一三、二〇

ロ 其ノ他

同

一三、二〇

三〇一ノ内

毛織物、毛綿交織物及毛又ハ毛綿ト絹トノ交織物

二 其ノ他

乙 毛綿製ノモノ

イ 一平方メートルニ付百グラムヲ超エサルモノ

同

四四、〇〇

ロ 一平方メートルニ付二百グラムヲ超エサルモノ

同

四二、〇〇

包装用紙及隣寸用紙(チッシュペーパーヲ除ク)

同

一、五〇

四六七ノ内

皿鉛

二 板

丙 其ノ他

ロ 其ノ他

同

一一、二〇

五七七ノ内

瓦斯機關、石油機關及熱氣機關

五 其ノ他(一箇ノ重量二千五百キログラムヲ超ユルモノ)

一箇ノ重量五千キログラムヲ超エサルモノ……………每百斤 五、〇〇
 一箇ノ重量五万キログラムヲ超エサルモノ……………同 四、五〇
 一箇ノ重量十万キログラムヲ超エサルモノ……………同 四、〇〇
 其ノ他……………同 三、五〇

五八〇ノ内

原動力機ト結合シタル発電機

三 瓦斯機関、石油機関又ハ熱気機関ト結合シタルモノ

已 其ノ他(一箇ノ重量五千キログラムヲ超ユルモノ)

一箇ノ重量一万キログラムヲ超エ五万キログラムヲ超

エサルモノ……………同 五、五〇

一箇ノ重量十万キログラムヲ超エサルモノ……………同 五、二〇

其ノ他……………同 四、九〇

附屬税表乙号

独逸国輸入税

関稅定率表 番 号

品 名	單 位	稅 率
-----	-----	-----

七三ノ内 木蠟(楡ノ)天然ノ儘ノモノ……………每百基 麻克 五

一四三ノ内 寒天(模造魚膠、日本植物性ゼラチン、アガールアガール)……………無稅

二四七ノ内 木蠟(楡ノ)調製シタルモノ(漂白、染色、板状又ハ球形ノモノ等)……………每百基 一麻克 〇

四〇一ノ内

人造絹絲、屑絲又ハ柞蚕絲ヲ混セス全部桑蚕絲ヲ用ヒ且両端ニ綴密ナル織縁ヲ有スルタフタ組織平織ノ羽二重ニシテ生、精練又ハ艶出ノモノ……………每百基 三〇〇

提示見本ニ依リ目付三匁以上ノモノ……………同 四〇〇

四〇五ノ内

本協定稅表第四〇一号ニ掲ケタル種類ノ羽二重ニテ製シタル手巾……………同 四〇〇
 刺繡又ハレースニ屬セサル羽二重手巾ニシテ簡單ナル縁縫又ハ幾分ノ縫縫ヲ施シタルモノハ前記ノ稅率ニ五分ヲ附加ス又透シ縁縫ハ簡單ナル縁縫ト看做ス……………同 二〇〇

右羽二重手巾ニ於テ六センチメートル平方ヲ超エサル表面ニ刺繡ヲ施シタルモノハ刺繡シタルモノト看做サス……………同 一

五八七

經木真田(染メタルモノヲ含ム)……………同 一

五八八ノ内

麦 稈 真 田……………無稅
 漂白セサルモノ、染メサルモノ……………麻克 六

漂白シタルモノ、染メタルモノ……………同

五八九ノ内

花 筵……………同

粗ナルモノ(生又ハ染メタルモノ、色留シタルモノ又ハ漆塗ノモノ)……………同 三

其ノ他……………同 一一

六〇六ノ内

鈕 釦……………同 一五〇

- 六三一ノ内 日本漆ヲ塗りタル精巧木製品(杖ヲ除ク)、他ノ材料ト結合スルモ之カ為高税ヲ課セラレサルモノナルニ於テハ之ヲ含ム……………毎百基 一一〇
- 六七〇ノ内 日本漆ヲ塗りタル紙製品又ハ板紙製品……………同 一一〇
- 八七八ノ内 銅又ハ鍍タル真鍮製品ニシテ日本漆ヲ塗りタルモノ(税表第八七四号、第八七九号若ハ第八八七号中ニ含まレサルモノ又ハ他ノ材料ト結合スルモノカ為高税ヲ課セラレサルモノニ限ル)……………同 一二五

(附屬書三)

機密交換文書(訳文)(一)(二)(三)(四)(五)

(一)

甲号

来 翰

以書翰啓上致候陳者独日間ニ商結セル通商航海條約第十九條第三項ニ於テ千九百十二年三月三十一日迄ハ各締約國ニ於テ同年十二月三十一日ヲ以テ本條約ヲ廢棄スルコトヲ通告スルノ権能ヲ留保スルコトヲ規定セリ右條約ニ署名調印セムトスルニ当リ本大臣ハ帝國議會カ本條約ニ協賛ヲ与フルト同時ニ帝國政府ハ右廢棄通告ノ権能ヲ拋棄スルノ意思ナルコトヲ閣下ニ通知スルト共ニ日本國政府ハ右ノ場合ニ於テ均シク前記権能ヲ拋棄スルヤ否ヤニ付閣下ニ質問スル

千九百十一年六月二十四日

珍 田 捨 巳

外務大臣 フォン、キダトレンウエヒター閣下

(三)

乙号

来 翰

以書翰啓上致候陳者独日間ニ商結セル特別相互關稅條約ニ於テ千九百十年四月十四日日本關稅定率法規定ノ人造乾藍ニ對スル毎百斤四十円ノ税ヲ据置キタル処該關稅定率法ニ依レハ天然乾藍ノ税ハ毎百斤三十三円七十錢ナリ今ヤ右條約ニ調印セムトスルニ当リ本大臣ハ天然藍ニ對スル右ノ輸入税ノ輕減セラルル場合ニハ人造藍ニ對スル協定税モ亦同一ノ比例ヲ以テ輕減セラルヘシトノ声明ヲ閣下ヨリ得ムコトヲ希望スルノ光榮ヲ有シ候

本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百十一年六月二十四日

キダトレン

日本帝國特命全權大使男爵 珍田捨巳閣下

(四)

復 翰

小村外務大臣時代 対独交渉 五四六

日本帝國特命全權大使男爵 珍田捨巳閣下

(二)

復 翰

以書翰啓上致候陳者日独間ニ商結セル通商航海條約ニ關スル本日附貴翰閱悉致候本使ハ千九百十二年十二月三十一日ヲ以テ該條約ヲ拋棄スルコトヲ通告スルノ権能ヲ独逸國政府カ拋棄スルト同時ニ帝國政府モ亦之ヲ拋棄スヘキ旨閣下ニ通知スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

以書翰啓上致候陳者日独間ニ商結セル特別相互關稅條約ニ關スル本日附貴翰ヲ閱悉スルト共ニ本使ハ天然藍ニ對スル輸入税三十三円七十錢ノ輕減セラルル場合ニハ人造藍ニ對スル輸入税モ亦同一ノ比例ヲ以テ輕減セラルヘキコトヲ声明スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百十一年六月二十四日

珍 田 捨 巳

外務大臣 フォン、キダトレンウエヒター閣下

(五)

丙号

日独新條約談判中ノ合意

日独特別相互關稅條約談判中兩國委員間ニ左ノ通同意アリ

本邦國定稅表中第九類ニ關シ

分類上織縁ノ性質ハ之ヲ問フコトナン但シ特ニ布帛ヲ裝飾スルノ目的ヲ有スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

本邦國定稅表中第十六類ニ關シ

一個ノ機械ヲ分離シテ其ノ各部分ヲ同時ニ輸入スル場合ニハ之ニ對スル輸入税ノ總額ハ分離セラレサル右機械ニ

対スル税額ヨリ多キコトナカルヘシ右各部分カ船積ノ都合ニヨリ同時ニ輸入セラレサル場合ト雖取纏メ一個ノ機械ヲ構成スヘキモノナルコトノ証明セラルルトキ亦同シ

本邦国定税表第五八〇号ニ関シ

原動力機ト結合シタル発電機カ分離シテ輸入セラルトキハ輸入者ノ選択ニ依リ分離シタル機械ニ対スル税率ヲ適用スルモノトス

独逸国定税表第四〇一号ニ関シ

関税貨物類別明細表中織物ノ部第一号乃至第一〇号ニ対スル総註第四ノ規定ハ特別相互関税條約第一條ニ所謂税表乙号第四〇一号ノ羽二重ニハ之ヲ適用セス

(総註第四ノ規定ハ透織物ト看做サルヘキモノノ標準ヲ示シ経絲間ノ間隙カ経絲ノ太サニ等シキカ又ハ之ヨリ大ニシテ同時ニ緯絲間ノ間隙モ緯絲ノ太サニ等シキカ又ハ之ヨリ大ナル織物ハ透織物トシテ取扱フヘキ旨ヲ定メタリ此ノ規定ヲ日独協定税表ノ羽二重ニ適用セストイフハ該税表ニ掲クル三匁付以上ノ羽二重ハ総テ密織物トシテ取扱フヘントノ趣意ナリ)

独逸国定税表第五八七号及第五八八号ニ関シ

(附屬書五)

(一)

御批准書案

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル

日本国皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕明治四十四年六月二十四日伯林ニ於テ帝国全権委員カ独逸国全権委員ト共ニ署名調印シタル日独通商航海條約ヲ闕

覽点檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百七十一年明治四十四年七月(十五)日東京宮城ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 国璽

外務大臣侯爵 小村寿太郎副署

(二)

御批准書案

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル

日本国皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕明治四十四年六月二十四日伯林ニ於テ帝国全権委員カ独逸国全権委員ト共ニ署名調印シタル日独特別相互関税條約

ヲ闕覽点檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百七十一年明治四十四年七月(十

小村外務大臣時代 対独交渉 五四七

麦稈ト経木トヲ混織シタル真田ハ其ノ主タル材料ニ依リ或ハ麦稈真田或ハ経木真田ト看做スヘシ

独逸国定税表第五八八号ニ関シ

全漂白ニ達セサル麦稈真田ハ漂白セサルモノト看做ス

独逸国定税表第六三一号及第六七〇号ニ関シ

木製品又ハ紙製品ニシテ金銀蒔絵ヲ施シタルモノハ特別相互関税條約第一條ニ所謂税表乙号第六三一号及第六七〇号ニ包含セラルルモノトス

又羽二重ノ目付ハ幅一吋半、長二十五碼ニ依リ計算シ一匁ハ三、七五グラムニ当ル旨帝國全権委員ヨリ説明セリ

(附屬書四)

上 奏 案

客月二十四日伯林ニ於テ帝国全権委員カ独逸国全権委員ト共ニ署名調印シタル日独通商航海條約及特別相互関税條約御批准アラセラレ候様仕度別紙御批准書案相添此段謹テ奏ス

明治四十四年七月十日

外務大臣侯爵 小村寿太郎

五)日東京宮城ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 国璽

外務大臣侯爵 小村寿太郎副署

(附 記)

内閣送第二一号

一日独通商航海條約御批准ノ件

一日独特別相互関税條約御批准ノ件

右上奏ノ通裁可相候間此段及通牒候也

明治四十四年七月十五日

内閣総理大臣公爵 桂 太郎(印)

外務大臣侯爵 小村寿太郎殿

五四七

明治四十四年七月十日 小村外務大臣ヨリ 桂総理大臣宛

日独新商條約批准書交換ノ御委任状奏請ノ件

附屬書一 上奏案

二 御委任状案

附 記一 独逸皇帝批准書写

二 批准交換證書並ニ委任状写

機密送第七七号

明治四十四年七月十日

小村外務大臣

桂内閣総理大臣宛

本年六月二十四日帝國ト独逸國トノ間ニ締結シタル通商航海條約及特別相互關稅條約ノ御批准書ハ東京ニ於テ交換スルコトニ相成居候ニ付右御批准書交換ノ御委任狀御下付ノ義別紙ノ通上奏候間可然御取計相成度此段申進候也

(附屬書一)

上奏案

本年六月二十四日帝國ト独逸國トノ間ニ締結シタル通商航海條約及特別相互關稅條約ノ御批准書ハ東京ニ於テ交換スルコトニ相成居候ニ付右御批准書交換ノ全權ヲ臣壽太郎ニ御委任アラセラレ候様仕度別紙御委任狀案相添此段謹テ奏ス

明治四十四年七月十日

外務大臣候爵 小村寿太郎

(附屬書二)

御委任狀案

△1

WIR WILHELM,

von Gottes Gnaden

DEUTSCHER KAISER, KÖNIG VON PREUSSEN,

etc., etc., etc.

Urkunden und bekennen hiermit im Namen des Deutschen Reiches:

Nachdem von Unserem Bevollmächtigten und dem Bevollmächtigten Seiner Majestät des Kaisers von Japan am 24. Juni 1911 in Berlin ein Handels- und Schifffahrtsvertrag sowie ein besonderes gegenseitiges Zollabkommen zwischen dem Deutschen Reiche und Japan unterzeichnet worden sind und nachdem dieser Vertrag und das zugehörige Zollabkommen, die nebst 2 Anlagen zu letzterem wörtlich also lauten:
Uns vorgelegt und von uns geprüft und in allen Stücken Unseren Absichten gemäss befunden worden sind, so erklären wir im Namen des Reiches, dass Wir den vorstehenden Vertrag nebst dem zugehörigen Zollabkommen genehmigen und ratifizieren, auch versprechen, beide erfüllen und ausführen zu lassen.
Zu Urkund dessen haben Wir die gegenwärtige

小村外務大臣時代 対独交渉 五四七

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル
日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕茲ニ帝國ト独逸國トノ間ニ締結シタル通商航海條約及特別相互關稅條約ノ各批准書ヲ交換スルノ全權ヲ朕カ外務大臣正三位勲一等侯爵小村寿太郎ニ付与ス

神武天皇即位紀元二千五百七十一年明治四十四年(七)月(十五)日東京宮城ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

内閣総理大臣公爵 桂 太郎 副署

(附記一)

(付箋)

「日独新條約ハ通商條約ト關稅條約トヲ區別シ我ニ於テハ之ヲ各別ニ批准シタルヲ以テ從テ批准書二部ヲ作成シタリ然ルニ独逸側ニ於テハ右二條約ヲ合セテ一綴トナシテ批准シ唯一部ノ批准書ヲ以テ交換ノ用ニ供シタリ

明治四十四年七月十五日交換終了ノ際記シテ參考ト為ス
独逸皇帝ノ批准書写批准交換證書写及独逸代理大使ノ全權ヲ證スル文書別添ノ通」

Ratifikationsurkunde vollzogen und mit Unserem In-siegel versehen lassen.

Gegeben Kiel den 26. Juni 1911.

gez. Wilhelm J. R.

L. S.

gez. v. Behmann Hollweg.

RATIFIKATIONSURKUNDE

zum

Handels- und Schifffahrtsvertrage

zwischen dem Deutschen Reich
und Japan vom 24. Juni 1911
nebst zugehörigem Zollabkommen.

△2

△1 (欄外註記一)
「独逸皇帝ノ批准書写」

△2 (欄外註記二)
「七月十五日日独條約批准書交換ノトキ独逸代理大使持參」

(附記二)

(一)

copy.

Les Soussignés se sont réunis aujourd'hui pour procéder à l'échange des instruments de ratification de

Sa Majesté l'Empereur du Japon et de Sa Majesté l'Empereur d'Allemagne, Roi de Prusse, concernant le Traité de Commerce et de Navigation et la Convention Spéciale et Réciproque de Douane, entre le Japon et l'Allemagne, signés à Berlin le 24^{ème} jour du 6^{ème} mois de la 44^{ème} année de Meiji, correspondant au 24 juin 1911.

Après avoir tenu l'échange des instruments de ratification susmentionnés, les Soussignés ont dressé le présent procès-verbal et l'ont signé et revêtu leurs cachets.

Fait à Tokio, en double exemplaire, le 15^{ème} jour du 7^{ème} mois de la 44^{ème} année de Meiji, correspondant au 15 juillet 1911.

Jutaro Komura.

W. Radowitz.

(L. S.)

(L. S.)

〔欄外註記〕
批准書交換證書

(11)

copy.

Kaiserlich

Deutsche Botschaft.

Der Unterzeichnete, Kaiserlich Deutscher Geschafts-

シタル通商航海條約及特別相互關稅條約ノ御批准書七月(十五)日東京ニ於テ交換相濟候ニ付右至急公布相成候様致度別紙公布案相添此段及請議候也

(附屬書)

(11)

條約公布案

朕樞密顧問ノ詢諮ヲ經テ明治四十四年六月二十四日独逸国伯林ニ於テ日独兩國全權委員ノ署名調印シタル日独通商航海條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十四年七月(十五)日

内閣總理大臣公爵 桂 太郎 副書

外務大臣侯爵 小村寿太郎 副書

〔欄外註記〕
七月十五日發行官報号外ニテ公布

(11)

條約公布案

朕樞密顧問ノ詢諮ヲ經テ明治四十四年六月二十四日独逸国伯林ニ於テ日独兩國全權委員ノ署名調印シタル日独特別相互關稅條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

小村外務大臣時代 对独交渉 五四九

träger, erklärt hiermit, dass er, entsprechend den von seiner Regierung erhaltenen Instruktionen, in seiner Eigenschaft ist, den Austausch der Ratifikationsurkunden am 24. Juni 1911 in Berlin gezeichneten Handelsund Schifffahrtsvertrages zwischen dem Deutschen Reich und Japan nebst zugehörigem Zollabkommen vorzunehmen, ohne dass es hierzu für ihn einer besonderen Vollmacht bedürfte.

Tokio, den 14. Juni 1911.

(signed) W. Radowitz.

五四八 明治四十四年七月十日

小村外務大臣ヨリ
桂總理大臣宛

日独新商條約公布方閣議請求ノ件

附屬書 公布案 (1) (11)

機密送第七八号

明治四十四年七月十日

小村外務大臣

桂内閣總理大臣宛

本年六月二十四日伯林ニ於テ日独兩國全權委員ノ署名調印

御名 御璽

明治四十四年七月(十五)日

内閣總理大臣公爵 桂 太郎 副署

外務大臣侯爵 小村寿太郎 副署

〔欄外註記〕
七月十五日發行官報号外ニテ公布

五四九 明治四十四年七月十日

珍田駐独大使ヨリ
小村外務大臣宛 (電報)

新條約發表ニ關スル件

七月十二日 後二、五〇 伯林發
七月十三日 前一〇、三〇 本省着

第八八号

小村外務大臣

珍田全權大使

往電第八六号末段ヲ冒頭トシ其ノ下ニ

一、通商航海條約ニ關シ a 一般ノ事項 b 特別事項

二、關稅條約ニ關シ a 日本關稅ニ關シ b 独逸關稅ニ關シト

分類シ一般ノ事項ノ下ニハ條機議第二十八号附屬別紙第

七号(本信ハ六月二十七日西比利亞便ニ託送シタリ)中

ハ、九ヲ一、二トシテ掲ケ特別事項ヲ

九九九

- 一、第一條第二項第三号ニ関シ
- 二、第五條第二項第四号ニ関シ
- 三、第十五條ニ関シ

ト細別シ前記別紙第七号中ノ二、四、七ヲ掲ケ *Quasi*
accord que ハ特ニ之ヲ除ク

関税ニ関スル *ab* ニハ羽ニ重製手中ニ関スルモノヲ除キ條
 機議第二九号ノ註ヲ悉ク掲載シタキ旨申入レタルニ付本使
 ハ是レニ承諾ヲ与ヘタリ右ハ條約ト同時ニ公表シ條約ハ
Reichsgesetzblatt ニ右ハ *Reichsanzeiger* ニ掲載スル由
 ニ付本使ハ貴電第六八号ノ趣ニ從ヒ右ニハ何等ノ題ヲモ加
 ヘサル様申入レ置ケリ尙右ハ独逸文ニテ公表スルモノノ故仏
 原文ト多少行文ノ差ヲ生スヘキモ可成丈ケ原文ヲ直訳スル
 方帝國カ同様ノ事項ヲ日本語ニテ公表スルコトアルヘキ際
 好都合ナルヘシト注意シ置ケリ

五五〇 明治四十四年七月十三日

珍田駐独大使ヨリ
 小村外務大臣宛

日独新協定税率ノ註解公表ニ関スル件
 條機第九号

ス可キ性質ノ書類ニ有之此事ハ先方ニ於テモ無論承認致居
 殊ニ最終會議録ニ添附センカ為メニ第十六回會議ノ際先方
 委員ヨリ提出シタル解釈拔萃案ヲ当方ハ当然公表セラル可
 キモノト了解シ其ノ中ノ一部ヲ削除センコトヲ申入レタル
 処先方ハ該案ハ公表ノ目的ニ供スルニアラス唯内部ノ参考
 ニ便スル為メニ作成シタルニ過キサルモノナレハ之ヲ撤回
 ス可シト宣言シタル顛末ハ既ニ條機第二七号以下ヲ以テ
 縷々報告ノ通ニ有之此行懸上解釈拔萃ヲ当方ニ無断ニテ公
 表スルカ如キコトハ萬々可無之ト思考致タルモ萬一ノ行違
 フ慮カリ此事ニ関シ問合セニ及候処先方ハ意外ニモ往電第
 八八号報告ノ如キ案ヲ示シ其全部ヲ公表スル心組ナル旨相
 語候ニ付其内容ヲ査閲セルニ之ニ包含セラルル解釈ノ公表
 ニ付御異存無之次第ハ既ハ貴電第五七号ヲ以テ御訓示相成
 居ルヲ以テ本使ハ通商局長ニ面会シ独国側ノ公表案ノ内容
 ニ對シ帝國政府ハ異存ナシト雖モ双方独断ニテ解釈ヲ発
 表スルトキハ一方カ見テ以テ公表差支ナシトスル事項ニ関
 シ他方ハ正反對ノ見解ト利害トヲ有スルコトモ可有之ニ付
 會議録中ノ一部ヲ公表スル場合ニハ必ス豫メ当方ト打合セ

明治四十四年七月十三日

在独 特命全權大使男爵 珍田捨巳(印)
 外務大臣侯爵 小村寿太郎殿

日独新協定税率ニ関聯スル註解ヲ公表スル儀ニ関シテハ貴
 電第五九号ヲ以テ御來示ノ次第有之候ニ付右公表ノ形式ニ
 関シ豫メ當国政府ト打合セ置ク方好都合ト存シ英國議會ニ
 提出サレタル日英新條約ニ関スル書冊ヲ参照シ本使ノ腹案
 往電第八六号ヲ以テ及稟申候処貴電第六八号御訓令接到
 致タルニ付本使ハ帝國政府ハ條約正文ハ官報第一欄條約ノ
 項ニテ發表シ同号官報中ノ官庁彙報欄ニテ関税註解ヲ掲ク
 可ク該註解ノ前ニハ何等ノ題ヲモ設ケサルヘシ之ハ註解カ
 條約ノ一部ヲ為スモノナリトノ誤解ヲ起サシメサル為メノ
 用意ナリトノ旨ヲ当局者ニ内談シ當国ニ於ケル公表ノ形
 式ヲ相尋候処當国ニテハ條約正文ハ *Reichsgesetzblatt* ニ
 テ註解ハ *Reichsanzeiger* ニテ發表スヘク註解ニハ別ニ題
 ヲ設ケストノコトニ付右註解ノ前文トシテ掲記ス可キ字句
 ニ関シ往電第八六号稟申ノ通り取極メ本件ハ之ニテ一段落
 相着候処其後ニ至リ本使ハ獨国政府カ右註解ト同時ニ條約
 ノ解釈ニ関シ何カ會議録中ヨリ拔萃公表スルコトナカル
 ヘキヤトノ懸念ヲ起シ候元來會議録ハ全部トシテ秘密ニ附
 相成様致度旨申述候処通商局長モ全然之ニ同意致候右公表
 案ハ独逸語ニテ記載セラレアリテ會議録中ニ存在スル仏語
 原文トハ多少字句ヲ異ニスル所アルモ意義ニ於テハ全然
 同一ニシテ且ツ仮令萬一意義上輕微ノ差異アリタル場合ニ
 於テモ條約ノ解釈又ハ関税ノ註解ハ独逸語文ニ依ルヘキモ
 ノニアラサルニ付訳語ノ当否ニ関シテハ別ニ論及セス單ニ
 本使ノ氣付トシテ右公表案ノ内容ト同一ノモノヲ帝國政府
 ニ於テモ或ハ公表スルコト成ルヤモ難計此場合ニハ無論
 日本文ニテ發表スヘキニ付日独兩語文ノ間ニ余リ大ナル行
 文上ノ差異アリテハ世人ニ誤解ヲ招カシムルノ虞モ可有之
 フ以テ可成文原文ヲ其儘直訳セラルル様希望スル旨ヲ陳述
 シタルニ通商局長モ本使ノ申出ヲ了承致候右公表案ト同
 一ノ解釈ヲ帝國政府ニ於テモ或ハ御公表可相成カト思考致
 候ニ付不取敢往電第八八号ヲ以テ及報告タル儀ニ有之候
 此段及報告候敬具